



Microsoft®

SharePoint® Server 2010

Microsoft SharePoint Server 2010 のテクニカル リファレンス

Microsoft Corporation

発行: 2010 年 11 月

作成者: Microsoft Office System and Servers チーム (itspdocs@microsoft.com)

要約

この文書は、Windows PowerShell 用の Microsoft SharePoint Server 2010 プロバイダーに関する技術情報や、汎用の設定、セキュリティ、およびツールに関する有益なリファレンス情報を提供します。この文書の対象読者は、SharePoint Server 2010 を運用する、アプリケーション技術者、基幹業務アプリケーション技術者、IT 管理者などです。

この文書は、「[SharePoint 製品](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=181463&clid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=181463&clid=0x411>)の発行日時点のコンテンツを抜粋したものです。最新のコンテンツについては、Web 上のテクニカル ライブラリを参照してください。

The Microsoft logo, consisting of the word "Microsoft" in a bold, black, sans-serif font.

このドキュメントは現状有姿で提供され、このドキュメントに記載されている情報や見解 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更されることがあります。お客様は、その使用に関するリスクを負うものとします。

このドキュメントに記載されている事例の中には説明の目的で架空に設定したものが含まれています。それらは現実の事例とは一切関係ありません。

このドキュメントは、マイクロソフト製品の無体財産権に関する法的な権利をお客さまに許諾するものではありません。内部的な参照目的に限り、このドキュメントを複製して使用できます。

© 2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、Access、Active Directory、Backstage、Excel、Groove、Hotmail、InfoPath、Internet Explorer、Outlook、PerformancePoint、PowerPoint、SharePoint、Silverlight、Windows、Windows Live、Windows Mobile、Windows PowerShell、Windows Server、および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

このドキュメントに記載されている情報は、このドキュメントの発行時点におけるマイクロソフトの見解を反映したものです。マイクロソフトは市場の変化に対応する必要があるため、このドキュメントの内容に関する責任をマイクロソフトは問われないものとします。また、発行日以降に発表される情報の正確性を保証できません。

目次

Microsoft SharePoint Server 2010 のテクニカル リファレンス	1
ヘルプの利用	17
SharePoint Server 2010 のテクニカル リファレンス.....	18
関連項目	18
SharePoint Server 2010 向けの Windows PowerShell	19
Windows PowerShell を使用した SharePoint 2010 製品の管理.....	20
概要	20
SharePoint 2010 製品向けの Windows PowerShell にアクセスする.....	21
権限	21
Windows PowerShell について学ぶ.....	22
Windows PowerShell for SharePoint Server 2010 リファレンス.....	25
Access Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	27
バックアップと復元のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	28
Business Connectivity Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	29
データベースのコマンドレット (SharePoint Server 2010)	31
エンタープライズ コンテンツ管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	32
Excel Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	34
関連項目	36
ファームのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	37
機能とソリューションのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	38
全般のコマンドレット (SharePoint Server 2010)	40
インポートとエクスポートのコマンドレット (SharePoint Server 2010)	43
InfoPath Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)	44
ログとイベントのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	46
管理されたメタデータのコマンドレット	47
管理されたメタデータの管理	47
パフォーマンスのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	49

PerformancePoint Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	50
検索のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	51
Secure Store Service のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	57
セキュリティのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	59
サービス アプリケーションのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	60
SharePoint Foundation 2010 Search のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	62
サイト コレクションのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	63
サイト管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	64
State Service とセッション状態のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	66
タイマー ジョブのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	68
アップグレードと移行のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	69
User Profile Service のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	70
Visio Graphics Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	73
Web Analytics のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	74
Web アプリケーションのコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	75
Word Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	76
ワークフロー管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010).....	77
SharePoint Server 2010 Windows PowerShell コマンドレットの索引.....	78
動詞順に並べた SharePoint Server 2010 コマンドレット.....	78
名刺順に並べた SharePoint Server 2010 コマンドレット.....	122
Windows PowerShell コマンドレットに対する更新 (SharePoint Server 2010).....	166
Stsadm と Windows PowerShell 間のマッピング (SharePoint Server 2010).....	168
System Center Operations Manage のナレッジ項目 (SharePoint Server 2010).....	177
SharePoint Server 2010 の Access Services のナレッジ項目.....	180
Access Services - 構成データベースへのアクセスに失敗しました - イベント 1.....	181
Access Services がセッション キャッシュを作成できません - イベント 11.....	184
Access Services でメモリが不足しています - イベント 16.....	185

Access Services が計算ライブラリの読み込みに失敗しました - イベント 17	187
Access Services テンプレートの入出力エラー - イベント 21	188
Access Services との通信に失敗しました - イベント 24、25、26.....	189
Access Data Services は使用できなくなりました - イベント 28.....	190
Access Services のサーバーを使用できません - イベント 29	191
SharePoint Server 2010 の Excel Services アプリケーションのナレッジ項目	193
Excel でユーザーが許可されていないセッションにアクセスしようとしました - イベント 2011 ..	194
Excel Services アプリケーション内部エラー - イベント 2026.....	195
Excel Services アプリケーションの保存に失敗しました - イベント 3348	196
Excel Services アプリケーションでの予期しないブックのエラー - イベント 5225.....	197
Excel ブックのディスク キャッシュを作成できません - イベント 5226.....	198
Excel Services アプリケーションとの接続を確立できません - イベント 5231、5233.....	201
Excel Services アプリケーションとの通信エラー - イベント 5231 5239 5240.....	202
Excel Services アプリケーションを使用できません - イベント 5234	203
Excel Services アプリケーションの構成データベースへのアクセスに失敗しました - イベント 5244.....	205
Excel Services アプリケーションに構成されている最大メモリを超えました - イベント 5255....	207
Excel Services アプリケーションのメモリ割り当てに失敗しました - イベント 5256.....	208
Excel Services アプリケーションがローカルで実行されていません - イベント 5271.....	209
Excel に無効なファイル アクセス方法が構成されています - イベント 5557.....	210
Excel Services アプリケーションのユーザー定義関数の例外 - イベント 6467.....	211
Excel Services アプリケーションでローカライズ済みテンプレート ファイルが見つかりませんでし た - イベント 7924.....	213
Excel Services アプリケーションのテンプレート ファイルが見つかりません - イベント 7925...214	
Excel Services アプリケーションでの Null アクセス違反 - イベント 7926.....	215
Excel Services アプリケーションでの Null 以外のアクセス違反 - イベント 7927	216
Excel Services アプリケーションが配列範囲外の要素にアクセスを試みました - イベント 7928	217

Excel ブックのディスク キャッシュがいっぱいです	218
SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services に関するナレッジ記事.....	219
InfoPath Forms Services のビジネス ロジックのエラー – イベント 5337.....	220
InfoPath Forms Services のビジネス ロジックが再入可能回数を超過しました – イベント 5340	221
InfoPath Forms Services のビジネス ロジックでメモリが不足しています – イベント 5342.....	222
InfoPath Forms Services のビジネス ロジックの読み込み例外 – イベント 5343.....	223
InfoPath Forms Services の Web ファイルの一覧の読み込みに失敗しました – イベント 5369	224
InfoPath Forms Services のポストバック エラー – イベント 5374.....	225
InfoPath Forms Services でアセンブリの ID が競合しています – イベント 5733.....	226
InfoPath Forms Services ビジネス ロジックはシリアル化できません – イベント 5734.....	227
InfoPath Forms Services の DoS によるセッションごとのポストバック – イベント 5736.....	228
InfoPath Forms Services の 1 回のポストバックあたりの DoS アクション数 – イベント 5737..	230
InfoPath Forms Services データ アダプターの送信セキュリティ エラー – イベント 5758.....	232
InfoPath Forms Services のソリューション キャッシュのチャージング – イベント 5759.....	233
InfoPath Forms Services データ アダプターのクエリ セキュリティ エラー – イベント 6932.....	235
InfoPath Forms Services ソリューションの読み込みエラー – イベント 7056.....	236
State Service の構成が無効で InfoPath Forms Services が機能しない – イベント 7898.....	237
Managed Metadata services in SharePoint Server 2010 knowledge articles (英語).....	239
Disk-based cache misconfigured – Event 5787 (SharePoint Server 2010) (英語).....	240
Metadata Service が利用できません – イベント 8088 (SharePoint Server 2010).....	241
関連項目	242
Disk-based cache at critical capacity (SharePoint Server 2010) (英語).....	243
Disk-based cache flushing (SharePoint Server 2010) (英語).....	245
Disk-based cache is compacting (SharePoint Server 2010) (英語).....	246
SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services のナレッジ項目.....	248
PerformancePoint Services – ログインに失敗しました – イベント 5 6 37 45.....	249

PerformancePoint Services – サービスが利用できません – イベント 33 39	251
PerformancePoint Services – データベースの接続に失敗しました – イベント 34.....	253
SharePoint Server 2010 の Search Services のナレッジ項目	257
Search Gatherer のディスクがいっぱいです – イベント 23 (SharePoint Server 2010).....	258
検索データベースの空き領域が不足しています – イベント 52.....	260
Search Service でのクエリ コンポーネントの委任 – イベント 58.....	261
検索クエリの重大なエラー – イベント 60.....	263
Search Indexer がインデックスの初期化に失敗しました – イベント 71	264
検索インデックスが破損しています – イベント 74 93 (SharePoint Server 2010).....	266
Search Indexer のディスクの空き容量が足りません – イベント 80	268
検索伝達通信エラー – イベント 92	270
Search Gatherer ホストが使用できません – イベント 114 (SharePoint Server 2010).....	272
検索管理コンポーネントが失敗しました – イベント 121	274
検索クロール コンポーネント インデックス パス エラー – イベント 2588 2589 (SharePoint Server 2010).....	275
Search Query and Site Settings Service が実行していません (SharePoint Server 2010).....	277
SharePoint Server 2010 Search が実行されていません.....	279
SharePoint Server 2010 の Word Services のナレッジ項目	280
Word Services のタイマー ジョブが失敗しました – イベント 1022 8077 (SharePoint Server 2010).....	281
Word Services – PDF ファイル コンバーターでエラーが発生しています – イベント 8004 (SharePoint Server 2010).....	282
Word Services – XPS ファイル コンバーターが失敗しました – イベント 8005 (SharePoint Server 2010).....	283
Word Services を更新する必要があります – イベント 8010 (SharePoint Server 2010).....	284
Word Services – 言語パックがインストールされていません – イベント 8012 (SharePoint Server 2010).....	285
SharePoint Server 2010 の Visio Services のナレッジ項目	286

Visio Services でデータの更新に失敗しました - イベント 8037、8038、8063、8062.....	287
Visio 構成データベースが見つかりません - イベント 8040.....	288
Visio Services の信頼できないデータ プロバイダーへの要求 - イベント 8041.....	289
Visio Services が図面の生成に失敗しました - イベント 8060、8042、8043.....	290
Visio プロキシの初期化に失敗しました - イベント 8044.....	291
Visio のアプリケーション プロキシのエンドポイントが無効です - イベント 8049.....	293
Visio Services データ プロバイダーが見つかりません - イベント 8050.....	295
Visio Services でのファイル読み込みエラー - イベント 8061 8051.....	296
User Profile Synchronization Configuration Service が SQL Server に接続できません - イベント 4 (SharePoint Server 2010).....	297
ULS でログ ディレクトリ用の十分なディスクの空き領域がありません - イベント 2150.....	299
イベント ログのオーバーフロー - イベント 2158、2159.....	301
SQL Server データベースのログインに失敗しました - イベント 3351.....	302
適切な権限がないためバックアップに失敗しました - イベント 3353 (SharePoint 2010 製品) 関連項目.....	304 305
SQL Server に接続できません - イベント 3355.....	306
アプリケーション プール アカウントが Active Directory にユーザー アカウントを追加できません - イベント 3359 (SharePoint 2010 製品).....	308
Active Directory 組織単位が登録解除された - イベント 3360 (SharePoint 2010 製品).....	310
SQL Server データベースがいっぱいです - イベント 3758.....	311
データベースにアクセスできませんでした - Event 3760 (SharePoint 2010 製品).....	314
コンテンツ展開ジョブが失敗しました - イベント 4958、5323、5325、5335.....	317
コンテンツ データベースが読み取り専用です - イベント 4971.....	319
個人用サイトを作成できません - イベント 5187 (SharePoint Server 2010).....	321
ユーザー プロファイルの変更をコミットできません - イベント 5188 (SharePoint Server 2010).....	322
適切な SQL Server データベース権限がありません - イベント 5214.....	323
トレース ログに書き込めません - イベント 5401.....	325

同期ジョブをスケジュールできませんでした - イベント 5556 (SharePoint Server 2010).....	326
不明な SQL 例外 - イベント 5586.....	328
対象ユーザーのコンパイルに失敗しました - イベント 5693 (SharePoint Server 2010).....	333
SharePoint Server とディレクトリのデータの同期に失敗しました - イベント 6000-6099 (SharePoint Server 2010).....	334
SharePoint Foundation でサイトの作成に失敗しました - イベント 6141 (SharePoint 2010 製品)	335
認証プロバイダーを読み込むことができません - イベント 6143 (SharePoint 2010 製品).....	336
User Profile Synchronization Service で予期しないエラーが発生しました - イベント 6300 ~ 6309 (SharePoint Server 2010).....	339
構成データ キャッシュに書き込むための適切な権限がありません - イベント 6395.....	340
代替アクセス マッピングの更新に失敗しました - イベント 6397.....	341
SPServiceInstance タイマーの実行が失敗しました- イベント 6398	343
ULS で十分なディスクの空き領域がありません - イベント 6457.....	347
レジストリへの書き込みアクセスが拒否されました - イベント 6588.....	348
ディスクへの書き込みアクセスが拒否されました - イベント 6589.....	350
アプリケーション プール アカウントは、Kerberos として登録されている必要があります - イベント 6590.....	352
SMTP サービスが実行していない - イベント 6599 (SharePoint 2010 製品).....	354
イベント ハンドラーが読み込みに失敗しました - イベント 6644 (SharePoint 2010 製品).....	356
製品ヘルプ ライブラリのアクセス許可 - イベント 6769.....	357
送信 SMTP サーバーの名前を解決できません - イベント 6856 (SharePoint 2010 製品).....	358
SMTP ホストに接続できません - イベント 6857.....	360
SMTP サーバーとの通信中にエラーが発生しました - イベント 6858 (SharePoint 2010 製品)	362
SharePoint リストが電子メールを受信できない - イベント 6872 (SharePoint 2010 製品).....	364
電子メール サービスが電子メールを配信できません - イベント 6873 (SharePoint 2010 製品)	365
イベント レシーバーが失敗しました - イベント 6875 (SharePoint 2010 製品).....	366

サービス インスタンスの準備が失敗しました - イベント 7034 (SharePoint Server 2010).....	367
バックアップ タイマー ジョブを作成できませんでした - イベント 7035 (SharePoint 2010 製品)	368
サーバーの全体管理の更新が失敗しました - イベント 7037 (SharePoint 2010 製品).....	370
Secure Store の資格情報の再暗号化が失敗しました - イベント 7510 (SharePoint Server 2010).....	372
Secure Store がマスター暗号化キーを取得できません - イベント 7535.....	374
Secure Store の SQL 例外 - イベント 7551 (SharePoint Server 2010).....	378
Secure Store プロキシの予期しない例外 - イベント 7557 (SharePoint Server 2010).....	380
調整開始アラート - イベント 8032、8062.....	382
エンド ポイントを取得できません - イベント 8070.....	384
リモート ファームからサービス アプリケーションの一覧を取得できません - イベント 8071 (SharePoint Server 2010).....	385
ログ フォルダーが存在しない - イベント 8074 (SharePoint 2010 製品).....	387
利用状況タイマー ジョブが失敗する - イベント 8075 (SharePoint 2010 製品).....	388
Business Data Connectivity Service - BDC データベース アダプター接続例外 - イベント 8080 (SharePoint 2010 製品).....	390
Business Data Connectivity Service - BDC Web サービス プロキシ生成例外 - イベント 8082 (SharePoint 2010 製品).....	392
Business Data Connectivity Service - BDC プロキシの予期しない例外 - イベント 8085 (SharePoint 2010 製品).....	394
Business Data Connectivity Service - SQL 例外 - イベント 8086 (SharePoint 2010 製品)....	396
ULS トレース ログのサイズが制限に達しようとしています - イベント 8094 (SharePoint 2010 製 品).....	397
ULS 利用状況ログのサイズが上限に近づいています - イベント 8095.....	399
STS 署名証明書がありません - イベント 8303 (SharePoint 2010 製品).....	401
STS で資格情報に署名できません - イベント 8304 (SharePoint 2010 製品).....	402
クレームがエンドポイントを確立できません - イベント 8305 (SharePoint 2010 製品).....	403
STS クレーム プロバイダー エラー - イベント 8307 (SharePoint 2010 製品).....	404

管理サービスが実行されていません	405
バックエンド サーバーに到達できません (SharePoint Server 2010)	406
ドキュメントの変換が頻繁に失敗する (SharePoint Server 2010)	407
Document Conversions Launcher を使用できません	408
Document Conversions Load Balancer を使用できません	409
ナレッジ項目をまだ利用できません	411
サンドボックスで保護されたコードが実行されています	413
SharePoint Administration サービスが無効になっています	414
SharePoint Foundation 2010 の検索が実行されていません	415
SharePoint Health Analyzer でエラーまたは警告が検出されました (SharePoint 2010 製品)	416
SharePoint Timer Service を開始できませんでした	417
SharePoint Timer Service が実行されていません	418
SQL Server リモート アクセスが無効になっています (SharePoint 2010 製品)	419
トレース サービスが実行されていません	420
許容できない表示応答時間 (SharePoint Server 2010)	421
ユーザー プロファイル構成サービスが開始していません (SharePoint Server 2010)	423
User Profile Synchronization Service が開始されていません (SharePoint Server 2010)	424
Web アプリケーションによるページの表示に時間がかかりすぎています (SharePoint 2010 Products)	425
Web アプリケーションが使用できない (SharePoint 2010 製品)	426
Web サイトが使用できない (SharePoint 2010 製品)	428
SharePoint Health Analyzer ルール リファレンス (SharePoint Server 2010)	430
クレーム認証を使用している Web アプリケーションは、更新が必要です (SharePoint Server 2010)	434
自動更新設定がファーム サーバー間で一貫していません	435
診断ログが詳細レベルに設定されています	436
サーバー ファーム アカウントは、他のサービスには使用しないでください	437

1 つ以上のサービスが予期せず開始または停止されています	438
SharePoint で使用されているデータベースのインデックスが断片化されています	439
関連項目	439
孤立したアイテムを含むコンテンツ データベース.....	440
送信電子メールが構成されていません	441
一部の Health Analyzer ルールにタイマー ジョブが関連付けられていません	442
ドライブの空き容量が不足し始めています	443
ページング ファイル サイズは、システムに搭載されている物理 RAM の容量を超えている必要 があります	444
組み込みのアカウントがアプリケーション プールまたはサービス ID として使用されています	445
Web Analytics: Report Consolidator コンポーネントの状態の監視.....	446
Web Analytics: インストールされた Web Analytics の実行中に利用状況ログがファームで有効 になっていることの確認	447
Web Analytics: 各 Web アプリケーションで最低 1 つの Web Analytics Service アプリケーション プロキシが実行されていることを確認します	449
Web Analytics: Web Analytics ステージング データベースに対して SQL Server Service Broker が有効になっているかどうかを確認します	450
InfoPath Forms Services メンテナンス タイマー ジョブが有効になっていません (SharePoint Server 2010).....	451
個人用サイトのホストと個々の個人用サイトが専用の Web アプリケーションに展開され、それぞ れ異なる URL ドメインを使用していることを確認する (SharePoint Server 2010)	452
検索範囲が個人用サイトに対して定義されていない (SharePoint Server 2010)	453
各 User Profile Service アプリケーションに、個人用サイトのホストが構成されていることを確認 してください (SharePoint Server 2010).....	454
Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最大キャッシュ時間が設定されて いる (SharePoint Server 2010).....	455
Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす Web 図面の最大サイズが設定さ れている (SharePoint Server 2010)	456
Visio Graphics Service の最大再計算時間の設定が、ユーザーが体感するパフォーマンスに悪 影響を及ぼす可能性があります (SharePoint Server 2010).....	457

Visio Graphics Service に、セキュリティの問題を引き起こす可能性がある最小キャッシュ時間が設定されています (SharePoint Server 2010).....	458
Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最小キャッシュ時間が設定されています (SharePoint Server 2010).....	459
State Service アプリケーションのすべての State Service データベースが、一時停止中です (SharePoint Server 2010).....	460
State Service アプリケーションにデータベースが定義されていません (SharePoint Server 2010).....	462
State Service 接続が構成されていないため、Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません (SharePoint Server 2010).....	464
期限切れセッションが、ASP.NET セッション状態データベースから削除されていません (SharePoint Server 2010).....	465
[State Service の期限切れセッションの削除] タイマー ジョブが有効になっていません (SharePoint Server 2010).....	466
1 つ以上の Search クロール データベースに断片化されたインデックスがあります (SharePoint Server 2010).....	468
インデックスが断片化されている検索プロパティ データベースがあります (SharePoint Server 2010).....	470
Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません (SharePoint Server 2010).....	472
Word Automation Services のタイマー ジョブが実行されていません.....	474
インストール リファレンス (SharePoint Server 2010).....	476
セットアップのコマンドライン リファレンス (SharePoint Server 2010).....	477
セットアップのコマンドライン スイッチの使用方法.....	477
使用できるスイッチとパラメーター.....	477
コマンドプロンプトで Config.xml ファイルを指定してセットアップを実行する.....	480
Psconfig コマンドライン リファレンス (SharePoint Server 2010).....	481
Psconfig コマンドの使用方法.....	481
使用できるコマンドとパラメーター.....	482
Config.xml リファレンス (SharePoint Server 2010).....	490
Config.xml をカスタマイズする.....	490
Config.xml 要素のクイック リファレンス.....	491
動作のしくみ.....	492
Config.xml ファイルの形式.....	492

Config.xml 要素のリファレンス.....	493
Windows PowerShell コマンド (SharePoint Server 2010).....	506
Windows PowerShell を使用して SharePoint 製品をインストールする.....	506
Windows PowerShell のインストール コマンド.....	507
関連項目	508
エンタープライズ検索のテクニカル リファレンス (SharePoint Server 2010).....	509
既定のコネクタ (SharePoint Server 2010).....	510
ワード ブレーカーとステマーが提供されている言語 (SharePoint Server 2010).....	512
SharePoint Server 2010 でのプライバシーの管理.....	514
Web 分析	514
SharePoint ソーシャル タグおよびメモ掲示板.....	515
SharePoint の評価	516
個人用サイトとユーザー プロファイル.....	516
SharePoint Server 仕事仲間アドインのサポート.....	517
アクティビティ フィード.....	518
SharePoint 検索フェデレーション	518
SharePoint クエリ ログ.....	519
管理メタデータおよびエンタープライズ キーワード	519
ユーザー権限とアクセス許可レベル (SharePoint Server 2010).....	521
既定のアクセス許可レベル.....	521
データベースの種類と説明 (SharePoint Server 2010).....	525
SharePoint Foundation 2010 のデータベース.....	526
SharePoint Server 2010 Standard Edition データベース	535
SharePoint Server 2010 Enterprise Edition のデータベース.....	547
Project Server 2010 のデータベース	548
FAST Search Server for SharePoint 2010 のデータベース	552
PowerPivot for SharePoint	553
SQL Server システム データベース.....	554
SQL Server Reporting Services データベース	557
言語パック (SharePoint Server 2010).....	560
管理メタデータ入力ファイルの形式 (SharePoint Server 2010).....	562
管理メタデータ インポート ファイルの形式.....	562
管理メタデータ インポート ファイルを表示する	564
管理メタデータをインポートする.....	565
関連項目	565
読み取り専用サイトでのユーザー エクスペリエンス (SharePoint Server 2010).....	566
読み取り専用サイトで使用できず、エラーを返さない一般的なタスク.....	566

読み取り専用サイトで選択可能なように表示されるが、エラーを返す一般的なタスク	569
スクリプト展開リファレンス (SharePoint Server 2010).....	572
Install-SharePoint.....	572
New-SharePointFarm.....	573
Join-SharePointFarm.....	573
一般的なサイト コレクション テンプレート.....	574
アカウントの権限とセキュリティ設定 (SharePoint Server 2010).....	577
アカウントの権限とセキュリティ設定について.....	577
管理者アカウント.....	577
サービス アプリケーション アカウント.....	580
データベース ロール.....	582
グループ権限.....	583
PerformancePoint Services glossary	601
Terms.....	601
Word Automation Services のトラブルシューティング	611
潜在的なシステム障害への Word Automation Services の対応	611
失敗した変換のトラブルシューティング方法.....	612
特定のイベントのトラブルシューティング方法.....	613
SharePoint Server 2010 について Word Automation Services のイベントがない既知の障害	620
タイマー ジョブ リファレンス (SharePoint Server 2010).....	621
タイマー ジョブの管理.....	621
既定のタイマー ジョブ.....	622
SharePoint 2010 Administration Toolkit (SharePoint Server 2010).....	635
SharePoint 2010 Administration Toolkit をインストールする (SharePoint Server 2010).....	637
関連項目	638
SharePoint 2010 Administration Toolkit をアンインストールする (SharePoint Server 2010)...	639
SharePoint Server 2010 のセキュリティ構成ウィザード マニフェスト.....	640
SCW マニフェストを登録する.....	640
関連項目	641
Load Testing Kit (SharePoint Server 2010).....	642
概要.....	642
ログを収集する.....	642
分析用のデータを準備する.....	643
プロジェクト ファイルを使用して人工的な負荷を生成する.....	645
User Profile Replication Engine の概要 (SharePoint Server 2010).....	646

コンポーネントとインストール	646
User Profile Replication Engine の用途と利点	647
レプリケーションの種類	647
User Profile Replication Engine の構成	649
関連項目	650
Content Management Interoperability Services (CMIS) connector overview (SharePoint Server 2010) (英語)	651
About the CMIS standard and specification	651
About the CMIS Producer and CMIS Consumer Web Part	652
Installing and configuring the CMIS connector	652
Bindings and permissions	654
Mapping the CMIS data model to SharePoint concepts	655
関連項目	657
適合性宣言 A レベル (SharePoint Server 2010)	658
構成および管理の経験に対する A レベルの適合性宣言	658
適合性宣言 AA レベル (SharePoint Server 2010)	660
中心的な閲覧者、作成者、および共同作成者の経験に対する AA レベルの適合性宣言 ..	660
ファーム構成からバックアップされる設定と機能 (SharePoint Server 2010)	662
バックアップされる設定と機能	662
関連項目	663

ヘルプの利用

この文書では、正確を期すためにあらゆる努力が払われています。このコンテンツは Office system の TechNet ライブラリからオンラインでも参照できるので、問題が見つかった場合は次の URL で最新情報を確認してください。

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/office/bb267342>

オンライン コンテンツを参照しても解決しない場合は、Microsoft Office System and Servers コンテンツ チーム (下記のメール アドレス) に電子メール メッセージを送信できます。

itspdocs@microsoft.com

この文書の内容ではなく Microsoft Office 製品に関する問題については、下記の URL を使用して Microsoft ヘルプとサポート センターまたは Microsoft サポート技術情報を検索してください。

<http://support.microsoft.com/?ln=ja-jp>

SharePoint Server 2010 のテクニカル リファレンス

テクニカル リファレンスには、Microsoft SharePoint Server 2010 対応の Windows PowerShell の情報と、全般設定、セキュリティ、およびツールに関して役立つ情報があります。

このセクションの内容

- [SharePoint Server 2010 向けの Windows PowerShell](#)
- [System Center Operations Manage のナレッジ項目 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [SharePoint Server 2010 でのプライバシーの管理](#)
- [ユーザー権限とアクセス許可レベル \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [データベースの種類と説明 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [管理メタデータ入力ファイルの形式 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [読み取り専用サイトでのユーザー エクスペリエンス \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [言語パック \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [スクリプト展開リファレンス \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [アカウントの権限とセキュリティ設定 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [SharePoint 2010 Administration Toolkit \(SharePoint Server 2010\)](#)

関連項目

その他のリソース

[Stsadm コマンドライン ツール \(Office SharePoint Server\)](#)

SharePoint Server 2010 向けの Windows PowerShell

Windows PowerShell を Microsoft SharePoint Server 2010 と組み合わせて使用すると、単純な管理タスクと複雑な管理タスクの両方を実行できます。現在、SharePoint Server 2010 のコマンドレットに関する情報は、コマンドラインのヘルプを使って参照できます。Windows PowerShell 全般に関する情報については、「[Windows PowerShell Owner's Manual \(英語\)](#)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=167152&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

このセクションの内容

- [Windows PowerShell を使用した SharePoint 2010 製品の管理](#)
- [Windows PowerShell for SharePoint Server 2010 リファレンス](#)
- [Windows PowerShell コマンドレットに対する更新 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Stsadm と Windows PowerShell 間のマッピング \(SharePoint Server 2010\)](#)

Windows PowerShell を使用した SharePoint 2010 製品の管理

ここでは、Microsoft SharePoint 2010 製品で Windows PowerShell を使用方法について説明し、この強力な機能を最大限に活用するために必要な、Windows PowerShell の基本的なコマンドレットと概念について、概要を示します。

この記事の内容

- [概要](#)
- [SharePoint 2010 管理シェルを使用して SharePoint 2010 製品向けの Windows PowerShell にアクセスする](#)
- [権限](#)
- [Windows PowerShell について学ぶ](#)

概要

Windows PowerShell は、コマンドライン スクリプト ツールです。Windows PowerShell により、管理者は、アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) へのフル アクセスが可能になるほか、SharePoint 2010 製品と直接やり取りする機能のロックを解除して Web アプリケーション、サイト コレクション、サイト、リストなどを操作できるようになります。さらに、コマンドレットのスクリプトを記述すると、以前のバージョンの製品と比べて、より自在に管理できるようになります。

Windows PowerShell 2.0 は SharePoint 2010 製品をインストールするための前提条件です。Microsoft SharePoint 製品準備ツールを実行したときに、必要に応じてインストールされます。既定では、Windows PowerShell は `<%SystemRoot%>%System32%\WindowsPowerShell\v1.0\PowerShell.exe` にインストールされます。

メモ:

Windows PowerShell 2.0 は Windows PowerShell 1.0 と下位互換性があり、v1.0 フォルダーに続けてインストールされます。

Windows PowerShell バージョン 2.0 の新機能の一覧については、「[Windows PowerShell 2.0 について](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=113247&clcid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=113247&clcid=0x411>) を参照してください。

コマンドライン管理タスクを実行するときには Windows PowerShell を使用することが推奨されています。Stsadm コマンドライン ツールは推奨されていませんが、製品の以前のバージョンとの互換性をサポートするために含まれています。

SharePoint 2010 製品向けの Windows PowerShell にアクセスする

SharePoint 2010 製品をインストールした後で、SharePoint 2010 管理シェルまたは Windows PowerShell コンソールを使用して、該当する Windows PowerShell コマンドレットを使用できます。管理シェルでは、SharePoint 2010 製品の各側面を管理できます。新しいサイト コレクション、Web アプリケーション、ユーザー アカウント、サービス アプリケーション、プロキシなどを作成できます。管理シェルからのコマンドでは、Microsoft .NET プラットフォームに基づく SharePoint オブジェクトが出力されます。これらのオブジェクトは、後続のコマンドで入力として適用したり、ローカル変数に格納して後で使用したりできます。

管理シェルでは、コマンドレットを含むスナップインを登録する必要はありません。SharePoint 2010 コマンドレット用の Microsoft.SharePoint.PowerShell.dll モジュールの登録は、

```
%CommonProgramFiles%\Microsoft Shared\Web Server  
Extensions\14\Config\PowerShell\Registration の SharePoint.ps1 ファイルにある Add-  
PSSnapin Microsoft.SharePoint.PowerShell
```

という行によって自動で行われます。Windows PowerShell コンソールを使用することを選択した場合は、このスナップインを手動で登録する必要があります。

管理シェルと Windows PowerShell コンソールのどちらを使用する場合も、追加のスナップインを読み込むことができます。詳細については、「[Windows PowerShell プロファイルの力](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=183166&clcid=0x411>) を参照してください。

SharePoint 2010 管理シェルにアクセスするには

1. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
2. [Microsoft SharePoint 2010 Products] をクリックします。
3. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。

メモ:

SharePoint 2010 管理シェルと Windows PowerShell コンソールでは、スレッド モデルの使用方法を定義する `ReuseThread`

オプションの使用も異なります。管理シェルでの使用方法は、SharePoint.ps1 ファイルにある `{Host.Runspace.ThreadOptions = "ReuseThread"}`

という行で定義されています。詳細については、「[PS Thread Options \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=183145&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

権限

管理シェルおよび Windows PowerShell コマンドレットを使用する前に、次の最小要件を満たしていることを確認します。`Add-SPShellAdmin` を参照してください。

SharePoint_Shell_Access ロールまたは WSS_Admin_WPG ローカル グループのメンバーでない場合は、`Add-SPShellAdmin` コマンドレットを使用します。`Add-SPShellAdmin` コマンドレットを使用すると、ユーザーはすべてのフロントエンド Web サーバーで WSS_Admin_WPG グループに追

加され、SharePoint_Shell_Access ロールに追加されます。対象のデータベースに SharePoint_Shell_Access ロールがない場合は、ロールが自動的に作成されます。Add-SPShellAdmin コマンドレットを実行すると、ユーザーは複数サーバーのファーム環境で SharePoint 2010 Windows PowerShell コマンドレットを実行できます。

Add-SPShellAdmin コマンドレットを実行してユーザーを SharePoint_Shell_Access ロールに追加する場合、ユーザーは次のセキュリティ権限を持っている必要があります。

- SQL インスタンスに対する Securityadmin サーバー ロール アクセス権およびデータベースの db_owner ロール。
- ローカル コンピューターの管理権限。

メモ:

通常、Add-SPShellAdmin コマンドレットを使用する人は、セットアップに使用されたユーザー アカウントと関連付けられている必要があります。

アクセスを許可するすべてのデータベースに対して Add-SPShellAdmin コマンドレットを実行する必要があります。データベースを指定しない場合は、ファーム構成データベースが使用されません。データベースを指定した場合は、指定したファーム構成データベースに加えて、ファーム コンテンツ データベースが対象に含まれます。

*SPShellAdmin のすべてのコマンドレットの一覧を表示するには、Windows PowerShell コマンドプロンプトで、「Get-Command -Noun SPSHellAdmin」と入力します。

Windows PowerShell について学ぶ

SharePoint を扱う IT 担当方で Windows PowerShell になじみがない方向けの Windows PowerShell のラーニング リソースはいくつかあります。

TechNet スクリプト センター

TechNet スクリプト センターには、Windows PowerShell の使用方法の基礎について学ぶための多数のリソースがあります。また、さまざまな Microsoft 製品で一般的に使用するスクリプトのサンプルを含むスクリプト リポジトリもあります。次の表は、主なラーニング リソースを示します。

ページ	説明
TechNet の Windows PowerShell のドキュメント (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187813&clid=0x411)	TechNet ライブラリのこのセクションには、Windows PowerShell の Get-Help の主要なトピックのコピーがあります。また、Windows PowerShell の概要についてのドキュメント、

ページ	説明
	PowerShell.exe のヘルプ、および Windows PowerShell の入門の文書のコピーもあります。
Windows PowerShell でのスクリプティング (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187815&clcid=0x411)	Windows PowerShell スクリプトのラーニング リソースのホーム ページです。
Windows PowerShell Owner's Manual (英語) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187817&clcid=0x411) (英語)	Windows PowerShell の概要について学ぶための Web ベースのガイドです。
Windows PowerShell Quick Reference (英語) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187819&clcid=0x411) (英語)	Windows PowerShell と共にインストールされるクイック リファレンス ドキュメントのダウンロード可能なコピーです。

Windows PowerShell ドキュメント

Windows PowerShell では、Windows PowerShell 1.0 のプログラム グループに以下のドキュメントがインストールされます。これらは、[Windows PowerShell 1.0 Documentation Pack \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187822&clcid=0x411) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187822&clcid=0x411) (英語) をダウンロードしてインストールすることもできます。

ファイル	説明
GettingStarted.rtf	Windows PowerShell の使用を開始する方法について説明しています。
UsersGuide.rtf	Windows PowerShell の環境と言語について説明した文書です。
QuadFold.rtf	Windows PowerShell で一般的に使用する構文とコマンドについて説明した、印刷可能なクイック リファレンス ドキュメントです。TechNet のスクリプト センターからダウンロードすることもできます。

これらのリソースを読むときには、SharePoint 2010 製品向けの Windows PowerShell を使用する前に、以下の概念およびコマンドレットについて学んでおく役立ちます。

- [Get-Command](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=171069&clcid=0x411) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=171069&clcid=0x411)
- [Get-Member](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=171070&clcid=0x411) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=171070&clcid=0x411)
- [Get-Help](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=171068&clcid=0x411) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=171068&clcid=0x411)
- [エイリアスについて](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=113207&clcid=0x411) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=113207&clcid=0x411)

- [Piping and the Pipeline in Windows PowerShell \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187808&clcid=0x411)
(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187808&clcid=0x411>) (英語)
- [Cmdlet Parameter Sets \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187810&clcid=0x411)
(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187810&clcid=0x411>) (英語)
- [Foreach-Object \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187812&clcid=0x411) (<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187812&clcid=0x411>) (英語)
- [Where-Object \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187811&clcid=0x411) (<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187811&clcid=0x411>) (英語)

Windows PowerShell for SharePoint Server 2010 リファレンス

以下の記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 のコマンドレットを機能別に示します。

カテゴリ記事
Access Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
エンタープライズ コンテンツ管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
Excel Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
InfoPath Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
State Service とセッション状態のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
Secure Store Service のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
User Profile Service のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
検索のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
Visio Graphics Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
Web Analytics のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
PerformancePoint Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
Word Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
バックアップと復元のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
データベースのコマンドレット (SharePoint Server 2010)
機能とソリューションのコマンドレット (SharePoint Server 2010)
全般のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
インポートとエクスポートのコマンドレット (SharePoint Server 2010)
ログとイベントのコマンドレット (SharePoint Server 2010)
セキュリティのコマンドレット (SharePoint Server 2010)
サービス アプリケーションのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

サイト管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
パフォーマンスのコマンドレット (SharePoint Server 2010)
アップグレードと移行のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
ワークフロー管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010)
タイマー ジョブのコマンドレット (SharePoint Server 2010)
SharePoint Foundation 2010 Search のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Access Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Access Services は、管理者が Web ブラウザー内で Microsoft Access アプリケーションを表示、編集、および構成できる Microsoft SharePoint Server 2010 のサービスです。

Access Services のすべての設定では、サーバーの全体管理の UI 設定の有無に関係なく、バックアップと復元がサポートされます。ただし、バックアップと復元は、サービス レベルと管理レベルの設定のみが対象です。Access アプリケーションによるエンド ユーザーのコンテンツは、このプロセスの手順ではバックアップされません。

Access Services 向けの Windows PowerShell 機能を使用して、サービスの準備または以前のバックアップの設定を使用する新しいインスタンスの準備、マクロおよびクエリ設定の構成と管理、セッション管理の管理と構成、およびサービスのすべてのグローバル設定の構成を実行できます。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
New-SPAccessServiceApplication
Get-SPAccessServiceApplication
Set-SPAccessServiceApplication

AccessServicesCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

バックアップと復元のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

バックアップとは、システム障害が発生した場合に、データの復元と復旧に使用されるデータのコピーのことです。データのバックアップを保管しておく、あるサーバーから別のサーバーへのデータベースのコピー、データベース ミラーリングのセットアップ、管理目的のアーカイブ作成、障害復旧など、日常的な定型業務に役立ちます。

Microsoft SharePoint Server 2010 では、Windows PowerShell 機能を使用して、次のアイテムのバックアップ処理や復元処理を実行できます。

- ファーム
- サイト コレクション
- 構成データベース
- サービス
- リストまたはドキュメント

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Backup-SPConfigurationDatabase
Backup-SPFarm
Restore-SPFarm
Backup-SPSite
Restore-SPSite
Get-SPBackuphistory

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

Business Connectivity Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームの Business Connectivity Services を管理できます。

コマンドレット名	説明
Clear-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	指定したパーティションの Business Data Connectivity Metadata Store からすべてのデータを削除します。
Copy-SPBusinessDataCatalogAclToChildren	Business Data Connectivity Metadata Store メタデータ オブジェクトの権限のセットを子オブジェクトにコピーします。
Disable-SPBusinessDataCatalogEntity	Business Data Connectivity Metadata Store の外部コンテンツ タイプを非アクティブ化します。
Enable-SPBusinessDataCatalogEntity	Business Data Connectivity Metadata Store の外部コンテンツ タイプをアクティブ化します。
Export-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルをエクスポートします。
Export-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	パーティションと関連付けられている Business Data Connectivity Metadata Store からすべてのデータをエクスポートします。
Get-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	Business Data Connectivity Metadata Store メタデータ オブジェクトを返します。
Grant-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	指定した Business Data Connectivity Metadata Store メタデータ オブジェクトのプリンシパルに権限を付与します。
Import-SPBusinessDataCatalogDotNetAssembly	パーティションの Business Data Connectivity Metadata Store と関連付けられているデータをインポートします。

コマンドレット名	説明
Import-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルをインポートします。
New-SPBusinessDataCatalogServiceApplication	新しい Business Data Connectivity Service アプリケーションをファームに作成します。
New-SPBusinessDataCatalogServiceApplicationProxy	新しい Business Data Connectivity Service アプリケーション プロキシをファームに作成します。
Remove-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルを削除します。
Revoke-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	指定した Business Data Connectivity Metadata Store メタデータ オブジェクトのプリンシパルに対する権限を取り消します。
Set-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	Business Data Connectivity Metadata Store メタデータ オブジェクトのプロパティまたは属性の値を設定します。
Set-SPBusinessDataCatalogServiceApplication	ファームの Business Data Connectivity Service アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。
Import-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	特定のパーティションの Business Data Connectivity Metadata Store と関連付けられているすべてのデータを含むエクスポートされたファイルと関連付けられているデータをインポートします。
Remove-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	パーティションの Business Data Connectivity Metadata Store を削除します。

データベースのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームのデータベースを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Connect-SPConfigurationDatabase
Disconnect-SPConfigurationDatabase
New-SPConfigurationDatabase
Remove-SPConfigurationDatabase
Dismount-SPContentDatabase
Get-SPContentDatabase
Mount-SPContentDatabase
New-SPContentDatabase
Remove-SPContentDatabase
Set-SPContentDatabase
Test-SPContentDatabase
Get-SPDatabase

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

エンタープライズ コンテンツ管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

ECM (エンタープライズ コンテンツ管理) は、組織内のプロセスに関連するコンテンツとドキュメントの取得、保持、配布に使用する戦略、手法、およびツールです。Microsoft SharePoint Server 2010 では、コンテンツ展開機能の 2 つの側面に Windows PowerShell コマンドレットを使用できます。

コンテンツ展開機能は、展開元の SharePoint Server 2010 サイト コレクションから展開先のサイト コレクションへコンテンツをコピーします。展開元のサイト コレクション全体をコピーするか、一部のサイトをコピーできます。

メモ:

コンテンツ展開を最初に実行するときは、必ず完全展開として実行してください。完全展開を実行した後は、変更されたページと関連リソースのみを展開する増分展開を実行できます。

コンテンツ展開に関連する Windows PowerShell コマンドレットは、以下の 2 つの領域の処理を行います。

- **コンテンツ展開パス** コンテンツ展開パスは、コンテンツの展開元と展開先のサイト コレクションの関係を定義します。パスの作成後に、ジョブを作成し、パスと関連付けて、コンテンツ展開を開始できます。

Windows PowerShell 名詞、**SPContentDeploymentPath** を使用して、展開パスを取得、設定、および作成できます。

- **コンテンツ展開ジョブ** コンテンツ展開ジョブはコンテンツ展開パスと関連付けられます。展開元から展開先へ展開される特定のコンテンツ、および展開を実行するスケジュールを定義します。

Windows PowerShell 名詞、**SPContentDeploymentJob** を使用して、管理者は展開ジョブを取得、設定、および作成できます。

メタデータの管理をサポートするコマンドレットもあります。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Get-SPContentDeploymentJob
New-SPContentDeploymentJob

コマンドレット名
Remove-SPContentDeploymentJob
Set-SPContentDeploymentJob
Start-SPContentDeploymentJob
Get-SPContentDeploymentPath
New-SPContentDeploymentPath
Remove-SPContentDeploymentPath
Set-SPContentDeploymentPath
Clear-SPMetadataWebServicePartitionData
Export-SPMetadataWebServicePartitionData
Import-SPMetadataWebServicePartitionData
Get-SPSiteSubscriptionMetadataConfig
Remove-SPSiteSubscriptionMetadataConfig
Set-SPSiteSubscriptionMetadataConfig
Get-SPTaxonomySession
Get-SPMetadataServiceApplication
New-SPMetadataServiceApplication
Set-SPMetadataServiceApplication
Get-SPMetadataServiceApplicationProxy
New-SPMetadataServiceApplicationProxy
Set-SPMetadataServiceApplicationProxy

ECMcmdlets.chm ファイルまたは MetadataCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell for SharePoint Server 2010 Beta \(英語\)](#)」
 (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411) (英語) を参照してください。

Excel Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Excel Services アプリケーションは、Microsoft SharePoint Server 2010 のサービス アプリケーションの 1 つで、Microsoft Excel 2010 のブック (拡張子は .xlsx、.xlsb、および .xlsm) を対話形式のレポートとして企業全体で統一した方法で共有、セキュリティ保護、および管理するために使用できます。

Excel Services アプリケーションのすべての設定では、サーバーの全体管理 Web サイトの UI 設定の有無に関係なく、バックアップと復元がサポートされます。つまり、すべてのグローバル設定、信頼できる場所、ユーザー定義関数、データ接続ライブラリ、および信頼できるデータプロバイダー設定で、バックアップと復元がサポートされます。ただし、以下のものは、バックアップと復元のプロセスの手順でバックアップされません。

- ユーザー定義関数アセンブリ。このようなアセンブリはバイナリ ファイルであり、単なる設定ではないので、バックアップや復元は行われません。ただし、信頼できるユーザー定義関数のリスト内のデータはバックアップされます。
- 信頼できるデータ プロバイダー バイナリ。ただし、信頼できるデータ プロバイダーとすべての関連プロパティの完全なリストはバックアップされます。
- Excel Web Access (EWA) Web パーツのプロパティ。
- Office データ接続 (.odc 拡張子) ファイルとブック ファイル。

メモ:

すべての種類の URL (信頼できる場所、ユーザー定義関数、またはデータ接続ライブラリへの URL) は、復元後は有効でなくなる可能性があるため、復元処理後に手動で修正する必要があります。

Excel Services アプリケーションのバックアップと復元の機能に Windows PowerShell を使用する以外に、Windows PowerShell を使用して、サービス アプリケーションを最初から準備したり、以前のバックアップの設定を使用する新しいインスタンスを準備したり、信頼できるファイルの場所、データ プロバイダー、データ接続ライブラリ、およびユーザー定義関数アセンブリの設定を管理および構成したりすることもできます。また、Excel Services アプリケーションのグローバル設定も変更できます。

コマンドレット名	Description
Get-SPExcelBlockedFileType	読み込みが禁止されている 1 つのファイルの種類またはファイルの種類のリストを返します。

Get-SPExcelDataConnectionLibrary	1つの信頼できるデータ接続ライブラリまたは信頼できるデータ接続ライブラリのリストを返します。
Get-SPExcelDataProvider	1つの安全なデータプロバイダーまたは安全なデータプロバイダーのリストを返します。
Get-SPExcelFileLocation	1つの信頼できるファイル保存場所または信頼できるファイル保存場所のリストを返します。
Get-SPExcelServiceApplication	SPExcelServiceApplication オブジェクトを返します。
Get-SPExcelUserDefinedFunction	1つのユーザー定義関数またはユーザー定義関数のコレクションを返します。
New-SPExcelBlockedFileType	Excel Services アプリケーションによって読み込みが禁止されるファイルの種類のリストにファイルの種類を追加します。
New-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションに新しいデータ接続ライブラリを追加します。
New-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションに新しい安全なデータプロバイダーを追加します。
New-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションに新しい信頼できる場所を追加します。
New-SPExcelServiceApplication	Excel Services アプリケーションの新しいインスタンスを作成します。
New-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションに新しいユーザー定義関数を追加します。
Remove-SPExcelBlockedFileType	Excel Services アプリケーションで読み込みが禁止されているファイルの種類のリストからエントリを削除します。
Remove-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションからデータ接続ライブラリを削除します。
Remove-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションからデータプロバイダーを削除します。
Remove-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションから信頼できるファイル保存場所を削除します。
Remove-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションからユーザー定義関数を削除します。
Set-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションのデータ接続ライブラリのプロパティを設定します。

Set-SPEExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションの安全なデータ プロバイダーのプロパティを設定します。
Set-SPEExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションの信頼できるファイル保存場所のプロパティを設定します。
Set-SPEExcelServiceApplication	Excel Services アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。
Set-SPEExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションのユーザー定義関数のプロパティを設定します。

関連項目

その他のリソース

[Excel Services 入門](#)

ファームのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell のコマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームを管理できます。

コマンドレット名	説明
Get-SPFarmConfig	ローカル ファームのグローバル プロパティまたはグローバル プロパティのコレクションを返します。
Get-SPProcessAccount	システム アカウントまたは管理アカウントを返します。
Get-SPWebTemplate	特定の ID に一致するグローバルにインストールされたサイト テンプレートをすべて表示します。
Install-SPWebTemplate	特定のサイト テンプレートをインストールします。
New-SPCentralAdministration	SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションを新たに作成します。
Set-SPCentralAdministration	SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトのポートを設定します。
Set-SPFarmConfig	ローカル ファームのグローバル プロパティまたはグローバル プロパティのコレクションを設定します。
Set-SPPassPhrase	パスフレーズに新しい値を設定します。
Set-SPWebTemplate	インストールされたサイト テンプレートのタイトルと説明を変更します。
Start-SPAdminJob	ローカル コンピューターで待機中の管理ジョブがあれば、すぐに開始します。
Uninstall-SPWebTemplate	特定のサイト テンプレートをアンインストールします。

機能とソリューションのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームの機能とソリューションを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Add-SPSolution
Add-SPUserSolution
Disable-SPFeature
Enable-SPFeature
Get-SPFeature
Get-SPSolution
Get-SPUserSolution
Install-SPFeature
Install-SPSolution
Install-SPUserSolution
Remove-SPSolution
Remove-SPUserSolution
Remove-SPSolutionDeploymentLock
Uninstall-SPFeature
Uninstall-SPUserSolution
Uninstall-SPSolution
Update-SPSolution
Update-SPUserSolution

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」
(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

全般のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームの一般的な管理を実行できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Copy-SPBusinessDataCatalogAclToChildren
Disable-SPBusinessDataCatalogEntity
Enable-SPBusinessDataCatalogEntity
Export-SPBusinessDataCatalogModel
Get-SPAAlternateURL
Get-SPBrowserCustomerExperienceImprovementProgram
Get-SPBusinessDataCatalogMetadataObject
Get-SPCustomLayoutsPage
Get-SPFarmConfig
Get-SPHelpCollection
Get-SPMobileMessagingAccount
Get-SPProcessAccount
Get-SPWebPartPack
Get-SPWebTemplate
Grant-SPBusinessDataCatalogMetadataObject
Import-SPBusinessDataCatalogModel
Initialize-SPResourceSecurity
Install-SPApplication
Install-SPHelpCollection
Install-SPWebPartPack

コマンドレット名
Install-SPWebTemplate
Merge-SPLogFile
Move-SPBlobStorageLocation
New-SPAlternateUrl
New-SPBusinessDataCatalogServiceApplication
New-SPBusinessDataCatalogServiceApplicationProxy
New-SPCentralAdministration
New-SPLogFile
New-SPUsageLogFile
Remove-SPAlternateUrl
Remove-SPBusinessDataCatalogModel
Revoke-SPBusinessDataCatalogMetadataObject
Set-SPAlternateUrl
Set-SPBrowserCustomerExperienceImprovementProgram
Set-SPBusinessDataCatalogMetadataObject
Set-SPBusinessDataCatalogServiceApplication
Set-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig
Set-SPCentralAdministration
Set-SPCustomLayoutsPage
Set-SPFarmConfig
Set-SPMobileMessagingAccount
Set-SPPassPhrase
Set-SPWebTemplate
Start-SPAdminJob
Start-SPAssignment
Stop-SPAssignment
Uninstall-SPHelpCollection

コマンドレット名
Uninstall-SPWebPartPack
Uninstall-SPWebTemplate

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

インポートとエクスポートのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、サイト コレクション、Web アプリケーション、リスト、またはライブラリをインポートまたはエクスポートできます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Import-SPWeb
Export-SPWeb

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

InfoPath Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

InfoPath Services は、Microsoft SharePoint Server 2010 のサービスの 1 つであり、Microsoft InfoPath 2010 のフォーム テンプレートの表示、編集、および構成と、Web ブラウザー内での表示に使用できます。

InfoPath Services のすべての設定では、サーバーの全体管理 Web サイトの UI 設定の有無に関係なく、バックアップと復元がサポートされます。ただし、バックアップと復元は、サービスおよび管理レベルの設定のみが対象です。エンド ユーザーのコンテンツは、このプロセスの中ではバックアップされません。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名	Description
Get-SPDataConnectionFile	
Get-SPDataConnectionFileDependent	
Install-SPDataConnectionFile	
Set-SPDataConnectionFile	
Uninstall-SPDataConnectionFile	
Add-SPInfoPathUserAgent	
Get-SPInfoPathUserAgent	
Remove-SPInfoPathUserAgent	
Disable-SPInfoPathFormTemplate	
Enable-SPInfoPathFormTemplate	
Get-SPInfoPathFormTemplate	
Install-SPInfoPathFormTemplate	
Set-SPInfoPathFormTemplate	
Start-SPInfoPathFormTemplate	
Stop-SPInfoPathFormTemplate	
Test-SPInfoPathFormTemplate	

コマンドレット名	Description
Uninstall-SPInfoPathFormTemplate	
Update-SPInfoPathFormTemplate	
Export-SPInfoPathAdministrationFiles	
Import-SPInfoPathAdministrationFiles	
Get-SPInfoPathFormsService	
Set-SPInfoPathFormsService	
Get-SPInfoPathWebServiceProxy	
Set-SPInfoPathWebServiceProxy	
Update-SPInfoPathUrl	

InfoPathCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

ログとイベントのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、システム イベントのログを記録し、診断を実行できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Clear-SPLogLevel
Get-SPLogLevel
Set-SPLogLevel
Get-SPLogEvent
Get-SPDiagnosticConfig
Get-SPDiagnosticsProvider
Set-SPDiagnosticConfig
Set-SPDiagnosticsProvider

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

管理されたメタデータのコマンドレット

管理されたメタデータは、階層構造を備えた集中管理型の用語のコレクションであり、用語を管理者が定義できます。管理されたメタデータは、Microsoft SharePoint Server 2010 のアイテム属性として使用できます。

この記事では、管理されたメタデータの管理をサポートするコマンドレットの一覧を示します。

管理されたメタデータの管理

コマンドレット名	説明
Clear-SPMetadataWebServicePartitionData	Managed Metadata Web Service アプリケーションのサイト購読のすべてのデータを削除します。
Export-SPMetadataWebServicePartitionData	サイト購読の Managed Metadata Web Service からデータをエクスポートします。
Get-SPMetadataServiceApplication	Managed Metadata Service アプリケーションを返します。
Get-SPMetadataServiceApplicationProxy	Managed Metadata Service アプリケーションへの既存の接続 (プロキシとも呼ばれます) を Managed Metadata Service アプリケーションに返します。
Get-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	Managed Metadata Service アプリケーションのサイト購読構成の設定を返します。
Get-SPTaxonomySession	TaxonomySession オブジェクトを返します。
Import-SPMetadataWebServicePartitionData	サイト購読のデータを復元します。
New-SPMetadataServiceApplication	新しい Managed Metadata Service アプリケーションを作成します。
New-SPMetadataServiceApplicationProxy	Managed Metadata Service アプリケーションへの新しい接続を作成します。
Remove-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	サイト購読構成の設定を削除します。
Set-SPMetadataServiceApplication	Managed Metadata Service アプリケーションのプロパティを設定します。

コマンドレット名	説明
Set-SPMetadataServiceApplicationProxy	Managed Metadata Service アプリケーションへの接続のプロパティを設定します。
Set-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	指定した Managed Metadata Service アプリケーションのサイト購読構成の設定を設定します。

パフォーマンスのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームのパフォーマンスを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
<code>Disable-SPWebApplicationHttpThrottling</code>
<code>Enable-SPWebApplicationHttpThrottling</code>
<code>Get-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig</code>
<code>Remove-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig</code>
<code>Set-SPWebApplicationHttpThrottlingMonitor</code>

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

PerformancePoint Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Microsoft SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services は、ビジネスを監視および分析するために使用できる Microsoft SharePoint Server 2010 のパフォーマンス管理サービスです。PerformancePoint Services は、ダッシュボード、スコアカード、および主要業績評価指標 (KPI) を作成するための柔軟性に富んだ使いやすいツールを提供し、組織のユーザー全員が、全社的な目的と戦略に即して十分な情報を得たうえでビジネス上の決定を行えるよう導きます。

Windows PowerShell の機能を使用して、PerformancePoint Services の準備、サービス アプリケーションの管理と構成、信頼できる場所の構成と管理、サービス アプリケーションのプロキシの構成と管理、およびサービスのグローバル設定の構成を行うことができます。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
<code>Clear-SPPerformancePointMonitoringServiceApplicationTrustedLocation</code>
<code>Get-SPPerformancePointMonitoringServiceApplicationTrustedLocation</code>
<code>New-SPPerformancePointMonitoringServiceApplicationTrustedLocation</code>
<code>Remove-SPPerformancePointMonitoringServiceApplicationTrustedLocation</code>
<code>Get-SPPerformancePointMonitoringServiceApplication</code>
<code>New-SPPerformancePointMonitoringServiceApplication</code>
<code>Remove-SPPerformancePointMonitoringServiceApplication</code>
<code>Set-SPPerformancePointMonitoringServiceApplication</code>
<code>New-SPPerformancePointMonitoringServiceApplicationProxy</code>
<code>Remove-SPPerformancePointMonitoringServiceApplicationProxy</code>

PerformancePointCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

検索のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

検索は複数のコンポーネントで構成され、いずれのコンポーネントも、検索の実行に必要な固有の機能を提供します。これらのコンポーネントは、Windows PowerShell コマンドレットを使用して構成できます。

次のコマンドレットを使用できます。

管理

コマンドレット名
Get-SPEnterpriseSearchAdminComponent
Set-SPEnterpriseSearchAdminComponent

クローラ

コマンドレット名
Get-SPEnterpriseSearchCrawlComponent
Get-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource
Get-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector
Get-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase
Get-SPEnterpriseSearchCrawlExtension
Get-SPEnterpriseSearchCrawlMapping
Get-SPEnterpriseSearchCrawlRule
Get-SPEnterpriseSearchCrawlTopology
New-SPEnterpriseSearchCrawlComponent
New-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource
New-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector
New-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase
New-SPEnterpriseSearchCrawlExtension
New-SPEnterpriseSearchCrawlMapping

コマンドレット名
New-SPEnterpriseSearchCrawlRule
New-SPEnterpriseSearchCrawlTopology
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlComponent
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlExtension
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlMapping
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlRule
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlTopology
Set-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource
Set-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase
Set-SPEnterpriseSearchCrawlRule
Set-SPEnterpriseSearchCrawlTopology

サービス アプリケーション

コマンドレット名
Get-SPEnterpriseSearchService
Get-SPEnterpriseSearchServiceApplication
Get-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy
Get-SPEnterpriseSearchServiceInstance
New-SPEnterpriseSearchServiceApplication
New-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy
Remove-SPEnterpriseSearchServiceApplication
Remove-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy
Restore-SPEnterpriseSearchServiceApplication
Set-SPEnterpriseSearchService

コマンドレット名
Set-SPEnterpriseSearchServiceApplication
Set-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy
Set-SPEnterpriseSearchServiceInstance
Start-SPEnterpriseSearchServiceInstance
Stop-SPEnterpriseSearchServiceInstance
Upgrade-SPEnterpriseSearchServiceApplication

クエリ

コマンドレット名
Get-SPEnterpriseSearchQueryAuthority
Get-SPEnterpriseSearchQueryComponent
Get-SPEnterpriseSearchQueryDemoted
Get-SPEnterpriseSearchQueryKeyword
Get-SPEnterpriseSearchQueryScope
Get-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule
Get-SPEnterpriseSearchQuerySuggestionCandidates
Get-SPEnterpriseSearchQueryTopology
Get-SPEnterpriseSearchRankingModel
Get-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer
New-SPEnterpriseSearchQueryAuthority
New-SPEnterpriseSearchQueryComponent
New-SPEnterpriseSearchQueryDemoted
New-SPEnterpriseSearchQueryKeyword
New-SPEnterpriseSearchQueryScope
New-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule
New-SPEnterpriseSearchQueryTopology
New-SPEnterpriseSearchRankingModel

コマンドレット名
New-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer
Remove-SPEnterpriseSearchQueryAuthority
Remove-SPEnterpriseSearchQueryComponent
Remove-SPEnterpriseSearchQueryDemoted
Remove-SPEnterpriseSearchQueryKeyword
Remove-SPEnterpriseSearchQueryScope
Remove-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule
Remove-SPEnterpriseSearchQueryTopology
Remove-SPEnterpriseSearchRankingModel
Remove-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer
Restart-SPEnterpriseSearchQueryComponent
Set-SPEnterpriseSearchQueryAuthority
Set-SPEnterpriseSearchQueryComponent
Set-SPEnterpriseSearchQueryKeyword
Set-SPEnterpriseSearchQueryScope
Set-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule
Set-SPEnterpriseSearchQueryTopology
Set-SPEnterpriseSearchRankingModel

メタデータ

コマンドレット名
Get-SPEnterpriseSearchMetadataCategory
Get-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty
Get-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty
Get-SPEnterpriseSearchMetadataMapping
New-SPEnterpriseSearchMetadataCategory
New-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty

コマンドレット名
New-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty
New-SPEnterpriseSearchMetadataMapping
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataCategory
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataMapping
Set-SPEnterpriseSearchMetadataCategory
Set-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty
Set-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty
Set-SPEnterpriseSearchMetadataMapping

トポロジ

コマンドレット名
Import-SPEnterpriseSearchTopology
Export-SPEnterpriseSearchTopology

全般

コマンドレット名
Get-SPEnterpriseSearchIndexPartition
Get-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase
Get-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase
Get-SPEnterpriseSearchSiteHitRule
New-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase
New-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase
New-SPEnterpriseSearchSiteHitRule
Remove-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase
Remove-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase

コマンドレット名
Remove-SPEnterpriseSearchSiteHitRule
Set-SPEnterpriseSearchIndexPartition
Set-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase

Microsoft FAST Search Server 2010 for SharePoint

SharePoint Server 検索機能の能力を超える規模とパフォーマンスが必要な環境では、SharePoint Server 検索機能の代わりに Microsoft FAST Search Server 2010 for SharePoint を使用できます。FAST Search Server 2010 for SharePoint を複数のサーバーに展開することによって、冗長性を確保し、パフォーマンスと容量を大きくすることができます。展開と管理は、SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトではなく主にコマンドライン操作を使用して行い、Windows PowerShell を使用してスクリプト化できます。FAST Search Server 2010 for SharePoint は、SharePoint Server Enterprise Client Access License (CAL) がある場合のみ使用できます。

次の表は、FAST Search Server 2010 for SharePoint に使用できるコマンドレットを示しています。

コマンドレット名
Get-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty
Set-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty
Set-SPEnterpriseSearchExtendedQueryProperty
Get-SPEnterpriseSearchExtendedQueryProperty
Get-SPEnterpriseSearchExtendedClickThroughExtractorJobDefinition

SearchCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clid=0x411>) (英語) を参照してください。

Secure Store Service のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Microsoft SharePoint Server 2010 では、Microsoft Office SharePoint Server 2007 で使用されていたシングル サインオン (SSO) 機能に代わり、Secure Store Service があります。Secure Store Service は、クレームに対応する認証サービスで、アプリケーション ID と関連付けられた資格情報を格納するセキュリティ保護データベースを持ちます。これらのアプリケーション ID を使用して、外部データ ソースへのアクセスを認証できます。Secure Store Service によって、資格情報をセキュリティで保護して保管したり、特定の ID や ID のグループに関連付けたりできます。Secure Store Service の一般的なシナリオは、現在のユーザーが別の名前または認証用の別アカウントを持っているシステムに対して認証を行うアプリケーションです。Microsoft Business Connectivity Services と共に使用すると、Secure Store Service は外部データ ソースに対して認証を行うための手段を提供します。

Windows PowerShell のコマンドレットを使用すると、Secure Store Service インスタンスの作成と構成、資格情報データベースの設定の構成、および Secure Store Service のすべてのグローバル設定の構成を行うことができます。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Clear-SPSecureStoreCredentialMapping
Update-SPSecureStoreCredentialMapping
Disable-SPSingleSignOn
Get-SPSecureStoreApplication
New-SPSecureStoreApplication
Remove-SPSecureStoreApplication
Set-SPSecureStoreApplication
New-SPSecureStoreServiceApplication
Set-SPSecureStoreServiceApplication
New-SPSecureStoreTargetApplication
New-SPSecureStoreTargetApplicationField
Update-SPSecureStoreCredentialMapping

コマンドレット名
Upgrade-SPSingleSignOnDatabase
Update-SPSecureStoreGroupCredentialMapping
Update-SPSecureStoreMasterKey
Update-SPSecureStoreApplicationServerKey

SecureStoreCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411)」
(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

セキュリティのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 のセキュリティを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Get-SPClaimProviderManager
Get-SPManagedAccount
Get-SPManagedPath
Get-SPObjectSecurity
New-SPClaimsPrincipal
New-SPManagedAccount
New-SPManagedPath
Remove-SPManagedAccount
Remove-SPManagedPath
Set-SPManagedAccount
Update-SPFarmEncryptionKey

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

サービス アプリケーションのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームのサービス アプリケーションを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Add-SPServiceApplicationProxyGroupMember
Get-SPServiceApplicationPool
Get-SPServiceApplication
Get-SPServiceApplicationProxy
Get-SPServiceApplicationProxyGroup
Get-SPServiceContext
Get-SPServiceInstance
Get-SPUsageApplication
Get-SPUsageDefinition
Get-SPUsageService
Grant-SPServiceApplication
New-SPServiceApplicationPool
New-SPServiceApplicationProxyGroup
New-SPSubscriptionSettingsServiceApplicationProxy
New-SPUsageApplication
Publish-SPServiceApplication
Receive-SPSharedServiceApplicationInfo
Remove-SPServiceApplication
Remove-SPServiceApplicationPool

コマンドレット名
Remove-SPServiceApplicationProxy
Remove-SPServiceApplicationProxyGroup
Remove-SPServiceApplicationProxyGroupMember
Remove-SPUsageApplication
Revoke-SPServiceApplication
Set-SPIisWebServiceApplicationPool
Set-SPServiceApplication
Set-SPUsageApplication
Unpublish-SPServiceApplication
Set-SPUsageService
Start-SPServiceInstance
Stop-SPServiceInstance
Set-SPUsageDefinition

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」
 (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411) (英語) を参照してください。

SharePoint Foundation 2010 Search のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Microsoft SharePoint Foundation 2010 Search には、サイト コレクションの検索機能が組み込まれています。通常、SharePoint Foundation 2010 Search では単一のサイト コレクションが検索範囲となり、外部データ ソースはクロールされません。ほとんどの検索機能は自動的に構成され、スケジュールの設定や管理者による制御を行わなくても検索クロールが自動的に実行されます。

Cmdlet name	説明
Get-SPSearchService	検索サービスを返します。
Set-SPSearchService	検索サービスのプロパティを設定します。
Get-SPSearchServiceInstance	検索サービスのインスタンスを返します。
Set-SPSearchServiceInstance	検索サービス インスタンスのプロパティを設定します。

サイト コレクションのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 のサイト コレクションを管理できます。

コマンドレット名	説明
Get-SPWebPartPack	指定した適用範囲にインストールされている Web パーツ パッケージを返します。
Install-SPWebPartPack	指定した Web パーツ パッケージを指定した場所にインストールします。

サイト管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームのサイトを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Get-SPUser
Get-SPWeb
Get-SPWebApplication
Get-SPFarm
Get-SPProduct
Get-SPServer
Get-SPSite
Get-SPSiteAdministration
Get-SPSiteSubscription
Get-SPSiteSubscriptionConfig
Move-SPUser
New-SPSite
New-SPSiteSubscription
New-SPSubscriptionSettingsService
New-SPUser
New-SPWeb
New-SPWebApplication
New-SPWebApplicationExtension
Remove-SPSite

コマンドレット名
Remove-SPSiteSubscription
Remove-SPSiteSubscriptionSettings
Remove-SPUser
Remove-SPWeb
Remove-SPWebApplication
Rename-SPServer
Set-SPSite
Set-SPSiteAdministration
Set-SPSiteSubscriptionConfig
Set-SPSubscriptionSettingsServiceApplication
Set-SPUser
Set-SPWebApplication
Set-SPWeb
Export-SPSiteSubscriptionSettings
Import-SPSiteSubscriptionSettings

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

State Service とセッション状態のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

セッション状態と State Service をサポートするための Windows PowerShell コマンドレットがあります。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
<code>Disable-SPSessionStateService</code>
<code>Dismount-SPStateServiceDatabase</code>
<code>Enable-SPSessionStateService</code>
<code>Get-SPSessionStateService</code>
<code>Get-SPStateServiceApplication</code>
<code>Get-SPStateServiceApplicationProxy</code>
<code>Get-SPStateServiceDatabase</code>
<code>Initialize-SPStateServiceDatabase</code>
<code>Mount-SPStateServiceDatabase</code>
<code>New-SPStateServiceApplication</code>
<code>New-SPStateServiceApplicationProxy</code>
<code>New-SPStateServiceDatabase</code>
<code>Remove-SPStateServiceDatabase</code>
<code>Resume-SPStateServiceDatabase</code>
<code>Set-SPSessionStateService</code>
<code>Set-SPStateServiceApplication</code>
<code>Set-SPStateServiceApplicationProxy</code>
<code>Set-SPStateServiceDatabase</code>
<code>Suspend-SPStateServiceDatabase</code>

StateServiceCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell for SharePoint Server 2010 Beta \(英語\)](#)」
(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clid=0x411>) (英語) を参照してください。

タイマー ジョブのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームのタイマー ジョブを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Disable-SPTimerJob
Enable-SPTimerJob
Get-SPTimerJob
Set-SPTimerJob
Start-SPTimerJob

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

アップグレードと移行のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

以前のバージョンの Microsoft SharePoint Server 2010 からのアップグレードの実行に役立つ Windows PowerShell コマンドレットを使用できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Test-SPContentDatabase

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

User Profile Service のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Microsoft SharePoint Server 2010 では、User Profile Service を使用してユーザー情報を格納および処理します。この情報は、ユーザーごとのユーザー プロファイル プロパティのコレクションとして格納されます。個人用設定関連の各種機能やひとの検索でユーザー情報を使用するには、事前にユーザー情報をユーザー プロファイル ストアにインポートする必要があります。これらのプロパティは、基幹業務アプリケーションおよびディレクトリ サービス (主に Active Directory ディレクトリ サービスおよびライトウェイト ディレクトリ アクセス プロトコル (LDAP)) からインポートできます。

SharePoint Server 2010 の新機能として、ソーシャル タグ、専門知識タグ、およびプロファイルの同期があります。

SharePoint Server 2010 には、ソーシャル タグと専門知識タグの格納、およびそれらのタグとユーザーのプロファイルとの関連付けを行うための企業全体のリポジトリがあります。管理者は、サイトのアイテムへのタグ付けを行えるユーザーの管理、使用できるタグの決定、および特定の日付または特定のユーザー プロファイル ID に基づくタグの削除を実行できます。タグ付けは Managed Metadata Service により行い、UI または Windows PowerShell コマンドレットを使用して有効にできます。

プロファイルの同期では、SharePoint プロファイル ストアのデータを、企業内のディレクトリ サービス (Active Directory や LDAP) に含まれているプロファイル情報と同期します。適切なディレクトリ サービスへの接続をセットアップした後で、プロファイルの同期を定期的に行うようにスケジュールできます。

User Profile Service の Windows PowerShell コマンドレットを使用して、User Profile Service とプロファイル タグの作成と構成、および User Profile Service のアクセス許可とすべてのグローバル設定の構成を実行できます。

コマンドレット名	説明
Add-SPSiteSubscriptionProfileConfig	User Profile Service アプリケーションに新しいサイト購読を追加します。
Get-SPProfileServiceApplicationSecurity	アクセス権情報と ID 情報を返します。
Move-SPProfileManagedMetadataProperty	複数文字列値を用語セットに移動します。
New-SPProfileServiceApplication	ファームに User Profile Service アプリケーションを追加します。

コマンドレット名	説明
New-SPPProfileServiceApplicationProxy	ローカル ファームで User Profile Service アプリケーション プロキシを作成します。
Remove-SPSiteSubscriptionProfileConfig	User Profile Service アプリケーションからサイト購読を削除します。
Remove-SPSocialItemByDate	タグ、メモ、または評価を削除します。
Set-SPPProfileServiceApplication	User Profile Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPPProfileServiceApplicationProxy	User Profile Service アプリケーションのプロキシのプロパティを設定します。
Set-SPPProfileServiceApplicationSecurity	アクセス権情報と ID 情報を設定します。
Set-SPSiteSubscriptionProfileConfig	サイト購読のパラメーターを設定します。
Update-SPPProfilePhotoStore	Microsoft SharePoint Server 2010 との互換性を持たせるためにプロファイル写真ストアを更新します。

次の表に、SharePoint 2010 Administration Toolkit に含まれる User Profile Replication Engine の一部として追加されたコマンドレットを示します。

コマンドレット名	説明
Get-SPPProfilePropertyCollection	すべてのユーザー プロファイルのプロパティを取得します。
Start-SPPProfileServiceFullReplication	選択されたすべてのユーザー プロファイル プロパティを、ソースの User Profile Service アプリケーションから複製先の User Profile Service アプリケーションに複製します。
Start-SPPProfileServiceRecoveryReplication	完全なプロファイル複製で複製されなかったユーザー プロファイルを復旧します。
Start-SPPProfileServiceIncrementalReplication	選択されたプロファイル プロパティの変更をソースの User Profile Service アプリケーションから複製先の User Profile Service アプリケーションに複製します。
Stop-SPPProfileServiceIncrementalReplication	プロファイルの増分複製を停止します。

詳細については、「[SharePoint 2010 Administration Toolkit \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

Visio Graphics Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Visio Graphics Service は Microsoft SharePoint Server 2010 のサービスの 1 つです。ユーザーはこのサービスを使用して、発行済みの Visio 図面を表示できます。また、サポートされているデータソースに接続された発行済みの Visio 図面を更新することもできます。

Visio Graphics Service のすべての設定では、UI 設定の有無にかかわらず、バックアップと復元がサポートされます。つまり、すべてのグローバル設定でバックアップ操作と復元操作がサポートされます。

Visio Graphics Service の Windows PowerShell 機能を使用すると、新しいインスタンスの準備、使用可能なデータソースの管理と構成、安全なデータプロバイダーの一覧の管理と構成、およびサービスのすべてのグローバル設定の構成を行うことができます。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Get-SPVisioExternalData
Get-SPVisioPerformance
Set-SPVisioPerformance
Get-SPVisioSafeDataProvider
New-SPVisioSafeDataProvider
Remove-SPVisioSafeDataProvider
Set-SPVisioSafeDataProvider
Get-SPVisioServiceApplication
New-SPVisioServiceApplication
Set-SPVisioServiceApplication
Get-SPVisioServiceApplicationProxy
New-SPVisioServiceApplicationProxy

VisioServicesCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell for SharePoint Server 2010 \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clid=0x411>) (英語) を参照してください。

Web Analytics のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Web Analytics Service は Microsoft SharePoint Server 2010 のサービス アプリケーションで、サイト利用状況の統計の実行およびブラウザー内でのレポートに使用できます。

Windows PowerShell 機能を使用すると、Web Analytics Service の準備、サービス アプリケーション、記憶域設定、およびクォータの管理と構成、サービス アプリケーションのグローバル設定の構成を行うことができます。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名	説明
Get-WebAnalyticsServiceApplication	
New-WebAnalyticsServiceApplication	
Set-WebAnalyticsServiceApplication	
New-WebAnalyticsServiceApplicationProxy	

WebAnalyticsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

Web アプリケーションのコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームの Web アプリケーションを管理できます。

コマンドレット名	説明
Get-SPAlternateURL	指定した一連の条件に一致するすべての代替 URL を返します。
Get-SPMobileMessagingAccount	指定した Web アプリケーションのモバイル メッセージ アカウントを取得します。
Install-SPApplicationContent	既存の Web アプリケーション フォルダーに共有アプリケーション データをコピーします。
New-SPAlternateUrl	指定した Web アプリケーション領域またはリソースの新しいパブリック URL または内部 URL を作成します。
Remove-SPAlternateUrl	指定した代替 URL を完全に削除します。
Set-SPAlternateUrl	指定した代替 URL を構成します。
Set-SPMobileMessagingAccount	指定したモバイル メッセージ アカウントを構成します。

Word Services のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Word Services は、サーバー上でのドキュメントの自動変換に使用できる Microsoft SharePoint Server 2010 の新機能です。

Windows PowerShell 機能を使用して、Word Services を最初から準備したり、以前のバックアップの設定を使用して新しいインスタンスを準備したり、マクロとクエリの設定を構成および管理したり、サービスのグローバル設定を構成したりできます。

Beta では、次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名	説明
New-SPWordConversionServiceApplication	
Set-SPWordConversionServiceApplication	

WordServicesCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

ワークフロー管理のコマンドレット (SharePoint Server 2010)

Windows PowerShell コマンドレットを使用して Microsoft SharePoint Server 2010 ファームのワークフローを管理できます。

次のコマンドレットを使用できます。

コマンドレット名
Get-SPWorkflowConfig
Set-SPWorkflowConfig
Get-SPDesignerSettings
Set-SPDesignerSettings

SharePointProductsCmdlets.chm ファイルをダウンロードするには、「[Windows PowerShell compiled Help for SharePoint Server 2010 \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=179124&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

SharePoint Server 2010 Windows PowerShell コマンドレットの索引

この記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 に含まれている Windows PowerShell コマンドレットを動詞順および名詞順に並べた一覧を示します。

この記事の内容:

- [動詞順に表示](#)
- [名詞順に表示](#)

動詞順に並べた SharePoint Server 2010 コマンドレット

コマンドレット名	説明
Add-SPClaimTypeMapping	信頼できる Security Token Service (STS) ID プロバイダーに要求のマッピングを追加します。
Add-SPDiagnosticsPerformanceCounter	パフォーマンス カウンターのインスタンスを追加します。
Add-SPInfoPathUserAgent	ファームにユーザー エージェントを追加します。
Add-SPServiceApplicationProxyGroupMember	サービス アプリケーション プロキシ グループにメンバーを追加します。
Add-SPShellAdmin	指定したデータベースの SharePoint_Shell_Access ロールにユーザーを追加します。
Add-SPSiteSubscriptionFeaturePackMember	SharePoint 機能セットに機能を追加します。
Add-SPSiteSubscriptionProfileConfig	User Profile Service アプリケーションに新しいサイト

	購読を追加します。
Add-SPSolution	ファームに SharePoint ソリューション パッケージをアップロードします。
Add-SPUserSolution	ソリューション ギャラリーに新規のセキュリティで保護されたソリューションをアップロードします。
Backup-SPConfigurationDatabase	ファーム レベルの構成のみのバックアップを実行します。
Backup-SPFarm	個別のデータベース、 Web アプリケーション、またはファーム全体のバックアップを作成します。
Backup-SPSite	サイト コレクションのバックアップを実行します。
Clear-SPLogLevel	Windows のトレース ログとイベント ログのレベルをそれぞれの既定の値にリセットします。
Clear-SPMetadataWebServicePartitionData	Metadata Web Service アプリケーションのサイト購読のすべてのデータを削除します。
Clear-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーション ID のすべての信頼できる場所を削除します。
Clear-SPSecureStoreCredentialMapping	Secure Store Service アプリケーションから資格情報マッピングを削除します。
Clear-SPSecureStoreDefaultProvider	Secure Store プロバイダーを削除します。
Clear-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	指定したパーティションの Business Data Connectivity メタデータ ストアからすべてのデータを削除します。

	°
Connect-SPConfigurationDatabase	ローカル サーバー コンピューターをファームに接続します。
Copy-SPBusinessDataCatalogAclToChildren	Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトの権限のセットを子オブジェクトにコピーします。
Disable-SPBusinessDataCatalogEntity	Business Data Connectivity メタデータ ストア内の外部コンテンツ タイプを無効にします。
Disable-SPFeature	インストールした SharePoint 機能を特定の範囲で無効にします。
Disable-SPInfoPathFormTemplate	指定したサイト コレクションの InfoPath 2010 フォーム テンプレートを無効にします。
Disable-SPSessionStateService	ファームで Session State Service を無効にします。
Disable-SPSingleSignOn	ファーム サーバーでシングル サインオン (SSO) サービスを無効にします。
Disable-SPTimerJob	タイマー ジョブを無効にします。
Disable-SPWebApplicationHttpThrottling	Web アプリケーションのネットワーク調整を無効にします。
Disconnect-SPConfigurationDatabase	ローカル サーバー コンピューターをファームから切断します。
Dismount-SPContentDatabase	現在コンテンツ データベースが関連付けられている Web アプリケーションからコンテンツ データベースを切断します。

Dismount-SPStateServiceDatabase	Microsoft SQL Server データベースから State Service データベースを削除せずに State Service データベースとの関連付けをファームから削除します。
Enable-SPBusinessDataCatalogEntity	Business Data Connectivity メタデータ ストアの外部コンテンツ タイプを有効にします。
Enable-SPFeature	インストールした SharePoint 機能を特定の範囲で有効にします。
Enable-SPInfoPathFormTemplate	指定したサイト コレクションで InfoPath 2010 フォーム テンプレートを有効にします。
Enable-SPSessionStateService	セッション状態データベースを作成し、 Session State Service を有効にします。
Enable-SPTimerJob	タイマー ジョブを有効にします。
Enable-SPWebApplicationHttpThrottling	Web アプリケーションのネットワーク調整を有効にします。
Export-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルをエクスポートします。
Export-SPEnterpriseSearchTopology	既存の検索トポロジをエクスポートします。
Export-SPInfoPathAdministrationFiles	SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトに InfoPath 2010 フォーム テンプレートを保存し、.udcx ファイルを .cab ファイルに保存します。
Export-SPMetadataWebServicePartitionData	サイト購読の Metadata Web Service からデータをエク

	サポートします。
Export-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	パーティションに関連付けられた Business Data Connectivity メタデータ ストアからすべてのデータをエクスポートします。
Export-SPSiteSubscriptionSettings	サイト購読データのバックアップ ファイルを作成します。
Export-SPWeb	サイト コレクション、 Web アプリケーション、リスト、またはライブラリをエクスポートします。
Get-SPAccessServiceApplication	1 つの Access Services アプリケーションまたは Access Services アプリケーションのコレクションを返します。
Get-SPAlternateURL	特定の条件セットに一致するすべての代替 URL を返します。
Get-SPAuthenticationProvider	認証プロバイダーを返します。
Get-SPBackupHistory	バックアップ操作と復元操作の履歴を返します。
Get-SPBrowserCustomerExperienceImprovementProgram	ブラウザのカスタマーエクスペリエンス向上プログラムの現在のオプトイン状態を返します。
Get-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトを返します。
Get-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig	Business Data Connectivity Service アプリケーションのスロットル構成を返します。
Get-SPCertificateAuthority	SharePoint の証明機関 (CA)

	を返します。
Get-SPClaimProvider	クレーム プロバイダーを返します。
Get-SPClaimProviderManager	クレーム プロバイダー マネージャーを返します。
Get-SPContentDatabase	1 つ以上のコンテンツ データベースを返します。
Get-SPContentDeploymentJob	1 つのコンテンツ展開ジョブまたはコンテンツ展開ジョブのコレクションを返します。
Get-SPContentDeploymentPath	1 つのコンテンツ展開パスまたはコンテンツ展開パスのコレクションを返します。
Get-SPCustomLayoutsPage	カスタム レイアウト ページへのマッピングを返します。
Get-SPDatabase	データベースのすべてのプロパティを取得します。
Get-SPDataConnectionFile	1 つのデータ接続ファイルまたはデータ接続ファイルのコレクションを返します。
Get-SPDataConnectionFileDependent	ユニバーサル データ接続に依存するサーバー上の展開したフォームを返します。
Get-SPDesignerSettings	Microsoft SharePoint Designer 2010 の機能を表示します。
Get-SPDiagnosticConfig	ファームの ULS 診断構成値を取得します。
Get-SPDiagnosticsPerformanceCounter	パフォーマンス カウンターのコレクションを返します。
Get-SPDiagnosticsProvider	診断プロバイダーを返しま

	す。
Get-SPEnterpriseSearchAdministrationComponent	Search Service アプリケーションの管理コンポーネントを返します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlComponent	共有検索アプリケーションのクロール コンポーネントを返します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	クロール コンテンツ ソースを返します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector	CustomConnector オブジェクトの種類を返します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	クロール ストアを返します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlExtension	コンテンツ インデックスに含めるファイルの種類を返します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlMapping	検索アプリケーションのクロール マッピングを返します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlRule	クロール ルールにアクセスします。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	クロール トポロジを返します。
Get-SPEnterpriseSearchExtendedClickThroughExtractorJobDefinition	SharePoint Search Service アプリケーションの特定の FAST Search のクリックスルー エクストラクター ジョブのインスタンスを表すオブジェクトを取得します。
Get-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	Search Service アプリケーションのプロパティの値を返します。
Get-SPEnterpriseSearchExtendedQueryProperty	SharePoint を SharePoint サービスの FAST Search に接続するために使用されるプロパティを返します。

Get-SPEnterpriseSearchIndexPartition	クエリ トポロジのインデックス パーティションを返します。
Get-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase	言語リソース語句を返します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	クロールされたプロパティカテゴリを返します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty	クロールされたプロパティを返します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	管理プロパティを返します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	管理プロパティ マッピングの現在の状態を返します。
Get-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	プロパティ ストアを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsService	検索マネージャー サービスを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance	サービス マネージャー サービス インスタンスを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceProxy	検索マネージャー サービス プロキシを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	優先するページを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリ コンポーネントを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryDemoted	降格対象サイト ルールを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	キーワード用語を返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryScope	クエリ結果範囲を返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	共有範囲ルールを返します。

Get-SPEnterpriseSearchQuerySuggestionCandidates	クエリのリストを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryTopology	クエリ トポロジを返します。
Get-SPEnterpriseSearchRankingModel	ランク付けモデルを返します。
Get-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer	カスタム セキュリティ トリマーを返します。
Get-SPEnterpriseSearchService	ファームの Search Service を返します。
Get-SPEnterpriseSearchServiceApplication	ファームの Search Service アプリケーションを返します。
Get-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	Search Service アプリケーション プロキシを返します。
Get-SPEnterpriseSearchServiceInstance	ファームの Search Service インスタンスを返します。
Get-SPEnterpriseSearchSiteHitRule	共有サイト ヒット ルールを返します。
Get-SPExcelBlockedFileType	読み込みが禁止されている 1 つのファイルの種類またはファイルの種類のリストを返します。
Get-SPExcelDataConnectionLibrary	1 つの信頼できるデータ接続ライブラリまたは信頼できるデータ接続ライブラリのリストを返します。
Get-SPExcelDataProvider	1 つの安全なデータ プロバイダーまたは安全なデータ プロバイダーのリストを返します。
Get-SPExcelFileLocation	1 つの信頼できるファイル保存場所または信頼できるファイル保存場所のリストを返します。

Get-SPExcelServiceApplication	SPExcelServiceApplication オブジェクトを返します。
Get-SPExcelUserDefinedFunction	1 つのユーザー定義関数またはユーザー定義関数のコレクションを返します。
Get-SPFarm	ローカル SharePoint ファームを返します。
Get-SPFarmConfig	ローカル ファームの 1 つのグローバル プロパティまたはグローバル プロパティのコレクションを返します。
Get-SPFeature	特定の範囲に基づいて SharePoint 機能を返します。
Get-SPHelpCollection	ヘルプ コレクション ファイルを返します。
Get-SPInfoPathFormsService	ファーム内の SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services の設定を返します。
Get-SPInfoPathFormTemplate	InfoPath 2010 フォーム テンプレートを返します。
Get-SPInfoPathUserAgent	ファームの 1 つのユーザーエージェントまたは現在定義されているすべてのユーザー エージェントを返します。
Get-SPInfoPathWebServiceProxy	Web アプリケーションの Web プロキシ設定を返します。
Get-SPLogEvent	統合ログ サービス (ULS) のトレース ログの結果を返します。
Get-SPLogLevel	オブジェクトのリストまたは診断レベルを返します。
Get-SPManagedAccount	構成データベースに登録さ

	れているアカウントを取得します。
Get-SPManagedPath	特定の条件に一致するすべての管理パスを返します。
Get-SPMetadataServiceApplication	1つのサービス アプリケーションのプロパティまたはサービス アプリケーションのコレクションのプロパティを返します。
Get-SPMetadataServiceApplicationProxy	1つのサービス アプリケーション プロキシのプロパティまたはサービス アプリケーション プロキシのコレクションのプロパティを返します。
Get-SPMobileMessagingAccount	指定した Web アプリケーションのモバイル メッセージング アカウントを取得します。
Get-SPPerformancePointSecureDataValues	無人サービス アカウントの設定を表示します。
Get-SPPerformancePointServiceApplication	PerformancePoint Service アプリケーションのオブジェクトとプロパティを返します。
Get-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーションの信頼できる場所オブジェクトとプロパティを返します。
Get-SPProcessAccount	システム アカウントまたは管理アカウントを返します。
Get-SPProduct	ファームにインストールされている SharePoint 関連製品のリストと各製品に対してインストールされているすべての更新プログラムのバージョンを返します。

Get-SPProfileServiceApplicationSecurity	アクセス権情報と ID 情報を返します。
Get-SPSearchService	Search Service を返します。
Get-SPSearchServiceInstance	Search Service のインスタンスを返します。
Get-SPSecureStoreApplication	Secure Store アプリケーションを返します。
Get-SPSecurityTokenServiceConfig	ファームの Security Token Service (STS) を返します。
Get-SPServer	特定の ID に一致するファーム内の 1 つ以上のサーバーを返します。
Get-SPServiceApplication	指定したサービス アプリケーションを返します。
Get-SPServiceApplicationEndpoint	サービス アプリケーションのエンドポイントを返します。
Get-SPServiceApplicationPool	指定したインターネットインフォメーション サービス (IIS) アプリケーションプールを返します。
Get-SPServiceApplicationProxy	指定したサービス アプリケーション プロキシのインスタンスを返します。
Get-SPServiceApplicationProxyGroup	指定したサービス アプリケーションのプロキシグループを返します。
Get-SPServiceApplicationSecurity	サービス アプリケーションの SObjectSecurity オブジェクトを返します。
Get-SPServiceContext	サービス コンテキストを返します。
Get-SPServiceHostConfig	共通 Web サービスの設定を返します。
Get-SPServiceInstance	特定のサーバーまたはファ

	ーム全体のサービス インスタンスを返します。
Get-SPSessionStateService	タイムアウトとデータベースの設定を含む Session State Service のプロパティを返します。
Get-SPShellAdmin	SharePoint_Shell_Access ロールを持っているすべてのユーザーの名前を返します。
Get-SPSite	特定の条件に一致するすべてのサイト コレクションを返します。
Get-SPSiteAdministration	ファーム管理者がアクセスできない可能性のあるサイト コレクションに関する特定の情報を表示するためにファーム管理者が使用できるサイト管理オブジェクトを返します。
Get-SPSiteSubscription	特定の URL のサイト購読またはローカル ファーム内のすべてのサイト購読を返します。
Get-SPSiteSubscriptionConfig	サイト購読の構成プロパティを返します。
Get-SPSiteSubscriptionDiscoveryHub	サイト購読の電子情報開示ハブを表示します。
Get-SPSiteSubscriptionDiscoverySearchScope	指定したサイト コレクションの電子情報開示ハブの検索範囲を表示します。
Get-SPSiteSubscriptionFeaturePack	使用可能な SharePoint 機能セットまたは特定のサイト購読に割り当てられている機能セットを取得します。
Get-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	Metadata Service アプリケーションのサイト購読構成の設定を返します。

Get-SPSolution	指定した SharePoint ソリューションを返します。
Get-SPStateServiceApplication	ファームの State Service アプリケーションを返します。
Get-SPStateServiceApplicationProxy	ファームの State Service アプリケーション プロキシを返します。
Get-SPStateServiceDatabase	State Service データベースを返します。
Get-SPTaxonomySession	TaxonomySession オブジェクトを返します。
Get-SPTimerJob	タイマー ジョブを返します。
Get-SPTopologyServiceApplication	現在のファームのトポロジ サービス アプリケーションのプロパティを表示します。
Get-SPTopologyServiceApplicationProxy	トポロジ サービス アプリケーション プロキシを取得します。
Get-SPTrustedIdentityTokenIssuer	ID プロバイダーを返します。
Get-SPTrustedRootAuthority	信頼できるルート証明機関を返します。
Get-SPTrustedServiceTokenIssuer	ファームの信頼性を表すオブジェクトを返します。
Get-SPUsageApplication	指定した利用状況アプリケーションを返します。
Get-SPUsageDefinition	利用状況定義オブジェクトを返します。
Get-SPUsageService	Usage Service を返します。
Get-SPUser	特定の検索条件に一致する 1 つ以上のユーザー アカウントを返します。

Get-SPUserSolution	指定したセキュリティで保護されたソリューションを返します。
Get-SPVisioExternalData	Visio Services アプリケーションの外部データ接続の設定を返します。
Get-SPVisioPerformance	Visio Services アプリケーションのパフォーマンスに対する Visio Services の設定を返します。
Get-SPVisioSafeDataProvider	Visio Services アプリケーションの安全なデータプロバイダーの設定を返します。
Get-SPVisioServiceApplication	1 つの Visio Services アプリケーションのプロパティまたは Visio Services アプリケーションのコレクションのプロパティを返します。
Get-SPVisioServiceApplicationProxy	1 つの Visio Services アプリケーションプロキシのプロパティまたは Visio Services アプリケーションプロキシのコレクションのプロパティを返します。
Get-SPWeb	特定の条件に一致するすべてのサブサイトを返します。
Get-SPWebAnalyticsServiceApplication	Web Analytics Service アプリケーションの設定を返します。
Get-SPWebAnalyticsServiceApplicationProxy	新しい Web Analytics Service アプリケーションプロキシを取得します。
Get-SPWebApplication	特定の条件に一致するすべての Web アプリケーションを返します。

Get-SPWebApplicationHttpThrottlingMonitor	Web アプリケーションのネットワーク調整のすべてのカウンターを読み込みます。
Get-SPWebPartPack	指定した範囲にインストールされた Web パーツ パッケージを返します。
Get-SPWebTemplate	特定の ID に一致するグローバルにインストールされたサイト テンプレートをすべて表示します。
Get-SPWorkflowConfig	指定した Web アプリケーションのワークフロー設定を返します。
Grant-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	指定した Business Data Connectivity メタデータストアのメタデータ オブジェクトのプリンシパルに権限を与えます。
Grant-SPObjectSecurity	SObjectSecurity オブジェクトに新しいセキュリティプリンシパルを追加します。
Grant-SPServiceApplication	ユーザー アカウントにサービス アプリケーションへのアクセス権を与えます。
Import-SPBusinessDataCatalogDotNetAssembly	パーティションの Business Data Connectivity メタデータストアに関連付けられたデータをインポートします。
Import-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルをインポートします。
Import-SPEnterpriseSearchTopology	XML ファイルからトポロジをインポートし、有効にします。

Import-SPInfoPathAdministrationFiles	SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトにある InfoPath 2010 フォーム テンプレートと .udcx ファイルをインポートします。
Import-SPMetadataWebServicePartitionData	サイト購読のデータを復元します。
Import-SPSiteSubscriptionSettings	購読サイト設定のバックアップを特定の購読 ID に復元します。
Import-SPWeb	サイト コレクション、Web アプリケーション、リスト、またはライブラリをインポートします。
Initialize-SPResourceSecurity	ローカル サーバーにリソース セキュリティを適用します。
Initialize-SPStateServiceDatabase	状態データベース スキーマを State Service データベースにインストールします。
Install-SPApplicationContent	既存の Web アプリケーション フォルダーに共有アプリケーション データをコピーします。
Install-SPDataConnectionFile	指定されたデータ接続ファイルをインストールします。
Install-SPFeature	Feature.xml ファイルを使用して SharePoint 機能をインストールします。
Install-SPHelpCollection	指定されたヘルプのサイト コレクション ファイルを現在のファームにインストールします。
Install-SPInfoPathFormTemplate	ファームに InfoPath 2010 フォーム テンプレートをインストールします。

Install-SPService	サービスをファームにインストールし、準備します。
Install-SPSolution	インストールした SharePoint ソリューションをファームで展開します。
Install-SPUserSolution	サイト コレクション内のセキュリティで保護されたソリューションを有効にします。
Install-SPWebPartPack	指定した Web パーツ パッケージを指定した場所にインストールします。
Install-SPWebTemplate	特定のサイト テンプレートをインストールします。
Merge-SPLogFile	すべてのファーム コンピューターのトレース ログ エントリをローカル コンピューター上の 1 つのログ ファイルにまとめます。
Mount-SPContentDatabase	既存のコンテンツ データベースをファームに接続します。
Mount-SPStateServiceDatabase	既存の State Service データベースをファームに接続します。
Move-SPBlobStorageLocation	リモート BLOB ストレージ (RBS) を使用して Windows SharePoint Services 3.0 データベースをコピーします。
Move-SPProfileManagedMetadataProperty	複数文字列値を用語セットに移動します。
Move-SPSite	1 つのコンテンツ データベースから別のコンテンツ データベースへサイト コレクションを移動します。
Move-SPUser	SharePoint 2010 製品のユーザー アカウントを移行し

	ます。
New-SPAccessServiceApplication	Access Services アプリケーションの新しいインスタンスを作成します。
New-SPAlternateUrl	指定した Web アプリケーション ゾーンまたは Web アプリケーション リソースの新しいパブリック URL または内部 URL を作成します。
New-SPAuthenticationProvider	ファーム内に新しい認証プロバイダーを作成します。
New-SPBusinessDataCatalogServiceApplication	ファーム内に新しい Business Data Connectivity サービス アプリケーションを作成します。
New-SPBusinessDataCatalogServiceApplicationProxy	ファーム内に新しい Business Data Connectivity サービス アプリケーション プロキシを作成します。
New-SPCentralAdministration	新しい SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションを作成します。
New-SPClaimProvider	新しいクレーム プロバイダーをファームに登録します。
New-SPClaimsPrincipal	新しいクレーム プリンシパルを作成します。
New-SPClaimTypeMapping	Security Token Service (STS) ID プロバイダーのクレーム マッピング ルールを作成します。
New-SPConfigurationDatabase	新しい構成データベースを作成します。
New-SPContentDatabase	新しいコンテンツ データベースを作成し、指定した Web アプリケーションにそ

	れを接続します。
New-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブを作成します。
New-SPContentDeploymentPath	新しいコンテンツ展開パスを作成します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlComponent	クエリ トポロジにクエリ コンポーネントを追加します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	共有検索アプリケーションの新しいクロール コンテンツ ソースを作成します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector	カスタム クローリングの プロトコルを登録します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	Search Service アプリケーションに追加できるクロール データベースを作成します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlExtension	共有検索アプリケーションに拡張ルールを追加します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlMapping	共有検索アプリケーションのクロール マッピング ルールを作成します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlRule	新しいクロール ルールを作成します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	共有検索アプリケーションにクロール トポロジを追加します。
New-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	新しい拡張コネクタのプロパティを追加します。
New-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase	共有検索アプリケーションに言語リソース語句を追加します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	Search Service アプリケーションにクロールされたプロパティ カテゴリを追加

	します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty	検索アプリケーションのクロールされたプロパティカテゴリにクロールされたプロパティを追加します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	共有検索アプリケーションに管理プロパティを追加します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	共有検索アプリケーションに管理プロパティ マッピングを追加します。
New-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	Search Service アプリケーションで使用する新しいプロパティストアを作成します。
New-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	共有検索アプリケーションに優先するページを追加します。
New-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリ トポロジにクエリコンポーネントを追加します。
New-SPEnterpriseSearchQueryDemoted	共有検索アプリケーションに降格対象サイトルールを追加します。
New-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	共有検索アプリケーションにキーワード用語を追加します。
New-SPEnterpriseSearchQueryScope	共有検索アプリケーションにクエリ結果範囲を追加します。
New-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	クエリ範囲に共有範囲ルールを追加します。
New-SPEnterpriseSearchQueryTopology	共有検索アプリケーションにクエリ トポロジを追加します。
New-SPEnterpriseSearchRankingModel	共有検索アプリケーションにランク付けモデルを追加

	します。
New-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer	共有検索アプリケーションにカスタムセキュリティトリマーを追加します。
New-SPEnterpriseSearchServiceApplication	ファームに Search Service アプリケーションを追加します。
New-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	ファームに新しい検索アプリケーションプロキシを追加します。
New-SPEnterpriseSearchSiteHitRule	検索アプリケーション用の新しいサイトヒットルールを追加します。
New-SPExcelBlockedFileType	Excel Services アプリケーションによって読み込みが禁止されるファイルの種類のリストにファイルの種類を追加します。
New-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションに新しいデータ接続ライブラリを追加します。
New-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションに新しい安全なデータプロバイダーを追加します。
New-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションに新しい信頼できる場所を追加します。
New-SPExcelServiceApplication	Excel Services アプリケーションの新しいインスタンスを作成します。
New-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションに新しいユーザー定義関数を追加します。
New-SPLogFile	新しいログファイルを作成します。
New-SPManagedAccount	新しい管理アカウントを登

	録します。
New-SPManagedPath	すべてのホスト ヘッダー サイト コレクションについて特定の Web アプリケーション用の新しい管理パスを作成します。
New-SPMetadataServiceApplication	新しい Metadata Service アプリケーションを作成します。
New-SPMetadataServiceApplicationProxy	新しい Metadata Service アプリケーション プロキシを作成します。
New-SPPerformancePointServiceApplication	PerformancePoint Services 用の新しいサービス アプリケーションを作成します。
New-SPPerformancePointServiceApplicationProxy	PerformancePoint Services アプリケーション用のプロキシを作成します。
New-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーション用の新しい信頼できる場所を作成します。
New-SPProfileServiceApplication	ファームに User Profile Service アプリケーションを追加します。
New-SPProfileServiceApplicationProxy	ローカル ファームで User Profile Service アプリケーション プロキシを作成します。
New-SPSecureStoreApplication	新しい Secure Store アプリケーションを作成します。
New-SPSecureStoreApplicationField	新しい Secure Store アプリケーションのフィールド オブジェクトを作成します。
New-SPSecureStoreServiceApplication	ファームで新しい Secure Store Service アプリケーション

	ョンを作成します。
New-SPSecureStoreServiceApplicationProxy	ファームで新しい Secure Store Service アプリケーション プロキシを作成します。
New-SPSecureStoreTargetApplication	新しい Secure Store ターゲット アプリケーションを作成します。
New-SPServiceApplicationPool	新しい Web サービス アプリケーション プールを作成します。
New-SPServiceApplicationProxyGroup	新しいサービス アプリケーション プロキシ グループを作成します。
New-SPSite	指定した URL に新しいサイト コレクションを作成します。
New-SPSiteSubscription	新しいサイト購読を作成します。
New-SPSiteSubscriptionFeaturePack	サイト購読で使用可能な機能を制限するために使用できる新しい SharePoint 機能セットを作成します。
New-SPStateServiceApplication	新しい State Service アプリケーションを作成します。
New-SPStateServiceApplicationProxy	State Service アプリケーションのプロキシを作成します。
New-SPStateServiceDatabase	新しい State Service データベースを作成し、準備して、そこに状態データベース スキーマをインストールします。
New-SPSubscriptionSettingsServiceApplication	新しい Subscription Settings Service アプリケーションを作成します。

New-SPSubscriptionSettingsServiceApplicationProxy	Subscription Settings Service アプリケーションのアプリケーション プロキシを作成します。
New-SPTtrustedIdentityTokenIssuer	ファームで ID プロバイダーを作成します。
New-SPTtrustedRootAuthority	信頼できるルート証明機関を作成します。
New-SPTtrustedServiceTokenIssuer	SharePoint ファームで信頼関係を作成します。
New-SPUsageApplication	新しい利用状況アプリケーションを作成します。
New-SPUsageLogFile	現在のサーバー コンピューターで新しい利用状況ログ ファイルを開始します。
New-SPUser	指定された権限を持つ SharePoint サイトに既存のユーザーを追加します。
New-SPVisioSafeDataProvider	Visio Services アプリケーションに新しいデータ プロバイダーを追加します。
New-SPVisioServiceApplication	ファームに新しい Visio Services アプリケーションを追加します。
New-SPVisioServiceApplicationProxy	ファームに新しい Visio Services アプリケーション プロキシを追加します。
New-SPWeb	既存のサイト コレクションで新しいサイトを作成します。
New-SPWebAnalyticsServiceApplication	ファームに新しい Web Analytics Service アプリケーションを追加します。
New-SPWebAnalyticsServiceApplicationProxy	ファームに新しい Web Analytics Service アプリケーション プロキシを追加

	します。
New-SPWebApplication	ローカル ファーム内で新しい Web アプリケーションを作成します。
New-SPWebApplicationExtension	Web アプリケーションの新しいゾーン インスタンスを作成します。
New-SPWordConversionServiceApplication	ファームで Word Automation Services アプリケーションの新しいインスタンスを作成します。
Ping-SPEnterpriseSearchContentService	コンテンツ配信元に要求を送信します。
Publish-SPServiceApplication	ファーム外の指定したローカル サービス アプリケーションを共有します。
Receive-SPSharedServiceApplicationInfo	別のファームからサービス情報を受信するように、このファームを構成します。
Remove-SPAlternateUrl	指定した代替 URL を完全に削除します。
Remove-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルを削除します。
Remove-SPClaimProvider	クレーム プロバイダーを登録解除します。
Remove-SPClaimTypeMapping	Security Token Service (STS) ID プロバイダーのクレームの種類のマッピングのルールを削除します。
Remove-SPConfigurationDatabase	構成データベースを完全に削除します。
Remove-SPContentDatabase	コンテンツ データベースを削除します。
Remove-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブを削除します。
Remove-SPContentDeploymentPath	コンテンツ展開パスを削除

	します。
Remove-SPDiagnosticsPerformanceCounter	パフォーマンス カウンターのインスタンスを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlComponent	共有検索アプリケーションからクロール コンポーネントを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	検索アプリケーションから指定したクロール コンテンツ ソースを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector	CustomConnector オブジェクトを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	Search Service アプリケーションのクロール データベースのプロパティを設定します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlExtension	クロールできるファイルのリストからファイル名拡張子を削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlMapping	クロール マッピングを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlRule	クロール ルールを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	クロール トポロジを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	ExtendedConnector タイプの Search Service アプリケーションのプロパティを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase	共有検索アプリケーションから言語リソース語句を削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	クロールされたプロパティカテゴリを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	メタデータ管理プロパティを削除します。

Remove-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	管理プロパティからメタデータ マッピングを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	プロパティ ストアを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	優先するページを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリ コンポーネントを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryDemoted	降格対象サイト ルールを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	クエリ キーワードを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryScope	クエリ 範囲を削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	クエリ 結果範囲ルールを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryTopology	クエリ トポロジを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchRankingModel	ランク付けモデルを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer	カスタム セキュリティ トリマーを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchServiceApplication	Search Service アプリケーションを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	Search Service アプリケーション プロキシを削除します。
Remove-SPEnterpriseSearchSiteHitRule	サイト ヒット ルールを削除します。
Remove-SPExcelBlockedFileType	Excel Services アプリケーションで読み込みが禁止されているファイルの種類のリストからエントリを削除します。
Remove-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケー

	ションからデータ接続ライブラリを削除します。
Remove-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションからデータ プロバイダーを削除します。
Remove-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションから信頼できるファイル保存場所を削除します。
Remove-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションからユーザー定義関数を削除します。
Remove-SPInfoPathUserAgent	ユーザー エージェントを削除します。
Remove-SPManagedAccount	ファームから管理アカウントの登録を削除します。
Remove-SPManagedPath	指定したホスト ヘッダーまたは Web アプリケーションから指定した管理パスを削除します。
Remove-SPPerformancePointServiceApplication	ファームから PerformancePoint Services アプリケーションを削除します。
Remove-SPPerformancePointServiceApplicationProxy	PerformancePoint Services アプリケーションのプロキシを削除します。
Remove-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーションから 1 つの信頼できる場所を削除します。
Remove-SPSecureStoreApplication	Secure Store アプリケーションを削除します。
Remove-SPServiceApplication	ローカル サーバー上の指定したサービス アプリケーションを削除します。
Remove-SPServiceApplicationPool	指定した Web サービス ア

	アプリケーション プールを完全に削除します。
Remove-SPServiceApplicationProxy	指定したサービス アプリケーション プロキシを削除します。
Remove-SPServiceApplicationProxyGroup	指定したサービス アプリケーション プロキシ グループを完全に削除します。
Remove-SPServiceApplicationProxyGroupMember	指定したサービス アプリケーション プロキシ グループから 1 つ以上のプロキシを削除します。
Remove-SPShellAdmin	SharePoint_Shell_Access ロールからユーザーを削除します。
Remove-SPSite	既存のサイト コレクションとすべてのサブサイトを完全に削除します。
Remove-SPSiteSubscription	サイト購読のセット用の Subscription Settings Service アプリケーションに保存されているデータを削除します。
Remove-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	パーティションの Business Data Connectivity メタデータ ストアを削除します。
Remove-SPSiteSubscriptionFeaturePack	サイト購読から SharePoint 機能セットを削除します。
Remove-SPSiteSubscriptionFeaturePackMember	指定された SharePoint 機能セットから機能定義を削除します。
Remove-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	サイト購読構成の設定を削除します。
Remove-SPSiteSubscriptionProfileConfig	User Profile Service アプリケーションからサイト購読を削除します。
Remove-SPSiteSubscriptionSettings	指定したサイト購読の

	Settings Service のデータを削除するか、孤立したデータを検索し、削除します。
Remove-SPSocialItemByDate	タグ、メモ、または評価を削除します。
Remove-SPSolution	ファームから SharePoint ソリューションを削除します。
Remove-SPSolutionDeploymentLock	サーバーのソリューション展開ロックを削除します。
Remove-SPStateServiceDatabase	State Service データベースを State Service アプリケーションから削除し、それを SQL Server から削除します。
Remove-SPTtrustedIdentityTokenIssuer	ファームから Security Token Service (STS) ID プロバイダーを削除します。
Remove-SPTtrustedRootAuthority	信頼できるルート証明機関を削除します。
Remove-SPTtrustedServiceTokenIssuer	ファームの信頼性を表すオブジェクトを削除します。
Remove-SPUsageApplication	ローカル ファームから利用状況アプリケーションを削除します。
Remove-SPUser	Web サイトからユーザーを削除します。
Remove-SPUserSolution	ソリューション ギャラリーからセキュリティで保護されたソリューションを削除します。
Remove-SPVisioSafeDataProvider	Visio Services アプリケーションからデータ プロバイダーを削除します。
Remove-SPWeb	指定した Web を完全に削除します。
Remove-SPWebApplication	指定した Web アプリケー

	ションを削除します。
Remove-SPWordConversionServiceJobHistory	Word Automation Services のジョブ履歴データベースからエントリを削除します。
Rename-SPServer	現在ファームに接続されているサーバーの名前を変更します。
Repair-SPManagedAccountDeployment	ローカル管理アカウントの資格情報の展開を修復します。
Restart-SPEnterpriseSearchQueryComponent	失敗したクエリ コンポーネントを再起動します。
Restore-SPEnterpriseSearchServiceApplication	検索アプリケーションのサードパーティのバックアップを復元します。
Restore-SPFarm	バックアップから 1 つ以上の項目を復元します。
Restore-SPSite	サイト コレクションを復元します。
Resume-SPEnterpriseSearchServiceApplication	中断された Search Service アプリケーションを再開します。
Resume-SPStateServiceDatabase	新しいデータ行の受け入れが行われるように、一時停止している State Service データベースを再開します。
Revoke-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	指定した Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトのプリンシパルに対する権限を無効にします。
Revoke-SPObjctSecurity	SPObjctSecurity オブジェクトからセキュリティ プリンシパルを削除します。
Revoke-SPServiceApplication	サービス アプリケーショ

	ンへのユーザーのアクセスを無効にします。
Set-SPAccessServiceApplication	既存の Access Services アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。
Set-SPAlternateUrl	指定した代替 URL を構成します。
Set-SPBrowserCustomerExperienceImprovementProgram	ブラウザーのカスタマーエクスペリエンス向上プログラムのオン/オフを切り替えます。
Set-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトのプロパティまたは属性の値を設定します。
Set-SPBusinessDataCatalogServiceApplication	ファームの Business Data Connectivity サービス アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。
Set-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig	Business Data Connectivity Service アプリケーションのスロットル構成を設定します。
Set-SPCentralAdministration	SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトのポートを設定します。
Set-SPClaimProvider	クレーム プロバイダーの登録を更新します。
Set-SPContentDatabase	SharePoint コンテンツ データベースのグローバル プロパティを設定します。
Set-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブのプロパティを設定します。
Set-SPContentDeploymentPath	コンテンツ展開パスのプロパティを設定します。

Set-SPCustomLayoutsPage	カスタム レイアウト ページの新しいパスをマップします。
Set-SPDataConnectionFile	データ接続ファイルのプロパティを設定します。
Set-SPDesignerSettings	Microsoft SharePoint Designer 2010 の機能を設定します。
Set-SPDiagnosticConfig	ファームの診断構成設定を設定します。
Set-SPDiagnosticsProvider	診断プロバイダーを有効にして、診断プロバイダーの保持ポリシーを更新します。
Set-SPEnterpriseSearchAdministrationComponent	Search Service アプリケーションの管理コンポーネントのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	共有検索アプリケーションのクロール コンテンツ ソースのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	Search Service アプリケーションのクロール データベースのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlRule	クロール ルールのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	共有検索アプリケーションのクロール トポロジのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	ExtendedConnector オブジェクトの値を設定します。
Set-SPEnterpriseSearchExtendedQueryProperty	SharePoint サービス固有のプロパティの FAST Search を設定します。
Set-SPEnterpriseSearchIndexPartition	クエリ トポロジのインデ

	ックスパーティションのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	共有検索アプリケーションのクロールされたプロパティカテゴリのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty	共有検索アプリケーションのメタデータのクロールされたプロパティのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	メタデータ管理プロパティのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	共有検索アプリケーションの管理プロパティマッピングのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	プロパティストアのプロパティを変更します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	共有検索アプリケーションの優先するページのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリコンポーネントのプロパティを変更します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	共有検索アプリケーションのキーワード用語のプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryScope	共有検索アプリケーションのクエリ結果範囲のプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	クエリ範囲の共有範囲ルールのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryTopology	共有検索アプリケーションのクエリトポロジのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchRankingModel	共有検索アプリケーション

	のランク付けモデルのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchService	ファームの Search Service のプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchServiceApplication	ファームの Search Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	Search Service アプリケーション プロキシのプロパティを設定します。
Set-SPEnterpriseSearchServiceInstance	Search Service インスタンスのプロパティを設定します。
Set-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションのデータ接続ライブラリのプロパティを設定します。
Set-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションの安全なデータ プロバイダーのプロパティを設定します。
Set-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションの信頼できるファイル保存場所のプロパティを設定します。
Set-SPExcelServiceApplication	Excel Services アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。
Set-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションのユーザー定義関数のプロパティを設定します。
Set-SPFarmConfig	ローカル ファームの 1 つのグローバル プロパティまたはグローバル プロパティのコレクションを設定します。

Set-SPInfoPathFormsService	SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services のパラメーターを設定します。
Set-SPInfoPathFormTemplate	InfoPath 2010 フォーム テンプレートのプロパティを設定します。
Set-SPInfoPathWebServiceProxy	既存の SharePoint Web サービス アプリケーションのパラメーターを設定します。
Set-SPLogLevel	カテゴリのセットのトレース レベルとイベント レベルを設定します。
Set-SPManagedAccount	管理アカウントを構成します。
Set-SPMetadataServiceApplication	Metadata Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPMetadataServiceApplicationProxy	Metadata Service アプリケーション プロキシのプロパティを設定します。
Set-SPMobileMessagingAccount	指定したモバイル メッセージング アカウントを構成します。
Set-SPPassPhrase	パスフレーズに新しい値を設定します。
Set-SPPerformancePointSecureDataValues	無人サービス アカウントのグローバル設定を設定します。
Set-SPPerformancePointServiceApplication	PerformancePoint Services アプリケーションのグローバルな実行時プロパティを設定します。
Set-SPProfileServiceApplication	User Profile Service アプリケーションのプロパティを設定します。

Set-SPProfileServiceApplicationProxy	User Profile Service アプリケーションのプロキシのプロパティを設定します。
Set-SPProfileServiceApplicationSecurity	アクセス権情報と ID 情報を設定します。
Set-SPSearchService	Search Service のプロパティを設定します。
Set-SPSearchServiceInstance	Search Service インスタンスのプロパティを設定します。
Set-SPSecureStoreApplication	Secure Store アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPSecureStoreDefaultProvider	Secure Store プロバイダーを設定または更新します。
Set-SPSecureStoreServiceApplication	ファームの Secure Store Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPSecurityTokenServiceConfig	SharePoint Security Token Service (STS) ID プロバイダーの設定を更新します。
Set-SPServiceApplication	サービス アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPServiceApplicationEndpoint	サービス アプリケーションのエンドポイントのホストを設定します。
Set-SPServiceApplicationPool	指定したアプリケーションプールの ID に使用されるアカウントを変更します。
Set-SPServiceApplicationSecurity	サービス アプリケーションの SObjectSecurity オブジェクトを更新します。
Set-SPServiceHostConfig	すべての Web サービスの 1 つ以上の共通設定を構成します。

Set-SPSessionStateService	State Service データベースとの通信に使用される資格情報を更新します。
Set-SPSite	指定したサイト コレクションを構成します。
Set-SPSiteAdministration	ファーム管理者が任意のサイト コレクションを構成できるようにします。
Set-SPSiteSubscriptionConfig	サイト購読の構成プロパティを設定します。
Set-SPSiteSubscriptionEdiscoveryHub	サイト購読の電子情報開示ハブのプロパティを設定します。
Set-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	指定した Metadata Service アプリケーションのサイト購読構成の設定を設定します。
Set-SPSiteSubscriptionProfileConfig	サイト購読のパラメーターを設定します。
Set-SPStateServiceApplication	State Service アプリケーションの名前を更新します。
Set-SPStateServiceApplicationProxy	State Service アプリケーションプロキシの名前を更新します。
Set-SPStateServiceDatabase	State Service データベースのプロパティを更新します。
Set-SPSubscriptionSettingsServiceApplication	Subscription Settings Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPTimerJob	タイマー ジョブの実行スケジュールを設定します。
Set-SPTopologyServiceApplication	ローカル ファームのトポロジ サービス アプリケーションのプロパティを設定します。

Set-SPTopologyServiceApplicationProxy	トポロジ サービス アプリケーションのプロキシ プロパティを設定します。
Set-SPTrustedIdentityTokenIssuer	Web アプリケーションの ID プロバイダーを設定します。
Set-SPTrustedRootAuthority	新しい信頼できるルート証明機関を作成します。
Set-SPTrustedServiceTokenIssuer	ファームとの信頼を更新します。
Set-SPUsageApplication	利用状況アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPUsageDefinition	利用状況プロバイダーの保持期間を設定します。
Set-SPUsageService	Usage Service のプロパティを設定します。
Set-SPUser	既存のユーザーのプロパティを構成します。
Set-SPVisioExternalData	Visio Services アプリケーションの外部データ接続に関連する設定を構成します。
Set-SPVisioPerformance	Visio Services アプリケーションのパフォーマンス プロパティを設定します。
Set-SPVisioSafeDataProvider	Visio Services アプリケーションの安全なデータ プロバイダーの説明を指定します。
Set-SPVisioServiceApplication	Visio Services アプリケーションの ServiceApplicationPool プロパティを設定します。
Set-SPWeb	指定したサブサイトを構成します。
Set-SPWebAnalyticsServiceApplication	Web Analytics Service アプリケーションのプロパティ

	を設定します。
Set-SPWebAnalyticsServiceApplicationProxy	Web Analytics Service アプリケーションの新しいプロキシを設定します。
Set-SPWebApplication	指定した Web アプリケーションを構成します。
Set-SPWebApplicationHttpThrottlingMonitor	指定した Web アプリケーションの既存のネットワーク調整パフォーマンス カウンターの正常性スコアのバケット値を設定します。
Set-SPWebTemplate	インストールされたサイトテンプレートのタイトルと説明を変更します。
Set-SPWordConversionServiceApplication	Word Automation Services アプリケーションのプロパティを設定します。
Set-SPWorkflowConfig	指定した Web アプリケーションのワークフロー設定を構成します。
Start-SPAdminJob	ローカル コンピューターで待機中の管理ジョブがあれば、すぐに開始します。
Start-SPAssignment	新しい割り当てストアを開始します。
Start-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブを開始します。
Start-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance	検索マネージャー サービスのインスタンスを開始します。
Start-SPEnterpriseSearchServiceInstance	Search Service のインスタンスを開始します。
Start-SPInfoPathFormTemplate	以前に休止した InfoPath 2010 フォーム テンプレートを有効にします。
Start-SPServiceInstance	特定のサーバーまたはファームでサービスのサービス

	インスタンスを開始します。
Start-SPTimerJob	タイマー ジョブを 1 回実行します。
Stop-SPAssignment	指定された割り当てコレクション内のオブジェクトを破棄します。
Stop-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance	検索マネージャー サービスのインスタンスを停止します。
Stop-SPEnterpriseSearchServiceInstance	検索マネージャー サービスのインスタンスを停止します。
Stop-SPInfoPathFormTemplate	アップグレードの前にフォームで InfoPath 2010 フォーム テンプレートを無効にします。
Stop-SPServiceInstance	サービスのサービス インスタンスを停止します。
Suspend-SPEnterpriseSearchServiceApplication	システム メンテナンスなどの作業を実行するために、すべてのクロール処理および検索処理を一時停止し、 Search Service アプリケーションを中断します。
Suspend-SPStateServiceDatabase	新しいデータ行をデータベースに追加できないように、状態データベースを一時停止します。
Test-SPContentDatabase	コンテンツ データベースをテストします。
Test-SPInfoPathFormTemplate	InfoPath 2010 フォーム テンプレートがブラウザー対応であることを確認します。
Uninstall-SPDataConnectionFile	データ接続ファイルを削除します。

Uninstall-SPFeature	インストールされた機能定義をアンインストールします。
Uninstall-SPHelpCollection	ヘルプ コレクション ファイルを削除します。
Uninstall-SPInfoPathFormTemplate	ファームから InfoPath 2010 フォーム テンプレートを削除します。
Uninstall-SPSolution	展開した SharePoint ソリューションを取り消します。
Uninstall-SPUserSolution	サイト コレクション内のセキュリティで保護されたソリューションを無効にします。
Uninstall-SPWebPartPack	指定した Web パーツ パッケージをアンインストールします。
Uninstall-SPWebTemplate	特定のサイト テンプレートをアンインストールします。
Unpublish-SPServiceApplication	ファーム外の指定したサービス アプリケーションの共有を停止します。
Update-SPFarmEncryptionKey	ファーム暗号化キーの値を変更し、新しいキーを使用してすべてのデータを再暗号化します。
Update-SPInfoPathAdminFileUrl	管理者によって展開されたすべての .xsn ファイルと .udcx ファイルを含む、 InfoPath 2010 フォーム テンプレート (.xsn ファイル) とユニバーサル データ接続 (.udcx ファイル) を更新します。
Update-SPProfilePhotoStore	Microsoft SharePoint Server 2010 との互換性を持たせるためにプロフィール写真

	ストアを更新します。
Update-SPSecureStoreApplicationServerKey	Secure Store のマスター キーを使用して、SharePoint Server を実行しているサーバー上のキーを同期させます。
Update-SPSecureStoreCredentialMapping	Secure Store Service アプリケーションの新しい資格情報マッピングを設定します。
Update-SPSecureStoreGroupCredentialMapping	Secure Store Service アプリケーションの新しいグループ資格情報マッピングを設定します。
Update-SPSecureStoreMasterKey	Secure Store Service アプリケーションのマスターキーを変更します。
Update-SPSolution	展開した SharePoint ソリューションをアップグレードします。
Update-SPUserSolution	ファーム内の有効になっているセキュリティで保護されたソリューションをアップグレードします。
Upgrade-SPContentDatabase	コンテンツ データベースをアップグレードします。
Upgrade-SPEnterpriseSearchServiceApplication	Search Service アプリケーションをアップグレードします。
Upgrade-SPSingleSignOnDatabase	アプリケーション定義をシングル サインオン (SSO) データベースから対象アプリケーションとしての Secure Store データベースへ移行します。

名刺順に並べた SharePoint Server 2010 コマンドレット

コマンドレット名	説明
Get-SPAccessServiceApplication	1 つの Access Services アプリケーションまたは Access Services アプリケーションのコレクションを返します。
New-SPAccessServiceApplication	Access Services アプリケーションの新しいインスタンスを作成します。
Set-SPAccessServiceApplication	既存の Access Services アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。
Start-SPAdminJob	ローカル コンピューターで待機中の管理ジョブがあれば、すぐに開始します。
Get-SPAlternateURL	特定の条件セットに一致するすべての代替 URL を返します。
New-SPAlternateUrl	指定した Web アプリケーション ゾーンまたは Web アプリケーション リソースの新しいパブリック URL または内部 URL を作成します。
Remove-SPAlternateUrl	指定した代替 URL を完全に削除します。
Set-SPAlternateUrl	指定した代替 URL を構成します。
Install-SPApplicationContent	既存の Web アプリケーション フォルダーに共有アプリケーション データをコピーします。
Start-SPAssignment	新しい割り当てストアを開

	始します。
Stop-SPAssignment	指定された割り当てコレクション内のオブジェクトを破棄します。
Get-SPAuthenticationProvider	認証プロバイダーを返します。
New-SPAuthenticationProvider	ファーム内に新しい認証プロバイダーを作成します。
Get-SPBackupHistory	バックアップ操作と復元操作の履歴を返します。
Move-SPBlobStorageLocation	リモート BLOB ストレージ (RBS) を使用して Windows SharePoint Services 3.0 データベースをコピーします。
Get-SPBrowserCustomerExperienceImprovementProgram	ブラウザのカスタマーエクスペリエンス向上プログラムの現在のオプトイン状態を返します。
Set-SPBrowserCustomerExperienceImprovementProgram	ブラウザのカスタマーエクスペリエンス向上プログラムのオン/オフを切り替えます。
Copy-SPBusinessDataCatalogAclToChildren	Business Data Connectivity メタデータストアのメタデータ オブジェクトの権限のセットを子オブジェクトにコピーします。
Import-SPBusinessDataCatalogDotNetAssembly	パーティションの Business Data Connectivity メタデータストアに関連付けられたデータをインポートします。
Disable-SPBusinessDataCatalogEntity	Business Data Connectivity メタデータストア内の外部コンテンツ タイプを無効にします。
Enable-SPBusinessDataCatalogEntity	Business Data Connectivity

	メタデータ ストアの外部コンテンツ タイプを有効にします。
Get-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトを返します。
Grant-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	指定した Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトのプリンシパルに権限を与えます。
Revoke-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	指定した Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトのプリンシパルに対する権限を無効にします。
Set-SPBusinessDataCatalogMetadataObject	Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータ オブジェクトのプロパティまたは属性の値を設定します。
Export-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルをエクスポートします。
Import-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルをインポートします。
Remove-SPBusinessDataCatalogModel	Business Data Connectivity モデルを削除します。
New-SPBusinessDataCatalogServiceApplication	ファーム内に新しい Business Data Connectivity サービス アプリケーションを作成します。
Set-SPBusinessDataCatalogServiceApplication	ファームの Business Data Connectivity サービス アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。

New-SPBusinessDataCatalogServiceApplicationProxy	ファーム内に新しい Business Data Connectivity サービス アプリケーション プロキシを作成します。
Get-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig	Business Data Connectivity Service アプリケーションのスロットル構成を返します。
Set-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig	Business Data Connectivity Service アプリケーションのスロットル構成を設定します。
New-SPCentralAdministration	新しい SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションを作成します。
Set-SPCentralAdministration	SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトのポートを設定します。
Get-SPCertificateAuthority	SharePoint の証明機関 (CA) を返します。
Get-SPClaimProvider	クレーム プロバイダーを返します。
New-SPClaimProvider	新しいクレーム プロバイダーをファームに登録します。
Remove-SPClaimProvider	クレーム プロバイダーを登録解除します。
Set-SPClaimProvider	クレーム プロバイダーの登録を更新します。
Get-SPClaimProviderManager	クレーム プロバイダー マネージャーを返します。
New-SPClaimsPrincipal	新しいクレーム プリンシパルを作成します。
Add-SPClaimTypeMapping	信頼できる Security Token Service (STS) ID プロバイダーに要求のマッピングを

	追加します。
New-SPClaimTypeMapping	Security Token Service (STS) ID プロバイダーのクレーム マッピング ルールを作成します。
Remove-SPClaimTypeMapping	Security Token Service (STS) ID プロバイダーのクレームの種類のマッピングのルールを削除します。
Backup-SPConfigurationDatabase	ファーム レベルの構成のみのバックアップを実行します。
Connect-SPConfigurationDatabase	ローカル サーバー コンピューターをファームに接続します。
Disconnect-SPConfigurationDatabase	ローカル サーバー コンピューターをファームから切断します。
New-SPConfigurationDatabase	新しい構成データベースを作成します。
Remove-SPConfigurationDatabase	構成データベースを完全に削除します。
Dismount-SPContentDatabase	現在コンテンツ データベースが関連付けられている Web アプリケーションからコンテンツ データベースを切断します。
Get-SPContentDatabase	1 つ以上のコンテンツ データベースを返します。
Mount-SPContentDatabase	既存のコンテンツ データベースをファームに接続します。
New-SPContentDatabase	新しいコンテンツ データベースを作成し、指定した Web アプリケーションにそれを接続します。
Remove-SPContentDatabase	コンテンツ データベース

	を削除します。
Set-SPContentDatabase	SharePoint コンテンツ データベースのグローバル プロパティを設定します。
Test-SPContentDatabase	コンテンツ データベースをテストします。
Upgrade-SPContentDatabase	コンテンツ データベースをアップグレードします。
Get-SPContentDeploymentJob	1 つのコンテンツ展開ジョブまたはコンテンツ展開ジョブのコレクションを返します。
New-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブを作成します。
Remove-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブを削除します。
Set-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブのプロパティを設定します。
Start-SPContentDeploymentJob	コンテンツ展開ジョブを開始します。
Get-SPContentDeploymentPath	1 つのコンテンツ展開パスまたはコンテンツ展開パスのコレクションを返します。
New-SPContentDeploymentPath	新しいコンテンツ展開パスを作成します。
Remove-SPContentDeploymentPath	コンテンツ展開パスを削除します。
Set-SPContentDeploymentPath	コンテンツ展開パスのプロパティを設定します。
Get-SPCustomLayoutsPage	カスタム レイアウト ページへのマッピングを返します。
Set-SPCustomLayoutsPage	カスタム レイアウト ページの新しいパスをマップします。

Get-SPDatabase	データベースのすべてのプロパティを取得します。
Get-SPDataConnectionFile	1つのデータ接続ファイルまたはデータ接続ファイルのコレクションを返します。
Install-SPDataConnectionFile	指定されたデータ接続ファイルをインストールします。
Set-SPDataConnectionFile	データ接続ファイルのプロパティを設定します。
Uninstall-SPDataConnectionFile	データ接続ファイルを削除します。
Get-SPDataConnectionFileDependent	ユニバーサル データ接続に依存するサーバー上の展開したフォームを返します。
Get-SPDesignerSettings	Microsoft SharePoint Designer 2010 の機能を表示します。
Set-SPDesignerSettings	Microsoft SharePoint Designer 2010 の機能を設定します。
Get-SPDiagnosticConfig	ファームの ULS 診断構成値を取得します。
Set-SPDiagnosticConfig	ファームの診断構成設定を設定します。
Add-SPDiagnosticsPerformanceCounter	パフォーマンス カウンターのインスタンスを追加します。
Get-SPDiagnosticsPerformanceCounter	パフォーマンス カウンターのコレクションを返します。
Remove-SPDiagnosticsPerformanceCounter	パフォーマンス カウンターのインスタンスを削除します。

Get-SPDiagnosticsProvider	診断プロバイダーを返します。
Set-SPDiagnosticsProvider	診断プロバイダーを有効にして、診断プロバイダーの保持ポリシーを更新します。
Get-SPEnterpriseSearchAdministrationComponent	Search Service アプリケーションの管理コンポーネントを返します。
Set-SPEnterpriseSearchAdministrationComponent	Search Service アプリケーションの管理コンポーネントのプロパティを設定します。
Ping-SPEnterpriseSearchContentService	コンテンツ配信元に要求を送信します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlComponent	共有検索アプリケーションのクロール コンポーネントを返します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlComponent	クエリ トポロジにクエリ コンポーネントを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlComponent	共有検索アプリケーションからクロール コンポーネントを削除します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	クロール コンテンツ ソースを返します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	共有検索アプリケーションの新しいクロール コンテンツ ソースを作成します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	検索アプリケーションから指定したクロール コンテンツ ソースを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlContentSource	共有検索アプリケーションのクロール コンテンツ ソースのプロパティを設定し

	ます。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector	CustomConnector オブジェクトの種類を返します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector	カスタム クローリングの プロトコルを登録します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlCustomConnector	CustomConnector オブジェクトを削除します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	クローラ ストアを返しま す。
New-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	Search Service アプリケー ションに追加できるクロー ル データベースを作成し ます。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	Search Service アプリケー ションのクローラ データ ベースのプロパティを設定 します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlDatabase	Search Service アプリケー ションのクローラ データ ベースのプロパティを設定 します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlExtension	コンテンツ インデックス に含めるファイルの種類を 返します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlExtension	共有検索アプリケーション に拡張ルールを追加しま す。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlExtension	クローラできるファイルの リストからファイル名拡張 子を削除します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlMapping	検索アプリケーションのク ローラ マッピングを返し ます。
New-SPEnterpriseSearchCrawlMapping	共有検索アプリケーション のクローラ マッピングル ールを作成します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlMapping	クローラ マッピングを削

	除します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlRule	クローラ ルールにアクセスします。
New-SPEnterpriseSearchCrawlRule	新しいクローラ ルールを作成します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlRule	クローラ ルールを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlRule	クローラ ルールのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	クローラ トポロジを返します。
New-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	共有検索アプリケーションにクローラ トポロジを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	クローラ トポロジを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchCrawlTopology	共有検索アプリケーションのクローラ トポロジのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchExtendedClickThroughExtractorJobDefinition	SharePoint Search Service アプリケーションの特定の FAST Search のクリックスルー エクストラクター ジョブのインスタンスを表すオブジェクトを取得します。
Get-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	Search Service アプリケーションのプロパティの値を返します。
New-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	新しい拡張コネクタのプロパティを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	ExtendedConnector タイプの Search Service アプリケーションのプロパティを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchExtendedConnectorProperty	ExtendedConnector オブジェクトの値を設定します。

Get-SPEnterpriseSearchExtendedQueryProperty	SharePoint を SharePoint サービスの FAST Search に接続するために使用されるプロパティを返します。
Set-SPEnterpriseSearchExtendedQueryProperty	SharePoint サービス固有のプロパティの FAST Search を設定します。
Get-SPEnterpriseSearchIndexPartition	クエリ トポロジのインデックス パーティションを返します。
Set-SPEnterpriseSearchIndexPartition	クエリ トポロジのインデックス パーティションのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase	言語リソース語句を返します。
New-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase	共有検索アプリケーションに言語リソース語句を追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchLanguageResourcePhrase	共有検索アプリケーションから言語リソース語句を削除します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	クロールされたプロパティカテゴリを返します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	Search Service アプリケーションにクロールされたプロパティ カテゴリを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	クロールされたプロパティカテゴリを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataCategory	共有検索アプリケーションのクロールされたプロパティ カテゴリのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty	クロールされたプロパティを返します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty	検索アプリケーションのクロールされたプロパティ

	カテゴリにクロールされたプロパティを追加します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataCrawledProperty	共有検索アプリケーションのメタデータのクロールされたプロパティのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	管理プロパティを返します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	共有検索アプリケーションに管理プロパティを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	メタデータ管理プロパティを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataManagedProperty	メタデータ管理プロパティのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	管理プロパティ マッピングの現在の状態を返します。
New-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	共有検索アプリケーションに管理プロパティ マッピングを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	管理プロパティからメタデータ マッピングを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchMetadataMapping	共有検索アプリケーションの管理プロパティ マッピングのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	プロパティ ストアを返します。
New-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	Search Service アプリケーションで使用する新しいプロパティ ストアを作成します。
Remove-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	プロパティ ストアを削除します。

Set-SPEnterpriseSearchPropertyDatabase	プロパティストアのプロパティを変更します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsService	検索マネージャー サービスを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance	サービス マネージャー サービス インスタンスを返します。
Start-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance	検索マネージャー サービスのインスタンスを開始します。
Stop-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance	検索マネージャー サービスのインスタンスを停止します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceProxy	検索マネージャー サービス プロキシを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	優先するページを返します。
New-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	共有検索アプリケーションに優先するページを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	優先するページを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryAuthority	共有検索アプリケーションの優先するページのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリ コンポーネントを返します。
New-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリ トポロジにクエリ コンポーネントを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリ コンポーネントを削除します。
Restart-SPEnterpriseSearchQueryComponent	失敗したクエリ コンポーネントを再起動します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryComponent	クエリ コンポーネントのプロパティを変更します。

Get-SPEnterpriseSearchQueryDemoted	降格対象サイト ルールを返します。
New-SPEnterpriseSearchQueryDemoted	共有検索アプリケーションに降格対象サイト ルールを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryDemoted	降格対象サイト ルールを削除します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	キーワード用語を返します。
New-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	共有検索アプリケーションにキーワード用語を追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	クエリ キーワードを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryKeyword	共有検索アプリケーションのキーワード用語のプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryScope	クエリ結果範囲を返します。
New-SPEnterpriseSearchQueryScope	共有検索アプリケーションにクエリ結果範囲を追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryScope	クエリ範囲を削除します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryScope	共有検索アプリケーションのクエリ結果範囲のプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	共有範囲ルールを返します。
New-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	クエリ範囲に共有範囲ルールを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	クエリ結果範囲ルールを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryScopeRule	クエリ範囲の共有範囲ルールのプロパティを設定します。

Get-SPEnterpriseSearchQuerySuggestionCandidates	クエリのリストを返します。
Get-SPEnterpriseSearchQueryTopology	クエリ トポロジを返します。
New-SPEnterpriseSearchQueryTopology	共有検索アプリケーションにクエリ トポロジを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchQueryTopology	クエリ トポロジを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchQueryTopology	共有検索アプリケーションのクエリ トポロジのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchRankingModel	ランク付けモデルを返します。
New-SPEnterpriseSearchRankingModel	共有検索アプリケーションにランク付けモデルを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchRankingModel	ランク付けモデルを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchRankingModel	共有検索アプリケーションのランク付けモデルのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer	カスタム セキュリティ トリマーを返します。
New-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer	共有検索アプリケーションにカスタム セキュリティ トリマーを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer	カスタム セキュリティ トリマーを削除します。
Get-SPEnterpriseSearchService	ファームの Search Service を返します。
Set-SPEnterpriseSearchService	ファームの Search Service のプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchServiceApplication	ファームの Search Service アプリケーションを返しま

	す。
New-SPEnterpriseSearchServiceApplication	ファームに Search Service アプリケーションを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchServiceApplication	Search Service アプリケーションを削除します。
Restore-SPEnterpriseSearchServiceApplication	検索アプリケーションのサードパーティのバックアップを復元します。
Resume-SPEnterpriseSearchServiceApplication	中断された Search Service アプリケーションを再開します。
Set-SPEnterpriseSearchServiceApplication	ファームの Search Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Suspend-SPEnterpriseSearchServiceApplication	システム メンテナンスなどの作業を実行するために、すべてのクロール処理および検索処理を一時停止し、 Search Service アプリケーションを中断します。
Upgrade-SPEnterpriseSearchServiceApplication	Search Service アプリケーションをアップグレードします。
Get-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	Search Service アプリケーション プロキシを返します。
New-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	ファームに新しい検索アプリケーション プロキシを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	Search Service アプリケーション プロキシを削除します。
Set-SPEnterpriseSearchServiceApplicationProxy	Search Service アプリケーション プロキシのプロパティを設定します。
Get-SPEnterpriseSearchServiceInstance	ファームの Search Service

	インスタンスを返します。
Set-SPEnterpriseSearchServiceInstance	Search Service インスタンスのプロパティを設定します。
Start-SPEnterpriseSearchServiceInstance	Search Service のインスタンスを開始します。
Stop-SPEnterpriseSearchServiceInstance	検索マネージャー サービスのインスタンスを停止します。
Get-SPEnterpriseSearchSiteHitRule	共有サイト ヒット ルールを返します。
New-SPEnterpriseSearchSiteHitRule	検索アプリケーション用の新しいサイト ヒット ルールを追加します。
Remove-SPEnterpriseSearchSiteHitRule	サイト ヒット ルールを削除します。
Export-SPEnterpriseSearchTopology	既存の検索トポロジをエクスポートします。
Import-SPEnterpriseSearchTopology	XML ファイルからトポロジをインポートし、有効にします。
Get-SPExcelBlockedFileType	読み込みが禁止されている1つのファイルの種類またはファイルの種類のリストを返します。
New-SPExcelBlockedFileType	Excel Services アプリケーションによって読み込みが禁止されるファイルの種類のリストにファイルの種類を追加します。
Remove-SPExcelBlockedFileType	Excel Services アプリケーションで読み込みが禁止されているファイルの種類のリストからエンTRIESを削除します。
Get-SPExcelDataConnectionLibrary	1つの信頼できるデータ接続ライブラリまたは信頼で

	きるデータ接続ライブラリのリストを返します。
New-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションに新しいデータ接続ライブラリを追加します。
Remove-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションからデータ接続ライブラリを削除します。
Set-SPExcelDataConnectionLibrary	Excel Services アプリケーションのデータ接続ライブラリのプロパティを設定します。
Get-SPExcelDataProvider	1 つの安全なデータ プロバイダーまたは安全なデータ プロバイダーのリストを返します。
New-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションに新しい安全なデータ プロバイダーを追加します。
Remove-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションからデータ プロバイダーを削除します。
Set-SPExcelDataProvider	Excel Services アプリケーションの安全なデータ プロバイダーのプロパティを設定します。
Get-SPExcelFileLocation	1 つの信頼できるファイル保存場所または信頼できるファイル保存場所のリストを返します。
New-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションに新しい信頼できる場所を追加します。
Remove-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションから信頼できるファイル保存場所を削除します。

Set-SPExcelFileLocation	Excel Services アプリケーションの信頼できるファイル保存場所のプロパティを設定します。
Get-SPExcelServiceApplication	SPExcelServiceApplication オブジェクトを返します。
New-SPExcelServiceApplication	Excel Services アプリケーションの新しいインスタンスを作成します。
Set-SPExcelServiceApplication	Excel Services アプリケーションのグローバル プロパティを設定します。
Get-SPExcelUserDefinedFunction	1 つのユーザー定義関数またはユーザー定義関数のコレクションを返します。
New-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションに新しいユーザー定義関数を追加します。
Remove-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションからユーザー定義関数を削除します。
Set-SPExcelUserDefinedFunction	Excel Services アプリケーションのユーザー定義関数のプロパティを設定します。
Backup-SPFarm	個別のデータベース、Web アプリケーション、またはファーム全体のバックアップを作成します。
Get-SPFarm	ローカル SharePoint ファームを返します。
Restore-SPFarm	バックアップから 1 つ以上の項目を復元します。
Get-SPFarmConfig	ローカル ファームの 1 つのグローバル プロパティまたはグローバル プロパティのコレクションを返し

	ます。
Set-SPFarmConfig	ローカル ファームの 1 つのグローバル プロパティまたはグローバル プロパティのコレクションを設定します。
Update-SPFarmEncryptionKey	ファーム暗号化キーの値を変更し、新しいキーを使用してすべてのデータを再暗号化します。
Disable-SPFeature	インストールした SharePoint 機能を特定の範囲で無効にします。
Enable-SPFeature	インストールした SharePoint 機能を特定の範囲で有効にします。
Get-SPFeature	特定の範囲に基づいて SharePoint 機能を返します。
Install-SPFeature	Feature.xml ファイルを使用して SharePoint 機能をインストールします。
Uninstall-SPFeature	インストールされた機能定義をアンインストールします。
Get-SPHelpCollection	ヘルプ コレクション ファイルを返します。
Install-SPHelpCollection	指定されたヘルプのサイト コレクション ファイルを現在のファームにインストールします。
Uninstall-SPHelpCollection	ヘルプ コレクション ファイルを削除します。
Update-SPInfoPathAdminFileUrl	管理者によって展開されたすべての .xsn ファイルと .udcx ファイルを含む、 InfoPath 2010 フォーム テンプレート (.xsn ファイル)

	とユニバーサル データ接続 (.udcx ファイル) を更新します。
Export-SPInfoPathAdministrationFiles	SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトに InfoPath 2010 フォーム テンプレートを保存し、.udcx ファイルを .cab ファイルに保存します。
Import-SPInfoPathAdministrationFiles	SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトにある InfoPath 2010 フォーム テンプレートと .udcx ファイルをインポートします。
Get-SPInfoPathFormsService	ファーム内の SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services の設定を返します。
Set-SPInfoPathFormsService	SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services のパラメーターを設定します。
Disable-SPInfoPathFormTemplate	指定したサイト コレクションの InfoPath 2010 フォーム テンプレートを無効にします。
Enable-SPInfoPathFormTemplate	指定したサイト コレクションで InfoPath 2010 フォーム テンプレートを有効にします。
Get-SPInfoPathFormTemplate	InfoPath 2010 フォーム テンプレートを返します。
Install-SPInfoPathFormTemplate	ファームに InfoPath 2010 フォーム テンプレートをインストールします。
Set-SPInfoPathFormTemplate	InfoPath 2010 フォーム テンプレートのプロパティを設定します。

Start-SPInfoPathFormTemplate	以前に休止した InfoPath 2010 フォーム テンプレートを有効にします。
Stop-SPInfoPathFormTemplate	アップグレードの前にファームで InfoPath 2010 フォーム テンプレートを無効にします。
Test-SPInfoPathFormTemplate	InfoPath 2010 フォーム テンプレートがブラウザ対応であることを確認します。
Uninstall-SPInfoPathFormTemplate	ファームから InfoPath 2010 フォーム テンプレートを削除します。
Update-SPInfoPathFormTemplate	
Add-SPInfoPathUserAgent	ファームにユーザー エージェントを追加します。
Get-SPInfoPathUserAgent	ファームの 1 つのユーザー エージェントまたは現在定義されているすべてのユーザー エージェントを返します。
Remove-SPInfoPathUserAgent	ユーザー エージェントを削除します。
Get-SPInfoPathWebServiceProxy	Web アプリケーションの Web プロキシ設定を返します。
Set-SPInfoPathWebServiceProxy	既存の SharePoint Web サービス アプリケーションのパラメーターを設定します。
Get-SPLogEvent	統合ログ サービス (ULS) のトレース ログの結果を返します。
Merge-SPLogFile	すべてのファーム コンピューターのトレース ログ エントリをローカル コンピューター上の 1 つのログ

	ファイルにまとめます。
New-SPLogFile	新しいログ ファイルを作成します。
Clear-SPLogLevel	Windows のトレース ログとイベント ログのレベルをそれぞれの既定の値にリセットします。
Get-SPLogLevel	オブジェクトのリストまたは診断レベルを返します。
Set-SPLogLevel	カテゴリのセットのトレース レベルとイベント レベルを設定します。
Get-SPManagedAccount	構成データベースに登録されているアカウントを取得します。
New-SPManagedAccount	新しい管理アカウントを登録します。
Remove-SPManagedAccount	ファームから管理アカウントの登録を削除します。
Set-SPManagedAccount	管理アカウントを構成します。
Repair-SPManagedAccountDeployment	ローカル管理アカウントの資格情報の展開を修復します。
Get-SPManagedPath	特定の条件に一致するすべての管理パスを返します。
New-SPManagedPath	すべてのホスト ヘッダー サイト コレクションについて特定の Web アプリケーション用の新しい管理パスを作成します。
Remove-SPManagedPath	指定したホスト ヘッダーまたは Web アプリケーションから指定した管理パスを削除します。
Get-SPMetadataServiceApplication	1 つのサービス アプリケーションのプロパティまたは

	サービス アプリケーションのコレクションのプロパティを返します。
New-SPMetadataServiceApplication	新しい Metadata Service アプリケーションを作成します。
Set-SPMetadataServiceApplication	Metadata Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Get-SPMetadataServiceApplicationProxy	1つのサービス アプリケーション プロキシのプロパティまたはサービス アプリケーション プロキシのコレクションのプロパティを返します。
New-SPMetadataServiceApplicationProxy	新しい Metadata Service アプリケーション プロキシを作成します。
Set-SPMetadataServiceApplicationProxy	Metadata Service アプリケーション プロキシのプロパティを設定します。
Clear-SPMetadataWebServicePartitionData	Metadata Web Service アプリケーションのサイト購読のすべてのデータを削除します。
Export-SPMetadataWebServicePartitionData	サイト購読の Metadata Web Service からデータをエクスポートします。
Import-SPMetadataWebServicePartitionData	サイト購読のデータを復元します。
Get-SPMobileMessagingAccount	指定した Web アプリケーションのモバイル メッセージング アカウントを取得します。
Set-SPMobileMessagingAccount	指定したモバイル メッセージング アカウントを構成します。
Grant-SPObjectSecurity	SPObjectSecurity オブジェ

	クトに新しいセキュリティプリンシパルを追加します。
Revoke-SPObjectSecurity	SPObjectSecurity オブジェクトからセキュリティプリンシパルを削除します。
Set-SPPassPhrase	パスフレーズに新しい値を設定します。
Get-SPPerformancePointSecureDataValues	無人サービス アカウントの設定を表示します。
Set-SPPerformancePointSecureDataValues	無人サービス アカウントのグローバル設定を設定します。
Get-SPPerformancePointServiceApplication	PerformancePoint Service アプリケーションのオブジェクトとプロパティを返します。
New-SPPerformancePointServiceApplication	PerformancePoint Services 用の新しいサービス アプリケーションを作成します。
Remove-SPPerformancePointServiceApplication	ファームから PerformancePoint Services アプリケーションを削除します。
Set-SPPerformancePointServiceApplication	PerformancePoint Services アプリケーションのグローバルな実行時プロパティを設定します。
New-SPPerformancePointServiceApplicationProxy	PerformancePoint Services アプリケーション用のプロキシを作成します。
Remove-SPPerformancePointServiceApplicationProxy	PerformancePoint Services アプリケーションのプロキシを削除します。
Clear-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーション ID のすべての信頼できる場所を削

	除します。
Get-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーションの信頼できる場所オブジェクトとプロパティを返します。
New-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーション用の新しい信頼できる場所を作成します。
Remove-SPPerformancePointServiceApplicationTrustedLocation	PerformancePoint Services アプリケーションから 1 つの信頼できる場所を削除します。
Get-SPProcessAccount	システム アカウントまたは管理アカウントを返します。
Get-SPProduct	ファームにインストールされている SharePoint 関連製品のリストと各製品に対してインストールされているすべての更新プログラムのバージョンを返します。
Move-SPProfileManagedMetadataProperty	複数文字列値を用語セットに移動します。
Update-SPProfilePhotoStore	Microsoft SharePoint Server 2010 との互換性を持たせるためにプロファイル写真ストアを更新します。
New-SPProfileServiceApplication	ファームに User Profile Service アプリケーションを追加します。
Set-SPProfileServiceApplication	User Profile Service アプリケーションのプロパティを設定します。
New-SPProfileServiceApplicationProxy	ローカル ファームで User Profile Service アプリケーション プロキシを作成します。

Set-SPProfileServiceApplicationProxy	User Profile Service アプリケーションのプロキシのプロパティを設定します。
Get-SPProfileServiceApplicationSecurity	アクセス権情報と ID 情報を返します。
Set-SPProfileServiceApplicationSecurity	アクセス権情報と ID 情報を設定します。
Initialize-SPResourceSecurity	ローカル サーバーにリソース セキュリティを適用します。
Get-SPSearchService	Search Service を返します。
Set-SPSearchService	Search Service のプロパティを設定します。
Get-SPSearchServiceInstance	Search Service のインスタンスを返します。
Set-SPSearchServiceInstance	Search Service インスタンスのプロパティを設定します。
Get-SPSecureStoreApplication	Secure Store アプリケーションを返します。
New-SPSecureStoreApplication	新しい Secure Store アプリケーションを作成します。
Remove-SPSecureStoreApplication	Secure Store アプリケーションを削除します。
Set-SPSecureStoreApplication	Secure Store アプリケーションのプロパティを設定します。
New-SPSecureStoreApplicationField	新しい Secure Store アプリケーションのフィールド オブジェクトを作成します。
Update-SPSecureStoreApplicationServerKey	Secure Store のマスター キーを使用して、SharePoint Server を実行しているサーバー上のキーを同期させま

	す。
Clear-SPSecureStoreCredentialMapping	Secure Store Service アプリケーションから資格情報マッピングを削除します。
Update-SPSecureStoreCredentialMapping	Secure Store Service アプリケーションの新しい資格情報マッピングを設定します。
Clear-SPSecureStoreDefaultProvider	Secure Store プロバイダーを削除します。
Set-SPSecureStoreDefaultProvider	Secure Store プロバイダーを設定または更新します。
Update-SPSecureStoreGroupCredentialMapping	Secure Store Service アプリケーションの新しいグループ資格情報マッピングを設定します。
Update-SPSecureStoreMasterKey	Secure Store Service アプリケーションのマスターキーを変更します。
New-SPSecureStoreServiceApplication	ファームで新しい Secure Store Service アプリケーションを作成します。
Set-SPSecureStoreServiceApplication	ファームの Secure Store Service アプリケーションのプロパティを設定します。
New-SPSecureStoreServiceApplicationProxy	ファームで新しい Secure Store Service アプリケーションプロキシを作成します。
New-SPSecureStoreTargetApplication	新しい Secure Store ターゲットアプリケーションを作成します。
Get-SPSecurityTokenServiceConfig	ファームの Security Token Service (STS) を返します。
Set-SPSecurityTokenServiceConfig	SharePoint Security Token Service (STS) ID プロバイ

	ダーの設定を更新します。
Get-SPServer	特定の ID に一致するファーム内の 1 つ以上のサーバーを返します。
Rename-SPServer	現在ファームに接続されているサーバーの名前を変更します。
Install-SPService	サービスをファームにインストールし、準備します。
Get-SPServiceApplication	指定したサービス アプリケーションを返します。
Grant-SPServiceApplication	ユーザー アカウントにサービス アプリケーションへのアクセス権を与えます。
Publish-SPServiceApplication	ファーム外の指定したローカル サービス アプリケーションを共有します。
Remove-SPServiceApplication	ローカル サーバー上の指定したサービス アプリケーションを削除します。
Revoke-SPServiceApplication	サービス アプリケーションへのユーザーのアクセスを無効にします。
Set-SPServiceApplication	サービス アプリケーションのプロパティを設定します。
Unpublish-SPServiceApplication	ファーム外の指定したサービス アプリケーションの共有を停止します。
Get-SPServiceApplicationEndpoint	サービス アプリケーションのエンドポイントを返します。
Set-SPServiceApplicationEndpoint	サービス アプリケーションのエンドポイントのホストを設定します。
Get-SPServiceApplicationPool	指定したインターネット

	インフォメーション サービス (IIS) アプリケーション プールを返します。
New-SPServiceApplicationPool	新しい Web サービス アプリケーション プールを作成します。
Remove-SPServiceApplicationPool	指定した Web サービス アプリケーション プールを完全に削除します。
Set-SPServiceApplicationPool	指定したアプリケーション プールの ID に使用されるアカウントを変更します。
Get-SPServiceApplicationProxy	指定したサービス アプリケーション プロキシのインスタンスを返します。
Remove-SPServiceApplicationProxy	指定したサービス アプリケーション プロキシを削除します。
Get-SPServiceApplicationProxyGroup	指定したサービス アプリケーションのプロキシ グループを返します。
New-SPServiceApplicationProxyGroup	新しいサービス アプリケーション プロキシ グループを作成します。
Remove-SPServiceApplicationProxyGroup	指定したサービス アプリケーション プロキシ グループを完全に削除します。
Add-SPServiceApplicationProxyGroupMember	サービス アプリケーション プロキシ グループにメンバーを追加します。
Remove-SPServiceApplicationProxyGroupMember	指定したサービス アプリケーション プロキシ グループから 1 つ以上のプロキシを削除します。
Get-SPServiceApplicationSecurity	サービス アプリケーションの SObjectSecurity オブジェクトを返します。

Set-SPServiceApplicationSecurity	サービス アプリケーションの SPOBJECTSecurity オブジェクトを更新します。
Get-SPServiceContext	サービス コンテキストを返します。
Get-SPServiceHostConfig	共通 Web サービスの設定を返します。
Set-SPServiceHostConfig	すべての Web サービスの 1 つ以上の共通設定を構成します。
Get-SPServiceInstance	特定のサーバーまたはファーム全体のサービス インスタンスを返します。
Start-SPServiceInstance	特定のサーバーまたはファームでサービスのサービス インスタンスを開始します。
Stop-SPServiceInstance	サービスのサービス インスタンスを停止します。
Disable-SPSessionStateService	ファームで Session State Service を無効にします。
Enable-SPSessionStateService	セッション状態データベースを作成し、 Session State Service を有効にします。
Get-SPSessionStateService	タイムアウトとデータベースの設定を含む Session State Service のプロパティを返します。
Set-SPSessionStateService	State Service データベースとの通信に使用される資格情報を更新します。
Receive-SPSharedServiceApplicationInfo	別のファームからサービス情報を受信するように、このファームを構成します。
Add-SPShellAdmin	指定したデータベースの SharePoint_Shell_Access ロールにユーザーを追加しま

	す。
Get-SPShellAdmin	SharePoint_Shell_Access ロールを持っているすべてのユーザーの名前を返します。
Remove-SPShellAdmin	SharePoint_Shell_Access ロールからユーザーを削除します。
Disable-SPSingleSignOn	ファーム サーバーでシングル サインオン (SSO) サービスを無効にします。
Upgrade-SPSingleSignOnDatabase	アプリケーション定義をシングル サインオン (SSO) データベースから対象アプリケーションとしての Secure Store データベースへ移行します。
Backup-SPSite	サイト コレクションのバックアップを実行します。
Get-SPSite	特定の条件に一致するすべてのサイト コレクションを返します。
Move-SPSite	1 つのコンテンツ データベースから別のコンテンツ データベースへサイト コレクションを移動します。
New-SPSite	指定した URL に新しいサイト コレクションを作成します。
Remove-SPSite	既存のサイト コレクションとすべてのサブサイトを完全に削除します。
Restore-SPSite	サイト コレクションを復元します。
Set-SPSite	指定したサイト コレクションを構成します。
Get-SPSiteAdministration	ファーム管理者がアクセス

	できない可能性のあるサイト コレクションに関する特定の情報を表示するためにファーム管理者が使用できるサイト管理オブジェクトを返します。
Set-SPSiteAdministration	ファーム管理者が任意のサイト コレクションを構成できるようにします。
Get-SPSiteSubscription	特定の URL のサイト購読またはローカル ファーム内のすべてのサイト購読を返します。
New-SPSiteSubscription	新しいサイト購読を作成します。
Remove-SPSiteSubscription	サイト購読のセット用の Subscription Settings Service アプリケーションに保存されているデータを削除します。
Clear-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	指定したパーティションの Business Data Connectivity メタデータ ストアからすべてのデータを削除します。
Export-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	パーティションに関連付けられた Business Data Connectivity メタデータ ストアからすべてのデータをエクスポートします。
Remove-SPSiteSubscriptionBusinessDataCatalogConfig	パーティションの Business Data Connectivity メタデータ ストアを削除します。
Get-SPSiteSubscriptionConfig	サイト購読の構成プロパティを返します。
Set-SPSiteSubscriptionConfig	サイト購読の構成プロパティを設定します。
Get-SPSiteSubscriptionEdiscoveryHub	サイト購読の電子情報開示

	ハブを表示します。
Set-SPSiteSubscriptionDiscoveryHub	サイト購読の電子情報開示ハブのプロパティを設定します。
Get-SPSiteSubscriptionDiscoverySearchScope	指定したサイト コレクションの電子情報開示ハブの検索範囲を表示します。
Get-SPSiteSubscriptionFeaturePack	使用可能な SharePoint 機能セットまたは特定のサイト購読に割り当てられている機能セットを取得します。
New-SPSiteSubscriptionFeaturePack	サイト購読で使用可能な機能を制限するために使用できる新しい SharePoint 機能セットを作成します。
Remove-SPSiteSubscriptionFeaturePack	サイト購読から SharePoint 機能セットを削除します。
Add-SPSiteSubscriptionFeaturePackMember	SharePoint 機能セットに機能を追加します。
Remove-SPSiteSubscriptionFeaturePackMember	指定された SharePoint 機能セットから機能定義を削除します。
Get-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	Metadata Service アプリケーションのサイト購読構成の設定を返します。
Remove-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	サイト購読構成の設定を削除します。
Set-SPSiteSubscriptionMetadataConfig	指定した Metadata Service アプリケーションのサイト購読構成の設定を設定します。
Add-SPSiteSubscriptionProfileConfig	User Profile Service アプリケーションに新しいサイト購読を追加します。
Remove-SPSiteSubscriptionProfileConfig	User Profile Service アプリケーションからサイト購読を削除します。

Set-SPSiteSubscriptionProfileConfig	サイト購読のパラメーターを設定します。
Export-SPSiteSubscriptionSettings	サイト購読データのバックアップ ファイルを作成します。
Import-SPSiteSubscriptionSettings	購読サイト設定のバックアップを特定の購読 ID に復元します。
Remove-SPSiteSubscriptionSettings	指定したサイト購読の Settings Service のデータを削除するか、孤立したデータを検索し、削除します。
Remove-SPSocialItemByDate	タグ、メモ、または評価を削除します。
Add-SPSolution	ファームに SharePoint ソリューション パッケージをアップロードします。
Get-SPSolution	指定した SharePoint ソリューションを返します。
Install-SPSolution	インストールした SharePoint ソリューションをファームで展開します。
Remove-SPSolution	ファームから SharePoint ソリューションを削除します。
Uninstall-SPSolution	展開した SharePoint ソリューションを取り消します。
Update-SPSolution	展開した SharePoint ソリューションをアップグレードします。
Remove-SPSolutionDeploymentLock	サーバーのソリューション展開ロックを削除します。
Get-SPStateServiceApplication	ファームの State Service アプリケーションを返します。
New-SPStateServiceApplication	新しい State Service アプリケーションを作成します。

	°
Set-SPStateServiceApplication	State Service アプリケーションの名前を更新します。
Get-SPStateServiceApplicationProxy	ファームの State Service アプリケーション プロキシを返します。
New-SPStateServiceApplicationProxy	State Service アプリケーションのプロキシを作成します。
Set-SPStateServiceApplicationProxy	State Service アプリケーション プロキシの名前を更新します。
Dismount-SPStateServiceDatabase	Microsoft SQL Server データベースから State Service データベースを削除せずに State Service データベースとの関連付けをファームから削除します。
Get-SPStateServiceDatabase	State Service データベースを返します。
Initialize-SPStateServiceDatabase	状態データベース スキーマを State Service データベースにインストールします。
Mount-SPStateServiceDatabase	既存の State Service データベースをファームに接続します。
New-SPStateServiceDatabase	新しい State Service データベースを作成し、準備して、そこに状態データベース スキーマをインストールします。
Remove-SPStateServiceDatabase	State Service データベースを State Service アプリケーションから削除し、それを SQL Server から削除します。
Resume-SPStateServiceDatabase	新しいデータ行の受け入れ

	が行われるように、一時停止している State Service データベースを再開します。
Set-SPStateServiceDatabase	State Service データベースのプロパティを更新します。
Suspend-SPStateServiceDatabase	新しいデータ行をデータベースに追加できないように、状態データベースを一時停止します。
New-SPSubscriptionSettingsServiceApplication	新しい Subscription Settings Service アプリケーションを作成します。
Set-SPSubscriptionSettingsServiceApplication	Subscription Settings Service アプリケーションのプロパティを設定します。
New-SPSubscriptionSettingsServiceApplicationProxy	Subscription Settings Service アプリケーションのアプリケーションプロキシを作成します。
Get-SPTaxonomySession	TaxonomySession オブジェクトを返します。
Disable-SPTimerJob	タイマー ジョブを無効にします。
Enable-SPTimerJob	タイマー ジョブを有効にします。
Get-SPTimerJob	タイマー ジョブを返します。
Set-SPTimerJob	タイマー ジョブの実行スケジュールを設定します。
Start-SPTimerJob	タイマー ジョブを 1 回実行します。
Get-SPTopologyServiceApplication	現在のファームのトポロジサービス アプリケーションのプロパティを表示しま

	す。
Set-SPTopologyServiceApplication	ローカル ファームのトポロジ サービス アプリケーションのプロパティを設定します。
Get-SPTopologyServiceApplicationProxy	トポロジ サービス アプリケーション プロキシを取得します。
Set-SPTopologyServiceApplicationProxy	トポロジ サービス アプリケーションのプロキシ プロパティを設定します。
Get-SPTtrustedIdentityTokenIssuer	ID プロバイダーを返します。
New-SPTtrustedIdentityTokenIssuer	ファームで ID プロバイダーを作成します。
Remove-SPTtrustedIdentityTokenIssuer	ファームから Security Token Service (STS) ID プロバイダーを削除します。
Set-SPTtrustedIdentityTokenIssuer	Web アプリケーションの ID プロバイダーを設定します。
Get-SPTtrustedRootAuthority	信頼できるルート証明機関を返します。
New-SPTtrustedRootAuthority	信頼できるルート証明機関を作成します。
Remove-SPTtrustedRootAuthority	信頼できるルート証明機関を削除します。
Set-SPTtrustedRootAuthority	新しい信頼できるルート証明機関を作成します。
Get-SPTtrustedServiceTokenIssuer	ファームの信頼性を表すオブジェクトを返します。
New-SPTtrustedServiceTokenIssuer	SharePoint ファームで信頼関係を作成します。
Remove-SPTtrustedServiceTokenIssuer	ファームの信頼性を表すオブジェクトを削除します。

Set-SPTrustedServiceTokenIssuer	ファームとの信頼を更新します。
Get-SPUsageApplication	指定した利用状況アプリケーションを返します。
New-SPUsageApplication	新しい利用状況アプリケーションを作成します。
Remove-SPUsageApplication	ローカル ファームから利用状況アプリケーションを削除します。
Set-SPUsageApplication	利用状況アプリケーションのプロパティを設定します。
Get-SPUsageDefinition	利用状況定義オブジェクトを返します。
Set-SPUsageDefinition	利用状況プロバイダーの保持期間を設定します。
New-SPUsageLogFile	現在のサーバー コンピューターで新しい利用状況ログ ファイルを開始します。
Get-SPUsageService	Usage Service を返します。
Set-SPUsageService	Usage Service のプロパティを設定します。
Get-SPUser	特定の検索条件に一致する 1 つ以上のユーザー アカウントを返します。
Move-SPUser	SharePoint 2010 製品のユーザー アカウントを移行します。
New-SPUser	指定された権限を持つ SharePoint サイトに既存のユーザーを追加します。
Remove-SPUser	Web サイトからユーザーを削除します。
Set-SPUser	既存のユーザーのプロパティ

	イを構成します。
Add-SPUserSolution	ソリューション ギャラリーに新規のセキュリティで保護されたソリューションをアップロードします。
Get-SPUserSolution	指定したセキュリティで保護されたソリューションを返します。
Install-SPUserSolution	サイト コレクション内のセキュリティで保護されたソリューションを有効にします。
Remove-SPUserSolution	ソリューション ギャラリーからセキュリティで保護されたソリューションを削除します。
Uninstall-SPUserSolution	サイト コレクション内のセキュリティで保護されたソリューションを無効にします。
Update-SPUserSolution	ファーム内の有効になっているセキュリティで保護されたソリューションをアップグレードします。
Get-SPVisioExternalData	Visio Services アプリケーションの外部データ接続の設定を返します。
Set-SPVisioExternalData	Visio Services アプリケーションの外部データ接続に関連する設定を構成します。
Get-SPVisioPerformance	Visio Services アプリケーションのパフォーマンスに対する Visio Services の設定を返します。
Set-SPVisioPerformance	Visio Services アプリケーションのパフォーマンス プロパティを設定します。
Get-SPVisioSafeDataProvider	Visio Services アプリケーシ

	<p>ョンの安全なデータ プロバイダーの設定を返します。</p>
New-SPVisioSafeDataProvider	<p>Visio Services アプリケーションに新しいデータ プロバイダーを追加します。</p>
Remove-SPVisioSafeDataProvider	<p>Visio Services アプリケーションからデータ プロバイダーを削除します。</p>
Set-SPVisioSafeDataProvider	<p>Visio Services アプリケーションの安全なデータ プロバイダーの説明を指定します。</p>
Get-SPVisioServiceApplication	<p>1 つの Visio Services アプリケーションのプロパティまたは Visio Services アプリケーションのコレクションのプロパティを返します。</p>
New-SPVisioServiceApplication	<p>ファームに新しい Visio Services アプリケーションを追加します。</p>
Set-SPVisioServiceApplication	<p>Visio Services アプリケーションの ServiceApplicationPool プロパティを設定します。</p>
Get-SPVisioServiceApplicationProxy	<p>1 つの Visio Services アプリケーション プロキシのプロパティまたは Visio Services アプリケーション プロキシのコレクションのプロパティを返します。</p>
New-SPVisioServiceApplicationProxy	<p>ファームに新しい Visio Services アプリケーション プロキシを追加します。</p>
Export-SPWeb	<p>サイト コレクション、Web アプリケーション、リスト、またはライブラリをエクスポートします。</p>

Get-SPWeb	特定の条件に一致するすべてのサブサイトを返します。
Import-SPWeb	サイト コレクション、Web アプリケーション、リスト、またはライブラリをインポートします。
New-SPWeb	既存のサイト コレクションで新しいサイトを作成します。
Remove-SPWeb	指定した Web を完全に削除します。
Set-SPWeb	指定したサブサイトを構成します。
Get-SPWebAnalyticsServiceApplication	Web Analytics Service アプリケーションの設定を返します。
New-SPWebAnalyticsServiceApplication	ファームに新しい Web Analytics Service アプリケーションを追加します。
Set-SPWebAnalyticsServiceApplication	Web Analytics Service アプリケーションのプロパティを設定します。
Get-SPWebAnalyticsServiceApplicationProxy	新しい Web Analytics Service アプリケーション プロキシを取得します。
New-SPWebAnalyticsServiceApplicationProxy	ファームに新しい Web Analytics Service アプリケーション プロキシを追加します。
Set-SPWebAnalyticsServiceApplicationProxy	Web Analytics Service アプリケーションの新しいプロキシを設定します。
Get-SPWebApplication	特定の条件に一致するすべての Web アプリケーションを返します。
New-SPWebApplication	ローカル ファーム内で新

	新しい Web アプリケーションを作成します。
Remove-SPWebApplication	指定した Web アプリケーションを削除します。
Set-SPWebApplication	指定した Web アプリケーションを構成します。
New-SPWebApplicationExtension	Web アプリケーションの新しいゾーン インスタンスを作成します。
Disable-SPWebApplicationHttpThrottling	Web アプリケーションのネットワーク調整を無効にします。
Enable-SPWebApplicationHttpThrottling	Web アプリケーションのネットワーク調整を有効にします。
Get-SPWebApplicationHttpThrottlingMonitor	Web アプリケーションのネットワーク調整のすべてのカウンターを読み込みます。
Set-SPWebApplicationHttpThrottlingMonitor	指定した Web アプリケーションの既存のネットワーク調整パフォーマンス カウンターの正常性スコアのバケット値を設定します。
Get-SPWebPartPack	指定した範囲にインストールされた Web パーツ パッケージを返します。
Install-SPWebPartPack	指定した Web パーツ パッケージを指定した場所にインストールします。
Uninstall-SPWebPartPack	指定した Web パーツ パッケージをアンインストールします。
Get-SPWebTemplate	特定の ID に一致するグローバルにインストールされたサイト テンプレートをすべて表示します。

Install-SPWebTemplate	特定のサイト テンプレート をインストールします。
Set-SPWebTemplate	インストールされたサイト テンプレートのタイトルと 説明を変更します。
Uninstall-SPWebTemplate	特定のサイト テンプレー トをアンインストールしま す。
New-SPWordConversionServiceApplication	ファームで Word Automation Services アプリ ケーションの新しいイン スタンスを作成します。
Set-SPWordConversionServiceApplication	Word Automation Services アプリケーションのプロパ ティを設定します。
Remove-SPWordConversionServiceJobHistory	Word Automation Services のジョブ履歴データベース からエントリを削除しま す。
Get-SPWorkflowConfig	指定した Web アプリケー ションのワークフロー設定 を返します。
Set-SPWorkflowConfig	指定した Web アプリケー ションのワークフロー設定 を構成します。

Windows PowerShell コマンドレットに対する更新 (SharePoint Server 2010)

この記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 のベータ リリース以降に変更されたか、使用できなくなった Windows PowerShell コマンドレットを示します。

ベータ版	製品版
Get-SPIisWebServiceApplicationPool	Get-SPServiceApplicationPool
New-SPIisWebServiceApplicationPool	New-SPServiceApplicationPool
Remove-SPIisWebServiceApplicationPool	Remove-SPServiceApplicationPool
Set-SPIisWebServiceApplicationPool	Set-SPServiceApplicationPool
Get-SPSecurityTokenServiceManager	Get-SPSecurityTokenServiceConfig
Set-SPSecurityTokenServiceManager	Set-SPSecurityTokenServiceConfig
Get-SPServiceEndpoint	Get-SPServiceApplicationEndpoint
Set-SPServiceEndpoint	Set-SPServiceApplicationEndpoint
Get-SPIisWebServiceSettings	Get-SPServiceHostConfig
Set-SPIisWebServiceSettings	Set-SPServiceHostConfig
Get-SPTopologyWebServiceApplication	Get-SPTopologyServiceApplication
Set-SPTopologyWebServiceApplication	Set-SPTopologyServiceApplication
Get-SPTopologyWebServiceProxy	Get-SPTopologyServiceApplicationProxy
Set-SPTopologyWebServiceProxy	Set-SPTopologyServiceApplicationProxy
Remove-SPBusinessDataCatalogThrottleConfig	このコマンドレットは使用できなくなりました。
Get-SPSecurityTokenService	Get-SPSecurityTokenServiceConfig
Set-SPSecurityTokenService	Set-SPSecurityTokenServiceConfig
Set-FASTSearchQRProxyMOSSConfiguration	このコマンドレットは使用できなくなりました。
Install-SPWebTemplate	このコマンドレットは使用できなくなりました。

ベータ版	製品版
	た。

Stsadm と Windows PowerShell 間のマッピング (SharePoint Server 2010)

ここでは、Stsadm 操作および同等の Windows PowerShell コマンドレットについて説明します。操作とコマンドレット間に一対一のマッピングがない場合は、同じ機能を取得するために使用する必要がある特定の Windows PowerShell パラメーターを示します。

Stsadm 操作	Windows PowerShell コマンドレット
Activatefeature	Enable-SPFeature
Activateformtemplate	Enable-SPInfoPathFormTemplate
Addalternatedomain	New-SPAAlternateUrl
Addcontentdb	Mount-SPContentDatabase New-SPContentDatabase
Adddataconnectionfile	Install-SPDataConnectionFile
Add-ecsfiletrustedlocation	New-SPExcelFileLocation
Add-ecssafedataprotector	New-SPExcelDataProvider
Add-ecstrusteddataconnectionlibrary	New-SPExcelDataConnectionLibrary
Add-ecsuserdefinedfunction	New-SPExcelUserDefinedFunction
Addexemptuseragent	Add-SPInfoPathUserAgent
Addpath	New-SPManagedPath
Addpermissionpolicy	なし
Addsolution	Add-SPSolution
Addtemplate	Install-SPWebTemplate
Adduser	New-SPUser
Addwppack	Install-SPWebPartPack
Addzoneurl	New-SPAAlternateUrl
Allowuserformwebserviceproxy	Set-SPInfoPathWebServiceProxy

	AllowForUserForms パラメーターおよび Identity パラメーターを使用してください。
Allowwebserviceproxy	Set-SPInfoPathWebServiceProxy AllowWebServiceProxy パラメーター Identity パラメーターを使用してください。
Authentication	Set-SPWebApplication AuthenticationMethod パラメーターまたは AuthenticationProvider パラメーターを使用してください。
Backup	Backup-SPConfigurationDatabase Backup-SPFarm Backup-SPSite
Backuphistory	Get-SPBackupHistory
Binddrsservice	なし
Blockedfilelist	なし
Canceldeployment	なし
Changepermissionpolicy	なし
Copyappbincontent	なし
Createadminvs	New-SPCentralAdministration
Creategroup	なし
Createsite	New-SPSite
Createsiteinnewdb	New-SPSiteContentDatabase パラメーターを使用してください。 New-SPContentDatabase
Createweb	New-SPWeb
Databaserepair	なし
Deactivatefeature	Disable-SPFeature
Deactivateformtemplate	Disable-SPInfoPathFormTemplate
Deleteadminvs	なし
Deletealternatedomain	Remove-SPAlternateUrl
Deleteconfigdb	Remove-SPConfigurationDatabase

Deletecontentdb	Dismount-SPContentDatabase
Deletegroup	なし
Deletepath	Remove-SPManagedPath
Deletepermissionpolicy	なし
Deletesite	Remove-SPSite
Deletesolution	Remove-SPSolution
Deletetemplate	Uninstall-SPWebTemplate
Deleteuser	Remove-SPUser
Deleteweb	Remove-SPWeb
Deletewppack	Uninstall-SPWebPartPack
Deletezoneurl	Remove-SPAlternateUrl
Deploysolution	Install-SPSolution
Deploywppack	Install-SPWebPartPack
Disablescc	なし
Displaysolution	Get-SPSolution
Editcontentdeploymentpath	Set-SPContentDeploymentPath
Email	なし
Enablescc	なし
Enumalternatedomains	Get-SPAlternateURL
Enumcontentdbs	Get-SPContentDatabase
Enumdataconnectionfiledependants	Get-SPDataConnectionFileDependent
Enumdataconnectionfiles	Get-SPDataConnectionFile
Enumdeployments	なし
Enumexemptuseragents	Get-SPInfoPathUserAgent
Enumformtemplates	Get-SPInfoPathFormTemplate
Enumgroups	なし
Enumroles	なし
Enumservices	Get-SPServiceInstance

Enumsites	<p>Get-SPSiteAdministration (このコマンドレットを実行するには、Farm Administrators グループのメンバーである必要があります。)</p> <p>Get-SPSite (このコマンドレットを実行するには、SharePoint 2010 製品のインストール先コンピューターのローカル管理者である必要があります。)</p>
Enumsolutions	Get-SPSolution
Enumsubwebs	Get-SPWeb
Enumtemplates	Get-SPWebTemplate
Enumusers	Get-SPUser
Enumwppacks	Get-SPWebPartPack
Enumzoneurls	Get-SPAAlternateURL
Execadmsvcjobs	Start-SPAdminJob
Export	Export-SPWeb
Extendvs	New-SPWebApplication
Extendvsinwebfarm	New-SPWebApplicationExtension
Forcedeletelist	なし
Getadminport	<p>Get-SPWebApplication</p> <p>次の構文を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Get-SPWebApplication -IncludeCentralAdministration ? {\$_IsAdministrationWebApplication -eq \$true}
Getdataconnectionfileproperty プロパティ	<p>Get-SPDataConnectionFile</p> <p>次の構文を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Get-SPDataConnectionFile where {\$_Name -eq "dataConFileName"} format-list
Getformtemplateproperty プロパティ	<p>Get-SPInfoPathFormTemplate</p> <p>次の構文を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Get-SPInfoPathFormTemplate where {\$_DisplayName -eq "formTemplateName"} format-list
Getosearchsetting	なし
GetProperty	<p>Get-SPFarmConfig</p> <p>Get-SPTimerJob</p>

	Disable-SPTimerJob Enable-SPTimerJob Set-SPTimerJob Start-SPTimerJob
Getsitelock	Get-SPSiteAdministration
Getsiteuseraccountdirectorypath	なし
Geturlzone	Get-SPAAlternateURL
Import	Import-SPWeb
Installfeature	Install-SPFeature
Listlogginglevels	Get-SPLogLevel
Listqueryprocessoroptions	なし
Listregisteredsecuritytrimmers	Get-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer
Localupgradestatus	なし
Managepermissionpolicylevel	なし
Mergecontentdbs	Move-SPSite
Migrateuser	Move-SPUser
Osearch	<p>Osearch パラメーター farmcontactemail、farmperformancelevel、farmserviceaccount、および farmservicepassword の場合は、Get-SPEnterpriseSearchService コマンドレットおよび Set-SPEnterpriseSearchService コマンドレットを使用してください。</p> <p>Osearch パラメーター start および stop の場合は、それぞれ Start-SPEnterpriseSearchServiceInstance コマンドレットおよび Stop-SPEnterpriseSearchServiceInstance コマンドレットを使用してください。</p> <p>Osearch パラメーター defaultindexlocation の場合は、Get-SPEnterpriseSearchServiceInstance コマンドレットおよび Set-SPEnterpriseSearchServiceInstance コマンドレットを使用してください。</p>
Osearchdiacriticsensitive	Get-SPEnterpriseSearchServiceApplication コマンドレットを使用して特定の Search Service アプリケーションを取得してから、 Set-SPEnterpriseSearchServiceApplication コマンドレット

	の DiacriticSensitive パラメーターを使用してください。
Provisionservice	Start-SPServiceInstance
Quiescefarm	なし
Quiescefarmstatus	なし
Quiesceformtemplate	Stop-SPInfoPathFormTemplate
Reconvertallformtemplates	Update-SPInfoPathFormTemplate
Refreshdms	なし
Refreshsitedms	なし
Registersecuritytrimmer	New-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer
Registerwsswriter	なし
Removedataconnectionfile	Uninstall-SPDataConnectionFile
Remove-ecsfiletrustedlocation	Remove-SPExcelFileLocation
Remove-ecssafedataprovider	Remove-SPExcelDataProvider
Remove-ecstrusteddataconnectionlibrary	Remove-SPExcelDataConnectionLibrary
Remove-ecsuserdefinedfunction	Remove-SPExcelFileLocation
Removedrservice	なし
Removeexemptuseragent	Remove-SPInfoPathUserAgent
Removeformtemplate	Uninstall-SPInfoPathFormTemplate
Removesolutiondeploymentlock	なし
Renameserver	Rename-SPServer
Renamesite	Set-SPSite Url パラメーターを使用してください。
Renameweb	Set-SPWeb RelativeUrl パラメーターを使用してください。
Restore	Restore-SPFarm Restore-SPSite
Retractsolution	Uninstall-SPSolution

Retractwppack	なし
Runcontentdeploymentjob	Start-SPContentDeploymentJob
Scanforfeatures	Install-SPFeature Scanforfeatures パラメーターを使用してください。
Setadminport	Set-SPCentralAdministration
Setapppassword	なし
Setconfigdb	Connect-SPConfigurationDatabase
Setcontentdeploymentjobschedule	Set-SPContentDeploymentJob
Setdataconnectionfileproperty	Set-SPDataConnectionFile
Set-ecsexternaldata	Set-SPExcelFileLocation
Set-ecslloadbalancing	Set-SPExcelServiceApplication LoadBalancingScheme パラメーターを使用してください。
Set-ecsmemoryutilization	Set-SPExcelServiceApplication MemoryCacheThreshold パラメーターおよび PrivateBytesMax パラメーターを使用してください。
Set-ecssecurity	Set-SPExcelServiceApplication CrossDomainAccessAllowed パラメーター、 EncryptedUserConnectionRequired パラメーター、および FileAccessMethod パラメーターを使用してください。
Set-ecssessionmanagement	Set-SPExcelServiceApplication SessionsPerUserMax パラメーターおよび SiteCollectionAnonymousSessionsMax パラメーターを使用してください。
Set-ecsworkbookcache	Set-SPExcelServiceApplication Workbookcache パラメーターおよび WorkbookCacheSizeMax パラメーターを使用してください。
Setformtemplateproperty	Set-SPInfoPathFormTemplate
Setlogginglevel	Set-SPLogLevel
Setosearchsetting	なし

Setproperty	Set-SPFarmConfig Get-SPTimerJob Disable-SPTimerJob Enable-SPTimerJob Set-SPTimerJob Start-SPTimerJob
Setqueryprocessoroptions	なし
Setsitelock	Set-SPSiteAdministration LockState パラメーターを使用してください。
Setsiteuseraccountdirectorypath	Get-SPSiteSubscription New-SPSiteSubscription Remove-SPSiteSubscription
Setworkflowconfig	Set-SPWorkflowConfig
Siteowner	Set-SPSiteAdministration
Syncsolution	Install-SPSolution Synchronize パラメーターを使用してください。
Unextendvs	Remove-SPWebApplication
Uninstallfeature	Uninstall-SPFeature
Unquiescefarm	なし
Unquiesceformtemplate	Start-SPInfoPathFormTemplate
Unregistersecuritytrimmer	Remove-SPEnterpriseSearchSecurityTrimmer
Unregisterwsswriter	なし
Updateaccountpassword	Set-SPManagedAccount
Updatealerttemplates	なし
Updatefarmcredentials	なし
Upgrade	なし
Upgradeformtemplate	Install-SPInfoPathFormTemplate
Upgradesolution	Update-SPSolution
Upgradetargetwebapplication	なし
Uploadformtemplate	Install-SPInfoPathFormTemplate

Userrole	Get-SPUser Move-SPUser New-SPUser Remove-SPUser Set-SPUser
Verifyformtemplate	Test-SPInfoPathFormTemplate

System Center Operations Manager のナレッジ項目 (SharePoint Server 2010)

このセクション内の記事は、Microsoft System Center Operations Manager 2007 用の Microsoft SharePoint Server 2010 管理パックのナレッジ項目です。通常、これらの記事は、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を参照して、SharePoint Server 2010 のトラブルシューティングおよび問題の解決に役立てることができます。

このセクションの内容

- [SharePoint Server 2010 の Access Services のナレッジ項目](#)
- [SharePoint Server 2010 の Excel Services アプリケーションのナレッジ項目](#)
- [SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services に関するナレッジ記事](#)
- [Managed Metadata services in SharePoint Server 2010 knowledge articles \(英語\)](#)
- [SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services のナレッジ項目](#)
- [SharePoint Server 2010 の Search Services のナレッジ項目](#)
- [SharePoint Server 2010 の Visio Services のナレッジ項目](#)
- [User Profile Synchronization Configuration Service が SQL Server に接続できません - イベント 4 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [ULS でログ ディレクトリ用の十分なディスクの空き領域がありません - イベント 2150](#)
- [イベント ログのオーバーフロー - イベント 2158、2159](#)
- [SQL Server データベースのログインに失敗しました - イベント 3351](#)
- [適切な権限がないためバックアップに失敗しました - イベント 3353 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [SQL Server に接続できません - イベント 3355](#)
- [アプリケーション プール アカウントが Active Directory にユーザー アカウントを追加できません - イベント 3359 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [Active Directory 組織単位が登録解除された - イベント 3360 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [SQL Server データベースがいっぱいです - イベント 3758](#)
- [データベースにアクセスできませんでした - Event 3760 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [コンテンツ展開ジョブが失敗しました - イベント 4958、5323、5325、5335](#)
- [コンテンツ データベースが読み取り専用です - イベント 4971](#)
- [個人用サイトを作成できません - イベント 5187 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [ユーザー プロファイルの変更をコミットできません - イベント 5188 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [適切な SQL Server データベース権限がありません - イベント 5214](#)
- [トレース ログに書き込めません - イベント 5401](#)

- [同期ジョブをスケジュールできませんでした - イベント 5556 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [不明な SQL 例外 - イベント 5586](#)
- [対象ユーザーのコンパイルに失敗しました - イベント 5693 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [SharePoint Server とディレクトリのデータの同期に失敗しました - イベント 6000-6099 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [SharePoint Foundation でサイトの作成に失敗しました - イベント 6141 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [認証プロバイダーを読み込むことができません - イベント 6143 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [User Profile Synchronization Service で予期しないエラーが発生しました - イベント 6300 ~ 6309 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [構成データ キャッシュに書き込むための適切な権限がありません - イベント 6395](#)
- [代替アクセス マッピングの更新に失敗しました - イベント 6397](#)
- [SPServiceInstance タイマーの実行が失敗しました - イベント 6398](#)
- [ULS で十分なディスクの空き領域がありません - イベント 6457](#)
- [レジストリへの書き込みアクセスが拒否されました - イベント 6588](#)
- [ディスクへの書き込みアクセスが拒否されました - イベント 6589](#)
- [アプリケーション プール アカウントは、Kerberos として登録されている必要があります - イベント 6590](#)
- [SMTP サービスが実行していない - イベント 6599 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [イベント ハンドラーが読み込みに失敗しました - イベント 6644 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [製品ヘルプ ライブラリのアクセス許可 - イベント 6769](#)
- [送信 SMTP サーバーの名前を解決できません - イベント 6856 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [SMTP ホストに接続できません - イベント 6857](#)
- [SMTP サーバーとの通信中にエラーが発生しました - イベント 6858 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [SharePoint リストが電子メールを受信できない - イベント 6872 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [電子メール サービスが電子メールを配信できません - イベント 6873 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [イベント レシーバーが失敗しました - イベント 6875 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [サービス インスタンスの準備が失敗しました - イベント 7034 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [バックアップ タイマー ジョブを作成できませんでした - イベント 7035 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [サーバーの全体管理の更新が失敗しました - イベント 7037 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [Secure Store の資格情報の再暗号化が失敗しました - イベント 7510 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Secure Store がマスター暗号化キーを取得できません - イベント 7535](#)
- [Secure Store の SQL 例外 - イベント 7551 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Secure Store プロキシの予期しない例外 - イベント 7557 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [調整開始アラート - イベント 8032、8062](#)
- [エンド ポイントを取得できません - イベント 8070](#)

- [リモート ファームからサービス アプリケーションの一覧を取得できません - イベント 8071 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [ログ フォルダーが存在しない - イベント 8074 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [利用状況タイマー ジョブが失敗する - イベント 8075 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [Business Data Connectivity Service - BDC データベース アダプター接続例外 - イベント 8080 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [Business Data Connectivity Service - SQL 例外 - イベント 8086 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [ULS トレース ログのサイズが制限に達しようとしています - イベント 8094 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [ULS 利用状況ログのサイズが上限に近づいています - イベント 8095](#)
- [STS 署名証明書がありません - イベント 8303 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [STS で資格情報に署名できません - イベント 8304 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [クレームがエンドポイントを確立できません - イベント 8305 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [STS クレーム プロバイダー エラー - イベント 8307 \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [管理サービスが実行されていません](#)
- [バックエンド サーバーに到達できません \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [ドキュメントの変換が頻繁に失敗する \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Document Conversions Launcher を使用できません](#)
- [Document Conversions Load Balancer を使用できません](#)
- [ナレッジ項目をまだ利用できません](#)
- [サンドボックスで保護されたコードが実行されています](#)
- [SharePoint Administration サービスが無効になっています](#)
- [SharePoint Foundation 2010 の検索が実行されていません](#)
- [SharePoint Health Analyzer でエラーまたは警告が検出されました \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [SharePoint Timer Service を開始できませんでした](#)
- [SharePoint Timer Service が実行されていません](#)
- [SQL Server リモート アクセスが無効になっています \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [トレース サービスが実行されていません](#)
- [許容できない表示応答時間 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [ユーザー プロファイル構成サービスが開始していません \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [User Profile Synchronization Service が開始されていません \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Web アプリケーションによるページの表示に時間がかかりすぎています \(SharePoint 2010 Products\)](#)
- [Web アプリケーションが使用できない \(SharePoint 2010 製品\)](#)
- [Web サイトが使用できない \(SharePoint 2010 製品\)](#)

SharePoint Server 2010 の Access Services のナレッジ項目

このセクション内の記事は、Microsoft SharePoint Server 2010 の Access Services のナレッジ項目です。通常、これらの記事は、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を参照して、Access Services のトラブルシューティングおよび問題の解決に役立てることができます。

このセクションの内容

- [Access Services - 構成データベースへのアクセスに失敗しました - イベント 1](#)
- [Access Services がセッション キャッシュを作成できません - イベント 11](#)
- [Access Services でメモリが不足しています - イベント 16](#)
- [Access Services が計算ライブラリの読み込みに失敗しました - イベント 17](#)
- [Access Services テンプレートの入出力エラー - イベント 21](#)
- [Access Services との通信に失敗しました - イベント 24、25、26](#)
- [Access Data Services は使用できなくなりました - イベント 28](#)
- [Access Services のサーバーを使用できません - イベント 29](#)

Access Services – 構成データベースへのアクセスに失敗しました – イベント 1

アラート名: 構成データベースへのアクセスに失敗しました

イベント ID: 1

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Access Services は、自身の設定を Microsoft SharePoint Server 2010 構成データベースに保存します。Access Services の Web フロントエンド サーバーまたはバックエンド サーバーのどちらかのコンポーネントが、その設定を構成データベースから読み取ることができませんでした。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- SharePoint の Access Services が起動しません。
- Access Services が Access Services アプリケーションを作成できません。
- ユーザーがブラウザーでアプリケーションを表示できないか、またはサービスを使用できません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 1 説明: Access Services: <構成データベース名> にアクセスしようとしたら、予期しない例外が発生しました。エラー = <例外メッセージ>
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 32 説明: 構成情報を取得できません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 33 説明: AccessWebServiceInstance を取得できません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 34 説明: プロキシ <Access Services プロキシの名前> に関連付けられたアプリケーションはありません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 35 説明: SharePoint Service コンテキストはありません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 36 説明: 既定の Access Services アプリケーション プロキシがありません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- 構成データベースでエラーが発生しています。
- Access Services が実行されているアプリケーション プールを実行するアカウントのアクセス権限が変更されたため、Access Services が SharePoint Server 2010 構成データベースにアクセスできなくなりました。
- Access Services のフロントエンド プロキシが削除されました。
- 既定に指定された Access Services のフロントエンド プロキシがありません。
- サービスの準備中に予期しないエラーが発生しました。

解決策 (イベント ID 1 および 32): データベース アクセス アカウントに適切な権限を与えます。

- この問題は、次のようにして解決します。まず、データベース アクセス アカウントの名前を見つけて、Microsoft SQL Server 2008 にそのデータベース アクセス アカウントを追加した後、アカウントに SQL Server 2008 の適切なアクセス権限があることを確認します。

メモ:

以下のタスクを実行するには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

データベース アクセス アカウントを見つけるには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、[セキュリティ] セクションの [サービス アカウントの構成] をクリックします。
2. [サービス アカウント] ページで、[資格情報の管理] セクションの上側のドロップダウンリストで、Access Services を実行しているアプリケーション プールを選択します。アプリケーション プールが選択されると、Access Services アプリケーションの名前 (たとえば、AccessDataService-Type) がテキスト ボックスの一覧に追加されます。
3. [このコンポーネントのアカウントの選択] ドロップダウン リストで選択されているアカウントを書き留めます。

データベース アカウントを SQL Server 2008 に追加するには

1. 管理者権限を持っているアカウントを使用して、SQL Server 2008 を実行するコンピューターに接続します。
2. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、[セキュリティ] ノードを展開して、[ログイン] ノードをクリックします。データベース アクセス アカウントの名前は、それが SQL ログインであることを示しています。
3. アカウントが存在する場合は、[データベース] ノード、構成データベース ノード、[セキュリティ] ノード、[ロール] ノードの順に展開します。
4. [データベース ロール] ノードを展開して、[db_reader] ロールをダブルクリックします。
5. [データベース ロールのプロパティ] ダイアログ ボックスで、データベース アクセス アカウントが [このロールのメンバー] の一覧に含まれているかどうかを確認します。そのアカウントが含まれていない場合は、[追加] をクリックします。

このアカウントが SQL Server の適切な権限を持っていることを確認するには

1. [スタート] ボタン、[すべてのプログラム]、[Microsoft SharePoint 2010 製品]、[SharePoint 2010 管理シェル] の順にクリックします。コマンド プロンプト ウィンドウが表示されます。
2. Windows PowerShell コマンド「`Get-SPAccessServiceApplication <アクセス サービスの名前> | format-table`」を入力します。
3. このコマンドは、Access Services アプリケーションを検索して、一部の設定の値を表示します。これらの値は、構成データベースから読み取られます。


Access Services の既定のプロキシがあることを確認する

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [アプリケーション構成の管理] ページで、[サービス アプリケーション] の [サービス アプリケーションの関連付けの構成] をクリックします。
3. [サービス アプリケーションの関連付け] ページで、Web アプリケーションの [アプリケーション プロキシ グループ] 列に列挙されているプロキシを確認します。

4. [サービス アプリケーションの関連付けの構成] ダイアログで、
[AccessDataServiceInstance – Access Services Web サービス アプリケーション プロキシ]
チェック ボックスがオンになっていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. [AccessDataServiceInstance – Access Services Web サービス アプリケーション プロキシ]
チェック ボックスが存在しない場合は、サーバーに Access Services を再準備します。

Access Services を再準備する

1. Access Services アプリケーションがファーム内に 1 つだけある場合は、新しい Access Services を準備する前に、そのアプリケーションを削除することもできます。これにより、確実にすべてのプロキシがクリーンアップされます。既存の Access Services アプリケーションを削除するには以下の手順を実行します。
 - a) サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
 - b) [アプリケーション構成の管理] ページで、[サービス アプリケーション] の [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
 - c) [サービス アプリケーションの管理] ページで、[Access Services Web サービス アプリケーション] を強調表示して、リボンの [削除] をクリックします。

 **重要:**

[サービス アプリケーションに関連するデータを削除する] チェック ボックスはオンにしないでください。

[サービス アプリケーションの削除] ダイアログで、[OK] をクリックします。
2. 新しい Access Services アプリケーションをサーバーに追加するには以下の手順を実行します。
 - a) サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
 - b) [アプリケーション構成の管理] ページで、[サービス アプリケーション] の [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
 - c) [サービス アプリケーションの管理] ページで、リボンの [新規] をクリックして、[Access Services] を選択します。
 - d) [新しい Access Services アプリケーションの作成] ダイアログで、[名前] に Access Services アプリケーションの名前を入力します。この名前は、すべての Access Services アプリケーション間で一意であることが必要です。
 - e) [アプリケーション プール] で、既存のアプリケーション プールを再利用するか、新しいアプリケーション プールを作成して、そのアプリケーション プールを実行するアカウントを選択します。
 - f) [OK] をクリックします。

Access Services がセッション キャッシュを作成できません - イベント 11

アラート名: Access Services がセッション キャッシュを作成できません

イベント ID: 11

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Access Services は、Access Services のバックエンド サーバー コンピューターでセッションでのクエリ結果を保持します。この場合の問題は、Access Services のサーバー コンピューターが、クエリ結果のキャッシュのためのセッションの作成に失敗したことです。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- サーバーで実行される Access Services アプリケーションが、フォーム、レポート、または表形式のビューでデータを表示できません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 11 説明: Access Services: アプリケーション <アプリケーション名> のセッション用キャッシュを作成できません。例外メッセージ: <例外メッセージ>

原因: SharePoint の Access Services のサーバー コンピューターが、不安定な状態にあります。

解決策: Access Services のコンピューターを再起動します。

- メモリを解放して問題のない状態に戻すために、Access Services のコンピューターを再起動します。

Access Services でメモリが不足しています – イベント 16

アラート名: Access Services でメモリが不足しています

イベント ID: 16

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Access Services コンピューターは、クエリのキャッシュ結果を保持するセッションを維持し、大量のメモリを使用するその他の操作を実行します。Access Services サーバー コンピューターでメモリが不足しているか、ほとんど使い切っています。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Web ブラウザー内の Access アプリケーションでタイムアウトが発生したり、応答が非常に遅くなります。
- ユーザーが、自分の Access Services アプリケーションをブラウザーに読み込んだり、ブラウザーで表示したりできません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 16 ADS ボックス <コンピューター名> のメモリが不足しています。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

1. バックエンド サーバー コンピューター上の SharePoint の Access Services によって使用されているメモリ量が大きくなりすぎました。
2. Access Services サーバー コンピューターに対する過剰なトラフィックがあり、コンピューターがサービスを提供できるユーザー数を超えています。

解決策: Access Services を再起動します。

1. ファーム内に展開環境のユーザー数をサポートするだけの Access Services サーバー コンピューターがあるかどうかを検討します。ファーム内に Access Services コンピューターを追加すると、個々の Access Services コンピューターのトラフィック量が減少し、メモリ要件が緩和されます。
2. サーバーの全体管理 Web サイトを使用して、Access Services の “セッションの最大メモリサイズ” の値を小さくします。
 - a) SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、サイド リンク バーの [アプリケーション構成の管理] をクリックし、[サービス アプリケーション] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。Access Services アプリケーションの [種類] 列に、[Access Services Web サービス アプリケーション] が表示されていることに注意してください。
 - b) [名前] 列で、メモリ不足が発生している Access Services アプリケーションをクリックします。
 - c) [Access Services の管理] ページの [セッションの管理] セクションで、[セッションの最大メモリ サイズ] に現在より小さい値を入力して、[OK] をクリックします。

3. Access Services コンピューターを再起動して、メモリの空き領域を増やして、Access Services コンピューターを既知の正常な状態に戻します。

Access Services が計算ライブラリの読み込みに失敗しました – イベント 17

アラート名: Access Services が計算ライブラリの読み込みに失敗しました

イベント ID: 17

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Access Services は、セッション情報とクエリのキャッシュを有効にするために、重要な DLL ファイルである ascalc.dll に依存します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Access Services が、起動に失敗するか、Access Services アプリケーションの作成に失敗します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 17 説明: ASCalc.dll (<ファイルへのパス>) の読み込みに失敗しました。

原因: ascalc.dll ファイルが壊れたか、ディスク上に存在しません。

解決策: インストールを修復します。

1. Microsoft SharePoint Server 2010 のセットアップを実行して、インストールを修復するためのオプションを選択します。
2. セットアップ ウィザードで、必要な手順を実行します。

Access Services テンプレートの入出力エラー – イベント 21

アラート名: Access Services テンプレートの入出力エラー

イベント ID: 21

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Access Services は、サーバー上の SharePoint の Access Services アプリケーションの実装として、Web サイトを作成します。Access Services が Web 上に Access Services アプリケーションを作成しようとしたが、そのサイトを作成するために使用されるテンプレート ファイルの読み取り時にエラーが発生しました。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーが、指定した Access Services テンプレートから新しいサイトを作成できません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 21 説明: Access Services: サイトの作成中にファイルの読み込みエラーが発生しました。エラーが発生したファイル: <ファイルへのパス>

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

1. Access Services テンプレート ファイルが壊れています。
2. Access Services テンプレート ファイルが見つかりません。

解決策: ユーザー定義のテンプレートを再インストールします。

- Access Services がインストールされている Microsoft SharePoint Server 2010 サーバー コンピューター上に、Access Services のカスタム テンプレートをインストールします。

解決策: Access Services に付属のテンプレートを再インストールします。

- SharePoint Server 2010 のセットアップを実行して、Access Services のインストールを修復します。

Access Services との通信に失敗しました – イベント 24、25、26

アラート名: Access Services との通信に失敗しました

イベント ID: 24、25、26

概要: フロントエンド Web アプリケーションが、特定の Microsoft SharePoint Server 2010 の Access Services バックエンド サーバー コンピューターに要求を送信し、予期しない例外を検出しました。これは、一時的な問題や、特定のサーバー コンピューターの問題を示している可能性があります。このような場合、フロントエンド Web アプリケーションは、他のバックエンド サーバー コンピューターへの負荷分散を試みます。Access Services サーバー コンピューターは、クエリを実行する必要があります。また、それらのクエリのためにキャッシュの状態を維持しておく必要もあります。

現象:

- イベント ログに、次のようなメッセージが表示されることがあります。イベント ID: 24 説明: Access データベース サービスとの通信でエラーが発生しました。例外: <例外の説明> [セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]
- イベント ログに、次のようなメッセージが表示されることがあります。イベント ID: 25 説明: Access データベース サービスとの通信でエラーが発生しました。例外: <例外の説明> [セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]
- イベント ログに、次のようなメッセージが表示されることがあります。イベント ID: 26. 説明: Access データベース サービスに到達できませんでした。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: SharePoint の Access Services サーバー コンピューターが不安定な状態で、再起動が必要な場合もあります。

- Web フロント エンドが、Access Data Services サーバーへの接続を試みる際に、一時的なエラーを検出しました。
- 特定の Access Data Services サーバーが無効な状態で、再起動が必要な場合もあります。

Access Data Services サーバーを再起動します。

1. 再起動する前に、頻繁に発生する問題であることを確認します。再起動によって自動的に解決するようであれば、それは一時的に発生する問題であると考えられます。
2. Access Data Services サーバーを再起動します。
3. 問題の頻繁な発生が続き、サーバーを再起動しても問題が解決されない場合は、サーバーのハードウェアが正しく機能していることを確認します。ハードウェアに問題がなければ、Access Services をサーバーに再インストールし、サーバーをファームに追加し直します。

Access Data Services は使用できなくなりました – イベント 28

アラート名: Access Services は使用できなくなりました

イベント ID: 28

概要: フロント エンド Access アプリケーションが、特定の Access Services サーバー コンピューターに要求を送信し、予期しない例外を検出しました。これは、一時的な問題や、サーバー コンピューターの問題を示している可能性があります。このような場合、フロント エンド Access アプリケーションは、他のサーバー コンピューターへの負荷分散を試みます。Access Services サーバー コンピューターは、一般的に Access Services のレポートで使用されるデータをクエリする必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Access Services アプリケーションがデータを更新できません。
- Access Services アプリケーションが読み込まれない、または正しく表示されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 28 説明: Access Data Services は使用できなくなりました。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- フロント エンド Access アプリケーションが、Access Services サーバー コンピューターに要求を送信したときに、一時的なエラーを検出しました。
- 特定の Access Services サーバー コンピューターが無効な状態で、再起動が必要です。
- ネットワーク関連のエラーが発生しているため、フロント エンド Access アプリケーションを実行するサーバーが Access Services サーバー コンピューターと通信できません。

解決策: サーバーを再起動します。

1. Access Services サーバー コンピューターを再起動する前に、System Center Operations Manager レポートを参照して、この問題の発生頻度を確認します。問題は断続的に発生しているが、Access Services が自動的に回復する場合は、上記の現象が継続しない限り、サーバー コンピューターを再起動しないでください。
2. Access Services サーバー コンピューターを再起動します。
3. 問題が頻繁に発生し、サーバーを再起動しても問題が解決されない場合は、サーバー コンピューターが正しく機能していることを確認します。Microsoft SharePoint Server をサーバー コンピューターに再インストールして SharePoint ファームに参加することが必要となる場合もあります。

Access Services のサーバーを使用できません

– イベント 29

アラート名: Access Services のサーバー コンピューターを使用できません

イベント ID: 29

概要: フロントエンドの Access アプリケーションのコンピューターから、Access Services が実行されているサーバー コンピューターを特定できないか、または要求を送信できません。Access Services のサーバー コンピューターは、Access Services のレポートで一般的に使用されるデータのクエリを行う必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Access Services によって、ブラウザーのフォーム、レポート、または、その他の Access アプリケーションのビューにデータがまったく表示されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 29 説明: ファームで使用できる Access Data Services がありません。[ユーザー: <ユーザー名>]

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Access Services のサーバー コンピューターが実行されていません。
- サーバー コンピューターで Access Services が起動されていません。
- フロントエンドの Access アプリケーションのプロキシが、Access Services の既定のプロキシグループの既定のメンバーではありません。

解決策: サーバーで Access Services が実行されていることを確認します。

1. サーバーの全体管理のホーム ページの [システム設定] セクションで、[このファームのサーバーの管理] をクリックします。
2. Access Database Service をホストするサーバー コンピューターを選択します。
3. [サーバーのサービス] ページで、[Access Services] の [状態] 列に [開始済み] と表示されているかどうかを確認します。表示されていない場合は、[処理] 列の [開始] をクリックします。

解決策: サービス アプリケーションのプロキシが Access Services の既定のメンバーであることを確認します。

1. SharePoint サーバーの全体管理のホーム ページで、サイドリンク バーの [アプリケーション構成の管理] をクリックします。[サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの関連付けの構成] をクリックします。
2. [サービス アプリケーションの関連付け] ページの [アプリケーション プロキシ グループ] 列で、フロントエンドの Access アプリケーションのプロキシ グループの名前をクリックします。プロキシ グループの既定の名前は [既定] です。
3. [サービス アプリケーションの関連付けの構成] ダイアログ ボックスで、Access Services のプロキシのチェック ボックスがオンになっていることを確認します。複数の Access

Services アプリケーション プロキシがあり、使用するプロキシの名前の後に [既定] と表示されていない場合は、チェック ボックスをオンにして、[既定に設定] をクリックします。

4. [OK] をクリックします。

SharePoint Server 2010 の Excel Services アプリケーションのナレッジ項目

このセクション内の記事は、Excel Services アプリケーション のナレッジ項目です。通常、これらの記事は、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を参照して、Excel Services アプリケーション のトラブルシューティングおよび問題の解決に役立てることができます。

このセクションの内容

- [Excel でユーザーが許可されていないセッションにアクセスしようとしてしました - イベント 2011](#)
- [Excel Services アプリケーション内部エラー - イベント 2026](#)
- [Excel Services アプリケーションの保存に失敗しました - イベント 3348](#)
- [Excel Services アプリケーションでの予期しないブックのエラー - イベント 5225](#)
- [Excel ブックのディスク キャッシュを作成できません - イベント 5226](#)
- [Excel Services アプリケーションとの接続を確立できません - イベント 5231、5233](#)
- [Excel Services アプリケーションとの通信エラー - イベント 5231 5239 5240](#)
- [Excel Services アプリケーションを使用できません - イベント 5234](#)
- [Excel Unable To Delegate Credentials - Event 5243](#)
- [Excel Services アプリケーションの構成データベースへのアクセスに失敗しました - イベント 5244](#)
- [Excel Services アプリケーションに構成されている最大メモリを超えました - イベント 5255](#)
- [Excel Services アプリケーションのメモリ割り当てに失敗しました - イベント 5256](#)
- [Excel Services アプリケーションがローカルで実行されていません - イベント 5271](#)
- [Excel に無効なファイル アクセス方法が構成されています - イベント 5557](#)
- [Excel Services アプリケーションのユーザー定義関数の例外 - イベント 6467](#)
- [Excel Services アプリケーションでローカライズ済みテンプレート ファイルが見つかりませんでした - イベント 7924](#)
- [Excel Services アプリケーションのテンプレート ファイルが見つかりません - イベント 7925](#)
- [Excel Services アプリケーションでの Null アクセス違反 - イベント 7926](#)
- [Excel Services アプリケーションでの Null 以外のアクセス違反 - イベント 7927](#)
- [Excel Services アプリケーションが配列範囲外の要素にアクセスを試みました - イベント 7928](#)
- [Excel ブックのディスク キャッシュがいっぱいです](#)

Excel でユーザーが許可されていないセッションにアクセスしようとした - イベント 2011

アラート名: Excel でユーザーが許可されていないセッションにアクセスしようとした
イベント ID: 2011

概要: Excel Services アプリケーション はユーザー単位でセッションを保持します。セッションでは、ワークブック計算、ユーザーが設定したパラメーター、ライブのワークブックでのユーザー操作、およびデータ更新操作の結果としてデータ ソースから返されたデータに関する状態が保持されます。セッションは、ユーザー単位、ワークブック単位で維持され、機密データや情報を保持できます。セッションは、そのセッションを開始したユーザーのみが利用できます。この場合の問題は、セッションを開始していないユーザーが、そのセッションからデータへのアクセスを試みたということです。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 他のユーザーが開始したセッションへのアクセスを試行したユーザーが、ワークブックを表示できません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 2011 説明: ユーザー <ユーザー名> が許可されていないセッションにアクセスしようとした。セッションはユーザー <セッションを開始したユーザーのユーザー名> が所有しています。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: そのセッションを開始したユーザーとは別のユーザーが、セッションからデータを要求しました。

Excel Services アプリケーション内部エラー – イベント 2026

アラート名: Excel Services アプリケーション内部エラー

イベント ID: 2026

概要: Excel Services アプリケーションのサーバーは、ブックの読み込み、最新の情報への更新、および再計算を行い、ユーザーのセッション状態を維持します。このアラートは、Excel Services アプリケーションのサーバーに予期しない内部エラーが発生したことを示します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 一部のユーザー セッションが中断され、ブラウザー内のブックが応答を停止します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 2026 説明: 内部エラーが発生しました。〈エラー メッセージ〉

原因: Excel Services アプリケーション サーバーで予期しないエラーが発生しました。

解決策: サーバー コンピューターを再起動します。

- Excel Services アプリケーションは、サービスを再開することでこのイベントからの自動回復を試みます。このイベントの System Center Operations Manager (SCOM) モニターが開始されている場合は、このイベントが繰り返し発生しています。この問題を解決するには、Excel Services アプリケーションを実行するサーバー コンピューターを再起動します。

Excel Services アプリケーションの保存に失敗しました - イベント 3348

アラート名: Excel Services アプリケーション の保存に失敗しました

イベント ID: 3348

概要: Excel Services アプリケーション のサーバーは、ブックの読み込み、最新の情報への更新、および再計算を行い、ユーザーのセッション状態を維持します。Excel Services アプリケーション のサーバーがブック ファイルの保存に失敗しました。ユーザーは自分のブックの変更を保存できない可能性があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーが、ブラウザーでブックの編集集中に行った変更を保存できないことを通知するエラー メッセージを受け取ります。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 3348 説明: <ブックの URL> の保存が途中で失敗しました。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- ファイルの編集または保存するためのユーザーのアクセス許可が、ブックの保存の開始と同時に取り消されました。
- コンテンツ データベースが使用できず、アクセスできません。

Excel Services アプリケーションでの予期しないブックのエラー – イベント 5225

アラート名: Excel Services アプリケーションでの予期しないブックのエラー

イベント ID: 5225

概要: Excel Services アプリケーション 用のサーバーが、ブックの読み込み、更新、および再計算と、ユーザー セッションの状態の維持を担当しています。Excel Services アプリケーション用のサーバーで予期しないエラーが発生し、ブックのセッションが終了しました。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Excel Services アプリケーション 上でユーザー セッションが中断されます。これによって、ブラウザ内のブックが応答しなくなったり、“エラーが発生しました”などのエラー メッセージが表示されたりします。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5225 説明: <ブックの URL> の実行中に、予期しない重大なエラーが発生しました。ブックは Excel Services アプリケーション 用のサーバーによってアンロードされます。このエラーが引き続き発生する場合は、ファイルの確認とコンテンツの検証を管理者に依頼してください。

原因: Excel Services アプリケーション のサーバーに、壊れた状態のブック ファイルが読み込まれました。

 **メモ:**

次の手順を実行するには、管理者の許可が必要です。

解決策: 影響のあるファイルを削除します。

1. イベント ログで、イベント ID 5225 で記録されたファイルへのパスを確認します。
2. そのパスを使用して、ディスク上、または SharePoint のブック ファイルのリスト内で、ファイルを見つけます。
3. ファイルを削除します。

解決策: Excel Services アプリケーションのサーバー コンピューターを再起動します。

- この問題が続いたり、多数のファイルや以前は正しく読み込まれていたファイルで発生する場合は、Excel Services アプリケーション のサーバー コンピューターを再起動します。

Excel ブックのディスク キャッシュを作成できません – イベント 5226

アラート名: Excel ブックのディスク キャッシュを作成できません

イベント ID: 5226

概要: Excel Services アプリケーションは読み込むブックをディスク上の一時キャッシュに保存します。この場合、ブックのディスク キャッシュを Excel Services アプリケーション サーバー コンピューター上に作成できません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Excel Services アプリケーションの起動が失敗します。
- サービスの準備が失敗します。
- ブックの読み込みが失敗します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5226 説明: <キャッシュのディスクの場所> でブックのキャッシュを作成したり、ブックのキャッシュにアクセスしたりできません。Excel Services アプリケーションはブックのキャッシュがないと機能しません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

1. Excel Services アプリケーションが実行されるアプリケーション プールを実行するアカウントに、Excel Services アプリケーション サーバー コンピューター上にディレクトリを作成するアクセス権限がありません。
2. Excel Services アプリケーション サーバー コンピューターのハード ディスクに問題があるか、ハード ディスクがいっぱいです。

解決策: サーバー コンピューターが機能していること、および十分なディスク空き領域があることを確認します。

- Excel Services アプリケーション サーバーを実行するコンピューターが正常に機能していること、および十分なディスク空き領域があることを確認します。ID 5226 のイベント ログ メッセージで Excel Services アプリケーション サーバーが使用するディスクを識別できます。

解決策: Excel Services アプリケーションを実行するアカウントが一時フォルダーを作成できることを確認します。

- Excel Services アプリケーションを実行するアカウントに、サーバー コンピューター上に一時フォルダーを作成する権限があることを確認します。サービスが新しい一時フォルダーを作成できるように既存の一時フォルダーを削除します。次の手順を実行して、Excel Services アプリケーションが実行されるアプリケーション プールを実行するアカウントを識別します。

アプリケーション プール アカウントを識別するには

1. [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をクリックし、[Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックし、[SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。

2. コマンド プロンプトで、アプリケーション プールの名前を取得するために、**Get-SPExcelServiceApplication** PowerShell コマンドレットの名前を入力します。このコマンドレットが返す **ApplicationPool** プロパティの値を書き留めます。
3. **[スタート]** ボタンをクリックし、**[管理ツール]** をポイントして、**[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]** をクリックします。
4. **[接続]** ウィンドウで、サーバー ノードを展開して、**[アプリケーション プール]** をクリックします。
5. 閲覧ウィンドウの **[機能ビュー]** の **[ID]** 列で、識別したアプリケーション プールに対するアカウントを書き留めます。

解決策: ブックのキャッシュの場所に対する権限を確認します。

- Excel Services アプリケーションが実行されるアプリケーション プールを実行するアカウントに、Excel Services アプリケーション サーバー コンピューター上にディレクトリを作成する権限があることを確認します。まず、ブックのキャッシュの場所を識別します。

ブックのキャッシュの場所を識別するには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトの **[アプリケーション構成の管理]** セクションで、**[サービス アプリケーションの管理]** をクリックし、**[名前]** 列の、問題の影響を受けている Excel Services アプリケーションの名前をクリックします。
2. **[Excel Services アプリケーションの管理]** ページで、**[グローバル設定]** をクリックし、**[ブックのキャッシュ]** セクションにある、**[ブックのキャッシュの場所]** テキスト ボックスのブックのキャッシュの場所を書き留めます。
3. **[ブックのキャッシュの場所]** ボックスが空の場合、Excel Services アプリケーションでは既定の場所 `%windir%\%temp` が使用されています。

ブックのキャッシュの場所に対する権限を確認するには

1. ブックのキャッシュの場所の親ディレクトリに移動します。既定の場所は、`<OS ドライブ>\%windows%\temp` です。
2. フォルダーを右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。**[<フォルダー名>のプロパティ]** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **[セキュリティ]** タブの **[グループ名またはユーザー名]** の一覧に、Excel Services アプリケーションが実行されるアプリケーション プールを実行するアカウントが表示されていることを確認します。このアカウントは一覧内のグループのメンバーである場合もあります。
4. アプリケーション プール アカウントが一覧内にない場合は、**[編集]** をクリックして、**[追加]** をクリックします。
5. アカウントの名前を入力し、**[OK]** をクリックします。
6. **[<フォルダー名>のプロパティ]** ダイアログ ボックスで、**[セキュリティ]** タブの **[詳細設定]** をクリックします。
7. **[<フォルダー名>のセキュリティの詳細設定]** ダイアログ ボックスで、アカウントの名前を選択して、**[編集]** をクリックします。
8. **[<フォルダー名>のセキュリティの詳細設定]** ダイアログ ボックスで、アカウントが選択されていることを確認して、**[編集]** をクリックします。
9. **[<フォルダー名>のアクセス許可エントリ]** ダイアログ ボックスで、**[許可]** に対してすべてのアクセス許可チェック ボックスがオンになっていること、および **[拒否]** に対してすべてのアクセス許可チェック ボックスがオフになっていることを確認します。

10. [OK] をクリックして、すべてのダイアログ ボックスを閉じます。

解決策: キャッシュを再作成できるように、ブックのキャッシュ ディレクトリ内の古い Excel Services アプリケーションのフォルダーを削除します。

1. ブックのキャッシュの親ディレクトリに移動します。既定の場所は、<OS ドライブ>:\windows\temp です。
2. ディレクトリに Excel Services アプリケーションのフォルダーが含まれている場合は、そのフォルダーを削除します。

解決策: iisreset 操作を実行して、サービスを再起動します。

- コンピューターで、[スタート] ボタン、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックして、[名前] ボックスに、「iisreset」と入力し、[OK] をクリックします。

Excel Services アプリケーションとの接続を確立できません – イベント 5231、5233

アラート名: Excel Services アプリケーション との接続を確立できません

イベント ID: 5231、5233

概要: フロントエンド Web アプリケーションが、Excel Services アプリケーション の特定のサーバーに要求を送信しましたが、そのサーバー コンピューターに接続できませんでした。このような場合、使用可能な Excel Services アプリケーション サーバーが別にあれば、Web フロント エンドはそのサーバーへの負荷分散を試みます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ブックの読み込みに失敗します。
- ブックは正常に読み込まれますが、読み込まれるまでに時間がかかります。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5231 説明: Excel Calculation Services <サーバーへの URL> は使用できなくなりました。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5233 説明: Excel Calculation Services <サーバーへの URL> は使用できなくなりました。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Excel Services アプリケーション サーバー コンピューターが無効になっているか、ネットワークから切断されています。
- Excel Services アプリケーション サーバー コンピューターで深刻な問題が発生し、使用不能になっています。

サーバーが起動して、ネットワークに接続できることを確認します。

1. Excel Services アプリケーション を実行するサーバーが有効で、稼働していることを確認します。
2. Excel Services アプリケーション を実行するサーバーがネットワークに接続できることを確認し、ネットワーク上の他のコンピューターから、そのサーバーに接続できることを確認します。
3. サーバーが起動して、ネットワークに接続できるが、問題が解決されない場合は、Excel Services アプリケーション を再インストールしてサーバーをファームに追加し直します。

Excel Services アプリケーションとの通信エラー – イベント 5231 5239 5240

アラート名: Excel Services アプリケーションとの通信エラー

イベント ID: 5231、5239、5240

概要: フロントエンド Web アプリケーションが Excel Services アプリケーションの特定のサーバーに要求を送信しましたが、予期しない例外が発生しました。これは、一時的な問題またはその特定のサーバー コンピューターの問題を示している可能性があります。こうした場合、Web フロントエンド アプリケーションは別のサーバー コンピューターに負荷を分散しようとします。Excel Services アプリケーション サーバーは、ブックを読み込み、それらのブックのセッション状態を維持する必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ブックの読み込みに時間がかかります。
- ブックの読み込みに失敗します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5231 説明: Excel Calculation Services <コンピューターの URL> に接続できません。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5239 説明: Excel Calculation Services <コンピューターの URL> との通信中にエラーが発生しました。例外: <例外メッセージ> [セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5240 説明: Excel Calculation Services <コンピューターの URL> との通信中にエラーが発生しました。例外: <例外メッセージ> [セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: Excel Services アプリケーション サーバー コンピューターが有効でない状態にあるので、再起動が必要な可能性があります。

サーバーを再起動する

1. 再起動する前に、この問題が頻繁に発生することを確認してください。自動的に修正される、サーバーの再起動までは必要ない一時的な問題である可能性があります。
2. 問題が頻繁に発生する場合は、Excel Services アプリケーションを実行しているサーバーを再起動します。
3. 問題が依然として頻繁に発生し、サーバーの再起動では問題が解決しなかった場合は、サーバーのハードウェアが正常に機能していることを確認します。または、Excel Services アプリケーションを再インストールしてそのサーバーをサーバー ファームに追加します。

Excel Services アプリケーションを使用できません - イベント 5234

アラート名: Excel Services アプリケーションを使用できません

イベント ID: 5234

概要: フロントエンド Web アプリケーション コンピューターが、Excel Services アプリケーションのサーバーを特定して要求を送信できません。Excel Services アプリケーションのサーバー コンピューターはブックを読み込む必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ブックが Excel Services アプリケーション サーバーに読み込まれません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5234 説明: ファームで使用できる Excel Calculation Services がありません。[ユーザー: <ユーザー名>]

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Excel Services アプリケーションのサーバー コンピューターが実行されていません。
- Excel Services アプリケーションがサーバー コンピューター上で起動されていません。
- フロントエンド Web サーバーが使用しているプロキシが Excel Services アプリケーションの既定のプロキシ グループの既定のメンバーではありません。

解決策: サービス アプリケーションのインスタンスがコンピューター上で実行されていることを確認します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、[システム設定] をクリックします。
2. [このファームのサーバーの管理] をクリックします。
3. Excel Services アプリケーション を実行する各サーバーについて、サーバーの名前を選択します。
4. [サーバーのサービス] ページで、[Excel Calculation Services] の [状態] 列に [開始済み] が表示されていない場合は、[処理] 列の [開始] をクリックします。

解決策: Excel Services アプリケーション サーバーを再起動します。

- Excel Services アプリケーション サーバー コンピューターを再起動します。

解決策: サービス アプリケーションのプロキシが Excel Services アプリケーションの既定のメンバーであることを確認します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの [アプリケーション構成の管理] をクリックし、[サービス アプリケーション] セクションの [サービス アプリケーションの関連付けの構成] をクリックします。
2. [サービス アプリケーションの関連付け] ページで、問題の Web アプリケーションの [アプリケーション プロキシ グループ] 列のプロキシ グループの名前をクリックします。プロキシ グループの既定の名前は [既定] です。

3. [サービス アプリケーションの関連付けの構成] ダイアログ ボックスで、Excel Services アプリケーション プロキシのチェック ボックスがオンになっていない場合は、オンにします。2 つ以上の Excel Services アプリケーション プロキシがあり、使用するプロキシの名前の後に [[既定]] という語が表示されていない場合は、チェック ボックスをオンにして、[[既定値として設定]] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

Excel Services アプリケーションの構成データベースへのアクセスに失敗しました - イベント 5244

アラート名: Excel Services アプリケーションの構成データベースへのアクセスに失敗しました
イベント ID: 5244

概要: Excel Services アプリケーション 用のアプリケーション サーバーが構成データベースへのアクセスに失敗したことによって、設定の読み取りや保存ができない場合があります。Excel Services アプリケーション のすべての設定は、構成データベースに保存されています。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Excel Services アプリケーションの準備ができません。
- Excel Services アプリケーションが開始されません。
- Excel Services アプリケーションが中断され、ユーザーのブックの読み込みができません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5244 説明: SharePoint 構成データベースのサービス設定にアクセスしようとしたら、予期しない例外が発生しました。このサービス アプリケーションのプロキシが、アクティブな Web アプリケーションの既定のプロキシ グループのメンバーであることを確認します。エラー =<SharePoint から返されたエラー>。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

1. 構成データベースがオフラインまたは使用できない状態です。
2. 構成データベース上の権限、または Excel Services アプリケーション が実行されるアプリケーション プール アカウントの権限が変更されて、Excel Services アプリケーション が構成データベースにアクセスできなくなっています。

メモ:

次のタスクを実行するには、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーである必要があります。

解決策: データベース アクセス アカウントに適切な権限を付与します。

- データベース アクセス アカウントを見つけるには
 1. サーバーの全体管理のホーム ページのサイド リンク バーで [セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションで [サービス アカウントの構成] をクリックします。
 2. [サービス アカウント] ページの [資格情報の管理] セクションで、Excel Services アプリケーション を実行するアプリケーション プールの [サービス アプリケーション プール]

オプションをドロップダウン リストから選択します。オプションが選択されると、ドロップダウン リストの下のリスト ボックスに Excel Services アプリケーション の名前が表示されます (例: Excel Service Application)。

3. **[このコンポーネントのアカウントの選択]** リストで選択されているアカウントを確認し、**[OK]** をクリックします。
- アカウントに SQL Server での適切な権限があることを確認するには
 1. 管理者の権限を持つアカウントを使用して、SQL Server が実行されているコンピューターに接続します。
 2. SQL Server Management Studio の **[オブジェクト エクスプローラー]** ナビゲーション ウィンドウで、**[セキュリティ]** ノードを展開して、**[ログイン]** ノードをクリックします。データベース アクセス アカウントの名前によって、SQL ログオン アカウントであることがわかります (例: ##MS_PolicyTsqlExecutionLogin##)。
 3. アカウントが存在する場合は、**[オブジェクト エクスプローラー]** ナビゲーション ウィンドウで、**[データベース]** ノードを展開し、構成データベースのノード (例: WSS_Config) を展開します。次に、**[セキュリティ]** ノードを展開して、**[ロール]** をクリックします。
 4. **[データベース ロール]** ノードを展開し、**[db_owner]** を右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
 5. **[データベース ロールのプロパティ]** ダイアログ ボックスで、**[このロールのメンバー]** リストにデータベース アクセス アカウントがあるかどうかを確認します。アカウントがない場合は、**[追加]** をクリックします。
 - Excel Services アプリケーション によって構成データベースからの読み取りが可能なことを確認するには
 1. コンピューターで、**[スタート]** ボタン、**[すべてのプログラム]**、**[Microsoft SharePoint 2010 製品]**、**[SharePoint 2010 管理シェル]** の順にクリックします。
 2. コマンド プロンプトで Windows PowerShell コマンドレットの名前「**Get-SPExcelServiceApplication**」を入力して、指定された Excel Services アプリケーションの設定を取得します。これらの設定は、構成データベースから読み取られます。

Excel Services アプリケーションに構成されている最大メモリを超えました – イベント 5255

アラート名: Excel Services アプリケーションに構成されている最大メモリを超えました
イベント ID: 5255

概要: Excel Services アプリケーション の管理者は、Excel Services アプリケーション を実行する各物理コンピューター上でサービスが使用するメモリの必要量を決定できます。Excel Services アプリケーション は、計算処理を中心に使用され、状態を維持し、大量のメモリを必要とすることがあるため、メモリ量の設定が重要となります。Excel Services アプリケーション のサーバーが使用できるメモリ量は、**MaxPrivateBytes** プロパティで指定されます。この問題は、サーバーがこのプロパティ設定で割り当てられている量より多くのメモリを使用すると発生します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ブックの読み込みに失敗します。
- エラーの発生を示すエラー メッセージなど、ユーザーに、さまざまなエラー メッセージが表示されます。
- ブックのパフォーマンスが低下します。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5255 説明: プライベート バイトの最大サイズを超過しました。操作を完了できません。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: Excel Services アプリケーション が **MaxPrivateBytes** 設定値を超えています。その結果、サーバーへの要求が拒否されています。

サーバーに、ユーザー数に十分に対応できるだけの RAM メモリがあることを確認します。

- サーバーに十分な RAM メモリがあり、Excel Services アプリケーション の展開規模がユーザー ベースをサポートするのに十分であることを確認します。詳細については、「Excel Services アプリケーションをサポートするためのリソース要件を決定する」を参照してください。

MaxPrivateBytes 設定を増やすには

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] で、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. Excel Services アプリケーションをクリックします。この既定の名前は、「Excel Service アプリケーション」です。
4. [Excel Services アプリケーションの管理] ページで、[グローバル設定] をクリックします。
5. [Excel Services アプリケーションの設定] ページの [メモリ使用] で、Excel Services アプリケーションで使用する RAM メモリ (MB 単位) を入力します。
6. [OK] をクリックします。

Excel Services アプリケーションのメモリ割り当てに失敗しました - イベント 5256

アラート名: Excel Services アプリケーションのメモリ割り当てに失敗しました

イベント ID: 5256

概要: Excel Services アプリケーションのサーバーは、ブックの読み込み、最新の情報への更新、および再計算を行い、ユーザーのセッション状態を維持します。このアラートは、Excel Services アプリケーションのサーバーがメモリの割り当てに失敗したことを示します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーはセッションを作成できず、ブラウザーでブックを表示できません。
- 既存のユーザー セッションが応答を停止して、ブラウザー内で開かれているブックが応答を停止します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5256 説明: メモリの割り当てに失敗しました。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Excel Services アプリケーションのサーバーの容量が限界に達して、サーバーがメモリ リソースをそれ以上割り当てることができません。
- Excel Services アプリケーションのサーバーで予期しないエラーが発生したため、新しいメモリを割り当てることができません。

解決策: サーバーがユーザーの負荷をサポートできるかどうかを判断します。

- 修正手順を実行する前に、ユーザーの負荷に対応できる十分な Excel Services アプリケーション サーバー コンピューターがあるかどうかを判断します。詳細については、「Excel Services をサポートするためのリソース要件を決定する」を参照してください。

解決策: サーバー コンピューターを再起動します。

- Excel Services アプリケーション サーバー コンピューターを再起動します。

Excel Services アプリケーションがローカルで実行されていません – イベント 5271

アラート名: Excel Services アプリケーション がローカルで実行されていません

イベント ID: 5271

概要: Excel Services アプリケーション は、Web アプリケーションのフロント エンドと Excel Services アプリケーション 用のサーバーとの間での負荷分散の定義をサポートしています。負荷分散のためのオプションはローカルです。ただし、この設定が有効なのは、Web フロント エンドと Excel Services アプリケーション 用のサーバーが同じ物理コンピューターで実行される場合のみです。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ブックの読み込み時間に遅れが生じます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5271 説明: 負荷分散方法がローカルとして構成されていますが、ローカルの Excel Calculation Server が実行されていません。負荷分散方法として既定のラウンド ロビン方式が使用されます。[ユーザー: <ユーザー名>]

原因: 負荷分散方法がローカルに設定されていますが、その Web フロント エンド コンピューターで Excel Services アプリケーション が実行されていません。

解決策: 負荷分散方法を変更します。

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [アプリケーション構成の管理] ページで、[サービス アプリケーション] の下の [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. Excel Services アプリケーションをクリックします。既定の名前は “Excel Service Application” です。
4. [Excel Services アプリケーションの管理] ページで、[グローバル設定] をクリックします。
5. [Excel Services アプリケーションの設定] ページで、[負荷分散] の下の [ブックの URL] または [ラウンド ロビンと正常性チェック] のどちらかを選択します。
6. [OK] をクリックします。

Excel に無効なファイル アクセス方法が構成されています – イベント 5557

アラート名: Excel に無効なファイル アクセス方法が構成されています

イベント ID: 5557

概要: Excel Services アプリケーション では、フロントエンド Web アプリケーションとバックエンド サーバー コンポーネントの間の通信の種類として、信頼されたサブシステムと委任をサポートしています。通信の種類は、アクセス モデルの設定で制御されます。また、Excel Services アプリケーション 管理者は、サーバー コンポーネントを使用したファイルの取得方法を指定することもできます。つまり、サービスが実行されているプロセス アカウントを使用する方法と、ユーザーを偽装してブックを要求し、ユーザーの資格情報を委任する方法があります。このエラーは、アクセス モデルが信頼されたサブシステムに設定され、ファイルへのアクセス方法が偽装に設定されている場合に発生します。このように構成されていると、エンド ユーザーの資格情報がフロントエンド Web サーバーから委任されないため、サーバー コンポーネントはその資格情報を取得または委任できません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ブックの読み込みに失敗します。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5557 説明: 次のエラーが発生したため、<ブックの URL> の読み込みに失敗しました: 'サーバーからブックへのアクセスに偽装を使用するように構成されていますが、Excel Calculation Services と Excel Web Access 間の通信で信頼されたサブシステムを使用するように設定されている場合、偽装は使用できません。' [セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: アクセス モデルの設定とファイルへのアクセス方法の設定が競合しています。

Excel Services アプリケーションのユーザー定義関数の例外 – イベント 6467

アラート名: Excel Services アプリケーションのユーザー定義関数の例外

イベント ID: 6467

概要: ユーザー定義関数が例外をスローしました。ユーザー定義関数は、Excel Services アプリケーションのバックエンド サーバーに展開されるカスタム コード アセンブリで、Excel Services アプリケーション フロントエンド アプリケーションから呼び出されます。このユーザー定義関数を必要とするブックでは、計算が適切に行われない可能性があります。このユーザー定義関数を修正して、サーバーに展開し直す必要がある場合もあります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- このユーザー定義関数を使用するブックでは、計算が適切に行われず、スプレッドシートにエラーが表示されることがあります。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6467 説明: ユーザー定義関数に例外が発生しました。アセンブリ = <アセンブリの名前とパス>、クラス = <例外をスローしたクラス>、関数名 = <関数名>、例外テキスト = <'例外メッセージ'>

原因: ユーザー定義関数コードで、回復不能なエラー状態が検出されました。

解決策: ユーザー定義関数コードを修正します。

- このエラーは、ユーザー定義関数が例外をスローすると発生します。ユーザー定義関数は、Excel Services アプリケーション 製品のコードではありません。展開されているアセンブリの場所を見つけるには、次の手順を実行します。

ユーザー定義関数を修正するには

1. ユーザー定義関数の開発者に、関数のより正確なエラー処理の展開方法について相談します。
2. 更新されたユーザー定義関数を展開します。新しいユーザー定義関数アセンブリを、サーバーのグローバル アセンブリ キャッシュ (GAC) またはファイル共有に保存するように、ユーザー定義関数の開発者に依頼します。アセンブリをどちらに保存するかは、最初にアセンブリがどのように展開されたかによります。

アセンブリの場所を見つけるには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [名前] 列で、Excel Services アプリケーション アプリケーションの名前をクリックします。[種類] 列で、Excel Services アプリケーション アプリケーションの種類は、[Excel Services アプリケーション Web サービス アプリケーション] です。
3. [Excel Services アプリケーションの管理] ページで [ユーザー定義関数アセンブリ] をクリックします。
4. [アセンブリ] 列で、再展開するユーザー定義関数をクリックします。

5. **[アセンブリの詳細]** セクションの **[アセンブリ]** ボックスに、アセンブリへのパスが表示されます。また、ユーザー定義関数が **<ルート>%windows%assembly** の下のグローバルアセンブリ キャッシュ (GAC) にインストールされている場合は、このボックスに厳密な名前のみが表示されます。**[アセンブリの場所]** オプションは、アセンブリがグローバルアセンブリ キャッシュに保存されているか、ファイル パスであるかを示すものです。

Excel Services アプリケーションでローカライズ済みテンプレート ファイルが見つかりませんでした – イベント 7924

アラート名: Excel Services アプリケーションでローカライズ済みテンプレート ファイルが見つかりませんでした

イベント ID: 7924

概要: Excel Services アプリケーション で新しいブックの作成に使用するローカライズ済みテンプレート ファイルが見つかりませんでした。サーバーは、別のロケールのテンプレート ファイルを使用して、新しいブックを作成することもできます。Excel Services アプリケーション を使用してブックを作成するユーザーに、不適切な言語のブックが表示される可能性があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Excel Services アプリケーション によって表示される、ブック内のテキスト付きのボタンやその他の UI 要素が、不適切な言語で示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 7924 説明: ロケール <ロケール名> が見つかりませんでした。このため、<ブック テンプレートのパス> ブック テンプレートを使用して新しいブックが作成されました。<希望のロケール> に対してブックを作成できるようにするには、<言語パック> 言語パックをインストールする必要があります。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: ローカライズ済みテンプレート ブック ファイルが見つかりませんでした。ローカライズ済みテンプレート ファイルがコンピューターに正しくインストールされていないか、破損しています。ファイルを再インストールする必要があります。インストールを修復すると、テンプレートを最も簡単に再インストールできます。

解決策: インストールを修復します。

- Excel Services アプリケーション のセットアップを実行し、インストールの修復オプションを選択したら、画面に表示される指示に従って操作します。

Excel Services アプリケーションのテンプレートファイルが見つかりません – イベント 7925

アラート名: Excel Services アプリケーション のテンプレート ファイルが見つかりません

イベント ID: 7925

概要: Excel Services アプリケーション で、新しいブックの作成に使用するテンプレート ファイルが見つかりませんでした。ユーザーは、この問題が解決されるまで、Excel Services アプリケーション のサーバー上に新しいブックを作成できない可能性があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーは、新しいブックを作成できません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 7925 説明: Excel Services アプリケーションの新しいブック テンプレートが見つかりませんでした。このため、ユーザーは新しいブックを作成できませんでした。インストール環境の修復が必要な場合があります。[セッション: <セッション ID> ユーザー:<ユーザー名>]

原因: 新しいブック テンプレート ファイルが見つからないか、ディスクからファイルを読み取ることができません。ファイルを再インストールする必要があります。インストールを修復すると、テンプレートを最も簡単に再インストールできます。

解決策: Excel Services アプリケーションのインストールを修復します。

- Excel Services アプリケーション のセットアップを実行し、インストールの修復オプションを選択したら、画面に表示される指示に従って操作します。

Excel Services アプリケーションでの Null アクセス違反 – イベント 7926

アラート名: Excel Services アプリケーションでの Null アクセス違反

イベント ID: 7926

概要: Excel Services アプリケーション 用のサーバーが、ブックの読み込み、更新、および再計算と、ユーザー セッションの状態の維持を担当しています。Excel Services アプリケーションに読み込まれたブックが原因で、Null アクセス違反が発生しました。

現象: このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 7926 説明: Excel Calculation Server プロセスから、アクセス権のない Null 仮想アドレスにアクセスしようとした。アクセスの種類: <アクセスの種類>、ブックの URL: <ブックの URL>、サイト ID: <サイト ID> [セッション: <セッション ID> ユーザー:<ユーザー名>]

原因: 不適切な形式の入力を含むブックがサーバーに読み込まれました。

Excel Services アプリケーションでの Null 以外のアクセス違反 – イベント 7927

アラート名: Excel Services アプリケーションでの Null 以外のアクセス違反

イベント ID: 7927

概要: Excel Services アプリケーション 用のサーバーが、ブックの読み込み、更新、および再計算と、ユーザー セッションの状態の維持を担当しています。Excel Services アプリケーションに読み込まれたブックが原因で、Null 以外のアクセス違反が発生しました。このようなアクセス違反は、セキュリティの問題に関係している可能性があり、これが原因で、ユーザーがアクセスできないデータの読み取りや悪意のあるコードの実行をサーバーが行う可能性があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーの既存のブックのセッションが失われます。これが原因で、ブラウザ内でのユーザーのブックの表示が応答しなくなったり、“エラーが発生しました”などのエラーメッセージが表示されたりします。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 7927 説明: Excel Calculation Server プロセスから、アクセス権のない仮想アドレスにアクセスしようとした。アクセスの種類: <アクセスの種類>、ブックの URL: <ブックの URL>、サイト ID: <サイト ID>。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: 不適切な形式の入力を含むブックがサーバーに読み込まれました。

Excel Services アプリケーションが配列範囲外の要素にアクセスを試みました - イベント 7928

アラート名: Excel Services アプリケーションが配列範囲外の要素にアクセスを試みました
イベント ID: 7928

概要: Excel Services アプリケーション に読み込まれているブックが、メモリ構造の境界をオーバーランして、データに無効なアクセスを試みました。同じユーザーが複数の異なるブックを読み込んでいると、この問題が発生する可能性があります。この問題は、ユーザーのセキュリティ違反を示していることがあります。

現象: このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 7928 説明: Excel Services アプリケーションのプロセスから、範囲外の配列要素にアクセスしようとして、ブックの URL: <ブック ファイルの URL>、サイト ID: <サイト>。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因: ブック ファイルに無効な入力があり、メモリのオーバーランが発生しました。

Excel ブックのディスク キャッシュがいっぱいで

す

アラート名: Excel ブックのディスク キャッシュがいっぱいです

イベント ID: イベント ID なし

概要: Excel Services アプリケーション は、読み込まれているブックをディスク上の一時キャッシュに保存します。Excel Services アプリケーション サーバー コンピューター上のハードディスクがいっぱいになると、Excel Services アプリケーション はそれ以上、そのキャッシュにブックを保存できません。

現象: ブックの読み込みが断続的に失敗します。

- イベント ログに次のイベントが表示されることがあります。イベント ID: 2015 説明: ' <ブックの URL>' の読み込みに失敗し、次のエラーが発生しました: 'ブックのキャッシュがいっぱいか、またはブックを読み込むための空き容量がありません (ブックのキャッシュ サイズ <サイズ (MB 単位)> MB)。' [セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]
- イベント ログに次のイベントが表示されることがあります。イベント ID: 2016 説明: ' <ブックの URL>' の読み込みに失敗し、次のエラーが発生しました: 'ブックのキャッシュが含まれたディスクがいっぱいか、またはブックを読み込むための空き容量がありません。' [セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]

原因:

- Excel Services アプリケーション のサーバー上のハード ディスクがいっぱいです。
- ハード ディスクはいっぱいになっていませんが、ブックのキャッシュ サイズの設定が低すぎます。

サーバー上のディスク空き領域が十分にあることを確認します。

- サーバー上のディスク容量が十分にあることを確認します。
- ディスク空き領域が不足している場合は、不要なファイルを削除するか、サーバーのディスク領域を追加します。

ブックのキャッシュ設定の最大サイズを増やします。

- サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
- [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] で、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
- Excel Services アプリケーションをクリックします。既定の名前は "Excel Service Application" です。
- [Excel Services アプリケーションの管理] ページで、[グローバル設定] をクリックします。
- [Excel Services アプリケーションの設定] ページの [ブックのキャッシュ] で、ブックのキャッシュ ファイルのために Excel Services アプリケーションで使用するディスク容量 (MB 単位) を [ブックのキャッシュの最大サイズ] ボックスに入力します。
- [OK] をクリックします。

SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services に関するナレッジ記事

このセクションの記事は Microsoft SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services 用のサポート技術情報です。これらの記事は、通常、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を使用すると、InfoPath Forms Services の問題のトラブルシューティングと解決に役立ちます。

このセクションの内容

- [InfoPath Forms Services のビジネス ロジックのエラー - イベント 5337](#)
- [InfoPath Forms Services のビジネス ロジックが再入可能回数を超過しました - イベント 5340](#)
- [InfoPath Forms Services のビジネス ロジックでメモリが不足しています - イベント 5342](#)
- [InfoPath Forms Services のビジネス ロジックの読み込み例外 - イベント 5343](#)
- [InfoPath Forms Services の Web ファイルの一覧の読み込みに失敗しました - イベント 5369](#)
- [InfoPath Forms Services のポストバック エラー - イベント 5374](#)
- [InfoPath Forms Services でアセンブリの ID が競合しています - イベント 5733](#)
- [InfoPath Forms Services ビジネス ロジックはシリアル化できません - イベント 5734](#)
- [InfoPath Forms Services の DoS によるセッションごとのポストバック - イベント 5736](#)
- [InfoPath Forms Services の 1 回のポストバックあたりの DoS アクション数 - イベント 5737](#)
- [InfoPath Forms Services データ アダプターの送信セキュリティ エラー - イベント 5758](#)
- [InfoPath Forms Services のソリューション キャッシュのチャージング - イベント 5759](#)
- [InfoPath Forms Services データ アダプターのクエリ セキュリティ エラー - イベント 6932](#)
- [InfoPath Forms Services ソリューションの読み込みエラー - イベント 7056](#)
- [State Service の構成が無効で InfoPath Forms Services が機能しない - イベント 7898](#)

InfoPath Forms Services のビジネス ロジック のエラー – イベント 5337

アラート名: InfoPath Forms Services のビジネス ロジックのエラー

イベント ID: 5337

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services 用の InfoPath フォーム テンプレートを設計するユーザーは、フォームにマネージ コードを追加できます。このユーザー 設定コードが実行されるときに、エラーが発生する場合があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- フォームを開くとき、または、フォームに入力するときに、エラー メッセージが表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5337 説明: 例外が発生したため、ビジネス ロジックが失敗しました。(ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>、種類: <例外の種類>、例外メッセージ: <例外メッセージ>)

原因: フォーム コードが、未処理のビジネス ロジックの例外をスローしました。

InfoPath Forms Services のビジネス ロジック が再入可能回数を超過しました – イベント 5340

アラート名: InfoPath Forms Services のビジネス ロジックが再入可能回数を超過しました
イベント ID: 5340

概要: InfoPath フォーム テンプレートを設計するユーザーは、フォームにマネージ コードを追加できます。このユーザー設定コードが実行されるときに、エラーが発生する場合があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ブラウザーでフォームを開くとき、または、フォームに入力するときに、エラー メッセージが表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5340 説明: ビジネス ロジック オブジェクト モデルの再入可能回数の制限を超過しました。ビジネス ロジック が無限のイベント再帰状態にある可能性があります。(ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>)

原因: 次のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- ビジネス ロジックが無限ループで実行されています。
- 1 回の更新あたりのビジネス ロジックの呼び出しの数が上限を超えています。

InfoPath Forms Services のビジネス ロジック でメモリが不足しています – イベント 5342

アラート名: InfoPath Forms Services のビジネス ロジックでメモリが不足しています

イベント ID: 5342

概要: InfoPath フォーム テンプレートを設計するユーザーは、自分のフォームにマネージ コードを追加できます。このユーザー設定コードが実行されるときにエラーが発生することがあります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- フォームを開くとき、またはフォームに入力するときに、エラー メッセージが表示されます。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5342 説明: ビジネス ロジックによるメモリ割り当てを実行できませんでした。(ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>、種類: <例外の種類>、例外メッセージ: <例外メッセージ>)

理由: InfoPath フォーム テンプレートのユーザー設定コードによって、メモリ不足の例外が生成されました。

InfoPath Forms Services のビジネス ロジック の読み込み例外 – イベント 5343

アラート名: InfoPath Forms Services のビジネス ロジックの読み込み例外

イベント ID: 5343

概要: InfoPath フォーム テンプレートを設計するユーザーは、フォームにマネージ コードを追加できます。このユーザー設定コードが実行されるときに、エラーが発生する場合があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- フォームが読み込まれるときに、エラー メッセージが表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5342 説明: ビジネス ロジックの読み込み中に例外が発生しました。(ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>、種類: <例外の種類>、例外メッセージ: <例外メッセージ>)

原因: フォームの読み込み時間中に、未処理のビジネス ロジックの例外が発生しました。

InfoPath Forms Services の Web ファイルの一覧の読み込みに失敗しました - イベント 5369

アラート名: InfoPath Forms Services の Web ファイルの読み込みに失敗しました

イベント ID: 5369

概要: InfoPath Forms Services には ifsFileNames.xml という名前のファイルがあります。このファイルには、フォームのスクリプトや画像などのダウンロード可能なファイルへのポインターが含まれています。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ifsFileNames.xml が見つかりません。
- Web ブラウザーで InfoPath フォームを開くことができません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5369 説明: 製品コンポーネント ifsFileNames.xml の読み込みに失敗しました。Web 仮想ルートが正しくインストールされていない可能性があります。(ユーザー: <ユーザー名>、要求 <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、種類: <例外の種類>、例外メッセージ: <例外メッセージ>)

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- ファーム内の 1 つ以上のフロントエンド Web サーバーで ifsFileNames.xml ファイルが見つからないか、または有効ではありません。
- インターネット インフォメーション サービス (IIS) が正しく構成されていません。

解決策: Office サーバーのセットアップを実行します。

- 影響を受けているサーバー上で、Microsoft SharePoint Server のセットアップ ウィザードを実行し、[修復] オプションを選択します。

解決策: インターネット インフォメーション サービスの構成を確認します。

- 問題が引き続き発生する場合は、インターネット インフォメーション サービス (IIS) が正しく構成されていない可能性があります。この場合は、IIS マネージャーを起動して、Microsoft SharePoint Server のインストール以降に行った仮想ディレクトリに対する変更をすべて元に戻します。

InfoPath Forms Services のポストバック エラー – イベント 5374

アラート名: InfoPath Forms Services のポストバック エラー

イベント ID: 5374

概要: ビジネス ロジックの実行、ビューの切り替え、フォームの発行など、フォームの動作によっては、サーバーへのポストバックが必要となることがあります。このポストバックが Microsoft SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services によって処理されたときに、エラーが発生しました。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- フォームへの入力時に、エラー メッセージが表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5374 説明: フォーム ポストバック エラーが発生しました (ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、IP: <IP>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>、種類: <例外の種類>、例外メッセージ: <例外メッセージ>)。

原因: 内部サーバー エラーが発生しました。

InfoPath Forms Services でアセンブリの ID が競合しています – イベント 5733

アラート名: InfoPath Forms Services でアセンブリの ID が競合しています

イベント ID: 5733

概要: InfoPath フォーム テンプレートには、ビジネス ロジック アセンブリに格納されているマネージ コードを含めることができます。マネージ コードを含むフォーム テンプレートが、InfoPath Forms Services を実行するサーバーに展開されている場合、ビジネス ロジック アセンブリには一意の厳密な名前が必要です。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Microsoft SharePoint Foundation サーバーに、フォーム テンプレートを展開する際に、エラー メッセージが表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5733 説明: 同じ ID <アセンブリ名> を持つビジネス ロジック アセンブリが 2 つあります。次のフォームがアセンブリに関連付けられています: <フォーム名 1>、<フォーム名 2>。各ビジネス ロジック アセンブリの ID は一意である必要があるため、この状態はサーバーに許可されません。片方のフォームとそれに関連付けられたアセンブリの展開をすぐに解除してください。(ユーザー: <ユーザー名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>)

原因: 展開されたフォーム テンプレートに含まれるマネージ コード アセンブリが、既に展開されている別のマネージ コード アセンブリと競合しています。

InfoPath Forms Services ビジネス ロジックはシリアル化できません – イベント 5734

アラート名: InfoPath Forms Services ビジネス ロジックはシリアル化できません

イベント ID: 5734

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services では、FormState プロパティバッグに、複数のサーバー ポストバックのビジネス ロジックの状態を保持できます。たとえば、ビジネス ロジックの特定のメソッド内で、ローカル変数を複数のポストバックの FormState プロパティに永続的に保存できます。プロパティ バッグに保存されるすべてのオブジェクトは、シリアル化可能である必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- フォームでカスタム コードの実行時にエラーが発生します。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5734 説明: ビジネス ロジックの種類 <オブジェクトの種類> はシリアル化できないため、保持できません。(ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>)

原因: フォーム テンプレートのビジネス ロジックが、シリアル化できない種類を FormState プロパティ バッグに格納しようとした。

InfoPath Forms Services の DoS によるセッションごとのポストバック – イベント 5736

アラート名: InfoPath Forms Services の DoS によるセッションごとのポストバック

イベント ID: 5736

概要: InfoPath フォームのコントロール、アクション、および機能には、フォーム セッション中にブラウザでのサーバーとの通信を必要とするものがあります。セッション中のこういったデータの交換は、ポストバックと呼ばれ、通常、フォーム機能が処理を行うためにサーバーへデータを送信する必要があるときに発生します。不必要なポストバックによって、ブラウザとサーバーの両方に余分な負荷がかかります。サーバーを保護するために、セッションごとのポストバックの最大数にしきい値が設定されます。これによって、ユーザーがフォームに入力しているときの単一のセッション中に実行可能なポストバック数が制限され、悪意のあるユーザーがサーバーを停止させようとするのを防止します。

フォームのセッションごとに許容されるポストバック数に設定されたしきい値を超過しているユーザーがいます。この状態が発生すると、サーバーを保護するためにユーザー セッションが停止されます。

現象: このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5736 説明: ポストバック数 <整数値> は、セッションごとの最大許容値 <整数値> を超過しています。この値は設定することができ、管理者はこれを変更できます。(ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formsserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>)

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Microsoft SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services が実行されているサーバーに対してサービス拒否 (DoS) 攻撃が試みられました。
- InfoPath フォーム セッション状態ごとに許容されるポストバック数が少なすぎます。

解決策: サーバー ログで DoS 攻撃のサインを確認します。

- Windows イベント ログおよびインターネット インフォメーション サービス (IIS) のログで、DoS 攻撃のサインを探します。この現象の原因が DoS 攻撃で、管理者が承認したフォーム テンプレートが影響を受ける場合は、サイト コレクションからフォーム テンプレートを削除するか、または、フォーム テンプレートを非アクティブ化します。

Windows イベント ログを確認するには


1. Windows イベントビューアーを開きます。
2. Windows アプリケーション イベント ログで、イベント ID 5736 を検索します。
3. イベントの説明で、フォーム ID を確認します。同じフォーム ID で複数のイベントがある場合は、悪意のあるユーザーが、サーバーを停止させようとして、多数のポストバックを発生させるフォームを展開したことを示している可能性があります。

IIS のログを確認するには

1. %inetpub%logs に移動して、IIS のログを確認します。
2. インターネット インフォメーション サービス (IIS) のログのエントリを、イベント ログ情報に関連付けることができます。IIS のログに特定のフォームのための GET 要求が多数あり、また、このフォームが多数のポストバックを発生させていて、ログに記録されている場合は、DoS 攻撃を受けている可能性があります。
3. IIS のログのエントリには、要求を送信したコンピューターの IP アドレスも含まれます。
サイト コレクションからフォーム テンプレートを非アクティブ化するには
 1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトのサイドリンク バーで、[一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[InfoPath Forms Services] セクションで [フォーム テンプレートの管理] をクリックします。
 2. フォーム テンプレートの一覧で、非アクティブ化するフォーム テンプレートをクリックし、ドロップダウン リストで [サイト コレクションからの非アクティブ化] をクリックします。
 3. [フォーム テンプレートの非アクティブ化: <テンプレート>] ページの [非アクティブ化する場所] セクションで、サイト コレクションを選択して [OK] をクリックします。
フォーム テンプレートを完全に削除するには
 1. [サーバーの全体管理] ページのサイドリンク バーで [一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[InfoPath Forms Services] セクションで [フォーム テンプレートの管理] をクリックします。
 2. フォーム テンプレートの一覧で、削除するフォーム テンプレートをクリックし、ドロップダウン リストで [フォームの削除] をクリックします。

解決策: セッションごとに許容されるポストバック数を増やします。

1. [サーバーの全体管理] ページのサイドリンク バーで [一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[InfoPath Forms Services] セクションで [InfoPath Forms Services の構成] をクリックします。
2. [しきい値] セクションで、セッションごとに許容されるポストバック数の値を増やします。

 **メモ:**

この設定の値を増やすことによって、サーバーのパフォーマンスに悪影響を与え、サーバーでの DoS 攻撃の危険性を増大させる可能性があります。

InfoPath Forms Services の 1 回のポストバックあたりの DoS アクション数 – イベント 5737

アラート名: InfoPath Forms Services の 1 回のポストバックあたりの DoS アクション数
イベント ID: 5737

概要: InfoPath Forms Services のフォームは、ブラウザー クライアントに保存される一時的なイベント ログに、すべてのアクションを記録します。サーバーのポストバックが必要なときは、記録されたログ データが送信されてサーバーで動作が再実行されます。ユーザーがフォームを更新するとき、または、ポストバックが必要なアクションを実行したとき (ビジネス ロジックの実行や、フォームの送信など) に、ポストバックが行われます。InfoPath Forms Services が単一のポストバックに費やす時間が長くなりすぎないように、ポストバックごとのアクションの最大数に設定するしきい値がサーバーで定義されます。この設定によって、1 回のポストバックにつきサーバーで再実行できるアクションの数が制限され、悪意のあるユーザーが独自のイベント ログを作成してサーバーを停止させることを防止します。

ポストバックごとに許容されるフォームのアクション数に設定されたしきい値を超過しているユーザーがいます。この状態が発生すると、InfoPath Forms Services はサーバーを保護するためにユーザー セッションを終了します。

現象: このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5737 説明: フォームのアクション数 <整数値> は、要求ごとの最大許容値 <整数値> を超過しています。要求ごとの最大許容値は、管理者が設定および変更できます (ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formsserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>)

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- InfoPath Forms Services が実行されているサーバーに対してサービス拒否 (DoS) 攻撃が試みられました。
- ポストバックごとに許容されるアクション数が少なすぎます。

解決策: Windows イベント ログで DoS 攻撃の形跡を確認します。

- Windows イベント ログで DoS 攻撃の形跡を探します。この現象の原因が DoS 攻撃で、管理者が承認したフォーム テンプレートが影響を受ける場合は、サイト コレクションからフォーム テンプレートを削除するか、または、フォーム テンプレートを非アクティブ化します。


Windows イベント ログを確認するには

1. Windows イベント ビューアーを開きます。
2. Windows アプリケーション イベント ログで、イベント ID 5737 を検索します。
3. イベントの説明で、フォーム ID を確認します。同じフォーム ID で複数のイベントがある場合は、悪意のあるユーザーが、サーバーを停止させようとして、ポストバックごとに多数の動作が発生するフォームを展開したことを示している可能性があります。
サイト コレクションからフォーム テンプレートを非アクティブ化するには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトのサイドリンク バーで、[一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[InfoPath Forms Services] セクションで [フォーム テンプレートの管理] をクリックします。
2. フォーム テンプレートの一覧で、非アクティブ化するフォーム テンプレートをクリックし、ドロップダウン リストで [サイト コレクションからの非アクティブ化] をクリックします。
3. [フォーム テンプレートの非アクティブ化: <テンプレート>] ページの [非アクティブ化する場所] セクションで、サイト コレクションを選択して [OK] をクリックします。
フォーム テンプレートを完全に削除するには
1. [サーバーの全体管理] ページのサイドリンク バーで [一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[InfoPath Forms Services] セクションで [フォーム テンプレートの管理] をクリックします。
2. フォーム テンプレートの一覧で、削除するフォーム テンプレートをクリックし、ドロップダウン リストで [フォームの削除] をクリックします。

解決策: ポストバックごとに許容される動作数を増やします。

1. [サーバーの全体管理] ページのサイドリンク バーで [一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[InfoPath Forms Services] セクションで [InfoPath Forms Services の構成] をクリックします。
2. [しきい値] セクションで、セッションごとに許容されるポストバック数の値を増やします。

 **メモ:**

この設定の値を増やすことによって、サーバーのパフォーマンスに悪影響を与え、サーバーでの DoS 攻撃の危険性を増大させる可能性があります。

InfoPath Forms Services データ アダプターの送信セキュリティ エラー – イベント 5758

アラート名: InfoPath Forms Services データ アダプターの送信セキュリティ エラー
イベント ID: 5758

概要: InfoPath フォーム テンプレートには、外部データ ソースへの接続を含めることができます。異なるドメイン上のデータ ソースへの接続を許可するようにセキュリティ設定が構成されていない場合、エラーが発生します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- フォームを送信できないことを示すエラー メッセージが表示されます。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5758 説明: ドメインを越えたセキュリティ制約に違反するため、<データ ソース> にフォームを送信できませんでした。管理者が承認したフォームに、このデータ接続を許可するには、フォーム テンプレートに対して完全な信頼を有効にするか、またはこの接続をデータ接続ライブラリに追加します。ユーザー フォームの場合は、SharePoint サーバーの全体管理でクロス ドメイン接続を有効にして、すべての接続をデータ接続ライブラリに登録する必要があります。詳細については、InfoPath Forms Services のセキュリティ マニュアルを参照してください (ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>、種類: <例外の種類>、例外メッセージ: <例外メッセージ>)

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- フォーム テンプレートのセキュリティ レベルが、完全信頼に設定されていません。
- フォーム テンプレートのデータ接続が、データ接続ファイルに定義されていません。
- サーバーの全体管理で、ユーザー フォーム テンプレートのドメインを越えたデータ アクセスが無効になっています。

InfoPath Forms Services のソリューション キャッシュのチャージング - イベント 5759

アラート名: InfoPath Forms Services のソリューション キャッシュのチャージング

イベント ID: 5759

概要: フロントエンド Web サーバーでフォーム テンプレートが最初に読み込まれるときに、InfoPath Forms Services は、ASP.NET キャッシュを使用してフォーム テンプレートをキャッシュします。インメモリ キャッシュがいっぱいになると、ASP ページはシステム メモリを解放し、フォーム テンプレートは再度読み込まれます。このチャージングは、メモリ使用率が高く、パフォーマンスが最適化されていないことを示します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- InfoPath フォームを Web ブラウザーで開くのに通常よりも時間がかかります。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5759 説明: InfoPath Forms Services のインメモリ キャッシュにあるフォーム テンプレートが頻繁に読み込まれています。これは、メモリ使用率が高く、パフォーマンスが最適化されていないことを示します。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- メモリ不足、または、フォームが大量のメモリを消費しています。
- Microsoft SQL Server がフロントエンド Web サーバーで実行されています。

解決策: インターネット インフォメーション サービスを再起動します。

- コマンド プロンプト ウィンドウで、「iisreset /noforce <コンピューター名>」と入力します。

解決策: 製品の更新プログラムをインストールします。

- Windows Update で更新プログラムを確認し、入手可能な製品の更新プログラムをインストールします。

解決策: SQL Server のインストールを確認します。

- SharePoint Server のフロントエンド Web サーバーで SQL Server が実行されている場合 (たとえば、1 台のサーバーでの評価のための展開の場合)、ASP.NET キャッシュは SQL Server よりも低いしきい値でシステム メモリを解放します。その結果、InfoPath Forms Services がメモリ不足になる場合があります。
- SQL Server が SharePoint Server 2010 と同じコンピューターにインストールされている場合、この問題を軽減するには、SQL Server のメモリの制限を手動で構成します。詳細については、「[server memory オプション](#)」 (<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=160542&clcid=0x411>) を参照してください。

解決策: ハードウェアをアップグレードします。

- 上記の解決策をすべて行ってもフォームのパフォーマンスが改善されない場合は、問題がハードウェアに関係している可能性があります。現在のサーバーに十分なメモリが搭載されていることを確認してください。必要に応じてメモリをアップグレードしてください。

InfoPath Forms Services データ アダプターのクエリ セキュリティ エラー – イベント 6932

アラート名: InfoPath Forms Services データ アダプターのクエリ セキュリティ エラー
イベント ID: 6932

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services フォーム テンプレートには、外部データ ソースへの接続を含めることができます。他のドメイン上のデータ ソースへの接続を許可するようにセキュリティ設定が構成されていないと、エラーが発生する可能性があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- データ ソースからフォームがデータを取得できないことを示すエラー メッセージが表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6932 説明: ドメインを越えたセキュリティ制約に違反するため、〈データ ソース〉 からフォームにデータを取得できませんでした。管理者が承認したフォーム テンプレートに、この接続を許可するには、フォーム テンプレートに対して完全な信頼を有効にするか、またはこの接続をデータ接続ライブラリに追加します。ユーザー フォーム テンプレートの場合は、SharePoint サーバーの全体管理でクロス ドメイン接続を有効にして、すべての接続をデータ接続ライブラリに登録する必要があります。詳細については、InfoPath Forms Services のセキュリティ マニュアルを参照してください (ユーザー: 〈ユーザー名〉、フォーム名: 〈フォーム名〉、IP: 〈IP〉、要求: 〈http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx〉、フォーム ID: 〈フォーム ID〉、種類: 〈例外の種類〉、例外メッセージ: 〈例外メッセージ〉)。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- フォーム テンプレートのセキュリティレベルが、完全な信頼に設定されていません。
- フォーム テンプレートのデータ接続が、データ接続ファイルに定義されていません。
- ユーザー フォーム テンプレートの、クロスドメイン データ アクセスが、SharePoint サーバーの全体管理で無効です。

InfoPath Forms Services ソリューションの読み込みエラー – イベント 7056

アラート名: InfoPath Forms Services ソリューションの読み込みエラー

イベント ID: 7056

概要: ユーザーは Web ブラウザーで InfoPath フォームを開いて入力できます。フォーム テンプレートを Microsoft SharePoint Server 2010 の InfoPath Forms Services で読み込むことができませんでした。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Web ブラウザーで InfoPath フォームを開くと、エラー メッセージが表示されます。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 7056 説明: フォーム テンプレートを読み込めませんでした。(ユーザー: <ユーザー名>、フォーム名: <フォーム名>、要求: <http://servername/_layouts/Postback.Formserver.aspx>、フォーム ID: <フォーム ID>、種類: <例外の種類>、例外メッセージ: <例外メッセージ>)

原因: フォーム テンプレートが読み込まれたときに、内部サーバー エラーが発生しました。

State Service の構成が無効で InfoPath Forms Services が機能しない – イベント 7898

アラート名: State Service が InfoPath Forms Service 用に構成されていません

イベント ID: 7898

概要: Microsoft SharePoint Server State Service の構成が有効でないため、InfoPath Forms Services が機能しません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生します。

- Web ブラウザーで InfoPath フォームを開くことができません。
- Web ブラウザーでワークフロー フォームを開くことができません。
- フォームが読み込まれるときに、フォームを表示できないことを示すエラー メッセージが表示されます。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 7898 説明: Microsoft SharePoint State Service が正しく構成されておらず、要求に応答できません。InfoPath Forms Services は、Microsoft SharePoint State Service に依存することによって正しく機能します。SharePoint サーバーの全体管理で SharePoint メンテナンス エンジンのルールを参照して、Microsoft SharePoint State Service の構成に関する問題を確認してください。

原因: InfoPath Forms Services が依存する State Service が正しく構成されていないか、State Service が InfoPath フォームをホストする Web アプリケーションに関連付けられていません。

解決策: PowerShell を使用して State Service アプリケーションを作成します。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell のコマンド プロンプト (PS C:¥) で、次のコマンドを入力して Enter キーを押します。

```
$serviceApp = New-SPStateServiceApplication -Name "State Service"
```

State Service データベースを作成してサービス アプリケーションに関連付けるには、次のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
New-SPStateServiceDatabase -Name "StateServiceDatabase" -ServiceApplication $serviceApp
```

ファームの既定のプロキシ グループ内に State Service アプリケーション プロキシを作成してサービス アプリケーションに関連付けるには、次のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
New-SPStateServiceApplicationProxy -Name "State Service" -ServiceApplication $serviceApp -DefaultProxyGroup
```

詳細については、「[New-SPStateServiceApplication](#)」、「[New-SPStateServiceDatabase](#)」、および「[New-SPStateServiceApplicationProxy](#)」を参照してください。

解決策: State Service プロキシを Web アプリケーションに関連付けます。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[Web アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [Web アプリケーションの管理] ページで、Web アプリケーションの名前をクリックし、[サービス接続] をクリックします。
5. [State Service プロキシ] チェック ボックスをオンにします。

State Service プロキシが表示されていない場合は、State Service アプリケーション、State Service データベース、および State Service プロキシを作成します。

解決策: ファーム構成ウィザードを使用して State Service アプリケーションを作成します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで [構成ウィザード] をクリックします。
3. [構成ウィザード] ページで、[ファーム構成ウィザードの起動] をクリックします。
4. [State Service] チェック ボックスがオンになっていることを確認したら、ファーム構成ウィザードを終了します。

Managed Metadata services in SharePoint Server 2010 knowledge articles (英語)

The articles in this section are knowledge articles for the Managed Metadata service. Typically, you would see these articles after clicking a link in an alert in the Operations Manager console. You can use these articles to help you troubleshoot and resolve problems with the Managed Metadata service in Microsoft SharePoint Server 2010.

In this section:

- [Disk-based cache misconfigured – Event 5787 \(SharePoint Server 2010\) \(英語\)](#)
- [Metadata Service が利用できません – イベント 8088 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Disk-based cache at critical capacity \(SharePoint Server 2010\) \(英語\)](#)
- [Disk-based cache flushing \(SharePoint Server 2010\) \(英語\)](#)
- [Disk-based cache is compacting \(SharePoint Server 2010\) \(英語\)](#)

Disk-based cache misconfigured – Event 5787 (SharePoint Server 2010) (英語)

Alert Name: Disk-based cache misconfigured

Event ID: 5787

Summary: To save time accessing frequently used static files, Microsoft SharePoint Server 2010 uses the disk-based cache to store these files on the disk of the front-end Web server instead of accessing these files directly from the database server. Farm administrators can configure settings for the cache by modifying the Web.config file on each front-end Web server.

This alert indicates that the configuration settings of the disk-based cache are not valid.

Symptoms: The following event appears in the event log: Event ID: 5787 Description: Unable to connect publishing blob caching. Web.Config is not set up correctly. Cache is not valid. WebId is '<webid>', Url is '<url>'.

Cause: The configuration settings of the disk-based cache are not valid.

Resolution: **Correct the configuration settings in the Web.config file**

- For information about how to configure the Web.config file, see [Configure cache settings for a Web application \(SharePoint Server 2010\)](#).

Metadata Service が利用できません – イベント 8088 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Metadata Service サービスが利用できません

イベント ID: 8088

概要: Managed Metadata Service は、特定の用語ストアとそこに含まれている用語セットへのアクセスを提供するか、コンテンツ タイプ シンジケート ハブからのコンテンツ タイプを提供します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 用語ストア管理ツールの表示するエラーが、用語ストアが利用できないことを示しています。
- 管理されたメタデータ用のコントロールとエンタープライズのキーワード コントロールが無効になっているように見えます。
- 次のイベントがイベント ログに記録される場合があります。イベント ID: 8088 説明: Managed Metadata Service 'くサービス' にアクセスできません。

原因: これは、サーバーがオフラインの場合、または Managed Metadata Service が開始していないか無効になっている場合に発生します。アプリケーション プール アカウントに用語ストアに対する十分な権限がないと、サーバーが開始しないことがあります。

解決策: **アプリケーション プール アカウントの権限を確認します。**

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーションの管理] ページの [種類] 列で、Managed Metadata Service アプリケーションをクリックし、[プロパティ] をクリックします。
5. [新しい Managed Metadata Service の作成] ダイアログ ボックスの [アプリケーション プール] セクションで、アプリケーション プールの名前とアプリケーション プール アカウントの名前を記録します。
6. [キャンセル] をクリックします。
7. ローカル Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
8. サーバーの全体管理の [サービス アプリケーションの管理] ページの [種類] 列で、Managed Metadata Service アプリケーションをクリックし、[権限] をクリックします。
9. 手順 5. で記録したアカウントに次のいずれかの権限があることを確認します。
 10. 用語ストアに対する読み取りアクセス
 11. 用語ストアへの読み取りおよび制限付きの書き込みアクセス
 12. 用語ストアに対するフル アクセス

関連項目

その他のリソース

[Grant permission to access the managed metadata service](#)

[Managed metadata overview](#)

Disk-based cache at critical capacity (SharePoint Server 2010) (英語)

Alert Name: Disk-based cache at critical capacity

Event ID: None

Summary: To save time accessing frequently used static files, Microsoft SharePoint Server 2010 uses the disk-based cache to store these files on the disk of the front-end Web server instead of accessing these files directly from the database server. Farm administrators can configure settings for the cache by modifying the Web.config file on each front-end Web server.

This alert indicates that the disk-based cache is too full to serve files efficiently. When the disk-based cache is full, it will start *compacting*— that is, removing files from the cache to free up space. Compacting is a resource-intensive process that might affect the performance of the front-end Web server.

Symptoms: The **Blob Cache fill ratio** performance counter threshold has been exceeded.

Cause: The configured size for the disk-based cache is smaller than the total size of frequently accessed files for the Web application.

Resolution: **Increase the size of the disk-based cache**

- For information about how to configure the Web.config file, see [Configure cache settings for a Web application \(SharePoint Server 2010\)](#).

Resolution: **Manually flush the disk-based cache by using Windows PowerShell**

1. Verify that you meet the following minimum requirements: **Add-SPShellAdmin** を参照してください。
2. On the **Start** menu, click **All Programs**.
3. Click **Microsoft SharePoint 2010 Products**.
4. Click **SharePoint 2010 Management Shell**.
5. At the Windows PowerShell command prompt, type the following command:


Disk-based cache flushing (SharePoint Server 2010) (英語)

Alert Name: Disk-based cache flushing

Event ID: None

Summary: To save time accessing frequently used static files, Microsoft SharePoint Server 2010 uses the disk-based cache to store these files on the disk of the front-end Web server instead of accessing these files directly from the database server. Farm administrators can configure settings for the cache by modifying the Web.config file on each front-end Web server.

This alert indicates that a user or administrator has made a change that caused some of the disk-based cache contents to become invalid. This will initiate the process of cache *flushing*, which is removing a large set of items from the cache. Flushing is a resource-intensive process that can affect the performance of the front-end Web server. When the flushing process is finished, the performance of the front-end Web server will return to normal.

 ヒント:

If you want to reduce the frequency of the flushing processes, you can perform one or more of the resolutions in this article. You can also ensure that users or administrators are not making changes that might invoke a cache flush process during peak usage hours.

Symptoms: The **Blob cache flushes / second** performance counter threshold has been exceeded.

Cause: A user or administrator made a change that caused the cached contents to become invalid. Examples include modifying content types of cached items, updated the schema of lists, or changing permissions on a list or library.

Resolution: **Change the file types to be stored by the disk-based cache**

- For information about how to configure the Web.config file, see [Configure cache settings for a Web application \(SharePoint Server 2010\)](#)


Disk-based cache is compacting (SharePoint Server 2010) (英語)

Alert Name: Disk-based cache is compacting

Event ID: None

Summary: To save time accessing frequently used static files, Microsoft SharePoint Server 2010 uses the disk-based cache to store these files on the disk of the front-end Web server instead of accessing these files directly from the database server. Farm administrators can configure settings for the cache by modifying the Web.config file on each front-end Web server.

This alert indicates that the disk-based cache is too full to serve files efficiently and is currently in the process of *compacting*— that is, removing files from the cache to free up space. Compacting is a resource-intensive process that can affect the performance of the front-end Web server. When the compacting process is finished, the performance of the front-end Web server will return to normal.

 ヒント:

If you want to reduce the frequency of the compacting processes, you can perform one or more of the resolutions in this article.

Symptoms: The **Total number of cache compactions** performance counter threshold has been exceeded.

Cause: The disk-based cache has reached its maximum size.

Resolution: **Increase the size of the disk-based cache**

- For information about how to configure the Web.config file, see [Configure cache settings for a Web application \(SharePoint Server 2010\)](#).

Resolution: **Manually flush the disk-based cache by using Windows**

PowerShell

1. Verify that you meet the following minimum requirements: **Add-SPShellAdmin** を参照してください。
2. On the **Start** menu, click **All Programs**.
3. Click **Microsoft SharePoint 2010 Products**.
4. Click **SharePoint 2010 Management Shell**.
5. At the Windows PowerShell command prompt, type the following command:

```
Add-PSSnapin Microsoft.SharePoint.Powershell Write-Host "Flush the Blob Cache for the
application containing the specified site collection" $site = Get-SPSite -Identity <URL>
[System.Reflection.Assembly]::LoadWithPartialName("Microsoft.SharePoint.Publishing") Write-
Host "Flushing..."
[Microsoft.SharePoint.Publishing.PublishingCache]::FlushBlobCache($site.WebApplication) Write-
Host "Flushed Cache for:" $site.WebApplication
```

Where:

6. <URL> is the URL in the event details.

Resolution: Change the file types to be stored by the disk-based cache

- For information about how to configure the Web.config file, see [Configure cache settings for a Web application \(SharePoint Server 2010\)](#).

SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services のナレッジ項目

このセクション内の記事は、Microsoft SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services のナレッジ項目です。通常、これらの記事は、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を参照して、PerformancePoint Services のトラブルシューティングおよび問題の解決に役立てることができます。

このセクションの内容

- [PerformancePoint Services - ログインに失敗しました - イベント 5 6 37 45](#)
- [PerformancePoint Services - サービスが利用できません - イベント 33 39](#)
- [PerformancePoint Services - データベースの接続に失敗しました - イベント 34](#)

PerformancePoint Services – ログインに失敗しました – イベント 5 6 37 45

アラート名: Performance Point のログインに失敗しました

イベント ID: 5、6、37、45

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services では、データ接続の統合用に無人サービス アカウントが使用されます。PerformancePoint Services では、ダッシュボードを実行または作成しているユーザーに代りてデータ ソースにアクセスするためにこのアカウントが使用されます。データ ソースを作成したユーザーが認証で [ユーザーごとの ID] をオンにしないと、そのデータ ソース接続は無人サービス アカウントとして実行されます。

現象: 以下のイベントのうちの 1 つまたは複数がイベント ログに記録されます。

- イベント ID: 5 説明: 共有アカウントが正しく構成されていません。
- イベント ID: 6 説明: データ ソース共有アカウントが正しく構成されていません。
- イベント ID: 37 説明: データ ソースが Windows ID を取得できません。
- イベント ID: 45 説明: 無人サービス アカウントのパスワードを取得できませんでした。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- 無人サービス アカウントとして設定したアカウントが有効でないか、正しく構成されていません。
- Secure Store にアクセスできません。この問題を解決する方法の詳細については、「[Secure Store がマスター暗号化キーを取得できません – イベント 7535](#)」を参照してください。

解決策: 無人サービス アカウントの設定を確認します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーションの管理] ページで、PerformancePoint Services サービス アプリケーションの名前をクリックします。
5. [PerformancePoint Services の管理] ページで、[PerformancePoint Services アプリケーションの設定] をクリックします。
6. [PerformancePoint Services アプリケーションの設定] ページの [セキュリティで保護されたストア サービスおよび無人サービス アカウント] セクションで、ドメイン ユーザー名とパスワードを入力して、[OK] をクリックし、ユーザー アカウントが正しいことを確認します。

解決策: アプリケーション プール アカウントを確認します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。

2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーションの管理] ページで、PerformancePoint Services サービス アプリケーションの名前を選択し、リボンの [プロパティ] をクリックします。
5. [PerformancePoint Service アプリケーションの編集] ページの [アプリケーション プール] セクションで、アプリケーション プール アカウントが正しいことを確認します。

PerformancePoint Services – サービスが利用できません – イベント 33 39

アラート名: PerformancePoint Services サービスが利用できません

イベント ID: 33、39

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services サービスが利用できません。

現象: 次の現象のうち 1 つまたは複数が発生します。

- PerformancePoint Services が利用できない、または見つからないというエラー メッセージがユーザーに対して表示されます。
- インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー上に、アプリケーション プールが停止していると表示されます。
- イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 33 説明: サービス アプリケーションが Web アプリケーション用に構成されていません。
- イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 39 説明: サービス アプリケーションが利用できません。

原因: 次のうち 1 つまたは複数の問題が原因である可能性があります。

- アプリケーション プールが開始されていません。
- アプリケーション プール サービス アカウントのパスワードが変更されています。
- 内部サービス エラーが発生しました。

解決策: アプリケーション プールを開始します。

1. IIS マネージャーで、アプリケーション サーバーに接続します。
2. サーバー ノードを展開し、[アプリケーション プール] をクリックします。
3. PerformancePoint Services アプリケーション プールが開始されていることを確認します。開始されていない場合は、アプリケーション プール名を右クリックし、[開始] をクリックします。
アプリケーション プールが開始されている場合は、アプリケーション プール名を右クリックし、[リサイクル] をクリックします。
4. アプリケーション プールを開始できない場合は、後述の「解決策: アプリケーション プール アカウントを確認します」に示す手順を実行してから、アプリケーション プールを開始する手順を実行します。

解決策: アプリケーション プール アカウントを確認します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。

3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーションの管理] ページで、PerformancePoint Services サービス アプリケーションの名前を選択し、リボンの [プロパティ] をクリックします。
5. [PerformancePoint Service アプリケーションの編集] ページの [アプリケーション プール] セクションで、アプリケーション プール名を確認してメモします。この情報は後の手順で使用します。
6. IIS マネージャーで、アプリケーション サーバーに接続します。
7. サーバー ノードを展開し、[アプリケーション プール] をクリックします。
8. 手順 5. でメモしたアプリケーション プール名を右クリックし、[詳細設定] をクリックします。
9. [詳細設定] ダイアログ ボックスの [プロセス モデル] で、[ID] アカウントの横にある省略記号 (...) をクリックします。
10. [アプリケーション プール ID] ダイアログ ボックスで、[設定] をクリックします。
11. [資格情報の設定] ダイアログ ボックスで、ドメイン アカウント名とパスワードを入力し、さらにパスワードを確認入力して、[OK] をクリックします。
12. [アプリケーション プール ID] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。
13. [詳細プロパティ] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。

PerformancePoint Services – データベースの接続に失敗しました – イベント 34

アラート名: PerformancePoint Services データベースの接続に失敗しました

イベント ID: 34

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の PerformancePoint Services Service には、注釈、一時的な情報、およびフィルターを保存するためのデータベースへのアクセスが必要です。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生します。

- ユーザーが、レポートのナビゲート、スコアカードの表示、または OLAP ビューのナビゲートができません。
- インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーで、アプリケーション プールが停止しています。
- このイベントはイベント ログに次のように表示されます。イベント ID: 34 説明: ストアがデータベースに接続できません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- アプリケーション プールのサービス アカウントのパスワードが変更されたか、またはアカウントが正しいものではありません。
- PerformancePoint Services のデータベースが破損しているか、削除されてバックアップ データベースから復元されたものです。

解決策: アプリケーション プールの ID に、正しい SQL Server の権限があることを確認します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが、PerformancePoint Services のデータベースの、SQL Server の `db_owner` 固定データベース ロールのメンバーであることを確認します。
2. SQL Server Management Studio を開き、データベース サーバーに接続します。
3. オブジェクト エクスプローラーで、[データベース] を展開します。
4. PerformancePoint Services のデータベースのノードを展開します。[セキュリティ] を展開して、[ユーザー] を展開します。

 **メモ:**

PerformancePoint Services のデータベースの名前を特定するには、この記事で後述する「Windows PowerShell を使用して PerformancePoint のデータベースを特定するには」の手順に従います。

5. アプリケーション プールのアカウントが SQL ログインとして表示されていることを確認します。

メモ:

サービスで使用されるアプリケーション プールを特定するには、この記事で後述する「アプリケーション プールを特定するには」の手順に従います。

6. アカウントが表示されていない場合は、次の手順に従って、PerformancePoint Services のデータベースの `db_owner` 固定データベース ロールを持った SQL Server ログインとしてアカウントを追加します。
 - a) [ユーザー] ノードを右クリックしてから、[新しいユーザー] をクリックします。
 - b) [全般] タブで、[ログイン名] オプションを選択して、省略記号をクリックします。
 - c) [ログインの選択] ダイアログ ボックスで、ログイン名を入力するか、または、[参照] をクリックしてリストからログインを選択します。

アプリケーション プールのアカウントがリストに表示されない場合は、データベース サーバーに SQL Server ログインとして追加する必要があります。
 - d) [ログインの選択] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。
 - e) [データベース ユーザー] ダイアログ ボックスの [全般] タブの [データベース ロールのメンバーシップ] で、[`db_owner`] チェック ボックスがオンになっていることを確認して、[OK] をクリックします。
7. アカウントがリストに表示されている場合は、次の手順に従って、PerformancePoint Services のデータベースの `db_owner` 固定データベース ロールがあることを確認します。
 - a) ログインを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - b) [データベース ユーザー] ダイアログ ボックスの [データベース ロールのメンバーシップ] で、[`db_owner`] チェック ボックスがオンになっていることを確認して、[OK] をクリックします。

Windows PowerShell を使用して PerformancePoint のデータベースを特定するには

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。[Add-SPShellAdmin](#) を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell のコマンド プロンプト (PS C:¥>) で、次のコマンドを入力して Enter キーを押します。

```
Get-SPPerformancePointServiceApplication
```


```
SettingsDatabase
```

プロパティから、データベースの名前を記録します。

詳細については、「[Get-SPPerformancePointServiceApplication](#)」を参照してください。


解決策: サーバーの全体管理を使用して、アプリケーション プールのアカウントを確認します。

1. IIS マネージャーで、サーバーの全体管理を実行しているサーバーに接続します。
2. サーバーのノードを展開し、[アプリケーション プール] をクリックします。
3. アプリケーション プールを右クリックして、[詳細プロパティ] をクリックします。

 **メモ:**

サービスで使用されるアプリケーション プールを特定するには、この記事で後述する「アプリケーション プールを特定するには」の手順に従います。

4. [詳細プロパティ] ダイアログ ボックスの [プロセス モデル] で、[ID] アカウントの横の省略記号をクリックします。
5. [アプリケーション プール ID] ダイアログ ボックスで、[設定] をクリックします。
6. [資格情報の設定] ダイアログ ボックスで、ドメイン アカウント名とパスワードを入力し、パスワードを確認して、[OK] をクリックします。
7. [アプリケーション プール ID] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。
8. [詳細プロパティ] ダイアログで [OK] をクリックします。

 **メモ:**


変更内容を反映させるために、アプリケーション プールを再起動する必要はありません。

解決策: Windows PowerShell を使用してバックアップからデータベースを復旧します。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell のコマンド プロンプト (PS C:¥) で、次のコマンドを入力して Enter キーを押します。
`Restore-SPFarm -Directory <バックアップ フォルダー名> -RestoreMethod [New | Overwrite] -Item <コンテンツ データベース名> [-BackupId <GUID>] [-Verbose]`
6. 復元されたデータベースをファームに再接続するには、次のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

`Set-SPPerformancePointServiceApplication -SettingsDatabase <データベース名>`

詳細については、「[Restore-SPFarm](#)」を参照してください。

 **メモ:**

コマンドライン管理タスクを実行するときには Windows PowerShell を使用することが推奨されています。Stsadm コマンドライン ツールは推奨されていませんが、製品の以前のバージョンとの互換性をサポートするために含まれています。

アプリケーション プールを特定するには

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。

4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell のコマンド プロンプト (PS C:¥) で、次のコマンドを入力して Enter キーを押します。

Get-SPPerformancePointServiceApplication

ApplicationPool

の下の Name=

の後に表示されている名前を記録します。

6. Windows PowerShell のコマンド プロンプト (PS C:¥) で、次のコマンドを入力して Enter キーを押します。

Get-SPServiceApplicationPool | Where-Object {&_.Name -eq " <上記の手順で記録したアプリケーション プール名>" | Format-Table -Property Name,DisplayName,Id

アプリケーション プール名は、Id

として表示されている GUID です。

詳細については、「[Get-SPServiceApplicationPool](#)」を参照してください。

メモ:

コマンドライン管理タスクを実行するときには Windows PowerShell を使用することが推奨されています。Stsadm コマンドライン ツールは推奨されていませんが、製品の以前のバージョンとの互換性をサポートするために含まれています。

SharePoint Server 2010 の Search Services のナレッジ項目

このセクション内の記事は、Microsoft SharePoint Server 2010 の Microsoft Search Server 2010 Services のナレッジ項目です。通常、これらの記事は、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を参照して、Search Server 2010 のトラブルシューティングおよび問題の解決に役立てることができます。

このセクションの内容

- [Search Gatherer のディスクがいっぱいです - イベント 23 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [検索データベースの空き領域が不足しています - イベント 52](#)
- [Search Service でのクエリ コンポーネントの委任 - イベント 58](#)
- [検索クエリの重大なエラー - イベント 60](#)
- [Search Indexer がインデックスの初期化に失敗しました - イベント 71](#)
- [検索インデックスが破損しています - イベント 74 93 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Search Indexer のディスクの空き容量が足りません - イベント 80](#)
- [検索伝達通信エラー - イベント 92](#)
- [Search Gatherer ホストが使用できません - イベント 114 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [検索管理コンポーネントが失敗しました - イベント 121](#)
- [検索クロール コンポーネント インデックス パス エラー - イベント 2588 2589 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Search Query and Site Settings Service が実行していません \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [SharePoint Server 2010 Search が実行されていません](#)

Search Gatherer のディスクがいっぱいです – イベント 23 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Search Gatherer のディスクがいっぱいです

イベント ID: 23

概要: クローラーは、コンテンツを検索してインデックスを作成する際に、一時的な場所にファイルを作成します。この場所は、時間と共にサイズが増大する可能性があります。この場所が置かれているディスクの空き領域が不足しています。

現象: Microsoft SharePoint Server 2010 で、コンテンツをクロールするときに、次の現象が発生します。

- クロールの処理が進行せず、停止しているように見えます。
- クロールのログに、クロールされた新しいドキュメントが表示されません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 23 説明: ディスクの空き容量が足りないため、クロールが一時停止されました。

原因: 検索クローラーが一時ファイルを作成するディスクの空き領域が不足しています。

解決策: ディスクの空き領域を増やします。

- クローラーがコンテンツを検索する際にインデックスを作成するディスクの空き領域を増やします。

ディスクの空き領域を増やすには

1. ディスク クリーンアップを使用して、インデックス ファイルが保存されているディスクから一時ファイルを削除します。インデックス ファイルの場所を探すには、この後で説明する手順に従います。

 **メモ:**

一時ファイルがオペレーティング システム ドライブ (ドライブ C) 以外のドライブにある場合は、一時ファイルの削除後に Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) を再起動してクローラーのパフォーマンスをテストする必要があります。

2. ディスク クリーンアップが完了したら、クローラーのパフォーマンスをテストします。クローラーがコンテンツを検索していない場合は、選択したドライブから不要なファイルとフォルダーを削除します。
3. ディスク領域をクリアできない場合は、Search Server 2010 サービス (OSearch) を再起動します。Search Server 2010 サービス (OSearch) を再起動すると、インデックス ファイル用の Temp ディレクトリが再作成されます。コマンド プロンプト ウィンドウで、コマンド `net stop osearch14` を実行して Search Service を停止します。その後、コマンド `net start osearch14` を実行して、Search Service を再開します。

インデックス ファイルの場所を探すには

1. **regedit** を実行します。
2. 次のレジストリ フラグが設定されている場合、インデックス ファイルにはシステムの Temp ディレクトリ **HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥Search¥Global¥Gathering Manager¥UseSystemTemp** が使用されています。
3. インデックス ファイルに対してシステムの Temp ディレクトリが使用されていない場合、インデックス ファイルの場所は、レジストリ キー **HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥Search¥Global¥Gathering Manager¥TempPath** によって示されます。

検索データベースの空き領域が不足しています - イベント 52

アラート名: 検索データベースの空き領域が不足しています

イベント ID: 52

概要: 各検索アプリケーションは、特定の種類のコンテンツを保存する、次の一連のデータベースに依存しています。

- 1つ以上の検索プロパティ データベースに、クロールされたアイテムについてのメタデータが保存されます。
- 1つ以上の検索クロール データベースに、アイテムがクロールされた日時と場所についての情報が保存されます。
- 検索管理データベースに、検索アプリケーションの管理についての固有情報が保存されません。

現象: 多数のアイテムがクロールされるにつれて、プロパティ データベースとクロール データベースのサイズが次第に増加します。ある時点で、Microsoft SharePoint Server 2010 に、次の現象が発生する可能性があります。

- クロールの処理が進行せず、停止しているように見えます。
- クロールのログに、クロールされた新しいドキュメントが表示されません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 52 説明: データベースの空き領域が不足しています。ソース:<データ> コード:<データ> が<データ> 回発生しました。説明:<データ>

原因: 1つ以上の検索データベースで、ディスクの空き領域が不足しています。

解決策: 記憶域を調べます。

1. 詳細なエラー メッセージからデータベースの場所と名前を調べます。Microsoft SQL Server のインスタンスが実行されているサーバー上で次の手順を実行して、検索データベースに十分な記憶域があるかどうかを確認します。
2. SQL Server Management Studio を起動します。
3. ログオンして、[データベース] コンテナーを展開します。
4. 問題が発生しているデータベースの名前を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
5. [全般] タブで、[サイズ] をクリックして現在のファイル サイズを調べます。

解決策: 検索データベースを移動します。

- 現在のサイズよりも大きな記憶域を作成したら、SQL Server の切断および接続機能を使用して、検索データベースを新しい場所に移動します (KB 220071 を参照してください)。

Search Service でのクエリ コンポーネントの委任 – イベント 58

アラート名: Search Service でのクエリ コンポーネントの委任

イベント ID: 58

概要: 高可用性のサポートのため、同じクエリ グループに複数のクエリ コンポーネントを作成することをお勧めします。クエリ コンポーネントにエラーが発生した場合は、Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) がエラーが発生したコンポーネントの操作を別のクエリ コンポーネントに委任して、クエリの処理を続行します。

現象: Microsoft SharePoint Server 2010 でクエリの処理中に次の現象が発生します。

- クエリの読み込みが多い場合に、クエリのスループットが減少します。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 58 説明: 次のエラーが発生したため、クエリ コンポーネント <クエリ コンポーネント名> が、循環から除外されました: <エラー> <秒数> 秒以内に再試行されます。 <データ>

原因: イベントのエラー メッセージに示された理由で、クエリ コンポーネントが循環から除外されました。

解決策: Search Service を再起動します。

- 影響のあるクエリ コンポーネントへの伝達は、イベントで指定された時間内に自動的に再試行されます。再試行が失敗する場合は、Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) を停止して再起動します。コマンド プロンプト ウィンドウを開き、「**net stop osearch14**」と入力して Search Service を停止し、「**net start osearch14**」と入力して Search Service を再起動します。

エラーが続く場合は、エラーが発生したクエリ コンポーネントと同じクエリ グループに、新しいクエリ コンポーネントをミラーとして追加します。

解決策: 新しいクエリ コンポーネントを追加します

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで [一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[検索] セクションで [Farm-wide Search Dashboard] をクリックします。
2. [検索アプリケーション トポロジ] セクションで、イベントを生成した検索アプリケーションを見つけ、[Modify Topology] をクリックします。
3. [Search Service アプリケーション <サービス名> のトポロジ] ページで、トポロジの一覧からエラーが発生したクエリ コンポーネントを選択して、[ミラーの追加] をクリックします。
4. [クエリ コンポーネントの追加] ダイアログ ボックスで、新しいクエリ コンポーネント用のクエリ サーバーと関連するメタデータ データベースを選択して、[OK] をクリックします。
5. [トポロジの変更を適用] をクリックします。検索アプリケーション用に変更が処理され、エラーが発生したクエリ コンポーネントから新しいクエリ コンポーネントへインデックスがコピーされます。
6. エラーが発生したクエリ コンポーネントをクリックして [削除] をクリックします。

7. トポロジによって、インデックスがエラーが発生したクエリ コンポーネントから削除され、インデックスが削除されます。

検索クエリの重大なエラー – イベント 60

アラート名: 検索クエリの重大なエラー

イベント ID: 60

概要: クエリ コンポーネントにミラーがなく高可用性が十分でない状況や、クエリ グループのすべてのクエリ コンポーネントがエラーになる状況では、インデックスの一部にクエリ結果が提供されない可能性があります。

現象: Microsoft SharePoint Server 2010 でクエリの処理中に次の現象が発生します。

- クエリの待機時間が増加したり、クエリがエラーになったりします。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 60 説明: 最新のクエリ コンポーネントが循環から除外できません。以前のイベント ログを確認して原因を特定してください。伝達が必要な場合があります。〈データ〉

原因: 以前の検索イベントのエラー メッセージに示された理由で、クエリ コンポーネントが循環から除外されています。

解決策: Search Service を再起動します。

1. Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) を停止して再起動します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、「net stop osearch14」と入力して Search Service を停止します。「net start osearch14」と入力して Search Service を再起動します。

エラーが続く場合は、エラーが発生したクエリ コンポーネントと同じクエリ グループに、新しいクエリ コンポーネントをミラーとして追加します。

解決策: 新しいクエリ コンポーネントを追加します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで [一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[検索] セクションで [Farm-wide Search Dashboard] をクリックします。
2. [Search Service Applications] セクションで、イベントを生成した検索アプリケーションをドロップダウン リストから選択し、[Modify Topology] をクリックします。
3. [Search Service アプリケーション > サービス名 > のトポロジ] ページで、トポロジの一覧でエラーが発生したクエリ コンポーネントをクリックして、コンポーネントのドロップダウン リストから [ミラーの追加] を選択します。
4. [ミラー クエリ コンポーネントの追加] ダイアログ ボックスで、新しいクエリ コンポーネント用のクエリ サーバーと関連するメタデータ データベースを選択して、[OK] をクリックします。
5. [トポロジの変更を適用] をクリックします。検索アプリケーション用に変更が処理され、エラーが発生したクエリ コンポーネントから新しいクエリ コンポーネントへインデックスがコピーされます。
6. エラーが発生したクエリ コンポーネントをクリックして [削除] をクリックします。
7. トポロジによって、エラーが発生したクエリ コンポーネントからインデックスが削除され、コンポーネントが削除されます。

Search Indexer がインデックスの初期化に失敗しました – イベント 71

アラート名: Search Indexer がインデックスの初期化に失敗しました

イベント ID: 71

概要: mssearch.exe は、クローलとクエリを実行する主要なプロセスです。このプロセスは、検索用のクローलおよびクエリ コンポーネントをホストします。検索の初期化で、mssearch.exe プロセスやクローलまたはクエリ コンポーネントを初期化する間に、Microsoft SharePoint Foundation 2010 では、アラート名が示す現象が発生します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- コンポーネントを含むクローलまたはクエリ検索アクティビティが停止します。
- システムが毎分、自動的に再試行します。30 分以内に 2 つのイベントが発生した場合は対応が必要です。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 71 説明: <データ> のコンテンツ インデックスを初期化できませんでした。エラー <データ>。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- ディスク上のインデックス ファイルにアクセスできません。
- 使用可能なメモリがありません。
- インデックスが破損しています。

解決策: サーバー上のリソースを修正します。

- インデックス ファイルへのアクセスに関する問題を解決します。インデックス ファイルの場所は、[Edit Query Component] ダイアログを見るとわかります。このインデックス ファイルフォルダーに対して、WSS_ADMIN_WPG セキュリティグループのアカウントが“フル コントロール” 権限を持つことを確認します。

インデックス ファイルの場所を表示するには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの [一般的なアプリケーションの設定] をクリックします。
2. [一般的なアプリケーションの設定] ページの [検索] で、[Farm-wide Search Dashboard] をクリックします。
3. [Farm-wide Search Dashboard] ページの [Search Service Applications] で、構成する必要がある Search Service の横の [Modify Topology] をクリックします。
4. [Search Service アプリケーション <サービス名> のトポロジ] ページの [Index Partition] で、構成する必要があるクエリ コンポーネントをクリックします。
5. [インデックス コンポーネント] をクリックし、[プロパティの編集] をクリックします。インデックス ファイルの場所が [ディレクトリのインデックス処理] セクションに表示されます。
6. [プロパティの編集] をクリックします。

7. [Edit Query Component] ダイアログで、[Location of Index] の下にある [Location of Index] ボックスに、インデックス ファイルの場所が表示されます。
- この場所に対して、WSS_ADMIN_WPG セキュリティグループのアカウントが“フル コントロール” 権限を持つことを確認します。

解決策: 検索サーバー サービスを再開します。

- メモリ不足が問題になっている場合は、Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) を停止して再開します。コマンド プロンプト ウィンドウで、コマンド `net stop osearch14` を実行して Search Service を停止します。その後、コマンド `net start osearch14` を実行して、Search Service を再開します。

解決策: 破損したインデックスを修正します。

- このイベントと共に、インデックスの破損を示すイベント ID 74 または 93 が表示される場合は、インデックス破損イベントの指定された種類に対応する解決策を使用して問題を修正します。

検索インデックスが破損しています – イベント 74 93 (SharePoint Server 2010)

アラート名: 検索インデックスが破損しています

イベント ID: 74、93

概要: Mssearch.exe は、検索用のクロールとクエリを実行する主要なプロセスです。このプロセスは、検索用のクロールとクエリのコンポーネントをホストします。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- クエリ コンポーネントを使用する検索アクティビティ (クロールまたはクエリ) が停止します。
- イベント ログに、以下のイベントの 1 つまたは複数が記録される場合があります。
 - イベント ID: 74 説明: <データ> カタログ <データ> で、種類 <データ> の壊れたインデックスが検出されました。スタックトレースは <データ> です。



警告:

このエラーの発生後は、システムでクロールは再実行されません。

- イベント ID: 93 説明: 中止された結合の再開中に、壊れたインデックスが検出されました。検索アプリケーション <データ> のカタログのリセットが必要な可能性があります。



警告:

結合の再開が、システムからの通知なしに自動的に再試行されます。この 2 つのイベントが 30 分以内に発生する場合は、問題を解決する必要があります。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- ディスク エラーがインデックス ファイルに影響しています。
- インデックスが破損しています。

解決策: ディスクが破損していないか調べます

- イベントに関する詳細情報に示されたサーバーで、Chkdsk コマンドを実行してディスク エラーの有無を調べます。

解決策: 新しいクロール コンポーネントを作成します

- SharePoint サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーションの全般設定] をクリックします。
- [アプリケーションの全般設定] ページの [検索] セクションで、[ファームの検索管理] をクリックします。
- [ファームの検索管理] ページの [Search Service アプリケーション] セクションで、適切な Search Service アプリケーションの [トポロジの変更] をクリックします。

4. [検索トポロジの管理] ページで、[新規作成] をクリックし、ショートカット メニューの [クロー
ル コンポーネント] を選択します。
5. [クローラ コンポーネントの追加] ダイアログ ボックスで、適切なファーム サーバーとクロー
ル データベースを選択し、表示される場所とは異なる場所にインデックスを配置する場
合は正しい場所を入力します。[OK] をクリックします。
6. [検索トポロジの管理] ページで、[トポロジの変更を適用] をクリックします。

解決策: ミラー データベースからクエリ コンポーネントを復元します

1. このコンポーネントがミラー データベースに含まれている場合、以下の手順で、クエリ コン
ポーネントのリストを表示し、そのリストに基づく正しいクエリ コンポーネント ID を指定した
RequestRecover メソッドを使用してコンポーネントを復元します。
2. 次の最小要件を満たしていることを確認します。**Add-SPShellAdmin** を参照してください。
3. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
4. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
5. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
6. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

コー
ドの
コピ
ー

```
$app = Get-SPEnterpriseSearchServiceApplication "<Name>" $qt = Get-
SPEnterpriseSearchQueryTopology -SearchApplication $app -Active $querycomponents =
Get-SPEnterpriseSearchQueryComponent -QueryTopology $qt foreach ($qc in
$querycomponents) {"Name: " + $qc.Name + " Index Location: " + $qc.IndexLocation + " ID:
" + $qc.ID + " State: " + $qc.State}
```

ここで、

7. <Name> には、イベントの詳細情報に示された Search Service アプリケーションの名前
を指定します。
このコマンドでは、クエリ コンポーネントのリストが生成されます。問題が発生している
クエリ コンポーネントの ID (\$qc.ID) を探してください。コンポーネントの **State** 値を調べ
ます。この ID を次の手順で使用します。
8. 手順 6. で取得した ID を使用して、Windows PowerShell でコンポーネントを復元します。
Windows PowerShell コマンド プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

コードのコ
ピー

```
$qc = Get-SPEnterpriSesearchQueryComponent -Identity "<ID>" -QueryTopology $qt
$qc.RequestRecover()
```

ここで、

9. <ID> には、手順 6. で取得したクエリ コンポーネント ID を指定します。

Search Indexer のディスクの空き容量が足りません – イベント 80

アラート名: Search Indexer のディスクの空き容量が足りません

イベント ID: 80

概要: クローラーがコンテンツを検索してインデックスを作成するとき、検索結果の取得に使用するためにインデックス ファイルが作成されます。インデックス付けされるアイテムの数が増えると、インデックス ファイルのサイズが大きくなります。

現象: クローラーがコンテンツを検索する際、Microsoft SharePoint Server 2010 に次の現象が発生します。

- クロールが進行せず、停滞しています。
- クロール ログに、新しくクロールされたドキュメントが表示されません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 80 説明: <データ> ディスクの空き容量が、カタログ <データ> には足りません。インデックス付けを続行できるように、ディスクの空き容量を増やしてください。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- クロール コンポーネントに対してエラーが報告された場合、そのクロール コンポーネントに関連付けられた記憶域の場所で空き容量が不足しています。そのドライブにある不要なファイルやフォルダーを削除して、ディスク容量を確保します。
- クエリ コンポーネントのインデックスに関連付けられた記憶域の場所で空き容量が不足しています。
 - クエリ コンポーネントに対してエラーが報告された場合、検索アプリケーションで記憶域の容量が不足している可能性があります。この場合、そのクエリ コンポーネントに関連付けられているインデックスを、より大きな記憶域デバイスに移動します。
 - 検索アプリケーション インデックスに、クエリ コンポーネント 1 つあたり 1,000 万個を超えるアイテムが含まれている場合、新しいサーバー上で検索アプリケーションに別のクエリ グループを追加してください。

解決策: クロール コンポーネント用のディスク容量を再生します。

1. ディスク クリーンアップを使用して、インデックス ファイルが格納されているドライブの一時ファイルを削除します。
2. ディスク クリーンアップが完了したら、クローラーのパフォーマンスをテストします。クローラーがコンテンツを検索していない場合は、選択したドライブ上の不要なファイルやフォルダーを削除します。

解決策: クエリ コンポーネント インデックスを移動してディスク容量を確保します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web ページで、[一般的なアプリケーションの設定] をクリックして、[検索] セクションで [Farm-wide Search Dashboard] をクリックします。

2. [Search Service Application] セクションで、イベントを生成した検索アプリケーションを選択して、[Modify Topology] をクリックします。
3. [Search Service アプリケーション <サービス名> のトポロジ] ページで、[クエリ コンポーネント] をクリックして、[プロパティの編集] をクリックします。
4. [Location of Index] ボックスで、クエリ コンポーネント インデックスの新しいストレージ パスを指定します。
5. [OK] をクリックし、[トポロジの変更を適用] をクリックします。

 メモ:

インデックスのサイズによって、この操作には数分以上かかることがあります。

6. トポロジでインデックスが新しいストレージ パスに移動し、以前のインデックスが削除されます。

解決策: 新しいアプリケーション サーバーに別のインデックスのパーティションを追加してディスク容量を確保します。

1. SharePoint サーバーの全体管理ページで、[一般的なアプリケーションの設定] をクリックして、[検索] セクションで [Farm-wide Search Dashboard] をクリックします。
2. [Search Service Application] セクションで、ボックスの一覧から、イベントを生成した検索アプリケーションを選択して、[Modify Topology] をクリックします。
3. [Search Service アプリケーション <サービス名> のトポロジ] ページで、[新規作成] をクリックして、[Index Partition and Query Component] をクリックします。
4. [クエリ コンポーネントの追加] ダイアログ ボックスの [クエリ サーバー] ボックスで、新しいアプリケーション サーバーを選択して、[OK] をクリックします。
5. [トポロジの変更を適用] をクリックします。検索アプリケーションに変更が反映されます。
6. トポロジで既存のインデックスのパーティションが新しいインデックスのパーティションのセットに均等に分割されます。

検索伝達通信エラー – イベント 92

アラート名: 検索伝達通信エラー

イベント ID: 92

概要: クローラーは、コンテンツを検索してインデックスを作成する際に、検索結果の抽出に使用するインデックス ファイルを作成します。これらのファイルは、クローラー コンポーネントによって記憶域に作成され、その後、適切なクエリ コンポーネントに伝達されます。

現象: Microsoft SharePoint Server 2010 がコンテンツをクローラーし、クローラー コンポーネントがクエリ コンポーネントに伝達できない場合、SharePoint Server 2010 に次の現象が発生します。

- クローラーの処理が進行せず、停止しているように見えます。
- クローラーのログに、クローラーされた新しいドキュメントが表示されません。
- ユーザーは、ブラウザーにアプリケーションを表示できない場合があります。または、サービスを使用できない場合があります。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 92 説明: 検索アプリケーション 'データ' のクローラー コンポーネントがクエリ サーバー 'データ' と通信できませんでした。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- クローラー コンポーネントの資格情報が古くなっています。つまり、有効期限が過ぎています。
- ネットワークの問題によって通信が妨げられています。
- クエリ サーバーが応答していません。

解決策: サーバーを再起動します。

- 問題が発生しているサーバーを再起動して、Search Service の資格情報が最新のものであることを確認します。

解決策: ネットワーク接続の問題を修正します。

- クローラー コンポーネントをホストするサーバーとクエリ サーバーの間のネットワーク接続を確認します。ネットワーク接続が機能している場合は、クエリ サーバー上のクエリ コンポーネントを調べ、共有が存在し、クローラーからの書き込みが可能であることを確認します。

解決策: 新しいクエリ コンポーネントを作成します。

- サーバーの再起動後に、クローラー コンポーネントからクエリ サーバーにファイルをコピーできない場合は、同じクエリ グループ内に新しいクエリ コンポーネントを作成します。
 1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、[一般的なアプリケーションの設定] をクリックし、[検索] セクションで [Farm-wide Search Dashboard] をクリックします。
 2. [Farm-wide Search Dashboard] ページで、イベントを生成した検索アプリケーションを修正します。つまり、問題の影響を受けたクエリ コンポーネントと同じクエリ グループ

内に新しいクエリ コンポーネントを追加し、その後、前者のクエリ コンポーネントを削除します。

3. トポロジ内で、問題の影響を受けたクエリ コンポーネントから新しいクエリ コンポーネントにインデックスが移行します。

Search Gatherer ホストが使用できません – イベント 114 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Search Gatherer ホストが使用できません

イベント ID: 114

概要: 検索クローलの一部として、クローल コンポーネントを含むサーバーはコンテンツ サーバーと通信して、クローल用のアイテムを取得します。クローल サーバーとコンテンツ サーバー間のネットワーク通信の問題によって、このクロールが禁止されます。

現象: Microsoft SharePoint Server 2010 が特定のコンテンツ サーバーからコンテンツをクロールしていて、ネットワーク通信の問題が存在する場合、Microsoft SharePoint Server で次の現象が発生する可能性があります。

- 特定のコンテンツ サーバーのクロールが進行せず、ほとんど停止しているように見えます。
- クロール ログに、特定のコンテンツ サーバーの新しくクロールされたドキュメントが含まれていません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 114 説明: サーバー <データ> は使用できないため、アクセスできませんでした。ネットワークから切断されている可能性があります。このサーバーのアイテムのクロールは、10 分間スキップされます <データ>

原因: ネットワークの問題が通信を阻害している可能性があります。コンテンツ サーバーがオンラインで、クロール サーバーに接続できることを確認してください。

解決策: コンテンツ サーバーの状態を確認します

1. SharePoint サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーションの管理] ページで、[Search Service アプリケーション] をクリックします。
4. [検索管理] ページの [システムの状態] セクションで、[既定のコンテンツ アクセス アカウント] として表示されるユーザー アカウントを記録します。
5. 左側のメニューの [クロール] セクションで、[コンテンツ ソース] をクリックします。
6. [コンテンツ ソースの管理] ページで、コンテンツ ソースの 1 つをクリックします。
7. [コンテンツ ソースの編集] ページの [開始アドレス] セクションで、テキスト ボックスに表示されている URL を記録します。
8. 手順 4. で記録したユーザー アカウントを使用して Web ブラウザーを開き、手順 7. で記録した URL へ移動します。正しくページが読み込まれることを確認します。
9. コンテンツ サーバーがオンラインで、コンテンツをクローल アカウントに提供する場合は、ネットワーク接続の問題がある可能性があります。この問題の特定と解決については、「[基](#)

[本的な TCP/IP の問題を解決する方法](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=157440&clid=0x411>) を参照してください。

検索管理コンポーネントが失敗しました - イベント 121

アラート名: 検索管理コンポーネントが失敗しました

イベント ID: 121

概要: 検索管理コンポーネントは、個々の Search Service アプリケーションごとに 1 つ作成されます。検索管理コンポーネントは検索アプリケーションの設定に変更を加えます。

現象: 該当する Search Service アプリケーションに対する変更が実行されるとき検索管理コンポーネントが失敗する場合、次のどちらか、または両方の現象が見られることがあります。

- 検索アプリケーションの設定を変更する操作が完了しません。
- イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 121 説明: アプリケーション 'データ' の管理コンポーネントが例外 'データ' で失敗しました。

原因: 検索管理コンポーネントが、正しく構成されていないか、検索アプリケーションの管理データベースに接続できません。

解決策: Search Service アプリケーションのサーバーがデータベースへの書き込みを実行できることを確認します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. Search Service アプリケーションのサーバーからデータベース サーバーへの ping を実行し、ネットワーク上でサーバー間の通信ができることを確認します。
3. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
4. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
5. [サービス アプリケーションの管理] ページで、Search Service アプリケーションをクリックします。
6. [プロパティの編集] ダイアログ ボックスで、該当する Search Service アプリケーションの [Search Service アカウント] 名を確認し、メモします。
7. 該当する Search Service アプリケーションの検索管理データベースをホストするデータベース サーバーに対し、この Search Service アカウントおよびパスワードを使用して接続します。データベースに対する読み取り/書き込みアクセス許可がこのアカウントに付与されていることを確認します。

解決策: 新しい検索管理コンポーネントを作成します。

- この問題が引き続き発生する場合は、`Set-SPEnterpriseSearchAdministrationComponentWindows PowerShell` コマンドレットを使用して、検索管理コンポーネントを異なるサーバー上に移動します。詳細については、「[Set-SPEnterpriseSearchAdministrationComponent](#)」を参照してください。

検索クロール コンポーネント インデックス パス エラー – イベント 2588 2589 (SharePoint Server 2010)

アラート名: 検索クロール コンポーネント インデックス パス エラー

イベント ID: 2588 2589

概要: 各検索クロール コンポーネントが作成される時、クロール処理の一部として使用されるインデックス ファイルを格納するために使用されるフォルダーが作成されます。

現象: 以下のイベントがイベント ログに記録される場合があります。

- イベント ID: 2588 説明: アプリケーション <データ> のコンポーネント <データ> のインデックスの場所が正しくありません: <データ>
- イベント ID: 2589 説明: アプリケーション <データ> のコンポーネント <データ> のインデックスの場所が正しくありません: <データ> へのアクセスは許可されていません。

原因: インデックス用に指定された場所が存在しないか、または指定された場所にインデックス用のフォルダーを作成するための権限がアプリケーションにありません。

解決策: サービス アカウントにインデックス フォルダーのための十分な権限があることを確認します

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーション] ページで、Search Service アプリケーションをクリックします。
5. [検索管理] ページの [検索アプリケーションのトポロジ] セクションで、[変更] をクリックします。
6. [検索アプリケーショントポロジの管理] ページで、インデックス パーティション クエリ コンポーネントをクリックして、[プロパティの編集] をクリックします。
7. [クエリ コンポーネントの編集] ダイアログ ボックスの [インデックスの場所] で、インデックス フォルダーのパスを記録します。[キャンセル] をクリックします。
8. 記録した場所に移動し、場所が存在することを確認します。
9. 前の手順で記録したサービス アカウントに、このフォルダーに対する読み取りおよび書き込み権限があることを確認します。

解決策: サービス資格情報を更新します

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。ファームの各サーバーで、以下の手順を実行します。

2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Repair-SPManagedAccountDeployment
```

詳細については、「[Repair-SPManagedAccountDeployment](#)」を参照してください。

Search Query and Site Settings Service が実行していません (SharePoint Server 2010)

アラート名: Search Query and Site Settings Service が実行していません

イベント ID: イベント ID なし

概要: Search Query and Site Settings Service は、インターネット インフォメーション サービス (IIS) のサービスです。既定では、このサービスは検索クエリ コンポーネントが含まれる各サーバーで実行しています。このサービスはクエリ処理タスクを管理し、1 つ以上の適切なクエリ コンポーネントへのクエリの送信、結果セットの作成などを行います。クエリを処理するには、このサービスのインスタンスが少なくとも 1 つは実行している必要があります。

現象: すべての検索クエリが失敗します。

原因: インデックス用に指定された場所が存在しないか、または指定された場所にインデックス用のディレクトリを作成するための権限がアプリケーションにありません。

解決策: サーバーでサービスを開始します

1. SharePoint サーバーの全体管理のホーム ページの [システム設定] セクションで、[サーバーのサービスの管理] をクリックします。
2. [サーバーのサービス] ページで、**Search Query and Site Settings Service** が開始していない場合は、サービスの横の [開始] をクリックします。

クエリ コンポーネントを含むサーバーを検索します。

1. SharePoint サーバーの全体管理ホーム ページの [アプリケーション構成の管理] で、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [サービス アプリケーションの管理] ページで、Search サービス アプリケーションの名前をクリックします。
3. [検索管理] ページの [検索アプリケーショントポロジ] セクションの [インデックスのパーティション] で、クエリ コンポーネントが存在するサーバーの名前を記録します。

解決策: クエリ コンポーネントが存在するサーバーでサービスを開始します

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. クエリ コンポーネントが存在する各サーバーで、[スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、以下のように入力します。

コード
の
コ
ピ
ー

```
Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance -Local | Start-  
SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance
```

詳細については、「[Get-SPEnterpriseSearchQueryAndSiteSettingsServiceInstance](#)」を参照してください。

解決策: サービス アカウントにインデックス フォルダーのための十分な権限があることを確認します

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーション] ページで、Search Service アプリケーションをクリックします。
5. [検索管理] ページの [システムの状態] セクションで、[既定のコンテンツ アクセス アカウント] の名前を記録します。
6. [検索管理] ページの [検索アプリケーションのトポロジ] セクションで、[変更] をクリックします。
7. [検索アプリケーショントポロジの管理] ページで、インデックス パーティション クエリ コンポーネントをクリックして、[プロパティの編集] をクリックします。
8. [クエリ コンポーネントの編集] ダイアログ ボックスの [インデックスの場所] で、インデックス フォルダーのパスを記録します。[キャンセル] をクリックします。
9. 記録した場所に移動し、場所が存在することを確認します。
10. 手順 5. で記録したサービス アカウントに、このフォルダーに対する読み取りおよび書き込み権限があることを確認します。

解決策: サービス資格情報を更新します

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. ファーム内の各サーバーで次の手順を実行します。
3. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
4. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
5. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
6. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、以下のように入力します。

コードのコピー

```
Repair-SPManagedAccountDeployment
```

詳細については、「[Repair-SPManagedAccountDeployment](#)」を参照してください。

SharePoint Server 2010 Search が実行されていません

アラート名: SPServiceInstance の検索サーバーが実行されていません

イベント ID:

概要: Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) は、Search Service アプリケーションをホストする各サーバーで実行される Windows NT サービスです。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) が停止しています。
- クロール、クエリ、または、検索管理機能を使用しようとすると、タスクを実行できません。実行できないタスクは、トポロジ、および、どのサーバーがサービスを停止しているかによって異なります。

原因: Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) が実行されていません。

解決策: サーバーでサービスを開始します。

- コマンド プロンプト ウィンドウを開き、管理者特権でのコマンド プロンプトで次のコマンドを入力することによって、特定のサーバーで Microsoft Search Server 2010 サービス (OSearch) を再起動できます。

```
net start osearch14
```

SharePoint Server 2010 の Word Services のナレッジ項目

このセクション内の記事は、Microsoft SharePoint Server 2010 の Word Services のナレッジ項目です。通常、これらの記事は、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を参照して、Word Services のトラブルシューティングおよび問題の解決に役立てることができます。

このセクションの内容

- [Word Automation Service - SQL Server exception event - Event 1001 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Word Services のタイマー ジョブが失敗しました - イベント 1022 8077 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Word Services - PDF ファイル コンバーターでエラーが発生しています - イベント 8004 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Word Services - XPS ファイル コンバーターが失敗しました - イベント 8005 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Word Services を更新する必要があります - イベント 8010 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Word Services - 言語パックがインストールされていません - イベント 8012 \(SharePoint Server 2010\)](#)

Word Services のタイマー ジョブが失敗しました – イベント 1022 8077 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Word Automation Service のタイマー ジョブが失敗しました

イベント ID: 1002、8077

概要: Word Automation Services では、変換対象アイテムを Word Automation Services データベースから取得して個別のアプリケーション サーバーに割り当てるのにカスタム タイマー ジョブが使用されます。カスタム タイマー ジョブが実行されない場合、変換対象アイテムの変換を開始できません。

現象: Word Automation Services のタイマー ジョブが実行されない場合、Word Automation Services が失敗し、以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生することがあります。

- 新しいジョブはデータベースに正常に追加されますが、そのジョブの変換対象アイテムの変換が開始されません。
- 既存のジョブが完了しません。既にアプリケーション サーバーに割り当てられている変換対象アイテムは正常に処理できますが、アプリケーション サーバーに割り当てられていない変換対象アイテムの変換は開始されず、未完了のままになります。
- イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 1002 説明: サービス アプリケーション '%2' のタイマー ジョブ '%1' がアクティブでないため、変換ジョブが実行されない可能性があります。
- イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 8077 説明: "Word Automation Services のタイマー ジョブ" の SharedServices_NoOnlineServiceInstancesInLocalFarm で、インスタンスが開始されないことが示されています。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- 管理者が Word Automation Services のタイマー ジョブを無効にしました。
- Word Automation Services のタイマー ジョブの準備でエラーが発生しました。

解決策: SharePoint サーバーの全体管理で Word Automation Services のタイマー ジョブが有効になっていることを確認します

- このタスクを実行する手順については、「[Word Automation Services のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

解決策: Word Automation Services のタイマー ジョブが正常に準備されていることを確認します

- このタスクを実行する手順については、「[Word Automation Services のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

Word Services – PDF ファイル コンバーターでエラーが発生しています – イベント 8004 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Word Services – PDF ファイル コンバーターでエラーが発生しています

イベント ID: 8004

概要: Word Automation Services には、ファイルを PDF ファイル形式に変換するための既定のコンバーターが含まれています。この既定のコンバーター以外に、サード パーティ製のコンバーターを Word Automation Services で使用することもできます。サード パーティ製のコンバーターが原因でファイルの変換に失敗すると、Word Automation Services がこのイベントを発生させます。コンバーターが機能するようになるか、削除されるまでは、ファイルを PDF に正しく変換できません。

現象: Word Automation Services のサード パーティ製の PDF コンバーターが正常に機能していない場合は、PDF 変換が失敗し、次の 1 つ以上の現象が発生することがあります。

- PDF への変換が失敗して次のメッセージ ID が表示されます: 131183
- イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 8004 説明: PDF コンバーター「[ファイル パスと名前]」がファイルの変換に失敗しました。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- サード パーティ製のコンバーターが古くなっています。
- サード パーティ製のコンバーターが破損しています。
- サード パーティ製のコンバーターがその他の原因で機能しなくなっています。

解決策: 最新バージョンのコンバーターがインストールされていることを確認します

- サード パーティ製の最新のコンバーターがインストールされていることを確認します。
- サード パーティ製のコンバーターを再インストールしてみます。
- それでもうまくいかない場合は、サード パーティ製のコンバーターをアンインストールします。これを行うと、Word Automation Services で既定の PDF コンバーターが使用されるようになります。

解決策: Word Automation Services を更新します

- この作業を実行する手順については、「[Word Automation Services のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

Word Services – XPS ファイル コンバーターが失敗しました – イベント 8005 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Word Services – XPS ファイル コンバーターが失敗しました

イベント ID: 8005

概要: Word Automation Services には、ファイルを XPS ファイル形式に変換する既定のコンバーターが含まれています。Word Automation Services では、この既定のコンバーター以外にサードパーティ製コンバーターも使用できます。サードパーティ製コンバーターでファイル変換が失敗すると、Word Automation Services でこのイベントが発生します。コンバーターが正常に機能するか削除されるまで、ファイルは XPS に正常に変換されません。

現象: Word Automation Services でサードパーティ製 XPS コンバーターが正しく動作しない場合、XPS 変換が失敗し、以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生することがあります。

- メッセージ ID 131184 を伴って XPS への変換が失敗します。
- イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 8005 説明: XPS コンバーター「[ファイルパス & 名前]」がファイルの変換に失敗しました。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- サードパーティ製コンバーターが最新ではありません。
- サードパーティ製コンバーターが破損しています。
- サードパーティ製コンバーターがその他の理由で機能していません。

解決策: 最新バージョンのコンバーターがインストールされていることを確認します

- サードパーティ製コンバーターの最新バージョンがインストールされていることを確認します。
- サードパーティ製コンバーターの再インストールを試行します。
- これで問題が解決しない場合は、サードパーティ製コンバーターをアンインストールします。この場合、Word Automation Services では既定の XPS コンバーターが使用されます。

解決策: Word Automation Services を更新します

- このタスクを実行する手順については、「[Word Automation Services のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

Word Services を更新する必要があります – イベント 8010 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Word Services を更新する必要があります

イベント ID: 8010

概要: マイクロソフトは、Word Automation Services の更新プログラムを定期的リリースします。これらの更新により、Word Automation Services は新しく作成されるファイルを最善の品質で変換できます。

現象: 変換が失敗する場合がありますが、それよりも、出力ファイルで一部の機能の再現性が低下するだけの場合の方がよくあります。

原因: 変換のために送信されたファイルが、現在の Word Automation Services コンバーターより新しいバージョンの Microsoft Word で作成されています。

解決策: Word Automation Services を更新します

- この作業を行うための手順については、「[Word Automation Services のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

Word Services – 言語パックがインストールされていません – イベント 8012 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Word Services – 言語パックがインストールされていません

イベント ID: 8012

概要: Word Automation Services では、Word Automation Services が実行するすべてのアプリケーション サーバーに適切な言語パックがインストールされている必要があります。正しい言語パックがインストールされていない場合は、対応する言語で作成されたドキュメントを変換できません。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 8012 説明: 指定した言語に対応するローカライズ版コンポーネントを読み込めませんでした。必要な言語パックがインストールされており、適切に構成されていることを確認してください。

原因: 変換のために送信されたファイルには、変換を処理するサーバーに現在インストールされていない言語パックが必要です。

解決策: 言語パックをインストールします

- Word Automation Services を実行するすべてのアプリケーション サーバーに正しい言語パックをインストールします。
- この作業を行うための手順については、「[Word Automation Services のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

SharePoint Server 2010 の Visio Services のナレッジ項目

このセクション内の記事は、Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services のナレッジ項目です。通常、これらの記事は、Operations Manager コンソールでアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事を参照して、Visio Services のトラブルシューティングおよび問題の解決に役立てることができます。

このセクションの内容:

- [Visio Services でデータの更新に失敗しました - イベント 8037、8038、8063、8062](#)
- [Visio 構成データベースが見つかりません - イベント 8040](#)
- [Visio Services の信頼できないデータ プロバイダーへの要求 - イベント 8041](#)
- [Visio Services が図面の生成に失敗しました - イベント 8060、8042、8043](#)
- [Visio プロキシの初期化に失敗しました - イベント 8044](#)
- [Visio のアプリケーション プロキシのエンドポイントが無効です - イベント 8049](#)
- [Visio Services データ プロバイダーが見つかりません - イベント 8050](#)
- [Visio Services でのファイル読み込みエラー - イベント 8061 8051](#)

Visio Services でデータの更新に失敗しました – イベント 8037、8038、8063、8062

アラート名: Visio Services でデータの更新に失敗しました

イベント ID: 8037、8038、8062、8063

概要: ユーザーは、発行済みの Microsoft Visio 図面を、Microsoft SharePoint Server 2010 の Excel Services などの外部データソースに接続できます。このエラーは、ファイル内のデータのスキーマが変更されたことにより、所定の主キーが無効になっている場合に発生する可能性があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8037 説明: ファイル <ファイル名> の発行済みファイルのキャッシュで無効なデータの種類の種類が検出されました。例外: <例外コード>
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8038 説明: ファイル <ファイル名> の表示ファイルのキャッシュで無効なデータの種類の種類が検出されました。例外: <例外コード>
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8063 説明: ファイル %1 の ODC キャッシュで無効なデータの種類の種類が見つかりました。例外: <例外コード>
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8062 説明: 主キー列が削除されました。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- 現在は存在しないか、アクセスできない Microsoft Excel ブックなどの外部データソースに、ユーザーが接続している可能性があります。
- ユーザーが接続している外部データソースの主キー列が変更された可能性があり、Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services で Visio 図面内の外部データを更新できません。
- 有効な種類ではないデータプロバイダーのデータソースに、ユーザーが接続している可能性があります。

Visio 構成データベースが見つかりません – イベント 8040

アラート名: Visio 構成データベースが見つかりません

イベント ID: 8040

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services では、アプリケーションの設定を、構成 a ~ n データベースに保存します。サービスが機能するためには、このデータベースへのアクセスが欠かせません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Visio Services で、図を表示できないことがあります。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8040 説明: 構成マネージャーが見つかりません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- 構成データベースにアクセスできません。
- ネットワーク アクティビティが過剰に発生しているか、Microsoft SQL Server コンピューターの負荷が原因で、構成データベースの応答に時間がかかっています。

解決策: SQL Server 構成データベースの状態を確認します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、閲覧ウィンドウの [システム設定] セクションで [このファームのサーバーの管理] をクリックします。
2. [ファーム情報] セクションで、構成データベース サーバーと、構成データベースの名前とバージョンを確認します。
3. SQL Server Management Studio を起動し、構成データベース サーバーに接続します。
4. 構成データベースが存在しない場合は、SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを実行します。

解決策: SQL Server のネットワーク接続を確認します。

1. [サーバーの全体管理] ページで、閲覧ウィンドウの [システム設定] セクションで [このファームのサーバーの管理] をクリックします。
2. [ファーム情報] セクションで、構成データベース サーバーと、構成データベースの名前とバージョンを確認します。
3. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、「ping <サーバーのアドレス>」を入力してサーバーとの接続を確認します。
4. サーバーに接続できない場合は、ネットワーク接続に問題があるか、サーバーからの応答を妨げる問題が他に存在することを示しています。
5. サーバー コンピューターにログオンして、問題をトラブルシューティングします。

Visio Services の信頼できないデータ プロバイダーへの要求 - イベント 8041

アラート名: Visio Services の信頼できないデータ プロバイダーへの要求

イベント ID: 8041

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services が信頼できるプロバイダーの一覧にないデータ プロバイダーからのデータを要求したため、エラーが発生しました。管理者はユーザーが発行した Microsoft Visio 図面で接続できるデータ ソースを指定できます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 1 つまたは複数の図面でデータが更新されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8041 説明: 信頼できるデータ プロバイダーのエラーです。〈エラー名〉

原因: ユーザーが発行した Visio 図面で、サービス管理者によって信頼できるデータ プロバイダーとして指定されていないデータ プロバイダーにユーザーがリンクされている可能性があります。

Visio Services が図面の生成に失敗しました – イベント 8060、8042、8043

アラート名: Visio Services が図面の生成に失敗しました

イベント ID: 8060、8042、8043

概要: エラーが発生し、Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services で図面を生成できませんでした。このルールは、サービスによって図面が生成されないときに呼び出され、Visio Services の他の任意のルールと共に呼び出されることもあります。対応するルールとは別に、このルールが単独で呼び出されると、不明なエラーが発生し、サービスは図面を生成できません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8060 説明: ラスタライズは失敗しました。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8042 説明: ファイル〈ファイル名〉のラスタ図を生成できませんでした。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8043 説明: ファイル〈ファイル名〉のベクター図を生成できませんでした。図によっては表示されない場合があります。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- このルールが他のルールと共に呼び出される場合、他のルールに指定されている原因のために図面を表示できないことがあります。
- このルールのみが呼び出される場合、SharePoint の Visio Services は、不明な理由によって図を生成できないことがあります。
- Visio Services が適切に構成されていない可能性があります。

Visio プロキシの初期化に失敗しました - イベント 8044

アラート名: Visio プロキシの初期化に失敗しました

イベント ID: 8044

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services アプリケーションおよび対応する Web パーツは、プロキシを使用してバックエンド サービスに接続します。サービスが機能するには、このプロキシを正しく構成する必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Visio Services が図面の表示に失敗します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8044 説明: Visio Services のプロキシを初期化できません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- SharePoint の Visio Services アプリケーションのサービス アプリケーション プロキシが実行されていないか、準備されていません。
- Visio Services アプリケーションのサービス アプリケーション プロキシが正しく構成されていません。

解決策: Visio Services アプリケーションのプロキシを確認します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの [アプリケーション構成の管理] をクリックし、[サービス アプリケーション] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. Visio Services アプリケーションの名前を書き留めます。Visio Services アプリケーションの [種類] 列に、[Visio Graphics Service アプリケーション] が表示されます。
3. サービス アプリケーション プロキシが、各 Visio Services アプリケーションに関連付けられていることを確認します。Visio Services アプリケーション プロキシの [種類] 列に、[Visio Graphics Service アプリケーション プロキシ] が表示されます。

失敗する Visio Services アプリケーションに対応するサービス アプリケーション プロキシがない場合は、Windows PowerShell 2.0 を使用して新しいサービス アプリケーション プロキシを作成します。

解決策: 新しいサービス アプリケーション プロキシを作成します。

1. コンピューターで、[スタート] ボタン、[すべてのプログラム]、[Microsoft SharePoint 2010 製品]、[SharePoint 2010 管理シェル] の順にクリックします。
2. SharePoint 管理シェルのコマンド プロンプトで、Windows PowerShell コマンドレット「New-SPVisioServiceApplicationProxy」を入力して、新しい Visio Services アプリケーション プロキシを作成します。このコマンドレットの構文の詳細を参照するには、「Get-Help New-SPVisioServiceApplicationProxy」と入力してください。

失敗しているサービス アプリケーションのサービス アプリケーション プロキシがある場合は、新しいサービス アプリケーションを作成します。

解決策: 新しいサービス アプリケーションを作成します。

1. サーバーの全体管理ページで、サイド リンク バーの [アプリケーション構成の管理] をクリックして、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [名前] 列で、失敗している Visio Services アプリケーション プロキシを選択して、リボンの [削除] オプションをクリックします。
3. 削除したアプリケーション プロキシの親 Visio Services アプリケーションを選択して、リボンの [削除] オプションをクリックします。
4. 新しい Visio Services アプリケーションを作成します。リボンの [サービス アプリケーション] タブで、[新規] をクリックして、[Visio Graphics Service] をクリックします。[サービス アプリケーション プロキシの作成] チェック ボックスがオンになっていることを確認してください。
5. サーバー接続を確認するために、コマンド プロンプト ウィンドウで、コマンド「ping <サーバー アドレス>」を入力します。

Visio のアプリケーション プロキシのエンドポイントが無効です - イベント 8049

アラート名: Visio のアプリケーション プロキシのエンドポイントが無効です

イベント ID: 8049

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services 用のアプリケーションは、プロキシを使用して、フロントエンド サービスとバックエンド サービスとの間の通信を抽象化します。このプロキシは、サーバー間の負荷分散メカニズムも提供します。Visio Services が機能するためには、アプリケーション プロキシによって返されるアプリケーション サーバーにフロントエンド サービスが接続されている必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- SharePoint の Visio Services で図を表示できません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8049 説明: <説明文>に対する、アプリケーション プロキシの無効なエンドポイントです。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- 指定された SharePoint Server のアプリケーション サーバーにアクセスできません。
- ネットワーク活動の増加や特定のサーバーでの読み込みが原因で、指定されたアプリケーション サーバーの応答が遅くなっています。

解決策: エラー ログを確認します。

1. Windows イベントビューアーを開きます。
2. Windows アプリケーション イベント ログで、イベント ID 8049 を検索します。
3. イベントの説明で、エラーが発生しているアプリケーション サーバーを確認します。

解決策: アプリケーション サーバーの接続を確認します。

1. エラーが発生しているアプリケーション サーバーから、SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトを開きます。
2. エラーが発生しているサーバーからサーバーの全体管理サイトにアクセスできない場合は、ネットワーク設定が正しいことと、SharePoint ファームに接続するための適切な権限がサーバーにあることを確認します。

解決策: エラーが発生しているサーバーで Visio Services が実行されていることを確認します。

1. [サーバーの全体管理] ページの閲覧ウィンドウの [システム設定] セクションで、[このファームのサーバーの管理] をクリックします。
2. エラーが発生しているアプリケーション サーバーで、Visio Services が実行されていることを確認します。

エラーが発生しているサービス アプリケーション用のサービス アプリケーション プロキシがある場合は、新しいサービス アプリケーションを作成します。

解決策: Visio Services を再起動します。

1. [サーバーの全体管理] ページの閲覧ウィンドウの [システム設定] セクションで、[このフレームのサーバーの管理] をクリックします。
2. [サーバー] 列で、エラーが発生しているアプリケーション サーバーの名前をクリックします。[サーバーのサービス] ページが開きます。
3. [サービス] 列で [Visio Graphics Service] を見つけ、[停止] をクリックしてから [開始] をクリックします。

解決策: 新しい Visio Services アプリケーションを作成します。

1. [サーバーの全体管理] ページの閲覧ウィンドウの [アプリケーション構成の管理] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [種類] 列で、エラーが発生しているサービス インスタンスがある Visio Services アプリケーションの名前をクリックします。
3. リボンで、[削除] をクリックします。
4. [サービス アプリケーションの削除] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。
5. 新しい Visio Services アプリケーションを作成します。

Visio Services データ プロバイダーが見つかりません - イベント 8050

アラート名: Visio Services データ プロバイダーが見つかりません

イベント ID: 8050

概要: ユーザーは、発行された Microsoft Visio 図面を Microsoft SharePoint Server 2010 の Excel Services などの外部データ ソースに接続できません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 1 つまたは複数の図面でデータが更新されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8050 説明: 接続文字列 <説明テキスト> では、データ プロバイダーに接続できませんでした。

原因: Microsoft SharePoint Server 2010 の Visio Services が Visio 図面のユーザーによって参照されたデータ プロバイダーに接続できません。

Visio Services でのファイル読み込みエラー – イベント 8061 8051

アラート名: Visio Services でのファイル読み込みエラー

イベント ID: 8061、8051

概要: ユーザーは、発行された Microsoft Visio の図をドキュメント ライブラリへアップロードでき、一部のユーザーは、Visio Web Access Web パーツを使用して、Visio の図をページに埋め込むことができます。要求されたファイルが見つからないか、または、サービスが要求されたファイルを解析できないために、このエラーが発生する可能性があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ファイルが読み込まれていません。
- このイベントはイベント ログに記録されます。イベント ID: 8061 説明: 次の場所ではファイルが見つかりませんでした: <ファイルの場所>
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8051 説明: <ファイルの場所> にあるファイルを解析できません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- 存在しないファイルまたは無効なファイルを参照する Web パーツを含むページの読み込みが試みられました、
- Visio の壊れている図の表示が試みられました。
- Visio の無効な図の表示が試みられました。

User Profile Synchronization Configuration Service が SQL Server に接続できません – イベント 4 (SharePoint Server 2010)

アラート名: User Profile Synchronization Configuration Windows Service が SQL Server に接続できません

イベント ID: 4

概要: User Profile Synchronization サービスが、SQL Server のインスタンスに接続できません。サービスが SQL Server のインスタンスに接続できない場合、ユーザー プロファイルの同期は機能しません。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 4 説明: Forefront Identity Manager Service が SQL データベース サーバーに接続できません。SQL Server に接続できませんでした。ネットワークの障害、ファイアウォールの構成の誤り、または他の接続の問題が、接続障害の原因である可能性があります。また、SQL Server の接続情報の構成が正しくない可能性があります。Forefront Identity Manager Service コンピューターから SQL Server に到達できることを確認してください。SQL Server が実行していること、ネットワーク接続が有効であること、およびファイアウォールが正しく構成されていることを確認してください。最後に、接続情報が正しく構成されていることを確認してください。この構成は Windows レジストリに格納されています。

原因: ネットワーク接続の問題、または SQL Server のインスタンスでのパスワードの誤りまたは変更のために、SQL Server のインスタンスのデータベースに User Profile Synchronization Configuration Service からアクセスできません。

解決策: データベース サーバーが実行していて使用可能であることを確認します

- データベース サーバーの Services スナップインで、SQL Server (MSSQLSERVER) サービスが実行していることを確認します。

解決策: データベース サーバーとファームの間の接続を確認します

1. エラーの詳細で示されているアカウントで Microsoft SQL Server Management Studio にログオンし、[接続] をクリックして、[データベース エンジン] をクリックします。
2. エラーの詳細で示されているサーバー名を入力し、[接続] をクリックします。

解決策: User Profile Synchronization Service の資格情報を確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックし、[サービス アプリケーション] セクションで [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [サービス アプリケーション] ページで、User Profile Services アプリケーションをクリックします。

3. [User Profile Service] ページの [同期] セクションで、[同期接続の構成] をクリックします。
4. 接続を右クリックし、[接続の編集] をクリックします。
5. 資格情報および権限コンテナが接続で提供されていることを確認します。ディレクトリ内のデータを読み書きするために十分なアクセス許可を資格情報が持っていること、および User Profile Synchronization Service の対象がディレクトリ内の正しい組織単位になっていることを確認します。資格情報に、データベース サーバー上のデータベースでの db_owner 固定データベース ロールがあることを確認します。

解決策: データベース アクセスの資格情報を確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[セキュリティ] をクリックし、[サービス アプリケーション] をクリックします。
2. [セキュリティ] ページの [一般的なセキュリティ] セクションで、[サービス アカウントの構成] をクリックします。
3. [サービス アカウント] ページのサービス アカウント ボックスの一覧で、[ファーム アカウント] をクリックします。
4. このアカウントにデータベース サーバーに対する十分な権限があることを確認します。

ULS でログ ディレクトリ用の十分なディスクの 空き領域がありません – イベント 2150

アラート名: ULS でログ ディレクトリ用の十分なディスクの空き領域がありません

イベント ID: 2150

概要: Microsoft SharePoint Foundation Tracing (SPTracev4) サービスは、利用状況ログの出力を管理するために Microsoft SharePoint Foundation 2010 で使用されます。利用状況ログを有効にするときに、管理者は利用状況ログを格納するために使用されるパスを指定できます。このログ ファイルは、SharePoint Foundation 2010 の上に構築された多くのアプリケーションによって使用されます。このイベントは、ログに使用できる十分なディスクの空き領域がない場合に発生します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 利用状況ログに新しい利用状況データが記録されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 12150 説明: <ログの場所> で利用状況ログ ファイルを作成できませんでした。利用状況ログをシステム ドライブに保存する場合は、少なくとも <ログの再開に必要な GB 数> GB の空き容量が必要です。

原因: 構成されたログの場所に、ログ用の十分なディスクの空き領域がありません。

解決策: ディスクの空き領域を増やすか、利用状況ログの場所を変更します。

- SharePoint Foundation 2010 が利用状況ログに書き込むことができませんでした。この利用状況ログには、利用状況の追跡処理とレポート作成に役立つ情報が含まれています。
ディスクの空き領域を増やすには
 1. ディスク クリーンアップを使用して、利用状況ログ ファイルが格納されているディスクの空き領域を増やします。
 2. トレース ログを正常に実行するための十分なディスクの空き領域があるかどうかを確認します。
 3. 十分なディスクの空き領域がない場合は、そのドライブの一時フォルダーをクリーンアップします。
 4. この手順で問題が解決されない場合は、利用状況ログ ファイルの場所を空き領域の大きいパーティションに変更することもできます。
ログ ファイルの場所を変更するには
 1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの [監査] をクリックし、[レポート] セクションの [利用状況ログ] をクリックします。
 2. [利用状況ログ] ページの [ログの設定] セクションで、利用状況ログ ファイルの新しい場所を入力します。
 3. [OK] をクリックします。
利用状況ログ ファイルを確認するには

1. Microsoft SharePoint Foundation 2010 が利用状況ログ ファイルを作成して書き込むことができることを確認するには、サーバーの全体管理ページで、**[監査]** をクリックし、**[レポート]** セクションの **[利用状況ログ]** をクリックします。
2. **[利用状況ログ]** ページの **[ログの設定]** セクションで、利用状況ログ ファイルのパスをコピーします。
3. Windows エクスプローラーで、コピーしたパスを使用して利用状況ログ ファイルのある場所に移動します。利用状況ログ ファイルはバイナリ形式なので、内容を簡単に表示したり、理解したりすることはできません。利用状況ログのファイル サイズは時間の経過と共に大きくなるので、利用状況ログが機能していることを確認します。

イベント ログのオーバーフロー – イベント 2158、2159

アラート名: イベント ログのオーバーフロー

イベント ID: 2158 または 2159

概要: イベント ログのオーバーフロー防止機能は、繰り返し発生するイベントが Windows イベント ログに記録されないようにします。短時間に何度もイベントがログに記録されると、オーバーフロー防止機能によって、その後の同じ種類のイベントがログに記録されないようになります。

現象: このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 2158 または 2159

説明: 重要度が '<イベントの重要度>' のイベント <イベント ID> (<イベント プロバイダー名>) がさらに <発生回数> 回発生しましたが、イベント ログには記録されませんでした。

原因: 同じイベントが繰り返しログに記録されたことによって、イベント ログのオーバーフロー防止機能がトリガーされています。イベント ID 2158 または 2159 のイベントの説明のテキストで、繰り返しログに記録されているイベントを確認できます。

SQL Server データベースのログインに失敗しました - イベント 3351

アラート名: SQL Server データベースのログインに失敗しました

イベント ID: 3351

概要: Microsoft SharePoint Foundation は、Microsoft SQL Server 2008 データベースを使用して、SharePoint Foundation Web サイトと構成設定の大部分のコンテンツを保存し、1 つのサービス アカウントを使用して、ユーザー要求のためにデータベースと通信します。Web アプリケーションは 1 つまたは複数のデータベースに関連付けられていることがあることに注意してください。このエラー (“SQL Server データベースのログインに失敗した”) は、指定されたサービス アカウント ユーザー名とパスワードを使用して、SharePoint Foundation が SQL Server 2008 にログオンできないことを意味します。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 3351 説明: SQL データベースのログインに失敗しました。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。

原因: Microsoft SharePoint Foundation サービス アカウントのユーザー名またはパスワードが、セッション前に無効であったか、セッション中に無効になりました。

メモ:

以下の手順を実行するには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: データベース アクセス アカウントに適切な権限を与えます。

- この問題を解決するには、データベース アクセス アカウントを割り当て、そのアカウントが SQL Server の適切なアクセス権を持っていることを確認します。

データベース アクセス アカウントを割り当てるには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web ページのサイド リンク バーで、[セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションの [サービス アカウントの構成] をクリックします。
2. [資格情報の管理] セクションの上側のドロップダウン リストで、Web アプリケーションの適切な Web アプリケーション プールをクリックします。
3. [このコンポーネントのアカウントの選択] ドロップ ダウン リストで、この Web アプリケーション プールに関連付けるドメイン アカウントをクリックするか、[新しい管理アカウントの登録] をクリックして、新しいドメイン アカウントをこのアプリケーション プールに関連付けます。
4. [OK] をクリックして、変更を保存します。

アカウントに SQL Server の適切な権限があることを確認するには

1. 管理者権限を持つアカウントを使用して、SQL Server を実行しているコンピューターに接続します。
2. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、[セキュリティ] ノードを展開して、[ログイン] ノードをクリックします。データベース アクセス アカウントの名前は、それが SQL ログインであることを示しています。
3. 目的のアカウントが存在する場合は、[オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、[データベース] ノード、構成データベース ノード (たとえば、WSS_Config) 、[セキュリティ] ノードの順に展開して、[ロール] をクリックします。
4. [データベース ロール] ノードを展開し、[db_owner] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
5. [データベース ロールのプロパティ] ダイアログ ボックスで、データベース アクセス アカウントが、[このロールのメンバー] の一覧に含まれているかどうかを確認します。アカウントが一覧に含まれていない場合は、[追加] をクリックします。

データベースの問題が解決されたことを確認するには

1. SharePoint 管理シェルで、Windows PowerShell コマンド **Get-SPSite | Format-Table -Property ID,WebApplication,ContentDatabase** を実行して、各 Web アプリケーションのサイトを一覧表示してそれぞれのデータベース内のサイトをすべて表示し、各データベースで 1 つのサイトを特定します。
2. サイトを閲覧します。

適切な権限がないためバックアップに失敗しました – イベント 3353 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: 適切な権限がないためバックアップに失敗しました

イベント ID: 3353

概要: このエラーは、バックアップを実行しているアカウントに、バックアップ フォルダーへの書き込みの権限がないときに発生します。

Web アプリケーションをバックアップすると、Web アプリケーションのコンテンツ データベースと設定 (サイト コレクション内の全ページ、ドキュメント ライブラリ内のファイル、リストに添付されているファイル、セキュリティと権限の設定、機能の設定など) がバックアップされます。バックアップ プロセスによって、このすべてのデータが含まれるファイルが作成されます。

同様に、サイト コレクション、サイト、またはリストをバックアップすると、これらの構造の内容はファイルまたはパッケージに書き込まれます。復元またはインポート プロセスは、これらのファイルを使用してオブジェクトを回復します。

現象: このイベントは、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 3353 説明: バックアップ フォルダーに書き込めません。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

1. SQL Server サービス アカウントに、バックアップ フォルダーへのフル コントロールの権限がありません。
2. SharePoint Timer Service アカウントに、バックアップ フォルダーへのフル コントロールの権限がありません。
3. Windows PowerShell 使用してバックアップまたは復元を実行したときに、バックアップ操作を実行したユーザーに、バックアップ フォルダーへのフル コントロールの権限がありませんでした。

解決策: アクセス許可を確認します

- 以下に対して、バックアップ共有フォルダーへのフル コントロールのファイル共有と NTFS 権限が与えられていることを確認します。
 - SQL Server サービス アカウントから使用されるアカウント。
 - Windows SharePoint Services Timer V4 (SPTimerV4) アカウント。
 - ログオン アカウント (Windows PowerShell を使用してバックアップまたは復元を実行する場合)。
 - バックアップ フォルダーがネットワーク共有である場合、前に示したすべてのアカウントがネットワーク共有とバックアップ フォルダーの両方にアクセスできることを確認してください。
 - 2 つの SharePoint ファーム間でバックアップまたは復元を実行している場合は、両方のファームのサービスが前に示した権限を持っている必要があります。

- 詳細については、「[Configuring permissions for backup and recovery \(SharePoint Foundation 2010\)](#)」を参照してください。

関連項目

その他のリソース

[View diagnostic logs \(SharePoint Foundation 2010\)](#)

SQL Server に接続できません – イベント 3355

アラート名: SQL Server に接続できません

イベント ID: 3355

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 では、Microsoft SQL Server 2008 データベースに Microsoft SharePoint Foundation Web サイトのほとんどのコンテンツと構成設定を格納します。たとえば、サイトのすべてのページ、ドキュメント ライブラリのファイル、リストに添付されたファイル、およびリスト内の情報は、コンテンツ データベースに格納されます。セキュリティとアクセス権の設定その他の構成設定は、SQL Server の構成データベースに格納されます。

SharePoint Foundation 2010 では、ユーザー要求を受けて、サービス アカウントを使用したデータベースとの通信が行われます。サービス アカウントには、特定のユーザー名やパスワード (ドメイン名とパスワード) か、あらかじめ定義されたシステム アカウント (ローカル システム、ネットワーク サービスなど) を使用できます。SQL Server データベースの作成時に、データベース サイズの最大値が設定されます。データベース サイズ設定は、データベースごとに個別に設定されます。Web アプリケーションは、1 つのデータベースに関連付けられることも、複数のデータベースに関連付けられることもあります。

このエラーは、Microsoft SharePoint Foundation が SQL Server データベースに接続できなかったことを示しています。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- SQL Server との通信の試行が失敗し、SQL Server でホストされているデータベースのコンテンツにアクセスできません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 3355 SQL Server に接続できません。〈サーバー名〉が見つかりません。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

1. SQL Server がオフラインになっています。
2. SharePoint Foundation データベース アクセス アカウントに、SQL Server と通信するために必要な権限がありません。
3. ローカル サーバーまたは SQL Server 上で実行しているファイアウォールが、ネットワーク通信をブロックしています。

解決策: データベース アクセス アカウントに適切な権限を与えます。

- この作業を実行するには、ファームの管理者グループのメンバーである必要があります。データベース アクセス アカウントを割り当てます。
 1. サーバーの全体管理のホーム ページで [セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションで [サービス アカウントの構成] をクリックします。
 2. [サービス アカウント] ページの [資格情報の管理] セクションにある上部ボックスの一覧で、Web アプリケーション用の適切な Web アプリケーション プールをクリックします。

3. **[このコンポーネントのアカウントの選択]** ボックスの一覧で、この Web アプリケーション プールに関連付けるドメイン アカウントをクリックするか、**[新しい管理アカウントの登録]** をクリックして、新しいドメイン アカウントをこのアプリケーション プールに関連付けます。
4. **[OK]** をクリックして変更を保存します。
アカウントに SQL Server の適切な権限があることを確認します。
1. 管理者権限を持つアカウントを使用して、SQL Server を実行するコンピューターに接続します。
2. SQL Server Management Studio の **[オブジェクト エクスプローラー]** ナビゲーション ウィンドウで、**[セキュリティ]** ノード、**[ログイン]** ノードの順に展開します。データベース アクセス アカウントの名前が、SQL ログインであることを示しています。
3. アカウントがある場合は、**[オブジェクト エクスプローラー]** ナビゲーション ウィンドウで、**[データベース]** ノード、対象の構成データベース ノード、**[セキュリティ]** の順に展開して、**[ロール]** をクリックします。
4. **[データベース ロール]** ノードを展開し、**[db_owner]** ロールを右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
5. **[データベース ロールのプロパティ]** ダイアログ ボックスで、データベース アクセス アカウントが **[このロールのメンバー]** の一覧にあるかどうかを確認します。一覧にない場合は、**[追加]** をクリックします。
データベースの問題が解決されたことを確認します。
1. SharePoint 管理シェルで、Windows PowerShell コマンド **Get-SPSite | Format-Table -Property ID,WebApplication,ContentDatabase** を実行して、各 Web アプリケーションのサイトを一覧表示してそれぞれのデータベース内のサイトをすべて表示し、各データベースで 1 つのサイトを特定します。
2. そのサイトを参照し、適切なページが表示されることを確認します。アクセス拒否ページが、アクセスを要求するオプション、または別のユーザーとしてログオンするオプションと共に表示されたときは、操作が正常に完了しています。
3. サーバーの全体管理ページのサイド リンク バーで、**[アプリケーション構成の管理]** をクリックし、**[サイト コレクション]** セクションで **[クォータ テンプレートの指定]** をクリックします。
4. **[クォータ テンプレート]** ページで、新しいクォータ テンプレートを作成します。この確認テストに特定の設定が関連することはありません。このテンプレートは、手順 7. でアクセスできるかどうかを確認するために作成します。
5. **[OK]** をクリックしてクォータ テンプレートを保存します。
6. ブラウザー ウィンドウを更新し、クォータ テンプレートのページに戻ります。作成したクォータ テンプレートを選択できるときは、Microsoft SharePoint Foundation の SQL Server 2008 構成データベースへのアクセスが復元されています。
7. **[削除]** をクリックしてクォータ テンプレートを削除します。

アプリケーション プール アカウントが Active Directory にユーザー アカウントを追加できません – イベント 3359 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: アプリケーション プール アカウントが Active Directory にユーザー アカウントを追加できません

イベント ID: 3359

概要: インターネット インフォメーション サービス (IIS) アプリケーション プールは、Active Directory ユーザーに基づいて ID を作成し、一連の権限を使用してそれらの ID を関連付けます。これにより、Active Directory 組織単位 (OU) 内のユーザーがそれらの権限を継承できます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。


- アカウント作成モードが正しく動作していないために、ユーザー データの追加または読み取りを行えません。
- Active Directory でユーザー アカウントが自動的に作成されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 3359 説明: アプリケーション プール アカウントに、Active Directory にユーザー アカウントを追加する権限がありません。

原因: アプリケーション プールが使用しているアカウントに、新規のユーザー アカウントを Active Directory に追加するために必要とされる適切なレベルの権限がありません。

解決策: アプリケーション プール アカウントによって、どの OU に新規のユーザー アカウントが作成されるかを調べます。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで次のように入力します。

```
$wa=Get-SPWebApplication $wa.Parent.CreateActiveDirectoryAccounts
$wa.Parent.ActiveDirectoryDomain $wa.Parent.ActiveDirectoryOrganizationalUnit
```

 **メモ:**

コマンドライン管理タスクを実行するときには Windows PowerShell を使用することが推奨されています。Stsadm コマンドライン ツールは推奨されていませんが、製品の以前のバージョンとの互換性をサポートするために含まれています。

解決策: OU に適切な権限を追加します。

1. Active Directory ツールがインストールされているサーバー上で、[Active Directory ユーザーとコンピューター] スナップインを、ドメイン管理者などの、適切なドメイン権限を持つユーザーとして開きます。[Active Directory ユーザーとコンピューター] を開くには、[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックして、「dsa.msc」と入力します。
2. コンソール ツリーで、制御を委任する OU を右クリックします。
3. [制御の委任] をクリックしてオブジェクト制御の委任ウィザードを開始し、ウィザードの指示に従って操作します。
4. [ようこそ] ペインで、[次へ] をクリックします。
5. [ユーザーとグループ] ペインで、[追加] をクリックします。
6. [選択するオブジェクト名を入力してください] ボックスに、管理アプリケーション プール ID として使用するユーザー名を入力し、[OK] をクリックします。
7. [次へ] をクリックします。
8. [委任するタスク] ペインで、[ユーザー アカウントの作成、削除、および管理] チェック ボックスと [すべてのユーザー情報の読み取り] チェック ボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。
9. [完了] をクリックします。

Active Directory 組織単位が登録解除された – イベント 3360 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Active Directory 組織単位 (OU) が登録解除されました

イベント ID: 3360

概要: このエラーは、アカウント作成モードで作成された Active Directory 組織単位 (OU) が存在していないことを示します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- アカウント作成モードが正しく動作していないために、ユーザー データの追加または読み取りを行えません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 3360 説明: Windows SharePoint Services 4.0 で登録した Active Directory 組織単位 <OU 名> が存在しません。

原因: これは準備段階でのエラーか実行時エラーが原因で起こります。実行時エラーの場合はファームの構成時に指定した OU が作成されないか、OU の名前が変更されるか、OU が削除されます。この OU を作成して登録するまでの間は、新しいサイト コレクションを作成したり、ユーザーを追加したりすることはできません。

解決策: Active Directory に OU を追加します。

- この手順を実行するには、ドメイン管理者としてログオンしている必要があります。
- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックして、「dsa.msc」と入力します。
- [ドメイン] ノードを展開します。
- ドメインを右クリックし、[新規] をポイントして、[組織単位] をクリックします。
- イベント 7037 の OU 名を [ここに OU を挿入] ボックスに入力します。
- OU を右クリックし、[制御の委任] をクリックします。
- アカウントの作成に使用されている Web アプリケーションのアプリケーション プール アカウントを追加します。
- [ユーザー アカウントの作成、削除、および管理] をクリックします。
- [次へ] をクリックします。
- [完了] をクリックします。

SQL Server データベースがいっぱいです - イベント 3758

アラート名: SQL Server データベースがいっぱいです


イベント ID: 3758

概要: Microsoft SharePoint Foundation は、Microsoft SQL Server 2008 データベースを使用して、SharePoint Foundation Web サイトと構成設定の大部分のコンテンツを保存し、1 つのサービス アカウントを使用して、ユーザー要求のためにデータベースと通信します。SQL Server のデータベースが作成されるときに、データベースの最大サイズの値が設定されます。データベースごとに、別々のデータベース サイズの設定があります。Web アプリケーションは 1 つまたは複数のデータベースに関連付けられていることがあることに注意してください。このエラーは、データベースが最大サイズ設定のサイズに達したことを示します。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- ユーザーが SharePoint Foundation のどのコンテンツも追加または更新できません。
- 管理者が SharePoint Foundation のどの設定も更新できません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 3758 説明: データベース <データベース名> の SQL Server インスタンス <インスタンス名> でデータベースがいっぱいになり、エラーが発生しました。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。<SQL エラー メッセージ>

原因: データベースが最大サイズに達しました。

 **メモ:**

以下のタスクを実行するには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: SQL Server データベースのサイズを大きくします。

- SharePoint Foundation は、最大サイズに達したデータベースに書き込むことはできません。イベント メッセージに名前のある、いっぱいになったデータベースの最大サイズの設定を大きくします。

データベースのサイズを大きくするには

1. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、サーバー ノード、[データベース] ノードの順に展開します。
2. 目的のデータベースを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。データベース名は、イベント メッセージに含まれています。
3. [データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスのナビゲーション ウィンドウで、[ファイル] をクリックします。

4. [データベース ファイル] セクションの [自動拡張] 列で、データベース ファイルの省略記号をクリックします。
5. [自動拡張の変更] ダイアログ ボックスの [ファイルの最大サイズ] セクションで、[ファイル拡張の制限] オプションが選択されている場合、右側にあるボックスの最大ファイル サイズの値を大きくします。また、[ファイルを無制限に拡張] オプションを選択して、データベースを無制限に拡張するように構成することもできます。
6. [OK] をクリックして、変更を保存します。

データベースの問題が解決されたことを確認するには

1. SharePoint 管理シェルで、Windows PowerShell コマンド `Get-SPSite | Format-Table -Property ID,WebApplication,ContentDatabase` を実行して、各 Web アプリケーションのサイトを一覧表示してそれぞれのデータベース内のサイトをすべて表示し、各データベースで 1 つのサイトを特定します。
2. サイトを閲覧します。
3. サイトにコンテンツを追加してみます。たとえば、リスト項目やドキュメントを追加します。SharePoint Foundation では編集環境ごとに異なるエラーが使用されるので、サイトへのコンテンツの追加が失敗した場合、次の表に示すような、エラー メッセージのイベント ログを確認します。

ログ名:	アプリケーション
ソース:	Microsoft-Windows SharePoint-Windows SharePoint Services 4
日付:	2009/4/2 6:34:13
イベント ID:	3758
タスクのカテゴリ:	データベース
レベル:	重大
キーワード:	
ユーザー:	Domain¥Myuser
コンピューター:	MyServer
説明:	データベース 'wss_2' の SQL Server インスタンス 'CO137' でデータベースがいっぱいになり、エラーが発生しました。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。データベース 'wss_2' にオブジェクト 'dbo.AllDocs.'AllDocs_Url' の領域を割り当てられませんでした。'PRIMARY' ファイル グループがいっぱいです。不要なファイルの削除、ファイル グループ内のオブジェクトの削除、ファイル グループへの新しいファイルの追加、またはファイル グループの既存のファイルの自動拡張の設定のいずれかを行ってディスク領域を作成して

ください。

データベースにアクセスできませんでした - Event 3760 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: データベースにアクセスできませんでした

イベント ID: 3760

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、Web サイトのコンテンツと構成設定のほとんどを Microsoft SQL Server 2008 データベースに保存します。たとえば、サイトのすべてのページ、ドキュメント ライブラリ内のファイル、リストに添付されているファイル、リスト内の情報は、コンテンツ データベースに保存され、セキュリティやアクセス許可の設定は、それ以外の構成設定と共に SQL Server の構成データベースに保存されます。

SharePoint Server 2010 では、ユーザー要求の代わりに、サービス アカウントを使用してデータベースと通信します。このサービス アカウントには、特定のドメイン名やユーザー名とパスワードが使用されることも、ローカル システム、ネットワーク サービスなど、定義済みのシステム アカウントが使用されることもあります。SQL Server データベースの作成時に、データベースの最大サイズが設定されます。データベースのサイズ設定は、データベースごとに異なります。Web アプリケーションは 1 つ以上のデータベースに関連付けられる場合もあります。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- データベース内のコンテンツを使用できなくなり、データベースにアクセスしようとすると、エラーが発生します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 3760 説明: SQL Server インスタンス '`<インスタンス名>`' の SQL データベース '`<データベース名>`' が見つかりません。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。<エラー情報>

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- SQL Server のユーザー ログインが失敗しました。
- データベースは削除されているか、または名前を変更されています。
- 現在、データベースはオフライン状態または負荷状態のために使用できません。

重要:

この作業を実行するには、ローカル Administrators グループのメンバーである必要があります。

解決策: SQL Server が実行していることを確認します

- データベース サーバーの Services スナップインで、SQL Server (MSSQLSERVER) サービスが実行していることを確認します。

解決策: ユーザー アカウントが SQL Server に接続できることを確認します

- エラーの詳細で示されているアカウントで Microsoft SQL Server Management Studio にログオンし、[接続] をクリックして、[データベース エンジン] をクリックします。
- エラーの詳細で示されているサーバー名を入力し、[接続] をクリックします。

解決策: データベースが存在することを確認します

- Microsoft SQL Server Management Studio で、[サーバー] ノードを展開します。
- [データベース] ノードを展開します。
- データベースが存在することを確認します。

メモ:

以下の操作を実行するには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: データベースを復元します。

- SQL Server を実行しているコンピューター上で、SQL Server データベースが見つからないか、アクセス不能になっている場合は、データベースをバックアップから復元して、SharePoint Server 2010 に再接続します。

データベースをバックアップから復元するには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、[バックアップと復元] をクリックし、[ファームのバックアップと復元] セクションで [バックアップからのファイルの復元] をクリックします。
2. [バックアップからのファイルの復元] ページで、[バックアップ ディレクトリの場所] ボックスにバックアップのパスを入力し、復元するバックアップを選択したら、[次へ] をクリックします。
3. 一覧からデータベースを選択し、[次へ] をクリックします。

重要:

バックアップには、データベースと対応する Web アプリケーションが含まれている必要があります。

4. [復元オプション] セクションで、[同じ構成] オプションを選択します。このオプションを選択すると、既存のデータベースが上書きされます。
5. [復元の開始] をクリックします。

サーバーの全体管理でデータベースを再接続するには

1. [サーバーの全体管理] ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックし、[データベース] セクションで [コンテンツ データベースの管理] をクリックします。
2. [コンテンツ データベースの管理] ページで、[コンテンツ データベースの追加] をクリックし、[Web アプリケーション] セクションで Web アプリケーションを選択します。
3. [データベース名と認証] で、[データベース サーバー] ボックスにサーバー名を入力し、[データベース名] ボックスにデータベースの名前を入力します。
4. [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

データベースの問題が解決されたことを確認するには

1. SharePoint 管理シェルで、Windows PowerShell コマンド `Get-SPSite | Format-Table -Property ID,WebApplication,ContentDatabase` を実行して、各 Web アプリケーションのサイトを一覧表示してそれぞれのデータベース内のサイトをすべて表示し、各データベースで 1 つのサイトを特定します。
2. このサイトを参照し、適切なページが表示されることを確認します。アクセス拒否ページが、アクセスを要求するオプション、または別のユーザーとしてログオンするオプションと共に表示されたときは、操作が正常に完了しています。
3. [サーバーの全体管理] ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックし、[サイトコレクション] セクションで [クォータ テンプレートの指定] をクリックします。
4. [クォータ テンプレート] ページで、新しいクォータ テンプレートを作成します。この検証テストのために特定の設定を行う必要はありません。このテンプレートは、手順 6. でのアクセス確認のためのみに作成するものです。
5. [OK] をクリックして、クォータ テンプレートを保存します。
6. ブラウザー ウィンドウを更新して、[クォータ テンプレート] ページに戻ります。作成したクォータ テンプレートを選択できれば、SharePoint Server 2010 構成データベースに再度アクセスできるようになっています。
7. [削除] をクリックして、このクォータ テンプレートを削除します。

コンテンツ展開ジョブが失敗しました – イベント 4958、5323、5325、5335

アラート名: コンテンツ展開ジョブが失敗しました

イベント ID: 4958、5323、5325、5335

概要: コンテンツ展開ジョブが失敗しました。コンテンツが展開元環境から展開先環境に正しく展開されていない可能性があります。

現象: 以下のメッセージのうちの 1 つまたは複数が表示される場合があります。

- イベント ID: 4958 説明: 発行: コンテンツ展開ジョブが失敗しました。エラー: '〈エラー〉'。
- イベント ID: 5323 説明: コンテンツ展開ジョブ '〈ジョブ名〉' の展開先サーバーにファイルを送信できませんでした。例外: '〈例外〉'。
- イベント ID: 5325 説明: コンテンツ展開ジョブ '〈ジョブ名〉' のインポート処理に失敗しました。例外: '〈例外〉'。
- イベント ID: 5326 説明: コンテンツ展開ジョブ '〈ジョブ名〉' のインポート処理に失敗しました。例外: '〈例外〉'。

原因: コンテンツ展開ジョブが失敗した原因にはさまざまなことが考えられます。特定の原因については、サーバーの全体管理の [コンテンツ展開用のパスとジョブ] ページで、コンテンツ展開レポートの内容を確認してください。

解決策: コンテンツ展開ジョブの状態を表示します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで [アプリケーションの全般設定] をクリックします。
3. [アプリケーションの全般設定] ページの [コンテンツ展開] セクションで、[コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理] をクリックします。
4. [コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理] ページで、ジョブの状態を確認します。ジョブが失敗している場合は、[失敗] をクリックすると、ジョブの詳細を表示できます。
5. [コンテンツ展開レポート] ページの [エラーと警告] セクションで、エラーの詳細を表示できます。

また、[コンテンツ展開レポート] ページの [クイックリンク] セクションで [レポートのダウンロード] をクリックすると、エラーの詳細をダウンロードできます。

解決策: コンテンツ展開ジョブを再実行します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで [アプリケーションの全般設定] をクリックします。
3. [アプリケーションの全般設定] ページの [コンテンツ展開] セクションで、[コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理] をクリックします。

4. [コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理] ページで、ジョブの横の矢印をクリックして [**今すぐ実行**] をクリックします。
5. ページを更新すると、ジョブの進行状況を確認できます。ジョブが失敗している場合は、[**失敗**] をクリックすると、ジョブの詳細を表示できます。
6. [コンテンツ展開レポート] ページの [**エラーと警告**] セクションで、エラーの詳細を表示できます。
また、[コンテンツ展開レポート] ページの [**クイック リンク**] セクションで [**レポートのダウンロード**] をクリックすると、エラーの詳細をダウンロードできます。

コンテンツ データベースが読み取り専用です – イベント 4971

アラート名: コンテンツ データベースは読み取り専用です

イベント ID: 4971

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、Web アプリケーションのほとんどのコンテンツ (サイトコレクション、サイト、リスト、ドキュメント、アクセス許可など) をコンテンツ データベースに格納します。単一の Web アプリケーションを 1 つ以上のコンテンツ データベースに関連付けることができます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーが SharePoint Server 2010 サイトのコンテンツを追加または更新できません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 4971 説明: SQL Server インスタンス '`<インスタンス名>`' のデータベースを更新できません。データベースは読み取り専用です。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。<追加情報>

原因: SQL Server には、データベースを読み取り専用モードに設定するオプションがあります。読み取り専用モードでは、データベースからデータを読み取ることはできますが、データを追加、変更、または削除することはできません。コンテンツ データベースが読み取り専用モードになっていると、ここで説明する現象が発生することがあります。

解決策: データベースを読み取り/書き込みに設定します。

- コンテンツ データベースが読み取り専用モードになっていることを確認したら、SQL Server Management Studio データベースを読み取り/書き込みに設定します。

データベースが読み取り専用であることを確認するには

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [データベース] セクションで、[コンテンツ データベースの管理] をクリックします。
4. [コンテンツ データベースの管理] ページで [Web アプリケーション] ボックスの一覧から Web アプリケーションを選択します。
5. コンテンツ データベースの [読み取り専用データベース] 列に [はい] と表示されている場合は、コンテンツ データベースを読み取り/書き込みに設定します。

コンテンツ データベースを読み取り/書き込みに設定するには

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが、コンテンツ データベースの db_owner 固定データベース ロールのメンバーであることを確認します。
2. SQL Server Management Studio を開き、データベース サーバーに接続します。
3. オブジェクト エクスプローラーで、[データベース] を展開します。

4. 読み取り/書き込みに設定するデータベースを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
5. [データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスの [オプション] プロパティ ページにある [状態] で、[読み取り専用データベース] の横のドロップダウン リストから [FALSE] を選択し、[OK] をクリックします。
6. [はい] をクリックします。

個人用サイトを作成できません – イベント 5187 (SharePoint Server 2010)

アラート名: 個人用サイトを作成できません

イベント ID: 5187

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 ユーザーが個人用サイトの Web サイトを初めて開こうとして、個人用サイトの Web サイトが存在していないと、SharePoint Server 2010 はユーザー用に個人用サイト コレクションを準備します。SharePoint Server 2010 が個人用サイトの Web サイトを作成できなかった場合、このイベントが記録されます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 個人用サイトの Web サイトを作成できなかったというエラー メッセージがユーザーに表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5187 説明: ユーザー '`<ユーザー ID>`' のサイト URL '`<ユーザー URL>`' で個人用サイトの作成に失敗しました。例外: `<例外>`。

原因: [サイトの名前付け形式] の設定で名前付けの競合が発生しています。

解決策: サーバーの全体管理で [サイトの名前付け形式] の設定を変更します

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーション] ページで、User Profile Service をクリックします。
5. [User Profile Service] ページの [個人用サイトの設定] セクションで、[個人用サイトのセットアップ] をクリックします。
6. [個人用サイトの設定] ページの [サイトの名前付け形式] セクションで、[ユーザー名 (競合は domain_username を使用して解決)] または [ドメインおよびユーザー名 (競合しない)] をクリックします。
7. [OK] をクリックします。

ユーザー プロファイルの変更をコミットできません - イベント 5188 (SharePoint Server 2010)

アラート名: ユーザー プロファイルの変更をコミットできません

イベント ID: 5188

概要: 管理者が許可した場合、ユーザーは自分のプロフィールのプロパティを編集できます。このイベントは、ユーザーが行った変更（またはプロフィールを更新する権限を持つ別のプロセスによる変更）をデータベースにコミットできない場合に記録されます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーが変更内容を適用できないエラーが発生します。
- イベント ログに、次のようなメッセージが表示されます。イベント ID: 5188 イベント説明: ユーザー '<ユーザー ID>' のユーザー プロファイルの保存中にエラーが発生しました。例外: <例外>

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- ネットワーク接続の問題が原因で、データベース サーバーに到達できません。
- ネットワーク接続の過負荷またはメモリの不足が原因でデータベース サーバーが応答しないため、コミットの要求がタイムアウトになります。
- ディスクの障害など、その他の問題がサーバーに発生しているため、データベース サーバーがダウンしています。

解決策: データベース サーバーが実行していて使用可能であることを確認します

- データベース サーバーの Services スナップインで、SQL Server (MSSQLSERVER) サービスが実行していることを確認します。

解決策: データベース サーバーとファームの間の接続を確認します。

1. エラーの詳細で示されているアカウントで Microsoft SQL Server Management Studio にログオンし、[接続] をクリックして、[データベース エンジン] をクリックします。
2. エラーの詳細で示されているサーバー名を入力し、[接続] をクリックします。

解決策: データベース サーバーがリソース不足になっていないことを確認します

- データベース サーバーで、サーバーの RAM メモリとディスク領域が十分にあることを確認します。

適切な SQL Server データベース権限がありません - イベント 5214

アラート名: 適切な SQL Server データベース権限がありません

イベント ID: 5214

概要: Microsoft SharePoint Foundation では、Microsoft SQL Server 2008 データベースに Web サイトのほとんどのコンテンツと構成設定を格納します。たとえば、サイトのすべてのページ、ドキュメント ライブラリのファイル、リストに添付されたファイル、およびリスト内の情報は、コンテンツ データベースに格納されます。セキュリティとアクセス権の設定その他の構成設定は、SQL Server の構成データベースに格納されます。

SharePoint Foundation では、ユーザー要求を受けて、サービス アカウントを使用したデータベースとの通信が行われます。サービス アカウントには、特定のユーザー名とパスワード (ドメイン名とパスワード) か、あらかじめ定義されたシステム アカウント (ローカル システム、ネットワーク サービスなど) を使用できます。このエラーは、SharePoint Foundation で指定したサービス アカウントが、SQL Server データベースに対する十分な権限を与えられていない場合に発生します。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 5214 SQL Server インスタンス <インスタンス名> のデータベース <データベース名> で、ユーザー 'ユーザー名' に適切な SQL データベース権限がありません。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- SharePoint Foundation に設定されているサービス アカウントに、接続を試行しているデータベースに対して必要な権限がありません。
- サービス アカウントが SharePoint Foundation に適切に設定されていません。

メモ:

次のタスクを実行するには、ファームの管理者 SharePoint グループのメンバーである必要があります。


解決策: データベース アクセス アカウントに適切な権限を与えます。

- この問題を解決するには、データベース アクセス アカウントを割り当てて、SQL Server の適切な権限があることを確認します。

データベース アクセス アカウントを割り当てるには

1. サーバーの全体管理 Web サイトで [セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションで [サービス アカウントの構成] をクリックします。

2. [サービス アカウントの構成] ページの [資格情報の管理] セクションで、Web アプリケーション用の適切な Web アプリケーション プールをクリックします。
3. [このコンポーネントのアカウントの選択] セクションで、この Web アプリケーション プールに関連付けるドメイン アカウントをクリックするか、[新しい管理アカウントの登録] をクリックして、新しいドメイン アカウントをこのアプリケーション プールに関連付けます。

 メモ:

SharePoint Foundation および SQL Server を同じコンピューター上で実行している場合のみ、Web アプリケーション プールのローカル アカウントを使用できます。

4. [OK] をクリックして変更を保存します。
アカウントに SQL Server の適切な権限があることを確認するには
 1. SQL Server 管理者権限を持つアカウントを使用して、SQL Server を実行するコンピューターに接続します。
 2. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、[セキュリティ] ノード、[ログイン] ノードの順に展開します。データベース アクセス アカウントの名前が、SQL ログインであることを示しています。
 3. アカウントがある場合はデータベース ノード、[セキュリティ] ノードを順に開いて、[ロール] をクリックします。
 4. [データベース ロール] ノードを展開し、[db_owner] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
 5. [データベース ロールのプロパティ] ダイアログ ボックスで、データベース アクセス アカウントが [このロールのメンバー] の一覧にあるかどうかを確認します。一覧にない場合は、[追加] をクリックします。
データベースの問題が解決されたことを確認するには
 1. SharePoint 管理シェルで、Windows PowerShell コマンド `Get-SPSite | Format-Table -Property ID,WebApplication,ContentDatabase` を実行して、各 Web アプリケーションのサイトを一覧表示してそれぞれのデータベース内のサイトをすべて表示し、各データベースで 1 つのサイトを特定します。
 2. そのサイトをブラウザで開きます。

トレース ログに書き込めません – イベント 5401

アラート名: トレース ログに書き込めません

イベント ID: 5401

概要: 統合ログ サービス (ULS) のトレース ログには、Microsoft SharePoint Foundation 2010 サーバーの状況に関する診断情報が含まれています。この情報は、サーバーで問題が発生している場合にその問題の診断に使用できます。

現象: 以下の現象が発生することがあります。

- ULS のトレース ログ ファイルが作成されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5401 トレース サービスで、<ログの場所> にトレース ログ ファイルを作成できませんでした。エラー <エラー番号>: <エラーの説明>

原因: このエラーは、トレース サービスで新しいログ ファイルを作成できないときに発生します。

解決策: イベント ログを確認します。

- このエラーは複数の原因で発生する可能性があります。エラー番号とエラーの説明にエラーの詳しい原因が示されています。エラーの説明の情報を参照して、最も適切なトラブルシューティングの手順を決定します。

同期ジョブをスケジュールできませんでした – イベント 5556 (SharePoint Server 2010)

アラート名: 同期ジョブをスケジュールできませんでした

イベント ID: 5556

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 のタイマー ジョブは、ユーザー プロファイル ストアとユーザー テーブル間でユーザー プロファイル情報を同期する、2 つの同期ジョブを作成し、スケジュールします。2 つの同期ジョブは、次のとおりです。

- **ユーザー プロファイルから SharePoint への完全同期** – すべてのユーザーを対象に完全同期を実行します。
- **ユーザー プロファイルから SharePoint へのクイック同期** – 新しく追加されたユーザーを対象に同期を実行します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザー プロファイル ストアに格納されている追加情報が、テーブルに伝達されません。
- イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 5556 説明: 同期ジョブをスケジュールしようとして失敗しました。例外メッセージ: <例外>。

原因: SharePoint Server 2010 Timer Service に、スケジュールする他の 2 つのタイマー ジョブを開始できるだけの権限が与えられていません。または、これらのタイマー ジョブが存在しません。

解決策: サーバーの全体管理を使用して、タイマー ジョブを確認します

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[タイマー ジョブ]** セクションで、**[ジョブ定義の確認]** をクリックします。
4. **[ジョブの定義]** ページで、**[ユーザー プロファイルから SharePoint への完全同期]** および **[ユーザー プロファイルから SharePoint へのクイック同期]** というタイマー ジョブを見つけます。タイマー ジョブの状態データ行のページを移動するには、これらのグループの下部にあるページ移動矢印をクリックします。
5. タイマー ジョブがない場合は、**[SharePoint 同期スケジューラのためのユーザー プロファイル]** タイマー ジョブを手動で実行して、これらを作成する必要があります。このためには、以下の手順を実行します。
 - a) **[ジョブの定義]** ページで、**[SharePoint 同期スケジューラのためのユーザー プロファイル]** タイマー ジョブをクリックします。タイマー ジョブの状態データ行のページを移動するには、これらのグループの下部にあるページ移動矢印をクリックします。
 - b) **[タイマー ジョブの編集]** ページで、**[今すぐ実行]** をクリックします。

- c) 数分間待ち、[ユーザー プロファイルから SharePoint への完全同期] タイマー ジョブと [ユーザー プロファイルから SharePoint へのクイック同期] タイマー ジョブを再び確認します。

不明な SQL 例外 – イベント 5586

アラート名: 不明な SQL 例外


イベント ID: 5586

概要: Microsoft SharePoint Foundation は Microsoft SQL Server 2008 データベースを使用して、構成設定と Web サイトの大部分のコンテンツを保存します。たとえば、サイト内のすべてのページ、ドキュメント ライブラリ内のファイル、リストに添付されるファイル、およびリスト内の情報はコンテンツ データベースに格納され、セキュリティ設定とアクセス許可設定、およびその他の構成設定は構成データベースに格納されます (ともに SQL Server 2008 のデータベース)。

Microsoft SharePoint Foundation は 1 つのサービス アカウントを使用して、ユーザー要求のためにデータベースと通信します。このサービス アカウントは、特定のユーザー名またはパスワード (ドメイン名とパスワード)、あるいはあらかじめ定義されたシステム アカウント (ローカル システム、ネットワーク サービスなど) のどちらかにできます。SQL Server のデータベースが作成されるときに、データベースの最大サイズの値が設定されます。データベースごとに、別々のデータベース サイズの設定があります。Web アプリケーションは 1 つまたは複数のデータベースに関連付けられていることがあることに注意してください。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。


- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5586 説明: データベース <データベース名> の SQL Server インスタンス <インスタンス名> でデータベースがいっぱいになり、エラーが発生しました。SQL Server のエラー情報は、以下を参照してください。<SQL エラー メッセージ>

 **メモ:**

この説明は SQL エラー コードによって変化します。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

1. SQL Server データベース権限が不十分です。
2. SQL Server データベースがいっぱいです。
3. MDAC のバージョンが正しくありません。
4. SQL Server データベースが見つかりません。
5. SQL Server のバージョンが正しくありません。
6. SQL Server の照合順序がサポートされていません。
7. データベースが読み取り専用です。

 **メモ:**

以下のタスクを実行するには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: データベース アクセス アカウントに適切な権限を与えます。


- この問題を解決するには、データベース アクセス アカウントを割り当て、そのアカウントが SQL Server の適切なアクセス権を持っていることを確認します。

データベース アクセス アカウントを割り当てるには

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、[セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションの [サービス アカウントの構成] をクリックします。
2. [サービス アカウントの構成] ページの [資格情報の管理] セクションで、対象の Web アプリケーションに対して適切な Web アプリケーション プールを選択します。
3. [このコンポーネントのアカウントの選択] セクションで、この Web アプリケーション プールに関連付けるドメイン アカウントを選択します。または、[新しい管理アカウントの登録] をクリックして、新しいドメイン アカウントをこのアプリケーション プールに関連付けます。
4. [OK] をクリックして、変更を保存します。

アカウントに SQL Server の適切な権限があることを確認するには

1. 管理者権限を持つアカウントを使用して、SQL Server を実行しているコンピューターに接続します。
2. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、[セキュリティ] ノード、[ログイン] ノードの順に展開します。データベース アクセス アカウントの名前は、それが SQL ログオン アカウント (たとえば、##MS_PolicyTsqlExecutionLogin##) であることを示しています。
3. アカウントが存在する場合は、[データベース] ノード、[セキュリティ] ノードの順に展開し、[ロール] をクリックします。
4. [データベース ロール] ノードを展開し、[db_owner] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
5. [データベース ロールのプロパティ] ダイアログ ボックスで、データベース アクセス アカウントが、[このロールのメンバー] の一覧にあるかどうかを確認します。一覧にない場合は、[追加] をクリックします。

 **メモ:**

以下のタスクを実行するには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: SQL Server データベースのサイズを大きくします。

- SharePoint Foundation は、最大サイズに達したデータベースに書き込むことはできません。解決策の 1 つは、いっぱいになったデータベースの最大サイズの設定を大きくすることです。このデータベースの名前は、イベント メッセージで確認できます。

データベースのサイズを大きくするには

1. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、サーバー ノード、[データベース] ノードの順に展開し、目的のデータベースを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。データベース名は、イベント メッセージに含まれています。
2. [プロパティ] ダイアログ ボックスのナビゲーション ウィンドウで、[ファイル] をクリックします。
3. [データベース ファイル] ダイアログ ボックスの [自動拡張] 列で、データベース ファイルの省略記号をクリックします。
4. [自動拡張の変更] ダイアログ ボックスの [ファイルの最大サイズ] で、[ファイル拡張の制限 (MB)] オプションが選択されている場合、右側にあるボックスの最大ファイル サイズの値を大きくします。また、[ファイルを無制限に拡張] オプションを選択して、データベースを無制限に拡張するように構成することもできます。
5. [OK] をクリックして、変更を保存します。

メモ:

以下のタスクを実行するには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: データベースを復元します。

- SQL Server を実行しているコンピューター上に SQL Server データベースが存在しないか、またはデータベースにアクセスできない場合は、データベースをバックアップから復元して、SharePoint Foundation 2010 に再接続します。

データベースをバックアップから復元するには


1. データベースのバックアップを SQL Server ホストにコピーします。
2. RESTORE SQL Server コマンドを使用してデータベースを復元します。RESTORE コマンドの詳細については、[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms186858\(sql.90\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms186858(sql.90).aspx) を参照してください。

サーバーの全体管理でデータベースを再接続するには

1. サーバーの全体管理ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックし、[データベース] セクションの [コンテンツ データベースの管理] をクリックします。
2. [コンテンツ データベースの管理] ページで、[コンテンツ データベースの追加] をクリックし、[Web アプリケーション] セクションで Web アプリケーションを選択します。
3. [データベース名と認証] セクションで、[データベース サーバー] ボックスにサーバーの名前を入力し、[データベース名] ボックスにデータベース名を入力します。
4. [OK] をクリックして、変更を保存します。

解決策: 適切なバージョンの SQL Server をインストールします。

- データベース サーバー ロールをホストするコンピューターには、Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3 累積的な更新プログラム (CU) 3 または SQL Server 2008 Service Pack 1 CU 2 がインストールされていることが必要です。適切なバージョンの SQL Server をサーバーにインストールするか、または適切なバージョンの SQL Server にサーバーをアップグレードできます。

 **メモ:**


このタスクを実行するには、データベースに対する db_owner のアクセス権限が必要です。

解決策: 適切な SQL Server 照合順序を選択します。

1. データベースに対する db_owner のアクセス権限を持つアカウントを使用して、SQL Server が実行されているコンピューターに接続します。
2. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、[データベース] ノードを展開します。イベント 4972 で示されている特定のデータベースを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
3. [全般] タブの [メンテナンス] セクションに照合順序が表示されています。
4. 照合順序を変更するには、[オプション] ページを開きます。
5. [照合順序] ボックスから適切な照合順序を選択します。

解決策: データベースを読み取り/書き込みができるように変更します。

- 以下の手順を実行してデータベースのサイズを大きくすることで、データベースに対する読み取りと書き込みの両方ができるようにデータベースを変更します。

 **メモ:**

この操作を実行するには、データベースに対する db_owner のアクセス権限が必要です。

データベースのサイズを大きくするには

1. SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラー] ナビゲーション ウィンドウで、サーバー ノード、[データベース] ノードの順に展開します。
2. 目的のデータベースを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。データベース名は、イベント メッセージに含まれています。
3. [データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスのナビゲーション ウィンドウで、[ファイル] をクリックします。
4. [データベース ファイル] セクションの [自動拡張] 列で、データベース ファイルの省略記号をクリックします。
5. [自動拡張の変更] ダイアログ ボックスの [ファイルの最大サイズ] セクションで、[ファイル拡張の制限] オプションが選択されている場合、右側にあるボックスの最大ファイル サイズの値を大きくします。また、[ファイルを無制限に拡張] オプションを選択して、データベースを無制限に拡張するように構成することもできます。
6. [OK] をクリックして、変更を保存します。

データベースの問題が解決されたことを確認する

1. SharePoint 管理シェルで、Windows PowerShell コマンド **Get-SPSite | Format-Table - Property ID,WebApplication,ContentDatabase** を実行して、各 Web アプリケーションのサイトを一覧表示してそれぞれのデータベース内のサイトをすべて表示し、各データベースで 1 つのサイトを特定します。
2. サイトを閲覧します。

対象ユーザーのコンパイルに失敗しました – イベント 5693 (SharePoint Server 2010)

アラート名: 対象ユーザーのコンパイルに失敗しました

イベント ID: 5693

概要: 特定の情報を特定のユーザーに簡単に提供できるように、Microsoft SharePoint Server 2010 管理者はユーザーを“対象ユーザー”に動的にコンパイルするルールを定義できます。たとえば、会社のすべての営業担当者を営業という名前の対象ユーザーにコンパイルできます。対象ユーザーのコンパイル処理が失敗した場合、このイベントが記録されます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 管理者がユーザーに対して意図したものより多くの情報がユーザーに表示されます。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 5693 説明: 対象ユーザーのコンパイルに失敗しました。例外: <例外>。

原因: 1 つ以上の対象ユーザー ルールが正しく定義されていません。または、User Profile Service がルールのパラメーター値 (特定のユーザーの情報など) にアクセスできません。

解決策: 対象ユーザー ルールを手動でコンパイルします

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーション] ページで、User Profile Services をクリックします。
5. User Profile Service のページの [人] セクションで、[対象ユーザーの管理] をクリックします。
6. [対象ユーザーの表示] ページで、対象ユーザーをクリックし、ショートカット メニューの [コンパイル] をクリックします。

SharePoint Server とディレクトリのデータの同期に失敗しました - イベント 6000-6099 (SharePoint Server 2010)

アラート名: SharePoint Server とディレクトリのデータの同期に失敗しました

イベント ID: 6000-6099

概要: Microsoft SharePoint Server とディレクトリ間のデータの同期が失敗しました。

現象: 以下のイベントのうちの 1 つまたは複数イベント ログに記録されます。イベント ID: 6000 ~ 6099。説明については、イベントの詳細を参照してください。

原因: これらの障害は、User Profile Synchronization Service が正しく構成されていないこと、または破損したデータが SharePoint Server 2010 から同期されたこと (たとえば、アカウント名などの必要な属性がない) を示します。

解決策: User Profile Synchronization Service の資格情報を確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックし、[サービス アプリケーション] セクションで [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [サービス アプリケーション] ページで、User Profile Services アプリケーションをクリックします。
3. [User Profile Service] ページの [同期] セクションで、[同期接続の構成] をクリックします。
4. 接続を右クリックし、[接続の編集] をクリックします。
5. 資格情報および権限コンテナが接続で提供されていることを確認します。ディレクトリ内のデータを読み書きするために十分なアクセス許可を資格情報が持っていること、および User Profile Synchronization Service の対象がディレクトリ内の正しい組織単位になっていることを確認します。

SharePoint Foundation でサイトの作成に失敗しました – イベント 6141 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: SharePoint Foundation でサイトの作成に失敗しました

イベント ID: 6141

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 で、管理者は新しい SharePoint サイトを作成できます。サイトの所有者と、(サイトの設定に応じて) サイトの訪問者は、サブサイトを作成できません。この警告は、新しい SharePoint サイトの作成に失敗したことを示します。

現象: このイベントはイベント ログに次のように表示されます。イベント ID: 6141 説明: サイト <サイト名> を作成できませんでした。次の例外が発生しました: <例外の詳細>。

原因: 以下の 1 つまたは複数の問題が原因である可能性があります。

- 構成エラー。
- サイトを作成するのに必要な権限がユーザーにありません。
- ユーザーが無効な文字 ('+' など) を使用してサイトを作成しようとした。

エラーの詳細は、イベントの説明テキストで確認してください。

解決策: ユーザーがアクセス権を要求する必要があります

- イベント 6141 に、“サイト <サイト URL> を作成できませんでした。次の例外が発生しました: アクセスが拒否されました。”という説明が表示された場合、SharePoint サイトを作成する権限がユーザーにないことを示しています。ユーザーが SharePoint サイトへのアクセス権を要求し、それに従って SharePoint 管理者が権限を更新する必要があります。

以下の手順をユーザーに指示します。

- サイトのホーム ページで、ページ右上にある [ようこそ、<ユーザー名> さん] の横をクリックします。
- [アクセス権の要求] をクリックします。
- [アクセス権の要求] ページで、必要に応じて要求の内容を入力し、[要求の送信] をクリックします。

解決策: ユーザーが別の URL を使用する必要があります

- イベント 6141 に、“サイト <サイト URL> を作成できませんでした。次の例外が発生しました: Web 名 <サイト名> 内の無効な文字”という説明が表示された場合、ユーザーが無効な文字を使用してサイトを作成しようとしたことを示しています。サイト名に '+' などの特殊文字を使用せずにサイトを作成し直すように、ユーザーに指示してください。

認証プロバイダーを読み込むことができません – イベント 6143 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: 認証プロバイダーを読み込むことができない

イベント ID: 6143

概要: ユーザーを認証するため、Microsoft SharePoint 2010 製品 は、Windows Server 2008 R2 で提供されている認証プロバイダー (フォーム認証や Web シングル サインオン (SSO) 認証など)、および他のバージョンの Windows やサードパーティ ベンダーによって提供されている認証プロバイダーを使用します。

Kerberos v5 認証の使用時には、Web アプリケーションのインターネット インフォメーション サービス (IIS) アプリケーション プールで使用されるサービス アカウントが、フロントエンド Web サーバーがメンバーであるドメインの Active Directory に、サービス プリンシパル名 (SPN) として登録されている必要があります。

このエラーは、ロール マネージャー、または特定の Web アプリケーション用に指定されたメンバーシップ プロバイダーが、正しく構成されていないことを示します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザー認証が正しく動作せず、ユーザーはコンテンツにアクセスできません。
- ユーザー トークンが正しいロール メンバーシップを使用して更新されず、ユーザーはロールに基づいてアクセスできるはずのコンテンツにアクセスできません。
- イベント 6143 が次の説明のいずれかと共にイベント ログに記録されます。
 - 説明: 名前 <メンバーシップ プロバイダー名> のメンバーシップ プロバイダーを取得できません。このプロセスのメンバーシップ プロバイダーが、正しく構成されていませんでした。各 SharePoint プロセスの .config ファイルでメンバーシップ プロバイダーを構成してください。
 - 説明: 名前 <ロール マネージャー名> のロール マネージャーを取得できません。このプロセスのロール マネージャーが正しく構成されていません。各 SharePoint プロセスの .config ファイルでロール マネージャーを構成する必要があります。

原因: 特定の Web アプリケーション用に指定されたロール マネージャーまたはメンバーシップ プロバイダーが、正しく構成されていない可能性があります。

解決策: 認証モードを確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、サイド リンク バーの [セキュリティ] をクリックします。
2. [セキュリティ] ページの [一般的なセキュリティ] セクションで、[認証プロバイダーの指定] をクリックします。
3. [認証プロバイダー] ページで、正しい Web アプリケーションが選択されていることを確認します。選択されていない場合は、確認する Web アプリケーションを選択します。
4. [認証プロバイダー] ページで、認証設定を変更する領域をクリックします。

5. [認証の編集] ページの [認証の種類] セクションで、選択されている認証の種類を確認します。
6. [Windows] が選択されている場合は、[IIS 認証の設定] セクションの設定を確認します。[フォーム] または [Web シングル サインオン] が選択されている場合は、[メンバーシップ プロバイダー名] セクションおよび [ロール マネージャー名] セクションの設定を確認します。
7. [キャンセル] をクリックし、変更を保存しないで閉じます。

解決策: Kerberos v 5 認証モードを構成します

1. この手順は、Kerberos v 5 認証を使用している場合にのみ実行する必要があります。
2. この作業を実行するには、SharePoint Administrators グループのメンバーである必要があります。
3. ドメイン管理者に連絡し、Web アプリケーションに登録されているすべてのドメインについて、アプリケーション プールで使用されるサービス アカウントが登録済みの SPN であることを確認してください。

メモ:

Kerberos v5 認証を特に必要としない場合、または SPN を構成できない場合は、代わりに NTLM 認証を使用してください。Kerberos v5 認証を使用し、SPN を構成できない場合は、サーバー管理者のみがサイトへの認証を行うことができます。認証の種類を変更する場合は、後の「NTLM 認証モードを構成する」の手順を参照してください。

Kerberos v5 認証を使用するように SharePoint 2010 製品 を構成する方法の詳細については、マイクロソフト サポート技術情報の記事 832769「[Kerberos 認証を使用するように Windows SharePoint Services の仮想サーバーを構成する方法および Kerberos 認証から NTLM 認証に戻す方法](#)」を参照してください。

解決策: NTLM 認証モードを構成します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、サイド リンク バーの [セキュリティ] をクリックします。
2. [セキュリティ] ページの [一般的なセキュリティ] セクションで、[認証プロバイダーの指定] をクリックします。
3. [認証プロバイダー] ページで、正しい Web アプリケーションが選択されていることを確認します。選択されていない場合は、確認する Web アプリケーションを選択します。
4. [認証プロバイダー] ページで、認証設定を変更する領域をクリックします。
5. [認証の編集] ページの [認証の種類] セクションで、[Windows 認証] を選択します。
6. [IIS 認証の設定] で、[統合 Windows 認証] チェック ボックスがオンになっていることを確認し、[NTLM] をクリックします。
7. [OK] をクリックして変更を保存します。

解決策: フォーム認証モードまたは Web シングル サインオン認証モードを構成します

1. この手順は、Kerberos v 5 認証を使用している場合にのみ実行する必要があります。
2. この作業を実行するには、SharePoint Administrators グループのメンバーである必要があります。

3. フォーム プロバイダーまたは Web SSO プロバイダーのドキュメントを確認します。プロバイダーの正しいコンポーネントがサーバーにインストールされていること、および Web アプリケーションの IIS ディレクトリの Web.config ファイルでプロバイダーの設定が正しくセットアップされていることを確認します。Web.config ファイルからメンバーシップ プロバイダー名およびロール マネージャー名を記録します。
4. サーバーの全体管理のホーム ページで、サイド リンク バーの [セキュリティ] をクリックします。
5. [セキュリティ] ページの [一般的なセキュリティ] セクションで、[認証プロバイダーの指定] をクリックします。
6. [認証プロバイダー] ページで、正しい領域をクリックします。
7. [認証の編集] ページの [クレーム認証] セクションで、[ASP.NET メンバーシップ プロバイダー名] を記録します。この名前が Web.config ファイルで指定されている名前と同じであることを確認します。
8. [ASP.NET ロール マネージャー名] を記録します。この名前が Web.config ファイルで指定されている名前と同じであることを確認します。

User Profile Synchronization Service で予期しないエラーが発生しました - イベント 6300 ~ 6309 (SharePoint Server 2010)

アラート名: User Profile Synchronization Service で予期しないエラーが発生しました

イベント ID: 6300 ~ 6309

概要: User Profile Synchronization Service で予期しない一般的なエラーが発生しました。

現象: 以下のイベントのうちの 1 つまたは複数がイベント ログに記録されます。イベント ID: 6300 ~ 6309 説明については、イベントの詳細を参照してください。

原因: 複数の原因があり得ますが、これらのイベントは主に、User Profile Synchronization Service で接続エラーが発生したことを示します。たとえば、SharePoint ファームが SQL Server のインスタンスのデータベースへの接続に失敗した場合です。

解決策: データベース サーバーが実行していて使用可能であることを確認します

- データベース サーバーの Services スナップインで、SQL Server (MSSQLSERVER) サービスが実行していることを確認します。

解決策: データベース サーバーとファームの間の接続を確認します。

1. エラーの詳細で示されているアカウントで Microsoft SQL Server Management Studio にログオンし、[接続] をクリックして、[データベース エンジン] をクリックします。
2. エラーの詳細で示されているサーバー名を入力し、[接続] をクリックします。

解決策: データベース アクセスの資格情報を確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[セキュリティ] をクリックし、[サービス アプリケーション] をクリックします。
2. [セキュリティ] ページの [一般的なセキュリティ] セクションで、[サービス アカウントの構成] をクリックします。
3. [サービス アカウント] ページのサービス アカウント ボックスの一覧で、[ファーム アカウント] をクリックします。
4. このアカウントにデータベース サーバーに対する十分な権限があることを確認します。

構成データ キャッシュに書き込むための適切な権限がありません - イベント 6395

アラート名: 構成データ キャッシュに書き込むための適切な権限がありません

イベント ID: 6395

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 のいくつかの機能は、タイマー ジョブと呼ばれるスケジュール設定されたバックグラウンド プロセスを使用します。管理者は、SharePoint サーバーの全体管理を使用して、タイマー ジョブの構成およびスケジュール設定ができます。SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトの [サーバー] ページで [サービス] を使用してサービスの開始や停止を行うときは、タイマー ジョブがこの処理を実行します。

SharePoint Foundation 2010 のパフォーマンスの向上のために、SQL Server 2008 の構成データベースのデータの大部分は、構成データ キャッシュと呼ばれる、ローカルのファイルシステムのキャッシュに保持されます。SharePoint Foundation 2010 は、Timer Service を使用して、このキャッシュを構成データベースと同期されている状態に保ちます。

このエラーは、権限の問題で、特定の信頼されているアカウントが %systemdrive%\Users\AllUsers\Microsoft\SharePoint\Config ディレクトリへの書き込みができないことを示しています。

現象: 次のメッセージがイベント ログに表示されます。イベント ID: 6395 構成データ キャッシュに書き込むための適切な権限がありません。詳細については、以下を参照してください。

原因: 構成キャッシュのディレクトリに、その内容への書き込みアクセスを防止するセキュリティの設定が行われています。構成オブジェクトはファーム全体で更新できますが、オブジェクトはローカルでは更新されません。

解決策: 構成データ キャッシュに適切な権限を割り当てます。

- WSS_ADMIN_WPG および WSS_RESTRICTED_WPG のローカル グループに %systemdrive%\Users\All Users\Microsoft\SharePoint\Config ディレクトリへ書き込むための権限が付与されていることを確認します。このタスクを実行するためには、そのディレクトリを変更する権限がある必要があります。

代替アクセス マッピングの更新に失敗しました – イベント 6397

アラート名: 代替アクセス マッピングの更新に失敗しました

イベント ID: 6397

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 のいくつかの機能は、タイマー ジョブと呼ばれるスケジュールされたバックグラウンド プロセスに依存しています。管理者は、SharePoint サーバーの全体管理を使用してタイマー ジョブを構成およびスケジュールできます。SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトの [サーバーのサービス] ページを使用してサービスを開始または停止するとき、タイマー ジョブがその操作を実行します。

SharePoint Foundation 2010 のパフォーマンスを向上させるために、SQL Server 2008 の構成データベース内のデータの多くは、構成データ キャッシュと呼ばれるローカル ファイル システムのキャッシュに保持されます。SharePoint Foundation 2010 は、Timer Service を使用してこのキャッシュと構成データベースとの同期を維持します。代替アクセス マッピングは、受信 URL を SharePoint Foundation で使用される代替 URL にマッピングすることによって、管理者が負荷分散システムを構成するための Microsoft SharePoint Foundation 2010 の機能です。

このエラーは、代替アクセス マッピングの更新に使用されるタイマー ジョブが、指定されたサーバー上で失敗したときに発生します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ローカル サーバー上の Web アプリケーションに対する代替アクセス マッピングの設定が、最新になっていません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 6397 代替アクセス マッピングを更新できませんでした。適用対象の Web アプリケーションは <Web アプリケーション>、現在のユーザーは <ユーザー名> です。詳細については、以下を参照してください。

原因: 構成キャッシュに指定された代替アクセス マッピングが、ローカル コンピューターの IIS 設定に適用されませんでした。

メモ:

次のタスクを実行するには、サーバーの全体管理サイトで SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: 代替アクセス マッピングの更新を完了します。

- イベント 6397 のイベント文字列には、失敗した代替アクセス マッピングが示されています。サーバーの全体管理サイトを使用して、マッピングを再作成します。
代替アクセス マッピングの設定を表示または変更するには

1. サーバーの全体管理ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックし、[Web アプリケーション] セクションの [代替アクセス マッピングの構成] をクリックします。
2. マッピングを編集するには、変更するマッピングをクリックします。
代替アクセス マッピングが正しいことを確認するには
 - SharePoint Administration Service が再開された場合、SharePoint 管理シェルで Windows PowerShell コマンド **Start-SPAdminJob** を実行して、管理サービスに必要なすべてのタスクが完了していることを確認します。

SPServiceInstance タイマーの実行が失敗しました- イベント 6398

アラート名: SPServiceInstance タイマーの実行が失敗しました

イベント ID: 6398

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 の一部の機能は、タイマー ジョブと呼ばれるスケジュールされたバックグラウンド プロセスを利用して実行されます。管理者は SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトを使用して、タイマー ジョブの構成、スケジュール、および状態表示を行うことができます。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6398 ジョブ定義 <ジョブ定義名> (ID <ジョブ ID>) の Execute メソッドが例外をスローしました。詳細については、以下を参照してください。%n%n <ジョブの詳細>

一般的なジョブの定義は次のとおりです。

- **SPPasswordManagementJobDefinition**

目的: 期限が切れるパスワードおよびパスワードの変更について、電子メールを送信してイベントをログに記録します。このタイマー ジョブによって、管理されたパスワードが期限切れの前に変更されるようにすることができます。

- **SPGeneratePasswordJobDefinition**

目的: アカウントの新しいパスワードの生成、およびアカウント パスワードの更新を行い、新しいパスワードを使用者に展開するジョブを開始します。

- **SPAdminAppPoolCredentialDeploymentJobDefinition**

目的: ファーム内の管理 インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7.0 アプリケーション プールの資格情報を更新します。

- **SPContentAppPoolCredentialDeploymentJobDefinition**

目的: ファーム内のすべてのサーバーのコンテンツ IIS アプリケーション プールの資格情報を更新します。

- **SPWindowsServiceCredentialDeploymentJobDefinition**

目的: サービスを実行しているファーム内のすべてのコンピューター上の Windows サービスの資格情報を更新します。

- **SPMasterPassphraseDeploymentJobDefinition**

目的: すべての Web フロント エンドにパスフレーズに基づく新しいキーを渡します。このジョブは、管理者がファームのパスフレーズを変更したときに実行されます。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- サードパーティのタイマー ジョブが見つからないか、または破損しています。

- Microsoft SharePoint Foundation 2010 のタイマー ジョブが見つからないか、または破損しています。
- 一般的なジョブの原因は次のとおりです。
 - **SPPasswordManagementJobDefinition**
 問題: パスワード変更タイマー ジョブ (SPGeneratePasswordJobDefinition) がスケジュールされていないか、ファームの資格情報に対して更新されています。ファームの資格情報に関して、パスワード変更スケジュールに最近行われた追加または変更は、このジョブが正常に完了するまで、変更に合わせて更新されません。
 - **SPGeneratePasswordJobDefinition**
 問題: ファームの資格情報に対して新しいパスワードを作成するためにスケジュールされたタイマー ジョブが失敗しました。現在の資格情報の値は既に無効になっており、Active Directory アカウントを手動で更新する必要があります。アカウントの資格情報が依然として有効な場合は、このタイマー ジョブを再開する必要があります。
 - **SPAdminAppPoolCredentialDeploymentJobDefinition**
 問題: サーバーの全体管理 Web アプリケーション プールの新しい資格情報がローカル コンピューターで更新されておらず、そのファーム用に構成された現在の値と一致しません。そのため、サーバーの全体管理 Web アプリケーションが開始されません。
 - **SPContentAppPoolCredentialDeploymentJobDefinition**
 問題: アプリケーション プールの新しい資格情報がローカル コンピューターで更新されておらず、そのファーム用に構成された現在の値と一致しません。そのため、アプリケーション プールが開始されません。
 - **SPWindowsServiceCredentialDeploymentJobDefinition**
 問題: サービスの新しい資格情報がローカル コンピューターで更新されておらず、そのファーム用に構成された現在の値と一致しません。そのため、サービスが開始されません。
 - **SPMasterPassphraseDeploymentJobDefinition**
 問題: ファームのマスター パスフレーズがローカル コンピューターで更新されておらず、そのファーム用に構成された現在の値と一致しません。そのため、ローカルで更新されるまで、ファーム暗号化キーを暗号化または解読できません。

解決策: 適切な解決策を決定します。

- イベントの説明でジョブ定義名を確認して、適切な解決策を見つけます。
 - **SPPasswordManagementJobDefinition**
 解決策: このタイマー ジョブを再開します。
 - **SPGeneratePasswordJobDefinition**
 解決策: このタイマー ジョブを再開して、パスワードのリセットを手動で適用します。
 - **SPAdminAppPoolCredentialDeploymentJobDefinition**
 解決策: このタイマー ジョブを再開して、管理者の展開ジョブをローカルに実行し、パスワードのリセットを手動で適用します。
 - **SPContentAppPoolCredentialDeploymentJobDefinition**

解決策: このタイマー ジョブを再開して、管理者の展開ジョブをローカルに実行し、パスワードのリセットを手動で適用します。

- **SPWindowsServiceCredentialDeploymentJobDefinition**

解決策: このタイマー ジョブを再開して、管理者の展開ジョブをローカルに実行し、パスワードのリセットを手動で適用します。

- **SPMasterPassphraseDeploymentJobDefinition**

解決策: このタイマー ジョブを再開して、管理者の展開ジョブをローカルに実行し、パスワードのリセットを手動で適用します。

この他のすべてのタイマー ジョブのエラー解決策については、次のセクションの手順に従ってください。この問題を解決するには、「原因」セクションで特定した原因に対応する解決策を実行してください。解決策を実行した後、確認の手順を参照して、機能が正常に動作していることを確認してください。

 **メモ:**

これらのタスクを実行するには、ファームの管理者 SharePoint グループのメンバーである必要があります。

解決策: エラーが発生したタイマー ジョブを構成します。

- 問題のあるアセンブリが見つからないか、または破損している場合に、そのアセンブリが SharePoint Foundation 2010 アセンブリではなく、タイマー定義が定期的なジョブであるときは、エラーが発生したタイマー ジョブを無効にする必要があります。


エラーが発生したタイマー ジョブを無効にするには

1. サーバーの全体管理ページで **[監視]** をクリックし、**[タイマー ジョブ]** セクションで **[ジョブ定義の確認]** をクリックします。
2. 一覧からタイマー ジョブを探して、タイマー定義名をクリックします。
3. **[タイマー ジョブの編集]** ページで、**[無効]** をクリックします。

無効になったタイマー ジョブは、**[スケジュールの種類]** 列に **[無効]** と表示されます。

エラーが発生したタイマー ジョブを有効にするには


1. サーバーの全体管理ページで **[監視]** をクリックし、**[タイマー ジョブ]** セクションで **[ジョブ定義の確認]** をクリックします。
2. 一覧からタイマー ジョブを探して、タイマー定義名をクリックします。
3. **[タイマー ジョブの編集]** ページで、**[有効]** をクリックします。

 **メモ:**

次の手順を実行するには、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーである必要があります。

解決策: Windows SharePoint Services のインストールを修復します。

- 問題のあるアセンブリが見つからないか、または破損している場合に、そのアセンブリが Microsoft SharePoint Foundation アセンブリであるときは、アセンブリを復元または修復するために SharePoint Foundation のインストールを修復する必要があります。

 メモ:

インストールを修復するには、サーバーを再起動する必要があります。Web アプリケーションの変更、およびその他の設定の変更は保持されます。

SharePoint Foundation のインストールを修復するには

- Microsoft SharePoint Foundation 2010 のセットアップ ウィザードで、[修復] をクリックし、[続行] をクリックします。
タイマー ジョブが機能することを確認するには
- タイマー ジョブが定期的なジョブであった場合は、[タイマー ジョブの定義] ページに移動し、そのタイマー ジョブを有効にします。通常のスケジュール間隔で次のジョブを実行します。
- タイマー ジョブが一時的なジョブであった場合は、タイマー ジョブをトリガーしたコマンドを再試行します。

ULS で十分なディスクの空き領域がありません – イベント 6457

アラート名: ULS で十分なディスクの空き領域がありません

イベント ID: 6457

概要: Microsoft SharePoint Foundation Tracing (SPTracev4) サービスは、トレース メッセージの出力を管理するために Microsoft SharePoint Foundation 2010 で使用されます。トレース ログを有効にするときに、管理者はトレース ログを格納するために使用されるパスを指定できます。このログ ファイルは、SharePoint Foundation の上に構築された多くのアプリケーションによって使用されます。トレース ログには、サーバーの問題を診断する際に役立つ情報が含まれています。SharePoint Foundation 2010 がトレース ログに書き込むことができませんでした。このイベントは、ログに使用できる十分なディスクの空き領域がない場合に発生します。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- トレース ログに新しいデータが記録されません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 6457 説明: ディスクの空き容量が不足しているため、トレース サービスでログ ファイルへのトレース メッセージの出力が一時的に停止しています。空き容量が <ログの再開に必要な MB 数> MB 以上になるとトレースが再開されます。

原因: 構成されたログの場所に、ログ用の十分なディスクの空き領域がありません。

解決策: ディスクの空き領域を増やします。

1. ディスク クリーンアップを使用して、トレース ログが格納されているディスクの空き領域を増やします。
2. トレース ログを正常に実行するための十分なディスクの空き領域があることを確認します。
3. トレース ログを正常に実行するための十分なディスクの空き領域がない場合は、そのドライブの一時フォルダーをクリーンアップします。
4. この手順で問題が解決されない場合は、トレース ログ ファイルの場所を空き領域の大きいパーティションに変更することもできます。

解決策: ログ ファイルの場所を変更します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、**[監査]** をクリックし、**[レポート]** セクションの **[診断ログの構成]** をクリックします。
2. **[診断ログ]** ウィンドウの **[トレース ログ]** セクションで、**[パス]** ボックスにトレース ログ ファイルの新しい場所を入力します。
3. **[OK]** をクリックします。

レジストリへの書き込みアクセスが拒否されました – イベント 6588

アラート名: レジストリへの書き込みアクセスが拒否されました

イベント ID: 6588

概要: このエラーは、Microsoft SharePoint Foundation 2010 で使用するインターネット インフォメーション サービスのアプリケーション プールがレジストリ キーの更新を試みたが、このアプリケーション プールで使用するサービス アカウントに十分な権限がなく、アクセスが拒否された場合に発生します。


現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- レジストリ キーは、適切に更新されず、構成されている設定が反映されません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6588 説明: アプリケーション プール アカウント <アカウント名> が <キーの場所> のレジストリ キー <キー名> を書き込めません。詳細は以下を参照してください。

原因: SharePoint Foundation 2010 で使用する IIS アプリケーション プールのサービス アカウントに、レジストリ キーへの書き込みに必要な権限がありません。

解決策: アプリケーション プール アカウントに適切な権限を与えます。

- Web アプリケーション プール アカウントに、レジストリまたはディスク上のファームへの書き込みを行うための権限がありません。まず、Psconfig コマンドライン ツールを使用して、SharePoint Foundation 2010 の権限を修正してみます。これで問題が解決されない場合は、以下の操作を順に行います。最初に、Web アプリケーション用のアカウントを特定します。

 **メモ:**

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

SharePoint Foundation 2010 の権限を修正するには

1. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、コマンド プロンプトで次のように入力します。
`cd /d %commonprogramfiles%\Microsoft Shared\Web server extensions\14\BIN`
2. 次のコマンドを入力して、サーバーでの権限を修正します。
`psconfig -cmd secureresources`
3. IIS を再起動したら、コマンド プロンプトで「iisreset /noforce」を入力して変更を行います。

Web アプリケーション用のアカウントを特定するには

1. IIS マネージャーの [接続] ウィンドウで、サーバー ノードを展開し、[アプリケーション プール] をクリックします。
2. 閲覧ウィンドウの機能ビューの [ID] 列で、特定したアプリケーション プールのアカウントを記録します。

コンピューター上の Web アプリケーション プール アカウントに必要なグループ アカウントを手動で設定するには

1. **[スタート]** ボタンをクリックし、**[管理ツール]** をクリックして、**[コンピューターの管理]** をクリックします。
2. ツリー ビューで、**[ローカル ユーザーとグループ]** を展開し、**[グループ]** フォルダーをクリックします。
3. 閲覧ウィンドウの一覧で、**[WSS_WPG]** を右クリックし、**[グループに追加]** をクリックします。
4. **[WSS_WPG のプロパティ]** ダイアログ ボックスで、**[追加]** をクリックして Web アプリケーション プール アカウントを追加します。

Web アプリケーション プール アカウントがフォルダーに対して必要とする権限を与えるには

1. SharePoint Foundation コンピューター上で、イベント 6588 または 6589 で検出されたフォルダーを探します。
2. フォルダーを右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。
3. **[<フォルダー名> のプロパティ]** ダイアログ ボックスの **[セキュリティ]** タブで、**[グループ名またはユーザー名]** セクションの **[すべてのユーザー]** を選択し、**[編集]** をクリックします。

 **メモ:**

レジストリを正しく編集しないと、システムが正常に動作しなくなる場合があります。レジストリを変更する前に、コンピューター上の重要なデータのバックアップを作成する必要があります。

4. **[<フォルダー名> のプロパティ]** ダイアログ ボックスで、**[追加]** をクリックして、Web アプリケーション プール アカウントを追加します。このアカウントには書き込み権限が必要です。

Web アプリケーション プール アカウントがレジストリ キーに対して必要とする権限を与えるには

1. **[スタート]** ボタンをクリックし、**[すべてのプログラム]** をクリックします。次に、**[アクセサリ]** をクリックし、**[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。
2. 「regedit」と入力し、**[OK]** をクリックします。
3. レジストリ エディターのツリー ビューで、イベント 6588 または 6589 で検出されたレジストリ キーを探します。
4. レジストリ キーを右クリックし、**[アクセス許可]** をクリックします。
5. **[<フォルダー名> のアクセス許可]** ダイアログ ボックスで、**[追加]** をクリックして、Web アプリケーション プール アカウントを追加します。このアカウントには書き込み権限が必要です。

確認するには

- 以前に失敗した操作をもう一度実行します。

ディスクへの書き込みアクセスが拒否されました – イベント 6589

アラート名: ディスクへの書き込みアクセスが拒否されました

イベント ID: 6589

概要: このエラーは、Microsoft SharePoint Foundation 2010 が使用する インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7.0 アプリケーション プールがファイルやフォルダーを更新しようとして、アプリケーション プールが使用するサービス アカウントに適切な権限がないためにアクセスが拒否されたときに発生します。


現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- ファイルが正しく更新されず、構成された設定が反映されません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6589 説明: アプリケーション プール アカウント <アカウント名> には、<ファイルの場所> でファイル <ファイル名> を書き込む権限がありません。詳細は以下を参照してください。

原因: SharePoint Foundation 2010 が使用する IIS アプリケーション プール用のサービス アカウントに、NTFS ファイル システムのファイルやフォルダーに書き込みを行うための適切な権限がありません。

解決策: アプリケーション プール アカウントに適切な権限を付与します。

- Web アプリケーション プール アカウントに、ディスク上のレジストリまたはファイルに書き込みを行うための権限がありません。まず、Psconfig コマンドライン ツールを使用して、SharePoint Foundation 2010 の権限の修正を行います。それでも問題が解決しない場合は、次の手順を順番に実行します。最初に、どのアカウントが Web アプリケーションに使用されているかを特定します。

 **メモ:**

次の手順を実行するには、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーである必要があります。

SharePoint Foundation 2010 の権限を修正するには


1. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、コマンド プロンプトで次のように入力します。
`cd /d %commonprogramfiles%\Microsoft Shared\Web server extensions\14\BIN`
2. 次のコマンドを入力して、サーバーでの権限を修正します。

`psconfig -cmd secureresources`

3. コマンド プロンプトで次のコマンドを入力して、IIS を再起動して変更を行います。
`iisreset /noforce`

Web アプリケーション用のアカウントを特定するには

1. IIS マネージャーの [接続] ウィンドウで、サーバーのノードを展開して、[アプリケーション プール] をクリックします。

2. 閲覧ウィンドウの [機能ビュー] の [ID] 列で、確認したアプリケーション プール用のアカウントを確認します。
 コンピューター上の Web アプリケーション プール アカウントに必要なグループ アカウントを手動で設定するには
 1. [スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] をクリックしてから、[コンピューターの管理] をクリックします。
 2. ツリー ビューで、[ローカル ユーザーとグループ] を展開して [グループ] をクリックします。
 3. 閲覧ウィンドウのリストで、[WSS_WPG] グループを右クリックして、[グループに追加] をクリックします。
 4. [WSS_WPG のプロパティ] ダイアログ ボックスで、[追加] をクリックして Web アプリケーション プール アカウントを追加します。
 Web アプリケーション プール アカウントがフォルダーに対して必要とする権限を付与するには
 1. SharePoint Foundation のコンピューターで、イベント 6588 または 6589 で確認されたフォルダーを特定します。
 2. フォルダーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 3. [プロパティ] ダイアログ ボックスの [セキュリティ] タブの [グループ名またはユーザー名] セクションで、[Everyone] を選択して [編集] をクリックします。
-  **メモ:**
- レジストリを正しく編集しないと、システムが正常に動作しなくなる場合があります。レジストリを変更する前に、コンピューター上の重要なデータのバックアップしてください。
4. [<フォルダー名> のアクセス許可] ダイアログ ボックスで、[追加] をクリックして Web アプリケーション プール アカウントを追加します。このアカウントには書き込みのアクセス許可が必要です。
 Web アプリケーション プール アカウントがレジストリ キーに対して必要とする権限を付与するには
 1. [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]、[アクセサリ]、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
 2. 「regedit」と入力して、[OK] をクリックします。
 3. レジストリ エディターのツリー ビューで、イベント 6588 または 6589 で確認されたレジストリ キーを特定します。
 4. レジストリ キーを右クリックし、[アクセス許可] をクリックします。
 5. [アクセス許可] ダイアログ ボックスで、[追加] をクリックして Web アプリケーション プール アカウントを追加します。このアカウントには書き込みのアクセス許可が必要です。
 。
 確認を行うには
 - エラーが発生していた操作を再試行します。

アプリケーション プール アカウントは、Kerberos として登録されている必要があります – イベント 6590

アラート名: アプリケーション プール アカウントは、Kerberos として登録されている必要があります

イベント ID: 6590

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 では、Windows Server 2008 が備える認証プロバイダーを使用して、ユーザー認証を行うことができます。たとえば、Microsoft SharePoint Foundation では、フォームベースの認証または Web シングル サインオンを使用できます。

Kerberos バージョン 5 認証プロトコルの使用時には、Web アプリケーションのインターネット インフォメーション サービス (IIS) アプリケーション プールで使用されるサービス アカウントが、フロントエンド Web サーバーがメンバーであるドメインの Active Directory ドメイン サービス (AD DS) に、SPN として登録されている必要があります。

現象: このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6590 説明: アプリケーション プール アカウントには、Active Directory にユーザー アカウントを追加する権限がありません。Kerberos 認証を使用する場合は、Web アプリケーションのインターネット インフォメーション サービス (IIS) アプリケーション プールで使用されるサービス アカウントを、Web フロントエンドが属しているドメインのサービス プリンシパル名 (SPN) として Active Directory に登録する必要があります。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Kerberos v5 認証を使用している場合、Web アプリケーション プールのアカウントがセキュリティ プロバイダー名として登録されていません。
- フォームベースの認証または Web シングル サインオンを使用している場合、メンバーシップ プロバイダー名が指定されなかったため、認証プロバイダーを読み込めない可能性があります。
- Web アプリケーション プールを再起動して変更を保存する必要があります。

 **メモ:**

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。


解決策: サイトで使用している認証の種類を確認します。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの [セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションの [認証プロバイダーの指定] をクリックします。

2. [認証プロバイダー] ページで、正しい Web アプリケーションを選択します。Web アプリケーションを選択するには、[Web アプリケーション] ドロップダウン リストの矢印をクリックし、[Change Web Application] をクリックします。[Web アプリケーションの選択] ダイアログ ボックスで、正しい Web アプリケーションをクリックします。
3. [認証プロバイダー] ページで、一覧からサイトの領域をクリックします。
4. [認証の編集] ページの [IIS 認証の設定] セクションに、認証の種類が表示されます。

解決策: アプリケーション プール アカウントを SPN として登録します。

- Web アプリケーション プールのアカウントがセキュリティ プロバイダー名 (SPN) として登録されていません。ドメイン管理者に連絡し、Web アプリケーションに登録されているすべてのドメインについて、アプリケーション プールで使用されるサービス アカウントが登録済みの SPN であることを確認してください。

 **メモ:**

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: メンバーシップ プロバイダー名とロール マネージャーを指定します。

1. [サーバーの全体管理] ページで、サイドリンク バーの [セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションの [認証プロバイダーの指定] をクリックします。
2. [認証プロバイダー] ページで、認証設定を変更する領域を選択します。
3. [認証の編集] ページの [認証の種類] セクションで、[フォーム] または [Web シングル サインオン] 認証オプションを選択します。既定では、Windows 認証が選択されています。
4. [保存] をクリックします。
5. [メンバーシップ プロバイダー名] セクションの [メンバーシップ プロバイダー名] ボックスに名前を入力します。
6. [ロール マネージャー名] セクションの [ロール マネージャー名] ボックスに名前を入力します。
7. [保存] をクリックします。

解決策: 領域の認証設定を編集します。

1. [サーバーの全体管理] ページで、サイドリンク バーの [セキュリティ] をクリックし、[一般的なセキュリティ] セクションの [認証プロバイダーの指定] をクリックします。
2. [認証プロバイダー] ページで、認証設定を変更する領域を選択します。
3. [認証の編集] ページの [認証の種類] セクションで、認証オプションを選択します。既定では、Windows 認証が選択されています。
4. [IIS 認証の設定] セクションで設定を選択します。既定では、[統合 Windows 認証 - NTLM] が選択されています。[ネゴシエート (Kerberos)] を選択する場合は、認証を構成する追加手順を実行する必要があります。
5. [保存] をクリックします。

SMTP サービスが実行していない – イベント 6599 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: SMTP サービスが実行していません


イベント ID: 6599

概要: Microsoft SharePoint 2010 製品 は、アラートおよび他の SharePoint 2010 製品 管理メッセージを、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) メール サーバーを使用して送信します。SharePoint 2010 製品 が受信電子メールを受信するように構成されていると、SMTP サービスは電子メール メッセージをドロップ フォルダーに配信します。SharePoint タイマー ジョブは、ドロップ フォルダーをスキャンして、メッセージを SharePoint リストに挿入します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。


- SharePoint 2010 製品 が受信電子メールを受信しません。
- 一部のフロントエンド Web サーバーは受信電子メールを受信しますが、他のサーバーは受信しません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 6599 説明: Windows SMTP サービスへの接続中にエラーが発生しました。

原因: 受信電子メールの自動構成が有効になっていて、Windows SMTP サービスがインストールされていないサーバーがあるか、または Windows SMTP サービスが実行していないサーバーがあります。

 **メモ:**

SMTP サーバーは既定ではインストールされません。SMTP は、Windows Server 2008 R2 の [サーバー マネージャー] の [機能の概要] 領域を使用して追加できます。

解決策: サーバーの全体管理で送信電子メールの設定を構成します。

 **メモ:**

SMTP は SharePoint Server 2010 では既定でオフになっています。

サーバーの全体管理ホーム ページで、[システム設定] をクリックし、[電子メールとテキストメッセージ (SMS)] セクションで [送信メール設定の構成] をクリックします。

1. [送信メールの設定] ページの [メールの設定] セクションで、[送信 SMTP サーバー] ボックスに正しい SMTP サーバーを入力します。

解決策: SMTP サービスを有効にして構成します

- 記事「[IIS 7.0: SMTP 電子メールを構成する Configure SMTP E-mail \(IIS 7\)](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc772058(ws.10).aspx)」([http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc772058\(ws.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc772058(ws.10).aspx)) の手順を実行します。

解決策: SMTP サービスを開始します

メモ:

インターネット インフォメーション サービス (IIS) 6.0 マネージャーで、SMTP サーバーに接続します。

サーバー ノードを展開し、SharePoint 2010 製品 で使用する SMTP 仮想サーバーを探します。

1. 適切な仮想サーバーを右クリックし、**[開始]** をクリックします。

イベント ハンドラーが読み込みに失敗しました – イベント 6644 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: イベント ハンドラーが読み込みに失敗しました

イベント ID: 6644

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、イベント ハンドラーをイベント ホスト (サイト全体、リスト、ドキュメント ライブラリなど) にバインドできます。イベント ハンドラーをイベント ホストにバインドすると、ドキュメント ライブラリ イベントを使用してワークフロー プロセスなどの他のプロセスを開始できます。

現象: このイベントは、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6644 説明: イベント マネージャーのエラー: <エラー>

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- カスタムのイベント レシーバー アセンブリが見つからないか、破損している。
- SharePoint Server 2010 アセンブリが見つからないか、破損している。

解決策: 誤りのあるカスタムのイベント レシーバーの製造元に問い合わせる

- 誤りのあるアセンブリが破損していて、SharePoint Server 2010 アセンブリでない場合は、誤りのあるイベント レシーバー アセンブリの製造元に詳細を問い合わせてください。

解決策: 製品インストールを修復します。

- インストールを修復するには、サーバーを再起動する必要があります。Web アプリケーションの変更、およびその他の設定への変更は保持されます。

 **メモ:**

このタスクを実行するには、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーである必要があります。

Microsoft SharePoint Server 2010 のインストールを修復するには

1. コントロール パネルで、[プログラムと機能] を開きます。
2. 一覧から SharePoint Server 2010 のインストールを選択し、[変更] をクリックします。
3. SharePoint 製品構成ウィザード で、[修復] を選択し、[続行] をクリックします。
4. SharePoint 製品構成ウィザード で変更を完了した後で、イベント ハンドラー アセンブリが修復されたか、すべてのファーム サーバーから削除されたことを確認します。
5. イベント ハンドラーが呼び出される操作をもう一度実行します。これらのイベントが Windows イベント ログに表示されなくなります。

製品ヘルプ ライブラリのアクセス許可 - イベント 6769

アラート名: 製品ヘルプ ライブラリのアクセス許可

イベント ID: 6769

概要: Microsoft SharePoint Foundation では、ヘルプをユーザーに適切に表示するには、製品ヘルプ ライブラリに特定のアクセス許可を設定することが必要です。このイベント ID については、SCOM モニターがこのライブラリのアクセス許可の構成を監視します。製品ヘルプ ライブラリは、SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションにある製品ヘルプのサイトコレクションに置かれています。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- エンド ユーザーが製品ヘルプにアクセスできません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 6769 説明: 製品ヘルプ ライブラリのサイト コレクションに対するアクセス許可を更新できません。

原因: 製品ヘルプ ライブラリのサイト コレクションに対するアクセス許可の更新に問題があります。

解決策: アクセス許可をリセットします。

- Psconfig ジョブまたは Windows PowerShell コマンドレットを使用して、アクセス許可の構成をリセットします。

Psconfig ジョブを使用して、アクセス許可の構成をリセットするには

- コマンド プロンプト ウィンドウを開き、コマンド プロンプトで、「**psconfig -cmd helpcollections-install**」と入力します。

Windows PowerShell コマンドレットを使用して、アクセス許可の構成をリセットするには

- [スタート] ボタン、[すべてのプログラム]、[Microsoft SharePoint 2010 製品]、[SharePoint 2010 管理シェル] の順にクリックします。コマンド プロンプト ウィンドウが表示されます。
- Windows PowerShell コマンド「**Install-SPHelpCollection -All**」を入力します。

送信 SMTP サーバーの名前を解決できません – イベント 6856 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: 送信 SMTP サーバーの名前を解決できません

イベント ID: 6856

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 では、通知や他の管理メッセージの送信に SMTP メール サーバーを使用します。使用する SMTP サーバーを指定したら、SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトの [送信メールの設定] ページで、すべてのサイトを対象に、通知の送信と返信の受信に使用する電子メール アドレスを設定できます。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- SPUtility.SendEmail を使用して、電子メールを送信できません。
- 通知電子メール、確認電子メール、招待電子メール、クォータの超過を知らせる電子メールなど、電子メール メッセージを送信できません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6856 説明: SMTP ホスト <ホスト ID> の名前を解決できません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Microsoft SharePoint Foundation が SMTP ホストに接続できません。
- SharePoint Foundation 2010 が送信 SMTP サーバーの名前を解決できません。

この問題を解決するには、突き止めた原因に対応する解決策を利用してください。解決策の実行後、この資料の最後にある「電子メール通知の送信の確認」を参照し、機能が正しく動作することを確認します。

メモ:

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: SMTP サービスを開始して構成します。

1. インターネット インフォメーション サービス 6.0 マネージャー を起動し、ツリー ビューでサーバーの名前を展開します。
2. SharePoint Foundation で使用する SMTP 仮想サーバー (たとえば、既定の SMTP 仮想サーバー) を右クリックし、[開始] をクリックします。
3. 仮想サーバーを構成するには、仮想サーバーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [配信] タブで [送信セキュリティ] をクリックします。

5. **[送信のセキュリティ]** ダイアログ ボックスで、**[匿名アクセス]** または **[統合 Windows 認証]** のいずれかのオプションを選択します。**[統合 Windows 認証]** を選択する場合は、SharePoint Foundation サーバーの全体管理のアプリケーション プール アカウントが SMTP サービスへのアクセスを持つことを確認します。**[アカウント]** および **[パスワード]** チェック ボックスをオンにして、接続先コンピューターへのアクセスに使用する Windows アカウント名とパスワードを入力します。

解決策: サーバーの全体管理で送信電子メール設定を構成します。

1. **[サーバーの全体管理]** ページで、**[システム設定]** をクリックし、**[電子メール]** セクションの **[送信メール設定の構成]** をクリックします。
2. **[送信メールの設定]** ページの **[メールの設定]** セクションで、**[送信 SMTP サーバー]** ボックスに適切な SMTP サーバーを入力します。

電子メール通知の送信の確認

1. 種類に関係なく、何かのリストがある SharePoint Foundation Web サイトに移動します。
 2. リスト項目をクリックします。
 3. リストとリボンの項目をクリックし、**[Share & Track]** をクリックします。
 4. **[通知]** をクリックし、メニューから **[このアイテム]** を選択します。
 5. **[新しい通知]** ダイアログ ボックスの **[通知の送信先]** セクションで、**[ユーザー]** ボックスにアカウント名を入力します。
 6. その他の設定を確認し、**[OK]** をクリックします。
- 新しい通知が作成されたことを知らせる電子メール メッセージが、電子メール受信トレイに送信されます。

SMTP ホストに接続できません – イベント 6857

アラート名: SMTP ホストに接続できません

イベント ID: 6857

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 では、通知や他の管理メッセージの送信に SMTP メール サーバーを使用します。通知の送信に使用する SMTP サーバーを指定したら、SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトの [送信メールの設定] ページで、すべてのサイトを対象に、通知の送信と返信の受信に使用する電子メール アドレスを設定できます。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- SPUtility.SendEmail を使用して、電子メールを送信できません。
- 通知電子メール、確認電子メール、招待電子メール、クォータの超過を知らせる電子メールなど、電子メール メッセージを送信できません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6857 説明: SMTP ホスト <ホスト ID> の名前を解決できません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Microsoft SharePoint Foundation が SMTP ホストに接続できません。
- SharePoint Foundation が送信 SMTP サーバーの名前を解決できません。

メモ:

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: SMTP サービスを開始して構成します。

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) 6.0 マネージャーで、SMTP サーバーに接続します。
2. サーバー ノードを展開し、SharePoint Foundation で使用する SMTP 仮想サーバーを探します。
3. 適切な仮想サーバーを右クリックし、[開始] をクリックします。
4. 仮想サーバーを構成するには、仮想サーバーのプロパティを開きます。
5. [配信] タブで [送信セキュリティ] をクリックします。
6. [送信セキュリティ] ダイアログ ボックスで、[匿名アクセス] または [統合 Windows 認証] を選択します。[統合 Windows 認証] を選択する場合は、[アカウント] および [パスワード] チェック ボックスをオンにして、SharePoint Foundation サーバーの全体管理のアプリケーション プール アカウントが SMTP サーバーで確実に認証されるようにします。

解決策: サーバーの全体管理で、送信電子メール設定を構成します。

1. [サーバーの全体管理] ページで、[システム設定] をクリックし、[電子メール] セクションの [送信メール設定の構成] をクリックします。
2. [送信メールの設定] ページの [メールの設定] セクションで、[送信 SMTP サーバー] ボックスに適切な SMTP サーバーを入力します。

SMTP サーバーとの通信中にエラーが発生しました – イベント 6858 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: SMTP サーバーとの通信中にエラーが発生しました

イベント ID: 6858

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 では、通知や他の管理メッセージの送信に SMTP メール サーバーを使用します。通知の送信に使用する SMTP サーバーを指定したら、SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトの [送信メールの設定] ページで、すべてのサイトを対象に、通知の送信と返信の受信に使用する電子メール アドレスを設定できます。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- SPUtility.SendEmail を使用して、電子メールを送信できません。
- 通知電子メール、確認電子メール、招待電子メール、クォータの超過を知らせる電子メールなど、電子メール メッセージを送信できません。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 6858 説明: SMTP ホスト<ホスト ID> の名前を解決できません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- Microsoft SharePoint Foundation が SMTP ホストに接続できません。
- SharePoint Foundation が送信 SMTP サーバーの名前を解決できません。

この問題を解決するには、突き止めた原因に対応する解決策を利用してください。解決策の実行後、この記事の最後にある「電子メール通知の送信の確認」を参照し、機能が正しく動作することを確認します。

メモ:

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: SMTP サービスを開始して構成します。

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) 6.0 マネージャーで、SMTP サーバーに接続します。
2. サーバー ノードを展開し、SharePoint Foundation で使用する SMTP 仮想サーバーを探します。
3. 適切な仮想サーバーを右クリックし、[開始] をクリックします。
4. 仮想サーバーを構成するには、仮想サーバーのプロパティを開きます。
5. [配信] タブで [送信セキュリティ] をクリックします。

6. [送信セキュリティ] ダイアログ ボックスで、[匿名アクセス] または [統合 Windows 認証] を選択します。[統合 Windows 認証] を選択した場合は、[アカウント] および [パスワード] チェック ボックスをオンにして、Windows SharePoint Services サーバーの全体管理のアプリケーション プール アカウントが SMTP サーバーで確実に認証されるようにします。

解決策: サーバーの全体管理で、送信電子メール設定を構成します。

1. [サーバーの全体管理] ページで、[システム設定] をクリックし、[電子メール] セクションの [送信メール設定の構成] をクリックします。
2. [送信メールの設定] ページの [メールの設定] セクションで、[送信 SMTP サーバー] ボックスに適切な SMTP サーバーを入力します。

電子メール通知の送信の確認

1. 種類に関係なく、何かのリストがある SharePoint Foundation Web サイトに移動します。
 2. リスト項目をクリックします。
 3. リストとリボンの項目をクリックし、[Share & Track] をクリックします。
 4. [通知] をクリックし、メニューから [このアイテム] を選択します。
 5. [新しい通知] ダイアログ ボックスの [通知の送信先] セクションで、[ユーザー] ボックスにアカウント名を入力します。
 6. その他の設定を確認し、[OK] をクリックします。
- 新しい通知が作成されたことを知らせる電子メール メッセージが、電子メール受信トレイに送信されます。

SharePoint リストが電子メールを受信できない – イベント 6872 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: SharePoint リストが電子メールを受信できません

イベント ID: 6872

概要: Microsoft SharePoint 2010 製品の Incoming E-Mail Service は、SharePoint リストに追加する電子メール メッセージを処理します。このサービスは、Windows SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サービスがドロップ フォルダーに追加したメールを処理します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- SharePoint リストが受信メールを受け取らない。
- 受信メールを受け取る複数のリストに重複したアイテムが表示される。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 6872 説明: Incoming E-Mail Service がドロップ ディレクトリにアクセスできないか、または十分な権限を持っていません。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

1. SharePoint Timer Service に、ドロップ フォルダーに対する読み取り権限がありません。
2. 指定されているドロップ フォルダーが存在しません。
3. SharePoint Timer Service に、ドロップ フォルダーに対する書き込み権限がありません。

解決策: IIS でドロップ ディレクトリを構成する

- インターネット インフォメーション サービス (IIS) 6.0 マネージャー スナップインで、サーバー ノードを展開します。
- [SMTP Virtual Server] ノードで、[ドメイン] をダブルクリックします。
- ドメインを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- ドロップ ディレクトリの場所を記録します。ドロップ ディレクトリがない場合は作成します。
- このドロップ ディレクトリに対する権限を SharePoint Timer Service に付与します。

解決策: 受信メールの設定を構成する

- [サーバーの全体管理] ホーム ページで [システム設定] をクリックします。
- [システム設定] ページの [電子メールとテキスト メッセージ (SMS)] セクションで、[受信メール設定の構成] をクリックします。
- [受信メール設定の構成] ページで、[Directory Management Service] セクションの [詳細] オプションが選択されている場合は、前の手順で記録または作成したドロップ ディレクトリの場所を [電子メール ドロップ フォルダー] ボックスに入力して、[OK] をクリックします。

電子メール サービスが電子メールを配信できません – イベント 6873 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: 電子メール サービスが電子メールを配信できません

イベント ID: 6873

概要: Microsoft SharePoint 2010 製品の電子メール サービスは、SharePoint リストに挿入するように設定された電子メールを処理します。対象となるのは、Windows Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サービスによってドロップ フォルダーに追加されたメールです。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- SharePoint リストが電子メールを受信しません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 6599 説明: 受信メールの処理中にエラーが発生しました。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- 電子メールの受信者に対応する SharePoint リストがありません。
- 送信者が、SharePoint リストにコンテンツを追加できる権限を持っていません。

解決策: リストが電子メールを受信するように構成されているかどうかを確認します。

1. イベントに関する詳細情報に示されたリストで、[リスト] メニューの [リストの設定] をクリックします。
2. [リストの設定] ページの [通信] で、[受信メールの設定] をクリックします。
3. 次の点を確認します。
 4. 正しい電子メール アドレスが [電子メール アドレス] ボックスに入力されている。
 5. [このドキュメント ライブラリが電子メールを受信することを許可するか] で [はい] が選択されている。

解決策: 送信者に、受信リストへの適切な権限を付与します。

1. イベントに関する詳細情報に示されたリストで、[リスト] メニューの [リストの設定] をクリックします。
2. [リストの設定] ページの [権限と管理] で、[このリストに対する権限] をクリックします。
3. イベントに関する詳細情報に示されたユーザー アカウントが最低でもリストへの共同作成者の権限を持つことを確認します。

イベント レシーバーが失敗しました – イベント 6875 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: イベント レシーバーが失敗しました

イベント ID: 6875

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、イベント ハンドラーをイベント ホスト (サイト全体、リスト、ドキュメント ライブラリなど) にバインドできます。イベント ハンドラーをイベント ホストにバインドすることで、ドキュメント ライブラリ イベントを使用して、ワークフロー プロセスなどの別のプロセスを開始できます。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 6875 説明: <レシーバーの場所> のイベント レシーバー <レシーバー名> の読み込みおよび実行中にエラーが発生しました。詳細は以下を参照してください。<追加情報>

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- カスタム イベント レシーバー アセンブリが見つからないか、破損している。
- SharePoint Server 2010 アセンブリが見つからないか、破損している。

解決策: 問題のあるイベント レシーバーの製造元に問い合わせてください。

- 問題のあるアセンブリが破損していて、SharePoint Server 2010 アセンブリでない場合は、問題のあるイベント レシーバー アセンブリの製造元に詳細を問い合わせてください。

解決策: 製品のインストールを修復します。

- インストールを修復するには、サーバーを再起動する必要があります。Web アプリケーションの変更、およびその他の設定の変更は保持されます。

 **メモ:**

このタスクを実行するには、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーである必要があります。

SharePoint Server 2010 のインストールを修復するには

1. [コントロール パネル] で [プログラムと機能] を開きます。
2. 一覧から SharePoint Server 2010 のインストールを選択し、[変更] をクリックします。
3. SharePoint 製品構成ウィザードで、[修復] を選択して [続行] をクリックします。
4. SharePoint 製品構成ウィザードでの変更が完了した後、イベント ハンドラー アセンブリが修復されるか、すべてのファーム サーバーから削除されたことを確認します。
5. イベント ハンドラーをトリガーした操作をもう一度実行します。これらのイベントが Windows イベント ログに表示されなくなります。

サービス インスタンスの準備が失敗しました – イベント 7034 (SharePoint Server 2010)

アラート名: サービス インスタンスの準備が失敗しました

イベント ID: 7034

概要: サービス インスタンスの準備が失敗したため、ファームのサーバーでサービス インスタンスを開始または停止できませんでした。

現象: 次のイベントがイベント ログに記録される場合があります。イベント ID: 7034 **説明:** サーバー <サーバー名> でサービス <サービスの種類> のインスタンスを開始または停止できませんでした。指定されたサーバーで UI またはコマンド ラインを使用して処理を再実行してください。詳細は以下を参照してください。<詳細>

原因: 障害には複数の原因があります。詳細については、イベントの詳細を参照してください。

解決策: サービスを開始します

- このタスクを実行する前に、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認してください。
- サーバーの全体管理のホーム ページにある [システム設定] セクションで、[サーバーのサービスの管理] をクリックします。
- [サーバーのサービス] ページで [サーバー] ボックスの一覧からサーバーを選択します。
- [サーバーのサービス] ページで、サービスの行の [処理] 列にある [開始] をクリックします。

バックアップ タイマー ジョブを作成できません でした – イベント 7035 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: バックアップ タイマー ジョブを作成できませんでした

イベント ID: 7035

概要: Web アプリケーションをバックアップすると、サイト コレクション内のすべてのサイト、ドキュメント ライブラリ内のファイル、リストに添付されているファイル、セキュリティと権限の設定、機能の設定など、Web アプリケーションのコンテンツ データベースと設定がバックアップされます。バックアップを実行すると、このすべてのデータを含むファイルが作成されます。復元プロセスでは、これらのファイルを使用して、Web アプリケーションのコンテンツ データベースと設定を復元します。

同様に、サイト コレクション、サイト、またはリストをバックアップすると、これらの構造の内容はファイルまたはパッケージに書き込まれます。復元またはインポート プロセスは、これらのファイルを使用してオブジェクトを回復します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- サーバーの全体管理の [バックアップと復元のジョブ状態] ページまたは [バックアップ ジョブ状態の詳細] ページの [準備] セクションに、1 つ以上の警告通知が表示されます。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 7035 説明: 同じアイテムが既にバックアップまたは復元の処理中です。この処理の状況を確認するには、管理サイトの [バックアップと復元のジョブ状態] ページにアクセスしてください。

原因: 既存のバックアップ/復元タイマー ジョブが失敗したか完全に終了せず、SharePoint Timer Service または SharePoint Admin Service が開始していません。

SharePoint Timer Service または SharePoint Administration Service が実行していることを確認する

- 以下のサービスが開始していることを確認します。
 1. ファーム内のすべてのフロントエンド Web サーバーおよびアプリケーション サーバーで SharePoint Timer V4 Service が開始している必要があります。
 2. サーバーの全体管理 Web サイトを実行しているサーバーで、SharePoint Administration V4 Service が開始している必要があります。

解決策: 以前のバックアップまたは復元タイマー ジョブが正常終了していることを確認します。

- この処理を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
- サーバーの全体管理のホーム ページで、[バックアップと復元] をクリックします。
- [バックアップと復元] ページの [ファームのバックアップと復元] で、[バックアップと復元のジョブ状態の確認] をクリックします。

- [バックアップと復元のジョブ状態] ページの [準備] で、実行中のバックアップ ジョブまたは復元ジョブがないこと、Timer Service が実行中であること、および、Administration Service が実行中であることを確認します。
- ブラウザーの [戻る] ボタンをクリックします。
- [バックアップと復元] ページの [段階的なバックアップ] で、[バックアップ ジョブ状態の詳細の確認] をクリックします。
- [バックアップ ジョブ状態の詳細] ページの [準備] で、実行中のバックアップ ジョブがないこと、実行中のエクスポート ジョブがないこと、および、Timer Service が実行中であることを確認します。
- [サイト コレクションのバックアップ] セクションと [コンテンツ エクスポート] セクションで、現在のジョブの状態を確認します。

サーバーの全体管理の更新が失敗しました – イベント 7037 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: サーバーの全体管理の更新が失敗しました

イベント ID: 7037

概要: このエラーは、特定の URL のサーバーの全体管理を更新するための Microsoft SharePoint Server 2010 タイマー ジョブが作成されなかったか、サーバーの全体管理のローカル レジストリ ベースの URL が更新されなかったことを示します。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。


- サーバーの全体管理 Web サイトのローカル サーバー URL の設定が、構成されている設定と一致しません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 7037 説明: サーバーの全体管理の URL の場所 <URL> を更新するタイマー ジョブの作成中にエラーが発生しました。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- サーバーの全体管理の設定を更新するタイマー ジョブを作成できませんでした。このエラーは、構成オブジェクト作成時の構成データベースとの通信エラーが原因である可能性があります。
- レジストリ キーのアクセス許可の問題により、ローカル サーバーでサーバーの全体管理の URL のレジストリの場所を更新できませんでした。

解決策: レジストリ内の適切なハイブの場所へのアクセス許可を付与します。

- Local Administrators グループおよび Farm Administrators グループにサーバーの全体管理のローカル レジストリ ベースの URL に対するフル コントロール アクセス許可があることを確認します。

 **メモ:**

レジストリを正しく編集しないと、システムが正常に動作しなくなる場合があります。レジストリを変更する前に、コンピューター上の重要なデータのバックアップしてください。

1. [スタート] ボタン、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、「regedit」と入力して、[OK] をクリックします。
2. レジストリ エディターのツリー ビューで、次のレジストリ キーを探します。
`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Shared Tools\Web Server Extensions\14.0\WSS\CentralAdministrationURL`
3. レジストリ キーを右クリックし、[アクセス許可] をクリックします。
4. Administrators および WSS_ADMIN_WPG ローカル グループに、Allow Full Control アクセス許可が設定されていること、および Deny アクセス許可が設定されていないことを確認します。このレジストリ キーの他のグループまたはユーザー エントリのアクセス許可は、削除または変更しないでください。

解決策: サーバーの全体管理 Web サイト ポートの更新を再度実行します。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、以下のように入力します。


コードのコピー

```
Set-SPCentralAdministration -Port <Int32>
```

ここで、

6. <Int32> は新しいポート番号です。

詳細については、「[Set-SPCentralAdministration](#)」を参照してください。

 **メモ:**

コマンドライン管理タスクを実行するときには Windows PowerShell を使用することが推奨されています。Stsadm コマンドライン ツールは推奨されていませんが、製品の以前のバージョンとの互換性をサポートするために含まれています。

Secure Store の資格情報の再暗号化が失敗しました – イベント 7510 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Secure Store の資格情報の再暗号化が失敗しました

イベント ID: 7510

概要: Secure Store 資格情報データベースに格納される資格情報は、マスター キーを使用して暗号化されます。マスター キーが変更されると、システムは古いマスター キーを使用してデータベース内のデータの暗号化を解除し、新しいマスター キーを使用してデータを再び暗号化します。

古いマスター キーが有効ではない場合、または使用できない場合は、再暗号化処理が失敗します。データベースに格納されている資格情報は使用できなくなり、認証を Secure Store Service アプリケーションに依存するすべてのクライアント アプリケーションは失敗します。


現象: 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 7510 説明: Secure Store Service アプリケーション %name% でエラーが発生しました。資格情報の暗号化処理が失敗しました。“n” 個の資格情報が正しく暗号化されませんでした。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- マスター暗号化キーが有効ではありません。
- Secure Store データベースの暗号化中に障害が発生しました。
- Secure Store データベースが壊れています。

解決策: 新しい暗号化キーを作成します


1. 次に示す管理者の資格情報があることを確認します。
2. Secure Store Service の Service Application Administrator である必要があります。
3. サーバーの全体管理ホーム ページの [アプリケーション構成の管理] で、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [Secure Store] サービス アプリケーションをクリックします。
5. [キーの管理] グループで、[新しいキーの生成] をクリックします。
6. [新しいキーの生成] ページで、[パス フレーズ] ボックスにパス フレーズ文字列を入力し、[パス フレーズの確認入力] ボックスに同じ文字列を入力します。

 **重要:**

パスフレーズ文字列は、次の 4 つのうち 3 種類以上の要素を含んだ 8 文字以上の文字列である必要があります。

- 大文字
- 小文字
- 数字
- 次のいずれかの特殊文字

!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{|}~

 **ヒント:**

入力するパスフレーズは保存されません。パスフレーズをメモしておき、安全な場所に保管してください。このパスフレーズは、サーバーファームに新しいアプリケーションサーバーを追加するときなど、キーを更新する場合に必要になります。

7. [OK] をクリックします。

解決策: Secure Store データベースを復元します

- Secure Store Service を復元するには、SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトまたは Windows PowerShell を使用します。詳細については、「[Restore the Secure Store service \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

Secure Store がマスター暗号化キーを取得できません - イベント 7535

アラート名: Secure Store がマスター暗号化キーを取得できません

イベント ID: 7535

概要: Secure Store Service アプリケーションがマスター暗号化キーを取得できません。このサービスは、ユーザー ID とパスワードを Secure Store データベースに格納する前の暗号化処理と、そのデータがクライアントから要求されたときの解読処理にマスター キーを使用します。

マスター暗号化キーを取得できないと、Secure Store データベース内の資格情報は解読できないため利用できません。その場合、Secure Store データベースに依存するクライアント アプリケーションはユーザーを認証できません。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 7535 説明: Secure Store Service アプリケーション %name% でデータベース例外によるエラーが発生しました。

原因: 次のうち 1 つまたは複数の問題が原因である可能性があります。

- Secure Store Service アプリケーションの作成後にマスター暗号化キーが生成されていません。
- マスター暗号化キーが削除されました。
- Secure Store データベースが破損しています。

解決策: マスター暗号化キーを作成します。

- マスター暗号化キーが生成されていない場合や削除された場合は、マスター暗号化キーを作成します。

マスター暗号化キーが生成されたかどうか確認するには:

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーション] ページで、Secure Store Service アプリケーションをクリックします。
5. エラー ページが表示される場合、マスター暗号化キーは生成されていません。後述の「マスター暗号化キーを作成するには」に示す手順に従って作成してください。

また別のエラー ページが表示される場合は、後述の「マスター暗号化キーの情報を最新の状態に更新するには」に示す手順でキーを更新してみてください。

マスター暗号化キーを作成するには:


1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Secure Store Service インスタンスのサービス アプリケーション管理者であることを確認します。
2. Secure Store Service アプリケーションのインスタンスをクリックします。
3. リボンの **[新しいキーの生成]** をクリックします。
4. **[新しいキーの生成]** ページで、**[パス フレーズ]** ボックスにパスフレーズ文字列を入力し、**[パス フレーズの確認入力]** ボックスに同じ文字列を入力します。

 **重要:**

パスフレーズ文字列は、次の 4 つのうち 3 種類以上の要素を含んだ 8 文字以上の文字列である必要があります。

- 大文字
- 小文字
- 数字
- 次のいずれかの特殊文字:

“! ” # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

 **ヒント:**

入力するパスフレーズは保存されません。安全な場所にメモを保管しておいてください。このパスフレーズは、サーバー ファームに新しいアプリケーション サーバーを追加するときなど、キーを更新する場合に必要になります。

- **[OK]** をクリックします。
マスター暗号化キーの情報を最新の状態に更新するには:
- この手順を実行しているユーザー アカウントが Secure Store Service インスタンスのサービス アプリケーション管理者であることを確認します。
- Secure Store Service アプリケーションのインスタンスをクリックします。
- リボンの **[キーの更新]** をクリックします。
- **[キーの更新]** ページで、**[パス フレーズ]** ボックスにパスフレーズ文字列を入力し、**[OK]** をクリックします。

重要:

パスフレーズ文字列は、次の 4 つのうち 3 種類以上の要素を含んだ 8 文字以上の文字列である必要があります。

- 大文字
- 小文字
- 数字
- 次のいずれかの特殊文字:

“! ” # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

ヒント:

入力するパスフレーズは保存されません。安全な場所にメモを保管しておいてください。このパスフレーズは、サーバー ファームに新しいアプリケーション サーバーを追加するときなど、キーを更新する場合に必要になります。

- [OK] をクリックします。

サーバーの全体管理を使用して Secure Store Service を復元するには

- Secure Store データベースが破損した場合には、バックアップからデータベースを復元します。復元操作が正常に完了した後で、パスフレーズを更新する必要があります。

メモ:

構成専用のバックアップを使用して Secure Store Service を復元することはできません。

Secure Store データベースを復元するには:

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページの [バックアップと復元] セクションで、[バックアップからの復元] をクリックします。
3. [バックアップからの復元 - ステップ 1/3: 復元するバックアップの選択] ページで、直近のファームレベル バックアップを含んだバックアップ ジョブを選択し、[次へ] をクリックします。それぞれのバックアップの詳細な情報は、横にあるプラス記号 (+) をクリックすることで確認できます。

メモ:

使用するバックアップ ジョブが表示されない場合は、正しいバックアップを含んでいるフォルダーのパスを [バックアップ ディレクトリの場所] ボックスに入力し、[更新] をクリックします。

4. [バックアップからの復元 - ステップ 2/3: 復元するコンポーネントの選択] ページで、[共有サービス アプリケーション] を展開し、Secure Store Service アプリケーションの横にあるチェック ボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。
5. [バックアップからの復元 - ステップ 3/3: 復元オプションの選択] ページの [復元するコンポーネント] セクションで、[復元対象のコンポーネント] ボックスに [ファーム¥共有サ

サービス共有サービス アプリケーション<Secure Store Service 名>と表示されていることを確認します。

6. [復元オプション] セクションの [復元の種類] で、[同じ構成] をクリックします。
7. 操作を実行するかどうかの確認を求めるダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。
8. [復元の開始] をクリックします。

[バックアップと復元のジョブ状態] ページの上部にある [準備] セクションで、すべての復旧ジョブの全般的な状態を確認できます。現在の復旧ジョブの状態は、このページの下部にある [復元] セクションで確認できます。この状態ページは 30 秒ごとに自動的に更新されます。また、[更新] をクリックすることで、手動で状態を更新できます。バックアップと復旧は Timer Service ジョブです。したがって、復旧が開始されるまで数秒かかる場合があります。

エラーが表示された場合は、[バックアップと復元のジョブ状態] ページの [エラー メッセージ] 列を確認します。手順 3. で指定したパスにある Sprestore.log を表示すると、より詳細な情報を確認できます。

パスフレーズを更新するには:

1. [サーバーの全体管理] ホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [サービス アプリケーション] ページで、Secure Store Service のインスタンスをクリックします。“マスター キーを取得できません” というエラーが表示される場合があります。
3. Secure Store Service ページのリボンで、[キーの更新] をクリックします。
4. [キーの更新] ダイアログ ボックスで、[パス フレーズ] ボックスにパスフレーズを入力して、[OK] をクリックします。

Secure Store の SQL 例外 – イベント 7551 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Secure Store SQL の例外

イベント ID: 7551

概要: Secure Store Service アプリケーションは、資格情報を読み書きするために資格情報データベースに接続します。サービス アプリケーションがデータベースに接続できないと、このイベントがログに記録されます。SQL Server 例外はすぐにはログに書き込まれません。システムは、データベースへのサービス アプリケーションの接続を 3 回試してから、エラーを記録します。これは、予期しないことではあっても一時的なシステム障害によって SQL Server 例外が発生する可能性もあるためです。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 7551 説明: Secure Store Service アプリケーション %name% がデータベース例外のためにエラー終了しました。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- データベース サーバーがダウンしているか、またはネットワークの問題のためにアクセスできません。
- Secure Store Service アプリケーションのデータベース接続情報が正しくありません。
- Secure Store Service アプリケーションのメタデータ データベースが正しく準備されていません。

解決策: Secure Store Service アプリケーション サーバーが使用できることを確認します

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページにある [システム設定] で、[サーバーのサービスの管理] をクリックします。
3. [サーバーのサービス] ページの [サービス] で、Secure Store Service が開始していない場合は [開始] をクリックします。
4. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
5. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
6. [サービス アプリケーション] ページで、Secure Store Service アプリケーションが開始されていることを確認し、[Secure Store] をクリックします。
7. [Secure Store Service アプリケーション] ページで、少なくとも 1 つのターゲット アプリケーションが一覧に表示されることを確認します。
8. Secure Store Service アプリケーションが開始しない場合は、以下の操作を行います。
 - a) [サービス アプリケーション] ページで、Secure Store Service アプリケーションの名前を選択し、リボンの [プロパティ] をクリックします。

- b) **[プロパティの編集]** ダイアログ ボックスの **[データベース]** セクションで、使用されている認証方法が正しく、アカウント（一覧にある場合）にデータベースの読み取りおよび書き込みアクセス許可があることを確認します。
 - c) **[アプリケーション プール]** セクションで、アプリケーション プール アカウント（一覧にある場合）にアプリケーション プールを実行するための十分な権限があることを確認します。
9. **[アプリケーション構成の管理]** ページの **[サービス アプリケーション]** セクションで、**[サービス アプリケーションの管理]** をクリックします。
 10. **[サービス アプリケーション]** ページで、**[Secure Store Service アプリケーション]** を選択します。
 11. リボンの **[プロパティ]** をクリックします。
 12. データベース サーバー名および他の接続プロパティが正しいことを確認します。

Secure Store プロキシの予期しない例外 – イベント 7557 (SharePoint Server 2010)

アラート名: Secure Store プロキシの予期しない例外

イベント ID: 7557

概要: フロントエンド Web サーバーは、クライアントコンピューターから要求を受信すると、ロード バランサー経由でその要求を Microsoft SharePoint Server 2010 アプリケーション サーバーヘルレーティングします。ロード バランサーは、サービス アプリケーションごとに使用可能サーバーのリストを保持しています。アプリケーション サーバー上の Secure Store Service アプリケーションが応答しないと、ロード バランサーは、使用可能サーバーのリストからそのアプリケーション サーバーを削除し、このイベントを発生させます。

Secure Store Service アプリケーションが複数の Microsoft SharePoint Server 2010 アプリケーション サーバーで有効になっている場合には、クライアントコンピューターへの影響はありません。このサービスが複数のアプリケーション サーバーで有効になっていない場合、Secure Store 資格情報データベースに依存してユーザーの認証を行っているクライアントコンピューターは認証に失敗します。

現象: イベント ログに次にイベントが記録されます。イベント ID: 7557 説明: Secure Store Service アプリケーション <名前> にアクセスできません。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- アプリケーション サーバーがダウンしているか、ネットワークの問題が原因でアクセスできなくなっています。
- Secure Store Service アプリケーションが正しく準備されていません。

解決策: Secure Store アプリケーション サーバーが使用可能であることを確認します

1. この手順を実行するユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページにある [システム設定] で、[サーバーのサービスの管理] をクリックします。
3. [サーバーのサービス] ページの [サービス] で、Secure Store Service が開始していない場合は [開始] をクリックします。
4. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
5. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
6. [サービス アプリケーション] ページで、[Secure Store Service] をクリックします。
7. [Secure Store Service アプリケーション] ページで、少なくとも 1 つのターゲット アプリケーションが一覧に表示されることを確認します。
8. Secure Store Service アプリケーションが開始しない場合は、以下の操作を行います。

- a) [サービス アプリケーション] ページで、Secure Store Service アプリケーションの名前を選択し、リボンの [プロパティ] をクリックします。
- b) [プロパティの編集] ダイアログ ボックスの [データベース] セクションで、使用されている認証方法が正しく、アカウント (一覧にある場合) にデータベースの読み取りおよび書き込みアクセス許可があることを確認します。
- c) [アプリケーション プール] セクションで、アプリケーション プール アカウント (一覧にある場合) にアプリケーション プールを実行するための十分な権限があることを確認します。

調整開始アラート - イベント 8032、8062

アラート名: SPServer は調整を開始しました

イベント ID: 8032 または 8062

概要: Microsoft SharePoint Foundation 2010 では、優先順位が高いサーバー ジョブのために使用するリソースが不足することがないように、フロントエンド Web 調整機能が導入されています。サーバーのパフォーマンス カウンターを監視し、カウンターの値が定義済みのしきい値を超えるか、しきい値未満になると、503 エラー メッセージを返すことにより、優先順位が低いジョブを拒否するようになります。

現象: 次の現象が発生する可能性があります。

- ユーザーのブラウザーに、現在サーバーはビジー状態であり、後で操作をやり直すように指示する 503 エラーが表示されます。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8032 説明: <サーバー名> で大きな負荷が検出されたため、HTTP 調整機能を開始します。次のようなパフォーマンス カウンターが過剰になっています: <パフォーマンス カウンター名>
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8062 説明: 大きな負荷が検出されなくなったので、<サーバー名> の HTTP 調整機能を停止します。調整期間中に、<要求数> 個の要求が調整されました。

原因: CPU 使用率、使用可能なメモリ、ASP.NET キューの長さ、および ASP.NET キューの待ち時間が、フロントエンド Web サーバーの定義済みのしきい値を超えたか、しきい値未満になりました。

解決策: 調整しきい値を変更します。


1. [スタート] ボタン、[すべてのプログラム]、[Microsoft SharePoint 2010 製品]、[SharePoint 2010 管理シェル] の順にクリックします。コマンド プロンプト ウィンドウが表示されます。
2. 次の Windows PowerShell コマンドを入力して、パフォーマンス カウンターのしきい値を表示します。
Disable-SPWebApplicationHttpThrottling URL
3. 次のコマンドを入力して、パフォーマンス カウンターのしきい値の現在の設定を取得します。
Get-SPWebApplicationHttpThrottlingMonitors URL
4. しきい値を確認し、現在の値を変更して制限を緩和する必要があるかどうかを判断します。たとえば、次の Windows PowerShell コマンドを使用して、CPU パーセンテージのしきい値を 75 パーセントに設定できます。

```
Set-SPWebApplicationHttpThrottlingMonitor URL -Category Processor -Counter "% Processor Time" -instance _Total -Max 75
```

解決策: 調整機能を無効にします。

1. SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [Web アプリケーションの管理] をクリックします。

2. リボンの [Web アプリケーション] タブで、[全般設定] をクリックし、[リソースの調整] を選択して HTTP 調整機能を無効にします。

 **メモ:**

調整機能を無効にすると、作業負荷が高いときに、優先順位が高いジョブのために使用するリソースが不足する可能性があります。したがって、調整機能を無効にすることは、通常、お勧めできません。

解決策: ハードウェアをアップグレードします。

- 容量計画を見直します。どのような理由で調整機能が開始されたかに応じて、対応策として、さまざまな操作を実行できます。
 1. メモリを追加します。
 2. CPU をアップグレードします。
 3. フロントエンド Web サーバーをアップグレードします。
 4. フロントエンド Web サーバーを追加します。
 5. SQL Server ホスト サーバーをアップグレードします。

エンド ポイントを取得できません - イベント 8070

アラート名: エンド ポイントを取得できません

イベント ID: 8070

概要: アプリケーションの検出および Load Balancer Service アプリケーションで、リモート ファームからサービス アプリケーション用のエンド ポイントのリストを取得できません。

現象: このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8070 **説明:** GetEndPoints を呼び出そうとして例外が発生しました: <エンド ポイント名>.

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- このファームには、リモート ファームに接続する権限がありません。
- ネットワーク エラーまたは接続の問題によって、この操作が失敗します。

メモ:

次のタスクを実行するには、サーバーの全体管理サイトで SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: リモート ファームに接続する権限がこのファームにあることを確認します。

- リモート ファームの管理者に問い合わせ、次の状態になっていることを確認します。
 - このファームが、信頼済みのファームとしてリモート ファームに追加されています。
 - このファームのサービス アカウントには、リモート ファームのトポロジ サービスにアクセスできる権限があります。
- リモート ファームが、このファームの信頼済みのファームとして追加されていることを確認します。
- 2 つのサーバー ファームの間の信頼を確立するには、**New-SPTtrustedRootAuthority** Windows PowerShell コマンドを使用して、各ファームで、他のファームのパブリック ルート証明書が信頼済みのルート証明機関のリストに追加される必要があります。詳細については、「[New-SPTtrustedRootAuthority](#)」を参照してください。

解決策: リモート ファームへの接続に関してネットワークの問題がないことを確認します。

- ping コマンドを使用して、リモート ファームのサーバーを使用できることを確認します。
- リモート ファームの管理者に問い合わせ、そのファームで接続の問題がないことを確認します。

リモート ファームからサービス アプリケーション の一覧を取得できません - イベント 8071 (SharePoint Server 2010)

アラート名: リモート ファームからサービス アプリケーションの一覧を取得できません

イベント ID: 8071

概要: アプリケーション ロード バランサーおよびトポロジ サービスは、リモート ファームから発行済みのサービス アプリケーションの一覧を取得できません。


現象: イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 8071 説明:
EnumerateSharedServiceApplications を呼び出そうとしたときに例外が発生しました: <例外>。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- このファームのファーム サービス アカウントに、リモート ファームに接続する権限がありません。
- ネットワーク エラーまたは接続の問題によって、この操作が失敗しています。

解決策: リモート ファームに対する十分な権限がファームにあることを確認します

- リモート ファームの管理者に問い合わせ、次のことを確認します。
 - このファームが、信頼済みのファームとしてリモート ファームに追加されています。
 - このファームのサービス アカウントには、リモート ファームのトポロジ サービスにアクセスできる権限があります。
 - リモート ファームが、このファームの信頼済みのファームとして追加されています。

 ヒント:

2 つのサーバー ファームの間の信頼を確立するには、両方のファームの管理者が **New-SPTTrustedRootAuthorityWindows PowerShell** コマンドレットを使用して、他のファームのパブリック ルート証明書を信頼済みのルート証明機関のリストに追加する必要があります。

解決策: ネットワークに問題がないことを確認します

- ping コマンドを使用して、リモート ファームのサーバーを使用できることを確認します。リモート ファームの管理者に、こちらのファームのサーバーに対して ping を実行するよう依頼します。

 **メモ:**

リモート ファームの管理者に問い合わせ、そのファームで接続の問題がないことを確認します。

ログ フォルダーが存在しない – イベント 8074 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: ログ フォルダーが存在しません

イベント ID: 8074

概要: エラー メッセージで指定されているログ フォルダーが存在しないか、またはアクセスできません。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 8074 **説明:** サーバー <サーバー名> のディレクトリ <ディレクトリ名> にアクセスできません。このディレクトリが存在すること、およびアカウント <ドメイン>\<ユーザー名> がこのディレクトリにアクセスできることを確認してください。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- フォルダーが存在しません。
- SharePoint 2010 トレース サービス (SPTraceV4) アカウントに、このフォルダーを読み書きするためのアクセス許可がありません。

解決策: 利用状況ログ フォルダーがあることを確認します。

- イベントで示されているサーバーにログオンします。
- イベントで示されているフォルダーに移動します。
- フォルダーが存在しない場合、フォルダーを作成します。
- SharePoint 2010 トレース サービス (SPTraceV4) アカウントにフォルダーの読み取り、書き込み、および削除のアクセス許可があることを確認します。

利用状況タイマー ジョブが失敗する – イベント 8075 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: 利用状況タイマー ジョブが失敗しました

イベント ID: 8075

概要: 利用状況データの処理タイマー ジョブが失敗しました。

現象: 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8075 **説明:** 利用状況データの処理タイマー ジョブが失敗しました。SharePoint サーバーの全体管理サイトの [タイマー ジョブの状態] ページを使用して、このジョブを再実行できます。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- 利用状況のログが有効になっていません。
- ファーム サービス アカウントに、ログ フォルダーに対する十分なアクセス許可がありません。
- ログ フォルダーが存在するディスクに空きがありません。
- ログ データベースが存在しないか、またはログ データベースに書き込むことができません。
- ファーム サーバーとデータベース サーバーの間のネットワークに問題があります。

解決策: 利用状況ログがファーム内のすべてのサーバーで動作していることを確認します

1. この処理を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理ホーム ページで、[システム設定] の [このファームのサーバーの管理] をクリックします。
3. [ファーム サーバー] ページの [サーバー] セクションで、ファーム内にあるすべてのサーバーの名前を記録します。
4. ファームの各サーバーで以下を行います。Services スナップインで、SharePoint 2010 トレース サービス (SPTraceV4) サービスが有効であり、開始していることを確認します。開始していない場合は開始します。
5. [ログオン] タブで、各サービスの実行アカウントを記録します。

解決策: 利用状況ログ フォルダーが存在することを確認します

1. イベントで示されているサーバーにログオンします。
2. イベントで示されているフォルダーに移動します。
3. フォルダーが存在しない場合、フォルダーを作成します。
4. SharePoint 2010 トレース サービス (SPTraceV4) の実行アカウントにフォルダーの読み取り、書き込み、および削除のアクセス許可があることを確認します。

解決策: ログ データベースが存在することを確認します

- この処理を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
- サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
- **[監視]** ページの **[レポート]** セクションで **[Usage and Health data collection の構成]** をクリックします。
- **[Web Analytics と正常性データの収集の構成]** ページの **[利用状況データの収集の設定]** セクションで、**[ログ ファイルの場所]** ボックスに表示されているログ フォルダのサーバーと場所を記録します。
- **[ログ データベース サーバー]** セクションで、**[データベース サーバー]** ボックスと **[データベース名]** ボックスに表示されているログ データベースの場所を記録します。
- SQL Server Management Studio で、データベース サーバーに接続します。
- **[データベース]** ノードを展開し、データベースが存在していてオンラインになっていることを確認します。

解決策: タイマー ジョブを再実行します

- この処理を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
- サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
- **[監視]** ページの **[レポート]** セクションで **[Usage and Health data collection の構成]** をクリックします。
- **[ジョブの定義]** ページで、**[Microsoft SharePoint Foundation 利用状況データの処理]** タイマー ジョブをクリックします。
- **[タイマー ジョブの編集]** ページで、**[今すぐ実行]** をクリックします。

Business Data Connectivity Service – BDC データベース アダプター接続例外 – イベント 8080 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Business Data Connectivity Service – BDC データベース アダプター接続例外
イベント ID: 8080

概要: Business Data Connectivity Service ランタイムは、サービス アプリケーション モデルで定義されたメタデータを読み取り、外部データ ソースとの接続を確立し、どの操作の場合もアプリケーション モデルで定義されている該当のメソッドを呼び出します。データベースに対してこの接続が確立できない場合は、このイベントがログに記録されます。クライアント アプリケーションによって起動された操作は実行されず、表示されるデータが最新のものでない可能性があります。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます。イベント ID: 8080 説明: BDC Service アプリケーション %1 は %2 を使用して接続を開始できませんでした。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。


- Business Data Connectivity Service アプリケーション モデルには、外部データ ソースに対する正しい接続プロパティがありません。
- 外部データ ソースが現在機能していず、応答しません。

メモ:

次の手順を実行するには、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーである必要があります。

解決策: 外部データ ソースの接続プロパティが正しいことを確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、[Business Data Connectivity Service アプリケーション] を選択します。
4. [編集] タブの [表示] グループで、[外部システム] をクリックします。
5. インスタンスを表示する外部システムをクリックします。

 ヒント:

既定では、構成できる外部システムのインスタンスは、データベースと Web サービスのみです。

6. 外部システム名を選択します。
7. 設定内容を編集または確認します。

データベース外部システムの構成で利用できる設定の詳細については、「[外部システムのインスタンスを構成する](#)」を参照してください。BDC モデルの管理の詳細については、「[Manage BDC models](#)」を参照してください。

解決策: 外部データソースへのネットワーク接続が動作することを確認します

- アプリケーション サーバーでコマンド プロンプト ウィンドウを開き、「PING<サーバー名>」と入力します。<サーバー名> は、外部データソースをホストするデータベース サーバーです。

Business Data Connectivity Service – BDC Web サービス プロキシ生成例外 – イベント 8082 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Business Data Connectivity Service – BDC Web サービス プロキシ生成例外
イベント ID: 8082

概要: Web サービスを操作する際に、Business Data Connectivity Service は、最初にプロキシを取得してから、アプリケーション モデルに定義されたメタデータに基づいて適切なメソッドを呼び出します。このイベントは、Business Data Connectivity Service が Web サービスへのプロキシを取得するのに失敗した場合に記録されます。この状態は、クライアント コンピューターと外部データソースとのデータ同期に影響します。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 8082 **説明:** Business Data Connectivity Service は外部データソース '% ExternalDataSourceName %' の Web サービスへのプロキシを取得できませんでした。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。


- Business Data Connectivity Service アプリケーション モデルには、外部データ ソースに対する正しい接続プロパティがありません。
- 外部データ ソースがダウンし、応答しない状態にあります。

メモ:

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: アプリケーション モデルに定義された外部データ ソース接続プロパティが正しいことを確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、[Business Data Connectivity Service アプリケーション] を選択します。
4. [編集] タブの [表示] グループで、[外部システム] をクリックします。

 ヒント:

既定で構成できる外部システムの種類は、Web サービスのみです。既定で構成できる外部システムの種類は、データベースと Web サービスのみです。

5. 目的の外部システムをポイントし、表示された矢印をクリックしてから、[設定] をクリックします。
6. 設定内容を編集または確認します。

外部データ ソースの構成と管理の詳細については、記事「外部システムを管理する (SharePoint Foundation 2010)」の「[外部システムのインスタンスを構成する](#)」を参照してください。BDC モデルの管理の詳細については、「[BDC モデルを管理する \(SharePoint Foundation 2010\)](#)」を参照してください。

解決策: 外部データ ソースがアクセス可能であることを確認します

- アプリケーションのサーバーからデータベース サーバーへの ping を実行し、ネットワーク上でサーバー間の通信ができることを確認します。

Business Data Connectivity Service – BDC プロキシの予期しない例外 – イベント 8085 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Business Data Connectivity Service – BDC プロキシの予期しない例外

イベント ID: 8085

概要: Web サーバーは、クライアント コンピューターから要求を受信すると、ロード バランサーを経由してアプリケーション サーバーに要求をルーティングします。ロード バランサーは、特定のサービス アプリケーションに対して使用可能なサーバーのリストを保持しています。アプリケーション サーバーの Business Data Connectivity Service アプリケーションが応答しない場合、ロード バランサーは使用可能なサーバーのリストからそのアプリケーション サーバーを削除し、このイベントをログに記録します。

Business Data Connectivity Service アプリケーションが複数のアプリケーション サーバーで有効になっている場合は、クライアント コンピューターに影響がない可能性があります。サーバー アプリケーションが有効になっているアプリケーション サーバーが 1 つだけの場合は、Business Data Connectivity メタデータ ストアのメタデータに依存するクライアント コンピューターは、メタデータで定義されている外部データ ソースのデータを読み書きできなくなります。ロード バランサーは、サービス アプリケーションに対して定期的に ping を実行し、応答するようになったら自動的にリストに追加します。

現象: クライアント コンピューターは外部データ ソースのデータを読み書きできなくなります。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- アプリケーション サーバーにアクセスできないか、または Business Data Connectivity Service アプリケーション モデルに外部データ ソースに対する正しい接続プロパティがありません。
- 外部データ ソースが現在機能していず、応答しません。

メモ:

以下の操作を行うには、SharePoint のファームの管理者グループのメンバーである必要があります。

解決策: アプリケーション サーバーが使用できることを確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページの [システム設定] セクションで、[このファームのサーバーの管理] をクリックします。
2. [ファーム サーバー] ページで、Business Data Connectivity Service が実行しているサーバーの状態が [対処は不要です] であることを確認します。

解決策: Business Data Connectivity Service アプリケーションが正しく準備されていることを確認します

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、[Business Data Connectivity Service アプリケーション] を探し、[状態] 列でサービス プロキシの状態が [開始済み] であることを確認します。

Business Data Connectivity Service – SQL 例外 – イベント 8086 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Business Data Connectivity Service – SQL 例外

イベント ID: 8086

概要: Business Data Connectivity Service アプリケーションは、ユーザーがメタデータ ストア内のメタデータを管理できるようにするためにメタデータ ストアに接続します。このイベントは、サービス アプリケーションがデータベースへの接続に失敗したときに記録されます。メタデータ ストア内の Business Data Connectivity メタデータにはアクセスできません。これは、SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトの [Business Data Connectivity Service アプリケーション プロキシ] ページを使用して行うアプリケーション モデルのインポートとエクスポート、または Business Data Connectivity のプロパティの更新に影響します。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 8086 説明: BDC サービス アプリケーション %name% でデータベース例外によるエラーが発生しました。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- メタデータ データベース サーバーがダウンしているか、ネットワークの問題が原因でアクセスできない状態にあります。
- Business Data Connectivity Service アプリケーション メタデータ データベース用の接続情報が正しくありません。
- Business Data Connectivity Service アプリケーション メタデータ データベースが正しく準備されていません。

解決策: **メタデータ データベース サーバーが使用できることを確認します**

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] をクリックします。
3. [アプリケーション構成の管理] ページの [サービス アプリケーション] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
4. [サービス アプリケーションの管理] ページで、[Business Data Connectivity Service アプリケーション] を選択し、リボンの [プロパティ] をクリックします。
5. プロパティ ページの一覧に含まれるデータベースが使用可能であり、SharePoint 2010 製品 から接続できることを確認します。

ULS トレース ログのサイズが制限に達しようとしています – イベント 8094 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: ULS トレース ログのサイズが制限に達しようとしています

イベント ID: 8094

概要: SharePoint 2010 Tracing Service (SPTracev4) は、トレース メッセージの出力を管理するために Microsoft SharePoint Foundation 2010 で使用されます。トレース ログを有効にするときに、管理者はトレース ログ ファイルを格納するために使用されるパスを指定できます。このログ ファイルは、SharePoint Foundation 2010 の上に構築された多くのアプリケーションによって使用されます。このイベントは、ログ ファイルを格納する場所の空き容量が少ないときに発生します。空き容量を増やすか、ログ用に割り当てる容量を増やさないと、ログが停止する可能性があることを、このイベントは警告しています。

現象: 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8094 説明: トレース ログの記憶域サイズが、構成された制限値 [構成された制限値] に達しようとしています。最大記憶域サイズの設定値を大きくしてください。大きくしないと、制限値に達したときに古いファイルが削除されます。

原因: ログ ファイルを格納する場所として構成されているディスクの空き容量が不足しているか、ログ用に割り当てられている最大容量が少なすぎます。

解決策: ログ ファイルの容量制限を増やします。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[レポート]** セクションで、**[診断ログの構成]** をクリックします。
4. **[トレース ログ]** セクションの **[トレース ログの保存容量の最大値 (GB)]** ボックスに、ログ ファイルに割り当てるサイズを GB 単位で入力します。ログ ファイルがこのサイズに達すると、古いログ ファイルが自動的に削除されます。
5. **[OK]** をクリックします。

解決策: ログ ファイルの場所を変更します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[レポート]** セクションで、**[診断ログの構成]** をクリックします。
4. **[トレース ログ]** セクションの **[パス]** ボックスに、ログ ファイルを格納する新しい場所として、ディスク容量が十分にあるドライブまたはパーティションを入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

解決策: ディスクの空き容量を増やします。

1. ディスク クリーンアップ ツールを使用して、トレース ログ ファイルが格納されているディスクの空き領域を増やします。
2. トレース サービスに、ログ ファイルへの書き込みを行うための十分なディスクの空き領域があることを確認します。
3. トレース ログ サービスで、ログ ファイルへの書き込みを行うためのディスクの空き領域が不足している場合は、ドライブ上の Temp フォルダの内容を削除します。

ULS 利用状況ログのサイズが上限に近づいています – イベント 8095

アラート名: ULS 利用状況ログのサイズが上限に近づいています

イベント ID: 8095

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、ログ出力の管理に SharePoint 2010 Tracing Service (SPTracev4) が使用されます。利用状況ログの記録が有効になっている場合、管理者は、利用状況ログ ファイルの保存に使用するパスを指定できます。このログ ファイルは SharePoint Server 2010 に内蔵されている多くのアプリケーションで使用されます。このイベントは、ログ ファイル用に構成した場所の空き容量が少なくなると発生します。まもなくログが記録されなくなる可能性があり、それを防ぐにはより多くの空き容量を確保するか、ログ用に割り当てた容量を増やすかの対応が必要であることを示す警告として機能します。

現象: イベント ログに次のイベントが記録されます: イベント ID: 8095 **説明:** 利用状況ログの記憶域サイズが、構成された制限値 (<構成値>) に達しようとしています。最大記憶域サイズの設定値を大きくしてください。大きくしないと、制限値に達したときに古いファイルが削除されます。

原因: ログ ファイル用に構成した場所のディスク空き容量が足りないか、または、ログ用に割り当てた容量の上限値が低すぎます。

解決策: ログ ファイルの容量制限を引き上げます。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[レポート]** セクションで **[Usage and Health data collection の構成]** をクリックします。
4. **[Web Analytics と正常性データの収集の構成]** ページの **[利用状況データの収集の設定]** セクションで、ログ ファイル用に割り当てる容量として現在よりも大きい値 (GB 単位) を入力します。ディスク上のログ ファイルがこのサイズに到達すると、古いログ ファイルが自動的に削除されます。
5. **[OK]** をクリックします。

解決策: ログ ファイルの場所を変更します。

1. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
2. **[レポート]** セクションで **[Usage and Health data collection の構成]** をクリックします。
3. **[Web Analytics と正常性データの収集の構成]** ページの **[利用状況データの収集の設定]** セクションで、ログ ファイル用として十分なディスク空き容量のあるドライブまたはパーティション上の場所を入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

解決策: ディスクの空き領域を増やします。

1. ディスク クリーンアップ ツールを実行して、利用状況ログ ファイルが格納されているディスクの空き領域を増やします。
2. 利用状況ログ サービスのログ ファイル記録用として十分なディスク空き容量があることを確認します。
3. 利用状況ログ サービスのログ ファイル記録用ディスク領域に十分なディスク空き容量がない場合は、そのドライブの一時フォルダーに格納されている内容を削除します。

利用状況ログ ファイルを確認するには

1. サーバーの全体管理のホーム ページで **[監視]** をクリックし、**[レポート]** セクションで **[Usage and Health Data Collection の構成]** をクリックします。
2. **[Web Analytics と正常性データの収集の構成]** ページの **[利用状況データの収集の設定]** セクションで、利用状況ログ ファイルのパスをコピーします。
3. Windows エクスプローラーで、コピーしたパスを使用して利用状況ログ ファイルのある場所に移動します。利用状況ログ ファイルはバイナリ形式なので、内容を簡単に表示したり、理解したりすることはできません。利用状況ログのファイル サイズは時間の経過と共に大きくなるので、利用状況ログが機能していることを確認します。

STS 署名証明書がありません – イベント 8303 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Security Token Service 署名証明書がありません

イベント ID: 8303

概要: Microsoft SharePoint 2010 製品がユーザーの認証に使用する Security Token Service (STS) 署名証明書がありません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーが SharePoint 2010 製品にログインできません。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8303 説明: Access Data Services は使用できなくなりました。[セッション: <セッション ID> ユーザー: <ユーザー名>]。

原因: 次のどちらかの問題が原因である可能性があります。

- SharePoint 2010 製品に含まれる STS 署名証明書がありません。
- 自己署名入りの STS 署名証明書または使用する外部証明書がありません。

解決策: SharePoint 2010 製品ファームから新しい STS 署名証明書をインポートします

1. SharePoint 2010 製品ファームのルート証明書を取得します。
2. ルート証明書をエクスポートします。
3. **makecert** ユーティリティを使用して、ルート証明書に基づいて新しい STS 署名証明書を生成します。
4. オペレーティング システム用の証明書ストアに、新しい証明書をインポートします。

解決策: 自己署名入りの新しい STS 署名証明書または外部証明書をインポートします

1. SharePoint 2010 製品ファームのルート証明書を取得します。
2. ルート証明書をエクスポートします。
3. 証明書を再生成します。
4. オペレーティング システム用の証明書ストアに、新しい証明書をインポートします。

STS で資格情報に署名できません – イベント 8304 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Security Token Service で資格情報に署名できません

イベント ID: 8304

概要: Security Token Service (STS) でユーザーの資格情報に署名できません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーが Microsoft SharePoint Server 2010 にログオンできません。
- ログオンが失敗します。
- ユーザー選択で検索または解決が失敗し、エラー メッセージが返されます。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8307 説明: 署名の資格情報を作成しようとしたときに例外が発生しました: <例外>。

原因: クレーム プロバイダーで、例外の説明で示されるエラーが発生しました。

解決策: SharePoint 2010 製品ファームから新しい STS 署名証明書をインポートします

1. Microsoft SharePoint 2010 製品 ファームのルート証明書を取得します。
2. ルート証明書をエクスポートします。
3. **makecert** ユーティリティを使用して、ルート証明書に基づいて新しい STS 署名証明書を生成します。
4. オペレーティング システム用の証明書ストアに、新しい証明書をインポートします。

解決策: 新しい自己署名された STS 署名証明書または外部証明書をインポートします

1. SharePoint 2010 製品 ファームのルート証明書を取得します。
2. ルート証明書をエクスポートします。
3. 証明書を再生成します。
4. オペレーティング システム用の証明書ストアに、新しい証明書をインポートします。

クレームがエンドポイントを確立できません – イベント 8305 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Security Token Service のクレームがエンドポイントを確立できません
イベント ID: 8305

概要: Security Token Service (STS) のクレーム認証がエンドポイントを確立できません。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーは Microsoft SharePoint Server 2010 にログオンできません。
- ログオンが失敗します。
- 次のイベントがイベント ログに記録されます。イベント ID: 8305 説明: コンテキストのエンドポイントを確立しようとしたときに例外が発生しました: <例外>

原因: 要求プロバイダーが正しく構成されていません。

STS サービスが動作していることを Windows PowerShell で確認するには

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Get-SPServiceApplicationPool | Where {$_.DisplayName -eq <DisplayName>}  
Format-List
```

ここで、

6. <DisplayName> は STS サービス アプリケーション プールの表示名です。既定では、この値は "SecurityTokenServiceApplicationPool" です。
7. アプリケーション プールの Status が Online であることを確認します。

解決策: Web.config ファイルに対する変更を元に戻します

- Web.config ファイルを変更していた場合は、手動で以前のバージョンに戻します。または、ファイルをバックアップしてあった場合は、バックアップを復元します。

STS クレーム プロバイダー エラー – イベント 8307 (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Security Token Service クレーム プロバイダー エラー

イベント ID: 8307

概要: Security Token Service (STS) でエラーが発生しました。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ユーザーは Microsoft SharePoint Server 2010 にログオンできません。
- ログオンが失敗します。
- ユーザー選択が検索または解決に失敗し、エラー メッセージを返します。
- このイベントが、次のようにイベント ログに表示されます。イベント ID: 8307 説明: <メソッド名> を呼び出し中に、<クレーム プロバイダー名> クレーム プロバイダーで例外が発生しました: <例外>。

原因: 例外の説明で指摘されているクレーム プロバイダーでエラーが発生しました。

解決策: クレーム プロバイダーを無効にします

- エラーの原因になっているクレーム プロバイダーを無効にし、クレーム プロバイダーの製造元にエラーの解決方法を問い合わせます。詳細については、「[Configure claims authentication \(SharePoint Foundation 2010\)](#)」を参照してください。

 **重要:**

一部の SharePoint Server 2010 コンポーネントではクレーム プロバイダーを使用する必要があります。クレーム プロバイダーを無効にすると正しく機能しない可能性があります。たとえば、共有サービス アプリケーションでは、このプロバイダーから追加されたシステム クレームをセキュリティ モジュールで使用する必要があるため、呼び出し中にエラーになります。

管理サービスが実行されていません

アラート名: 管理サービスが実行されていません

イベント ID: イベント ID なし

概要: Microsoft SharePoint Foundation Administration サービスは、Microsoft SharePoint Foundation 2010 ファーム内のすべてのサーバー上で実行される必要があります。このサービスは、操作を実行するのにローカルの管理者権限が必要となるローカルのサーバー コンピューター上で、複数の操作 (Web アプリケーションやサービス アプリケーションの作成および削除、サービスの開始および停止など) を実行します。SharePoint Foundation 2010 ファーム内のサーバーのうち、このサービスが実行されていないサーバーが 1 つでもあると、管理操作が失敗するか、部分的にしか成功しない可能性があります。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- SharePoint Foundation Administration サービスが、特定のコンピューター上の管理者によって停止されています。
- SharePoint Foundation Administration サービスを実行するように設定されているアカウントのユーザー名とパスワードが正しくありません。
- エラー状態が発生したことが原因で、SharePoint Foundation Administration サービスがサービスを終了しました。

解決策: 管理サービスを開始します。

- Windows のサービス Microsoft 管理コンソール (MMC) スナップインを使用して、SharePoint Foundation Administration サービスを開始します。[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックして、次のように入力します。

services.msc

解決策: サービス アカウントを調べます。

- サービスが開始できない場合は、ローカル コンピューターの Administrators グループに、ユーザー名とアカウントのメンバーシップがあることを確認します。

解決策: 構成を修正します。

- サービスを開始できない場合は、SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを使用して、SharePoint Foundation の構成を修正します。

バックエンド サーバーに到達できません (SharePoint Server 2010)

アラート名: バックエンド サーバーに到達できません

イベント ID: なし

概要: Word Viewing Service アプリケーションは、Microsoft Office 文書を入力として受け取ってポータブル ネットワーク グラフィックス (PNG) ファイル、Microsoft Silverlight アプリケーション、または PDF ファイルを出力として生成します。出力されるファイル形式は、変換を要求したクライアント アプリケーションによって異なります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- 以前に表示したことの無い Word 文書を表示しようとするたびにエラーが発生します。
- 開いたファイルを別の形式に変換できません。たとえば、開いた .doc ファイルを .docx ファイルとして保存できません。
- Word Viewing Service アプリケーションによってエラーがイベント ログに書き込まれます。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- アプリケーション サーバーのアプリケーション マネージャーが予期せず停止しました。
- Word Viewing Service アプリケーションの機能が停止しました。
- ファイル変換サービスの機能が停止しました。

解決策: インターネット インフォメーション サービスを再起動します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントがローカル Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、コマンド プロンプトで以下のように入力します。

```
iisreset -force
```

ドキュメントの変換が頻繁に失敗する (SharePoint Server 2010)

アラート名: ドキュメントの変換が頻繁に失敗します

イベント ID: なし

概要: 高い割合での変換失敗は、アプリケーション サーバーに何らかの問題があること、または構成の設定が正しくないことを意味している可能性があります。

現象: ユーザーの多数のドキュメントが、変換の後にレンダリングおよび表示されません。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- ユーザーが多数の破損したドキュメントを表示しようとしています。
- Microsoft SharePoint Server 2010 アプリケーション サーバーが正常に機能していません。

解決策: アプリケーション サーバーが使用できることを確認します

- アプリケーション サーバーが安定して使用できることを確認します。

解決策: インターネット インフォメーション サービスを再起動します

1. この手順を実行しているユーザー アカウントがローカル Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
iisreset -force
```

解決策: 別のサーバーをファームに追加します

- このエラーの発生が続く場合は、ファームにサーバーを追加して、作業負荷の分散を図る必要があります。

Document Conversions Launcher を使用できません

アラート名: Document Conversions Launcher を使用できません

イベント ID: なし

概要: アプリケーション サーバーで、Document Conversions Launcher Service がドキュメント変換を開始します。Document Conversions Launcher Service が停止した場合、Document Conversions Load Balancer Service は続行され、すべてのドキュメント変換は失敗します。ドキュメント変換処理を再開するには、Document Conversions Launcher Service を再起動する必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ドキュメントが変換されていません。
- Document Conversions Launcher Service が実行されていません。

原因: Document Conversions Launcher Service が実行されていません。この状態は、管理者が不用意にサービスを停止した場合や、サーバーの RAM が不足している場合に発生する可能性があります。

 **メモ:**

次のタスクを実行するには、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーである必要があります。

解決策: サービスを再起動します。

1. SharePoint サーバーの全体管理のホーム ページの [システム設定] セクションで、[サーバーのサービスの管理] をクリックします。
2. [サーバーのサービス] ページで、[Document Conversions Launcher Service] をクリックします。
3. [サーバーの選択] セクションで、対象のサーバーが選択されていることを確認します。選択されていない場合は、[サーバー] メニューで [サーバーの変更] をクリックします。
4. [サーバーの選択] ページで、Document Conversions Launcher Service を実行するサーバーの名前をクリックします。
5. [通信スキーム] セクションで、Document Conversions Launcher が通信のために使用するスキームを指定します。既定値は [http] です。
6. [ポート番号] セクションで、Document Conversions Launcher が通信に使用するポート番号を入力します。そのサーバーで他のサービスによって使用されていないポート番号で、サーバーのファイアウォールで開かれているポート番号を選択します。
7. [OK] をクリックします。

Document Conversions Load Balancer を使用できません

アラート名: Document Conversions Load Balancer を使用できません


イベント ID: なし

概要: Document Conversions Load Balancer Service は、ドキュメント変換機能を管理します。サービスを停止すると、ドキュメント変換処理が停止され、Document Conversions Launcher Service が停止されます。ドキュメント変換処理を再開するには、Document Conversions Load Balancer Service を再起動してから、Document Conversions Launcher Service を開始する必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ドキュメントが変換されていません。
- ドキュメント変換を行っているサーバーが 1 台のみです。
- Document Conversions Load Balancer Service が実行されていません。

原因: Document Conversions Load Balancer Service が実行されていません。この状態は、管理者が不用意にサービスを停止した場合や、サーバーの RAM が不足している場合に発生する可能性があります。

 **メモ:**

次のタスクを実行するには、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーである必要があります。

解決策: Document Conversions Load Balancer Service を再起動します。

1. SharePoint サーバーの全体管理のホーム ページの [システム設定] セクションで、[サーバーのサービスの管理] をクリックします。
2. [サーバーのサービス] ページで、[Document Conversions Load Balancer Service] をクリックします。
3. [サーバーの選択] セクションで、対象のサーバーが選択されていることを確認します。選択されていない場合は、[サーバー] メニューで [サーバーの変更] をクリックします。
4. [サーバーの選択] ページで、Document Conversions Load Balancer Service を実行するサーバーの名前をクリックします。
5. [通信スキーム] セクションで、Document Conversions Load Balancer が通信のために使用するスキームを指定します。既定値は [http] です。
6. [ポート番号] セクションで、Document Conversions Load Balancer が通信に使用するポート番号を入力します。そのサーバーで他のサービスによって使用されていないポート番号で、サーバーのファイアウォールで開かれているポート番号を選択します。

7. [OK] をクリックします。

解決策: Document Conversions Launcher Service を再起動します。

1. SharePoint サーバーの全体管理のホーム ページの [システム設定] セクションで、[サーバーのサービスの管理] をクリックします。
2. [サーバーのサービス] ページで、[Document Conversions Launcher Service] をクリックします。
3. [サーバーの選択] セクションで、対象のサーバーが選択されていることを確認します。選択されていない場合は、[サーバー] メニューで [サーバーの変更] をクリックします。
4. [サーバーの選択] ページで、Document Conversions Launcher Service を実行するサーバーの名前をクリックします。
5. [通信スキーム] セクションで、Document Conversions Launcher が通信のために使用するスキームを指定します。既定値は [http] です。
6. [ポート番号] セクションで、Document Conversions Launcher が通信に使用するポート番号を入力します。そのサーバーで他のサービスによって使用されていないポート番号で、サーバーのファイアウォールで開かれているポート番号を選択します。
7. [OK] をクリックします。

ナレッジ項目をまだ利用できません

アラート名: ナレッジ項目をまだ利用できません

イベント ID: なし

概要: Microsoft System Center Operations Manager 管理パックは Microsoft SharePoint Server 2010 を監視します。SharePoint Server 2010 の問題が原因で、System Center Operations Manager が通知を出しました。

この通知のリンクからは、問題の解決方法を説明したナレッジ項目に移動することになっています。しかし、このナレッジ項目はまだ利用できません。後日公開の予定です。問題を解決するには、以下の 1 つまたは複数の操作を、この順番どおりに試します (リンクをクリックすると、この記事の手順に移動します)。

- **サーバーの全体管理を使用して SharePoint Health Analyzer 通知の表示と解決を行う**
- Windows のイベント ログを確認する
- 診断ログを確認する
- 管理パック ガイドおよび製品ドキュメントを確認する
- 影響を受けたサービスを再起動する
- **アプリケーション プールを再起動する**
- インターネット インフォメーション サービスを再起動する
- 影響を受けたサーバーを再起動する
- Microsoft サポートに問い合わせる

サーバーの全体管理を使用して SharePoint Health Analyzer 通知の表示と解決を行う

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[Health Analyzer]** セクションで、**[問題とソリューションの確認]** をクリックします。
4. **[問題とソリューションの確認]** ページで、表示および解決する問題をクリックします。
5. 問題を解決するには、**[問題とソリューションの確認]** ダイアログ ボックスの **[修復方法]** セクションに表示されたガイダンスに従います。ルールを再度実行して解決策を確認できるように、ダイアログ ボックスは開いたままにしておきます。
6. 該当する通知の **[問題とソリューションの確認]** ダイアログ ボックスの **[修復方法]** セクションに表示されたガイダンスに従った後、**[今すぐ再解析]** をクリックして、解決策を確認します。問題が解決すると、通知の状態は **[4-成功]** に変わります。

アプリケーション プールを再起動する

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーであることを確認します。

2. 「[IIS 7.0: アプリケーション プールをオンデマンドでリサイクルする](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=168806&clcid=0x411)」
(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=168806&clcid=0x411>) の手順を実行します。

サンドボックスで保護されたコードが実行されています

アラート名: SPServiceInstance のサンドボックスで保護されたコードが実行されています

イベント ID: イベント ID なし

概要: SharePoint のサンドボックスで保護されたコードのホストは、Microsoft SharePoint Foundation の各サーバーで実行される Windows NT サービスです。

現象: ユーザー コードの実行またはユーザー コードを含む、サンドボックスで保護されたソリューションのアクティブ化が必要な要求を実行できません。実行できないタスクは、トポロジ、および、サービスを停止しているサーバーによって異なります。

原因: SharePoint のサンドボックスで保護されたコードのホストのサービスが実行されていません。

解決策: 指定のサーバーでサービスを開始します

- 管理者特権でのコマンド プロンプトで次のコマンドを使用することによって、特定のサーバー上の SharePoint のサンドボックスで保護されたコードのホストを再起動できます。

```
net start spusercodev4
```

SharePoint Administration サービスが無効になっています

アラート名: SharePoint Administration サービスが無効になっています

イベント ID: イベント ID なし

概要: SharePoint Administration サービス V4 (SPAdminV4) が無効になっています。そのため、ローカル サーバーの管理タイマー ジョブは、ファーム全体の設定と一致するようにローカル サーバーの設定を変更できません。

原因: SharePoint Administration サービス V4 (SPAdminV4) が無効になっていて、開始できません。

解決策: 調整機能を無効にします。

- SharePoint Administration サービス V4 (SPAdminV4) を環境内で実行する場合は、サービスを自動的に起動するように設定してからサービスを開始します。この設定を行うには、サービス Microsoft 管理コンソール (MMC) スナップイン (services.msc) を使用するか、コマンドプロンプト ウィンドウで、次の 2 つのコマンドを順に使用します。これらのコマンドを実行するには、ファーム管理者で、かつ、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーである必要があります。

SC CONFIG SPAdminV4 start= auto

SC START SPAdminV4

解決策: 管理サービスを開始せずに、管理タイマー ジョブを実行します。

- SharePoint Administration サービス V4 (SPAdminV4) を環境内で実行するように設定しない場合 (たとえば、最小限の権限が検討事項の場合) は、管理サービスを開始しなくても、管理タイマー ジョブをローカル サーバー上で直接実行できます。タイマー ジョブを直ちに実行するには、SharePoint 管理シェルで、次の Windows PowerShell コマンドを実行します。

Start-SPAdminJob

 **メモ:**

Start-SPAdminJob 操作は、SharePoint Administration サービス V4 (SPAdminV4) が実行されていない、ファーム内のすべてのコンピューター上で実行する必要があります。準備処理と、通常は SharePoint Foundation Timer Service (SPTimer_V4) を使用して実行されるその他の管理タスクを実行するには、このコマンドを実行します。

SharePoint Foundation 2010 の検索が実行されていません

アラート名: SharePoint Foundation の検索が実行されていません

イベント ID: イベント ID なし

概要: Microsoft SharePoint Foundation 4 Search Service (SPSearch4) は、Search Service アプリケーションをホストする各サーバー上で実行される Windows NT サービスです。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- Microsoft SharePoint Foundation 4 Search Service (SPSearch4) が停止しています。
- クロール、クエリ、または管理検索機能を使用しようとする、タスクを実行できません。失敗するタスクは、トポロジとどのサーバーでサービスが停止したかによって異なります。

原因: Microsoft SharePoint Foundation 4 Search (SPSearch4) サービスが実行されていません。

解決策: サーバー上でサービスを起動します。

- 特定のサーバー上で、管理者特権でのコマンド プロンプトで次のコマンドを入力して、Microsoft SharePoint Foundation 4 Search (SPSearch4) サービスを再起動します。

```
net start spsearch4
```

SharePoint Health Analyzer でエラーまたは警告が検出されました (SharePoint 2010 製品)

アラート名: SharePoint Health Analyzer でエラーまたは警告が検出されました

イベント ID: なし

概要: SharePoint Health Analyzer で、ファームのパフォーマンス、可用性、またはセキュリティに影響するエラーまたは警告が検出されました。エラーまたは警告の状態を修正する方法については、エラー メッセージと説明を参照してください。

解決策: サーバーの全体管理を使用して、SharePoint Health Analyzer 通知の表示と解決を行います。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[Health Analyzer]** セクションで、**[問題とソリューションの確認]** をクリックします。
4. **[問題とソリューションの確認]** ページで、表示および解決する問題をクリックします。
5. 問題を解決するには、**[問題とソリューションの確認]** ダイアログ ボックスの **[修復方法]** セクションに表示されたガイダンスに従います。ルールを再度実行して解決策を確認できるように、ダイアログ ボックスは開いたままにしておきます。
6. 該当する通知の **[問題とソリューションの確認]** ダイアログ ボックスの **[修復方法]** セクションに表示されたガイダンスに従った後、**[今すぐ再解析]** をクリックして、解決策を確認します。問題が解決すると、通知の状態は **[4-成功]** に変わります。

SharePoint Timer Service を開始できませんでした

アラート名: SharePoint Services Timer Service を開始できませんでした

イベント ID: なし

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、ほとんどのシステム タスクの実行に Windows SharePoint Services Timer V4 (SPTimerV4) Service が使用されます。Timer Service は、ファーム サービス アカウントが変更されると再開されるほか、1 日 1 回、タイマー サービスのリサイクル ジョブが実行されると再開されます。SharePoint Server 2010 が Timer Service を開始できない場合、ファーム構成の更新内容はローカル サーバーに同期されません。

現象: 頻繁に再実行されるタイマー ジョブ (即時の通知、ワークフローなど) が実行されません。ファーム構成の更新内容がローカル サーバーに同期されません。

原因: SharePoint Server 2010 が Windows SharePoint Services Timer V4 (SPTimerV4) Service を開始できません。

解決策: Timer Service を開始します。

1. この手順を実行するユーザー アカウントがローカル コンピューターの Administrators グループに属するメンバーであることを確認します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドをコマンド プロンプトに入力して Enter キーを押します。
`net start sptimerv4`
3. サービスが開始されない場合は、サービス ID アカウントが正しく構成されているかどうかを、後述する「サービス アカウントの確認」手順に従って確認します。

解決策: サービス アカウントの確認

1. この手順を実行するユーザー アカウントがローカル コンピューターの Administrators グループに属するメンバーであることを確認します。
2. [スタート] メニューの [管理ツール] をクリックし、[サービス] をクリックします。
3. [サービス] スナップインで、Windows SharePoint Services Timer V4 Service を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [サービスのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ログオン] タブで、当該アカウントのパスワードを確認のために 2 回入力し、[OK] をクリックします。
5. サービスを右クリックし、[開始] をクリックします。

SharePoint Timer Service が実行されていません

アラート名: Windows SharePoint Services Timer Service が実行されていません

イベント ID: なし

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、大部分のシステム タスクの実行に、Windows SharePoint Services Timer V4 (SPTimerV4) Service が使用されます。

現象: 頻繁に繰り返されるタイマー ジョブ (即時の通知やワークフローなど) が実行されていません。ファーム構成に対する更新が、ローカルのサーバーに同期されていません。

原因: Windows SharePoint Services Timer V4 (SPTimerV4) Service が実行されていません。

解決策: Timer Service を開始します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、コマンド プロンプトで次のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

```
net start sptimerv4
```

3. サービスが開始されない場合は、この記事で後述する「サービス アカウントを確認します」の手順を使用して、サービス ID アカウントが正しく構成されていることを確認します。

解決策: サービス アカウントを確認します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] をクリックしてから、[サービス] をクリックします。
3. [Windows SharePoint Services Timer V4] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
4. [ログオン] タブで、使用されているアカウントがドメイン ユーザー アカウントで、次のメンバーであることを確認します。
 5. SQL Server の dbcreator 固定サーバー ロール
 6. SQL Server の securityadmin 固定サーバー ロール
 7. サーバー ファーム内のすべてのデータベースに使用する db_owner 固定データベース ロール
8. アカウントに十分な権限がある場合は、そのアカウントのパスワードを入力し、[パスワードの確認] ボックスでパスワードを再入力してから [OK] をクリックして、パスワードを確認します。
9. [サービス] コンソールでサービス名を右クリックしてから [開始] をクリックして、サービスを開始します。

SQL Server リモート アクセスが無効になっています (SharePoint 2010 製品)

アラート名: SQL Server リモート アクセスが無効になっています

イベント ID: なし

概要: Microsoft SharePoint 2010 製品では、データの保存に使用される Microsoft SQL Server 2008 Express へのリモート アクセスは既定で無効になっています。ファームのセットアップによっては、リモート コンピューターが SQL Server 2008 Express データベースにアクセスする場合があります。

現象: リモート サーバーから SQL Server 2008 Express への接続に失敗します。

原因: リモート アクセスが無効になっています

解決策: リモート アクセスを有効にします

- リモート アクセスを有効にします。詳細については、「[リモート接続が許可されるように SQL Server 2005 を構成する方法](http://support.microsoft.com/kb/914277/ja)」(<http://support.microsoft.com/kb/914277/ja>) を参照してください。

トレース サービスが実行されていません

アラート名: トレース サービスが実行されていません

イベント ID: イベント ID なし

概要: Microsoft SharePoint Foundation Tracing (SPTrace) サービスは、すべての Microsoft SharePoint Foundation サーバーに必要なサービスです。このサービスが停止した場合、エラーメッセージはサーバー上でログに記録されません。

現象: トレース出力がトレース ログに記録されず、エラーが Windows ログに記録されません。

原因: 以下のうちの 1 つまたは複数が原因である可能性があります。

- 管理者が、誤って SharePoint Foundation Tracing サービスを停止しました。
- このサーバー上で開始されたアップグレードを完了できません。

解決策: トレース サービスを開始します。

1. SharePoint Foundation サーバーに管理者としてログオンします。
2. コマンド プロンプト ウィンドウのコマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
net start SPTrace
```

許容できない表示応答時間 (SharePoint Server 2010)

アラート名: 応答時間が許容範囲外です

イベント ID: イベント ID なし

概要: 標準的な Microsoft SharePoint Server 2010 の展開では、ユーザーが操作性に不満を感じないように、ページが 1 秒未満で表示される必要があります。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- コンテンツが表示されるまでの応答時間が、常に 1 秒を超えています。
- Executing Time/Page Request パフォーマンス カウンターがしきい値を超過します。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- 大量のトラフィックによるサーバーの高負荷。
- SharePoint ファーム内のサーバー間の遅いネットワーク接続。
- 多数の Web パーツを含む、または多数のサーバー要求を送信する Web パーツを含む、設計に問題のあるページ。

解決策: 表示が遅いページを診断します

- サイト内の特定のページのみパフォーマンスの問題がある場合は、そのページを識別して、問題を診断します。
 1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
 2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
 3. **[監視]** ページの **[レポート]** セクションで、**[正常性レポートの表示]** をクリックします。
 4. **[問題とソリューションの確認]** ページで、**[最も遅いページ]** をクリックし、**[実行]** をクリックします。
 5. **[平均所要時間]** 列の値が最も高いページが、表示の最も遅いページです。
 6. ページの所有者または開発者に連絡し、表示を速くするために必要な修正を依頼します。

解決策: サーバーおよびネットワーク接続を診断します。

- パフォーマンスの問題がさらに一般的で、SharePoint ファーム内の多くのページが影響を受けている場合は、SharePoint ファーム内のサーバーが同じネットワーク上に存在するか、または高帯域幅で低待ち時間の接続を使用するネットワークに存在することを確認します。

解決策: サーバーのハードウェアおよびソフトウェアの構成を診断します

1. Windows タスク マネージャーおよびリソース モニター ツールを使用して、SharePoint ファーム内のサーバーのハードウェア パフォーマンスを調べます。

2. サーバーの CPU の使用率が常に高い場合は、ハードウェアを追加して個別のサーバーの負荷を下げることを検討します。
3. サーバーのディスクの使用率が高い場合、またはメモリの消費量が高い場合は、SharePoint ファーム内のサーバーにメモリを追加することを検討します。
4. [OK] をクリックします。

ユーザー プロファイル構成サービスが開始していません (SharePoint Server 2010)

アラート名: ユーザー プロファイル構成サービスが開始していません

イベント ID: なし

概要: Forefront Identity Manager Configuration Service が開始されていません。この Windows サービスにより、Microsoft SharePoint Server 2010 はプロファイル情報とディレクトリを同期できます。このサービスが開始していない場合、ユーザー プロファイルの構成は機能しません。

現象: ユーザー プロファイルの構成が機能しません。

原因: この問題の一般的な原因は、サーバーが再起動した後で Forefront Identity Manager Service が SQL Server より前に開始しようとしたことです。

解決策: サービスを開始します

1. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。
`net start FIMService`
`net start FIMSynchronizationService`
2. サービスを開始できない場合は、ファーム データベース サーバーで SQL Server が実行中であることを確認した後、サービスの開始を再試行します。
3. サービスを開始できない場合は、Windows アプリケーション ログで他のエラーがないか確認してください。

User Profile Synchronization Service が開始されていません (SharePoint Server 2010)

アラート名: Identity Manager Synchronization Service が開始されていません

イベント ID: なし

概要: Forefront Identity Manager Synchronization Service によって、Microsoft SharePoint Server 2010 でプロフィール情報とディレクトリを同期できます。このサービスが開始されていないと、ユーザー プロファイルの同期は機能しません。

現象: ユーザー プロファイルの同期が機能しません。

原因: この問題の一般的な原因は、サーバーの再起動後に、SQL Server が起動する前に Forefront Identity Manager Synchronization Service の開始が試行されたことです。

解決策: サービスを開始します

1. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。
`net start FIMService`
`net start FIMSynchronizationService`
2. サービスを開始できない場合は、ファーム データベース サーバーで SQL Server が実行中であることを確認した後、サービスの開始を再試行します。
3. サービスを開始できない場合は、Windows アプリケーション ログで他のエラーがないか確認してください。

Web アプリケーションによるページの表示に時間がかかりすぎています (SharePoint 2010 Products)

アラート名: Web アプリケーションによるページの表示に時間がかかりすぎています

イベント ID: なし

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 Executing Time/Page Request パフォーマンス カウンターは、Web アプリケーションが Web ページを表示するために費やす時間を監視します。ネットワークが一時的に混雑するか、Microsoft SQL Server を実行しているコンピューターからの要求がピークに達すると、このパフォーマンス カウンターのしきい値を超えることがあります。ネットワークが混雑していないにもかかわらずこのしきい値を超えた場合は、Web アプリケーションが消費するメモリが多すぎます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- ページの表示に時間がかかりすぎます。
- Executing Time/Page Request パフォーマンス カウンターのしきい値を頻繁に超過します。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- SharePoint Server 2010 が適切に構成されていません。
- サーバー ハードウェアが、ユーザーの要求を処理するには不十分です。

解決策: 構成のベスト プラクティスを実装します。

- 「[運用のベスト プラクティス](#)」に説明されている、構成の主な推奨ベスト プラクティスに従います。

解決策: Web サーバーのパフォーマンスを調整する

- 「[Web サーバーのパフォーマンスを調整する \(Office SharePoint Server\)](#)」に説明されている、Web サーバーのパフォーマンス向上に役立つ物理アーキテクチャと調整に関する推奨事項に従います。

Web アプリケーションが使用できない (SharePoint 2010 製品)

アラート名: Web アプリケーションが使用できません

イベント ID: なし

概要: このモニターは、管理者として実行アカウントを使用して、System Center Operations Manager (SCOM) サーバーから Web アプリケーションにアクセスしようとしています。SCOM サーバーが 400 より大きいステータス コードを受け取ると、モニターはエラー状態に変更されます。

現象: SCOM サーバーが 400 より大きいステータス コードを受け取ります。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- Web アプリケーションが使用できません。
- 管理者として実行アカウントに、Web アプリケーションにアクセスするための十分な権限がありません。

解決策: Web アプリケーションが存在し、実行していることを確認します

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) スナップインで、サーバー ノードを展開し、[**サイト**] ノードを展開します。
2. Web アプリケーションの Web サイトを選択し、サイトが実行していることを確認します。実行していない場合は開始します。サイトを開始できない場合は、次の手順に進みます。
3. [**アプリケーション プール**] ノードを選択します。右側のウィンドウで、Web アプリケーションのアプリケーション プールが開始されていることを確認します。開始されていない場合は開始します。開始できない場合は、次の手順に進んで、ID アカウントを確認します。
4. アプリケーション プールを右クリックし、[**詳細設定**] をクリックします。
5. [**詳細設定**] ダイアログ ボックスの [**プロセス モデル**] セクションで、ID アカウントに Web アプリケーションを実行するための十分な権限があることを確認します。
6. ID アカウントのパスワードを更新することが必要な場合があります。その場合は、アカウントの横にある省略記号をクリックします。
7. [**アプリケーション プール ID**] ダイアログ ボックスで、[**設定**] をクリックします。
8. [**資格情報の設定**] ダイアログ ボックスで、アカウント名とパスワードを入力し、[**OK**] をクリックします。
9. IIS スナップインで、アプリケーション プールの開始を試みます。開始しない場合は、アカウントに十分な権限がありません。アプリケーション プールが開始した場合は、Web サイトを開始します。

解決策: 管理者として実行アカウントに十分な権限があることを確認します

1. サーバーの全体管理ホーム ページで、[**セキュリティ**] をクリックし、[**ユーザー**] セクションの [**Web アプリケーションのユーザー ポリシーの指定**] をクリックします。

2. [認証プロバイダー] ページで、正しい Web アプリケーションを選択します。Web アプリケーションを選択するには、[Web アプリケーション] ボックスの横にある矢印をクリックし、[Web アプリケーションの変更] をクリックします。[Web アプリケーションの選択] ダイアログ ボックスで、正しい Web アプリケーションをクリックします。
3. 管理者として実行アカウントをクリックします。これは、前の解決策で ID アカウントとして指定されているアカウントです。アカウントが一覧に表示されない場合は、次の手順に進みます。
4. [ユーザーの追加] をクリックします。
5. [ユーザーの編集] ページの [アクセス許可ポリシー レベル] セクションで、[フル コントロール – 完全な制御が可能です] チェック ボックスをオンにします。
6. [保存] をクリックします。

Web サイトが使用できない (SharePoint 2010 製品)

Web ページを使用できない場合、SharePoint 2010 製品 は Web ページを表示できず、ユーザーは Web ページにアクセスできません。

アラート名: Web サイトが使用できません

イベント ID: なし

概要: Web ページを使用できない場合、SharePoint 2010 製品 は Web ページを表示できず、ユーザーは Web ページにアクセスできません。

現象: SharePoint 2010 製品 Web サイトがダウンしているか、または Web サイトのページが表示されません。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- Web サイトが使用できません。
- 管理パックの管理者として実行アカウントに、SharePoint 2010 製品 Web サイトにアクセスするためのアクセス許可がありません。

解決策: Web サイトがサイト コレクションに表示されることを確認します。

1. サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの [アプリケーション構成の管理] をクリックします。
2. [アプリケーション構成の管理] ページの [サイト コレクション] セクションで、[すべてのサイト コレクションの表示] をクリックします。
3. サイト コレクションの相対 URL が無効な場合は、管理パックの検出を実行します。
4. 管理パックの検出を実行しても問題が解決しない場合は、次のことを確認します。
 5. Web サイトをホストしている SharePoint Foundation サーバーが稼動していて、ネットワーク上でアクセスできる。
 6. インターネット インフォメーション サービス (IIS) が動作している。

解決策: 管理者として実行アカウントに十分なアクセス許可があることを確認します。

1. [サーバーの全体管理] ホーム ページで、[セキュリティ] をクリックし、[ユーザー] セクションで、[Web アプリケーションのユーザー ポリシーの指定] をクリックします。
2. [認証プロバイダー] ページで、正しい Web アプリケーションを選択します。Web アプリケーションを選択するには、[Web アプリケーション] をクリックし、[Web アプリケーションの変更] をクリックします。[Web アプリケーションの選択] ダイアログ ボックスで、正しい Web アプリケーションをクリックします。
3. 管理者として実行アカウントをクリックします。このアカウントは、インターネット インフォメーション サービス (IIS) で Web サイトを実行する Web アプリケーションに対する ID アカウントとして指定したアカウントです。アカウントが一覧に表示されない場合は、[ユーザーの追加] をクリックします。

4. [ユーザーの編集] ページの [アクセス許可ポリシー レベル] セクションで、[フル コントロール – 完全な制御が可能です] チェック ボックスをオンにします。
5. [保存] をクリックします。

SharePoint Health Analyzer ルール リファレンス (SharePoint Server 2010)

このセクションには、SharePoint Health Analyzer に関する記事が含まれています。通常、これらの記事は、サーバーの全体管理で SharePoint Health Analyzer のアラートのリンクをクリックすると表示されます。これらの記事は、Microsoft SharePoint Server 2010 のトラブルシューティングと問題解決に役立ちます。

このセクションの内容

- [クレーム認証を使用している Web アプリケーションは、更新が必要です \(SharePoint Server 2010\)](#)
この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “クレーム認証を使用する Web アプリケーションは更新が必要です” に関する情報を提供し、クレーム認証の更新方法を説明します。
- [自動更新設定がファーム サーバー間で一貫していません](#)
この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “自動更新設定が、ファーム サーバー間で一貫していません” に関する情報を提供し、自動更新設定をファーム全体で一貫させる方法を説明します。
- [診断ログが詳細レベルに設定されています](#)
この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “診断ログは詳細に設定されます” に関する情報を提供し、診断ログの構成方法を説明します。
- [サーバー ファーム アカウントは、他のサービスには使用しないでください](#)
この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “サーバー ファーム アカウントは、他のサービスには使用しないでください” に関する情報を提供し、他のサービスに使用されているアカウントの変更方法を説明します。
- [1 つ以上のサービスが予期せず開始または停止されています](#)
この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “1 つ以上のサービスが予期せず開始または停止されています” に関する情報を提供し、実行されていないサービスを開始する方法を説明します。
- [SharePoint で使用されているデータベースのインデックスが断片化されています](#)
この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “SharePoint で使用されているデータベースのインデックスは断片化されています” に関する情報を提供し、インデックスを再編成して作り直す方法を説明します。
- [孤立したアイテムを含むコンテンツ データベース](#)
この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “コンテンツ データベースに孤立したアイテムが含まれています” に関する情報を提供し、孤立したサイトをコンテンツから取り除く方法を説明します。
- [送信電子メールが構成されていません](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “送信電子メールが構成されていません” に関する情報を提供し、サーバーの全体管理で送信電子メールの設定を構成する方法を説明します。

- [一部の Health Analyzer ルールにタイマー ジョブが関連付けられていません](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “一部の Health Analyzer ルールにタイマー ジョブが関連付けられていません” に関する情報を提供し、正常性のデータ コレクション タイマー ジョブを作成する方法を説明します。

- [ドライブの空き容量が不足し始めています](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “ドライブの空き容量が不足し始めています” に関する情報を提供し、サーバー コンピューターのディスク領域を解放する方法を説明します。

- [ページング ファイル サイズは、システムに搭載されている物理 RAM の容量を超えている必要があります](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “ページング ファイル サイズは、システムに搭載されている物理 RAM の容量を超えている必要があります。” に関する情報を提供し、ページング ファイルの最小サイズを増やす方法を説明します。

- [組み込みのアカウントがアプリケーション プールまたはサービス ID として使用されています](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “組み込みのアカウントは、アプリケーション プールまたはサービス ID として使用されています” に関する情報を提供し、サービスまたはアプリケーション プールで使用されている ID を変更する方法を説明します。

- [Web Analytics: Report Consolidator コンポーネントの状態の監視](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “Web Analytics: Report Consolidator コンポーネントが正常に動作しているかどうかを監視します” に関する情報を提供し、データ トリミングを有効にして Report Consolidator のパフォーマンスを高める方法を説明します。

- [Web Analytics: インストールされた Web Analytics の実行中に利用状況ログがファームで有効になっていることの確認](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “Web Analytics: Web Analytics がインストールされ動作していることと、ファームの利用状況ログ機能が有効になっていることを確認します” に関する情報を提供し、利用状況ログ機能を有効にする方法を説明します。

- [Web Analytics: 各 Web アプリケーションで最低 1 つの Web Analytics Service アプリケーション プロキシが実行されていることを確認します](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “Web Analytics: 各 Web アプリケーションで最低 1 つの Web Analytics Service アプリケーション プロキシが実行されていることを確認します” に関する情報を提供し、他の Web Analytics Service アプリケーション プロキシを解除する方法を説明します。

- [Web Analytics: Web Analytics ステージング データベースに対して SQL Server Service Broker が有効になっているかどうかを確認します](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “Web Analytics: Web Analytics ステージング データベースに対して SQL Server Service Broker が有効になっているかどうかを確認します” に関する情報を提供し、Service Broker キューを有効にする方法を説明します。

- [InfoPath Forms Services メンテナンス タイマー ジョブが有効になっていません \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “InfoPath Forms Services メンテナンス タイマー ジョブが有効になっていません” に関する情報を提供し、タイマー ジョブを有効にする方法を説明します。
- [個人用サイトのホストと個々の個人用サイトが専用の Web アプリケーションに展開され、それぞれ異なる URL ドメインを使用していることを確認する \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “個人用サイトのホストと個々の個人用サイトが専用の Web アプリケーションに展開され、それぞれ異なる URL ドメインを使用していることを確認します” に関する情報を提供し、専用の Web アプリケーションを構成する方法を説明します。
- [検索範囲が個人用サイトに対して定義されていない \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “検索範囲が個人用サイトで定義されていません” に関する情報を提供し、検索範囲を定義する方法を説明します。
- [各 User Profile Service アプリケーションに、個人用サイトのホストが構成されていることを確認してください \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “各 User Profile Service アプリケーションに、個人用サイトのホストが構成されていることを確認してください” に関する情報を提供し、個人用サイトを構成する方法を説明します。
- [Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす Web 図面の最大サイズが設定されている \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす Web 図面の最大サイズが設定されています” に関する情報を提供し、図面の最大サイズを変更してパフォーマンスを高める方法を説明します。
- [Visio Graphics Service の最大再計算時間の設定が、ユーザーが体感するパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす再計算の最大時間が設定されています” に関する情報を提供し、再計算の最大時間を変更してパフォーマンスを高める方法を説明します。
- [Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最小キャッシュ時間が設定されています \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最小キャッシュ時間が設定されています。” に関する情報を提供し、最小キャッシュ時間を変更してパフォーマンスを高める方法を説明します。
- [State Service アプリケーションのすべての State Service データベースが、一時停止中です \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “State Service アプリケーションのすべての State Service データベースが、一時停止中です” に関する情報を提供し、データベースを再開する方法を説明します。
- [State Service アプリケーションにデータベースが定義されていません \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “State Service アプリケーションにデータベースが定義されていません” に関する情報を提供し、State Service アプリケーションにデータベースを定義する方法を説明します。

- [State Service 接続が構成されていないため、Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “State Service 接続が構成されていないため、Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません” に関する情報を提供し、State Service 接続を構成する方法を説明します。

- [期限切れセッションが、ASP.NET セッション状態データベースから削除されていません \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “期限切れセッションが、ASP.NET セッション状態データベースから削除されていません” に関する情報を提供し、SQL Server エージェントを開始して期限切れセッションを削除する方法を説明します。

- [\[State Service の期限切れセッションの削除\] タイマー ジョブが有効になっていません \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “[State Service の期限切れセッションの削除] タイマー ジョブが有効になっていません” に関する情報を提供し、期限切れセッションが削除されるようにタイマー ジョブを構成する方法を説明します。

- [1 つ以上の Search クロール データベースに断片化されたインデックスがあります \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “1 つ以上の検索クロール データベースでインデックスが断片化しています” に関する情報を提供し、インデックスを最適化する方法を説明します。

- [インデックスが断片化されている検索プロパティ データベースがあります \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “1 つ以上の検索プロパティ データベースでインデックスが断片化しています” に関する情報を提供し、インデックスを最適化する正常性ルールの設定方法を説明します。

- [Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません \(SharePoint Server 2010\)](#)

この記事では、SharePoint Health Analyzer ルール “State Service 接続が構成されていないため、Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません” に関する情報を提供し、ブラウザーによるフォームのレンダリングを有効にする方法を説明します。

クレーム認証を使用している Web アプリケーションは、更新が必要です (SharePoint Server 2010)

ルール名: クレーム認証を使用している Web アプリケーションは、更新が必要です

イベント ID: なし

概要: クレーム ベース認証を使用する Web アプリケーションには、ユーザーが特権を獲得できる潜在的なセキュリティ脆弱性のリスクがあります。クレーム ベース認証を使用する Web アプリケーションをホストする Web サーバーは潜在的に脆弱です。

原因: この脆弱性は、Microsoft ASP.NET 2.0 ベースの Web アプリケーションを、Microsoft SharePoint Server 2010 を実行しているサーバーでホストされている Web サイトに展開し、サーバーでインターネット インフォメーション サービス (IIS) 7.0 または IIS 7.5 が統合モードで実行していると発生します。

SharePoint サイトで部分的に信頼できる Web パーツを展開するか、または外部リストを作成した場合、そのような Web パーツまたは外部リストには必要なものより多くの権限が設定されます。この問題により、SharePoint サイトでセキュリティ リスクが発生する可能性があります。たとえば、このような Web パーツまたは外部リストは予期しないデータベース要求または HTTP 要求を生成することがあります。

この問題は、ASP.NET 2.0 の認証コンポーネントでの変更によって発生します。変更により、部分的に信頼できる Web パーツまたは外部リストがアプリケーション プール アカウントを偽装するようになります。したがって、Web パーツは SharePoint サイトにアクセスする完全な権限を持ちます。

解決策: 更新プログラムをインストールします

- 更新プログラムをダウンロードするには、「[KB979917 - QFE for SharePoint issues - Perf Counter fix & User Impersonation \(英語\)](#)」にアクセスしてください。
- 更新プログラムの詳細については、「[ASP.NET 2.0 ベースのアプリケーションを IIS 7.0 または IIS 7.5 を統合モードで実行しているサーバーを展開するときに 2 つの問題が発生します](#)」を参照してください。

自動更新設定がファーム サーバー間で一貫していません

ルール名: 自動更新設定がファーム サーバー間で一貫していません

概要: SharePoint ファームのサーバー間で自動更新の設定に違いがあります。

原因: ファーム内の 1 つ以上のサーバーの自動更新設定がファーム内の他のサーバーの自動更新設定と異なっています。

解決策: ファーム内のすべてのサーバーの自動更新設定が同じになるようにします。

- ファームの各サーバーで一貫した自動更新設定を選択します。ファームの各サーバーで自動更新設定ページを開き、計画した矛盾のない設定に従って自動更新の設定を行います。
 1. [スタート] をクリックし、[すべてのプログラム] をクリックし、[Windows Update] をクリックします。
 2. Windows Update のコントロール パネル ページで、[設定の変更] をクリックします。
 3. [更新プログラムをインストールする方法を選択します] 画面で、更新設定が意図どおりになっているかどうかを確認します。必要があれば、更新設定を変更してください。

 **メモ:**

更新設定を変更できない場合、グループ ポリシーによって更新設定がロックされている可能性があります。その場合は、ファーム内の他のサーバーにも同じグループ ポリシーが適用されるようにしてください。

診断ログが詳細レベルに設定されています

ルール名: 診断ログが詳細レベルに設定されています

概要: SharePoint Server では、サーバー上でのアクティビティを記録するために診断ログ情報が書き込まれます。ログには、サーバーの問題を診断するのに役立つ情報が入っています。このルールが発生するのは、診断ログが詳細レベルに設定されている場合です。サーバーの問題を診断する必要があるときは、この詳細設定が適切ですが、通常の運用時には詳細ログをオフにしてください。

原因: 診断ログの 1 つ以上のカテゴリが詳細レベルに設定されています。

解決策: 診断ログを既定のレベルにリセットします。

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[レポート]** セクションで、**[診断ログの構成]** をクリックします。
4. **[記録されるイベントの設定]** セクションの **[イベント ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント]** ボックスの一覧および **[トレース ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント]** ボックスの一覧で、**[既定に戻す]** を選択します。
5. **[OK]** をクリックします。

サーバー ファーム アカウントは、他のサービスには使用しないでください

ルール名: サーバー ファーム アカウントは、他のサービスには使用しないでください。

概要: SharePoint 2010 Timer Service や SharePoint ファーム内の他のシステム サービスの実行に使用するアカウントを、ファーム内の他のサービスに使用しないでください。

原因: ファーム アカウントは、SharePoint Timer Service とサーバーの全体管理サイトに使用されているアカウントで、高度な権限が与えられています。サーバー ファーム内のコンピューターで実行している他のサービスに、このアカウントを使用しないでください。ファーム内のサービスでこのアカウントが使用されていることが検出されました。

解決策: 他のサービスに使用しているアカウントを変更します。

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで **[セキュリティ]** をクリックし、**[一般的なセキュリティ]** セクションで **[サービス アカウントの構成]** をクリックします。
3. **[サービス アカウント]** ページの **[資格情報の管理]** セクションにある上部ボックスの一覧で、証明書を更新するサービスをクリックします。
4. **[このコンポーネントのアカウントの選択]** ボックスで、このサービスを関連付けるドメイン アカウントをクリックします。
5. SharePoint Server 2010 ファームで選択したアカウントを登録する場合は、**[管理アカウントの登録]** をクリックします。
6. **[OK]** をクリックします。

1 つ以上のサービスが予期せず開始または停止されています

ルール名: 1 つ以上のサービスが予期せず開始または停止されています。

概要: SharePoint ファームが機能するうえで欠かせない、重要なサービスが実行されていません。

原因: 1 つ以上の重要なサービスが、指定されたサーバーで実行されていません。

解決策: 実行されていないサービスを開始します。

1. この手順を実行するユーザー アカウントがローカル コンピューターの Administrators グループに属するメンバーであることを確認します。
2. [スタート] メニューの [管理ツール] をクリックし、[サービス] をクリックします。
3. 開始するサービスを右クリックし、[開始] をクリックします。

SharePoint で使用されているデータベースのインデックスが断片化されています

ルール名: SharePoint で使用されているデータベースのインデックスが断片化されています

概要: Microsoft SharePoint Server 2010 では、Microsoft SQL Server を使用して、Web サイトのコンテンツと構成設定の大部分を格納しています。SharePoint Server で使用されている 1 つ以上のデータベースのインデックスが断片化されています。インデックスが断片化されると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

原因: データベースのインデックスは、時間がたつうちに、SharePoint Server で実行される挿入操作と更新操作によって断片化されていくことがあります。システムのパフォーマンスを高めるため、これらのインデックスを定期的に削除して再構築することをお勧めします。

解決策: インデックスを再編成または再構築します。

- インデックスの断片化を解消するには、インデックスを再編成するか再構築します。詳細については、「[インデックスの再編成と再構築](#)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=160083&clcid=0x411>) を参照してください。

関連項目

その他のリソース

[Example: Index fragmentation with insert/updates, measuring it and fixing it \(英語\)](#)

孤立したアイテムを含むコンテンツ データベース

ルール名: 孤立したアイテムを含むコンテンツ データベース

概要: SharePoint Health Analyzer は、構成データベース内で参照されていないサイトをコンテンツ データベースで検出しました。これらのサイトにアクセスできない可能性があります。

原因: 復元操作が完了しなかった結果として、Sharepoint 構成データベース内で参照されていないサイトがコンテンツ データベース内に存在している可能性があります。

解決策: コンテンツ データベースから孤立したサイトを削除します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[Health Analyzer]** セクションで、**[問題とソリューションの確認]** をクリックします。
4. **[問題とソリューションの確認]** ページで、問題が発生しているルールのアラートをクリックし、**[今すぐ修正]** をクリックします。ルールを再度実行して解決策を確認できるように、ダイアログ ボックスは開いたままにしておきます。

 **メモ:**

今すぐ修正の機能により、コンテンツ データベースからすべての孤立アイテムが削除されます。

5. **[修復方法]** セクションの手順の実行後、アラートの **[問題とソリューションの確認]** ダイアログ ボックスで、**[今すぐ再解析]** をクリックして、解決策を確認します。問題が解決された場合、**[問題とソリューションの確認]** ページでの問題が発生しているルールとしてのフラグ設定が解除されます。

送信電子メールが構成されていません

ルール名: 送信電子メールが構成されていません

概要: この SharePoint Server で展開で送信メール サーバーが構成されていません。送信メール用に SMTP サーバーが構成されていないと、SharePoint Server は通知電子メール、確認電子メール、招待電子メール、クォータの超過を知らせる電子メールなど、電子メール メッセージを送信できません。

原因: ファーム内で SMTP 電子メール サーバーがまだ構成されていません。

解決策: サーバーの全体管理で送信電子メールの設定を構成します。

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. [サーバーの全体管理] ホーム ページで [システム設定] をクリックします。
3. [システム設定] ページの [電子メールとテキスト メッセージ (SMS)] セクションで、[送信メール設定の構成] をクリックします。
4. [送信メールの設定] ページの [電子メールの設定] セクションで、[送信 SMTP サーバー] ボックスに SMTP サーバーの情報を入力し、アドレスおよび使用する文字セットを指定します。
5. [OK] をクリックします。

一部の Health Analyzer ルールにタイマー ジョブが関連付けられていません

ルール名: 一部の Health Analyzer ルールにタイマー ジョブが関連付けられていません

概要: SharePoint Health Analyzer ルールを実行するタイマー ジョブが、この SharePoint Server 2010 展開上に存在しません。

原因: 正常性データ収集タイマー ジョブが構成されていない場合、SharePoint Health Analyzer ルールの一部または全部が実行されないことがあります。

解決策: 正常性データ収集タイマー ジョブを作成します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[Health Analyzer]** セクションで、**[問題とソリューションの確認]** をクリックします。
4. **[問題とソリューションの確認]** ページで、問題が発生しているルールのアラートをクリックし、**[今すぐ修正]** をクリックします。
5. 該当する通知の **[問題とソリューションの確認]** ダイアログ ボックスの **[修復方法]** セクションに表示されたガイダンスに従った後、**[今すぐ再解析]** をクリックして、解決策を確認します。問題が解決すると、そのルールは **[問題とソリューションの確認]** ページ上で失敗したルールとして扱われなくなります。

ドライブの空き容量が不足し始めています

ルール名: ドライブの空き容量が不足し始めています。

概要: ファーム内の 1 つ以上のサーバーで、ディスクドライブの容量が不足し始めています。

メモ:

このルールでは、ディスク容量をコンピューターの RAM と比較します。ディスクの空き容量がコンピューターの RAM の 2 倍未満になると、正常性ルールによってエラーがトリガーされます。ディスクの空き容量がコンピューターの RAM の 5 倍未満になると、正常性ルールによって警告がトリガーされます。したがって、RAM の搭載量が多いサーバー コンピューターほど、エラーや警告は発生しやすくなります。

解決策: サーバー コンピューターのディスクの空き容量を増やします。

1. この手順を実行するユーザー アカウントがローカル コンピューターの Administrators グループに属するメンバーであることを確認します。
2. ディスク クリーンアップ ツールを実行して、サーバー コンピューターのディスクの空き容量を増やします。

解決策: ログ ファイルの保存日数を減らします。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[レポート]** セクションで、**[診断ログの構成]** をクリックします。
4. **[診断ログ]** ページの **[トレース ログ]** セクションで、**[ログ ファイルの保存日数]** ボックスに、現在の日数よりも短い日数を入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

ページング ファイル サイズは、システムに搭載されている物理 RAM の容量を超えている必要があります

ルール名: ページング ファイル サイズは、システムに搭載されている物理 RAM の容量を超えている必要があります。

概要: SharePoint ファーム内のサーバーによっては、ページング ファイルのサイズが、サーバーで使用可能な物理メモリの総量よりも小さく設定されていることがあります。

原因: Windows では、ページング ファイルのサイズを、使用可能な物理メモリの総量以上に設定することをお勧めしています。一般に、ガベージ コレクションが効果的であるのは、マネージ ヒープ サイズがページング ファイルのサイズに近づいたときにヒープ メモリを自動修復する場合です。ページング ファイルのサイズが RAM のサイズよりも小さく設定されていると、マネージ メモリが割り当てられ、その結果、ガベージ コレクションが増加し、CPU の使用率が上がります

解決策: ページング ファイルの最小サイズを増やします。

1. この手順を実行するユーザー アカウントがローカル コンピューターの Administrators グループに属するメンバーであることを確認します。
2. [サーバー マネージャー] ページで、[システム プロパティの変更] をクリックします。
3. [システムのプロパティ] ダイアログ ボックスの [詳細設定] タブで、[パフォーマンス] セクションの [設定] をクリックします。
4. [パフォーマンス オプション] ダイアログ ボックスの [詳細設定] タブで、[仮想メモリ] セクションの [変更] をクリックします。
5. [仮想メモリ] ダイアログ ボックスで、[すべてのドライブのページング ファイルのサイズを自動的に管理する] チェック ボックスをオンにします。または、このチェック ボックスをオフにして、コンピューターで使用可能な物理メモリ以上のページング ファイルのサイズを指定します。
6. 必要な変更を行ったら、[OK] をクリックし、コンピューターを再起動して変更内容を適用します。

組み込みのアカウントがアプリケーション プールまたはサービス ID として使用されています

ルール名: 組み込みのアカウントがアプリケーション プールまたはサービス ID として使用されています

概要: 組み込みまたはローカル コンピューターのアカウントがアプリケーション プール ID またはサービス ID として使用されています。

原因: 組み込みのアカウントをアプリケーション プール ID またはサービス ID として使用することは、ファーム構成でサポートされていません。組み込みのアカウントとしては、ネットワーク サービス、ローカル サービス、およびローカル システムがあります。

解決策: サービスまたはアプリケーション プールに使用されている ID を変更します。

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[セキュリティ]** をクリックします。
3. **[セキュリティ]** ページの **[一般的なセキュリティ]** セクションで、**[サービス アカウントの構成]** をクリックします。
4. **[サービス アカウント]** ページの **[資格情報の管理]** セクションの上部のドロップダウン リストで、ID を変更するサービスまたはアプリケーション プールをクリックします。
5. **[このコンポーネントのアカウントの選択]** ボックスの一覧で、サービスまたはアプリケーション プールに関連付けるドメイン ユーザー アカウントをクリックします。
選択したアカウントを SharePoint Server 2010 ファームに登録する場合は、**[管理アカウントの登録]** をクリックします。
6. **[OK]** をクリックします。

Web Analytics: Report Consolidator コンポーネントの状態の監視

ルール名: Web Analytics: Report Consolidator コンポーネントの状態の監視

概要: 通常、Report Consolidator コンポーネントの実行時間が 2 時間を超えることはありません。このルールは、実行時間が 5 時間を超えた場合にトリガーされます。

原因: Report Consolidator コンポーネントの実行時間が 5 時間を超えたことです。

解決策: Windows PowerShell を使用してデータトリミングを有効にします。

1. データトリミングを有効にするには、**Set-WebAnalyticsServiceApplication** コマンドレットを使用します。データトリミングが有効になっていると、レポート データベースのテーブル内のデータの行数が 1 日 1 コンポーネントあたり (サイト、サイト コレクション、Web アプリケーションなど) 20,000 行にトリミングされます。これにより、レポート コンポーネントの実行にかかる時間が短縮されます。
2. 次の最小要件を満たしていることを確認します。**Add-SPShellAdmin** を参照してください。
3. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
4. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
5. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
6. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Set-SPWebAnalyticsServiceApplication [-Identity <GUID>]-EnableDataTrimming
```

ここで、

7. <GUID> は Web Analytics Service アプリケーションの GUID 識別子です。Web Analytics Service アプリケーションが 1 つしかない場合、GUID を指定する必要はありません。

詳細については、「[Set-SPWebAnalyticsServiceApplication](#)」を参照してください。

メモ:

コマンドライン管理タスクを実行するときには Windows PowerShell を使用することが推奨されています。Stsadm コマンドライン ツールは推奨されていませんが、製品の以前のバージョンとの互換性をサポートするために含まれています。

Web Analytics: インストールされた Web Analytics の実行中に利用状況ログがファームで有効になっていることの確認

ルール名: Web Analytics: インストールされた Web Analytics の実行中に利用状況ログがファームで有効になっていることの確認

概要: Web Analytics Service アプリケーションは、ページビュー、ユニークビジター数、発行された検索クエリ数など、利用状況の情報を収集して報告します。このサービス アプリケーションを必要とする場合は、利用状況ログを有効にしてこうしたデータの発生をログに記録する必要があります。

原因: Web Analytics Service アプリケーションで利用状況ログが有効になっていないことです。

解決策: Web Analytics Service アプリケーションで利用状況ログを有効にします。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。

 **メモ:**

利用状況と正常性に関するデータの設定はファーム レベルに適用されます。ファームの個々のサーバーに設定することはできません。

2. [サーバーの全体管理] ホーム ページで、[監視] をクリックします。
3. [監視] ページの [レポート] セクションで [Usage and Health data collection の構成] をクリックします。
4. [Usage and Health data collection の構成] ページの [利用状況データの収集] セクションで、[利用状況データの収集を有効にする] チェック ボックスをオンにします。
5. [イベントの選択] セクションで、[ログ対象イベント] の一覧の横にあるチェック ボックスをオンにすることで、ログを記録するイベントを選択します。少なくとも次のイベントが選択されていることを確認します。
 - a) ページの要求
 - b) 検索クエリの利用状況
 - c) サイト インベントリの利用状況
 - d) 利用状況の評価
6. [利用状況データ収集の設定] セクションの [ログ ファイルの場所] ボックスに、利用状況と正常性に関する情報を書き込む先のフォルダーのパスを入力します。指定するパスは、すべてのファーム サーバーに存在していなければなりません。
7. [最大ログ ファイル サイズ] ボックスに、ログの最大ディスク領域をギガバイト単位 (1 ~ 20 GB) で入力します。

8. [OK] をクリックして、設定を保存して利用状況ログを有効にします。

Web Analytics: 各 Web アプリケーションで最低 1 つの Web Analytics Service アプリケーション プロキシが実行されていることを確認します


ルール名: Web Analytics: 各 Web アプリケーションで最低 1 つの Web Analytics Service アプリケーション プロキシが実行されていることを確認します。

概要: Web アプリケーションを Web Analytics Service アプリケーションに関連付けると、Web Analytics Service アプリケーションは、その Web アプリケーションのログを記録して利用状況データを処理します。Web アプリケーションを複数の Web Analytics Service アプリケーションに関連付けると、Web Analytics Service アプリケーションは予期しない方法で、その Web アプリケーションのログを記録して利用状況データを処理します。Web アプリケーションのログ記録とデータの処理は、1 つの Web Analytics Service アプリケーションのみを使用して行うことをお勧めします。

原因: 同じファーム内に複数の Web Analytics Service アプリケーションが作成され、それらの Web Analytics Service アプリケーションのいくつかに、複数の Web アプリケーションが関連付けられています。

解決策: 他の Web Analytics Service アプリケーションの関連付けを解除します。

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] の [Web アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [Web アプリケーション] ページで、Health Analyzer アラート内の Web アプリケーションをクリックして、[サービス接続] をクリックします。
4. [サービス アプリケーションの関連付けの構成] ダイアログ ボックスで、Web Analytics Service アプリケーションのチェック ボックスを 1 つだけ残して他のすべてをオフにします。

 **メモ:**

チェック ボックスを使用できない場合は、次の操作を行います。

1. 既定のビューに表示される接続を記録します。
2. [編集する接続グループ] ボックスの一覧の [ユーザー設定] をクリックします。
3. Web Analytics Service アプリケーションのチェック ボックスを 1 つだけ残して他のすべてをオフにして、既定のビューに表示されていた他のすべてのサービス アプリケーションを選択してください。
4. [OK] をクリックします。

Web Analytics: Web Analytics ステージング データベースに対して SQL Server Service Broker が有効になっているかどうかを確認します

ルール名: Web Analytics: Web Analytics ステージング データベースに対して SQL Server Service Broker が有効になっているかどうかを確認します

概要: Web Analytics データベースに対して Service Broker キューが有効になっていません。そのため、Web Analytics データが処理されません。

原因: 最近行われた SQL Server データベースの接続/切断操作またはバックアップ/復元操作が原因と考えられます。

解決策: Service Broker キューを有効にします。

- サーバーの全体管理の [問題とソリューションの確認] ページで、このルールをクリックし、[自動修復する] をクリックします。

InfoPath Forms Services メンテナンス タイマー ジョブが有効になっていません (SharePoint Server 2010)

ルール名: InfoPath Forms Services メンテナンス タイマー ジョブが有効になっていません

概要: InfoPath Forms Services メンテナンス タイマー ジョブが有効になっていません。

InfoPath Forms Services メンテナンス タイマー ジョブは、各フロントエンド Web サーバー上のフォーム テンプレート データをキャッシュすることによってパフォーマンスを向上する目的で、InfoPath Forms Services によって使用されます。

原因: サーバーの全体管理 Web サイトの [ジョブの定義] ページでタイマー ジョブが無効になっているか、Windows PowerShell コマンドレットの `Disable-SPTimerJob` が使用されました。

解決策: サーバーの全体管理 Web サイトを使用して、タイマー ジョブを有効にします。

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理 Web サイトのホームページで、[監視] をクリックします。
3. [ジョブ定義の確認] をクリックします。
4. [InfoPath Forms Services の管理] をクリックします。
5. [有効にする] をクリックします。

解決策: Windows PowerShell を使用してタイマー ジョブを有効にします。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Enable-SPTimerJob "<FormsMaintenanceJobDefinition>"
```

ここで、

6. <FormsMaintenanceJobDefintion> は、有効にするタイマー ジョブの実際の名前です。

詳細については、「[Enable-SPTimerJob](#)」を参照してください。

個人用サイトのホストと個々の個人用サイトが専用の Web アプリケーションに展開され、それぞれ異なる URL ドメインを使用していることを確認する (SharePoint Server 2010)

ルール名: 個人用サイトのホストと個々の個人用サイトが専用の Web アプリケーションに展開され、それぞれ異なる URL ドメインを使用していることを確認する

概要: パフォーマンスと管理性を高めるため、個人用サイトのホストと個々の個人用サイトを専用の Web アプリケーションに展開することをお勧めします。個々の個人用サイトの所有者がその個人用サイトのサイト コレクション管理者になります。個人用サイトのホストと個々の個人用サイトのために専用の Web アプリケーションを設ければ、同じ Web アプリケーションでホストされている他のサイトに個人用サイトの所有者によって同ドメインに対するスクリプト攻撃が導入されるリスクが減ります。

原因: 個人用サイトのホストと個々の個人用サイトは、同じ Web アプリケーション内にルート サイト コレクションとして展開されます。ファーム構成ウィザードで User Profile Service を構成した場合は、個人用サイトがこのようにセットアップされます。

解決策: 専用の Web アプリケーションをセットアップする

- 個人用サイトのホストと個々の個人用サイトを独立した専用の Web アプリケーションでホストすることをお勧めします。

詳細については、「[Create a Web application \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

検索範囲が個人用サイトに対して定義されていない (SharePoint Server 2010)

ルール名: 検索範囲が個人用サイトに対して定義されていない

概要: 個人用サイトのホストを作成するときは、個人用サイトのホストおよび個人用サイトに対して検索範囲を定義することが重要です。定義しないと、個人用サイトのページでのパフォーマンスが低下し、非常に長い待ち時間、低いスループット、および Web サイトでの高い CPU 使用率などが発生する可能性があります。

原因: 管理者が個人用サイトおよび個人用サイトのホストに検索範囲を定義していません。

解決策: 個人用サイトおよび個人用サイトのホストに検索範囲を定義します

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが User Profile Service サービス アプリケーションの管理者であることを確認します。
2. [サーバーの全体管理] ホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーションの管理] ページで、User Profile Services サービス アプリケーションをクリックします。
4. [User Profile Service] ページの [個人用サイトの設定] セクションで、[個人用サイトのセットアップ] をクリックします。
5. [個人用サイトの設定] ページの [優先する検索センター] セクションで、[ひと検索の検索範囲] および [ドキュメント検索の検索範囲] ボックスの一覧から適切な検索範囲を選択します。
通常、[ひと検索の検索範囲] ボックスの設定は [人] で、[ドキュメント検索の検索範囲] ボックスの設定は [すべてのサイト] です。
6. [OK] をクリックします。

各 User Profile Service アプリケーションに、個人用サイトのホストが構成されていることを確認してください (SharePoint Server 2010)

ルール名: 各 User Profile Service アプリケーションに、個人用サイトのホストが構成されていることを確認してください

概要: 個人用サイトのホストがないと、エンドユーザーは個人向けのサイトやユーザー プロファイルを使用できません。このため、User Profile Service アプリケーションを作成する場合は、User Profile Service の個人用サイトのホストも作成することをお勧めします。

現象: 個人用サイトや他のユーザー プロファイル機能を使用できません。

原因: User Profile Service アプリケーションを作成した管理者が、個人用サイトのホストを作成していません。

解決策: 個人用サイトのサイト コレクションが作成されていることを確認します

-
- 個人用サイトのサイト コレクションの設定の詳細については、「[Set up My Site Web sites \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

解決策: Windows PowerShell を使用して個人用サイトのホストを User Profile Service アプリケーションに関連付けます。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 Products] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードの
コピー

```
Set-SPProfileServiceApplication [-Name <UserProfileServiceApplicationName>] -  
MySiteHostLocation <URL>
```

ここで、

6. <UserProfileServiceApplicationName> は、User Profile Service アプリケーションのフレンドリ名です。User Profile Service アプリケーションが 1 つだけの場合は、名前を指定する必要はありません。
7. <URL> は、テンプレートが関連付けられていない空のサイト コレクションの URL です。

Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最大キャッシュ時間が設定されている (SharePoint Server 2010)

ルール名: Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最大キャッシュ時間が設定されています。

概要: Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最大キャッシュ時間が設定されています。[最大キャッシュ時間] に 60 分より大きい値を設定すると、Visio Graphics Service のメモリ負荷が大きくなる可能性があります。

原因: [最大キャッシュ時間] に 60 分より大きい値が設定されたためです。

解決策: 最大キャッシュ時間の設定値を小さくしてください。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Visio Graphics Service サービス アプリケーションの管理者であることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、Visio Graphics Service アプリケーションをクリックします。
4. [Visio Graphics Service の管理] ページで、[グローバル設定] をクリックします。
5. 各設定に、次の表に示す値が入っていることを確認します。入っていない場合は、対応するボックスにその値を入力します。

設定	値
Web 図面の最大サイズ	< 5 (メガバイト)
最小キャッシュ時間	> 4 (分)
最大キャッシュ時間	< 60 (分)
最大再計算時間	< 60 (秒)

6. [OK] をクリックします。

Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす Web 図面の最大サイズが設定されている (SharePoint Server 2010)

ルール名: Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす Web 図面の最大サイズが設定されています。

概要: Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす Web 図面の最大サイズが設定されています。[Web 図面の最大サイズ] に 5 MB より大きい値が設定されると、帯域幅の使用量が増加し、Visio Graphics Service のパフォーマンスが低下する可能性があります。

Web 図面のサイズでパフォーマンスを向上させるには、より小さいイメージをダウンロードし、帯域幅の使用量を最小限に抑えます。

原因: [Web 図面の最大サイズ] に 5 MB より大きい値が設定されています。

解決策: [Web 図面の最大サイズ] の値を小さくします

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Visio Graphics Service サービス アプリケーションの管理者であることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、Visio Graphics Service アプリケーションをクリックします。
4. [Visio Graphics Service の管理] ページの [グローバル設定] をクリックします。
5. 設定に、以下の表に示す値が入っていることを確認します。入っていない場合は、対応するボックスにその値を入力します。

設定	値
Web 図面の最大サイズ	< 5 (メガバイト)
最小キャッシュ時間	> 4 (分)
最大キャッシュ時間	< 60 (分)
最大再計算時間	< 60 (秒)

6. [OK] をクリックします。

Visio Graphics Service の最大再計算時間の設定が、ユーザーが体感するパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります (SharePoint Server 2010)

ルール名: Visio Graphics Service の最大再計算時間の設定が、ユーザーが体感するパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります

概要: Visio Graphics Service の最大再計算時間の設定が、ユーザーが体感するパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。[最大再計算時間] の設定が 60 秒を超える場合、Visio Graphics Service と Microsoft SharePoint Server 2010 のプロセッサの負荷が増加して、両方とも期待されるパフォーマンスが低下します。

時間が短くなると、サーバーが再計算できるのは単純なデータに接続された図面のみで、CPU とメモリの使用率を最小限に抑えることで、パフォーマンスは増加します。時間が長くなると、多くの CPU サイクルとメモリを使用して、より複雑なデータに接続された図面を再計算できます。既定値は 60 秒です。

原因: [最大再計算時間] の設定が 60 秒を越えています。

解決策: [最大再計算時間] の値を小さくしてください。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Visio Graphics Service サービス アプリケーションの管理者であることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、Visio Graphics Service アプリケーションをクリックします。
4. [Visio Graphics Services の管理] ページで、[グローバル設定] をクリックします。
5. 設定値が、次の表に示されている値であることを確認します。該当しない場合は、対応するテキスト ボックスに値を入力します。

設定	値
Web 画面の最大サイズ	< 5 (メガバイト)
最小キャッシュ時間	> 4 (分)
最大キャッシュ時間	< 60 (分)
最大再計算時間	< 60 (秒)

6. [OK] をクリックします。

Visio Graphics Service に、セキュリティの問題を引き起こす可能性がある最小キャッシュ時間が設定されています (SharePoint Server 2010)

ルール名: Visio Graphics Service に、セキュリティの問題を引き起こす可能性がある最小キャッシュ時間が設定されています

概要: [最小キャッシュ時間] を 0 分に設定すると、Visio Graphics Service がサービス拒否 (DoS) 攻撃に無防備な状態のままになる可能性があります。この設定の値を 0 にすると、Visio Graphics Service および Microsoft SharePoint Server 2010 のプロセッサおよびネットワークの負荷が大きくなり、両方の予想されるパフォーマンスが低下する場合があります。ただし、この値を大きくすると、データに接続された図面の更新間隔が長くなります。

原因: [最小キャッシュ時間] が 0 分に設定されました。

解決策: [最小キャッシュ時間] 設定の値を大きくします

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Visio Graphics Service サービス アプリケーションの管理者であることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、Visio Graphics Service アプリケーションをクリックします。
4. [Visio Graphics Service の管理] ページで、[グローバル設定] をクリックします。
5. 設定が次の表で示される値になっていることを確認します。なっていない場合は、対応するテキスト ボックスに値を入力します。

設定	値
Web 図面の最大サイズ	< 5 (メガバイト)
最小キャッシュ時間	> 4 (分)
最大キャッシュ時間	< 60 (分)
最大再計算時間	< 60 (秒)

6. [OK] をクリックします。

Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最小キャッシュ時間が設定されています (SharePoint Server 2010)

ルール名: Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最小キャッシュ時間が設定されています

概要: Visio Graphics Service に、パフォーマンスに悪影響を及ぼす最小キャッシュ時間が設定されています。[最小キャッシュ時間] の設定が 4 分より短い場合、Visio Graphics Service および Microsoft SharePoint Server 2010 のプロセッサとネットワークの負荷が増加して、両方も期待されるパフォーマンスが低下します。ただし、この値を増加すると、データに接続された図面が頻繁に更新されなくなります。

原因: [最小キャッシュ時間] の設定が 4 分より短く設定されています。

解決策: 最小キャッシュ時間の設定値を大きくします。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Visio Graphics Service サービス アプリケーションの管理者であることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、[アプリケーション構成の管理] セクションの [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] ページで、Visio Graphics Service アプリケーションをクリックします。
4. [Visio Graphics Service の管理] ページの [グローバル設定] をクリックします。
5. 設定値が次の表に示されている値であることを確認します。該当しない場合は、対応するテキスト ボックスに値を入力し、[OK] をクリックします。

設定	値
Web 画面の最大サイズ	< 5 (メガバイト)
最小キャッシュ時間	> 4 (分)
最大キャッシュ時間	< 60 (分)
最大再計算時間	< 60 (秒)

6. [OK] をクリックします。

State Service アプリケーションのすべての State Service データベースが、一時停止中です (SharePoint Server 2010)

ルール名: State Service アプリケーションのすべての State Service データベースが、一時停止中です

概要: State Service サービス アプリケーションと関連付けられているすべてのデータベースが一時停止されています。この場合、InfoPath Web ブラウザー フォームや Microsoft SharePoint グラフ Web パーツなどの一部の Microsoft SharePoint Server 2010 コンポーネントを使用すると、エラーが発生する場合があります。

原因: 管理者がサービス アプリケーション用のすべてのデータベースを一時停止していることが原因である可能性があります。

解決策: Windows PowerShell を使用して State Service サービス アプリケーション データベースを再開します

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. 一時停止しているデータベースを確認するには、Windows PowerShell コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Get-SPStateServiceDatabase
```

6. 一時停止しているデータベースを再開する場合は、Windows PowerShell コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Resume-SPStateServiceDatabase -Identity <DatabaseID>
```

ここで、

7. <DatabaseID> は、State Service サービス アプリケーション データベースの GUID としての ID です。
8. 既存のデータベースを使用する代わりに新しいデータベースを作成する場合は、Windows PowerShell コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。

コードの
コピー

```
New-SPStateServiceDatabase -Name <DatabaseName> -ServiceApplication <ID> -  
DatabaseServer <ServerName> [-DatabaseCredentials <Credential>]
```

ここで、

9. <DatabaseName> は、データベースの文字列としての名前です。
10. <ID> は、影響のある State Service サービス アプリケーションの文字列または GUID としての ID です。State Service サービス アプリケーションが 1 つだけの場合は、このパラメーターを指定しなくてもかまいません。
11. <ServerName> はデータベース サーバーの名前です。
12. <Credential> は、データベース サーバーの SQL Server 認証資格情報です。このパラメーターを指定しないと、Windows 認証が使用されます。

詳細については、「[Resume-SPStateServiceDatabase](#)」または「[New-SPStateServiceDatabase](#)」を参照してください。

State Service アプリケーションにデータベースが定義されていません (SharePoint Server 2010)

ルール名: State Service アプリケーションにデータベースが定義されていません。

概要: State Service サービス アプリケーションに State Service データベースが定義されていません。そのため、InfoPath Web ブラウザー フォームや Microsoft SharePoint Server Chart Web パーツなど、一部の SharePoint コンポーネントを使用しているときにエラーが発生することがあります。

原因: 以下の 1 つ以上のことが原因になっている可能性があります。

- ファーム管理者が State Service サービス アプリケーションに関連付けられているすべてのデータベースを削除した。
- ファーム管理者が State Service サービス アプリケーション用のデータベースを作成しなかった、または既存のデータベースを State Service サービス アプリケーションに関連付けなかった。

解決策: Windows PowerShell を使用して、State Service サービス アプリケーション用の新しいデータベースを作成するか、既存のデータベースを State Service サービス アプリケーション用として使用します。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックします。
3. [Microsoft SharePoint 2010 製品] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. 使用できる既存のデータベースがない場合は、Windows PowerShell コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力します。

コードの
コピー

```
New-SPStateServiceDatabase -Name <DatabaseName> -DatabaseServer <ServerName>  
[-DatabaseCredentials <Credential>] [-ServiceApplication <ID>]
```

ここで、

6. <DatabaseName> は文字列としてのデータベースの名前です。
7. <ServerName> はデータベース サーバーの名前です。
8. <Credential> は、データベースの SQL Server 認証資格情報です。このパラメーターを使用しない場合は、Windows 認証が使用されます。

9. <ID> は文字列または GUID としての State Service サービス アプリケーションの ID です。State Service サービス アプリケーションが 1 つしかない場合、このパラメーターを指定する必要はありません。
10. 環境によっては、既存の空の SQL Server データベースに接続する必要があります。その場合は、Windows PowerShell コマンドプロンプトで以下のコマンドを入力します。

コードの
コピー

```
Mount-SPStateServiceDatabase -Name <DatabaseName> -DatabaseServer  
<ServerName> [-DatabaseCredentials <Credential>] [-ServiceApplication <ID>]
```

ここで、

11. <DatabaseName> は文字列としてのデータベースの名前です。
12. <ServerName> はデータベース サーバーの名前です。
13. <Credential> は、データベースの SQL Server 認証資格情報です。このパラメーターを使用しない場合は、Windows 認証が使用されます。
14. <ID> は文字列または GUID としての State Service サービス アプリケーションの ID です。State Service サービス アプリケーションが 1 つしかない場合、このパラメーターを指定する必要はありません。

詳細については、「[Mount-SPStateServiceDatabase](#)」または「[New-SPStateServiceDatabase](#)」を参照してください。

State Service 接続が構成されていないため、Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません (SharePoint Server 2010)

ルール名 ame: State Service 接続が構成されていないため、Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません

概要: InfoPath Forms Services は State Service プロキシにサービス接続している Web アプリケーションに依存して、HTTP 要求間のデータを格納します。サービス接続がないと、ユーザーはブラウザ対応の InfoPath フォームを開いたり入力したりできません。

原因: Health Analyzer 通知内にある Web アプリケーションに、State Service に対するサービス接続が構成されていません。

解決策: サーバーの全体管理を使用してサービス接続を構成します

1. この手順を実行するユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. State Service が既に存在する場合は、手順 7. に進みます。
3. State Service が存在しない場合は、作成する必要があります。そのためには、サーバーの全体管理のホーム ページで、**[構成ウィザード]** をクリックします。
4. **[構成ウィザード]** ページの **[ファームの構成]** で、**[ファーム構成ウィザードの起動]** をクリックします。
5. **[SharePoint ファームの構成]** ページで、**[ウィザードの開始]** をクリックします。
6. 次のページで、**[State Service]** チェック ボックスがオンになっていることを確認し、ページの下部にある **[OK]** をクリックします。
7. ウィザードを最後まで実行して State Service を作成します。
8. State Service と、Health Analyzer ルールで言及されている Web アプリケーションを関連付けます。そのためには、サーバーの全体管理ホーム ページの **[アプリケーション構成の管理]** で、**[Web アプリケーションの管理]** をクリックします。
9. **[Web アプリケーション]** ページで、サービス接続を構成する Web アプリケーションをクリックし、リボンの **[サービス接続]** をクリックします。
10. **[サービス アプリケーションの関連付けの構成]** ダイアログ ボックスで、**[State Service]** チェック ボックスがオンになっていることを確認し、**[OK]** をクリックします。

期限切れセッションが、ASP.NET セッション状態データベースから削除されていません (SharePoint Server 2010)

ルール名: 期限切れセッションが、ASP.NET セッション状態データベースから削除されていません

概要: 期限切れセッションが削除されない場合、ASP.NET セッション状態データベースをホストするサーバーのディスク領域が不足し、SharePoint ファームが機能しなくなる可能性があります。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- SQL Server エージェント サービスが停止されました。
- SQL Server Express がインストールされています。

重要:

SQL Server エージェント サービスは SQL Server Express のインスタンスでは実行できません。

解決策: SQL Server エージェント サービスを開始します

1. この手順を実行するユーザー アカウントが、ASP.NET セッション状態データベースをホストするデータベース サーバーの Administrators グループのメンバーであることを確認します。
2. Services スナップインで、SQL Server エージェント サービスを開始します。

[State Service の期限切れセッションの削除] タイマー ジョブが有効になっていません (SharePoint Server 2010)

ルール名: [State Service の期限切れセッションの削除] タイマー ジョブが有効になっていません

概要: State Service では、期限切れのセッションのデータを State Service データベースから削除するのにタイマー ジョブを使用します。このタイマー ジョブが有効でないと、State Service データベースをホストするサーバーでディスクの空き領域が不足し、SharePoint ファームが機能しなくなります。

原因: [State Service の期限切れセッションの削除] タイマー ジョブが有効になっていません。

解決策: サーバーの全体管理を使用して、タイマー ジョブを有効にします。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。

 **メモ:**

タイマー ジョブの設定はファーム全体が対象であり、ファーム内の個々のサーバーに対して設定することはできません。

2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[タイマー ジョブ]** セクションで、**[ジョブ定義の確認]** をクリックします。
4. **[ジョブの定義]** ページで、**[State Service の期限切れセッションの削除]** タイマー ジョブをクリックします。
5. **[タイマー ジョブの編集]** ページで、目的のスケジュールを指定し、**[有効]** をクリックします。


解決策: Windows PowerShell を使用して、タイマー ジョブを有効にします。

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. **[スタート]** メニューの **[すべてのプログラム]** をクリックします。
3. **[Microsoft SharePoint 2010 製品]** をクリックします。
4. **[SharePoint 2010 管理シェル]** をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Enable-SPTimerJob StateServiceExpiredSessionJobDefinition
```

詳細については、「[Enable-SPTimerJob](#)」を参照してください。

 **メモ:**

コマンドライン管理タスクを実行するときには **Windows PowerShell** を使用することが推奨されています。**Stsadm** コマンドライン ツールは推奨されていませんが、製品の以前のバージョンとの互換性をサポートするために含まれています。

1 つ以上の Search クロール データベースに断片化されたインデックスがあります (SharePoint Server 2010)

ルール名: 検索 - 1 つ以上のクロール データベースに断片化されたインデックスがあります

概要: この記事では、Search Service アプリケーションのクロール データベースの断片化に関する SharePoint Health Analyzer ルールについて説明します。クロール データのインデックスの断片化は、通常のディスクの断片化とは異なるレベルで発生します。これは、標準のクロール アクティビティ時にデータが作成、更新、または削除されるときに、各クロール データベース内で発生します。正常性ルールを実行すると、システムは、使用されている記憶域を連続化し、未使用の記憶域を取り除き、データベースを最適化します。

クロール データベース ルールは、次の場合に実行することをお勧めします。

- Microsoft SQL Server 2008 Enterprise を実行している場合。クロール データベース ルールを実行すると、ページ圧縮機能が自動的に有効になり、I/O およびディスク記憶域の使用率が最適化されます。
- パフォーマンスの大幅な低下の原因がクロール データベースの断片化によるものと判断される場合。クロール データベースは、通常、ある程度の断片化を伴うため、これはまれな場合です。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- クロール データベースへのクロール履歴の書き込みに時間がかかるほど、クロール レートが低下する可能性があります。
- クロール データベースの最適化の正常性ルールが実行され、断片化の修正が試みられます。メモ: このルールが断片化を修正するとき、クロール レートが影響を受けます。プロパティ データベースへのメタデータの書き込みに時間がかかるほど、クロール レートは低下する可能性があります。

原因: 断片化が生じるのは、キー値に基づく論理的な順番が、データ ファイル内の物理的な順番に一致しないページをインデックスが持つ場合です。インデックスのリーフ ページには、インデックス内の次のページと前のページへのポインターが含まれます。このため、すべてのインデックス/データ ページの二重リンク リストが形成されます。データ ファイル内のページの物理的な順番が、論理的な順番に一致するのが理想です。物理的な順番がデータの論理的な順番に一致する場合、全体のディスク スループットは増加します。

断片化されたインデックスの手動での検出と修復を含めて、データベースの断片化の詳細については、Microsoft SQL Server のドキュメントを参照してください。

解決策: クロール データベースの最適化の正常性ルールを有効にして、実行します。

1. この手順を実行しているユーザー アカウントが Farm Administrators グループのメンバーであることを確認します。

2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[監視]** ページの **[Health Analyzer]** セクションで、**[ルール定義の確認]** をクリックします。
4. **[すべてのルール]** ページの **[パフォーマンス]** セクションで、**[検索 - 1 つ以上のクローल データベースに断片化されたインデックスがあります]** をクリックします。
5. ルールが有効でない場合は、**[Health Analyzer ルールの定義]** ダイアログで、リボンの **[アイテムの編集]** をクリックします。**[有効]** チェック ボックスをオンにして、リボンの **[保存]** をクリックします。
6. リボンの **[今すぐ実行]** をクリックします。
7. **[閉じる]** をクリックします。

すべての Search Service アプリケーション内のすべてのクロール データベースに対して、ルールが繰り返されます。実行時に、最初はオンライン最適化の実行が試みられ、次に、必要に応じてオフライン最適化に切り替わります。オンライン最適化では、SQL Server リーフ ページのみが最適化され、SQL Server ロック ページは最適化されません。オフライン最適化では、ロック ページとすべてのリーフ ページが最適化されます。

 **メモ:**

SQL Server 2008 Enterprise では、正常性ルールによって、ページ圧縮機能が自動的に有効になり、I/O およびディスク記憶域の使用率が最適化されます。

インデックスが断片化されている検索プロパティ データベースがあります (SharePoint Server 2010)

ルール名: 検索 - インデックスが断片化されているプロパティ データベースがあります

概要: ここでは、Search Service アプリケーションのプロパティ データベースの最適化に関する SharePoint Health Analyzer ルールの詳細について説明します。プロパティ データのインデックスの断片化は、普通のディスクの断片化とは異なるレベルで発生します。つまり、通常のクローラ アクティビティの間にデータが作成、更新、または削除されると、各プロパティ データベースの内部で発生します。プロパティ データベースの正常性ルールを実行すると、使用されている記憶域が連続化され、使用されていない記憶域が除去されて、データベースが最適化されます。

現象: 以下の現象のうちの 1 つまたは複数が発生する場合があります。

- クエリの待機時間が長くなります。
- プロパティ データベースへのメタデータの書き込みにかかる時間が長くなるため、クローラ レートが低下します。
- プロパティ データベース最適化正常性ルールは、インデックスが断片化しているプロパティ データベースを検出し、断片化の是正を試みます。注: このルールが断片化を修正している間、クエリの待機時間およびクローラ レートが影響を受けます。

原因: キー値に基づく論理的な順序がデータ ファイル内での物理的な順序と一致しないページがインデックスにある場合、断片化が存在します。インデックスのすべてのリーフ ページには、インデックス内の次のページと前のページへのポインターが含まれます。これにより、すべてのインデックス/データ ページの二重にリンクされたリストが形成されます。理想的には、データ ファイル内のページの物理的な順序が、論理的な順序と一致している必要があります。物理的な順序がデータの論理的な順序と一致していると、ディスクの全体的なスループットが大きく向上します。


断片化したインデックスを手動で検出して修復する方法など、データベースの断片化に関する詳細については、Microsoft SQL Server のドキュメントを参照してください。

解決策: プロパティ データベース最適化正常性ルールを有効にして実行します

1. サーバーの全体管理ホーム ページで、[監視] をクリックします。
2. [監視] ページの [Health Analyzer] セクションで、[ルール定義の確認] をクリックします。
3. [すべてのルール] ページの [パフォーマンス] セクションで、[検索 - インデックスが断片化されているプロパティ データベースがあります] ルールをクリックします。

4. ルールが有効になっていない場合は、[Health Analyzer ルールの定義] ダイアログ ボックスで、リボンの [アイテムの編集] をクリックします。[有効] チェック ボックスがオンになっていることを確認し、リボンの [保存] をクリックします。
5. リボンの [今すぐ実行] をクリックします。
6. [閉じる] をクリックします。

既定では、プロパティ データベース最適化ルールは有効になっており、すべての Search Service アプリケーションのすべてのプロパティ データベースに対して 1 週間に 1 回実行されます。ルールは、実行すると、特定のプロパティ データベースが設定されている断片化率を超えているかどうかを判定します。プロパティ データベースが設定されている断片化率を超えている場合、正常性ルールは最初にオンラインでの最適化の実行を試みます。次に、必要に応じてオフラインでの最適化に切り替えます。オンライン最適化では、Microsoft SQL Server のリーフ ページのみが最適化され、SQL Server のロックされているページは最適化されません。オフライン最適化では、ロックされているページとすべてのリーフ ページが最適化されます。

 **メモ:**

Microsoft SQL Server 2008 Enterprise では、正常性ルールは自動的にページ圧縮機能を有効にして、I/O とディスク使用率を最適化します。

Web ブラウザーで InfoPath Forms Services フォームを入力できません (SharePoint Server 2010)

ルール名: Web ブラウザーで InfoPath フォーム ライブラリ フォームに入力できません

概要: InfoPath Forms Services ユーザーは、ブラウザ対応のフォーム テンプレートを Microsoft SharePoint Server 2010 フォーム ライブラリに発行できますが、Web ブラウザーでフォームを開くことができません。

メモ:

この問題は、フォーム ライブラリに発行されたフォームでのみ発生します。リスト フォームまたはファーム管理者によってアップロードされたフォームでは発生しません。

原因: 次の 1 つ以上の問題が原因である可能性があります。

- サーバーの全体管理で **[ユーザーがブラウザ対応化したフォーム テンプレートをレンダリングする]** チェック ボックスがオフになっています。
- Windows PowerShell コマンド `Set-SPInfoPathFormsService - AllowUserFormBrowserRendering $false` が実行されています。

解決策: サーバーの全体管理を使用してユーザー フォームのブラウザでのレンダリングを有効にします

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理のホーム ページで、**[アプリケーションの全般設定]** をクリックします。
3. **[アプリケーションの全般設定]** ページで、**[InfoPath Forms Services]** セクションの **[InfoPath Form Services の構成]** をクリックします。
4. **[InfoPath Forms Services の構成]** ページの **[ブラウザ対応のユーザー フォーム テンプレート]** セクションで、**[ユーザーがブラウザ対応化したフォーム テンプレートをレンダリングする]** チェック ボックスをオンにします。
5. ページの下部にある **[OK]** をクリックします。

解決策: Windows PowerShell を使用してユーザー フォームのブラウザでのレンダリングを有効にします

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. **[スタート]** メニューの **[すべてのプログラム]** をクリックします。

3. [Microsoft SharePoint 2010 Products] をクリックします。
4. [SharePoint 2010 管理シェル] をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Set-SPInfoPathFormsService -AllowUserFormBrowserRendering $true
```

詳細については、「[Set-SPInfoPathFormsService](#)」を参照してください。

Word Automation Services のタイマー ジョブが実行されていません

ルール名: Word Automation Services のタイマー ジョブが実行されていません

概要: この SPHA ルールが重大な状態になっている場合は、Word Automation Services のタイマー ジョブが必要なときに実行されていないことを示します。

原因: Word Automation Services では、カスタム タイマー ジョブを使用して Word Automation Services データベースから変換アイテムを抽出し、それらの変換アイテムを個別のアプリケーション サーバーに割り当てます。カスタム タイマー ジョブが実行されていないと、変換アイテムの変換処理を開始できません。

解決策: サーバーの全体管理 Web サイトを使用して、タイマー ジョブを有効にします

1. この手順を実行しようとしているユーザー アカウントが、Farm Administrators SharePoint グループのメンバーであることを確認します。
2. サーバーの全体管理 Web サイトのホームページで、**[監視]** をクリックします。
3. **[ジョブ定義の確認]** をクリックします。
4. **[Word Automation Services のタイマー ジョブ]** をクリックします。
5. **[有効にする]** をクリックします。

解決策: Windows PowerShell を使用して、タイマー ジョブを有効にします

1. 次の最小要件を満たしていることを確認します。Add-SPShellAdmin を参照してください。
2. **[スタート]** メニューの **[すべてのプログラム]** をクリックします。
3. **[Microsoft SharePoint 2010 Products]** をクリックします。
4. **[SharePoint 2010 管理シェル]** をクリックします。
5. Windows PowerShell コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。

コードのコピー

```
Enable-SPTimerJob "Word Automation Services"
```

詳細については、「[Enable-SPTimerJob](#)」を参照してください。

解決策: Word Automation Services サービスが正しく準備されていることを確認します

- Word Automation Services サービスが正しく準備されていることを確認するには、「[Word Automation Services を開発のために設定する](#)」を参照してください。

解決策: 他のトラブルシューティング情報を参照する

- 他のトラブルシューティングの手順については、「[Word Automation Services のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

インストール リファレンス (SharePoint Server 2010)

このセクションの内容

- [セットアップのコマンドライン リファレンス \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Config.xml リファレンス \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Psconfig コマンドライン リファレンス \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Windows PowerShell コマンド \(SharePoint Server 2010\)](#)

セットアップのコマンドライン リファレンス (SharePoint Server 2010)

SharePoint 2010 製品では、セットアップのコマンドライン ツールを使用する操作はわずかであり、そのほとんどは IT 管理者のみが使用します。

この記事の内容

- [セットアップのコマンドライン スイッチの使用方法](#)
- [使用できるスイッチとパラメーター](#)

セットアップのコマンドライン スイッチの使用方法

コマンドラインからセットアップを実行するには、コマンドの後にスペースを 1 つ空けて、スラッシュ (/) とスイッチの名前を入力します。場合によっては、さらにスペースを空けて 1 つ以上のパラメーターを指定することもあります。次に例を示します。

コードのコピー

```
setup.exe /<switch> [parameter]
```


パラメーターは、コマンドの実行方法についてのより詳細な情報をプログラムに提供する具体的な指示です。次のセクションの表では、スイッチの例を示します。

使用できるスイッチとパラメーター

SharePoint 2010 製品では、セットアップは以下のコマンドライン オプションを認識します。

スイッチまたはパラメーター	説明
---------------	----

スイッチまたはパラメーター	説明
/config [path and file name]	<p>セットアップがインストールの間に使用する構成ファイルを指定します。既定では、コア製品フォルダーに格納される Config.xml ファイルで、セットアップにその製品のインストールが指示されます。Config.xml ファイルを編集してインストールをさらにカスタマイズしたり、別の構成ファイルを指定したりできます。</p> <p>製品の DVD には、Config.xml ファイルの例が含まれます。サンプルのファイルは、DVD のルートにある Files フォルダの下、さまざまなシナリオに対応するフォルダーに格納されています。たとえば、Files¥SetupFarmSilent フォルダには、サイレントモードでサーバーファームを設定する場合に使用する Config.xml ファイルが格納されています。</p> <p>特定の製品用の既定 Config.xml ファイルの場所を指定するには、またはカスタム構成ファイルを指定するには、セットアップのコマンドラインで /config を使用します。</p> <p>例</p> <p>カスタマイズした Config.xml ファイルを指定するには:</p> <pre> ¥¥<server>¥<share>¥setup.exe /config ¥¥<server>¥<share>¥<folder>¥config.xml </pre> <p><folder> は、Config.xml ファイルのあるフォルダーです。または、別の構成ファイルを指定します。</p> <pre> ¥¥<server>¥<share>¥setup.exe /config ¥¥<server>¥<share>¥Files¥SetupFarmSilent¥config.xml </pre>
/modify [ProductID]	<p>/modify スイッチは、変更した Config.xml ファイルと共に使用して、メンテナンスモードでセットアップを実行し、機能の追加や削除など、Office の既存のインストールを変更します。</p> <p>変更する製品について、Setup.xml ファイルの [ProductID] の値を検索します。Setup.xml ファイルは、ネットワークインストールポイントまたは製品 DVD のルートにあるコア製品フォルダーに格納されています。たとえば、SharePoint Foundation 2010 用の Setup.xml ファイルは Wss.en-us フォルダにあります。</p> <p>Setup.xml で、[ProductID] は Setup 要素の Id 属性の値と同じです。次に例を指名します。</p> <pre> -<Setup Id="Wss" Type="Product" ProductCode="{40120000-1110-0000-0000-00000000FF1CE}"> </pre> <p>このスイッチを使用して、サーバーの構成を変更することはできません (スタンドアロン構成からサーバーファーム構成</p>

スイッチまたはパラメーター	説明
	<p>へ、など)。構成を変更するには、アンインストールして再インストールする必要があります。</p> <p>例</p> <pre>%%<server>%<share>%setup.exe /modify wssmui.en.us /config %%<server>%<share>%<folder>config.xml</pre> <p>この例では、DVD のルートにあるセットアップはメンテナンス モードで実行し、wss 製品 ID で指定されているように SharePoint Foundation を変更します。Config.xml ファイルを指定しないと、セットアップは Setup.exe ファイルと同じフォルダーにある Config.xml を使用します。</p> <pre>%%<server>%<share>%setup.exe /modify wss</pre>
/repair [ProductID]	<p>セットアップを実行して、指定した製品に必要なファイルを修復します。セットアップを修復モードで実行すると、プログラム ファイルのみが修復され、サーバーの構成やサイトは修復されません。</p> <p>変更する製品について、Setup.xml ファイルの [ProductID] の値を検索します。Setup.xml ファイルは、ネットワーク インストール ポイントまたは製品 DVD のルートにあるコア製品フォルダーに格納されています。たとえば、SharePoint Foundation 2010 用の Setup.xml ファイルは、DVD のルートの Global フォルダーにあります。</p> <p> メモ:</p> <p>構成の修復を完了するには、<code>setup.exe /repair</code> を実行した後で SharePoint 製品構成ウィザードも実行する必要があります。スタンドアロン構成を使用している場合は、ウィザードを使用するのではなく、<code>psconfig.exe -setup</code> をコマンドラインから実行して構成を修復できます。サーバー ファーム構成を使用している場合は、ウィザードの完全なインターフェイスを使用する必要があります。詳細については、SharePoint 製品構成ウィザードのヘルプを参照してください。</p> <p>例</p> <pre>%%<server>%<share>%setup.exe /repair Wss</pre>
/uninstall [ProductID]	<p>指定した製品をユーザーのコンピューターから削除します。変更する製品について、Setup.xml ファイルの [ProductID] の</p>

スイッチまたはパラメーター	説明
	<p>値を検索します。</p> <p>変更する製品について、Setup.xml ファイルの [ProductID] の値を検索します。Setup.xml ファイルは、ネットワーク インストール ポイントまたは製品 DVD のルートにあるコア製品 フォルダーに格納されています。たとえば、SharePoint Foundation 2010 用の Setup.xml ファイルは、DVD のルートの Global フォルダーにあります。</p> <p>例</p> <pre>¥¥<server>¥<share>¥setup.exe /uninstall WSS</pre>

コマンド プロンプトで Config.xml ファイルを指定して セットアップを実行する

構成ファイルを指定してセットアップを実行すると、サイレント インストールの間に構成の選択 (データの場所やサーバー ロールなど) を指定できます。たとえば、Config.xml ファイルを使用して以下のことができます。

- サイレント インストールを実行する。
- 複数のサーバーでインストールに共通の構成を使用する。
- インストールを自動的に、またはスクリプトで実行する。

コマンド プロンプトで構成ファイルを使用してセットアップを実行するには、次の手順を使用します。

1. 製品の DVD があるドライブで、ルート ディレクトリに移動して Setup.exe ファイルを探します。
2. Config.xml ファイルを選択してセットアップを実行します。

setup /config <パスとファイル名>

 **メモ:**

Microsoft SharePoint Server 2010 の製品 DVD に含まれるサンプル ファイルのいずれかを選択することも、独自の構成ファイルをカスタマイズすることもできます。

3. Enter キーを押します。

詳細については、「[Install SharePoint Server 2010 using Windows PowerShell](#)」を参照してください。

Psconfig コマンドライン リファレンス (SharePoint Server 2010)

SharePoint 2010 製品では、Psconfig コマンドライン ツールを代替のインターフェイスとして使用して、SharePoint 2010 製品の構成を制御するいくつかの操作を行うことができます。これらの操作を行うには、ローカル コンピューターの Administrators グループのメンバーである必要があります。

この記事の内容

- [Psconfig コマンドの使用法](#)
- [使用できるコマンドとパラメーター](#)

Psconfig コマンドの使用法

コマンド プロンプトで Psconfig を実行するとき、コマンドを指定してこのツールの動作を制御できます。コマンド プロンプトで Psconfig を実行するには、`%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\web server extensions\14\bin` フォルダーに移動し、次の構文でコマンドを入力します。

コードのコピー

```
psconfig.exe -cmd <command> [optional parameters]
```

次のセクションのリファレンス表で、いくつかの例を示しています。コマンドライン インターフェイスからヘルプを表示することもできます。ヘルプを表示するには、コマンド プロンプトで次のように入力します。

コードのコピー

```
psconfig.exe -?
```


特定のコマンドのヘルプを表示するには、次のように入力します。

コードのコピー

```
psconfig.exe -help <command name>
```

Psconfig のコマンドは、一定の順序で実行しないと、正しく実行されません。インストールの構成に SharePoint 製品構成ウィザードを使えば、コマンド (“構成タスク” と呼ばれる) が正しい順序で呼び出されますが、コマンドラインで Psconfig を実行する場合は、ユーザー自身がタスクを正しい順序で実行する必要があります。Psconfig のコマンドは、以下の順序で実行する必要があります。

1. configdb
2. helpcollections
3. secureresources
4. services
5. installfeatures
6. adminvs
7. evalprovision (スタンドアロン インストールのみ)
8. applicationcontent
9. upgrade

 **重要:**

サーバー ファームのアップグレードが必要であることを Psconfig が検出すると、(upgrade コマンドを選択していなくても) 実行時にアップグレードが自動的に開始されます。

実行するすべてのコマンドを 1 行のコマンドラインで指定できます。その場合、指定したすべてのコマンドが Psconfig によって正しい順序で実行されます。たとえば、コマンド プロンプトで、次のようなコマンドを実行できます。

コー
ドの
コピ
ー

```
psconfig.exe -cmd configdb <parameters> -cmd helpcollections <parameters> -cmd  
secureresources <parameters> -cmd services <parameters> -cmd installfeatures <parameters> -  
cmd adminvs <parameters> -cmd evalprovision <parameters> -cmd applicationcontent  
<parameters>
```

コマンドラインからサーバーまたはサーバー ファームを構成する方法については、「Microsoft SharePoint Server 2010 TechCenter」を参照してください。

使用できるコマンドとパラメーター


SharePoint 製品構成ウィザードでは、以下のコマンドライン オプションが認識されます。

コマンド	説明、パラメーター、例
?	<p>Psconfig で使用可能なコマンドを表示します。</p> <p>例</p> <p>psconfig.exe -?</p>
help <command name>	<p>Psconfig で使用可能なコマンドを表示します。特定のコマンドの名前を指定すると、そのコマンドのヘルプが表示されます。</p> <p>例</p> <p>psconfig.exe -help adminvs</p>
adminvs	<p>ローカル コンピューター上で、SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションを管理します。以下のオプションのパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>[-provision]</i></p> <p>このサーバー上で、SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションを準備します。新しい SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションと、サーバー ファーム管理者アカウントの下で動作するアプリケーションプールが作成されます。</p> <p><i>[-unprovision]</i></p> <p>このサーバーの SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションの準備を解除します。準備を解除することによって、SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションとそのアプリケーションプールが削除されます。</p> <p><i>[-port <port number>]</i></p> <p>SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションのポートは、サーバー ファームに適用されるグローバル設定です。ポートを変更すると、SharePoint Timer Service ジョブがディスパッチされ、サーバー ファーム内のすべての SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションのポートが同期されます。ポートを省略すると、サーバー ファーム内の既存の SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションのポートが使用されます。サーバー ファーム内で SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションをまだ準備していないときにポートを省略すると、既定のポートがランダムに選択されます。</p>

コマンド	説明、パラメーター、例
	<p><i>[-windowsauthprovider <enablekerberos / onlyusentlm>]</i></p> <p>SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションの認証プロバイダーは、サーバー ファームから見てグローバルな設定となります。認証プロバイダーを変更すると、SharePoint Timer Service ジョブがディスパッチされ、サーバー ファーム内のすべての SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションのプロバイダーが同期されます。 <i>onlyusentlm</i> を指定すると、NTLM がすべての SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションの専用の認証プロバイダーになります。他のすべての認証プロバイダーは無効になり、NTLM だけが、許可された唯一の認証プロバイダーになります。 <i>enablekerberos</i> を指定すると、すべての SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションに対して Kerberos 認証が有効化されます。認証プロバイダーを省略すると、サーバー ファームの既存の SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションの認証プロバイダーが使用されます。サーバー ファーム内で SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションをまだ準備していないときに認証プロバイダーを省略すると、Kerberos 認証プロバイダーが有効にされます。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd adminvs -provision -port 8080 -windowsauthprovider onlyusentlm psconfig.exe -cmd adminvs -unprovision</pre>
applicationcontent	<p>共有アプリケーション コンテンツを管理します。以下の必須のパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>-install</i></p> <p>共有アプリケーション データ (リソース ファイル、Web アプリケーション バイナリなど) を既存の Web アプリケーションの仮想ディレクトリにコピーします。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd applicationcontent -install</pre>
configdb	<p>データベースを作成または接続するか、このサーバーをサーバー ファームから切断します。以下のオプションのパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>[-create]</i></p> <p>構成データベースを新規に作成し、新しいサーバー ファームを構築します。このサーバーが既に構成データベースに接続されている場合、まずそのサーバーが切断され、その後新しい構成データベースが作成されます。</p> <p><i>[-disconnect]</i></p> <p>このサーバーを構成データベースから切断し、サーバー ファームと切り離します。</p> <p><i>[-connect]</i></p>

コマンド	説明、パラメーター、例
	<p>既存の構成データベースに接続して、このサーバーを既存のサーバー ファームに参加させます。このサーバーが既に構成データベースに接続されている場合、まずそのサーバーが切断され、その後、既存の構成データベースに接続されます。</p> <p><i>[-server <SQLServerName>]</i> 構成データベースがある場所で Microsoft SQL Server を実行しているコンピューター。</p> <p><i>[-database <SQLDatabaseName>]</i> 構成データベースの名前。</p> <p><i>[-dbuser <value>]</i> SQL 認証に使用されるユーザー名。</p> <p><i>[-dbpassword <value>]</i> SQL 認証に使用されるパスワード。</p> <p><i>[-user <Domain#User>]</i> サーバー ファーム管理者のユーザー アカウント。</p> <p><i>[-password <Password>]</i> サーバー ファーム管理者のユーザー アカウントのパスワード。</p> <p><i>[-addomain <value>]</i> サーバー ファームで使用する Active Directory ドメイン名。</p> <p><i>[-adorgunit <value>]</i> サーバー ファームで使用する Active Directory 組織単位名。</p> <p><i>[-admincontentdatabase <SQLAdminContentDatabaseName>]</i> サーバーの全体管理 Web アプリケーションのコンテンツ データベース名。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd configdb -create -server <Server_name> -database <Database_name> -dbuser <DOMAIN#username> -dbpassword <password> -user <DOMAIN#username> -password <password> -addomain <domain_name> -adorgunit <org_unit> -admincontentdatabase <Database_name> psconfig.exe -cmd configdb -disconnect psconfig.exe -cmd configdb -connect -server <Server_name> -database <Database_name> -dbuser <DOMAIN#username> -dbpassword <password></pre>
evalprovision	このサーバーをスタンドアロン (評価モード) サーバーとして準備します。以下の必須パラメーターとオプションのパラメーターを受け取ります

コマンド	説明、パラメーター、例
	<p>。</p> <p><i>-provision</i></p> <p>このサーバーでスタンドアロン モードの準備を実行します。</p> <p><i>[-port <port number>]</i></p> <p>既定の SharePoint Web アプリケーションに割り当てるポート番号です。省略すると、ポート 80 が使用されます。このポートを使用している SharePoint Web アプリケーションが既に存在する場合は、既存のサイトが上書きされます。このポートを使用している既存のサイトが SharePoint Web アプリケーションでない場合は、そのサイトが無効になり、このポートを使用して新しい SharePoint Web アプリケーションが作成されます。</p> <p><i>[-overwrite]</i></p> <p>インストール中に既存の Microsoft SharePoint Server 2010 Web サイトを上書きするかどうかを指定します。これを指定しなければ、サイトは削除されません。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd evalprovision -provision -port 1100</pre>
helpcollections	<p>ヘルプ コレクションを管理します。以下の必須のパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>-installall</i></p> <p>使用可能なヘルプ コレクションをすべてインストールします。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd helpcollections -installall</pre>
installfeatures	<p>このサーバーのファイル システム上にあるすべての SharePoint 製品とテクノロジーをサーバー ファームに登録します。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd installfeatures</pre>
quiet	<p>SharePoint 製品構成ウィザードを自動モードで実行します。ログ ファイル PSCONFIG.EXE_MM_DD_YY_HH_MM_SS_MS.log に出力が書き込まれます。ここで、“_MM_DD_YY_HH_MM_SS_MS” は、このユーティリティが実行された日時です。ログ ファイルは %COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\web server extensions\14\LOGS ディレクトリに格納されます。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd quiet</pre>
secureresources	<p>サーバー上で SharePoint 2010 製品リソース セキュリティの適用を行います。たとえば、ファイル、フォルダー、レジストリ キーがセキュリティ保護の対象となります。</p>

コマンド	説明、パラメーター、例
	<p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd secureresources</pre>
services	<p>SharePoint 2010 製品サービスを管理します。以下のオプションのパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>[-install]</i> このサーバーのすべてのサービスをサーバー ファームに登録します。</p> <p><i>[-provision]</i> このサーバーにあるすべてのサービスを準備します。SharePoint 2010 製品がスタンドアロン モードでインストールされている場合は、それらのサービスをオンラインとして設定します。サービスを準備することによって、サービスが確実に登録されます。</p> <p> メモ:</p> <p><i>[-provision]</i> パラメーターは、単一サーバーのスタンドアロン インストールでのみサポートされます。ファーム インストールでは、このパラメーターを使用しないでください。</p> <p>例</p> <pre>psconfig.exe -cmd services -install psconfig.exe -cmd services -provision</pre>
setup	<p>インストール モードに基づいて SharePoint 2010 製品の構成を行います。構成の修復も行います。製品がスタンドアロン モードでインストールされている場合は、スタンドアロンの構成が行われます。製品がスタンドアロン モードでない場合は、Psconfig コマンドライン ツールではなく、SharePoint 製品構成ウィザードを使用して初期構成を行う必要があります。ウィザードを実行するには、[スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[管理ツール] の順にポイントし、[SharePoint 製品構成ウィザード] をクリックします。</p> <p>スタンドアロン インストールを修復する場合は、まず <code>setup /repair</code> を実行します (詳細についてはセットアップのヘルプを参照してください)。その後、<code>psconfig.exe -setup</code> を実行します。サーバー ファームのインストールでは、<code>setup /repair</code> を実行した後、Psconfig コマンドライン ツールの代わりに SharePoint 製品構成ウィザードを使用します。</p> <p>次のオプションのパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>[-lcid <1033>]</i> インストール言語を指定するロケール ID (LCID)。</p> <p>例</p>

コマンド	説明、パラメーター、例
	psconfig.exe -cmd setup
standaloneconfig	<p>SharePoint 製品とテクノロジのスタンドアロン構成を実行します。以下のオプションのパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>[-lcid <1033>]</i> インストール言語を指定するロケール ID (LCID)。</p> <p>例 psconfig.exe -cmd standaloneconfig</p>
upgrade	<p>SharePoint 2010 製品のアップグレードを実行します。SharePoint 製品構成ウィザードの実行時にアップグレードが必要な場合は、このコマンドが自動的に実行されます。以下のオプションのパラメーターを受け取ります。</p> <p><i>[-wait]</i> これを指定すると、アップグレードが完了するまで SharePoint 製品構成ウィザードは復帰しません。省略すると、アップグレードを実行する SharePoint Timer Service ジョブをディスパッチした後にウィザードに戻ります。アップグレード ジョブの進捗を見るには、Web ブラウザーで SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションにアクセスします。</p> <p><i>[-force]</i> これを指定すると、SharePoint 製品構成ウィザードは、現在実行されているアップグレードがあればそれを停止し、その後、再びアップグレードを開始します。</p> <p><i>[-reghostonupgrade]</i> これを指定すると、SharePoint 製品構成ウィザードはアップグレード時にすべてのコンテンツをサイト定義バージョンにリセットします。</p> <p><i>[-inplace <v2v/b2b>]</i> これを指定すると、SharePoint 製品構成ウィザードは一括アップグレードを実行します。v2v を指定した場合は、バージョンからバージョンへの一括アップグレードが実行されます。b2b を指定した場合は、ビルドからビルドへの一括アップグレードが実行されます。</p> <p><i>[-preserveolduserexperience]</i> これを false に設定すると、SharePoint 製品構成ウィザードは最新の SharePoint ユーザー エクスペリエンスを使用するようにサイトを更新します。このパラメーターを省略すると、既定値として true が使用されます。</p> <p><i>[-passphrase]</i> サーバー ファームに参加するためのパスフレーズ。パスフレーズの値をファーム内のすべてのサーバーで同じにしないと、ファームは正しく機</p>

コマンド	説明、パラメーター、例
	<p>能しません。</p> <p>例</p> <p>psconfig.exe -cmd upgrade -inplace v2v -wait</p>

コマンド

Config.xml リファレンス (SharePoint Server 2010)

Microsoft SharePoint Server 2010 のインストール方法を制御するときは、Config.xml ファイルとセットアップ コマンド ライン ツールを使用します。Config.xml ファイルを使用すると、たとえば以下のことができます。

- SharePoint Server 2010 のサイレント インストールを実行する。
- 複数のサーバーで共通の構成を使用して SharePoint Server 2010 をインストールする。
- SharePoint Server 2010 の自動インストールまたはスクリプト化インストールを実行する。

この記事の内容

- [Config.xml をカスタマイズする](#)
- [Config.xml 要素のクイック リファレンス](#)
- [動作のしくみ](#)
- [Config.xml ファイルの形式](#)
- [Config.xml 要素のリファレンス](#)

Config.xml をカスタマイズする

インストールを制御するには、まずテキスト エディターで Config.xml ファイルを編集して必要な要素を組み込み、それらの要素にとって適切な設定を指定します。次に `setup.exe /config [path and file name]`

を実行して、Config.xml ファイルで設定されているオプションを使用してセットアップが実行されるようにします。

重要:

Config.xml を編集するには、メモ帳などのテキスト エディターを使用します。Microsoft Office Word 2007 などの汎用の XML エディターは使用しないでください。

製品 DVD には Config.xml ファイルのサンプルが含まれています。これらのサンプル ファイルは、DVD のルートにある Files フォルダの下に、異なるシナリオごとのフォルダに格納されています。これらのフォルダを以下に示します。

- **Setup** 単一サーバー (スタンドアロン、SQL Express を含む) のクリーン インストールをセットアップするときに使用する Config.xml ファイルが含まれています。
- **SetupFarm** サーバー ファームのクリーン インストールをセットアップするときに使用する Config.xml ファイルが含まれています。

- **SetupFarmSilent** サイレント モードでサーバー ファームをセットアップするときに使用する Config.xml ファイルが含まれています。
- **SetupFarmUpgrade** 既存のサーバー ファームをアップグレードするときに使用する Config.xml ファイルが含まれています。
- **SetupSilent** サイレント モードで単一サーバー (スタンドアロン、SQL Express を含む) のクリーン インストールをセットアップするときに使用する Config.xml ファイルが含まれています。
- **SetupSingleUpgrade** 既存の単一サーバー (スタンドアロン) をアップグレードするときに使用する Config.xml ファイルが含まれています。

さまざまなアップグレード シナリオの違いの詳細については、「[Determine upgrade approach \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

Config.xml 要素のクイック リファレンス

以下は、Config.xml の要素の一覧表です。これらの要素は、最初に記述しなければならない [Configuration](#) を除き、任意の順序で記述できます。ただし、[Command](#) のような要素は、Config.xml 内での順序がインストール時の要素の処理方法に影響します。

要素	説明
Configuration	最上位の要素です。
ARP	製品についてコントロール パネルの [プログラムの追加と削除] のテキストと動作を制御する値です。
Command	インストール時にコマンドを実行します。
Display	セットアップがユーザーに対して表示する UI のレベルです。
INSTALLLOCATION	ユーザーのコンピューター上での製品のインストール先フォルダーの完全修飾パスです。
Logging	セットアップによって実行されるログ記録の種類を指定するオプションです。
DATADIR	データ ファイルの格納に使用する場所です。
Package	インストールするパッケージまたは製品です。
PIDKEY	25 文字のボリューム ライセンス キーです。
Setting	Windows インストーラーのプロパティの値です。

動作のしくみ

セットアップは、Config.xml のコピーを Setup.exe と同じフォルダー内で検索します。この場所にコピーが見つからなければ、インストールする製品のコア Files フォルダーにある Config.xml ファイルが使用されます。

セットアップの /config コマンドライン オプションを使用して、Config.xml ファイルの場所を指定することもできます。次に例を示します。

```
%%<server>%<share>%setup.exe /config %%<server>%<share>%<folder>%config.xml
```

Config.xml ファイルの形式

Config.xml 内の XML 要素は、左山かっこ (<) で始まり、スラッシュと右山かっこ (/>) で終わります。

基本的な要素の形式は、次のとおりです。

```
<要素名 [属性名="値"] [属性名="値"] ... />
```

次に例を示します。

コードのコピー

```
<Display Level="none" CompletionNotice="no" />
```

要素と属性では、大文字と小文字が区別されます。属性値は、二重引用符 (") で囲む必要があり、大文字と小文字が区別されません。

要素の定義は複数行にわたる場合があります。要素の定義内にあるスペース、復帰、改行、およびタブ文字は無視されます。

次に例を示します。

コードのコピー

```
<Display Level="none" CompletionNotice="no" />
```

ヒント:

要素の定義が長い場合は、各属性を独立した行に配置してインデントを使用すると、ファイルが読みやすくなります。

[Configuration](#) 要素は特殊な要素で必須です。他のすべての要素は [Configuration](#) 要素内に含まれ、この要素は </Configuration> で閉じられます。

次の例は、Microsoft SharePoint Foundation 2010 パッケージのクリーン インストール用の構成ファイルを示しています。

```

<Configuration>
  <Package Id="sts">
    <Setting Id="SETUPTYPE" Value="CLEAN_INSTALL"/>
  </Package>
  <DATADIR Value="%CommonProgramFiles%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\Data"/>
  <Logging Type="verbose" Path="%temp%" Template="Microsoft SharePoint Foundation 2010 Setup
*.log"/>
  <Setting Id="UsingUIInstallMode" Value="1"/>
  <Setting Id="SETUP_REBOOT" Value="Never"/>
</Configuration>

```

コメントは、“<!--”（左山かっこと感嘆符と2つのハイフン）と“-->”（2つのハイフンと右山かっこ）で区切って、任意の場所に追加できます。

次に例を示します。

```

<!-- Install Microsoft SharePoint Server for clean install, using UI-->
<Configuration>
  <Package Id="sts">
    <Setting Id="LAUNCHEDFROMSETUPSTS" Value="Yes"/>
  </Package>
  <Package Id="spswfe">
    <Setting Id="SETUPCALLED" Value="1"/>
  </Package>
  <Logging Type="verbose" Path="%temp%" Template="SharePoint Server Setup(*).log"/>
  <!--<PIDKEY Value="Enter Product Key Here" />-->
  <Setting Id="SERVERROLE" Value="SINGLESERVER"/>
  <Setting Id="USINGUIINSTALLMODE" Value="1"/>
  <Setting Id="SETUPTYPE" Value="CLEAN_INSTALL"/>
  <Setting Id="SETUP_REBOOT" Value="Never"/>
  <!-- Tells Setup.exe not to reboot -->
</Configuration>

```

Config.xml 要素のリファレンス

このリファレンスの説明では、以下の表記規則を使用します。

太字	要素または属性名
通常のフォント	表示されているとおりに入力するテキスト
斜体	追加する値のプレースホルダー
x y	複数の値からの選択

[x]	省略可能な値
-----	--------

Configuration 要素

最上位の要素です。この要素は必須であり、他のすべての要素はこの要素内に含まれている必要があります。

構文

<Configuration>

 <Package Id="ID">

 ...

 </Package>

 ...

</Configuration>

属性

属性	値	説明
Package ID	パッケージ <i>ID</i>	インストール対象のパッケージです。

備考

Package Id 属性は、この Config.xml ファイルの影響を受ける製品およびテクノロジーを識別します。

例

SharePoint Server 2010 のパッケージ ID は **spswfe** です。SharePoint Server 2010 は SharePoint Foundation 2010 のプラットフォーム テクノロジーに基づいているため、**sts** (SharePoint Foundation 2010) パッケージもインストールしないと、インストールは正常に行われません。

Config.xml 内でパッケージ ID として **sts** および **spswfe** を使用し、次のように入力して SharePoint Foundation 2010 および SharePoint Server 2010 を指定します。

コードの
コピー

```
<Configuration>  <Package Id="sts">  ...  </Package>  ...  <Package Id="spswfe">  ...
</Package>  ... </Configuration>
```

ARP 要素

製品についてコントロール パネルの [プログラムの追加と削除] のテキストと動作を制御する値を指定します。

構文

<ARP 属性="値" [属性="値"] ... />

属性

属性	値	説明
ARPCOMMENTS	テキスト	追加のテキストです。最大文字数は 255 ですが、すべての文字が表示されるとは限りません。
ARPCONTACT	テキスト	技術サポートの連絡先の一覧です。
ARPNOMODIFY	Yes	[変更] ボタンを使用できないようにして、ユーザーが製品のインストールを変更できないようにします。
	No (既定値)	ユーザーによる製品のインストールの変更を許可します。
ARNOREMOVE	Yes	[削除] ボタンを使用できないようにして、ユーザーが製品を削除できないようにします。
	No (既定値)	ユーザーが製品を削除することを許可します。
ARPURLINFOABOUT	URL	製品のホーム ページの URL です。
ARPURLUPDATEINFO	URL	製品の更新プログラムに関する情報の URL です。
ARPHHELPINK	URL	ユーザーがテクニカル サポートを受けることができる Web サイトの URL です。
ARPHELPTELEPHONE	テキスト	テクニカル サポートの電話番号です。

Command 要素

実行するコマンド ラインを指定します。Command 要素のコマンドは、初回インストールおよびアンインストール時にのみ処理されます。Command 要素のコマンドは、初回インストール後にカスタマイズに使用しても無視されます。

構文

<Command

Path="パス"

[QuietArg="引数"]

[Args=" 引数"]
 [ChainPosition="Before" | "After"(既定値)]
 [Wait=" ミリ秒"]
 [Execute="Install"(既定値) | "Uninstall"]
 [Platform="x86"(既定値) | "x64"]

/>

属性

Path 属性および Args 属性で二重引用符 (") を指定するには、二重引用符を 2 つ (") 指定します。

属性	値	説明
Path	パス	実行可能な Windows インストーラー パッケージの完全修飾パスです。
QuietArg	文字列	DisplayLevel=None である場合に、コマンドラインに追加される引数の文字列です。
Args	文字列	実行可能ファイルに渡される引数の文字列です。
ChainPosition	Before	このコマンドは、主な製品のインストールの前に実行されます。
	After (既定値)	このコマンドは、主な製品のインストールの後に実行されます。
Wait	ミリ秒	Display の Level 属性を <i>Full</i> または <i>Basic</i> に設定してインストールする場合の、プログラムを実行してからインストールを続行するまでに待機するミリ秒単位の時間です。既定値は 0 (ゼロ) で、これは待ち時間がないことを意味します。
Execute	Install (既定値)	セットアップは、主な製品をインストールするときにこのコマンドを実行します。
	Uninstall	セットアップは、主な製品をアンインストールするときにこのコマンドを実行します。
Platform	x86 (既定値)	このプログラムには Intel x86 プラットフォームが必要であることを指定します。このコマンドは、インストールを実行するコンピューターがこのプラットフォーム要件に一致している場合にのみ実行されます。
	x64	このプログラムには x86 アーキテクチャに対する x64 拡張機能をサポートする 64 ビット プロセッサが必要であることを指定します。このコマンドは、インストールを実行するコンピューターがこのプラットフォーム要件に一致している場合にのみ実行されます。

備考

Config.xml ファイルの **Command** 要素は、製品の初回インストールおよびアンインストールでのみ使用できます。**Command** 要素のコマンドは、初回インストールおよびアンインストール時のみ処理されます。**Command** 要素のコマンドは、初回インストール後にカスタマイズに使用しても無視されます。

こうしたコマンド ラインを指定して、任意のコマンドを実行したり、この製品のインストール時に必要となる軽量な実行可能ファイルを実行したりできます。

Config.xml ファイルの **Command** 要素には、開発の進捗の追跡や問題のトラブルシューティングのような、エンタープライズ ソフトウェア展開および管理ツールに備わっているソフトウェア展開機能がありません。そのため、Config.xml ファイルでの **Command** 要素の使用は、軽量な実行可能プログラムの実行や、コンピューターに対する変更が発生しないかユーザーによる入力が必要としない任意のコマンドの実行に制限することをお勧めします。たとえば、ログをコピーするユーティリティや、インストールの最後にウェルカム ページを表示するコマンドは、実行できません。

コマンド ラインは、チェーン インストールまたはこの製品をインストールするときに実行される実行可能プログラムについて指定できます。これを指定する場合は、単一の .msi ファイルではなく、Setup のコマンド ラインを指定する必要があります。

Config.xml ファイルに複数の **Command** 要素がある場合は、Config.xml で指定されている順序で実行されます。

◆ 重要:

チェーン処理の信頼性は、それぞれの製品を個別にインストールする場合ほど高くはありません。たとえば、チェーン処理によって 2 つの製品をインストールし、一方の製品でインストールに失敗したり予期しないエラーが発生したりすれば、主要なインストールとチェーン インストールがどちらも正常に完了しない可能性があります。そのため、チェーン処理による方法はお勧めしません。複数の製品をまとめてエンタープライズ環境にインストールするときの推奨方法は、チェーン処理ではなく、Microsoft System Center Configuration Manager 2010 や Microsoft Systems Management Server (SMS) 2003 のような展開管理プログラム、またはサードパーティ ツールを使用することです。

Args および **QuietArg** の使用法は、次のとおりです。

- **Args** 属性は、必ずコマンドに追加されます。これには、`/install` や `Company=MyCorporation` のようなスイッチも含まれます。
- サイレント セットアップの実行時 (`Display` が `Display="none"` のように設定されている場合) には、**QuietArg** 属性も追加されます。そのような場合は、**QuietArg** 属性で `"/quiet"` スwitchを指定できます。具体的には、`QuietArg="/quiet"` のように使用します。
- **Args** 要素の値に引用符を含める場合は、`Args="/param value"` のように、値の全体を単一引用符 (') で囲みます。

以下では、Wait 属性について説明します。

- Wait 属性を 0 ミリ秒に設定すると、プログラムを実行してからインストールを続行するまでの待機時間がなくなります。この場合、コマンドは実行後直ちに処理を先へと進めます。リターン コードは、Wait の値が 0 でない場合にのみ意味を持ちます。値に 0 を指定した場合、セットアップは指定されたプログラムの実行後、待機することなくインストールを続行します。そのため、この場合はリターン コードによって返すべき情報がありません。
- Wait 属性に正の値を設定すると、その値をミリ秒数とした時間だけ待機が行われます。プロセスが指定の時間よりも早く終了した場合は、セットアップが続行されます。指定した時間が経過してもプロセスが終了しない場合、セットアップは失敗します。
- Wait 属性を -1 に設定すると、待機状態がいつまでも続くこととなります。コマンド プロセスが応答を停止（ハング）すると、セットアップも応答しなくなり、そのコマンドの実行をいつまでも待ち続けるので、この設定は問題を発生させる可能性があります。

例

```
<Command Path="¥¥server¥share¥myscript.exe" Args="/id "123 abc" QuietArg="/q" Wait="3000">  
<Command Path="¥¥<server>¥<share>¥setup.exe /config ¥¥<server>¥<share>¥<folder>¥config.xml"
```

DATADIR 要素

検索インデックス ファイルを含めて、データ ファイルの格納に使用する場所です。

構文

```
<DATADIR Value="パス"/>
```

属性

属性	値	説明
Value	パス	セットアップは、指定された場所にデータ ファイルを格納します。

備考

パスにはシステム環境変数を使用できます。この要素を指定しないと、データは次のパスに格納されます。

```
%PROGRAMFILES%¥Microsoft Office Servers¥14.0¥Data
```

例

コードのコピー

```
<DATADIR Value="d:¥data"/>
```

Display 要素

セットアップがユーザーに対して表示する UI のレベルです。

構文

<Display

Level="None" | "Basic" | "Full"(既定値)

CompletionNotice="Yes"(既定値) | "No"

SuppressModal="Yes" | "No"(既定値)

NoCancel="Yes" | "No"(既定値)

AcceptEula="Yes" | "No"(既定値)

/>

属性

属性	値	説明
Level	None	セットアップの UI は表示されません。
	Basic	セットアップは、ようこそ画面、プロダクト キー (PIDKEY) のページ (必要な場合)、マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項のページ (必要な場合)、進行状況バー、および完了通知 (許可されている場合) を表示します。
	Full (既定値)	セットアップはユーザーに対してすべての UI を表示します。
CompletionNotice	Yes	Level が <i>Basic</i> または <i>None</i> に設定されている場合にのみ適用されます。セットアップは完了通知を表示します。
	No (既定値)	Level が <i>Basic</i> に設定されている場合にのみ適用されます。セットアップは完了通知を表示しません。
SuppressModal	Yes	Level が <i>Basic</i> に設定されている場合にのみ適用されます。セットアップは、インストールを中断するエラー メッセージおよびその他のダイアログ ボックスを表示しません。
	No (既定値)	Level が <i>Basic</i> に設定されている場合にのみ適用されます。セットアップは、必要に応じてエラーおよびその他のダイアログ ボックスを表示します。
NoCancel	Yes	Level が <i>Full</i> または <i>Basic</i> に設定されている場合に、キャンセルボタン (進行状況ダイアログ ボックスの右上隅の X) を無効にします。
	No (既定値)	Level が <i>Full</i> または <i>Basic</i> に設定されている場合に、ユーザーが進行状況バーからインストールを取り消すことができますようにします。
AcceptEULA	Yes	マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項はユーザーに代わって同意されます。セットアップはマイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項のページを表示しません。

	No (既定値)	Level が None に設定されていない場合、セットアップはマイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項のページを表示します。
--	----------	---

備考

この要素が定義されていない場合、既定の設定が使用されます。無効な値が指定されている場合は、セットアップはインストールを終了します。

Level 属性が Basic または None に設定されていて、PIDKEY 要素を使用してプロダクト キーを指定した場合、セットアップは管理者がユーザーの代わりにライセンス条項にも同意したものと見なします。この場合は、AcceptEULA 属性の設定に関係なく、インストール時にライセンス条項の確認がユーザーに求められることはありません。

メモ:

Display 要素がセットアップによって使用されるのは、Setup.exe と同じフォルダーに Config.xml ファイルが見つかった場合、またはセットアップのコマンドライン オプション /config を使用して Config.xml ファイルを指定した場合に限られます。

例

コードのコピー

```
<Display Level="basic" CompletionNotice="yes" SuppressModal="no"
AcceptEula="yes" />
```

INSTALLLOCATION 要素

ユーザーのコンピューター上での製品のインストール先フォルダーの完全修飾パスを指定します。

構文

```
<INSTALLLOCATION Value="パス" />
```

属性

属性	値	説明
Value	パス	ユーザーのコンピューター上での製品のインストール先フォルダーの完全修飾パスです。

備考

パスにはシステム環境変数を使用できます。この要素を指定しないと、製品は次のパスにインストールされます。

%PROGRAMFILES%\Microsoft Office Servers\14.0\

SharePoint Foundation 2010 テクノロジは、この要素による影響を受けず、次のパスにインストールされます。

%COMMONPROGRAMFILES%\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14

例

コードのコピー

```
<INSTALLLOCATION VALUE="%ProgramFiles%\MyApps" />
```

Logging 要素

セットアップが実行するログ記録の種類を指定します。

構文

```
<Logging
```

```
Type="Off" | "Standard"(既定値) | "Verbose"
```

```
Path="パス"
```

```
Template="ファイル名.txt"
```

```
/>
```

属性

属性	値	説明
Type	Off	セットアップはログ記録を実行しません。
	Standard (既定値)	セットアップはインストール情報をログ ファイルに書き込みます。
	Verbose	セットアップはすべてのインストール情報をログ ファイルに書き込みます。
Path	パス	ログ ファイル用に使用されるフォルダーの完全修飾パスです。環境変数が使用できます。既定値は %temp% です。
Template	ファイル名.txt	ログ ファイルの名前です。ファイル名の任意の場所に文字列 * を挿入すると、セットアップによって実行されるインストールごとに固有のログ ファイルが作成されます (詳細については後述します)。 * が含まれておらず、指定したファイル名が既に存在している場合は、その既存のファイルにログ情報が追加されます。ログ ファイルの名前には、ファイル拡張子 .txt を含める必要があります。既定のテ

		ンプレートは SetupExe(*) .log です。
--	--	------------------------------------

備考

Template 値の任意の場所に * を指定できます。セットアップは、その場所に次の形式で文字列を挿入します。

YYYYMMDDHHMMSSxxx

各部分の意味は次のとおりです。

1. YYYY = 年
2. MM = 月
3. DD = 日
4. HH = 時
5. MM = 分
6. SS = 秒
7. xxx = セットアップによって生成される一意の文字列

メモ:

セットアップで **Logging** 要素が使用されるのは、セットアップのコマンドライン オプション **/config** を使用して **Config.xml** ファイルを指定した場合だけです。使用する **Config.xml** ファイルを指定しない場合、セットアップは既定のログ記録オプションを使用します。

例

コードのコピー

```
<Logging Type="standard" Path="%temp%" Template="MyLog(*)txt" />
```

この例では、セットアップによるログ ファイルの作成が製品のインストールごとに行われます。セットアップは、次のような固有のファイル名を使用します。

コードのコピー

```
%temp%\MyLog(20060428110717CFC).txt %temp%\MyLog(20060429113143C70).txt
```

Package 要素

インストールするパッケージまたは製品です。

SharePoint Server 2010 のパッケージ ID は **spswfe** です。SharePoint Server 2010 は SharePoint Foundation 2010 のプラットフォーム テクノロジーに基づいているため、**sts**

(SharePoint Foundation 2010) パッケージもインストールしないと、インストールは正常に行われ
ません。

PIDKEY 要素

25 文字のボリューム ライセンス キーです。

構文

```
<PIDKEY Value="25 文字のキー" />
```

属性

属性	値	説明
Value	25 文字のキー	25 文字のボリューム ライセンス キーです。

備考

PIDKEY 値が設定されている場合、ユーザーはセットアップを実行するときにプロダクト キーを
入力する必要がありません。

例

コードのコピー

```
<PIDKEY Value="1234512345123451234512345" />
```

メモ:

[Display](#) 要素の **Level** 属性が *Basic* または *None* に設定されていて、PIDKEY 要素を使用し
てプロダクト キーを指定した場合、セットアップは管理者がユーザーの代わりにライセ
ンス条項にも同意したものと見なします。この場合は、[Display](#) 要素の **AcceptEULA** 属性
の設定に関係なく、インストール時にライセンス条項の確認がユーザーに求められるこ
とはありません。

Setting 要素

Windows インストーラーのプロパティの値を指定できます。

構文

```
<Setting Id="名前" Value="値" />
```

属性

属性	値	説明
----	---	----

Id	名前	Windows インストーラー プロパティの名前です。
Value	値	このプロパティに割り当てる値です。

値

サーバーへのインストールには以下の設定 ID が使用されます。

ID	使用できる値	説明
LAUNCHEDFROMSETUPSTS	Yes No	Package Id 属性の一部として使用します。既定値は Yes です。
REBOOT	ReallySuppress	セットアップの完了後に再起動を許可するかどうかを (Windows インストーラーに) 指定します。再起動しないことを指定するには、 ReallySuppress を使用します。パッケージ単位ではなく、グローバル レベルで指定する必要があります。
SETUP_REBOOT	Never、AutoAlways、Always、AutoIfNeeded、IfNeeded	セットアップの完了後に再起動を許可するかどうかを (セットアップに) 指定します。再起動しないことを指定するには、 Never を使用します。パッケージ単位ではなく、グローバル レベルで指定する必要があります。
SETUPTYPE	CLEAN_INSTALL、V2V_INPLACE_UPGRADE、SKU2SKU_UPGRADE	製品またはテクノロジーの新しいコピーをインストールするか (CLEAN_INSTALL)、新しいバージョンをインストールして使用中の以前のバージョンをアップグレードするか (V2V_INPLACE_UPGRADE)、1 つの製品から別の製品 (SharePoint Foundation 2010 から SharePoint Server 2010 など) にアップグレードするかを指定します。パッケージ単位ではなく、グローバル レベルで指定する必要があります。
SETUPCALLED	0 1	Package Id 属性の一部として使用

		します。
SERVERROLE	SINGLESERVER、 APPLICATION	インストール先のサーバーの種類 (スタンドアロン (SINGLESERVER) 、またはアプリケーション (APPLICATION) を指定します。
USINGUIINSTALLMODE	0 1	サイレント インストールを実行する か (0)、セットアップにユーザー インターフェイスを使用するか (1) を指定します。

備考

Windows インストーラーのすべてのプロパティが **Setting** 要素によって指定できるわけではありません。ブロックされるプロパティが指定されている場合、セットアップはインストール処理を終了します。サポートされるプロパティが指定されている場合、セットアップはそのプロパティを直接 Windows インストーラーに渡します。Windows インストーラーのすべてのプロパティの一覧と、サポートおよびブロックされるプロパティの説明については、「[Setup properties in Office 2010](#)」を参照してください。

例

コードのコピー

```
<Setting Id="REBOOT" Value="ReallySuppress" />
```

Windows PowerShell コマンド (SharePoint Server 2010)

ここでは、スタンドアロン サーバーまたはサーバー ファームに Microsoft SharePoint Server 2010 をインストールするために必要な Windows PowerShell コマンドレットについて説明します。

この記事の内容

- [Windows PowerShell を使用して SharePoint 製品をインストールする](#)
- [Windows PowerShell のインストール コマンド](#)

SharePoint Server 2010 ファームのスクリプトによる展開で使用されるコマンドと構文については、「[スクリプト展開リファレンス \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

Windows PowerShell を使用して SharePoint 製品をインストールする

SharePoint Server 2010 では、SharePoint 製品の構成方法を制御するいくつかの操作を実行するための代替インターフェイスとして、Windows PowerShell コマンドレットを使用できます。さらに、コマンド ライン インストールと他の管理ツールを組み合わせ使用して無人インストールを自動化することにより、展開を効率化できます。

Windows PowerShell コマンドレットを SharePoint 2010 管理シェルで実行したり、コマンドレットを含むスナップインを追加したりできます。管理シェルを使用すると、**Add-PSSnapin** コマンドレットを使用してコマンドレットを含むスナップインを登録する手順を省くことができます。Microsoft SharePoint 2010 製品 で Windows PowerShell を使用する方法の詳細については、「[Windows PowerShell を使用した SharePoint 2010 製品の管理](#)」を参照してください。

コマンドレットを使用するには、次の最小要件を満たしていることを確認します。**Add-SPShellAdmin** を参照してください。指定したデータベースの **SharePoint_Shell_Access** ロールにユーザーを追加する方法については、「[Add-SPShellAdmin](#)」を参照してください。


メモ:

新しいファームを作成するとき、または初めてファームにサーバーを参加させるときは、表示される次のエラー メッセージを無視してください。“ローカル ファームにアクセスできません。FeatureDependencyId が指定されたコマンドレットは登録されません。”

コマンドレットを正常に実行するには、特定の順序で実行する必要があります。SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールを構成する場合は、コマンド (構成タスクとも呼ばれます) が自動的に正しい順序で呼び出されます。一方、コマンドレットを使用する場合は、ユーザーが

自分でタスクの正しい実行順序に注意する必要があります。Windows PowerShell コマンドレットは、以下の順序で実行する必要があります。

1. New-SPConfigurationDatabase
2. Install-SPHelpCollection
3. Initialize-SPResourceSecurity
4. Install-SPService
5. Install-SPFeature
6. New-SPCentralAdministration
7. Install-SPApplicationContent

 **メモ:**

新しいファームでの操作を実行するには、新しい Windows PowerShell プロセスを使用します。たとえば、別のファームにあったサーバーを新しいファームに追加するときは、サーバーを新しいファームに追加する前に Windows PowerShell プロセスを再起動します。

Windows PowerShell のインストール コマンド

以下の Windows PowerShell コマンドレットを使用して、SharePoint Server 2010 をインストールおよび構成できます。

Windows PowerShell コマンドレット	説明
New-SPConfigurationDatabase	指定したデータベース サーバーに新しい構成データベースを作成します。これは、新しい SharePoint ファームの中心となるデータベースです。このコマンドは、管理コンテンツ データベースも作成します。
Install-SPHelpCollection	SharePoint 2010 製品のヘルプ サイト コレクション ファイルを、現在のファームにインストールします。すべてのヘルプ コレクション CAB をヘルプ サイト コレクションの %Program Files%\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\HCCab\<LCID> にインストールするには、 All パラメーターを指定する必要があります。
Initialize-SPResourceSecurity	ローカル サーバーにリソース セキュリティを適用します。このコマンドレットは、ファイル、フォルダー、レジストリ キーなど、すべてのリソースにセキュリティを適用します。
Install-SPService	サービスをファームにインストールし、必要に応じて準備します。このコマンドレットは、ローカル サーバー コンピュータ

Windows PowerShell コマンドレット	説明
	一のレジストリで指定されているすべてのサービス、サービスインスタンス、およびサービス プロキシをインストールします。
Install-SPFeature	Feature.xml ファイルを使用して特定の SharePoint 機能をインストールします。新しいファームを作成するときは、 AllExistingFeatures パラメーターを指定して使用可能なすべての機能をインストールする必要があります。
New-SPCentralAdministration	新しいサーバーの全体管理 Web アプリケーションを作成し、ローカル コンピューターでサーバーの全体管理サービスを開始します。サーバーの全体管理は、このサービスが実行しているコンピューターでのみ使用できます。
Install-SPApplicationContent	既存の Web アプリケーション フォルダーに共有アプリケーション データをコピーします。

関連項目

概念

[Windows PowerShell を使用した SharePoint 2010 製品の管理](#)

エンタープライズ検索のテクニカル リファレンス (SharePoint Server 2010)

このセクションの記事には、Microsoft SharePoint Server 2010 のエンタープライズ検索に関する情報が含まれます。

このセクションの内容

- [既定のコネクタ \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [File types and IFilter reference \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [ワード ブレーカーとステマーが提供されている言語 \(SharePoint Server 2010\)](#)

既定のコネクタ (SharePoint Server 2010)

この記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 に既定でインストールされているコネクタ (以前のバージョンでの名称は、プロトコル ハンドラー) について説明します。SharePoint Server 2010 では、コネクタを使用してさまざまなコンテンツ リポジトリに接続し、そのリポジトリのコンテンツをクローलできるようにします。追加のコネクタをインストールして、他のマイクロソフト製品やサードパーティのソフトウェアによって作成されるコンテンツをクロールできます。詳細については、「[Install connectors \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。SharePoint Server Search コネクタ フレームワークを使用して別のコネクタを開発することもできます。詳細については、「[SharePoint Server Search コネクタ フレームワーク](#)」(<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ee556429.aspx>) を参照してください。

次の表に、SharePoint Server 2010 に既定でインストールされているコネクタを示します。

コネクタ	このコネクタで接続するコンテンツ リポジトリの種類
Bcs	Business Connectivity Services (内部プロトコル)
Bcs2	Business Connectivity Services URL (内部プロトコル)
File	ファイル共有
http	Web サイト
https	Secure Sockets Layer (SSL) 経由の Web サイト
Notes	Lotus Notes データベース
Rb	Microsoft Exchange Server 2003 よりも前のバージョンの Exchange パブリック フォルダー
Rbs	Exchange Server 2003 よりも前のバージョンの SSL 経由の Exchange パブリック フォルダー
Sps	Microsoft Office SharePoint Portal Server 2003 のユーザー プロファイル
Sps3	Microsoft Office SharePoint Server 2007 のユーザー プロファイル
Sps3s	SSL 経由の Office SharePoint Server 2007 のユーザー プロファイル
Spss	SSL 経由の SharePoint Portal Server 2003 のユーザー プロファイル
Sts	SharePoint Team Services 1.0 サイト (内部プロトコル)
Sts2	Windows SharePoint Services 2.0 および SharePoint Portal Server 2003 サイト

コネクタ	このコネクタで接続するコンテンツ リポジトリの種類
Sts2s	SSL 経由の Windows SharePoint Services 2.0 および SharePoint Portal Server 2003 サイト
Sts3	Windows SharePoint Services 3.0 および Office SharePoint Server 2007 sites
Sts3s	SSL 経由の Windows SharePoint Services 3.0 および Office SharePoint Server 2007 サイト
Sts4	Microsoft SharePoint Foundation 2010 および SharePoint Server 2010 サイト
Sts4s	SSL 経由の SharePoint Foundation 2010 および SharePoint Server 2010 サイト

ワード ブレーカーとステマーが提供されている 言語 (SharePoint Server 2010)

この記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 がワード ブレーカーとステマーを提供している言語をリストします。多言語サイトでのワード ブレーカーとステマーを使用については、「[Plan for multilingual sites \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

次の表に、SharePoint Server 2010 がワード ブレーカーとステマーを提供している言語を示します。

言語	言語	言語
アラビア語*	ヒンディー語	パンジャブ語
ベンガル語	ハンガリー語*	ルーマニア語
ブルガリア語	アイスランド語	ロシア語
カタルニア語	インドネシア語	セルビア語 (キリル)
簡体字中国語*	イタリア語	セルビア語 (ラテン)
繁体字中国語*	日本語*	スロバキア語
クロアチア語	カナダ語	スロベニア語
チェコ語	韓国語	スペイン語 (スペイン)
デンマーク語	ラトビア語	スペイン語 (メキシコ)
ドイツ語	リトアニア語	スウェーデン語
英語	マレー語	タミール語
フィンランド語*	マラヤーラム語	テルグ語
フランス語	マラーティー語	タイ語*
ドイツ語	ノルウェー語	トルコ語*
ギリシャ語	ポーランド語	ウクライナ語
グジャラート語	ポルトガル語 (ブラジル)	ウルドゥー語
ヘブライ語*	ポルトガル語 (ポルトガル)	ベトナム語*

*これらの言語は、ワード ブレーカーのみを持ちます。これらの言語ではステマーは使用できません。

SharePoint Server 2010 でのプライバシーの管理

Microsoft SharePoint Server 2010 の複数の機能で、個人を特定できる情報が取り扱われます。このドキュメントでは、個人を特定できる情報を保存または使用する機能を示し、その情報がどのように使用されるかについて説明します。また、個人情報を保護するためにこれらの機能の動作を制御する方法（機能を無効にする方法）についても説明します。

この記事の内容

- [Web 分析](#)
- [SharePoint ソーシャル タグおよびメモ掲示板](#)
- [SharePoint の評価](#)
- [個人用サイトとユーザー プロファイル](#)
- [SharePoint Server 仕事仲間アドインのサポート](#)
- [アクティビティ フィード](#)
- [SharePoint 検索フェデレーション](#)
- [SharePoint クエリ ログ](#)
- [管理メタデータおよびエンタープライズ キーワード](#)

Web 分析

Web Analytics Service を使用すると、SharePoint Server 2010 を導入しているユーザーは、SharePoint サイトへのアクセスに関する詳細情報を把握できます。Web Analytics Service では、エンドユーザーによる SharePoint ページへのアクセスに関するデータが収集されます。Web Analytics Service によって収集されるデータには、次のような情報が含まれます（これ以外の情報が含まれることもあります）。

- エンドユーザーが閲覧を開始したサイト
- SharePoint サイトを検出するためにエンドユーザーが使用した検索キーワード
- サイトで閲覧したページ
- サイトで実行した検索
- ブラウザーの種類

重要:

Microsoft が SharePoint サイトをホストしている場合を除き、これらの情報は Microsoft には送信されません。

Farm Administrators グループのメンバーは、Web Analytics Service を使用しないように設定できます。管理者は、Web Analytics Service アプリケーションを作成しないか、または次の手順を使用して Web Analytics Service を停止できます。

1. サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの **[監視]** をクリックし、**[レポート]** セクションで **[Usage and Health data collection の構成]** をクリックします。
[Web Analytics と正常性データの収集の構成] ページが表示されます。
2. **[イベントの選択]** セクションで、**[ログ対象イベント]** チェック ボックスをオフにして、これらのデータ ポイントのログ記録を停止します。

Farm Administrators グループのメンバーは、特定のサイト コレクションについて Web Analytics Service データのレポートを無効にすることができます。

1. サイト コレクションのトップレベル ページにある **[サイトの操作]** メニューで、**[サイトの設定]** をクリックします。
2. **[サイト コレクションの管理]** セクションで、**[サイト コレクションの機能]** をクリックして、**[詳細 Web Analytics]** の横にある **[非アクティブ化]** をクリックします。

Farm Administrators グループのメンバーが Web Analytics Service を停止したり、特定のデータをログに記録しないように設定した場合、以降のログ記録は停止されますが、既にログに記録されている情報はすぐには Web 分析レポートから削除されません。

SharePoint Farm Administrators グループのメンバーは、Web Analytics ウェアハウス データベース内にデータが保持される期間に制限を設定することもできます。この制限に達すると、データがデータベースから削除されるため、このデータは Web Analytics レポートには表示されなくなります。たとえば、管理者がデータ保持期間を 1 か月に設定した場合は、直前の 1 か月分のデータのみがレポートに表示されます。

データ保持期間の制限を設定するには

1. サーバーの全体管理 Web サイトの **[アプリケーション構成の管理]** セクションで、**[サービス アプリケーションの管理]** をクリックします。
2. **[Web Analytics Service アプリケーション]** 行をクリックして選択し、リボンの **[操作]** グループで **[プロパティ]** をクリックします。
3. 表示されるダイアログ ボックスの **[データ保持期間]** セクションで、1 か月から 25 か月の範囲でデータ保持期間を設定します。

SharePoint ソーシャル タグおよびメモ掲示板

SharePoint ソーシャル タグおよびメモ掲示板の機能を使用すると、SharePoint ページやインターネット ページにタグを付けたり、メモを追加したりできます。既定では、SharePoint タグおよびメモ掲示板の機能は有効になっています。ソーシャル タグを無効にできるのは、Farm Administrators グループのメンバー、User Profile Service アプリケーションに割り当てられてい

る管理者、またはソーシャル データの管理権限を持つユーザーです。ソーシャル タグを無効にするには、ユーザーまたはグループからソーシャル機能の使用権限を削除します。

ユーザーがタグやメモを追加すると、ユーザーのユーザー名がタグまたはメモと共に保存されます。ユーザーが作成するタグとメモは、ユーザーの仕事仲間のアクティビティ フィードと、ユーザー プロファイル内でタグを関心の対象としてリストしているユーザーのアクティビティ フィードに表示されます。

ユーザーは、各自のタグをプライベートとして設定できます。プライベートに設定されたタグの URL は、他のユーザーには表示されません。この設定を行うには、[タグ] タブの [プライベート] チェック ボックスをオンにするか、または [タグ] ページや [メモ] ページで各自のアイテムをプライベートとしてマークします。メモをプライベートとしてマークすることはできません。

SharePoint の評価

SharePoint では、ユーザーは、SharePoint リスト アイテムとドキュメント ライブラリ アイテムに評価を追加できます。これらの評価は、ユーザーのアクティビティ フィードにも表示されます。SharePoint リスト アイテム、ドキュメント ライブラリ アイテム、またはアクティビティ フィードの評価の横にユーザー名は表示されません。ユーザー名は Microsoft SharePoint Server に保存され、SharePoint オブジェクト モデルを利用してアクセスできます。SharePoint の評価機能は、既定で有効になっています。評価機能を無効にできるのは、Farm Administrators グループのメンバー、User Profile Service アプリケーションに割り当てられている管理者、またはソーシャル データの管理権限を持つユーザーです。評価機能を無効にするには、ユーザーまたはグループからソーシャル機能の使用権限を削除します。SharePoint 管理者は、サイト コレクションの SharePoint ページで評価コントロールを無効にすることもできます。これにより、Web ページ上にこのコントロールが表示されなくなります。次は、評価コントロールを無効にする Windows PowerShell コマンドです。

```
Disable-spfeature -id "915c240e-a6cc-49b8-8b2c-0bff8b553ed3" -url Site Collection Url -force -Confirm:$false
```

この操作を実行する SharePoint 管理者には、サイト コレクション管理者の権限と、Shell_Access および WSS_WPG Windows PowerShell の権限の両方が必要です。

このコマンドは、Web ページ上のコントロールを無効にしますが、既存の評価や関連付けられているユーザー名が SharePoint データベースから削除されることはありません。評価データや、関連付けられているユーザー名のデータを完全に削除するには、SharePoint オブジェクト モデルを使用します。

個人用サイトとユーザー プロファイル

ユーザーは、個人用サイトを使用して、個人情報を作成および表示できます。これらの情報には、他の SharePoint ユーザーやアプリケーションがアクセスできます。ユーザーは、各自の個人用サイト ページの外観、動作、およびコンテンツを自分専用に設定できます。また、個人用サイト ページから各自の SharePoint ユーザー プロファイルを更新することもできます。個人用サイトおよび SharePoint プロファイルには、名前、アカウント名、電子メール アドレス、電話番号、管理者名など、一部のユーザー情報が既定で含まれています。プロフィールの管理アクセス許

可を持つ User Profile Service 管理者は、ユーザー プロファイルを構成して、ユーザーの個人用サイトおよび SharePoint プロファイルに特定のデータを含めることができます。

1. サーバーの全体管理 Web サイトの [アプリケーション構成の管理] セクションで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [User Profile Service] をクリックし、[人] セクションで [ユーザー プロファイルの管理] をクリックします。

各プロファイル プロパティには、プライバシー レベルが関連付けられています。Microsoft SharePoint Server では、次のプライバシー レベルをサポートしています。

自分のみ	自分の管理者	自分のチーム	自分の仕事仲間	すべてのユーザー
------	--------	--------	---------	----------

ユーザーは、プライバシー レベルを選択することによって、各自のプロファイルに保存されたデータを意図した人物にのみ公開できます。プロファイルの管理アクセス許可を持つ User Profile Service 管理者は、プロファイル プロパティの既定のプライバシー レベルを構成して、ユーザーがそのレベルを上書きできるようにすることができます。また、SharePoint 管理者は、特定のプロファイル プロパティに対して一定のプライバシー レベルを強制して、ユーザーがそのレベルを上書きできないようにすることもできます。

1. サーバーの全体管理 Web サイトで、[サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
2. [User Profile Service] をクリックし、[プロファイル サービスのポリシー] をクリックします。

自分のチームと自分の仕事仲間以外のプライバシー レベルでは、SharePoint Server によって自動的にプロファイル プライバシー レベルが計算されます。自分のチームおよび自分の仕事仲間のプライバシー レベルにはユーザーが特定したメンバーを指定できます。ユーザーは、自分のチームと仕事仲間のプライバシー レベルに含める人々を決定します。自分のチームは、ユーザーが指定した仕事仲間のサブセットです。

プロファイルの管理アクセス権限を持ち、プロファイル データ用のデータベースを管理する User Profile Service 管理者は、ユーザーが設定したプライバシー レベルにかかわらず、すべてのデータにアクセスできます。

SharePoint Server 仕事仲間アドインのサポート

Microsoft Outlook 2010 の SharePoint Server 仕事仲間アドイン機能は、ユーザーの送信済み電子メール フォルダーから、特定の名前とキーワードや、その名前とキーワードが使用されている頻度を調べます。ユーザー プロファイルの [プロファイルの編集] ページには、推奨されるキーワードの一覧があります。一覧は定期的に更新され、ユーザーのローカル コンピューターのユーザー プロファイルに保存されます。仕事仲間の候補一覧には、個人用サイトの [仕事仲間の追加] ページからアクセスします。このページで、ユーザーは信頼されている個人用サイトに追加する仕事仲間を選択できます。連絡先名とキーワードがユーザー プロファイルに追加される前に、ユーザーはこれらを承認または拒否する必要があります。SharePoint Farm Administrators グループのメンバーは次のグループ ポリシー設定レジストリ キーを設定して、この機能を無効にし、個人用サイトでこの情報にアクセスできないようにすることができます。

```
HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Office\14.0\Common\Portal\ColleagueImportEnabled
```

値 = DWORD (無効にする場合は 0、有効にする場合は 1 を設定します)

エンド ユーザーは、送信済みアイテム電子メール フォルダー内のコンテンツの分析と、個人用サイトへの連絡先名とキーワードのアップロードのどちらか、または両方を無効にすることができます。

1. Outlook 2010 の [ファイル] メニューの [オプション] をクリックします。
2. [Outlook のオプション] ダイアログ ボックスで、[詳細設定] をクリックします。
3. [その他] セクションで、送信済み電子メールと件名の分析を実行できるようにするオプションをクリアします。

アクティビティ フィード

アクティビティ フィードを使用すると、ユーザーは、個人用サイトにイベントのフィードを追加できます。フィードを使用すると、プロフィール プロパティの更新、ソーシャル タグとメモの作成など、仕事仲間が行ったアクティビティに関する情報を入手できます。アクティビティ フィードでは、ユーザーが表示するアクセス許可を持っていないアクティビティを追跡することはできません。

既定では、User Profile Service アプリケーション内でアクティビティ フィードは無効になっています。この機能を有効にするには、Farm Administrators グループのメンバーが User Profile Service の アクティビティ フィード タイマー ジョブを構成する必要があります。

1. サーバーの全体管理 Web サイトで、サイドリンク バーの [監視] をクリックします。
2. [タイマー ジョブ] セクションで、[ジョブ定義の確認] をクリックします。
3. タイマー ジョブの一覧で、[User Profile Service アプリケーション - アクティビティ フィードのジョブ] をクリックします。
4. [タイマー ジョブの編集] ページで、[有効] をクリックします。

ユーザーは、個人用サイトの仕事仲間を選択します。これを行うには、他のユーザーの名前を選択して [仕事仲間] として設定します。新しく選択された仕事仲間には、そのことを知らせる電子メール メッセージが送信されます。

SharePoint 検索フェデレーション

SharePoint 検索フェデレーションを使用すると、Search Service アプリケーションの管理者は、ユーザーのクエリに対して複数の検索プロバイダーからの結果を提供できます。SharePoint 検索フェデレーションでは、既定では、ローカルの SharePoint コンテンツのみが検索されます。Search Service アプリケーションの管理者は、サード パーティのリモート検索エンジン、オンライン検索エンジンなどの検索プロバイダーを追加できます。

Search Service アプリケーションの管理者が検索プロバイダーを追加すると、ユーザーのクエリは追加された検索プロバイダーに送信され、その検索プロバイダーから返された結果が表示されます。

Microsoft Bing 検索エンジンのプライバシーに関する声明については、<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=147849&clid=0x411> を参照してください。

SharePoint クエリ ログ

SharePoint Search では、ユーザーの検索クエリと、コンピューター上でユーザーが選択する検索結果に関する情報が収集されます。SharePoint では、この情報を使用して、検索結果の関連性の向上およびクエリ提案の向上が行われます。Farm Administrators グループのメンバーまたは Search Service アプリケーションの管理者は、この情報に基づいてレポートを作成することもできます。

クエリ ログを無効にするには、次の操作を行います。

1. サーバーの全体管理 Web サイトの **[アプリケーション構成の管理]** セクションで、**[サービスアプリケーションの管理]** をクリックします。
2. **[Search Service アプリケーション]** をクリックし、**[Search Service アプリケーション]** ページの **[システムの状態]** セクションで、**[クエリ ログ]** の横の **[無効]** をクリックします。

管理メタデータおよびエンタープライズ キーワード

エンタープライズ キーワードは、特別な種類の列に格納される、用語ストアの管理メタデータ値です。この種類の列は、単一の用語セットにバインドされるのではなく、アクセス可能なすべての用語セットで有効なすべての用語に対して検証されます。ただし、この種類の列は、サイト コレクション固有の用語セットに対しては検証されず、エンタープライズ キーワードの検証にも関与しません。

既定の動作

既定では、SharePoint Server 2010 には、管理メタデータとエンタープライズ キーワードの列が両方あります。これらの列は、コンテンツ タイプまたはリストに適用されます。管理メタデータまたはエンタープライズ キーワードの列がコンテンツ タイプに適用された後、ユーザーがこれらのフィールドに入力するデータは用語ストア データベースに格納されます。

エンタープライズ キーワードおよび管理メタデータは、通常、パブリックと見なされ、すべてのユーザーが参照できます。エンタープライズ キーワード列または管理メタデータ列が、グローバルに有効な用語セットにバインドされている場合、ユーザーが作成するすべてのメタデータは、用語を表示または検証している他のエンタープライズ ユーザーによってアクセスされます。

管理メタデータ列とエンタープライズ キーワード列が使用され、ユーザー データが用語ストア データベースに保存されたり共有されたりした後、SharePoint リストを構成して、その管理メタデータおよびエンタープライズ キーワード データを、User Profile Service が管理するソーシャル タグ データベースと共有できます。これにより、ソーシャル タグ データベースを使用する任意の機能のすべてのユーザーにまで、ユーザー データの表示範囲が拡張されます。ただし、用語セットにバインドされている列内のユーザー データは除きます。サイト コレクション固有の用語セットに格納されているメタデータ値は、リスト設定でソーシャル タグ データベースとの共有が有効であるかどうかにかかわらず、ソーシャル タグ データベースと共有することはできません。

機能の管理に関するユーザー インターフェイス テキスト

UI には、以下の説明のテキストが表示されます。

- リストまたはコンテンツ タイプにエンタープライズ キーワードを追加する場合、以下の説明のテキストが表示されます。

エンタープライズ キーワードは、他のユーザーやアプリケーションと共有するもので、検索とフィルター処理、およびメタデータの整合と再利用を簡略化します。

- リスト設定 UI では、リスト所有者に対して、エンタープライズ キーワード列を追加するためのショートカットが表示されます。UI には、以下の説明のテキストが表示されます。

エンタープライズ キーワードの追加

エンタープライズ キーワード列には、1 つ以上のテキスト値を入力できます。この値は他のユーザーやアプリケーションと共有され、検索やフィルター処理だけでなく、メタデータの整合性確保や再利用に役立ちます

エンタープライズ キーワード列を追加すると、既存のキーワード フィールドと管理メタデータ インフラストラクチャの同期もできるようになります (ドキュメント タグが、アップロードの際にエンタープライズ キーワードにコピーされます)。

- 同じリスト設定ページには、メタデータのプロモーションに関して、以下の説明のテキストが表示されます。

管理メタデータおよびエンタープライズ キーワード列に追加された値は、個人用サイトのソーシャル タグとして共有でき、ニュースフィード、プロフィール ページ、タグ クラウド、およびタグ プロファイル ページに表示されます。

ユーザー権限とアクセス許可レベル (SharePoint Server 2010)

既定のアクセス許可レベル

Microsoft SharePoint Server 2010 には、既定で 6 つのアクセス許可レベルが含まれます。これらのアクセス許可レベル（制限付きアクセスおよびフル コントロールのアクセス許可レベルを除く）で使用できる権限をカスタマイズできます。また、必要な特定の権限のみを含むユーザー設定のアクセス許可レベルを作成することもできます。

制限付きアクセスとフル コントロールのアクセス許可レベルを直接編集することはできませんが、Web アプリケーション全体に対して個々のアクセス許可を使用できないようにできます。この操作を行うと、制限付きアクセスとフル コントロールのアクセス許可レベルから該当権限が削除されます。

次の表に、SharePoint Server 2010 のチーム サイトの既定のアクセス許可レベルを示します。

アクセス許可レベル	説明	既定で含まれる権限
制限付きアクセス	Web サイト内の共有リソースへのアクセスを許可して、ユーザーがサイト内のアイテムにアクセスできるようにします。詳細に設定されたアクセス許可と組み合わせて使用して、ユーザーにサイト全体へのアクセス権は与えずに、特定のリスト、ドキュメントライブラリ、アイテム、またはドキュメントへのアクセス権を与えるために設計されたアクセス許可レベルです。カスタマイズしたり削除したりすることはできません。	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー情報の参照 クライアント統合機能の使用、開く
読み取り	Web サイトへの読み取り専用アクセスを許可します。	<ul style="list-style-type: none"> アイテムの表示 アイテムを開く バージョンの表示 通知の作成 アプリケーション ページの表示

アクセス許可レベル	説明	既定で含まれる権限
		<ul style="list-style-type: none"> • セルフサービス サイト作成の使用 • ページの表示 • ユーザー情報の参照 • リモート インターフェイスの使用 • クライアント統合機能の使用 • 開く
投稿	既存のリストおよびドキュメント ライブラリ内のアイテムを作成および編集します。	<ul style="list-style-type: none"> • 読み取りアクセス許可の他に、以下のアクセス許可が含まれます。 • 安全でないコンテンツの管理
デザイン	Web サイト内でリストおよびドキュメント ライブラリを作成し、ページを編集します。	<ul style="list-style-type: none"> • 承認アクセス許可の他に、以下のアクセス許可が含まれます。 • リストの管理 • ページの追加とカスタマイズ • テーマと枠線の適用 • スタイル シートの適用
フルコン	対象範囲内のフル コントロールを許可します。	すべての権限

アクセス許可レベル	説明	既定で含まれる権限
トロール		

チーム サイト テンプレート以外のサイト テンプレートを使用する場合は、既定の SharePoint グループの別のリストが表示されます。たとえば、次の表は、発行テンプレートで提供される追加のアクセス許可レベルです。

アクセス許可レベル	説明	既定で含まれる権限
制限付き読み取り	ページとドキュメントを表示します。発行サイトのみに適用されます。	<ul style="list-style-type: none"> • アイテムの表示 • アイテムを開く • ページの表示 • 開く
表示のみ	ページ、リスト アイテム、およびドキュメントを表示します。サーバー側のファイル ハンドラーが有効になっているドキュメントは、サーバー側のファイル ハンドラーを使用してのみ表示できます。	<ul style="list-style-type: none"> • 制限付きアクセス許可の他に、以下のアクセス許可が含まれます。 • アイテムの表示 • バージョンの表示 • 通知の作成 • モバイル通知の作成 • アプリケーション ページの表示
承認	ページ、リスト アイテム、およびドキュメントを編集、承認します。発行サイトのみに適用されます。	<ul style="list-style-type: none"> • 投稿アクセス許可の他に、以下のアクセス許可が含まれます。 • チェックアウトを無視 • アイテムの承認
階層の管理	サイトを作成し、ページ、リスト アイテム、およびドキュメントを編集します。発行サイトのみに適用されます。	<ul style="list-style-type: none"> • デザイン アクセス許可からアイテムの承認アクセス許可を除いたもの他に、以下のアクセス許可が含まれます。 • 権限の管理

アクセス許可レベル	説明	既定で含まれる権限
		<ul style="list-style-type: none">• 利用状況データの表示• サブサイトの作成• Web サイトの管理• 通知の管理

データベースの種類と説明 (SharePoint Server 2010)

ここでは、Microsoft SharePoint Server 2010 用にインストールされるデータベースについて説明します。サイズと配置についての情報も含まれます。データベースを探す場所の詳細については、「[Plan for SQL Server, storage and BLOB configuration \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

SharePoint Server 2010 用のデータベースは、Microsoft SQL Server 2008 R2、SQL Server 2008 Service Pack 1 (SP1) (累積的な更新プログラム 2 の適用済み)、または SQL Server 2005 SP3 (累積的な更新プログラム 3 の適用済み) でホストできます。スタンドアロンのインストールは、SQL Server 2008 R2 または SQL Server 2008 の Express Edition でもホストできます。詳細については、「[Determine hardware and software requirements \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

メモ:

このトピックに記載されているデータベース名は、SharePoint 製品構成ウィザードを実行すると自動的に作成されます。これらの命名規則を使用する必要はありません。作成時にデータベース名を指定することも、作成後にデータベース名を変更することもできます。詳細については、「[Deploy using DBA-created databases \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

この記事で示されているデータベースのサイズは、以下の範囲が基になっています。

表記	サイズの範囲
小	1 ギガバイト (GB) 以下
中	100 GB まで
大	1 テラバイトまで
非常に大	1 テラバイト以上

この記事の内容

- [SharePoint Foundation 2010 のデータベース](#)
- [SharePoint Server 2010 Standard Edition のデータベース](#)
- [SharePoint Server 2010 Enterprise Edition のデータベース](#)

- [Project Server 2010 のデータベース](#)
SharePoint Server 2010 を実行している場合、Microsoft Project Server 2010 も環境内に存在する場合があります。
- [FAST Search Server for SharePoint 2010 のデータベース](#)
SharePoint Server 2010 を実行している場合、Microsoft FAST Search Server 2010 for SharePoint も環境内に存在する場合があります。
- [SQL Server システムのデータベース](#)
- [SQL Server Reporting Services のデータベース](#)

SharePoint Server 2010 によって使用されるデータベースのグラフィカルな概要については、[データベース モデル \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187968&clcid=0x411) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=187968&clcid=0x411) (英語) を参照してください。

SharePoint Foundation 2010 のデータベース

SharePoint Foundation 2010 の展開には以下のデータベースが含まれます。これらのデータベースは、他のすべての SharePoint 2010 製品 展開にも含まれます。

構成

構成データベースには、SharePoint データベース、インターネット インフォメーション サービス (IIS) Web サイト、Web アプリケーション、信頼できるソリューション、Web パーツ パッケージ、サイト テンプレート、および SharePoint 2010 製品 に固有の Web アプリケーションとファームの設定 (既定のクォータ設定やブロックされるファイルの種類など) に関するデータが格納されています。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	SharePoint_Config
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小 ただし、トランザクション ログ ファイルは大きくなる可能性がある。詳細については、後の「 備考 」を参照。
読み取り/書き込み特性	読み取り中心
推奨されるスケーリング方法	スケールアップが必要、つまりファームごとにサポートされる構成データベースは 1 つだけなので、データベースは大きく拡大する必要があります (極端に拡大する可能性はありません)。
関連付けられている正常性ルール	なし

サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。SQL Server、および System Center Data Protection Manager (DPM) 2010。構成データベースはバックアップと復旧の特別なケースです。詳細については、後の「 備考 」を参照。
既定の復旧モデル	完全。ログ ファイルの拡大を制限するため、構成データベースを単純復旧モデルに切り替えることをお勧めします。
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

備考

トランザクション ログ ファイル。切り捨てを強制するために構成データベースのトランザクション ログを定期的にバックアップするか、またはシステムをミラーリングしていない場合は、データベースを単純復旧モードで実行するように変更することをお勧めします。詳細については、「[トランザクション ログの切り捨て](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=186687&clcid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=186687&clcid=0x411>) を参照してください。

バックアップと復旧。SharePoint ファーム構成およびコンテンツ バックアップを実行すると構成データベースはバックアップされ、データベースの一部の構成設定はエクスポートされて XML ファイルとして格納されます。ファームが復元される時、構成データベースは復元されません。代わりに、保存されている構成設定がインポートされます。SharePoint ファームが最初にオフラインになる場合は、SQL Server または他のツールを使用して、構成データベースを正常にバックアップおよび復元できます。

メモ:

多くの構成設定は、ファーム構成のみのバックアップまたは復元の間には保存されません。具体的には、Web アプリケーション設定、サービス アプリケーション設定、およびローカル サーバーに固有の設定です。これらの設定はファーム コンテンツおよび構成のバックアップの間に保存されますが、サービス アプリケーション プロキシ設定など一部の設定は、ファームの復旧の間に復元できません。構成バックアップの間に保存されるものについては、「[Back up a farm configuration \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。バックアップされない構成設定を文書化してコピーする方法については、「[Copy configurations from one farm to another \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

サーバーの全体管理のコンテンツ

サーバーの全体管理のコンテンツ データベースは、構成データベースと見なされます。ドキュメント ライブラリ内のサイトドキュメントまたはファイル、リスト データ、Web パーツ プロパティ、およびサーバーの全体管理サイト コレクションのユーザー名と権限などすべてのサイト コンテンツを格納します。Microsoft SQL Server PowerPivot for Microsoft SharePoint をインストールする場合、サーバーの全体管理コンテンツ データベースには、PowerPivot 管理ダッシュボードで使用される Excel ワークシートおよび PowerPivot データ ファイルも格納されます。

SharePoint 製品 構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	SharePoint_AdminContent
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小 PowerPivot を使用している場合、使用状況データ コレクションとデータ更新履歴を 365 日間保持する既定の設定を使用しているとする、サーバーの全体管理のコンテンツは 1 年間は増加します。PowerPivot for SharePoint の詳細については、「 SharePoint ファームへの PowerPivot の配置の計画 」(http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=186698&clid=0x411)を参照してください。
読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	スケールアップが必要。つまりファームごとにサポートされるサーバーの全体管理データベースは 1 つだけなので、データベースは大きく拡大する必要があります(極端に拡大する可能性はありません)。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。SQL Server、および DPM 2010。サーバーの全体管理データベースはバックアップと復旧の特別なケースです。詳細については、後の「 備考 」を参照。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内のミラーリン	あり

グをサポートする	
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

備考

バックアップと復旧。サーバーの全体管理コンテンツ データベースは、SharePoint ファーム構成およびコンテンツ バックアップを実行するとバックアップされます。ファームが復元されるときは、サーバーの全体管理コンテンツ データベースは復元されません。SharePoint ファームが最初にオフラインにされる場合は、SQL Server または他のツールを使用して、サーバーの全体管理コンテンツ データベースを正常にバックアップおよび復元できます。

コンテンツ データベース

コンテンツ データベースは、ドキュメント ライブラリのサイトドキュメントまたはファイル、リスト データ、Web パーツ プロパティ、監査ログ、サンドボックス ソリューション、ユーザー名と権限など、サイト コレクションのすべてのコンテンツを格納します。

特定のサイト コレクションのすべてのデータは、ただ 1 つのサーバーの 1 つのコンテンツ データベースに存在します。1 つのコンテンツ データベースを、複数のサイト コレクションと関連付けることができます。

Microsoft Office Web Apps が展開されている場合、コンテンツ データベースは Office Web Apps キャッシュも含みます。キャッシュは、Web アプリケーションごとに 1 つだけ作成されます。異なるコンテンツ データベースに格納された複数のサイト コレクションで Office Web Apps がアクティブになっている場合、それらは同じキャッシュを使用します。キャッシュのサイズ、有効期間、および場所を構成できます。Office Web Apps キャッシュのサイズの詳細については、「[Manage the Office Web Apps cache](#)」を参照してください。

PowerPivot for SharePoint が環境にインストールされている場合、コンテンツ データベースにはそのユーザー データも格納されます。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときに既定のデータベース名プレフィックス	WSS_Content
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および	システムのパフォーマンスのため、コンテンツ データベース

び拡大要因	のサイズを 200 GB に制限することを強くお勧めします。詳細については、後の「 備考 」を参照してください。 コンテンツ データベースのサイズは、使用状況によって大きく変化します。詳細については、後の「 備考 」を参照してください。
読み取り/書き込み特性	使用状況によって変化します。たとえば、共同作業環境では書き込みが多く、ドキュメント管理環境では読み取りが多くなります。
推奨されるスケーリング方法	サイト コレクションをサポートするコンテンツ データベースは、スケールアップする必要があります。つまり、データベースは必要に応じて大きく拡大できる必要があります。ただし、 Web アプリケーションと関連付けられる追加のサイト コレクションを作成し、新しいサイト コレクションを異なるコンテンツ データベースと関連付けることができます。また、コンテンツ データベースが複数のサイト コレクションと関連付けられている場合は、サイト コレクションを別のデータベースに移動できます。コンテンツ データベースのサイズ設定に関する具体的なガイダンスについては、「 Plan for SQL Server, storage and BLOB configuration (SharePoint Server 2010) 」を参照してください。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり

備考

推奨されるコンテンツ データベース サイズ制限

システムのパフォーマンスのため、コンテンツ データベースのサイズを 200 GB に制限することを強くお勧めします。

◆ 重要:

リファレンス ドキュメント管理システムやレコード センター サイトのように、データが十分に静的に維持される単一サイトの大規模なリポジトリおよびアーカイブの場合のみ、最大 1 テラバイトまでのコンテンツ データベース サイズがサポートされます。このようなシナリオで大規模なデータベース サイズがサポートされるのは、そのような I/O パターンおよび一般的なデータ構造形式が、大きな規模に合わせて設計され、テストされているからです。大規模なドキュメント リポジトリの詳細については、「[Performance and capacity test results and recommendations \(SharePoint Server 2010\)](#)」から入手できる『Estimate Performance and Capacity Requirements for Large Scale Document Repositories』を参照してください。

コンテンツ データベース サイズの予測

コンテンツ データベースのサイズは、サイトの使用状況によって大きく変化します。拡大要因としては、ドキュメント数、ユーザー数、バージョン管理の使用、ごみ箱の使用、クォータのサイズ、監査ログが構成されているかどうか、監査対象に選択されているアイテム数などがあります。

Office Web Apps が使用されている場合、Office Web Apps キャッシュがコンテンツ データベースのサイズに大きく影響する可能性があります。Office Web Apps キャッシュのサイズの詳細については、「[Manage the Office Web Apps cache](#)」を参照してください。

PowerPivot for SharePoint が使用されている場合、SharePoint Server に格納されている Excel が大きく拡大し、コンテンツ データベースのサイズを増やします。詳細については、「[SharePoint フォームへの PowerPivot の配置の計画](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=186698&clid=0x411>) を参照してください。

コンテンツ データベースのサイズの計算方法の詳細な推奨事項については、「[Storage and SQL Server capacity planning \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

Usage and Health Data Collection データベース

Usage and Health Data Collection データベースは、Usage and Health Data Collection Service アプリケーションが使用します。正常性監視および使用状況データが一時的に格納し、レポートと診断に使用できます。

📌 メモ:

Usage and Health Data Collection データベースは、直接クエリを行ったり、スキーマを変更したりできる、唯一の SharePoint Server 2010 データベースです。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	WSS_UsageApplication
--	----------------------

場所の要件	Usage and Health Data Collection データベースは非常にアクティブであり、可能な場合は、異なるディスクまたはスピンドルに配置する必要があります。
一般的なサイズ情報および拡大要因	非常に大。データベースのサイズは、保持期間要因、ログおよび外部監視が有効なアイテムの数、環境内で実行している Web アプリケーションの数、現在作業しているユーザーの数、有効になっている機能に依存します。
読み取り/書き込み特性	Usage and Health Data Collection データベースは、書き込みが非常に大量です。
推奨されるスケーリング方法	スケールアップが必要。つまりファームごとにサポートされるログ データベースは 1 つだけなので、データベースは大きく拡大する必要があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり。ただし、Usage and Health Data Collection データベースはミラー化できますが、お勧めしません。障害が発生した場合は簡単に再作成されます。
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり。ただし、Usage and Health Data Collection データベースは非同期ミラー化またはログ配布できますが、お勧めしません。障害が発生した場合は簡単に再作成されます。

Business Data Connectivity データベース

Business Data Connectivity Service アプリケーション データベースには、外部コンテンツ タイプおよび関連するオブジェクトが格納されます。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	Bdc_Service_DB_
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小。サイズは接続の数によって決まります。

読み取り/書き込み特性	Business Data Connectivity データベースは読み取りが非常に大量です。
推奨されるスケーリング方法	スケールアップが必要。つまりファームごとにサポートされる Business Data Connectivity データベースは 1 つだけなので、データベースは大きく拡大する必要があります (極端に拡大する可能性はありません)。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Application Registry データベース

Application Registry Service アプリケーション データベースは、Microsoft Office SharePoint Server 2007 ビジネス データ カタログ API によって使用されている情報に接続するために使用される下位互換性のある情報を格納します。

メモ:

Office SharePoint Server 2007 ビジネス データ カタログからのアプリケーションの移行が完了したら、Application Registry Service アプリケーションを無効にしてデータベースを削除できます。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき既定のデータベース名プレフィックス	Application_Registry_server_DB_
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小。サイズは接続の数によって決まります。

読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。
推奨されるスケーリング方法	スケールアップが必要。つまりファームごとにサポートされる Application Registry Service データベースは 1 つだけなので、データベースは大きく拡大する必要があります (極端に拡大する可能性はありません)。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内のミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Subscription Settings データベース

Microsoft SharePoint Foundation Subscription Settings Service アプリケーション データベースは、ホストされる顧客の機能と設定を格納します。Subscription Settings Service アプリケーションとデータベースは、SharePoint 製品構成ウィザードによっては作成されません。Windows PowerShell コマンドレットを使用して作成する必要があります。詳細については、「[New-SPSubscriptionSettingsServiceApplication](#)」を参照してください。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき既定のデータベース名プレフィックス	SubscriptionSettings_
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小。サイズはテナント、ファーム、およびサポートされる機能の数によって決まります。
読み取り/書き込み特性	Subscription データベースは読み取りが大量です。
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーション

	の追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
推奨される復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

SharePoint Server 2010 Standard Edition データベース

SharePoint Server 2010 Standard Edition の展開には以下のデータベースが含まれます。

Secure Store データベース

Secure Store Service アプリケーション データベースは、アカウント名やパスワードなどの資格情報を格納してマップします。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	Secure_Store_Service_DB_
場所の要件	資格情報を安全に保管するため、Secure Store データベースは、1 人の管理者だけがアクセスできる別のデータベース インスタンスまたはデータベース サーバーでホストすることをお勧めします。既定では、データベースを既定の SharePoint データベース サーバーおよびインスタンスでホストすると、すべてのデータベース管理者が Secure Store データベースにアクセスできます。
一般的なサイズ情報	お中。サイズと拡大は、対象アプリケーションの数、対象アプリケ

よび拡大要因	ーションごとの資格情報フィールドの数、および各対象アプリケーションに格納されるユーザーの数によって決まります。監査が有効になっている場合、特定の対象アプリケーションに対して実行される読み取り/書き込み操作の数もサイズに影響します。
読み取り/書き込み特性	読み取り/書き込み同程度
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり

State データベース

State Service アプリケーション データベースは、InfoPath Forms Services、グラフ Web パーツ、および Visio Services の一時的な状態情報を格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	StateService
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	中から大。サイズは InfoPath Forms Services および Visio Services の使用によって決まります。
読み取り/書き込み特性	さまざま

推奨されるスケーリング方法	スケールアウト。Windows PowerShell コマンドレットを使用して、サービス アプリケーションに別の State データベースを追加します。「 Manage the State Service (SharePoint Server 2010) 」を参照してください。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Web Analytics Staging データベース

Staging データベースは、Web Analytics Service アプリケーションの非集計ファクト データ、資産メタデータ、およびキューのバッチ データを一時的に格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	WebAnalyticsServiceApplication_StagingDB_
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	中。サイズは生成されているレポートの数によって異なります。
読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	スケールアウト。別の Web Analytics Staging データベースをサービス アプリケーションのインスタンスと関連付けます。
関連付けられている正常性ルール	ルールは、サービス ブローカー キューが Web Analytics データベースに対して有効になっているかどうかを調べます。
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。

既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Web Analytics Reporting データベース

Reporting データベースは、Web Analytics Service アプリケーションの、集計された標準レポートテーブル、サイトのグループごとに集計されたファクト データ、日付および資産メタデータ、および診断情報を格納します。

◆ 重要:

大規模な環境の場合、Web Analytics Service アプリケーションの Reporting データベースを、SQL Server 2008 Enterprise Edition を実行するサーバーで実行し、Web Analytics Service アプリケーションがテーブルのパーティション分割を利用できるようにすることをお勧めします。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき既定のデータベース名プレフィックス	WebAnalyticsServiceApplication_ReportingDB_
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	非常に大。サイズは保持ポリシーによって変わります。
読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている	ルールは、サービス ブローカー キューが Web Analytics データベ

る正常性ルール	スに対して有効になっているかどうかを調べます。
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧、SQL Server、および DPM 2010。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Search Service アプリケーション Administration データベース

Administration データベースは、Search Service アプリケーションの構成とアクセス制御リスト (ACL)、およびクローラ コンポーネントのおすすめコンテンツをホストします。このデータベースは、すべてのユーザー アクションおよび管理アクションでアクセスされます。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	Search_Service_Application_DB_
場所の要件	サーバーがエンド ユーザー クエリの負荷を最も効率よく処理できるように、Administration データベースはサーバーの RAM に収まる必要があります。この要件のため、通常は、Administration データベースと Crawl データベースを同じサーバーに配置しないのが最善です。
一般的なサイズ情報および拡大要因	中から大。拡大に影響する要因には、おすすめコンテンツの数、コンテンツ ソースとクローラ ルールの数、コーパスに対するセキュリティ記述、トラフィックの量などがあります。
読み取り/書き込み特性	読み取り/書き込みがほぼ同程度
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。た

	だし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Search Service アプリケーション Crawl データベース

Crawl データベースは、クロールされたデータの状態とクロール履歴を格納します。

重要:

大規模な環境の場合、SQL Server 2008 Enterprise Edition を実行するサーバーで Crawl データベースを実行し、サービス アプリケーションがデータ圧縮を利用できるようにすることをお勧めします。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき既定のデータベース名プレフィックス	Search_Service_Application_CrawlStoreDB_
場所の要件	Crawl データベースは I/O が非常に多く、SQL Server キャッシュが定期的にフラッシュされます。大規模な環境では、Property データベースまたはエンドユーザー タスクが関係する他のデータベースを含まないサーバーに、このデータベースを配置することをお勧めします。
一般的なサイズ情報	中から大。通常、Crawl データベースは中程度のサイズで開始して、時間とともに拡大します。縮小することはありません。拡大に

および拡大要因	影響する要因は、コーパス内のアイテムの数です。
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。読み取り/書き込みの比率は 3:1 です。
推奨されるスケーリング方法	スケールアウト。別の Crawl データベースをサービス アプリケーションのインスタンスと関連付けます。サーバーが必要な 1 秒あたりの I/O を処理できる場合、複数の Crawl データベースを同じサーバーに配置できます。
関連付けられている正常性ルール	検索 - 1 つ以上のクロール データベースに断片化されたインデックスがあります正常性ルールがインデックスを最適化して統計を再構築し、システムが SQL Server Enterprise Edition を実行している場合はページ レベルでのデータ圧縮を有効にします。
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Search Service アプリケーション Property データベース

Property データベースは、プロパティ、履歴、クロール キューなど、クロールされたデータに関連する情報を格納します。

重要:

大規模な環境の場合、SQL Server 2008 Enterprise Edition を実行するサーバーで Property データベースを実行し、サービス アプリケーションがデータ圧縮を利用できるようにすることをお勧めします。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき既定のデー	Search_Service_Application_PropertyStoreDB_
---	---

データベース名プレフィックス	
場所の要件	少なくとも Property データベースの 3 分の 1 が、サーバーの RAM に収まる必要があります。 大規模な環境では、クエリ結果を速くするため、このデータベースを専用のサーバーに配置することをお勧めします。
一般的なサイズ情報および拡大要因	大から非常に大。拡大に影響する要因は、管理プロパティの数およびドキュメントの数です。
読み取り/書き込み特性	書き込みが大量。読み取り/書き込みの比率は 1:2 です。
推奨されるスケーリング方法	スケールアウト。別の Property データベースをサービス アプリケーションのインスタンスと関連付けます。追加する各 Property データベースは別のサーバーに配置することをお勧めします。
関連付けられている正常性ルール	既定では、 検索 - インデックスが断片化されているプロパティ データベースがあります 正常性ルールが、1 週間に 1 回実行します。インデックスを最適化し、統計を再構築して、システムが SQL Server Enterprise Edition を実行している場合はデータの圧縮を有効にします。
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

User Profile Service アプリケーション Profile データベース

Profile データベースは、ユーザーおよび関連する情報を格納して管理します。また、ユーザーのソーシャル ネットワークに関する情報、および配布リストとサイトのメンバーシップも格納します。

SharePoint 製品構成ウ	User Profile Service Application_ProfileDB_
------------------	---

イザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	中から大。拡大要因には、ユーザーの追加およびニュースフィードの使用があります。ニュースフィードはユーザー アクティビティとともに増加します。既定では、直近 2 週間のアクティビティが保持され、2 週間を超えたニュースフィード アイテムはタイマー ジョブによって削除されます。
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし。ただし、管理者は、SharePoint Administration Toolkit に含まれる User Profile Replication Engine を使用して、User Profile Service 間で、ユーザー プロファイル、および、ソーシャル タグ、メモ、評価などのソーシャル データを複製できます。この複製は、一方向にも双方向にも実行できます。詳細については、 「User Profile Replication Engine の概要 (SharePoint Server 2010)」 を参照してください。

User Profile Service アプリケーション Synchronization データベース

Synchronization データベースは、プロフィール データが Active Directory などのディレクトリ サービスと同期されるときに使用される構成とステージング データを格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	User Profile Service Application_SyncDB_
場所の要件	
一般的なサイズ情報および拡大要因	中から大。拡大要因は、ユーザーとグループの数およびユーザーとグループの比率です。
読み取り/書き込み特性	読み取り/書き込みがほぼ同程度
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし。ただし、管理者は、SharePoint Administration Toolkit に含まれる User Profile Replication Engine を使用して、User Profile Service 間で、ユーザー プロファイル、および、ソーシャル タグ、メモ、評価などのソーシャル データを複製できます。この複製は、一方向にも双方向にも実行できます。詳細については、「 User Profile Replication Engine の概要 (SharePoint Server 2010) 」を参照してください。

User Profile Service アプリケーション Social Tagging データベース

Social Tagging データベースは、ユーザーが作成したソーシャル タグとメモ、およびそれぞれの URL を格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき	User Profile Service Application_SocialDB_
--------------------------------------	--

の既定のデータベース名プレフィックス	
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小から非常に大。拡大要因は、作成されて使用されるタグ、評価、およびメモの数です。
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。読み取り/書き込みの比率は約 50:1 です。
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし。ただし、管理者は、SharePoint Administration Toolkit に含まれる User Profile Replication Engine を使用して、User Profile Service 間で、ユーザー プロファイル、および、ソーシャル タグ、メモ、評価などのソーシャル データを複製できます。この複製は、一方向にも双方向にも実行できます。詳細については、「 User Profile Replication Engine の概要 (SharePoint Server 2010) 」を参照してください。

Managed Metadata データベース

Managed Metadata Service アプリケーション データベースは、管理メタデータおよび配布されるコンテンツ タイプを格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき既定のデータベース名プレフィックス	Managed Metadata Service_
---	---------------------------

場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	中。拡大要因は、管理メタデータの量です。
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。読み取り/書き込みの比率は約 1,000:1 です。
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Word Automation Services

Word Automation Services データベースは、保留中および完了済みのドキュメント変換についての情報を格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	WordAutomationServices_
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小

読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

SharePoint Server 2010 Enterprise Edition のデータベース

SharePoint Server 2010 Enterprise Edition の展開には、Standard Edition に付属するデータベースに加えて、以下のデータベースが含まれます。

PerformancePoint Service アプリケーション データベース

PerformancePoint Service アプリケーション データベースは、一時オブジェクト、永続的なフィルター値、およびユーザー コメントを格納します。

メモ:

Microsoft SQL Server 2008 Analysis Services (SSAS) も、PerformancePoint Service アプリケーションのデータ ソースとして推奨されます。SQL Server Analysis Services を構成し、キューブを作成してある場合、発行済みダッシュボードからのドリルダウン分析などの追加機能が使用可能になります。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	PerformancePoint Service Application_
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小。ユーザー コメントと注釈は無期限に保持され、アプリケーション ユーザーの数に応じて増加します。一時的なアイテムは毎日 1 回削除されます。
読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。サービス アプリケーションの追加インスタンスを作成することでスケールアウトできます。ただし、別のサービス アプリケーションを作成する決定は、スケール、要件ではなく、ビジネスに基づく可能性があります。
関連付けられている正常性ルール	データベースを使用できません正常性ルールが、PerformancePoint データベースが使用できることを確認します。
サポートされるバックアップ メカニズム	SharePoint Server 2010 バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

Project Server 2010 のデータベース

Project Server 2010 には SharePoint Server 2010 Enterprise Edition が必要です。

Draft データベース

Draft データベースは、編集プロジェクトのデータを含みます。また、Project Queue によって使用されるテーブルもホストします。エンド ユーザーは Draft データベースのデータに直接アクセスできません。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	ProjectServer_Draft
場所の要件	Published および Archive データベースと同じデータベース インスタンスに存在する必要があります。
一般的なサイズ情報および拡大要因	中
読み取り/書き込み特性	読み取り/書き込み同程度
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SharePoint Server 2010 および SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり。ただし、追加手順に従う必要があります。
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり。ただし、すべてのデータベースのログを同期する必要があります。

Published データベース

Published データベースは、発行されたすべてのプロジェクトのコピーを含みます。また、Project Server に固有のテーブルも含みます (タイムシート、リソース、カスタム フィールド、セキュリティ定義、その他のメタデータ)。このデータベースは、Timesheet Queue によって使用されるテーブルもホストします。エンド ユーザーは Published データベースのデータに直接アクセスできません。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	ProjectServer_Published
場所の要件	Draft および Archive データベースと同じデータベース サーバーに存在する必要があります。

一般的なサイズ情報および拡大要因	中
読み取り/書き込み特性	読み取り/書き込み同程度
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SharePoint Server 2010 および SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり。ただし、追加手順に従う必要があります。
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり。ただし、すべてのデータベースのログを同期する必要があります。

Archive データベース

Archive データベースは、Project Web Access 管理者による設定に従って、プロジェクト、リソース、カレンダー、エンタープライズ カスタム フィールド、エンタープライズ グローバル Project Web Access ビュー定義、Project Web Access システム設定、およびカテゴリとグループのセキュリティ設定のバックアップ データを格納します。エンド ユーザーは Archive データベースのデータに直接アクセスできません。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときの既定のデータベース名プレフィックス	ProjectServer_Archive_
場所の要件	Draft および Published データベースと同じデータベース サーバーに存在する必要があります。
一般的なサイズ情報および拡大要因	小、ただし非常に大きく拡大する場合があります。システムがアーカイブ機能を使用している場合、このデータベースは少なくとも Draft データベースと同じ大きさですが、はるかに大きくなる可能性があります。Draft データベースの指定した倍数より大きくならないように、Archive データベースのサイズの制限を設定できます。
読み取り/書き込み特性	読み取り/書き込み同程度

推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SharePoint Server 2010 および SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり。ただし、追加手順に従う必要があります。
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり。ただし、すべてのデータベースのログを同期する必要があります。

Reporting データベース

Reporting データベースは、Project Server のプロジェクトの全体的なポートフォリオのリポジトリです。これらのテーブルは、Project Server に対して最後に発行されたプロジェクトに基づく各プロジェクト計画の安定したスナップショットを表し、正規化されていない時間フェーズのデータを含み、Project クライアントに含まれない高度なレポート機能に対応します。エンド ユーザーは Reporting データベースのデータにアクセスできます。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるとき既定のデータベース名プレフィックス	ProjectServer_Reporting
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	大
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SharePoint Server 2010 および SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全

可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり。ただし、追加手順に従って、Project データベースとログを完全に同期させる必要があります。
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり。ただし、追加手順に従って、Project データベースとログを完全に同期させる必要があります。

FAST Search Server for SharePoint 2010 のデータベース

FAST Search Server 2010 for SharePoint には SharePoint Server 2010 Enterprise Edition が必要です。

Search Administration データベース

Search Administration データベースは、FAST Search Server 2010 for SharePoint の管理に関係するデータを格納して管理します。これには、検索設定グループ、キーワード、類義語、ドキュメントおよびサイトの昇格と降格、用語エンティティ抽出器の包含と除外、スペル チェックの除外、おすすめコンテンツ、ヴィジュアルおすすめコンテンツ、および検索スキーマ メタデータが含まれます。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときに既定のデータベース名プレフィックス	FASTSearchAdminDatabase
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小。拡大とサイズは、キーワード、類義語、ドキュメントの昇格と降格、サイトの昇格と降格、用語エンティティ抽出器の包含、用語エンティティ抽出器の除外、スペル チェックの除外、おすすめコンテンツ、およびヴィジュアルおすすめコンテンツの数によって影響を受けます。
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。
推奨されるスケーリング方法	データベースをスケールアップします (極端に拡大する可能性はありません)。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバック	SQL Server バックアップと復旧。

アップ メカニズム	
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

PowerPivot for SharePoint

PowerPivot for SharePoint は SharePoint Server 2010 および Excel Services を拡張して、SharePoint Server 2010 に発行された PowerPivot ブックに対するサーバー側処理、共同作業、およびドキュメント管理のサポートを追加します。

PowerPivot for SharePoint では、SQL Server 2008 R2 Enterprise Edition Analysis Services が環境にインストールされている必要があります。

メモ:

PowerPivot for SharePoint を使用すると、サーバーの全体管理コンテンツ データベース および Excel ブックが格納されているコンテンツ データベースのサイズにも影響があります。詳細については、「[SharePoint ファームへの PowerPivot の配置の計画](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=186698&clcid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=186698&clcid=0x411>) を参照してください。

PowerPivot Application データベース

PowerPivot Application データベースは、キャッシュされた、または読み込まれた PowerPivot データ ファイルの場所、データ更新スケジュール、および集中使用状況データ収集データベースからコピーされた PowerPivot の使用状況データを格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされる際の既定のデータベース名プレフィックス	DefaultPowerPivotServiceApplicationDB
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小

読み取り/書き込み特性	
推奨されるスケーリング方法	サービス アプリケーション インスタンスをサポートするデータベースをスケールアップします。
関連付けられている正常性ルール	なし。SQL Server の正常性ルールに依存します。
サポートされるバックアップメカニズム	SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	あり。ただし、ミラーリングは SQL Server によってのみ管理されます。SharePoint Server 2010 は PowerPivot データベースを認識しません。
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	あり

SQL Server システム データベース

SharePoint Server 2010 は SQL Server に基づいており、結果として、SQL Server システム データベースを利用します。SQL Server では、システム テーブル、システム ストアド プロシージャ、カタログ ビューなどのシステム オブジェクトの情報をユーザーが直接更新することはできません。代わりに、SQL Server には管理ツールの完全なセットが用意されており、ユーザーはシステムおよびデータベースのすべてのユーザーとオブジェクトを完全に管理できます。SQL Server システム データベースの詳細については、「[システム データベース](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=186699&clcid=0x411>) を参照してください。

master

master データベースは、SQL Server のインスタンスに対するすべてのシステム レベル情報を記録します。

既定のデータベース名	master
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小
読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	スケールアップ (極端に拡大する可能性はありません)。

関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

model

model データベースは、SQL Server のインスタンスで作成されるすべてのデータベースのテンプレートとして使用されます。データベース サイズ、照合順序、復旧モデル、他のデータベース オプションなど、model データベースに対する変更は、それ以降に作成されるすべてのデータベースに適用されます。

既定のデータベース名	model
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小
読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	スケールアップ (極端に拡大する可能性はありません)。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

msdb

msdb データベースは、通知とジョブをスケジュールするために SQL Server エージェントによって使用されます。

既定のデータベース名	msdb
場所の要件	なし
一般的なサイズ情報および拡大要因	小
読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケーリング方法	スケールアップ (極端に拡大する可能性はありません)。
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

tempdb


tempdb データベースは、一時的なオブジェクトまたは中間結果のセットを保持する作業空間です。また、他一時的なストレージニーズにも使用されます。**tempdb** データベースは SQL Server が起動されるたびに再作成されます。

既定のデータベース名	tempdb
場所の要件	高速ディスクの、他のデータベースとは異なるスピンドルに配置します。必要な数のファイルを作成し、ディスクの帯域幅を最大にします。複数のファイルを使用すると tempdb の記憶域競合が減少し、非常に優れたスケーラビリティが得られます。ただし、作成するファイルが多すぎると、パフォーマンスが低下し、管理オーバーヘッドが増加するので、避けてください。一般に、サーバーの CPU ごとに 1 つのデータ ファイルを作成し、必要に応じてファイルの数を増減させて調整します。デュアルコア CPU は 2 CPU と考えることに注意してください。
一般的なサイズ情報および拡大要因	小から非常に大。 tempDB データベースのサイズは急速に増減します。サイズは、システムを使用しているユーザーの数、および実行している特定のプロセッサに依存します。たとえば、大きいインデックスのオンライン再構築や、大きい並べ替えを実行すると、データベースは急速に拡大します。

読み取り/書き込み特性	さまざま
推奨されるスケールアップ方法	スケールアップ
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップメカニズム	SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	単純
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

SQL Server Reporting Services データベース

以下の SQL Server Reporting Services データベースは、SharePoint Server 2010 の展開の一部として使用される場合があります。

 **メモ:**

展開で Access Services を使用する必要がある場合、Reporting Services の要件は次のように実行しているモードに依存します。

- ローカル モードでは、SharePoint Server 2010 および SQL Server 2008 R2 Reporting Services (SSRS) アドインのみが必要です。
- 接続モードでは、SharePoint Server 2010、SSRS アドイン、および Standard または Enterprise Edition で利用できる SQL Server 2008 R2 Report Server が必要です。

SQL Server Reporting Services データベースの管理方法の詳細については、「[Report Server Catalog Best Practices \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=185486&clcid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=185486&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

ReportServer データベース

SQL Server Reporting Services ReportServer データベースは、レポート定義、レポート履歴とスナップショット、およびスケジューリング情報などのすべてのレポート メタデータを格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときに既定のデータベース名プレフィックス	RSDB
場所の要件	ReportServerTempDb データベースと同じデータベース サーバーに存在する必要があります。
一般的なサイズ情報および拡大要因	小
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。
推奨されるスケーリング方法	データベースをスケールアップします
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SQL Server バックアップと復旧。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

ReportServerTempDB データベース

SQL Server Reporting Services ReportServerTempDB データベースは、レポートの実行中にすべての一時的スナップショットを格納します。

SharePoint 製品構成ウィザードを使用してインストールされるときに既定のデータベース名プレフィックス	RSTempDB
場所の要件	ReportServer データベースと同じデータベース サーバーに存在する必要があります。
一般的なサイズ情報および拡大要因	小から非常に大。ReportServerTempDB データベースのサイズは、同時対話形式ユーザーの数およびレポート スナップショットの数に応じて、急速に増減します。
読み取り/書き込み特性	読み取りが大量。
推奨されるスケーリング方法	データベースをスケールアップします
関連付けられている正常性ルール	なし
サポートされるバックアップ メカニズム	SQL Server バックアップと復旧。ただし、このデータベースをバックアップすることはお勧めしません。
既定の復旧モデル	完全
可用性のためファーム内でのミラーリングをサポートする	なし
障害復旧のために別のファームへの非同期ミラーリングまたはログ配布をサポートする	なし

言語パック (SharePoint Server 2010)

この記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 で使用できる言語パックの一覧を示します。言語パックを使用すると、SharePoint Server 2010 を言語別にインストールすることなく、複数の言語でサイトとサイト コレクションを作成できます。言語パックの詳細については、「[Deploy language packs \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。言語パックは「[SharePoint Server 2010、Project Server 2010、Search Server 2010、および Office Web Apps 2010 用 2010 Server Language Pack](#)」でダウンロードできます。

次の表に、SharePoint Server 2010 で利用できる言語パックの一覧を示します。

言語	言語 ID
アラビア語	1025
バスク語	1069
ブルガリア語	1026
カタルニア語	1027
簡体字中国語	2052
繁体字中国語	1028
クロアチア語	1050
チェコ語	1029
デンマーク語	1030
オランダ語	1043
英語	1033
エストニア語	1061
フィンランド語	1035
フランス語	1036
ガリシア語	1110
ドイツ語	1031
ギリシャ語	1032
ヘブライ語	1037

言語	言語 ID
ヒンディー語	1081
ハンガリー語	1038
イタリア語	1040
日本語	1041
カザフ語	1087
韓国語	1042
ラトビア語	1062
リトアニア語	1063
ノルウェー語 (ボークモール)	1044
ポーランド語	1045
ポルトガル語 (ブラジル)	1046
ポルトガル語 (ポルトガル)	2070
ルーマニア語	1048
ロシア語	1049
セルビア語 (ラテン)	2074
スロバキア語	1051
スロベニア語	1060
スペイン語	3082
スウェーデン語	1053
タイ語	1054
トルコ語	1055
ウクライナ語	1058

管理メタデータ入力ファイルの形式 (SharePoint Server 2010)

SharePoint Server 2010 の管理メタデータは、コンマ区切り値 (CSV) ファイルからインポートされます。各ファイルには 1 つの用語セットが含まれていることが必要です。用語セット内の用語は、7 レベルの深さの入れ子にできます。

インポートするデータを持たない組織であっても、用語ストアの管理ツールの外部で自身の分類を作成して、その用語をインポートすることを検討してください。用語ストアの管理ツールは、用語セットの作成と用語の管理を行うための便利で簡単な方法を提供しますが、このツールを使用して多くの用語セットを作成すると、用語セットをインポートする場合より時間がかかることがあります。用語ストアの管理ツールは、既に作成済みの用語セットに対して使用すると、用語セットの日常の管理が便利になります。

この記事の内容

- [管理メタデータ インポート ファイルの形式](#)
- [サンプル管理メタデータ インポート ファイルを表示する](#)
- [管理メタデータをインポートする](#)

この記事を読む前に、「[What Is Managed Metadata?](#)」で説明されている概念を理解していることが必要です。

管理メタデータ インポート ファイルの形式

管理メタデータ インポート ファイルは、見出し行と、用語セットおよび用語セット内の用語を定義するその他の行を含む、コンマ区切り値 (CSV) ファイルです。

ファイルの最初の行には、コンマで区切られた 12 の項目を含める必要があります。これらの項目は、次の行で指定する値の列見出し (表の場合など) と考えてください。各値を引用符 ("") で囲むことをお勧めします。


次の行は、サンプル管理メタデータ インポート ファイルの最初の行を示したものです。サンプル管理メタデータ インポート ファイルを表示する方法の詳細については、「[サンプル管理メタデータ インポート ファイルを表示する](#)」を参照してください。

コード
の
コ
ピ
ー

```
"Term Set Name","Term Set Description","LCID","Available for Tagging","Term  
Description","Level 1 Term","Level 2 Term","Level 3 Term","Level 4 Term","Level 5  
Term","Level 6 Term","Level 7 Term"
```

管理メタデータ インポート ファイルの 2 行目は、用語セットを表すように、指定された順番で以下の情報を含めることが必要です。

1. 用語セットの名前

 メモ:

用語セットの名前、用語の名前、およびすべての説明は、引用符 (“ ”) で囲むことをお勧めします。値自体にコンマが含まれていない場合、引用符は省略できますが、常に引用符を付ける方が安全です。

2. 1 個のコンマ (,)

3. 用語セットの名前 (省略可能)

4. 2 個のコンマ (, ,)

5. 語 TRUE

または語 FALSE

。ユーザーがこの用語セット内の用語を Microsoft SharePoint Server のアイテムに追加できるかどうかを示します。値を指定しない場合、用語セットはタグ付けで使用できます。

6. 8 個のコンマ (, , , , , , , ,)

管理メタデータ インポート ファイルの 3 行目、および後続の各行は、それぞれ用語を示します。3 行目および後続の各行の値はコンマで区切ります。省略可能な値は省略できますが、対応するコンマは省略できません。これは、値が存在するかどうかにかかわらず、コンマが区切り記号として必要なためです。

1 行内の各値は以下の情報を表し、下記のリストの順番で指定する必要があります。

1. 用語セット名: この値は空白のままにします。
2. 用語セットの説明: この値は空白のままにします。
3. ロケール識別子: 用語の言語に対応したロケールを特定する 10 進数値です。値を指定しない場合、この管理メタデータをインポートした用語ストアの既定のロケールが使用されます。
4. タグ付けで使用可能: この値は、ユーザーがこの用語を SharePoint Server のアイテムに追加できるかどうかを決定します。ユーザーがこの用語を使用できるようにする場合は語 TRUE を、使用することを禁止する場合は語 FALSE を指定します。値を指定しない場合、ユーザーはこの用語を使用できます。
5. 用語の説明: 用語の説明です。この値は省略できます。
6. レベル 1 用語 ~ レベル 7 用語: 用語セットが階層構造で編成されている場合、レベル 1 用語は階層の最上位にある用語で、レベル 2 用語はレベル 1 用語の下位にあります。以降についても同様です。指定する用語のレベルに至るまで、すべてのレベルに値を指定する必要があります。このことは、この後に続く例を見れば明らかです。

この例では、組織のすべてのオフィスの場所を表す用語セットをインポートします。用語セットは階層構造で編成されています。次のリストは用語セットの一部です。

- Sites (用語セット)

- North America
- Washington
- Seattle
- Redmond
- Tacoma
- Massachusetts
- Boston
- Cambridge

“North America” はレベル 1 用語です。“Washington” と “Massachusetts” はレベル 2 用語です。“Redmond”、“Seattle”、“Tacoma”、“Boston”、および “Cambridge” はレベル 3 用語です。この用語セットをインポートするために、以下の行を含むファイルを使用できます。

コ
ー
ド
の
コ
ピ
ー

```

“Term Set Name”,“Term Set Description”,“LCID”,“Available for Tagging”,“Term
Description”,“Level 1 Term”,“Level 2 Term”,“Level 3 Term”,“Level 4 Term”,“Level 5 Term”,“Level
6 Term”,“Level 7 Term” “Sites”,“Locations where the organization has offices” „TRUE,,,,,
„1033,TRUE,“North America” „,,, „1033,TRUE,“North America”,“Washington” „,,, „1033,TRUE,“North
America”,“Washington”,“Redmond” „,,, „1033,TRUE,“North America”,“Washington”,“Seattle” „,,,
„1033,TRUE,“North America”,“Washington”,“Tacoma” „,,, „1033,TRUE,“North
America”,“Massachusetts” „,,, „1033,TRUE,“North America”,“Massachusetts”,“Boston” „,,,
„1033,TRUE,“North America”,“Massachusetts”,“Cambridge” „,,,

```

メモ:

用語セットを定義する行 (行 2) と用語を定義する最初の行 (行 3) を結合できます。サンプルインポートファイルでこれが行われています。

管理メタデータ インポート ファイルを表示する

サンプル インポート ファイルは、用語ストアの管理ツールの管理メタデータ サービスのプロパティ ウィンドウで、[[サンプル インポート ファイルの表示](#)] をクリックして表示できます。用語セットのインポート ファイルを作成する最も簡単な方法は、サンプル インポート ファイルをテンプレートとして使用する方法です。まず、サンプル インポート ファイルを保存し、最初の行を除いてすべて削除します。次に、用語セットと用語を表す行を追加していきます。

管理メタデータをインポートする

メタデータをインポートする方法の手順については、Office.com を参照してください。

関連項目

その他のリソース

[What Is Managed Metadata?](#)

[Plan to import managed metadata](#)

読み取り専用サイトでのユーザー エクスペリエンス (SharePoint Server 2010)

ここでは、関連付けられているコンテンツ データベースが読み取り専用 (読み取り専用サイト) に設定されている、Microsoft SharePoint Server 2010 サイトのユーザー インターフェイスを変更する方法について説明します。

読み取り専用サイトのユーザー エクスペリエンスには、次のような特徴があります。

- コンテンツ データベースへの書き込みが不要な一般的なタスクを完全に使用できます。
- コンテンツ データベースへの書き込みが必要な一般的なタスクのほとんどは使用できません。ユーザー インターフェイスが無効になっているか、ユーザーが変更することが許可されていないためです。
- コンテンツ データベースへの書き込みが必要な一般的なタスクの一部は選択できますが、実行するとエラーを返します。

ここでは、読み取り専用サイトで使用できない一般的なタスクおよび実行するとエラーを返す一般的なタスクについて説明します。

読み取り専用サイトで使用できず、エラーを返さない一般的なタスク

データベースへの書き込みが必要となる一般的なタスクを実行できないようにユーザー インターフェイスが変更されると、該当するコマンドは選択できなくなります。次の表は、使用できないユーザー インターフェイス要素を示しています。

オブジェクト	読み取り専用サイトで無効になるインターフェイス要素
高速検索ページ	リボンが表示されません
検索ページ	リボンが表示されません
サイトの操作メニュー	編集ページ 新規ページ 新しいドキュメント ライブラリ 新しいサイト その他の作成オプション SharePoint Designer でサイトを編集 サイトのワークフロー

オブジェクト	読み取り専用サイトで無効になるインターフェイス要素
ライブラリ ツール タブ: ドキュメント	新しいドキュメント ドキュメントのアップロード 新しいフォルダー ドキュメントの編集 チェックアウト チェックイン チェックアウトの破棄 プロパティの編集 バージョン履歴 ドキュメントの削除 モバイル リンク コピーの管理 ソースに移動 ワークフロー 発行 発行取り消し 承認/却下 承認の取り消し
ライブラリ ツール タブ: ライブラリ	新しい行 データの更新 ビューの作成 ビューの変更 列の作成 ライブラリを編集 フォーム Web パーツ ライブラリの設定 ワークフロー
リスト ツール タブ: アイテム	新しいアイテム 新しいフォルダー アイテムの編集 アイテムの削除 ファイルの添付 ワークフロー

オブジェクト	読み取り専用サイトで無効になるインターフェイス要素
	承認/却下
リスト ツール タブ: リスト	新しい行 データの更新 データの更新 ビューの作成 列の作成 モバイル リンク Outlook に接続 Visio 図面の作成 スケジュールを開く 一覧の編集 フォーム Web パーツ リストの設定 フォームのユーザー設定 ワークフロー
カレンダーのツール タブ: イベント	新しいイベント イベントの編集 イベントの削除 ワークフロー 承認/却下
カレンダーのツール タブ: カレンダー	ビューの作成 ビューの変更 通知
サイトの設定: ユーザーと権限: ユーザーとグループ	新規 操作: グループからのユーザーの削除 設定
サイトの設定: ユーザーと権限: サイトの権限	アクセス許可の付与 グループの作成 ユーザー権限 ユーザー権限の削除 サイト コレクションの管理者
サイトの設定: ユーザーと権限: すべてのユ	操作: サイトからのユーザーの削除

オブジェクト	読み取り専用サイトで無効になるインターフェイス要素
ユーザー	設定: リストの設定

読み取り専用サイトでは使用できないオプションの一部が、ユーザー インターフェイス上で選択可能であるかのように表示される場合がありますが、後続のページでは [OK] ボタンが無効になっています。このようなページには以下のものがあります。

- ユーザーと権限
 - サイト コレクションの管理者
 - サイトの権限: アクセス権の要求の管理
- 外観
 - タイトル、説明、アイコン
 - トップ リンク バー: 新しいナビゲーション リンク
 - サイド リンク バー
 - 新しい見出し
 - 新しいナビゲーション リンク
 - ツリー ビュー
- ギャラリー
 - サイト列
 - サイト コンテンツ タイプ
- サイトの管理: 地域の設定
- サイトの操作: サイト定義へのリセット
- ポータルの構成

読み取り専用サイトで選択可能なように表示されるが、エラーを返す一般的なタスク

読み取り専用サイトでは使用できないオプションの一部が、ユーザー インターフェイス上で選択可能であるかのように表示される場合がありますが、ユーザーがこれらの操作を実行しようとする、エラー メッセージが表示されます。次の表は、エラーを返すユーザー インターフェイス要素を示しています。

コンポーネント または領域	操作またはアクションの種類	動作またはエラー メッセージ
サイトのテーマ	[サイトのテーマ] ページで、[適用] をクリックします。	SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
サイトのライブ ラリーとリスト	[新しいコンテンツの作成] をクリックします。	SharePoint から “予期しないエラーが発生しました” メッセージが返されま

コンポーネント または領域	操作またはアクションの種類	動作またはエラー メッセージ
		す。
サイトとワーク スペース	[作成] をクリックします。	SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
サイドリンク バーのカスタマイズ	[順序の変更] をクリックし、[リンクの並べ替え] ページ上でリンクの順序をリセットして、 [OK] をクリックします。	SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
サイトの機能	[アクティブ化] または [非アクティブ化] をクリックします。	SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
このサイトを削除		SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
ごみ箱	次のいずれかのボタンをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> • [選択したアイテムの復元] • [選択したアイテムの削除] • [ごみ箱を空にする] 	SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
SharePoint Designer 設定	いずれかの項目の設定を変更してから [OK] をクリックします。	SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
ヘルプ設定		SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
検索の設定	いずれかの項目の設定を変更してから [OK] をクリックします。	SharePoint から “エラー: アクセス拒否” メッセージが返されます。
検索範囲	[新しい範囲] をクリックし、いずれかの項目の設定を変更してから [OK] をクリックします。 [表示グループ]、[新しい表示グループ] を順にクリックして、いずれかの項目の設定を変更してから [OK] をクリックします。	SharePoint から “次のエラーのため、保存できませんでした: 許可されていない操作を実行しようとしてしました” メッセージが返されます。
コマンドのユーザー設定リボン	[フォームのユーザー設定] をクリックします。	SharePoint から、Microsoft InfoPath の “資格情報を入力すると、次の Web サービスに接続されます” エラーが返さ

コンポーネント または領域	操作またはアクションの種類	動作またはエラー メッセージ
		れます。
リスト ツール リボン、リスト タブ	[フォームのユーザー設定] をク リックします。	SharePoint から、エラー “この機能を 使用するには、Microsoft InfoPath 2010 が必要です” が返されます。

スクリプト展開リファレンス (SharePoint Server 2010)

この記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームのスクリプト展開に使用するコマンドと構文について説明します。また、「[Installing SharePoint Server 2010 by using Windows PowerShell](#)」で使用されている一般的なテンプレートの表も示します。

◆ 重要:

Install-SharePoint、New-SharePointFarm、および Join-SharePointFarm の各コマンドは、SPModule.zip ファイルのコンテキストでのみ使用してください。

これらのコマンドを使用して SharePoint Server 2010 をインストールする方法については、「[Installing SharePoint Server 2010 by using Windows PowerShell](#)」を参照してください。

この記事の内容

- [Install-SharePoint](#)
- [New-SharePointFarm](#)
- [Join-SharePointFarm](#)
- 一般的なサイト コレクション テンプレート

Install-SharePoint

Install-SharePoint コマンドは、すべてのサーバーに SharePoint Server 2010 をインストールします。

Install-SharePoint コマンドを実行する方法は 2 種類あり、パラメーター セットによって定義されます。第 1 の方法では、インストール ファイルのパス、プロダクト キー (PIDKey)、その他、既定値以外の多くの値を指定します。第 2 の方法では、インストール ファイルのパスを指定し、次に Config.xml ファイルのパスを指定します。PIDKey その他の設定値は、セットアップ中に config.xml ファイルから解析されます。

Install-SharePoint コマンドの構文は、以下のとおりです。指定するパラメーター セットによって結果が異なります。第 1 の方法のパラメーター セットには、2 つの必須パラメーター **SetupExePath** と **PIDKey** があります。それ以外のパラメーターの指定は任意です。省略可能な **LogPath** パラメーターに値を指定しなかった場合の既定値は、%Temp% です。

Install-SharePoint -SetupExePath <文字列> -PIDKey <文字列> [-LoggingType < Verbose | Off | Standard | Debug>] [-LogPath <文字列>] [-LogTemplate <文字列>] [-DisplayLevel <None | Basic | Full>] [-ShowCompletionNotice <スイッチ パラメーター>] [-UseInstallMode <スイッチ パラメーター>] [-AcceptEula <スイッチ パラメーター>] [-ShowModalDialog <スイッチ

パラメーター>] [-AllowCancel <スイッチ パラメーター>] [-ServerRole <APPLICATION | WFE | SINGLESERVER>] [-SetupType <CLEAN_INSTALL | V2V_INPLACE_UPGRADE | B2B_UPGRADE | SKU2SKU_UPGRADE>] [-InstallDirectory <文字列>] [-DataDirectory <文字列>] [-RunsWorkaround <スイッチ パラメーター>] [-PhysicalSKU <OfficeServer | SharePoint | SearchServer | SearchServerExpress | WCServer | ProjectServer | SharePointLanguagePack | ServerLanguagePack>]

第 2 の方法のパラメーター セットには、2 つの必須パラメーター SetupExePath と ConfigXMLPath があります。

Install-SharePoint -SetupExePath <文字列> -ConfigXMLPath <文字列> [-PIDKey <文字列>] [-PhysicalSKU <OfficeServer | SharePoint | SearchServer | SearchServerExpress | WCServer | ProjectServer | SharePointLanguagePack | ServerLanguagePack>]

New-SharePointFarm

New-SharePointFarm コマンドは、サーバーの全体管理 Web サイトを実行する予定のサーバーにファームを作成します。

このコマンドでは、以下の処理が実行されます。

1. 構成データベースを作成します。
2. 管理コンテンツ データベースを作成します。
3. ヘルプ コレクションをインストールします。
4. サーバーの全体管理 Web アプリケーションを作成します。
5. 既存の Web アプリケーション フォルダーに共有アプリケーション データをコピーします。

New-SharePointFarm コマンドの構文は以下のとおりです。2 つの必須パラメーター DatabaseAccessAccount と DatabaseServer があります。それ以外のパラメーターの指定は任意です。

New-SharePointFarm -DatabaseAccessAccount <PSCredential> -DatabaseServer <文字列> [-Passphrase <セキュリティで保護された文字列>] [-Port <Int>] [-AdminAuthMethod <NTLM | Kerberos>] [-FarmName <文字列>]


例: New-SharePointFarm -DatabaseAccessAccount (Get-Credential DOMAIN¥username) -DatabaseServer "SQL01" -FarmName "TestFarm"

Join-SharePointFarm

Join-SharePointFarm コマンドを実行すると、サーバーをファームに接続できます。

Join-SharePointFarm コマンドの構文は以下のとおりです。2 つの必須パラメーター DatabaseServer と ConfigurationDatabaseName があります。それ以外のパラメーターの指定は任意です。

Join-SharePointFarm -DatabaseServer <文字列> -ConfigurationDatabaseName <文字列> [-Passphrase <セキュリティで保護された文字列>]

 メモ:

ユーザーにパスワードの入力を求めるメッセージを表示しないようにするには、**Passphrase** パラメーターを使用します。**Passphrase** パラメーターの値に、ユーザーのパスワードを入力します。

一般的なサイト コレクション テンプレート

以下の表に、「[Installing SharePoint Server 2010 by using Windows PowerShell](#)」で使用される一般的なテンプレートを示します。

パラメーターの値	説明
GLOBAL#0	グローバル テンプレート
STS#0	チーム サイト
STS#1	空のサイト
STS#2	ドキュメント ワークスペース
MPS#0	一般的な会議ワークスペース
MPS#1	空の会議ワークスペース
MPS#2	意思決定の会議ワークスペース
MPS#3	イベントの会議ワークスペース
MPS#4	複数ページの会議ワークスペース
CENTRALADMIN#0	サーバーの全体管理サイト
WIKI#0	Wiki サイト
BLOG#0	ブログ
SGS#0	グループ ワーク サイト
TENANTADMIN#0	テナント管理サイト
ACCSRV#0	Access Services サイト
ACCSRV#1	資産管理 Web データベース
ACCSRV#3	寄付金管理 Web データベース
ACCSRV#4	連絡先管理 Web データベース

ACCSRV#6	案件管理 Web データベース
ACCSRV#5	プロジェクト Web データベース
BDR#0	ドキュメント センター
OFFILE#0	(現在未使用) レコード センター
OFFILE#1	レコード センター
OSRV#0	共有サービス管理サイト
PPSMASite#0	PerformancePoint
BICenterSite#0	ビジネス インテリジェンス センター
PWA#0	Project Web App サイト
PWS#0	Microsoft Project サイト
SPS#0	SharePoint Portal Server サイト
SPSPERS#0	SharePoint Portal Server 個人用スペース
SPSMSITE#0	個人用設定サイト
SPSTOC#0	コンテンツ エリアのテンプレート
SPSTOPIC#0	トピック エリアのテンプレート
SPSNEWS#0	ニュース サイト
CMSPUBLISHING#0	発行サイト
BLANKINTERNET#0	発行サイト
BLANKINTERNET#1	プレス リリース サイト
BLANKINTERNET#2	ワークフロー付き発行サイト
SPSNHOME#0	ニュース サイト
SPSSITES#0	サイト ディレクトリ
SPSCOMMU#0	コミュニティ エリアのテンプレート
SPSREPORTCENTER#0	レポート センター
SPSPORTAL#0	グループ作業ポータル
SRHCEN#0	エンタープライズ検索センター
PROFILES#0	プロファイル
BLANKINTERNETCONT	発行ポータル

SPSMSITEHOST#0	個人用サイトのホスト
ENTERWIKI#0	エンタープライズ Wiki
SRHCENTERLITE#0	基本検索センター
SRHCENTERLITE#1	基本検索センター
SRHCENTERFAST#0	FAST Search センター
visprus#0	Visio プロセス リポジトリ

アカウントの権限とセキュリティ設定 (SharePoint Server 2010)

この記事の内容：

- [アカウントの権限とセキュリティ設定について](#)
- [管理者アカウント](#)
- [サービス アプリケーション アカウント](#)
- [データベース ロール](#)
- [グループ権限](#)

この記事では、Microsoft SharePoint Server 2010 の管理者アカウントとサービス アカウントの権限について説明します。関連する領域は、Microsoft SQL Server、ファイル システム、ファイル共有、およびレジストリ エントリです。

アカウントの権限とセキュリティ設定について

SharePoint Server 2010 の基本的なアカウント権限とセキュリティ設定の多くは、完全インストールの最中に実行される SharePoint 製品構成ウィザード (Psconfig) とファーム作成ウィザードで構成されます。

管理者アカウント

SharePoint Server 2010 の管理者アカウント権限のほとんどは、セットアップ プロセスで次の SharePoint Server 2010 コンポーネントのいずれかによって自動的に構成されます。

- SharePoint 製品構成ウィザード (Psconfig)
- ファーム作成ウィザード
- SharePoint サーバーの全体管理 Web サイト
- Windows PowerShell

セットアップ ユーザー管理者アカウント

このアカウントは、SharePoint 製品構成ウィザード、最初のファーム作成ウィザード、および Windows PowerShell を実行してファーム内の各サーバーを設定するときに使用されます。この記事の例では、セットアップ ユーザー管理者アカウントは、ファーム管理に使用され、サーバーの全体管理で管理されます。ローカルの管理権限を必要とする構成オプションもあります。SharePoint Server 2010 検索クエリ サーバーの構成はその一例です。セットアップ ユーザー管理者アカウントには、次の権限が必要です。

- ドメイン ユーザー アカウントの権限が必要です。

- SharePoint Server 2010 ファーム内の、SQL Server と簡易メール転送プロトコル (SMTP) サーバーを除く各サーバー上のローカル Administrators グループのメンバーである必要があります。
- SharePoint Server 2010 データベースにアクセスできる必要があります。
- データベースに影響する Windows PowerShell 操作を使用する場合は、db_owner ロールのメンバーである必要があります。
- セットアップおよび構成時には、SQL Server のセキュリティ ロール securityadmin と dbcreator に割り当てられている必要があります。

メモ:

バージョンからバージョンへの完全なアップグレードでは、サービス用に新しいデータベースを作成し、保護する必要がある可能性があるため、SQL Server セキュリティ ロールの securityadmin と dbcreator が必要になる場合があります。

構成ウィザードを実行すると、次のコンピューター レベルの権限がセットアップ ユーザー管理者アカウントに与えられます。

- WSS_ADMIN_WPG Windows セキュリティ グループのメンバーシップ
- IIS_WPG ロールのメンバーシップ

構成ウィザードを実行すると、次のデータベース権限が与えられます。

- SharePoint Server 2010 サーバー ファーム構成データベースでの db_owner
- SharePoint Server 2010 サーバーの全体管理コンテンツ データベースでの db_owner

警告:

SQL Server を実行しているコンピューターからログインとしてのセットアップ ユーザー管理者アカウントを削除すると、構成ウィザードは正しく動作しなくなります。該当の特別な SQL ロール メンバーシップを持たないアカウント、または、データベースで db_owner としてのアクセス権を持たないアカウントを使用して構成ウィザードを実行した場合、構成ウィザードは正しく動作しません。

ファーム サービス アカウント

サーバー ファーム アカウントはデータベース アクセス アカウントとも呼ばれ、サーバーの全体管理ではアプリケーション プール ID として使用され、Microsoft SharePoint Foundation 2010 Timer Service ではプロセス アカウントとして使用されます。サーバー ファーム アカウントには次の権限が必要です。

- ドメイン ユーザー アカウントの権限が必要です。

サーバー ファームに参加している Web サーバーおよびアプリケーション サーバーでは、サーバー ファーム アカウントに追加の権限が自動的に与えられます。

SharePoint 製品構成ウィザードを実行すると、次のコンピューター レベルの権限が与えられます。

- SharePoint Foundation 2010 Timer Service の WSS_ADMIN_WPG Windows セキュリティ グループのメンバーシップ
- サーバーの全体管理アプリケーション プールおよび Timer Service アプリケーション プールの WSS_RESTRICTED_WPG のメンバーシップ
- サーバーの全体管理アプリケーション プールの WSS_WPG のメンバーシップ

構成ウィザードを実行すると、次の SQL Server 権限とデータベース権限が与えられます。

- Dbcreator 固定サーバー ロール
- Securityadmin 固定サーバー ロール
- すべての SharePoint Server 2010 データベースに対する db_owner
- SharePoint Server 2010 サーバー ファーム構成データベースの WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールのメンバーシップ
- SharePoint Server 2010 SharePoint_Admin コンテンツ データベースの WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールのメンバーシップ

Microsoft SharePoint Foundation 2010 Search Service アカウント

SharePoint Foundation 2010 Search Service アカウントは、SharePoint Foundation 2010 Search Service のサービス アカウントとして使用されます。SharePoint Foundation 2010 Search Service アカウントには、次に示す権限の構成設定が必要です。

- このアカウントにはドメイン ユーザー アカウント権限が必要です。

次のコンピューター レベルの権限が自動的に構成されます。Search Service アカウントは、WSS_WPG のメンバーです。

サーバー ファーム構成データベースの WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールのメンバーシップによって、次の SQL Server 権限とデータベース権限が与えられます。

- サーバー ファーム構成データベースに対する読み取りアクセス権
- SharePoint_Admin コンテンツ データベースに対する読み取りアクセス権
- このアカウントは、SharePoint Foundation 2010 の検索データベースの db_owner ロールに割り当てられます。

Microsoft SharePoint Foundation 2010 Search コンテンツ アクセス アカウント

SharePoint Foundation 2010 Search コンテンツ アクセス アカウントは、サイト間でコンテンツをクロールする場合に SharePoint Foundation 2010 Search Service によって使用されます。SharePoint Foundation 2010 Search コンテンツ アクセス アカウントには、次に示す権限の構成設定が必要です。

- このアカウントにはドメイン ユーザー アカウント権限が必要です。
- このアカウントはファーム管理者グループのメンバーであってはなりません。

次の SQL Server 権限とデータベース権限が自動的に構成されます。

- サーバー ファーム構成データベースに対する読み取りアクセス権
- SharePoint_Admin コンテンツ データベースに対する読み取りアクセス権
- このアカウントは、SharePoint Foundation 2010 の検索データベースの db_owner ロールに割り当てられます。

SharePoint Foundation 2010 Search コンテンツ アクセス アカウントのすべての読み取りポリシーが、すべての Web アプリケーションで作成されます。

サービス アプリケーション アカウント

ここでは、インストール時に既定でセットアップされるサービス アプリケーション アカウントについて説明します。

アプリケーション プール アカウント

アプリケーション プール アカウントは、アプリケーション プール ID として使用されます。アプリケーション プール アカウントには、次に示す権限の構成設定が必要です。

次のコンピューター レベルの権限が自動的に構成されます。アプリケーション プール アカウントは、WSS_WPG のメンバーです。

このアカウントに対して、次の SQL Server 権限とデータベース権限が自動的に構成されます。

- Web アプリケーションのアプリケーション プール アカウントは、コンテンツ データベースの db_owner ロールに割り当てられます。
- このアカウントは、ファーム構成データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。
- このアカウントは、SharePoint_Admin コンテンツ データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。

SharePoint Server Search Service アカウント

SharePoint Server 2010 Search Service アカウントは、SharePoint Server 2010 Search Service のサービス アカウントとして使用されます。SharePoint Server Search Service は、すべての検索サービス アプリケーションで使用される NT サービスです。このサービスのインスタンスは、各サーバーに 1 つだけ存在します。SharePoint Server 2010 Search Service アカウントには、次に示す権限の構成設定が必要です。SharePoint Server 2010 Search Service アカウントには、ファーム内のすべての検索クエリ サーバー上の伝達場所の共有に対するアクセス権が与えられます。

次のコンピューター レベルの権限が自動的に構成されます。SharePoint Server 2010 Search Service アカウントは、WSS_WPG のメンバーです。

次の SQL Server 権限とデータベース権限が自動的に構成されます。

- このアカウントは、ファーム構成データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。
- このアカウントは、SharePoint_Admin コンテンツ データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。

既定のコンテンツ アクセス アカウント

既定のコンテンツ アクセス アカウントは、URL または URL パターンのクローल ルールで別の認証方法が指定されていない限り、特定のサービス アプリケーション内でコンテンツをクローलする場合に使用されます。このアカウントには、次に示す権限の構成設定が必要です。

- 既定のコンテンツ アクセス アカウントは、ドメイン ユーザー アカウントである必要があり、このアカウントを使用してクローलする外部コンテンツ ソースまたはセキュリティ保護されたコンテンツ ソースへの読み取りアクセス権を必要とします。

- SharePoint Server サイトがサーバー ファームに含まれていない場合は、このアカウントには、サイトをホストする Web アプリケーションへのすべて読み取り権限を明示的に与える必要があります。
- このアカウントはファーム管理者グループのメンバーであってはなりません。

コンテンツ アクセス アカウント

コンテンツ アクセス アカウントは、検索管理のクローラ ルール機能を使用してコンテンツにアクセスするために構成されるアカウントです。このアカウントは省略でき、新しいクローラ ルールを作成するときに構成できます。たとえば、外部のコンテンツ (ファイル共有など) では、この独立したコンテンツ アクセス アカウントが要求されることがあります。このアカウントには、次に示す権限の構成設定が必要です。

- コンテンツ アクセス アカウントには、このアカウントがアクセスするように構成されている外部コンテンツ ソースまたはセキュリティ保護されたコンテンツ ソースへの読み取りアクセス権が必要です。
- SharePoint Server サイトがサーバー ファームに含まれていない場合は、このアカウントには、サイトをホストする Web アプリケーションへのすべて読み取り権限を明示的に与える必要があります。

Excel Services 無人サービス アカウント

Excel Services 無人サービス アカウントは、Windows 以外のオペレーティング システムでのユーザー名とパスワードを認証時に必要とする外部データ ソースに接続するときに、Excel Services によって使用されます。このアカウントが構成されていない場合、Excel Services はこれらの種類のデータ ソースには接続しません。Windows 以外のオペレーティング システムのデータ ソースへの接続にはアカウント資格情報が使用されますが、アカウントがドメインのメンバーでないと Excel Services はそのデータ ソースにアクセスできません。このアカウントは、ドメイン ユーザー アカウントである必要があります。

個人用サイトのアプリケーション プール アカウント

個人用サイトのアプリケーション プール アカウントは、ドメイン ユーザー アカウントである必要があります。このアカウントは、Farm Administrators グループのメンバーであってはなりません。

次のコンピューター レベルの権限が自動的に構成されます。このアカウントは WSS_WPG のメンバーです。

次の SQL Server 権限とデータベース権限が自動的に構成されます。

- このアカウントは、ファーム構成データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。
- このアカウントは、SharePoint_Admin コンテンツ データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。

その他のアプリケーション プール アカウント

その他のアプリケーション プール アカウントは、ドメイン ユーザー アカウントである必要があります。このアカウントは、サーバー ファーム内のコンピューター上の Administrators グループのメンバーであってはなりません。

次のコンピューター レベルの権限が自動的に構成されます。このアカウントは、WSS_WPG のメンバーです。

次の SQL Server 権限とデータベース権限が自動的に構成されます。

- このアカウントは、コンテンツ データベースの db_owner ロールに割り当てられます。
- このアカウントは、Web アプリケーションに関連付けられている検索データベースの db_owner ロールに割り当てられます。
- このアカウントには、関連付けられているサービス アプリケーション データベースに対する読み取りおよび書き込みアクセス権が必要です。
- このアカウントは、ファーム構成データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。
- このアカウントは、SharePoint_Admin コンテンツ データベースに関連付けられている WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールに割り当てられます。

データベース ロール

ここでは、インストール時に既定でセットアップされるか、必要に応じて構成できるデータベース ロールについて説明します。

WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS データベース ロール

WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS データベース ロールは、SharePoint に登録される各 Web アプリケーションのアプリケーション プール アカウントに適用されます。これにより、Web アプリケーションは、サイト マップをクエリおよび更新でき、構成データベース内の他のアイテムに対しては読み取り専用のアクセス権を持ちます。セットアップで、次のデータベースに WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールが割り当てられます。

- SharePoint_Config データベース (構成データベース)
- SharePoint_AdminContent データベース

WSS_CONTENT_APPLICATION_POOLS ロールのメンバーには、データベースのストアード プロシージャのサブセットに対する実行権限が与えられます。さらに、このロールのメンバーには、SharePoint_AdminContent データベースの Versions テーブル (dbo.Versions) に対する選択権限が与えられます。その他のデータベースについては、それらのデータベースを読み取るためのアクセス権が自動的に構成されることがアカウント計画ツールで示されます。場合によっては、データベースに書き込むための制限付きアクセス権も自動的に構成されます。このアクセスを可能にするために、ストアード プロシージャに対する権限が構成されます。たとえば、SharePoint_Config データベースについては、次のストアード プロシージャへのアクセス権が自動的に構成されます。

- proc_dropEmailEnabledList
- proc_dropEmailEnabledListsByWeb
- proc_dropSiteMap
- proc_markForDeletionEmailEnabledList
- proc_markForDeletionEmailEnabledListsBySite
- proc_markForDeletionEmailEnabledListsByWeb
- proc_putDistributionListToDelete
- proc_putEmailEnabledList
- proc_putSiteMap

WSS_SHELL_ACCESS データベース ロール

構成データベースで管理者アカウントを db_owner として追加する必要がある場合、その代わりに、構成データベースで安全な WSS_SHELL_ACCESS データベース ロールを使用できます。既定では、セットアップ アカウントが WSS_SHELL_ACCESS データベース ロールに割り当てられます。このロールのメンバーシップは、Windows PowerShell コマンドを使用して付与および削除されます。セットアップで次のデータベースに WSS_SHELL_ACCESS ロールが割り当てられます。

- SharePoint_Config データベース (構成データベース)。
- 1 つ以上の SharePoint コンテンツ データベース。メンバーシップを管理する Windows PowerShell コマンドと、このロールに割り当てられるオブジェクトを使用して、このデータベースを構成できます。

WSS_SHELL_ACCESS ロールのメンバーには、データベースのすべてのストアード プロシージャの実行権限が与えられます。さらに、このロールのメンバーには、すべてのデータベース テーブルの読み取りおよび書き込み権限が与えられます。

グループ権限

ここでは、SharePoint Server 2010 のセットアップと構成ツールで作成されるグループの権限について説明します。

WSS_ADMIN_WPG

WSS_ADMIN_WPG は、ローカル リソースに対する読み取りおよび書き込みアクセス権を持ちます。サーバーの全体管理および Timer Service のアプリケーション プール アカウントは、WSS_ADMIN_WPG です。次の表に、WSS_ADMIN_WPG のレジストリ エントリ権限を示します。

キー名	権限	継承	説明
HKEY_CLASSES_ROOT¥APPID¥{58F1D482-A132-4297-9B8A-F8E4E600CDF6}	フル コントロール	N/A	これは、SharePoint Server 2010 Search サービスの COM アプリケーションです。
HKEY_CLASSES_ROOT¥APPID¥{6002D29F-1366-4523-88C1-56D59BFEF8CB}	フル コントロール	N/A	これは、SharePoint Foundation 2010 Search サービス

キー名	権限	継承	説明
			の COM アプリケーションです。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥VSS	フルコントロール	N/A	N/A
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office¥14.0¥Registration¥[90120000-110D-0000-0000-0000000FF1CE]	読み取り、書き込み	N/A	N/A
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office Server	読み取り	なし	このキーは、SharePoint Server 2010 レジストリ設定ツリーのルートです。このキーを変更すると、SharePoint Server 2010 の機能は失敗します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office Server¥14.0	フルコントロール	なし	このキーは SharePoint Server 2010 レジストリ設定のルートです。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥LoadBalancerSettings	読み取り、書き込み	なし	このキーにはドキュメント変換サー

キー名	権限	継承	説明
			ビスの設定が格納されています。このキーを変更すると、ドキュメント変換機能が機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥LauncherSettings	読み取り、書き込み	なし	このキーにはドキュメント変換サービスの設定が格納されています。このキーを変更すると、ドキュメント変換機能が機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥Search	フルコントロール	N/A	N/A
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥Search	フルコントロール	N/A	N/A
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥Secure	フルコントロール	なし	このキーには、コンピューターが参加している構成データベースの接続文字列と

キー名	権限	継承	説明
			ID が格納されています。このキーを変更すると、コンピューター上の SharePoint Server インストールが機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥WSS	フル コントロール	あり	このキーにはセットアップ時に使用される設定が格納されています。このキーを変更すると、診断ログが機能しなくなり、セットアップまたはセットアップ後の構成が失敗する場合があります。

次の表に、WSS_ADMIN_WPG のファイル システム権限を示します。

ファイル システム パス	権限	継承	説明
--------------	----	----	----

ファイル システム パス	権限	継承	説明
%AllUsersProfile%\Application Data\Microsoft\Sharepoint	フル コントロール	なし	このディレクトリには、ファイル システムにバックアップされるファーム構成のキャッシュが格納されます。このディレクトリを変更または削除すると、プロセスが開始されなくなり、管理作業が失敗する場合があります。
C:\Inetpub\wwwroot\wss	フル コントロール	なし	このディレクトリ (またはサーバーの Inetpub ルートの下にある対応するディレクトリ) は、 IIS Web サイトの既定の場所として使用されます。 SharePoint Server で拡張されたすべての IIS Web サイトにカスタムの IIS Web サイトパスが提供されていない場合に、このディレクトリを変更または削除すると、 SharePoint サイトが使用できなくなり、管理作業が失敗する場合があります。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0	フル コントロール	なし	このディレクトリは、 SharePoint Server 2010 のバイナリとデータがインストールされる場所です。ディレクトリはインストール時に変更できません。このディレクトリを削除、変更、またはインストール後に削除すると、 SharePoint Server 2010 のすべての機能が失敗します。一部の SharePoint Server 2010 サービスは、データをディスクに格納するために、 WSS_ADMIN_WPG Windows セキュリティグループのメンバーシップを必要とします。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\WebServices	読み取り、書き込み	なし	このディレクトリは、 Excel 、 Search など、バックエンドの Web サービスがホストされるルートディレクトリです。このディレクトリを削除または変更すると、これらのサービスに依存する SharePoint Server 2010 の機能が失敗します。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\Data	フル コントロール	なし	このディレクトリは、検索インデックスをはじめとするローカルデータが格納されるルート場所です。このデ

ファイル システム パス	権限	継承	説明
			イレクトリを削除または変更すると、検索機能が失敗します。検索でこのフォルダーにデータを保存してセキュリティで保護するには、 WSS_ADMIN_WPG Windows セキュリティグループ権限が必要です。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\Log	フルコントロール	あり	このディレクトリは、ランタイム診断ログが生成される場所です。このディレクトリを削除または変更すると、ログ機能が正しく機能しなくなります。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\Data\Office Server	フルコントロール	あり	親フォルダーと同じです。
%windir%\System32\drivers\etc\HOSTS	読み取り、書き込み	N/A	N/A
%windir%\Tasks	フルコントロール	N/A	N/A
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14	変更	あり	このディレクトリは、SharePoint Server のコア ファイルのインストールディレクトリです。アクセス制御リスト (ACL) を変更すると、機能のアクティブ化、ソリューションの導入などの機能が正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\ADMISAPI	フルコントロール	あり	このディレクトリには、サーバーの全体管理の SOAP サービスが格納されています。このディレクトリを変更すると、リモートサイトの作成やサービスで公開されているその他のメソッドが正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\CONFIG	フルコントロール	あり	このディレクトリには、SharePoint Server で IIS Web サイトを拡張するために使用されるファイルが格納されています。このディレクトリまたはその内容を変更すると、Web アプリケーションの準備が正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Micro	フルコン	なし	このディレクトリには、セットアップ

ファイル システム パス	権限	継承	説明
osoft Shared¥Web Server Extensions¥14¥LOGS	トロール		トレース ログとランタイム トレース ログが格納されます。このディレクトリを変更すると、診断ログが正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥14¥Data	フル コントロール	あり	N/A
%windir%¥temp	フル コントロール	あり	このディレクトリは、SharePoint Server が依存するプラットフォーム コンポーネントで使用されます。ACL を変更すると、Web パーツのレンダリングやその他の逆シリアル化操作が失敗する場合があります。
%windir%¥System32¥logfiles¥Share Point	フル コントロール	なし	このディレクトリは、SharePoint Server の利用状況ログで使用されます。このディレクトリを変更すると、利用状況ログが正しく機能しなくなります。
インデックス サーバー上の %systemdrive¥program files¥Microsoft Office Servers¥14 フォルダー	フル コントロール	N/A	この権限は、インデックス サーバー上の %systemdrive¥program files¥Microsoft Office Servers¥14 フォルダーに与えられます。

WSS_WPG

WSS_WPG は、ローカル リソースに対する読み取りアクセス権を持ちます。すべてのアプリケーション プール アカウントおよびサービス アカウントは、WSS_WPG です。次の表に、WSS_WPG のレジストリ エントリ権限を示します。

キー名	権限	継承	説明
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office Server¥14.0	読み取り	なし	このキーは SharePoint Server 2010 レジストリ 設定のルートです。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥Diagnostics	読み取り、書き込み	なし	このキーには、SharePoint Server 2010 診断ログの設定が格納されています。このキーを変更すると、ログ機能が

キー名	権限	継承	説明
			機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥LoadBalancerSettings	読み取り、書き込み	なし	このキーにはドキュメント変換サービスの設定が格納されています。このキーを変更すると、ドキュメント変換機能が機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥LauncherSettings	読み取り、書き込み	なし	このキーにはドキュメント変換サービスの設定が格納されています。このキーを変更すると、ドキュメント変換機能が機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥Secure	読み取り	なし	このキーには、コンピューターが参加している構成データベースの接続文字列と ID が格納されています。このキーを変更すると、コンピューター上の SharePoint Server インストールが機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥WSS	読み取り	あり	このキーにはセットアップ時に使用される設定が格納されています。このキーを変更すると、診断ログが機能しなくなり、セットアップまたはセットアップ後の構成が失敗する場合があります。

次の表に、WSS_WPG のファイル システム権限を示します。

ファイル システム パス	権限	継承	説明
%AllUsersProfile%¥Application Data¥Microsoft¥Sharepoint	読み取り	なし	このディレクトリには、ファイル システムにバックアップされるファーム構成のキャッシュが格納されます。このディレクトリを変更または削除すると

ファイル システム パス	権限	継承	説明
			、プロセスが開始されなくなり、管理作業が失敗する場合があります。
C:\Inetpub\wwwroot\wss	読み取り、実行	なし	このディレクトリ (またはサーバーの Inetpub ルートの下にある対応するディレクトリ) は、 IIS Web サイトの既定の場所として使用されます。 SharePoint Server で拡張されたすべての IIS Web サイトにカスタムの IIS Web サイトパスが提供されていない場合に、このディレクトリを変更または削除すると、 SharePoint サイトが使用できなくなり、管理作業が失敗することがあります。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0	読み取り、実行	なし	このディレクトリは、 SharePoint Server 2010 のバイナリとデータがインストールされる場所です。ディレクトリはインストール時に変更できます。このディレクトリを削除、変更、またはインストール後に移動すると、 SharePoint Server 2010 のすべての機能が失敗します。 IIS サイトで SharePoint Server 2010 バイナリを読み込むには、 WSS_WPG の読み取り権限と実行権限が必要です。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\WebServices	読み取り	なし	このディレクトリは、 Excel 、 Search など、バックエンドの Web サービスがホストされるルートディレクトリです。このディレクトリを削除または変更すると、これらのサービスに依存する SharePoint Server 2010 の機能が失敗します。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\Logs	読み取り、書き込み	あり	このディレクトリは、ランタイム診断ログが生成される場所です。このディレクトリを削除または変更すると、ログ機能が正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\ADMISAPI	読み取り	あり	このディレクトリには、サーバーの全体管理の SOAP サービスが格納されています。このディレクトリを変更すると、リモートサイトの作成やサービス

ファイル システム パス	権限	継承	説明
			で公開されているその他のメソッドが正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\CONFIG	読み取り	あり	このディレクトリには、SharePoint Server で IIS Web サイトを拡張するために使用されるファイルが格納されています。このディレクトリまたはその内容を変更すると、Web アプリケーションの準備が正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS	変更	なし	このディレクトリには、セットアップ トレース ログとランタイム トレース ログが格納されます。このディレクトリを変更すると、診断ログが正しく機能しなくなります。
%windir%\temp	読み取り	あり	このディレクトリは、SharePoint Server が依存するプラットフォーム コンポーネントで使用されます。ACL を変更すると、Web パーツのレンダリングやその他の逆シリアル化操作が失敗する場合があります。
%windir%\System32\logfiles\SharePoint	読み取り	なし	このディレクトリは、SharePoint Server の利用状況ログで使用されます。このディレクトリを変更すると、利用状況ログが正しく機能しなくなります。
%systemdrive%\program files\Microsoft Office Servers\14	読み取り、実行	N/A	この権限は、インデックス サーバー上の %systemdrive%\program files\Microsoft Office Servers\14 フォルダーに与えられます。

ローカル サービス

次の表に、ローカル サービスのレジストリ エントリ権限を示します。

キー名	権限	継承	説明
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Office Server\14.0\LoadBalancerSettings	読み取り	なし	このキーにはドキュメント変換サービスの設定が格納されています。この

キー名	権限	継承	説明
	り		キーを変更すると、ドキュメント変換機能が機能しなくなります。

次の表に、ローカル サービスのファイル システム権限を示します。

ファイル システム パス	権限	継承	説明
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\Bin	読み取り、実行	なし	このディレクトリは、SharePoint Server 2010 のバイナリがインストールされる場所です。このディレクトリを削除または変更すると、SharePoint Server 2010 のすべての機能が失敗します。

ローカル システム

次の表に、ローカル システムのレジストリ エントリ権限を示します。

キー名	権限	継承	説明
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Office Server\14.0\LauncherSettings	読み取り	なし	このキーにはドキュメント変換サービスの設定が格納されています。このキーを変更すると、ドキュメント変換機能が機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Shared Tools\Web Server Extensions\14.0\Secure	フルコントロール	なし	このキーには、コンピューターが参加している構成データベースの接続文字列と ID が格納されています。このキーを変更すると、コンピューター上の SharePoint Server インストールが機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Shared Tools\Web Server Extensions\14.0\Secure\FarmAdmin	フルコントロール	なし	このキーには、構成データベースにシークレットを保存するために使用された暗

キー名	権限	継承	説明
	ントロール		号化キーが格納されています。このキーを変更すると、サービスの準備やその他の機能が失敗します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥WSS	フルコントロール	あり	このキーにはセットアップ時に使用される設定が格納されています。このキーを変更すると、診断ログが機能しなくなり、セットアップまたはセットアップ後の構成が失敗する場合があります。

次の表に、ローカル ファイル システムの権限を示します。

ファイル システム パス	権限	継承	説明
%AllUsersProfile%¥Application Data¥Microsoft¥Sharepoint	フルコントロール	なし	このディレクトリには、ファイル システムにバックアップされるファーム構成のキャッシュが格納されます。このディレクトリを変更または削除すると、プロセスが開始されなくなり、管理作業が失敗する場合があります。
C:¥Inetpub¥wwwroot¥wss	フルコントロール	なし	このディレクトリ (またはサーバーの Inetpub ルートの下にある対応するディレクトリ) は、IIS Web サイトの既定の場所として使用されます。SharePoint Server で拡張されたすべての IIS Web サイトにカスタムの IIS Web サイトパスが提供されていない場合に、このディレクトリを変更または削除すると、SharePoint サイトが使用できなくなり、管理作業が失敗することがあります。
%COMMONPROGRAMFILES%¥Microsoft Shared¥Web Server	フル	あり	このディレクトリには、サーバーの全体管理の SOAP サービスが格納されて

ファイル システム パス	権限	継承	説明
Extensions¥14¥ADMISAPI	コントロール		います。このディレクトリを変更すると、リモート サイトの作成やサービスで公開されているその他のメソッドが正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥14¥CONFIG	フルコントロール	あり	このディレクトリまたはその内容を変更すると、 Web アプリケーションの準備が正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥14¥LOGS	フルコントロール	なし	このディレクトリには、セットアップ トレース ログとランタイム トレース ログが格納されます。このディレクトリを変更すると、診断ログが正しく機能しなくなります。
%windir%¥temp	フルコントロール	あり	このディレクトリは、 SharePoint Server が依存するプラットフォーム コンポーネントで使用されます。 ACL を変更すると、 Web パーツのレンダリングやその他の逆シリアル化操作が失敗する場合があります。
%windir%¥System32¥logfiles¥SharePoint	フルコントロール	なし	このディレクトリは、 SharePoint Server の利用状況ログで使用されます。このディレクトリを変更すると、利用状況ログが正しく機能しなくなります。

ネットワーク サービス

次の表に、ネットワーク サービスのレジストリ エントリ権限を示します。

キー名	権限	継承	説明
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Office Server¥14.0¥Search¥Setup	読み取り	N/A	N/A

管理者

次の表に、管理者のレジストリ エントリ権限を示します。

キー名	権限	継承	説明
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥Secure	フルコントロール	なし	このキーには、コンピューターが参加している構成データベースの接続文字列と ID が格納されています。このキーを変更すると、コンピューター上の SharePoint Server インストールが機能しなくなります。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥Secure¥FarmAdmin	フルコントロール	なし	このキーには、構成データベースにシークレットを保存するために使用された暗号化キーが格納されています。このキーを変更すると、サービスの準備やその他の機能が失敗します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Shared Tools¥Web Server Extensions¥14.0¥WSS	フルコントロール	あり	このキーにはセットアップ時に使用される設定が格納されています。このキーを変更すると、診断ログが機能しなくなり、セットアップまたはセットアップ後の構成が失敗する場合があります。

次の表に、管理者のファイル システム権限を示します。

ファイル システム パス	権限	継承	説明
%AllUsersProfile%\Application Data\Microsoft\Sharepoint	フルコントロール	なし	このディレクトリには、ファイル システムにバックアップされるファーム構成のキャッシュが格納されます。このディレクトリを変更または削除すると、プロセスが開始されなくなり、管理作業が失敗する場合があります。
C:\Inetpub\wwwroot\wss	フルコントロール	なし	このディレクトリ (またはサーバーの Inetpub ルートの下にある対応するディレクトリ) は、 IIS Web サイトの既定の場所として使用されます。 SharePoint Server で拡張されたすべての IIS Web サイトにカスタムの IIS Web サイトパスが提供されていない場合に、このディレクトリを変更または削除すると、 SharePoint サイトが使用できなくなり、管理作業が失敗することがあります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\ADMISAPI	フルコントロール	あり	このディレクトリには、サーバーの全体管理の SOAP サービスが格納されています。このディレクトリを変更すると、リモートサイトの作成やサービスで公開されているその他のメソッドが正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\CONFIG	フルコントロール	あり	このディレクトリまたはその内容を変更すると、 Web アプリケーションの準備が正しく機能しなくなります。
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS	フルコントロール	なし	このディレクトリには、セットアップ トレース ログとランタイム トレース ログが格納されます。このディレクトリ

ファイル システム パス	権限	継承	説明
	ント ロー ール		を変更すると、診断ログが正しく機能しなくなります。
%windir%\temp	フル コン ント ロー ール	あり	このディレクトリは、SharePoint Server が依存するプラットフォーム コンポーネントで使用されます。ACL を変更すると、Web パーツのレンダリングやその他の逆シリアル化操作が失敗する場合があります。
%windir%\System32\logfiles\SharePoint	フル コン ント ロー ール	なし	このディレクトリは、SharePoint Server の利用状況ログで使用されます。このディレクトリを変更すると、利用状況ログが正しく機能しなくなります。

WSS_RESTRICTED_WPG

WSS_RESTRICTED_WPG は、暗号化されたファーム管理者の資格情報のレジストリ エントリを読み取ることができます。WSS_RESTRICTED_WPG は、構成データベースに格納されるパスワードの暗号化と解読でのみ使用されます。次の表に、WSS_RESTRICTED_WPG のレジストリ エントリ権限を示します。

キー名	権限	継承	説明
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Shared Tools\Web Server Extensions\14.0\Secure\FarmAdmin	フル コン ント ロー ール	なし	このキーには、構成データベースにシークレットを保存するために使用された暗号化キーが格納されています。このキーを変更すると、サービスの準備やその他の機能が失敗しま

キー名	権限	継承	説明
			す。

ユーザー グループ

次の表に、ユーザー グループのファイル システム権限を示します。

ファイル システム パス	権限	継承	説明
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0	読み取り、実行	なし	このディレクトリは、SharePoint Server 2010 のバイナリとデータがインストールされる場所です。ディレクトリはインストール時に変更できます。このディレクトリを削除、変更、またはインストール後に移動すると、SharePoint Server 2010 のすべての機能が失敗します。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\WebServices\Root	読み取り、実行	なし	このディレクトリは、バックエンドのルート Web サービスがホストされるルート ディレクトリです。このディレクトリに最初にインストールされるのは、検索グローバル管理サービスだけです。このディレクトリを削除または変更すると、サーバー固有のサーバーの全体管理 [検索の設定] ページを使用する検索管理機能の一部が機能しなくなります。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\Logs	読み取り、書き込み	あり	このディレクトリは、ランタイム診断ログが生成される場所です。このディレクトリを削除または変更すると、ログが正しく機能しなくなります。
%ProgramFiles%\Microsoft Office Servers\14.0\Bin	読み取り、実行	なし	このディレクトリは、SharePoint Server 2010 のバイナリがインストールされる場所です。このディレクトリを削除または変更すると、SharePoint Server 2010 のすべての機能が失敗します。

すべての Office SharePoint Server サービス アカウント

次の表に、すべての Office SharePoint Server サービス アカウントのファイル システム権限を示します。

ファイル システム パス	権限	継承	説明
%COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS	変更	なし	このディレクトリには、セットアップ トレース ログとランタイム トレース ログが格納されます。このディレクトリを変更すると、診断ログが正しく機能しなくなります。すべての SharePoint Server サービス アカウントに、このディレクトリに対する書き込み権限が必要です。

PerformancePoint Services glossary

This glossary contains terminology for all the servers, applications, and tools that are part of Microsoft SharePoint Server 2010 *O* PerformancePoint Services.

Terms

Term	Definition
ActiveX Data Objects MultiDimensional.NET	A .NET managed data provider that provides access to multidimensional data sources, such as Microsoft SQL Server Analysis Services.
actual value	The value for a key performance indicator (KPI). This value is measured against a pre-determined target value for the KPI.
ADOMD.NET	See Other Term: ActiveX Data Objects MultiDimensional.NET
aggregate	A single value that is composed of multiple values. For KPIs, aggregation determines the mathematical formula that is used to combine members (SUM, AVERAGE, and so on).
analytic chart	A report type that displays cube data in a visual, interactive chart format.
analytic grid	A report type that displays cube data in a visual, interactive tabular format.
average weighted	A type of rollup. It indicates an average that considers the weighted value of all child KPIs. This rollup reflects overall performance.
balanced scorecard	A business oriented scorecard that conveys key metrics related to the service and business of providing service. A balanced scorecard contains a balance of operational, financial, and quality driven metrics.
balanced scorecard methodology	A scorecard system that adheres to the framework and components established by the Balanced Scorecard Collaborative.
banding	The use of bands to represent ranges of performance based on thresholds.
banding settings	A setting that defines thresholds, or boundaries between changes in indicator status.

Term	Definition
bulk edit	A procedure by which a user can simultaneously change specified properties for a group of selected items.
cache interval	The length of time that a stored copy of the views that are shown in a dashboard can exist on the server.
calculated metric	A metric that is based on the result of an expression, rather than originating from a data source.
Calculated Metrics	A feature that enables users to create simple calculations by using one or more KPI values. This reduces the amount of MDX that is required to create complex scorecards.
centered indicator	The indicator set that can be used when the "closer to target" scoring pattern is selected when you edit the band settings.
collapse	An analysis tool, similar to drill up, that displays less detail about an item while maintaining the current display of other items.
cube	A set of data that is organized and summarized into a multidimensional structure that is defined by a set of dimensions and measures.
custom table	A type of filter that enables users to choose from a list and then drive dashboard content from multiple data sources.
customized scorecard	A scorecard that is created without using a template.
dashboard	A related group of interactive scorecard and report views that are organized together in a SharePoint or Web-hosted site. Dashboard elements may share common filters that control the data displayed within the elements.
Dashboard Designer	See Other Term: PerformancePoint Dashboard Designer
data source	A source of business data used by PerformancePoint applications. PerformancePoint data sources may include cubes or data source views (DSV) based on online analytical processing (OLAP) cubes, relational databases, CSV files, Microsoft Excel spreadsheets, or any other Open Database Connectivity (ODBC) or multidimensional (ADOMD.NET) data source.
data source formatting	A type of conditional formatting that is configured within Microsoft SQL Server Analysis Services. It causes individual cells to be highlighted when certain conditions, based on business rules, are met. For example, if Gross Margin is over 28%, the cell is shown with a green background. Known as "OLAP Server Formatting" in

Term	Definition
	Excel.
Decomposition Tree	A data visualization tool that helps users analyze complex information using a hierarchical scheme. The Decomposition Tree can help users find the root cause that is driving a value. For example, if sales in Canada are poor in March, the Decomposition Tree will help determine whether that is being driven by a particular product line, a certain sales territory, or an increase in returns.
deploy	To create a SharePoint page from a PerformancePoint dashboard so that users can access it.
dimension	A structural attribute of a cube that organizes data into levels. For example, a Geography dimension might include the members Country, Region, State or Province, and City.
display item	A folder into which attributes, measures, calculated members, KPIs, and PerformancePoint items can be organized to facilitate browsing by users.
drill down/drill up	A technique for navigating through levels of data ranging from the most summarized (up) to the most detailed (down). For example, when viewing the details of sales data by year, a user can drill down to display sales data by quarter, and further to display data by month.
filter	A control that is added to a dashboard or dashboard content so that users can modify the view. With this control, users can view a subset of data that is displayed in reports and scorecards that are returned by their corresponding data sources.
filter link	An association between a filter control and a parameter. This association is defined on a report or scorecard in a dashboard. Items with links to a filter change when the filter is modified.
Filter Web Part	A feature that enables users to modify dashboard views by changing the subset of data that is displayed in reports or scorecards.
fixed value	A user-entered value or a static value from an Excel spreadsheet that does not change unless manually altered by the user. Contrast this with dynamic values that are queried from a SQL Server database, OLAP cube, or other data source.
formatting dimension	The dimension (usually "Measures") that numeric formatting is applied to. Some cubes use a Scenario dimension that is more desirable for numeric formatting.

Term	Definition
hierarchy	1. A logical tree structure that organizes the members of a dimension such that each member has one parent member and zero or more child members. 2. A logical tree structure that organizes the members of a set into parent-child relationships. A ranked structure with a top level and subordinate levels.
hierarchy level	In a hierarchy, members are classified into levels (branches). Leaf level is the bottom level in the hierarchy. In a Time dimension, levels can also have names associated with them. For example, in a [Time] dimension, leaf level can represent Months and level above – Years.
import	To bring information from one system or program into another. The system or program receiving the data must somehow support the internal format or structure of the data.
indicator	A set of graphics, text, and colors for defining different levels of performance when comparing an actual value and a target value within a KPI.
indicator count	A type of rollup. It gives the total numbers of indicators in the tree below it, rolled up according to status
Internet Protocol Security (IPsec)	A set of industry-standard, cryptography-based protection services and protocols. IPsec protects all protocols in the TCP/IP protocol suite and Internet communications by using Layer Two Tunneling Protocol (L2TP).
IPsec	See Other Term: Internet Protocol Security (IPsec)
key performance indicator (KPI)	A predefined measure that is used to track performance of a strategic goal, objective, plan, initiative, or business process. A KPI is evaluated against a target. An explicit and measurable value taken directly from a data source. Key performance indicators (KPIs) are used to measure performance in a specific area, for example, revenue per customer.
KPI	See Other Term: key performance indicator (KPI)
KPI details report	A report type that shows information about a KPI that is selected in a scorecard.
level	A degree of granularity in hierarchies. Levels enable you to view data in various degrees of detail. The Time dimension, for example, can have the levels Year, Quarter, Month, and Day.
list	A Web site component that stores and displays information that

Term	Definition
	users can add to by using their browsers. For PerformancePoint Services, the site requires a Web server that is running Microsoft SharePoint Server.
MDX	See Other Term: multidimensional expression (MDX)
MDX formula	The online analytical processing (OLAP) equivalent of an SQL query.
measure	A quantified value that is indicative of the size, quantity, scale, importance, or extent of something important to an organization.
measure group	A collection of related measures in an Analysis Services cube. The measures are generally from the same fact table.
member	A single position or item in a dimension. The Account dimension, for example, could have a dimension member called Travel Expenses. Dimension members can be user-defined or predefined and can have properties associated with them. See dimension member property for details.
metadata	Information about the properties of data, such as the type of data in a column (numeric, text, and so on) or the length of a column. It can also be information about the structure of data or information that specifies the design of objects such as cubes or dimensions.
metric	An actual or target value of a KPI. A metric may be used as a scorecard element.
Microsoft SharePoint Products and Technologies	A set of products and technologies that allow users in an organization to create, manage, and build their own collaborative Web sites and make them available throughout their organizations. These products and technologies include SharePoint Portal Server for portal sites and Windows SharePoint Services for team sites.
Microsoft XML Core Services (MSXML)	Technology that allows users to build high-performance XML-based applications that provide interoperability with other applications that adhere to the XML 1.0 standard.
MSXML	See Other Term: Microsoft XML Core Services (MSXML)
multidimensional expression (MDX)	A language for querying and manipulating data in multidimensional objects (OLAP cubes).
named set	A grouping of dimension members or items from a data source that are named and treated as a single unit and can be referenced or reused multiple times.

Term	Definition
objective	A group of key performance indicators (KPIs) that correspond to the functional areas or strategic initiatives of an organization.
objective KPI	A KPI that derives its target value and score from a rollup of its child KPIs. Objective KPIs do not have actual values and do not connect to external data sources. They indicate performance by showing a normalized aggregation of the KPIs one level below them in the scorecard.
ODBC	See Other Term: Open Database Connectivity (ODBC)
OLAP	See Other Term: online analytical processing (OLAP)
OLAP cube	See Other Term: cube
online analytical processing (OLAP)	A technology that uses multidimensional structures to provide rapid access to data for analysis. The source data for OLAP is commonly stored in data warehouses in a relational database.
Open Database Connectivity (ODBC)	An application programming interface (API) that enables database applications to access data from a variety of existing data sources.
parameter	A field defined on a dashboard item that can receive data from a filter control. Data supplied to this field modifies content that is displayed in the dashboard scorecard or report.
PerformancePoint Content List	A list that stores the elements that are used to construct a PerformancePoint dashboard. A PerformancePoint dashboard is a related group of interactive scorecards, filters, and report views that are organized together into a set of Web pages.
PerformancePoint Dashboard Designer	A client application that you use to create and manage dashboards, scorecards, reports, and other PerformancePoint items prior to deploying them within a dashboard to a SharePoint site.
PerformancePoint Data Connections Library	A SharePoint document library that may contain Office Data Connections (ODC), Universal Data Connection (UDC) files, and PerformancePoint data connections. Data connections identify a source of business data that may include cubes or perspectives that are based on online analytical processing (OLAP) cubes, relational databases, CSV files, Microsoft Excel Services spreadsheets, or other data sources.
PerformancePoint PowerShell Cmdlet	A task-oriented command that is used in the Windows PowerShell environment. Or A small, basic command, named in the form "verb-noun" and implemented as a .NET class that derives from a base cmdlet class. Examples: get-process, new-drive.

Term	Definition
PerformancePoint Server	See Other Term: PerformancePoint Services in Microsoft SharePoint Server
PerformancePoint Service	The SharePoint service application that enables dashboarding capabilities by means of scorecards, analytic grids and charts, and other decision-making tools for the enterprise.
PerformancePoint Service application	The PerformancePoint component that runs as a SharePoint shared service. It is one of many service applications that plug into SharePoint. Other examples include Excel Services, Search Service, and Visio Graphics Service.
PerformancePoint Service application proxy	The PerformancePoint Web Front End (WFE) service interface. It abstracts the communication layer between WFE components and the service application.
PerformancePoint Services	See Other Term: PerformancePoint Services in Microsoft SharePoint Server
PerformancePoint Services Central Administration	A collection of SharePoint administration pages that the administrator can use to configure PerformancePoint Services for SharePoint.
PerformancePoint Services in Microsoft SharePoint Server	A collection of services for Microsoft SharePoint Server that enables users to monitor organizational goals, to analyze performance information through up-to-date content and context-rich dashboards and scorecards, and to use that information to make business decisions. These capabilities were formerly part of the PerformancePoint Server product.
PerformancePoint Settings Database	A PerformancePoint-specific database that stores the annotations for each dashboard element, user-based filter selections, and other information about dashboard elements.
PerformancePoint trusted location	A location within Microsoft SharePoint Server from which dashboard content can run. The default is to trust all locations. The PerformancePoint Services administrator must change it to make it more restrictive.
PerformancePoint Web Parts	Functionality in PerformancePoint Services that makes it possible to display dashboard views that are defined in Dashboard Designer to users of a SharePoint site.
PerformancePoint Web Services	A collection of Web services that determines how PerformancePoint Services operates.
pie chart	A round chart that shows the size of items in a single data series,

Term	Definition
	proportional to the sum of the items.
refresh	The activity of synchronizing dashboards and dashboard elements between the local workspace and PerformancePoint Services in Microsoft SharePoint Server.
relational database	A database or database management system that stores information in tables. In conducting searches, a relational database matches information from a field in one table with information in a corresponding field of another table to produce a third table that combines requested data from both tables.
report	A visual display of data in a dashboard that can be coordinated with other report views by using filters. Reports include analytic grids and charts, KPI details, Excel Services spreadsheets, SQL Server Reporting Services reports, strategy maps, ProClarity Analytics Server reports, and Web pages.
report view group	Reports that are grouped together in a single dashboard zone. These reports can be conditionally shown, based on the selected KPI.
Report Web Part	A feature that allows users to view and interact with reports that are created in PerformancePoint Dashboard Designer.
Reporting Services report	A report type that acts as a wrapper for a SQL Server Reporting Services report so that the Reporting Services report can be displayed in a PerformancePoint dashboard.
ribbon	The ribbon is part of the Microsoft Office Fluent user interface (UI). In Dashboard Designer, It consists of contextual tools for creating, editing, and exporting dashboards and their elements.
rollup	The calculated value of a KPI is derived from the aggregated scores of child or descendant KPIs.
scorecard	A report type that depicts organizational performance by displaying a collection of key performance indicators (KPIs) together with performance targets for those KPIs. A scorecard can be organized hierarchically.
scorecard element	Any one of the individual components of a scorecard, such as key performance indicators (KPIs), members, properties, actuals, targets, or MDX expressions.
Scorecard Web Part	A feature that enables users to view and interact with scorecards that are created in PerformancePoint Dashboard Designer.

Term	Definition
SharePoint Products and Technologies	See Other Term: Microsoft SharePoint Products and Technologies
Stack Selector Web Part	A feature that enables users to show more than one view in a single location on a dashboard, and provides a control to switch between them.
standard indicator	An indicator set that can be used when either the "increasing is better" or "decreasing is better" scoring patterns are selected when you edit the band settings.
strategy map	A performance management tool for visually presenting an organization's or organizational unit's objectives and goals, their groupings of objectives and goals, and their mappings of objectives and goals to themes, initiatives, KPIs, targets, business processes, and action plans. Each item in the visualization contains a set of metadata, which itself is customizable.
target	As one aspect of a KPI, a target is the desired level of performance with respect to a specific business goal or strategy. Actual values are evaluated against the target to determine KPI score and status.
time dimension	A dimension that breaks time down into levels such as Year, Quarter, Month, and Day. In Analysis Services, a special type of dimension created from a date/time column.
time formula	An expression that is created following the Simple Time Period Syntax. It takes the form of a time unit plus or minus a whole number, such as Year-1 or Month-6. It is the formula that is applied when you are using time intelligence on a dashboard.
time intelligence filter	A dynamic dashboard filter that can be linked to scorecards and reports so that they will update automatically relative to the current time.
unattended service account	The security account that is used when a data source is configured to connect as a single shared identity for all users.
update	To retrieve the most current data from the data source that is associated with a scorecard.
validate	To ensure that all data sources that are used by a KPI or scorecard are available.
variance	The difference between two values, such as the difference between estimated and actual expenses.

Term	Definition
Web page report view	A report type that contains a Web page.
Web Part	Microsoft SharePoint Products and Technologies functionality that is the basic building block for a page on a SharePoint site. A modular unit of information that consists of a title bar, a frame, and content.
Web Part description file (.dwp)	An .xml file that defines the default property settings for a Web Part, including references to other files that are required to run and display the part.
weight	The value of a scorecard KPI in relation to the values of other KPIs. For example, you might have an objective with two key performance indicators (KPIs), the first with a weight of one and the second with a weight of three. This means that the second KPI is three times more important than the first. The weights that are assigned to the KPIs are part of the calculation when their values are rolled up to derive the value for their parent objective.
what you see is what you get (WYSIWYG)	pronounced wizzywig. Allowing a user to view a document as it will appear in the final product, and to directly edit the text, graphics, or other elements within that view. A WYSIWYG language is often easier to use than a markup language, which provides no immediate visual feedback regarding the changes being made. Compare markup language. A type of program that allows creation and editing of web pages, text, or graphical user interfaces so that users can see what the end results will look like while the documents are being created.
workspace	The user interface area in Dashboard Designer that contains the dashboard items that are being edited by a user. The contents of the workspace can be saved as a file with a .ddwx extension.
worst indicator	A type of rollup of child KPIs. It moves the indicator of the lowest performing KPI to the objective KPI row.
WYSIWYG	See Other Term: what you see is what you get (WYSIWYG)

Word Automation Services のトラブルシューティング

この記事では、変換アイテムまたはシステムのレベルで発生する可能性のあるエラーが Word Automation Services によってどのように処理されるかを説明し、これらのエラーを解決するための一般的なトラブルシューティング手順も説明します。

この記事の内容

- [潜在的なシステム障害への Word Automation Services の対応](#)
- [失敗した変換のトラブルシューティング方法](#)
- [特定のイベントのトラブルシューティング方法](#)
- [SharePoint Server 2010 について Word Automation Services のイベントがない既知の障害](#)

潜在的なシステム障害への Word Automation Services の対応

潜在的なシステム障害についてシステム管理者にいくつかの方法で通知されます。たとえば、次のような方法があります。

- ファイルが正常に変換されないときにユーザーが気付いた障害またはイベントをシステム管理者に知らせます。たとえば、変換時にユーザーにメッセージを表示し、システム管理者に連絡するように促します。
- 障害が検出されたサーバーで、“Word Automation Services” のソースをリストする Windows イベントが発生します。
- 使用可能であれば、System Center Operations Manager (SCOM) によって、Word Automation Services が正常でないことが示されます。

変換ジョブが失敗すると、通常、ソリューションは失敗した変換ごとに

ConversionItemInfo.ErrorMessage に表示される文字列を提供し、ファイルに対して必要なアクションを行うようにユーザーに指示します。管理者にとって、ConversionItemInfo.ErrorMessage に入っている情報だけでは潜在的なシステム障害を診断して解決するのに十分ではないこともあります。ConversionItemInfo.ErrorMessage が変換ジョブについて提供する詳細情報の詳細については、「[ConversionItemInfo Members \(英語\)](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196477&clcid=0x411>) (英語) を参照してください。

既知のシステム障害の場合、Word Automation Services は障害が検出されたサーバー上で Windows イベントも生成します。イベントは管理者が個々のシステム障害を診断して解決するためのものです。各イベントには、管理者のさらなる調査を必要とする多くの情報が含まれていることがあります。イベントがエンド ユーザーに表示されることはありません。

イベントは生成元のサーバー上に存在します。イベントを表示するには、そのサーバーのイベントビューアーにアクセスします。イベント ソースが “Word Automation Services” になっているイ

イベントを検索してください。また、SCOM コンソールを使用して、ファーム全体で生成されたイベントを 1 つのビューにまとめることもできます。SCOM は、Word Automation Services およびこのサービスを実行しているサーバーの正常性を示す情報を提供します。

Word Automation Services の一貫した中断もシステム障害を示している可能性があります。トラブルシューティングの詳細については、「[失敗した変換のトラブルシューティング方法](#)」を参照してください。

失敗した変換のトラブルシューティング方法

このセクションでは、失敗した変換のトラブルシューティングの手順を説明します。

1. 変換対象のファイルが次の条件を満たしていることを確認します。
 2. ファイルの種類によってブロックされない
 3. パスワードで保護されていない
 4. IRM を開く必要がない
 5. 使用している SharePoint Server 2010 用の Word Automation Services のバージョンでサポートされている種類である
6. ConversionJobItem.ErrorCode が 131182 の場合、ファイルが破損している可能性が高いでしょう。ErrorCode が 131182 でない場合は、ErrorCode とそれに対応する Word Automation Services の ConversionItemInfo.ErrorMessage 文字列とを対照して、ファイルが破損していないことを確認してください。それから変換アイテムの障害を解決するための手順を実行してしてください。また、管理者はクライアントバージョンの Microsoft Word でファイルを開いて保存して試すことができます。ファイルが破損している場合は、そうすることによって破損が解消されたり、ファイルが修復されたりします。それから変換のためにファイルを再度送信してください。
7. ファイルが有効なものであるのに変換がまた失敗する場合は、個々のサーバーのイベントログに対するポーリングを開始して、イベントソースが Word Automation Services になっているイベントを探します。Windows のシステム イベントは、イベントビューアーを使用して表示できます。あるいは、SCOM を使用して、ファーム内のすべてのサーバーのイベントを集約して表示することもできます。Word Automation Services イベントの数が異常に多い場合、それは複数のファイル変換で検出された障害状況を示している可能性があります。イベントの種類ごとにイベントメッセージで指定されたトラブルシューティング手順を実行し、問題を解決するために必要なアクションを実行してください。

メモ:

サーバーの全体管理の [診断ログ] ページで、[Word Automation Services] カテゴリに対して [イベント ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] が設定されていないか、警告またはそれより低い重要度 (情報や詳細) に設定されていることを確認してください。そうならないと、Word Automation Services によって重要な一部のイベントが生成されない可能性があります。

8. イベントメッセージと指示されたアクションが問題の解決につながらない場合は、「[特定のイベントのトラブルシューティング方法](#)」を参照してください。
9. イベントメッセージの指示と「特定のイベントのトラブルシューティング方法」では問題を解決するのに十分でないか、または生成されたイベントがない場合は、関係するサーバーの ULS トレース ログを調べて、その問題に関する情報を収集してください。

トラブルシューティングのためにこれらのログを準備するには、サーバーの全体管理の [診断ログ] ページで、[Word Automation Services] カテゴリに対して [トレース ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] を設定します。

 **警告:**

詳細 (Verbose) トレースをオンにすると、すべてのアプリケーション サーバーのパフォーマンスに影響を与えます。トラブルシューティングが完了したら、[トレース ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] の設定を [中] に戻してください。

詳細トレースをオンにし、負荷がかかった状態で Word Automation Services をテストして、検出された障害が明らかになるようにします。障害が発生したら、障害が発生したサーバーの ULS トレース ログをテキスト エディターで開きます。通常、トレース ファイルは非常に大きいので (たとえば、運用環境では数ギガバイトになります)、ダウンロードして開いて調べるためには長時間を要する可能性があります。トレースの Word Automation Services 領域によってトレース ログをフィルター処理してください。


トレース ログ エントリ (“トレース” とも呼ばれます) の質と読みやすさはさまざまです。トレースはローカライズされていません。また、必ずしも外部使用を意図しているわけではありません。トレース ログには、ファイル変換アイテムや変換ジョブに関して、少量ながら個人を特定できる情報が含まれていることがあります。

通常、ULS トレース ログは各サーバーの %COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS に格納されています。


10. 上述の手順で解決に至らない場合は、[マイクロソフト サポート オンライン](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=15029&clid=0x411) (http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=15029&clid=0x411) Web サイトにアクセスし、サポート担当者に連絡して、問題の診断と解決に役立つ情報を入手してください。

特定のイベントのトラブルシューティング方法

このセクションでは、特定の障害状況に関してログに記録されるイベントを列挙し、それらのイベントの原因を説明し、各エラーの解決手順を示します。

 **メモ:**

システム障害が発生すると、イベント ID が 80 で始まるイベントが非常に高い頻度で生成される可能性があります。これらのイベントは、その障害に行き当たる変換が試みられるたびに生成されます。Microsoft SharePoint Server 2010 の既定の設定では、同じサーバーで同じ ID のイベントが 2 分間に 6 つ以上生成されることを防止しています。この既定設定は、持続的なエラー状況でログに記録されるイベントの数を減らす効果があります。Windows イベント ログで、80 で始まるイベント ID を表示すると、すぐ後ろに SharePoint Server イベント ID 2159 が続く、同じ ID のイベントが 5 つ見つかることがあります。イベント 2159 のメッセージを見ると、どのイベントが抑制され、何回抑制されたかがわかります。

 **メモ:**

Microsoft System Center Operations Manager 2007 用の SharePoint Server 2010 管理パックには、SCOM モニターが含まれています。SCOM モニターは、各 Windows イベントを検出し、Word Automation Services に関する正常性情報を管理者にわかりやすく示します。SCOM モニターの詳細については、「[Microsoft SharePoint 2010 Products \(Beta\) Management Pack](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196473&clid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196473&clid=0x411>) を参照してください。

イベント 8004 および 8005: PDF/XPS コンバーター '[ファイルのパスと名前]' がファイルの変換に失敗しました

Word Automation Services には、ファイルを XPS と PDF の両方のファイル形式に変換するための既定のコンバーターが含まれています。Word Automation Services はサードパーティのコンバーターもサポートしています。サードパーティのコンバーターには、予測できない仕方でのファイル変換の失敗を引き起こすバグが含まれている可能性があります。サードパーティのコンバーターが失敗すると、Word Automation Services は、この 2 つのイベントの一方を生成します。

イベント ID	イベント メッセージ文字列	関連メッセージ ID	追加情報
8004	PDF コンバーター '[ファイルのパスと名前]' がファイルの変換に失敗しました。このコンポーネントのベンダーに問い合わせ、最新バージョンの有無を確認してください。問題が解決されない場合は、サードパーティの PDF コンバーターをアンインストールして再発を回避してください。	131183	ログ名: アプリケーション ソース: Word Automation Services イベント レベル: エラー

イベント ID	イベント メッセージ文字列	関連メッセージ ID	追加情報
8005	XPS コンバーター [ファイルのパスと名前] がファイルの変換に失敗しました。このコンポーネントのベンダーに問い合わせ、最新バージョンの有無を確認してください。問題が解決されない場合は、サードパーティの XPS コンバーターをアンインストールして再発を回避してください。	131184	ログ名: アプリケーション ソース: Word Automation Services イベント レベル: エラー

さらに、Word Automation Services は変換アイテムのエラー メッセージを次のように設定します。

メッセージ ID	ConversionItemInfo.ErrorMessage 文字列	関連イベント ID
131183	サードパーティの PDF コンバーターでエラーが発生しました。システム管理者に問い合わせてください。	8004
131184	サードパーティの XPS コンバーターでエラーが発生しました。システム管理者に問い合わせてください。	8005

解決方法

- これらの種類の障害が発生した場合は、次の手順に従ってコンバーターを更新します。
 - コンバーターのベンダーから該当する PDF コンバーターまたは XPS コンバーターの最新の DLL を入手します。
 - ファーム内の各アプリケーションの %COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Office Servers\14.0\WebServices\WordServer\Core にある古い DLL を新しい DLL で上書きします。
 - その DLL が正常に動作すれば、新たに行う変換は成功するはずです。
- 入手できる更新プログラムをすべて適用した後もサードパーティのコンバーターで失敗が続く場合は、サードパーティのコンバーターをアンインストールし、既定のコンバーターを使用します。
- %COMMONPROGRAMFILES%\Microsoft Office Servers\14.0\WebServices\WordServer\Core から PDF コンバーターまたは XPS コンバーターの DLL を削除します。
- これで新たに行う変換は成功するはずです。
- それでもファイルが変換されない場合は、ファイルが破損しているか有効なものでない可能性が高いでしょう。この場合は、次のことを試みてください。クライアントバージョンの Word でファイルを開き、再保存し、変換のために再送信します。

イベント 8010: Office クライアントまたは Word Services の新しいバージョンを使用して作成したファイルが検出されました

イベント 8010 が生成されるのは、現在インストールされている Word Automation Service のバージョンよりも新しいバージョンの Microsoft Word で保存されたファイルを Word Automation Service が検出したときです。文書の内容によっては、結果として変換の品質が低下することがあります。このイベントが生成された場合は、イベント メッセージのリンクに従って、できるだけ速やかに Word Automation Services をアップグレードしてください。

メモ:

このイベントは必ずしも変換の失敗を示しているわけではありません。そのため、このイベントに関連するエラー メッセージ ID はありません。

イベント ID	イベント メッセージ文字列	関連メッセージ ID	追加情報
8010	Office クライアントまたは Word Services の新しいバージョンを使用して作成したファイルが検出されました。 http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=157217&clcid=0x411 にアクセスしてください	該当なし	ログ名: アプリケーション ソース: Word Automation Services イベント レベル: エラー

解決方法

1. 最新の Word Automation Services コンバーターを「Microsoft SharePoint 2010 SDK」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=157217&clcid=0x411>) からダウンロードします。
2. 指示に従って新しいコンバーターをインストールします。
3. ファイルを変換します。ファイルは可能な最良の品質で変換されます。Word Automation Services コンバーターの更新が必要になるファイルが検出されない限り、このイベントは生成されません。

イベント 8012: 指定した言語に対応するローカライズ版コンポーネントを読み込めませんでした

変換アイテムが失敗すると、ConversionItemInfo.ErrorCode とそれに対応する ConversionItemInfo.ErrorMessage が生成されます。エラー メッセージは変換ジョブを送信したユーザーが読んでわかるように配慮されています。エラー メッセージは変換ジョブを送信したユーザーのブラウザー言語にローカライズされます。しかし、ユーザーのブラウザー言語に対応す

る言語パックがサーバー ファームのアプリケーション サーバーにない場合は、エラー メッセージをユーザーのブラウザー言語で表示できません。このイベントが生成されるのは、失敗した変換アイテムに関してこの状況が生じたときです。エラー メッセージ自体は表示されますが、代わりにファームの既定の言語で表示されます。

イベント ID	イベント メッセージ文字列	関連メッセージ ID	追加情報
8012	指定した言語に対応するローカライズ版コンポーネントを読み込めませんでした。必要な言語パックがインストールされており、適切に構成されていることを確認してください。	該当なし	ログ名: アプリケーション ソース: Word Automation Services イベント レベル: エラー

解決方法

- 必要な SharePoint Server 2010 言語パックをダウンロードして展開します。詳細については、「[言語パックを展開する \(SharePoint Server 2010\)](#)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=141342&clid=0x411>) を参照してください。

イベント 1001: SQL データベースのアクセス エラーです。エラー コード: %1、エラー メッセージ: %2、エラー リンク: %3

通常、Word Automation Services のシステム障害は、このサービスが文書キューと通信するときに検出されます。各ファイル変換プロセスにおいて、サービスと文書キューとの間で複数の通信が行われます。障害が発生すると、SQL Server は SQLException エラーと大量の関連情報を生成します。SQL Server によって SQLException エラーが生成された場合、Word Automation Services は文書キューと通信するときに SQLException エラーを検出し、このイベントを生成します。

イベント ID	イベント メッセージ文字列	関連メッセージ ID	追加情報
1001	SQL データベースのアクセス エラーです。エラー コード: %1、エラー メッセージ: %2、エラー リンク: %3。	6、7	ログ名: アプリケーション ソース: Word Automation Services イベント レベル: 重大

このイベント メッセージには、SQLException のプロパティのサブセットが含まれています。管理者はこの情報を、Word Automation Services と文書キューとの通信時に検出された障害のトラブルシューティングに利用できます。これらのパラメーターを以下に示します。

名前	MSDN の説明
ErrorCode	エラーの HRESULT を取得します。(ExternalException から継承されます。)
HelpLink	この例外に関連付けられているヘルプ ファイルへのリンクを取得または設定します。(Exception から継承されます。)
Message	オーバーロードされます。

次に示すのは、文書キュー データベースが削除または名前変更された場合に Word Automation Services が生成するイベント メッセージの例です。

SQL データベースのアクセス エラーです。エラー コード: 0x80131904、エラー メッセージ: オブジェクト名 'dbo.ConversionItemQueue' が無効です、エラー リンク: なし。

エラー コード (SQLException.ErrorCode) は、SQL Server コードで、Word Automation Services に固有のものではありません。SQL Server コードを使用して、この障害を既存の SQL Server トラブルシューティング情報に関連付けることができます。

エラー メッセージ (SQLException.Message) は、SQL Server 固有の文字列で、人が判読できる情報が含まれており、エラーの説明および関係するデータベースが記されています。管理者は、SQL Server トラブルシューティング ヘルプで推奨されているように、この文字列で参照されているデータベースを保守しているサーバーを調べてください。

エラー リンク (SQLException.HelpLink) は、SQL Server 固有のリンクで、SQL Server の詳しいヘルプ情報へのリンクです。

解決方法


1. イベント メッセージに含まれているエラー コード、エラー メッセージ、およびエラー リンクを書き留めます。
2. この情報を SQL Server エラーのトラブルシューティングに利用します。SQL Server エラーコードのトラブルシューティング方法については、「[SQL Server サポート ページ](#)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196474&clcid=0x411>) を参照してください。

イベント 1002: サービス アプリケーション '%2' のタイマー ジョブ '%1' がアクティブでないため、変換ジョブが実行されない可能性があります

Word Automation Service のタイマー ジョブは、キュー内のジョブ アイテムを処理してアプリケーション サーバーに配布します。タイマー ジョブが動作していないと、キュー内のジョブ アイテムの変換が開始されません。タイマー ジョブがアクティブでないときに新しいジョブが送信された場合、イベント 1002 が生成されます。具体的には、次の条件の 1 つ以上が当てはまる場合に生成されます。

1. タイマー ジョブがオンラインでない。これはジョブ定義が適切になされていない場合に起こります。

2. タイマー ジョブが無効化されている。これは管理者がサーバーの全体管理の [タイマー ジョブの編集] ページでタイマー ジョブを無効にした場合に起こります。
3. サーバーの全体管理での現在の設定に従って、タイマー ジョブが 2 つのスケジュールされた実行を省略した。
4. OWSTimer サービスがオフになっているなどの外部的な問題により、タイマー ジョブがスケジュールされた実行を省略している。OWSTimer は SharePoint Timer Service です。

 **メモ:**

SharePoint Server が、このエラー状態を処理して、このイベントを生成するのに、およそ 90 分を要する場合があります。

イベント ID	イベント メッセージ文字列	関連メッセージ ID	追加情報
1002	サービス アプリケーション '%2' のタイマー ジョブ '%1' がアクティブでないため、変換ジョブが実行されない可能性があります。	該当なし	ログ名: アプリケーション ソース: Word Automation Services イベント レベル: 警告

このイベント メッセージには、実行されていないタイマー ジョブの名前と、そのタイマー ジョブに関連付けられたサービス アプリケーションの名前が含まれています。次に示すのは、このイベントのメッセージの例です。

“サービス アプリケーション 'Word Automation Service アプリケーション' のタイマー ジョブ 'e39db2de-1b89-4f74-91da-5da998df0a9c' がアクティブでないため、変換ジョブが実行されない可能性があります。”

解決方法

- Word Automation Services のタイマー ジョブを有効にします。
 1. サーバーの全体管理のホーム ページで、[監視] をクリックします。
 2. [監視] ページの [タイマー ジョブ] で、[ジョブの定義] をクリックします。
Word Automation Services のタイマー ジョブがスケジュールされたタイマー ジョブかどうかにご注意してください。
 3. Word Automation Services のタイマー ジョブのスケジュールの種類が無効になっている場合は、[Word Automation Services のタイマー ジョブ] をクリックします。
 4. [タイマー ジョブの編集] ページで、[有効] をクリックします。
タイマー ジョブが実行されると、キュー内のジョブの変換が開始されます。

Word Automation Services のタイマー ジョブがスケジュールされたタイマー ジョブでない場合、Word Automation Services がインストールされていないか、または適切にインストールされていません。

SharePoint Server 2010 について Word Automation Services のイベントがない既知の障害

Word Automation Services は、次に示す既知の障害状況については固有の Windows イベントを生成しません。

- SharePoint Server によって [SPEXception \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196475&clcid=0x411) (<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196475&clcid=0x411>) (英語) が生成される障害。
- SQL Server または SharePoint Server によって [UnauthorizedAccessException \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196476&clcid=0x411) (<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196476&clcid=0x411>) (英語) が生成される障害。
例: コンテンツ データベースにアクセスするためのユーザーの権限の変更。
- Word Automation Services サービスだけでなく、サーバー全体に影響する障害。このような障害は、Windows および SharePoint Server で検出され、明らかにされます。
例: ディスクの空き容量の不足。

タイマー ジョブ リファレンス (SharePoint Server 2010)

ここでは、SharePoint Server 2010 の既定のタイマー ジョブについて説明します。タイマー ジョブは、SharePoint Server の特定の Windows サービスで実行されます。また、タイマー サービスのインフラストラクチャ タスク (タイマー ジョブ履歴の消去、タイマー サービスのリサイクルなど) や Web アプリケーションのタスク (電子メールによる通知の送信など) も実行します。タイマー ジョブには、実行するサービスの定義が含まれ、そのサービスが開始される頻度が指定されません。SharePoint 2010 タイマー サービス (SPTimerv4) ではタイマー ジョブが実行されます。SharePoint Server の多くの機能は、スケジュールどおりにサービスを実行するためにタイマー ジョブを利用します。

この記事の内容

- [タイマー ジョブの管理](#)
- [既定のタイマー ジョブ](#)

タイマー ジョブの管理

タイマー ジョブの状態を確認したり、タイマー ジョブの定義を編集したりできます。

すべてのジョブの全般的な管理のために、Sharepoint サーバーの全体管理 Web サイトには [タイマー ジョブの状態] ページと [ジョブの定義] ページがあります。これらのページは、[サーバーの全体管理] の [監視] ページの [タイマー ジョブ] セクションからアクセスできます。

[ビュー] メニューでは、次のレベルでタイマー ジョブをフィルター処理できます。

- **すべて** ファームのすべてのタイマー ジョブを表示します。
- **サービス** 指定したサービスのすべてのタイマー ジョブを表示します。このコマンドを選択する場合は、[サービス] メニューを使用して、一覧表示されるジョブをフィルター処理するサービスを選択します。
- **Web アプリケーション** ある Web アプリケーションのすべてのタイマー ジョブを表示します。このオプションを選択する場合は、[Web アプリケーション] メニューを使用して、一覧表示されるジョブをフィルター処理する Web アプリケーションを選択します。
- **サーバー** 指定したサーバーのすべてのタイマー ジョブを表示します。このコマンドを選択する場合は、[サーバー] メニューを使用して、一覧表示されるジョブをフィルター処理するサーバーを選択します。
- **ジョブの定義** 指定したジョブ定義のすべてのタイマー ジョブを表示します。[タイマー ジョブの状態] ページで [ジョブの定義] メニューを使用して、一覧表示されるジョブをフィルター処理するジョブ定義を選択します。
- **失敗したジョブ** ファームのタイマー ジョブのうち、完了できなかったものをすべて表示します。

SharePoint 2010 Timer Service (SPTimerv4) は、グレゴリオ暦に基づいてスケジュール設定を行います。スケジュールするすべてのジョブについて、タイマー ジョブをいつ実行するかを 24 時間形式で指定します。この時刻は、協定世界時 (UTC) からのオフセットではなく、現地時刻で指定する必要があります。時刻はその形式で格納されます。毎日、毎週、および毎月のスケジュールには実行時間帯も指定します。タイマー サービスは、この間隔に基づいて無作為に時刻を選択し、対象の各サーバーでこのジョブを実行します。この機能は、ファームの複数のサーバーで実行される負荷の大きいジョブに適しています。このようなジョブをすべてのサーバーで同時に実行すると、過剰な負荷がファームにかかることがあるためです。タイマー ジョブのスケジュールは、Windows PowerShell を使用して指定できます。詳細については、「[タイマー ジョブのコマンドレット \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

既定のタイマー ジョブ

次の表に、SharePoint Server 2010 の既定のタイマー ジョブを示します。

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
監査ログのトリミング	監査証跡のエントリをサイト コレクションからトリミングします。	毎月
セル記憶域のデータのクリーンアップ タイマー ジョブ	セル記憶域の一時データを削除し、SQL Server のディスク領域を解放します。	毎週
セル記憶域のユーザーデータの削除ジョブ	セル記憶域に保存されているユーザー データを削除します。このジョブは SQL Server データベース サーバーがディスク領域を使い果たしそうな場合にのみ実行する必要があります。 重要: このジョブはユーザー データの損失を引き起こす可能性があります。既定では自動実行されません。	毎月
変更ログ	タイマー ジョブが最後に実行された時点以降に Web アプリケーションのサイトおよびページに加えられた変更を記録します。	毎日
更新の構成	構成データベースに構成の変更がないか確認します。	15 秒

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
休止サイトの削除	サイトの自動クリーンアップが有効になっている場合、一定の期間使用されていないサイトは削除されます。	毎日
ジョブ履歴の削除	タイマー ジョブ履歴から古いエントリを削除します。	毎週
ジョブ履歴の削除	タイマー ジョブ履歴から古いエントリを削除します。	毎週
ディスク クォータの警告	記憶域のクォータを超えたサイトを探します。	毎日
段階的なサイトの削除	削除されたすべてのサイト コレクションに関するデータをすべてホスト コンテンツ データベースから削除します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、サーバーの全体管理、すべてのサーバー)	サーバーの全体管理 Web アプリケーション と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、サーバーの全体管理、いずれかのサーバー)	サーバーの全体管理 Web アプリケーション と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、Microsoft SharePoint Foundation Timer、すべてのサーバー)	SharePoint Timer Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、Microsoft SharePoint Foundation Timer、いずれかのサーバー)	SharePoint Timer Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、Microsoft SharePoint Foundation Web アプリケーション、すべてのサーバー)	SharePoint Web アプリケーション と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
正常性解析ジョブ (日単位、Microsoft SharePoint Foundation Web アプリケーション、いずれかのサーバー)	SharePoint Web アプリケーションと Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、SSP ジョブ管理サービス、いずれかのサーバー)	SSP ジョブ管理サービスと Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、Visio Graphics Service、いずれかのサーバー)	Visio Graphics Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、Web Analytics Data Processing Service、いずれかのサーバー)	Web Analytics Data Processing Service アプリケーションと Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (日単位、Web サービス、いずれかのサーバー)	Web Analytics Service アプリケーションと Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎日
正常性解析ジョブ (時間単位、Security Token Service、すべてのサーバー)	Security Token Service (STS) と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎時
正常性解析ジョブ (時間単位、Microsoft SharePoint Foundation Timer、すべてのサーバー)	SharePoint Timer Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎時
正常性解析ジョブ (時間単位、Microsoft SharePoint Foundation Timer、いずれかのサーバー)	SharePoint Timer Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎時

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
正常性解析ジョブ (時間単位、User Profile Service、いずれかのサーバー)	Profile Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎時
正常性解析ジョブ (月単位、Microsoft SharePoint Foundation Timer、いずれかのサーバー)	SharePoint Timer Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎月
正常性解析ジョブ (週単位、サーバーの全体管理、すべてのサーバー)	サーバーの全体管理 Web サイトと Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎週
正常性解析ジョブ (週単位、Microsoft SharePoint Foundation Timer、すべてのサーバー)	SharePoint Timer Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎週
正常性解析ジョブ (週単位、Microsoft SharePoint Foundation Timer、いずれかのサーバー)	SharePoint Timer Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎週
正常性解析ジョブ (週単位、Microsoft SharePoint Foundation Web Application、すべてのサーバー)	SharePoint Web アプリケーションと Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内のすべてのサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎週
正常性解析ジョブ (週単位、User Profile Service、いずれかのサーバー)	Profile Service と Usage and Health Data Collection Service アプリケーションを実行している、ファーム内で最初に見つかったサーバーで SharePoint Health Analyzer のジョブを実行します。	毎週
即時の通知	即時の通知とスケジュールされた通知を送信します。	5 分
Microsoft SharePoint	ファーム内の各サイト コレクションのサイト インベントリ	毎

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
Foundation サイト インベントリの利用状況の収集	情報を収集します。	日
Microsoft SharePoint Foundation 利用状況データのインポート	利用状況ログ ファイルをログ データベースにインポートします。	30分
Microsoft SharePoint Foundation 利用状況データの処理	<p>期限切れの利用状況データがないかをファーム レベルで確認し、あれば削除します。期限切れの利用状況データは、中央の利用状況データ収集データベースにあるレコードのうち生成後 30 日を超えたもので構成されます。</p> <p>Web Analytics Service アプリケーションもインストールされている場合、このタイマー ジョブはデータを Web Analytics Reporting データベースに移動させます。このタイマー ジョブを手動で実行すると、期限切れのデータの確認や、利用状況データの Web Analytics アプリケーション データベースへのインポートを強制的に行うことができます。</p>	毎日
パスワード管理	期限が切れるパスワードおよびパスワードの変更について、電子メールを送信してイベントをログに記録します。このタイマー ジョブによって、管理されたパスワードは期限切れになる前に変更されることになります。	毎日
製品バージョン ジョブ	コンピューターのインストール状態を確認し、そのデータをデータベースに追加します。	毎日
ごみ箱	ごみ箱内のコンテンツを探し、次のステージに移行するか、削除します。	毎日
ソリューションの日単位リソース利用状況の更新	サンドボックス ソリューション リソースのクォータ監視用に日単位の境界をマーク付けします。	毎日
ソリューション リソース利用状況のログ処理	サンドボックス ソリューションの実行によって得られるリソース利用状況データを集計します。	5分
ソリューション リソース利用状況の更新	サンドボックス ソリューションの実行によって得られるリソース利用状況データを記録し、割り当てられたリソースクォータを超えるサイト コレクションの所有者に電子メールを送信します。	15分
State Service の期限切	State Service データベースに保存されている期限切れのデー	毎

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
セッションの削除	タを削除します。	時
タイマー サービスのロック管理	タイマー サービスで使用されるコンテンツ データベースのロックを管理して、どのサーバーがコンテンツ データベースに関するタイマー ジョブを実行するのかを判断します。	1 分
タイマー サービスのリサイクル	タイマー サービスをリサイクルしてリソースを解放します。	毎日
作業アイテム ジョブのアップグレード	サイトごとのログおよび集計の利用状況データを処理します。	毎日
ワークフロー	スケジュールされたアイテムのテーブルにあるワークフロー イベント (遅延など) を処理します。	1 分
ワークフローの自動クリーンアップ	ワークフロー インスタンス テーブル内のタスクおよびインスタンスのうち、完了から n 日経過したとマーク付けされているワークフローに関するものを削除します。ここで、n はワークフローとの関連付けで指定されます。タスクとワークフロー インスタンス テーブルをクロールします。	毎日
ワークフローのフェールオーバー	失敗していて、再試行するようにマーク付けされたワークフローのイベントを処理します。	1 分
CEIP データ収集	カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関するフォーム データを収集します。	毎日
診断データ プロバイダー: イベント ログ	Windows イベント ログのエントリを収集し、データをログ データベースに保存します。	10 分
診断データ プロバイダー: パフォーマンス カウンター - データベース サーバー	データベース サーバーのパフォーマンス モニター カウンターのデータを収集し、データをログ データベースに保存します。 重要: タイマー サービス アカウントには、データベース サーバー上のカウンターを収集できる十分な権限が必要です。このアカウントは Performance Monitor Users (PMU) グループのメンバーである必要があります。	5 分
診断データ プロバイダー	フロントエンド Web サーバーのパフォーマンス モニター カ	5 分


タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
一: パフォーマンス カウンター - Web フロント エンド	カウンターのデータを収集します。	
診断データ プロバイダー: SQL ブロッキング クエリ	ブロックされた SQL クエリに関連付けられたデータを収集します。	15 秒
診断データ プロバイダー: SQL DMV	SQL 動的管理ビュー (DMV) データを収集します。	30 分
診断データ プロバイダー: SQL メモリの DMV	SQL 動的管理ビュー (DMV) データを収集します。	15 秒
診断データ プロバイダー: トレース ログ	トレース ログのエントリを収集し、利用状況データをログ データベースに保存します。	10 分
SharePoint Server CEIP データ コレクション	カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関するファーム データを収集します。	毎日
ドキュメント ID の割り当てジョブ	サイト コレクション内のすべてのアイテムにドキュメント ID を割り当てる作業アイテムです。	毎日
ドキュメント ID の有効化/無効化ジョブ	ドキュメント ID 機能が再構成された場合に、コンテンツ タイプの変更をすべてのサイトに伝達する作業アイテムです。	毎日
ドキュメントセットのフィールド同期ジョブ	ドキュメントセットのメタデータをドキュメント ライブラリ内のアイテムに同期させます。	15 秒
コンテンツ タイプ ハブ	コンテンツ タイプ ログ メンテナンスを追跡し、未発行のコンテンツ タイプを管理します。	15 分
コンテンツ タイプの購読	ハブからコンテンツ タイプのパッケージを取得し、ローカルのコンテンツ タイプ ギャラリーに適用します。コンテンツ タイプの詳細については、「 Plan to share terminology and content types 」を参照してください。	毎時
エンタープライズ メタデータ サイト データの更新	言語パックの追加または Enterprise Metadata Service アプリケーションの復元後に、すべてのサイト コレクションを更新します。	毎時
分類更新スケジューラ	Enterprise Metadata Service に対して行われた最新用語の変更内容を使用して、サイト コレクションを更新します。	毎時
FAST Search Server	Search Service アプリケーションの種類が FAST クエリ アプ	15

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
2010 for SharePoint Master Job	リケーションに設定されている場合、FAST Search Server 2010 for SharePoint のタイマー ジョブを準備します。	分
FAST Search Server 2010 for SharePoint Alternate Access Mapping Extractor Job	IsMapped フラグが true に設定されている構成済みの FAST Search Server 2010 for SharePoint ファームから管理プロパティを取得し、SharePoint ファームにキャッシュします。これらのプロパティは代替アクセス マッピングで使用されます。	5 分
FAST Search Server 2010 for SharePoint Click Through Extractor Job	クリックスルー データを抽出し、構成済みの FAST Search Server 2010 for SharePoint ファームにアップロードします。収集されたクリックスルー データは関連性の調整に使用されます。	毎日
FAST Search Server 2010 for SharePoint Dictionary Compilation Job	サーバーの全体管理を使用して行われた辞書の変更を検出し、FAST Search Server 2010 for SharePoint ファームにエクスポートします。	5 分
InfoPath Forms Services の管理	すべてのフロントエンド Web サーバーにわたって、管理者が承認した InfoPath Forms Services のフォーム テンプレートのメンテナンス操作を実行します。	毎日
アプリケーション サーバーの管理サービス タイマー ジョブ	高い特権を要する操作を実行する可能性がある共有サービス インスタンスを管理します。SharePoint Administration Service が実行中である必要があります。Search Service インスタンスはスタンドアロン サーバー展開以外の展開上のこのジョブによって管理されます。	1 分
アプリケーション サーバー タイマー ジョブ	高い特権を要する操作を実行しない共有サービス インスタンスを管理します。Search Service インスタンスはスタンドアロン サーバー展開上のこのジョブによって管理されます。	1 分
ライセンス同期プログラム ジョブ	試用有効期限のライセンス情報を構成データベースに同期させます。	毎時
アプリケーション アドレス更新ジョブ	リモート サービス アプリケーションの接続情報を同期します。	15 分
SharePoint BI メンテナンス	データベースから一時ダッシュボード オブジェクトおよびユーザー固定のフィルター値を削除します。これらの値の有効期限は PerformancePoint Services 設定ページで設定できま	毎時

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
	す。	
Project Server 'Project サービス アプリケーション:pwa' リソース最大利用可能時間ジョブ	Project Server Service アプリケーションのリソース最大利用可能時間ジョブです。	毎日
Project Server 'Project サービス アプリケーション:pwa' ワークフローのクリーンアップ ジョブ	Project Server Service アプリケーションのワークフローのクリーンアップ ジョブです。	毎日
Project Server サービス資格情報同期ジョブ	Project Server Service アプリケーションの資格情報同期ジョブです。	分
'Project Service アプリケーション' の Project Server 同期ジョブ	Project Server Service アプリケーションの Project Server 同期ジョブです。	1 分
通知タイマー ジョブ	通知リストのクエリ処理と更新を行い、保留中のスケジュール設定通知を送信します。	毎日
承認スケジュール	承認がスケジュールされているコンテンツを探し、そのデータをプロセスの次のステージに移行します。	1 分
発行取り消しスケジュール	発行取り消しがスケジュールされているコンテンツを探し、そのデータを削除します。	1 分
バリエーション階層作成ジョブの定義	すべてのバリエーション ラベルの展開元のサイト階層から、すべてのサイトとページを生成して完全なバリエーション階層を作成します。	毎日
バリエーション ページ作成ジョブの定義	バリエーション サイトにピア ページを作成します。	毎時
バリエーション ページ伝達ジョブの定義	すべてのターゲット ラベルで承認済みまたは発行取り消し済みのソース ページのピア ページを作成または更新します。結果として得られるピア ページは非公開の状態になります。	1 分
バリエーション サイト伝達ジョブの定義	すべてのターゲット ラベルで作成済みのソース サイトのピア サイトを作成します。	1 分

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
コンテンツ オーガナイザーの処理	整理ルールと一致する自動仕分けライブラリのドキュメントを処理します。	毎日
有効期限ポリシー	リスト アイテムを列挙し、有効期限の切れたものを探します。期限切れのアイテムについては、廃棄の処理を実行します。廃棄の処理の結果、ほとんどの場合はアイテムが削除されますが、廃棄ワークフローの処理など、他のアクションを実行することもできます。	毎日
保留とレポートの処理	保留中のアイテムを列挙して保留レポートを生成し、適宜それらのアイテムを更新して保留を解除します。	毎日
情報管理ポリシー	Web アプリケーションの全サイト コレクションの下位にある全 Web の全リストをループして、ポリシーと利用状況データを収集します。	毎日
検索と処理	サイト コレクションを検索範囲とする検索結果を処理し、検索結果を保留にします。	毎日
検索アプリケーション Search Service アプリケーションのクロールログのクリーンアップ	Search Service アプリケーションのクロール ログのクリーンアップです。	毎日
検索アプリケーション Search Service アプリケーションのクロールログのレポート	Search Service アプリケーションのクロール ログのレポートです。	5 分
正常性の統計の更新	Usage and Health Data Collection Service アプリケーションの統計を更新します。	1 分
SQL Server のインデックス作成スケジュール管理	スケジュール設定されたクロールを開始します。	1 分
クエリ候補の準備	クエリ候補で候補となるクエリを準備します。	毎日
クエリ ログ	実行されたクエリの数に関する統計をログに記録します。	15 分
検索の正常性追跡 - ト	検索の正常性監視のために追跡されているイベントを確認す	

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
レース イベント	るために実行します。	
User Profile Service - アクティビティ フィードのクリーンアップ ジョブ	14 日以上前のアクティビティ フィードで使用されている事前計算済みのアクティビティをクリーンアップします。このジョブはユーザー プロファイルの変更ログには影響しません。	毎日
User Profile Service - アクティビティ フィードのジョブ	ユーザーのアクティビティ フィードに表示されるアクティビティを事前計算します。	毎時
User Profile Service - 対象ユーザーのコンパイル ジョブ	定義されている対象ユーザーのメンバーシップを計算します。	毎週
User Profile Service - 個人用サイトの推奨電子メール ジョブ	プロファイルの更新頻度が低いユーザーに、仕事仲間とキーワードの候補を含む電子メールを送信し、プロファイルを更新するように促します。	毎月
User Profile Service - ソーシャル データのメンテナンス ジョブ	ソーシャル タグと評価について集計し、ソーシャル データの変更ログを消去します。	毎時
User Profile Service - ユーザー プロファイル変更のクリーンアップ ジョブ	14 日前のデータをユーザー プロファイルの変更ログから削除します。ユーザー権利をあるユーザーから別のユーザーへと移行したり、そうしたユーザー権利を移行して Active Directory ドメイン サービス (AD DS) からそのユーザーを削除したりします。これは主に、ユーザーの名前が AD DS で変更されたときに使用されます。古いユーザー名は新しいユーザー名で置き換えられ、古いユーザー名は AD DS から削除されます。	毎日
User Profile Service - ユーザー プロファイルの変更ジョブ	ユーザー プロファイルに対する変更内容を処理します。ユーザー プロファイルを変更します。ユーザー権利はあるユーザーから別のユーザーに移行できます。このタイマー ジョブは、ユーザーの移行が必要なのに前のユーザー プロファイルが AD DS に残っているときに使用されます。	毎時
User Profile Service - ユーザー プロファイルの増分インポート ジョブ	準備とユーザー プロファイルの同期を管理します。前回のインポート後に追加されたユーザー プロファイルのみをインポートします。	1 分

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
	 メモ: このタイマー ジョブの設定や実行頻度を変更しないでください。増分同期のスケジュールを変更する場合は、「 Schedule recurring profile synchronization 」を参照してください。	
User Profile Service – ユーザー プロファイルの言語同期ジョブ	新しい言語パックのインストール環境を探し、 User Profile Service に関連する文字列が適切にローカライズされていることを確認します。	1 分
User Profile Service プロキシ – ソーシャル評価の同期ジョブ	ソーシャル データベースとコンテンツ データベースの間で評価の値の同期をとります。	毎時
ユーザー プロファイルから SharePoint への完全同期	ユーザー情報をユーザー プロファイル アプリケーションから SharePoint ユーザーに同期させ、サイトのメンバーシップを SharePoint からユーザー プロファイル アプリケーションに同期させます。	毎時
ユーザー プロファイルから SharePoint へのクイック同期	ユーザー情報を、ユーザー プロファイル アプリケーションから、サイトに最近追加された SharePoint ユーザーに同期させます	5 分
個人用サイトのクリーンアップ ジョブ	ユーザーを削除した際に、そのユーザーの個人用サイトに対するワークフローを開始します。既定の動作は、削除したユーザーのサイトへのリンクを含む電子メール メッセージをマネージャーに送信することです。この電子メール メッセージには、今後サイトが削除される可能性があるのでマネージャーが残そうとするドキュメントやデータがあれば移動させるように、というマネージャーへの要求が含まれます。	毎時
Web Analytics トリガーワークフロー タイマー ジョブ	Web アプリケーションに対する Web Analytics ワークフローを開始します。	毎日
Word Automation Services のタイマー ジョブ	キューに置かれた変換ジョブ アイテムを処理し、アプリケーション サーバーに配布します。	15 分
ワークフロー タスクの	ワークフロー タスクの完了を一括処理します。	毎

タイマー ジョブのタイトル	説明	スケジュールの種類
一括処理		日

SharePoint 2010 Administration Toolkit (SharePoint Server 2010)

ここでは、2010 年 7 月にリリースされた SharePoint Administration Toolkit バージョン 1.0 に関するファーム管理者向けの情報について説明します。このリリースには以下の機能が含まれません。

- Load Testing Kit。Microsoft Office SharePoint Server 2007 の IIS ログを基にして Visual Studio Team System 2008 (VSTS) ロード テストを生成します。VSTS ロード テストを使用すると、容量計画作業またはアップグレード前のストレス テストの一部として、Microsoft SharePoint Server 2010 に対する人工的な負荷を生成できます。
- セキュリティの構成ウィザード (SCW) マニフェスト。SharePoint 2010 製品用のロールを Windows Server 2008 Service Pack 2 または Windows Server 2008 R2 に追加します。
- User Profile Replication Engine。Office SharePoint Server 2007 の共有サービス プロバイダー (SSP) と SharePoint Server 2010 の User Profile Service アプリケーションの間でユーザー プロファイルとソーシャル データをレプリケートする機能を共有サービス管理者に提供します。

 **メモ:**

このツールは SharePoint Foundation 2010 ではサポートされていません。

- Microsoft SharePoint Server 2010 用 Content Management Interoperability Services (CMIS) コネクタ。この機能を使用すると、SharePoint ユーザーは、CMIS 標準を実装している任意のリポジトリに格納されているコンテンツを操作でき、CMIS 標準を実装している任意のアプリケーションで SharePoint 2010 のコンテンツを使用できるようにすることができます。

 **メモ:**

この機能は SharePoint Foundation 2010 ではサポートされていません。

ツールキット全体をインストールする場合、SharePoint Administration Toolkit のインストーラー /quiet スイッチを使用したサイレント インストールの使用をサポートします。一方、部分的なインストールをスクリプトにする場合は、次のコマンドを使用して

SharePoint2010AdministrationToolkit.exe ファイルから Spat.msi を抽出する必要があります。

SharePoint2010AdministrationToolkit.exe /extract:<パス>

<パス> は、抽出されたファイルを格納する場所です。

インストール パッケージは、カスタマイズおよび選択できます。つまり、ユーザーは各ツールをインストールするかしないかを制御でき、すべてのツールについてカスタム インストール フォルダを指定できます。

ツールキットは、「[Microsoft SharePoint 2010 Administration Toolkit \(英語\)](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196866&clid=0x411)」
(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196866&clid=0x411>) (英語) のページからダウンロード
できます。

このセクションの内容

- [SharePoint 2010 Administration Toolkit をインストールする \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [SharePoint 2010 Administration Toolkit をアンインストールする \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [Load Testing Kit \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [User Profile Replication Engine の概要 \(SharePoint Server 2010\)](#)
- [SharePoint Server 2010 のセキュリティ構成ウィザード マニフェスト](#)
- [Content Management Interoperability Services \(CMIS\) connector overview \(SharePoint Server 2010\) \(英語\)](#)

SharePoint 2010 Administration Toolkit をインストールする (SharePoint Server 2010)

ここでは、SharePoint 2010 Administration Toolkit のインストール方法について説明します。

SharePoint Administration Toolkit を使用するには、Microsoft SharePoint Server 2010 がインストールされている必要があります。各ツールをインストールするには、次のグループのメンバーシップが必要です。

- ロード テスト キット、セキュリティの構成ウィザード (SCW) マニフェスト、Content Management Interoperability Services (CMIS) コネクタ: ファーム管理者およびローカル管理者
- User Profile Replication Engine: ローカル管理者のみ

メモ:

User Profile Replication Engine ツールは、Windows PowerShell コマンドレットによってのみ使用できます。次の最小要件を満たしていることを確認してください。**Add-SPShellAdmin** を参照してください。また、Windows Server 2008 ベースのコンピューターでユーザー アクセス制御 (UAC) が有効になっている場合は、このツールでの権限を「管理者として実行」に昇格させる必要があります。ユーザー アクセス制御の詳細については、「[Windows ユーザー アカウント制御手順ガイド](#)」を参照してください。

User Profile Replication Engine および Content Management Interoperability Services コネクタは、Microsoft SharePoint Foundation 2010 ではサポートされません。

SharePoint 2010 Administration Toolkit をインストールするには

1. 「[Microsoft SharePoint 2010 Administration Toolkit \(英語\)](#)」ページ (<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196866&clcid=0x411>) (英語) で、[Download] ボタンをクリックして **SharePoint2010AdministrationToolkit.exe** ファイルをダウンロードし、ハードディスクに保存します。
2. ハード ディスク上の **SharePoint2010AdministrationToolkit.exe** プログラム ファイルをダブルクリックして、セットアップ プログラムを起動します。
3. マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項に同意してから、[Next] をクリックします。
4. インストールするツールを該当するアイコンで選択し、トップレベルの機能 (This feature will be installed on local hard drive) を選択します。
5. フォルダーの場所を変更するには、[Browse] をクリックします。場所を選択してから [OK] をクリックし、[Next] をクリックします。
既定のフォルダーの場所は %ProgramFiles%\Microsoft\SharePoint 2010 Administration Toolkit です。
6. インストールを完了するには、[Finish] をクリックします。

関連項目

概念

[SharePoint 2010 Administration Toolkit をアンインストールする \(SharePoint Server 2010\)](#)

SharePoint 2010 Administration Toolkit をアンインストールする (SharePoint Server 2010)

ここでは、SharePoint 2010 Administration Toolkit 全体、または特定のツールをアンインストールする方法について説明します。

SharePoint 2010 Administration Toolkit をアンインストールするには

1. [プログラムと機能] で Microsoft SharePoint 2010 Administration Toolkit を選択し、[アンインストール] をクリックします。

 メモ:

[プログラムと機能] を使用する代わりに **SharePoint2010AdministrationToolkit.exe** ファイルを実行しても、同じダイアログ ボックスが表示されます。

2. [完了] をクリックします。

SharePoint 2010 Administration Toolkit から特定のツールをアンインストールするには

1. [プログラムと機能] で Microsoft SharePoint 2010 Administration Toolkit を選択し、[変更] をクリックします。

 メモ:

[プログラムと機能] を使用する代わりに **SharePoint2010AdministrationToolkit.exe** ファイルを実行しても、同じダイアログ ボックスが表示されます。

2. 削除するツールを選択します。
3. [次へ] をクリックし、[完了] をクリックします。

SharePoint Server 2010 のセキュリティ構成ウィザード マニフェスト

ここでは、Microsoft SharePoint 2010 Administration Toolkit に含まれるセキュリティの構成ウィザード (SCW) マニフェストを登録する方法について説明します。SCW マニフェストは、Microsoft SharePoint Server 2010 のロールを Windows Server 2008 Service Pack 2 または Windows Server 2008 R2 に追加します。

メモ:

これらのロールは、SharePoint Foundation の SCW マニフェストのインストール後に SCW で作成する特定のロールであり、サーバー マネージャーで Windows の機能を構成するためのサーバー ロールではありません。

SCW は、Windows Server 2003 Service Pack 1 で導入された、攻撃にさらされやすい部分を削減するツールです。SCW では、ロールベースの比喻表現を使用して、サーバーで必要な機能を要求し、不必要な機能を無効にします。SCW を使用すれば、このセキュリティのベスト プラクティスを自動化することで、悪用されてきたセキュリティの脆弱性の影響を全体的に受けにくい Windows 環境を容易に作成できます。

Windows Server 2008 の SCW の詳細については、「[セキュリティの構成ウィザード](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=185511&clcid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=185511&clcid=0x411>) を参照してください。

SharePoint 2010 Administration Toolkit には Microsoft SharePoint Server 2010 の SCW マニフェストが含まれています。Windows Server 2008 Service Pack 2 用と Windows Server 2008 R2 用に異なるバージョンのマニフェストがあります。

この手順を開始する前に、次の点を確認してください。

- SharePoint 2010 Administrator Toolkit がインストール済みである。
- Windows Server 2008 Service Pack 2 または Windows Server 2008 R2 を実行している。
- コマンド プロンプト ウィンドウに対して管理者権限がある。

SCW マニフェストを登録する

SCW マニフェストを登録するには、次の手順に従います。

Microsoft SharePoint Server 2010 の SCW マニフェストを登録するには

1. コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。

メモ:

Windows でユーザー アカウント制御 (UAC) がオンになっている場合は、管理者として実行するように求められることがあります。

2. コマンド プロンプトで「**cd C:\Program Files\Microsoft\SharePoint 2010 Administration Toolkit\SCWManifests**」と入力するか、SharePoint 2010 Administration Toolkit をインストールした場所を入力します。
3. Microsoft SharePoint Server 2010 の SCW マニフェストが依存する Microsoft SharePoint Foundation 2010 の SCW マニフェストを登録します。
 4. Windows Server 2008 Service Pack 2 を使用している場合は、「**scwcmd register /kbname:SPF2010 /kbfile:SPF2010W2K8.xml**」と入力して ENTER キーを押します。
 5. Windows Server 2008 R2 を使用している場合は、「**scwcmd register /kbname:SPF2010 /kbfile:SPF2010W2K8R2.xml**」と入力して ENTER キーを押します。
6. SharePoint Server 2010 の SCW マニフェストを登録します。
 7. Windows Server 2008 Service Pack 2 を使用している場合は、「**scwcmd register /kbname:MSS2010 /kbfile:MSS2010W2K8.xml**」と入力して ENTER キーを押します。
 8. Windows Server 2008 R2 を使用している場合は、「**scwcmd register /kbname:MSS2010 /kbfile:MSS2010W2K8R2.xml**」と入力して ENTER キーを押します。

これで、SCW を実行して、SharePoint Server 2010 のロールが組み込まれたセキュリティ ポリシーを作成できるようになります。

関連項目

概念

[SharePoint 2010 Administration Toolkit \(SharePoint Server 2010\)](#)

その他のリソース

[Security Configuration Wizard Documentation \(英語\)](#)

Load Testing Kit (SharePoint Server 2010)

ここでは、Microsoft SharePoint 2010 Administration Toolkit の Load Testing Kit (LTK) の概要と使用方法について説明します。

概要

Load Testing Kit (LTK) を使用すると、Microsoft SharePoint Server 2010 ファームに対する人工的な負荷テストをシミュレートできます。このツールの目的は、特定のハードウェアで実行する既存の Microsoft Office SharePoint Server 2007 トポロジが同じ負荷のかかる Microsoft SharePoint Server 2010 ファームへのアップグレードに耐えられるかどうかの確認を支援することです。

Load Testing Kit は、Office SharePoint Server 2007 運用ファームからの情報をベースラインとして使用するコマンドライン ツールです。ロード テストは 3 つの手順で実行します。

1. [ログを収集する。](#)
2. [分析用のデータを準備する。](#)
3. [プロジェクトファイルを使用して人工的な負荷を生成する。](#)

Load Testing Kit をインストールするには、x64 ベースのコンピューターのローカル管理者である必要があります。Load Testing Kit のファイルがインストールされるフォルダーは、%ProgramFiles%\Microsoft\SharePoint 2010 Administration Toolkit\Load Testing Kit です。Load Testing Kit には、Prerequisitecollector.exe、Prerequisitecollector.exe.config、Ltk.exe、Microsoft.Office.Server.AdministrationToolkit.LoadTestingKitIntl.dll の各ファイルが含まれます。これらのファイルを、インストール フォルダから Office SharePoint Server 2007 ファームの任意のサーバーにコピーする必要があります。

ツールを使用するには、Office SharePoint Server 2007 (元の運用ファーム) と SharePoint Server 2010 (アップグレード後のファーム) の両方のファームで Farm Administrators SharePoint グループのメンバーになっている必要があります。また、LTK.exe ファイルは、SharePoint 2010 製品がインストールされているコンピューターで実行する必要があります。

ログを収集する

最初の手順として、Office SharePoint Server 2007 コンピューターでインターネット インフォメーション サービス (IIS) のログをすべて収集し、Web アプリケーションと ID の対応を確認します。これは、Prerequisitecollector.exe ファイルを実行することで行います。

ファーム内のサーバーの 1 つをベースラインとして選択し、そのサーバーに Prerequisitecollector.exe ファイルをインストールする必要があります。

メモ:

Prerequisitecollector.exe ファイルを Office SharePoint Server 2007 ファーム内の物理コンピュータにコピーする必要があります。そうしないと、エラーメッセージが表示されます。

Prerequisitecollector.exe ファイルには 1 つのパラメーター **TargetFolder** が含まれます。**TargetFolder** パラメーターでは、Office SharePoint Server 2007 の IIS ログを格納する場所が指定されています。

Prerequisitecollector ツールは、既定の収集元の場所で入手できるすべての IIS ログをコピーします。IIS ログ ファイルのサイズは非常に大きくなる場合があるので、ログ ファイルのサイズを調べて、それに従って計画することをお勧めします。IIS ログのサイズが大きすぎる場合は、ログがコピーされる前または後に、LogParser.exe または同等のツールを使用して、サイズを小さくできます。

通常、IIS ログの完全なセットの収集に必要な時間は 24 時間です。

分析用のデータを準備する

IIS ログ ファイルを取得した後、Load Testing Kit アプリケーション (Ltk.exe) を使用してデータを分析用に準備します。

メモ:

Ltk.exe を実行する前に、Visual Studio Team System (VSTS) 製品および Microsoft Visual Studio 2008 Service Pack 1 をインストールしておく必要があります。また、VSTS の使用方法についてある程度理解しておく必要もあります。Visual Studio Team System (VSTS) をインストールするには、「[Visual Studio Team System 2008 Team Suite](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=101641&clcid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=101641&clcid=0x411>) を参照してください。

Service Pack1 をインストールするには、「[Microsoft Visual Studio 2008 Service Pack 1](http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=116488&clcid=0x411)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=116488&clcid=0x411>) を参照してください。

Ltk.exe ファイルは、VSTS 対応のプロジェクト ファイルを生成します。これには、既定の Web テスト (*.WebTest) およびコンマ区切り値 (*.csv) のパラメーター ファイルが含まれます。

ログ ファイルを分析するには、次の構文を入力します。

```
ltk.exe -source LTKSource -output VSSolution -userlist users.csv
```

Ltk.exe の構文

```
ltk.exe -source <ソース ディレクトリ>  
-output <出力ディレクトリ>  
-userlist <ユーザー リスト ファイル>
```

[-userrolefixup]

[-debugmatchrules <ルール 1;ルール 2;ルール 3>]

パラメーター

パラメーター名	値	必須か	説明
source	有効なディレクトリ、たとえば IISLogs	必須	Prerequisitecollector.exe ファイルを使用して Office SharePoint Server 2007Windows SharePoint Services 3.0 ベースのコンピューターから収集した IIS ログ ファイルを含むフォルダーを指定します。
output	有効なディレクトリ、たとえば VSSolution	必須	Load Testing Kit 出力ファイルのフォルダーを指定します。このファイルは、すべての Visual Studio ファイルと .csv ファイルを含むプロジェクト ファイルです。
userlist	.csv ファイルを格納する有効な場所、たとえば C:\users.csv	必須	少なくともユーザー名、パスワード、アクセス許可の 3 つの列を含む .csv ファイルを指定します。この .csv ファイルには、テスト ドメインで作成したすべてのユーザーおよびユーザーが表すと考えられる権限が含まれます。 各アクセス許可に対して少なくとも 1 人のユーザーが存在する必要があります。 有効なアクセス許可の値は FullRead と FullControlWithoutAdmin です。
userrolefixup	<なし>	任意	ユーザーを対象 Web アプリケーションのアクセス許可ポリシーに追加して、userlist パラメーターで指定されているアクセス許可を付与します。
debugmatchrules	ログ ファイルのクエリを行うために使用する有効なルール。	任意	各ルールに一致した IIS ログ エントリをマップする詳細なログを生成します。これらの一致ルールは、%ProgramFiles%\Microsoft\SharePoint 2010 Administration Toolkit\Load Testing Kit ディレクトリにある WebTestsConfiguration.xml ファイルの MatchRules セクションに含まれます。 このパラメーターは、詳細なデバッグにのみ使用します。

たとえば、userlist パラメーターを使用して FullControlWithoutAdmin アクセス許可を持つユーザー名 "testacct" を追加するには、次の値を使用します。

ユーザー名	パスワード	アクセス許可
Domain¥testacct	Password	FullControlWithoutAdmin

たとえば、**userlist** パラメーターを使用して FullRead アクセス許可を持つユーザー名 “testacct” を追加するには、次の値を使用します。

ユーザー名	パスワード	アクセス許可
Domain¥testacct	Password	FullRead

プロジェクト ファイルを使用して人工的な負荷を生成する

プロジェクト ファイルを生成した後、最後の手順では、VSTS を使用してプロジェクト ファイルを開き、使用します。VSTS プロジェクト ファイルの使用の詳細については、「[ロード テストと Web パフォーマンス テストのチュートリアル](#)」

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=196791&clcid=0x411>) を参照してください。

User Profile Replication Engine の概要 (SharePoint Server 2010)

ここでは、User Profile Replication Engine について説明します。User Profile Replication Engine は Microsoft SharePoint Server 2010 のオプションのコンポーネントであり、SharePoint Administration Toolkit の一部です。User Profile Service アプリケーションの管理者は、User Profile Replication Engine を使用することで、ユーザー プロファイルおよびソーシャル タグ、メモ、評価などのソーシャル データを、User Profile Service アプリケーション間でレプリケートできます。このレプリケーションは、一方向または双方向で行うことができます。

この記事の内容

- [User Profile Replication Engine の用途と利点](#)
- [レプリケーションの種類](#)
- [コンポーネントとインストール](#)
- [User Profile Replication Engine の構成](#)

コンポーネントとインストール

User Profile Replication Engine は次の 2 つのコンポーネントで構成されています。

- Windows サービス
- Windows PowerShell スナップイン

User Profile Replication Engine は、レプリケーション元の User Profile Service アプリケーションとレプリケーション先の User Profile Service アプリケーションにアクセスできる任意のコンピューターにインストールできます。ただし、レプリケーション元ファームの一部であるコンピューター、またはレプリケーション元ドメインのサブネットに接続されているコンピューターに、User Profile Replication Engine をインストールすることをお勧めします。User Profile Replication Engine は、SharePoint Server 2010 のユーザー プロファイルおよびユーザー プロファイル変更ログを使用して、ユーザー プロファイル ストアの間でのデータの読み取りと書き込みを行います。

前提条件:

- User Profile Replication Engine の実行に使用するアカウントは、レプリケーション元およびレプリケーション先の User Profile Service アプリケーションのサービス アプリケーション管理者であり、レプリケーション元とレプリケーション先のファームに対する読み取りアクセス権を持っている必要があります。
- Replication Engine をインストールするサーバーの Administrators グループのメンバーである必要があります。
- レプリケーション元またはレプリケーション先が Microsoft Office SharePoint Server 2007 を実行している場合、レプリケーション元またはレプリケーション先のサーバーが [2010 年 6 月の累積的な更新プログラム](#)

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=197406&clid=0x411>) またはそれより後の累積的更新プログラムで更新されている必要があります。

User Profile Replication Engine ツールのインストール方法については、「[SharePoint 2010 Administration Toolkit をインストールする \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

重要:

User Profile Replication Engine を使用する前に、レプリケーション元およびレプリケーション先の User Profile Service アプリケーションを、環境に合わせて正しくセットアップおよび構成しておく必要があります。

User Profile Replication Engine の用途と利点

展開が地理的に分散していると、ドメイン内のユーザー プロファイル データおよびソーシャル データも分散します。その結果、ユーザー プロファイル、対象ユーザー、人の検索などの個人用設定機能が、1 つのドメインについて正確でない結果を返す可能性があります。このような不正確な結果の代表的なものを次に示します。

- 不正確で一貫性のないユーザー プロファイル データ (プロパティ、仕事仲間、リンク、プライバシー データなど)
- 不正確で一貫性のないソーシャル データ (ソーシャル タグ、メモ、評価など)
- 不正確な対象ユーザー メンバーシップ
- 不完全および不正確な人の検索データのコーパスおよびエクスペリエンス

User Profile Replication Engine は、複数の User Profile Service アプリケーション間でユーザー プロファイル情報およびソーシャル データの両方をレプリケートすることで、この問題を解決します。これにより、企業全体でユーザー プロファイル データとソーシャル データの一貫性が保たれます。

User Profile Replication Engine はサービス アプリケーション モデルに対応しています。レプリケーション元 User Profile Service アプリケーションから 1 つ以上のレプリケーション先 User Profile Service アプリケーションへの、ユーザー プロファイル情報とソーシャル データの完全レプリケーションまたは増分レプリケーションを実行できます。

レプリケーションの種類

次の表では、完全レプリケーション、増分レプリケーション、および回復の違いについて説明します。これらはすべて、User Profile Replication Engine を使用して実行できます。パフォーマンスが低下しないよう、User Profile Replication Engine を実行するサーバーで使用できるレプリケーション スレッドの最大数を指定できます。

種類	使用する状況
完全レ	• すべてのユーザー プロファイル情報とすべてのソーシャル データを既存の User

プリケーション	<p>Profile Service アプリケーションからレプリケートする場合。新しい User Profile Service アプリケーションの展開時など。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー プロファイル データまたはソーシャル データが失われたあるいは破損したが、別の User Profile Service アプリケーション データベースまたはソーシャル データベースにコピーがある場合。 • 増分レプリケーションが長い間応答を停止しているときに、完全レプリケーションを使用してレプリケーション先 User Profile Service アプリケーションのプロファイル データベースおよびソーシャル データベースを更新して、増分レプリケーションの遅れを取り戻す場合。
増分レプリケーション	<p>完全レプリケーションが完了した後、14 日以内に増分レプリケーションを開始して、個別の変更が検出されてレプリケートされることを確認する場合。</p>
回復	<ul style="list-style-type: none"> • 情報が正常にレプリケートされなかった特定の 1 人または複数のユーザーを完全にレプリケートする場合。完全レプリケーションが失敗したプロファイルについては、User Profile Replication のインストール ディレクトリのログ フォルダーにある .rcv ファイルに、ユーザー名が記録されます。 • アカウント名を指定して、1 人または複数のユーザーのユーザー プロファイル情報とソーシャル データをレプリケートする場合。 • 定期的なレプリケーションに含まれない 1 人または複数のユーザーのユーザー プロファイル情報とソーシャル データをレプリケートする場合。

備考

増分レプリケーションでは、ユーザーの個人用サイトのホストの場所を特定するために、信頼できる個人用サイトのホストの場所のリストも使用されます。これにより、ユーザーのプライマリ プロファイルがわかります。ユーザーの個人用サイトをホストしている User Profile Service には、そのユーザーのプライマリ プロファイル レコードもあるものと想定されます。関連するユーザーを識別してグループ化し、特定の個人用サイト ホストを持っているこれらのユーザーを関連付けるには、対象ユーザーが使用されます。信頼できる個人用サイトのホストの場所に関する追加情報については、「[Add or delete a trusted My Site host location](#)」を参照してください。

増分レプリケーションの処理では、レプリケーションの循環を防ぐために、信頼できる個人用サイトのホストの場所のリストが使用されます。たとえば、あるユーザーがユーザー プロファイル ストア A で自分の [自己紹介] プロパティを更新した場合、User Profile Replication Engine はその変更をユーザー プロファイル ストア B に同期し、変更ログはそれを変更として記録します。ユーザー プロファイル ストア B に対して実行している User Profile Replication Engine のインスタンスは、最後のレプリケーションの後で行われた変更として、その同じ変更を発生元のユーザー プロファイル ストア (ユーザー プロファイル ストア A) にレプリケートして戻そうとします。ただし、レプリケーションの前に、User Profile Replication Engine は信頼できる個人用サイトのホストの場所のリストを調べて、そのユーザーのプロファイルがユーザー プロファイル ストア B においてプライマリ プロファイルかどうかを判別します。プライマリ プロファイルである場合、User Profile Replication Engine は変更をレプリケートします。

この例には例外があります。フィード プロパティの名前が *FeedProperties* 属性を使用して提供されている場合は、User Profile Replication Engine はそのプロパティに対する変更をレプリケートするときに、信頼できる個人用サイトのホストの場所のリストを無視します。一般に、プライマリ ユーザー プロファイルが存在する場所に関係なくデータをレプリケートするときは、プロパティをフィードとして指定します。通常、このようなことを行うのは、すべてのユーザー用に 1 つの User Profile Service アプリケーションでのみ Business Data Connectivity Service のインポートを実行し、他の User Profile Service アプリケーションにはこれらのプロパティのフィードだけを行う場合です。もう 1 つの例は、人の検索のプライマリ エクスペリエンスが User Profile Service アプリケーション A (レプリケーション元の User Profile Service アプリケーション) に接続されたサイト上にあり、User Profile Service アプリケーション B (レプリケーション先の User Profile Service アプリケーション) にあるプライマリ ユーザー プロファイルに対して [個人用の仕事仲間に追加] リンクを使用できるようにする場合です。

Active Directory ドメイン サービス (AD DS) から送られてくるデータは、プロファイルの同期の間に AD DS によって自動的に更新されるので、User Profile Replication Engine はこのようなデータをレプリケートしません。

メモ:

User Profile Replication Engine を構成し、前に示したタスクのいずれかを実行するには、使用するアカウントに、レプリケーション元ファームとすべてのレプリケーション先ファームの User Profile Service アプリケーションでのユーザー プロファイルの管理権限が必要です。

メモ:

User Profile Replication Engine では、配布リストまたはセキュリティ グループはレプリケートされませんが、サイト メンバーシップ (個人用サイト Web サイトなど) はレプリケートされます。

User Profile Replication Engine の構成

User Profile Replication Engine を構成するには、Windows PowerShell 2.0 を使用する必要があります。以下の Windows PowerShell コマンドレットを使用できます。

- [Get-SPPProfilePropertyCollection](#)
- [Start-SPPProfileServiceFullReplication](#)
- [Start-SPPProfileServiceIncrementalReplication](#)
- [Start-SPPProfileServiceRecoveryReplication](#)
- [Stop-SPPProfileServiceIncrementalReplication](#)

関連項目

概念

[User Profile Service のコマンドレット \(SharePoint Server 2010\)](#)

[SharePoint 2010 Administration Toolkit \(SharePoint Server 2010\)](#)

その他のリソース

[User Profile Service overview \(SharePoint Server 2010\)](#)

Content Management Interoperability Services (CMIS) connector overview (SharePoint Server 2010) (英語)

This article describes the Content Management Interoperability Services (CMIS) connector for Microsoft SharePoint Server 2010, which enables SharePoint users to interact with content that is stored in any repository that has implemented the CMIS standard. The connector also makes SharePoint Server 2010 content available to any application that has implemented the CMIS standard. The CMIS connector is available as part of the SharePoint 2010 Administration Toolkit. For more information, see [SharePoint 2010 Administration Toolkit \(SharePoint Server 2010\)](#).

The CMIS connector for SharePoint Server 2010 includes two features:

- The Content Management Interoperability Services (CMIS) Consumer Web Part
- The Content Management Interoperability Services (CMIS) Producer

In this article:

- [About the CMIS standard and specification](#)
- [About the CMIS Producer and CMIS Consumer Web Part](#)
- [Installing and configuring CMIS connectors](#)
- [Bindings and permissions](#)
- [Mapping the CMIS data model to SharePoint concepts](#)

About the CMIS standard and specification

CMIS is a Web services standard that allows content-enabled applications to interact seamlessly with any application that has implemented it. By providing access to multiple repositories with the CMIS Producer and consuming and rendering the data the CMIS Consumer Web Part, SharePoint Server 2010 becomes a CMIS-compliant system that interoperates with any platform that has implemented the CMIS standard.

The CMIS interface can be layered on top of an existing Content Management System (CMS) and its programming interfaces. It defines a universal, generic set of capabilities provided by a CMS and a set of services designed to work with those capabilities. The standard is not intended to prescribe how specific features should be implemented within those CMS, and is not intended to exhaustively expose all of the system's capabilities through the CMIS interfaces. For more information, see the [Content Management Interoperability Services \(CMIS\) Version 1.0 specification](#) (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=199562>).

About the CMIS Producer and CMIS Consumer Web Part

The CMIS connector in the Toolkit is made up of two components:

- The Content Management Interoperability Services (CMIS) Consumer Web Part, which can be added to any SharePoint page. This Web Part displays and lets users interact with the contents of any CMIS-compliant repository.
- The Content Management Interoperability Services (CMIS) Producer, which allows applications to interact with SharePoint lists and document libraries programmatically by using the interfaces that are defined in the CMIS standard.

When these components are installed on SharePoint Server 2010, the server supports CMIS with *connectors* that connect to CMIS Web services and display list views of data from selected CMIS-compliant data sources, or *repositories*, to authenticated users.

The CMIS specification describes data model, services, Restful AtomPub binding, extensions, collections, feeds, resources, and Web services binding details. A data source is CMIS-compliant if it adheres to the CMIS specification. The CMIS components in the Toolkit comply with the CMIS specification.

メモ:

Configuring the CMIS Producer and CMIS Consumer Web Part requires an understanding of expected address formats, authentication options, and terminology defined in the CMIS spec. For additional information about details not covered in this article, see the CMIS specification.

Installing and configuring the CMIS connector

The CMIS producer obtains the same results from SOAP and REST Web services. The CMIS Web service exposes SharePoint lists as CMIS repositories. When a request is processed, the CMIS Producer loads a CMIS repository object that holds the basic list information. The Producer returns data in the form of a CMIS response structure, and if needed, it also returns data in the body of the response.

The CMIS Consumer Web Part connects to the CMIS producer and gets repository information based on address and authentication information entered in its **Connection Options** section.

Installing the CMIS connector

The CMIS connector is installed with the SharePoint 2010 Administration Toolkit. To learn how to install the toolkit, see [SharePoint 2010 Administration Toolkit をインストールする \(SharePoint Server 2010\)](#). When you install the Toolkit, the CMIS Producer and CMIS Consumer Web Part are installed automatically.

Configuring the CMIS connector

After the installation is complete, activate and configure the CMIS Producer and the CMIS Consumer Web Part, as follows.

To activate and deploy the CMIS connector features

1. Verify that you meet the following minimum requirements: **Add-SPShellAdmin** を参照してください。
2. On the **Start** menu, click **All Programs**.
3. Click **Microsoft SharePoint 2010 Products**.
4. Click **SharePoint 2010 Management Shell**.
5. At the Windows PowerShell command prompt, type the following command to add the solution to the farm solution gallery:

コード
のコピ
ー

```
Add-SPSolution -LiteralPath 'C:\Program Files\Microsoft\SharePoint 2010 Administration  
Toolkit\Content Management Interoperability Services (CMIS) Connectors\spcmis.wsp'
```

6. To deploy the solution, from the SharePoint Server 2010 Central Administration Web site, click **System Settings** and then click **Manage Farm Solutions**.
7. Click `spcmis.wsp`, choose the appropriate deployment settings, and then click **Deploy Solutions**.

メモ:

When deployment is complete, Solution Properties should show that the solution was successfully deployed to all target sites.

重要:


When selecting solution details, remember which site you designate as the producer. In order to avoid an error later that states that the solution cannot be activated, open IIS Manager and verify that the Web application that will host the producer has only one header entry in the **Bindings** section.

8. On the **Site Actions** menu of the site that contains the content to be consumed, click **Site Settings**, choose **Manage site collection features**, and click **Activate** to activate the CMIS Producer feature.
9. On the **Site Actions** menu of the site where the CMIS Consumer Web Part will be added, click **Site Settings**, choose **Manage site collection features**, and click **Activate** to activate the CMIS Consumer Web Part feature.

To add the CMIS Consumer Web Part to a page in the consumer site collection

1. Change the page to **Edit Mode**, click **Insert** on the ribbon, and select the **CMIS Consumer Web Part**.
2. Edit the **Appearance**, **Layout**, and **Advanced** properties.
3. Edit the **Connection Options**.


4. Type the appropriate WSDL address in the **Specify WSDL Address** field, as shown in the following table. The CMIS connector only supports the SOAP WSDL.

 メモ:

If you are using a third-party CMIS connector, you can connect it to the REST Atom Service binding if you know the address of the producer site, the GUID for the list or library, and the CMIS command that you want to use to interact with the REST ATOM service. For more information, see the CMIS specification.

Protocol	URL format	Description
SOAP WSDL	http:// <i>webURL</i> /_vti_bin/CMISSoapwsdl.aspx	<i>webURL</i> represents the URL that locates the SPList on the producer site.
REST Atom Service	http:// <i>web</i> /_vti_bin/cmisis/rest/ [<i>repositoryid</i>] ? <i>command</i>	<i>web</i> represents the producer site. [<i>repository id</i>] is the list or library GUID, and <i>command</i> is a command that exists in the CMIS specification (for example, getRepositoryInfo).

5. Select the **WS-Security Required** check box, and click **Basic** or **Digest**, depending on the type of CMIS authentication that the CMIS repository is set up to use. For more information, see the “Bindings and permissions” section later in the article.
6. Click **Get Repository list** to query the CMIS producer and return a list of available CMIS-compliant repositories.

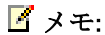
 メモ:

If an error appears after you attempt to sign on to the repository (such as an “Unable to obtain master key” error), you must configure the secure store. For information, see [Configure the Secure Store Service \(SharePoint Server 2010\)](#).

7. Select the repository from the **Select Repository** list that contains the data to display in the CMIS Consumer Web Part.
8. Click **OK** to apply settings and save changes.

Bindings and permissions

The CMIS standard defines a domain model, Web services, and Restful AtomPub bindings that can be used by applications to work with one or more content management repositories. The SOAP and AtomPub bindings defined in the CMIS specification are functionally equivalent and consistent—each protocol only defines the syntax for how methods are invoked and how responses are formatted. All of the same CMIS functionality is exposed regardless of which protocol is used.



The CMIS Producer uses an ASPX page to generate WSDL, not the standard built-in SharePoint 2010 WSDL redirection logic. Many producer endpoints are defined in the Web.config file, which are used to determine the correct endpoint based on the authorization settings of the Web application.

The CMIS standard has two concepts of permissions, as follows:


- Basic permissions include read, write, and all. A user with Read permissions can only view data from a repository. A user with Write permissions can contribute to a repository, and a user with All permissions has full control.
- Digest permissions are those that are defined by and expressed by a repository. These permissions do not have an explicitly defined meaning in the CMIS specification. They can be looked up at runtime using CMIS interfaces.

The CMIS specification maps allowable actions to the access control level (ACL) permissions defined for a repository. A client application can discover how the permissions that are exposed by the repository affect what actions a user can perform by way of CMIS. Other factors can affect whether a user can perform an action. For example, to check out an object from the repository, a user may need both the appropriate permission and the item must not already be checked out.

Mapping the CMIS data model to SharePoint concepts

The CMIS standard specification uses specific terminology that has equivalents in SharePoint Server 2010. The following table defines key CMIS concepts and maps them to their SharePoint equivalents.

Concept in CMIS specification	Definition	SharePoint equivalent
Repository	The repository is the conceptual root of the CMIS server instance, and also the root server of CMIS content. All of the other concepts in CMIS are scoped locally within a repository instance.	The SPList (T:Microsoft.SharePoint.SPList) and SPDocumentLibrary (T:Microsoft.SharePoint.SPDocumentLibrary) objects
Object type	Definition of the object types allowed or in use in	The SPContentType (T:Microsoft.SharePoint.SPContentType) object

Concept in CMIS specification	Definition	SharePoint equivalent
	the repository.	
Document object	The object in a CMIS repository whose object type is a descendant of the Folder base object type. The Folder object can contain Folders.	The SPFolder (T:Microsoft.SharePoint.SPFolder) object
Version series	The collection of objects in the version history of a document object.	The SPListItem (T:Microsoft.SharePoint.SPListItem) and SPListItemVersion (T:Microsoft.SharePoint.SPListItemVersion) objects  メモ: SPListItem covers both documents in a document library or list items in a list.
Query	A query supplied by the CMIS consumer by way of the CMIS SQL query grammar that is used to get a collection of results for objects in the repository that match the criteria specified in the query.	The SPQuery (T:Microsoft.SharePoint.SPQuery) object
Change log	A collection of change event entries that record changes made to content in a repository, arranged in ascending order based on when the event occurred.	The SPChangeCollection (T:Microsoft.SharePoint.SPChangeCollection) object
Allowable actions	An enumeration of Booleans representing the set of actions that the current user can perform against a particular object	Not supported

Concept in CMIS specification	Definition	SharePoint equivalent
	at a point in time. Whether an action is allowed is determined by combining the current user's permissions and the current state of the object.	
Access Control Entry (ACE)/Access Control Log (ACL)	An Access Control Entry lists a set of permissions that a principal, such as a user or group, has on an object.	Not supported
Content stream	See Section 3.1.7 of the CMIS specification.	The SPFile (T:Microsoft.SharePoint.SPFile) object that is associated with an SPListItem (T:Microsoft.SharePoint.SPListItem) object
Path	The URL property (Web-relative URL) of the SPFolder object.	The SPFolder object (T:Microsoft.SharePoint.SPFolder)
Relationship	Not applicable.	Not supported
Rendition	Not applicable.	Not supported

関連項目

その他のリソース

[HTTP Extensions for Distributed Authoring \(WebDAV\)](#)

[Business Data Connectivity Service Authentication](#)

[Business Data Connectivity Service Authorization](#)

適合性宣言 A レベル (SharePoint Server 2010)

[Web Content Accessibility Guidelines 2.0 \(英語\)](http://www.w3.org/TR/WCAG20/) (<http://www.w3.org/TR/WCAG20/>) に関する Microsoft SharePoint Server 2010 の適合性宣言。

構成および管理の経験に対する A レベルの適合性宣言

要求	詳細
要求の日付	2010 年 5 月 12 日
ガイドラインのタイトル、バージョン、URI	Web Content Accessibility Guidelines 2.0 (英語) (http://www.w3.org/TR/2008/REC-WCAG20-20081211/)
満たされる適合性レベル: (レベル A、AA、または AAA)	A
Web ページの簡単な説明。要求対象の URI の一覧など。要求にサブドメインが含まれるかどうかを含む。	SharePoint Server 2010 に含まれる既定のコンテンツおよび SharePoint Server 2010 の管理と構成の機能。他の製品機能については、「 適合性宣言 AA レベル (SharePoint Server 2010) 」を参照してください。
依存する Web コンテンツ技術の一覧。	HTML JavaScript CSS
使用されているが依存してはいない他の Web コンテンツ技術。	ARIA Silverlight RSS PNG GIF JPEG
満たされている要求された適合性レベルを超える成功条件の一覧。この情報はユーザーが使用できる形式で提供され	「1.4.9 Images of Text (No Exception)」に適合 - AAA。 「2.1.3 Keyboard (No Exception)」に適合 - AAA。 「2.2.3 No Timing (No Exception)」に適合 - AAA。

要求	詳細
なければならず、コンピューターが読み取ることのできるメタデータが望ましい。	「2.3.2 Three Flashes」に適合 - AAA。 「2.4.8 Location」に適合 - AAA。 「3.3.6 Error Prevention (All)」に適合 - AAA。

この適合性宣言は SharePoint Server 2010 に関するものです。

製品をカスタマイズすると、Microsoft からのこの適合性宣言は無効になります。ユーザーは、カスタマイズに対するすべての関連要件を満たすための適合評価を実施してある場合は、独立して適合性宣言を行うことができます。

特定の Assistive Technology (AT) 製品の互換性使用については、AT ベンダーに問い合わせてください。すべての依存技術と互換性のある AT 製品は、この製品と共に機能するものと考えられます。

このドキュメントは情報提供のみを目的としたものです。マイクロソフトは、このドキュメントに関して、明示的にも暗黙的にも、どのような保証もしません。

改訂日: 2010 年 7 月 22 日。

マイクロソフトは、定期的に Web サイトを更新し、アクセシビリティに関して新しく利用できるようになった情報を提供します。

適合性宣言 AA レベル (SharePoint Server 2010)

[Web Content Accessibility Guidelines 2.0](http://www.w3.org/TR/WCAG20/) (<http://www.w3.org/TR/WCAG20/>) に関する Microsoft SharePoint Server 2010 の適合性宣言。

中心的な閲覧者、作成者、および共同作成者の経験に対する AA レベルの適合性宣言

要求	詳細
要求の日付	2010 年 5 月 12 日
ガイドラインのタイトル、バージョン、URI	Web Content Accessibility Guidelines 2.0 (http://www.w3.org/TR/2008/REC-WCAG20-20081211/)
満たされる適合性レベル: (レベル A、AA、または AAA)	AA
Web ページの簡単な説明。要求対象の URI の一覧など。要求にサブドメインが含まれるかどうかを含む。	「 適合性宣言 A レベル (SharePoint Server 2010) 」によって制限される場合を除く SharePoint Server 2010 に含まれるすべての既定コンテンツおよび SharePoint Server 2010 の Web アプリケーション機能。
依存する Web コンテンツ技術の一覧。	HTML JavaScript CSS
使用されてはいるが依存してはいない他の Web コンテンツ技術。	ARIA Silverlight RSS PNG GIF JPEG
満たされている要求された適合性レベルを超える成功条件の一覧。この情報はユーザーが利用できる形式で提供されなければ	「1.4.9 Images of Text (No Exception)」に適合 - AAA。 「2.1.3 Keyboard (No Exception)」に適合 - AAA。 「2.2.3 No Timing (No Exception)」に適合 - AAA。

要求	詳細
ならず、コンピューターが読み取ることのできるメタデータが望ましい。	「2.3.2 Three Flashes」に適合 - AAA。 「2.4.8 Location」に適合 - AAA。 「3.3.6 Error Prevention (All)」に適合 - AAA。

この適合性宣言は SharePoint Server 2010 に関するものです。

製品をカスタマイズすると、Microsoft からのこの適合性宣言は無効になります。ユーザーは、カスタマイズに対するすべての関連要件を満たすための適合評価を実施してある場合は、独立して適合性宣言を行うことができます。

特定の Assistive Technology (AT) 製品の互換性使用については、AT ベンダーに問い合わせてください。すべての依存技術と互換性のある AT 製品は、この製品と共に機能するものと考えられます。

このドキュメントは情報提供のみを目的としたものです。マイクロソフトは、このドキュメントに関して、明示的にも暗黙的にも、どのような保証もしません。

改訂日: 2010 年 7 月 22 日。



マイクロソフトは、定期的に Web サイトを更新し、アクセシビリティに関して新しく利用できるようになった情報を提供します。

ファーム構成からバックアップされる設定と機能 (SharePoint Server 2010)

ここでは、サーバー ファーム構成のバックアップに含まれる設定と機能について説明します。ファーム構成をバックアップする方法の詳細については、「[Back up a farm configuration \(SharePoint Server 2010\)](#)」を参照してください。

バックアップされる設定と機能

次の表の一覧では、サーバー ファームの構成のバックアップに含まれる設定と機能、およびこれらの設定と機能にアクセスできる SharePoint サーバーの全体管理 Web サイトのページを示します。

設定または機能	説明
管理アカウントのパスワードの設定	Admin/PasswordSettings.aspx
送信電子メールの設定	Admin/globalemailconfig.aspx  メモ: 送信電子メールの設定は、コンテンツと設定がバックアップ元と同じファームの元の場所に復元される場合にのみ復元されます。 <ul style="list-style-type: none">サーバーの全体管理を使用してファームを復元するときに、[バックアップからの復元 - ステップ 2/3: 復元オプションの選択] ページの [復元オプション] セクションで、[復元の種類] を選択し、[同じ構成] を使用します。Windows PowerShell <code>Restore-SPFarm</code> コマンドレットを使用してファームを復元するときは、<code>RestoreMethod</code> パラメーターを使用して <code>overwrite</code> を指定します。  メモ: 送信電子メールの設定は、コンテンツと設定が同じファームの元のサーバーの場所に復元される場合にのみ復元されます。構成とコンテンツを別のファームに復元する場合は、新しい構成設定を指定するように求められます。

設定または機能	説明
ファームに展開されているソリューション (信頼できるソリューション)	_Admin/Solutions.aspx ファームに展開されるソリューションです。
InfoPath Forms Services	_Admin/IpfsConfig.aspx ファームに追加されるユーザー エージェントのリストです。
Web アプリケーション サービス	すべてのコンテンツ Web アプリケーションで共有される設定です。 <ul style="list-style-type: none"> • Active Directory ドメイン サービス (AD DS) アカウント作成モードの設定 • ウイルス対策の設定 _Admin/AVAdmin.aspx • クォータ テンプレート _Admin/ManageQuotaTemplate.aspx • Information Rights Management (IRM) の設定 _Admin/IrmAdmin.aspx • ホスト名付きサイト コレクションの管理パス
サンドボックス ソリューション サービス	ソリューションの制限と負荷分散の設定。
診断ログの設定	_Admin/Metrics.aspx トレース ログの場所を除く診断ログのすべての設定がバックアップされます。

関連項目

その他のリソース

[Restore a farm configuration \(SharePoint Server 2010\)](#)

[Change passwords used for administration accounts \(SharePoint Server 2010\)](#)

[Configure outgoing e-mail \(SharePoint Server 2010\)](#)

[Restore-SPFarm](#)

[Get-SPInfoPathUserAgent](#)

[Create, edit, and delete quota templates \(SharePoint Server 2010\)](#)

[Define managed paths \(SharePoint Server 2010\)](#)

[Configure load balancing for sandboxed solutions \(SharePoint Server 2010\)](#)

[Block or unblock a sandboxed solution \(SharePoint Server 2010\)](#)

[Configure diagnostic logging \(SharePoint Server 2010\)](#)

